

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		学部の設置								
フリガナ設置者		カッコリホクシン ホクリクダイガク 学校法人 北陸大学								
フリガナ大学の名称		ホクリクダイガク 北陸大学 (Hokuriku University)								
大学本部の位置		石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地								
大学の目的		本学は教育基本法及び学校教育法による大学として、建学の精神「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間の形成」に基づき、広く知識を授けるとともに、深く専門の知識と技能とを教授研究し、人格の陶冶を図り、文化の創造発展と公共福祉の増進に貢献し得る人物を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的		医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識・技能を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	医療保健学部 [Faculty of Health and Medical Sciences] 医療技術学科 [Department of Medical Technology and Clinical Engineering]	4年	60人	—年次人	240人	学士(医療技術学)	平成29年4月第1年次	石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地		
	計		60	—	240					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		薬学部薬学科〔定員減〕 (△ 86) (平成29年4月) 未来創造学部 国際教養学科（廃止） (△100) (3年次編入学定員) (△ 45) ※平成29年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は平成31年4月学生募集停止) 国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科 (80) (平成28年4月届出予定) (3年次編入学定員) (20) (平成28年4月届出予定) 平成29年4月名称変更予定 未来創造学部→経済経営学部 未来創造学部 国際マネジメント学科→マネジメント学科 未来創造学部国際マネジメント学科〔定員増〕 (100) (平成29年4月) (3年次編入学定員)〔定員増〕 (3) (平成31年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	医療保健学部 医療技術学科	講義	演習	実験・実習	計	130 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設分	医療保健学部 医療技術学科			教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人	助手 人
		国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科			7 (6)	3 (4)	8 (8)	0 (0)	18 (18)	0 (0)
		計			15 (10)	8 (8)	10 (10)	1 (1)	34 (29)	2 (2)
平成28年4月届出予定										

教員組織の概要	既設分	薬学部 薬学科		22 (23)	17 (23)	22 (20)	6 (6)	67 (72)	4 (4)	28 (28)	平成28年4月名称 変更届出
		経済経営学部 マネジメント学科		15 (20)	1 (1)	7 (5)	3 (3)	26 (29)	0 (0)	55 (55)	
		留学生別科		0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	
		国際交流センター		1 (1)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	
		計		38 (44)	23 (29)	32 (28)	9 (9)	102 (110)	4 (4)	－ (－)	
	合 計		53 (54)	31 (37)	42 (38)	10 (10)	136 (139)	6 (6)	－ (－)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計				大学全体
	事 務 職 員		52 人 (58)		20 (20)		72 人 (78)				
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		1 (2)		4 (3)		5 (5)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		3 (3)		3 (3)				
	計		53 (60)		27 (26)		80 (86)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地	89,137.35㎡	— ㎡		— ㎡		89,137.35㎡				
	運 動 場 用 地	46,138.99㎡	— ㎡		— ㎡		46,138.99㎡				
	小 計	135,276.34㎡	— ㎡		— ㎡		135,276.34㎡				
	そ の 他	337,786.99㎡	— ㎡		— ㎡		337,786.99㎡				
	合 計	473,063.33㎡	— ㎡		— ㎡		473,063.33㎡				
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
		58,402.58㎡ (58,402.58㎡)	— ㎡ (— ㎡)		— ㎡ (— ㎡)		58,402.58㎡ (58,402.58㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設				大学全体
	40 室	62 室	129 室		5 室 (補助職員2人)		1 室 (補助職員0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称				室 数					
		医療保健学部 医療技術学科				13 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書232,659冊 〔89,638冊〕 学術雑誌1,259種 〔674種〕 電子ジャーナル4,575種 〔4,575種〕 視聴覚資料2,809点			
	医療保健学部 医療技術学科	1,642 〔29〕 (1,092 〔13〕)	12 〔1〕 (11 〔0〕)	－ 〔－〕 (－ 〔－〕)	15 (15)	639 (208)	19 (－)				
	計	1,642 〔29〕 (1,092 〔13〕)	12 〔1〕 (11 〔0〕)	－ 〔－〕 (－ 〔－〕)	15 (15)	639 (208)	19 (－)				
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				大学全体	
		3,689.34 ㎡		635		162,000					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
		6,456.86 ㎡		テニスコート5面（人工芝）		サッカー場2面（人工芝）					

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書費には電子 ジャーナル・データベース の整備費（運用コストを含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—	—	
		共同研究費等		15,000千円	15,000千円	15,000千円	15,000千円	—	—	
		図書購入費	6,090千円	3,680千円	2,110千円	1,330千円	1,330千円	—	—	
		設備購入費	168,370千円	43,800千円	21,080千円	1,000千円	1,000千円	—	—	
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
			1,700千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要				私立大学等経常費補助金, 資産運用収入, 雑収入等						

既設大学等の状況	大 学 の 名 称	北陸大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	薬学部 薬学科	年	人	年次 人	人	学士(薬学)	倍	平成18年度	石川県金沢市 金川町ホ3番地	
	未来創造学部 国際教養学科	4	100	3年次 45	490	学士(文学)	0.58	平成20年度	石川県金沢市 太陽が丘1丁目1番	
	国際マネジメント学科	4	100	3年次 120	640	修士(マネジメント学)	1.17	平成20年度		

附属施設の概要	名 称：北陸大学薬学部附属薬用植物園 目 的：薬学教育の基礎としての薬草の生態・研究施設，研究材料の栽培 所 在 地：石川県金沢市金川町ホ3番地 設置年月：昭和51年5月 規 模 等：土地 15,912.16㎡，建物 136.71㎡	
---------	--	--

教 育 課 程 等 の 概 要														
(医療保健学部 医療技術学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
一 般 教 養 科 目	自然科学概論	1前	2			○								兼3 オムニバス
	生命・医療倫理学	1後	2			○								兼1
	心理学	1・2前・後		2		○								兼1
	哲学	1・2前・後		2		○								兼1
	社会保障と福祉	1・2前・後		2		○								兼1
	北陸の文化と社会	1・2前・後		2		○								兼1
	日本史	1・2前・後		2		○								兼1
	社会学	1・2前・後		2		○								兼1
	法学（日本国憲法含む）	1・2前・後		2		○								兼1
	スポーツ	1・2前・後		1				○						兼2
	英会話	1・2前・後		1				○						兼1
	生物学	1前		1				○	1					
	化学	1前		1				○		1				
	物理学	1前		1				○			1			
	数学	1前		1				○						兼1
	英語Ⅰ	1前	2			○								兼2
	英語Ⅱ	1後	2			○								兼2
	科学英語の基礎	2前	1					○						兼2
	医学英語	4後	1					○		1				
	基礎ゼミナールⅠ	1前	1					○	7	5	2			
	基礎ゼミナールⅡ	1後	1					○	7	5	2			
	海外研修	1・2前・後		1				○						兼1 集中
小計（22科目）		—	12	21	0	—			7	5	2	0	0	兼15
専 門 基 礎 科 目	医学概論	1前	1			○								兼1
	看護学概論	1後	1			○								兼1
	公衆衛生学	4後	1			○								兼1
	関係法規	4後	1			○								兼1
	人体の構造と機能Ⅰ	1前	4			○			1					
	人体の構造と機能Ⅱ	1後	1					○	1	1				オムニバス
	解剖学実習	1後	1					○	1			1		
	生理学実習	1後	1					○	1	1			1	
	生化学	1後	4			○			1					
	生化学実習	1後	1					○	1				1	
	病理学Ⅰ	2前	1					○						兼1
	病理学Ⅱ	2前	1					○	1					
	病理学実習	2後	1					○	1	1				
	医用検査機器学	1前	3			○			1					
	医用工学概論	1前	2			○					1			
	医用工学概論実習	2後	1					○			1		1	
	薬と生体反応	3前	2			○								兼1
	薬理学	3後	2			○								兼1
	臨床薬理学	4後	1					○						兼1
	応用数学	2前	1					○			1			
	電気工学	1後	2					○			1			
	電子工学	2前	2					○			1			
	生体物性・材料工学	3前	2			○			1					
	計測・機械工学	2前	2			○			1					
	医用機器学概論	1後	2			○			1					
	情報科学概論	1前	2			○					1			
	情報処理工学Ⅰ	1後	1					○			1			
	情報処理工学Ⅱ	2前	1					○			1			
小計（28科目）		—	45	0	0	—			5	2	2	0	2	兼7

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	臨床検査総論Ⅰ	1前	2			○			1					オムニバス
	臨床検査総論Ⅱ	3後	2			○			2					
	臨床検査総論実習Ⅰ	1前	1					○	1			1		
	臨床検査総論実習Ⅱ	2後	1					○	1			1		
	医動物学（実習含む）	2後	2				○			1			1	※実習
	臨床血液学Ⅰ	3前	2			○			1					
	臨床血液学Ⅱ	3後	2			○			1					
	臨床血液学実習Ⅰ	3前	1					○	1			1		
	臨床血液学実習Ⅱ	3後	1					○	1			1		
	臨床免疫学Ⅰ	3前	2			○			1					
	臨床免疫学Ⅱ	3後	2			○			1					
	臨床免疫学実習Ⅰ	3前	1					○	1				1	
	臨床免疫学実習Ⅱ	3後	1					○	1				1	
	臨床微生物学	2後	3			○				1				
	臨床微生物学実習	3後	1					○		1			1	
	臨床生化学Ⅰ	2前	1				○		1					
	臨床生化学Ⅱ	2後	1				○		1					
	臨床生化学実習Ⅰ	2前	1						○	1			1	兼1
	臨床生化学実習Ⅱ	2後	1						○	1			1	
	放射線検査学	2前	1				○							
	生理機能計測学Ⅰ	3前	1				○			1				
	生理機能計測学Ⅱ	3後	1				○			1				
	生理機能計測学実習Ⅰ	3前	1						○	2				
	生理機能計測学実習Ⅱ	3後	1						○	2				
	医療安全管理学（実習含む）	3後	1			○							1	
	生体計測装置学	3前	2			○				2				兼1 ※実習
	細胞生物学	2前・後		2		○				1				
	分析技術学	3前・後		2		○			3					
	画像解析学	4後		2		○								
	生体機能代行装置学	2後	2				○			1				兼1
	生体機能代行装置学実習	2後	1					○		1			1	
	医用機器安全管理学	3前	2				○			1				
	医用治療機器学	2後	2			○				1				
	医用治療機器・安全管理学実習	3後	1					○		1			1	兼1
	臨床医学総論	4後	2				○							
	臨床検査学演習	4後	2				○		4	2				
	臨床工学演習	4後	2				○		2	2	2			
	地域チーム医療論	4後	1				○		1					オムニバス オムニバス
	専門職連携演習	4後	1				○		1					
	卒業研究Ⅰ	4前	1				○		7	5	1			
	卒業研究Ⅱ	4後	2				○		7	5	1			
	臨地実習	4前	4					○	5	2	1	1	1	
	臨床実習	4前	4					○	1	2			1	
	小計（43科目）		—	63	6	0	—			8	5	2	1	2
合計（93科目）		—	120	27	0	—			8	5	2	1	2	兼25
学位又は称号		学士（医療技術学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）						
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
一般教養科目から20単位（必修12単位含む）以上、 専門基礎科目から必修45単位、 専門科目から必修63単位、 専門科目の選択科目から2単位以上を修得し、 合計130単位（必修120単位、選択10単位）以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））						1 学年の学期区分					2学期			
						1 学期の授業期間					15週			
						1 時限の授業時間					90分			

授 業 科 目 の 概 要			
(医療保健学部 医療技術学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一 般 教 養 科 目	自然科学概論	(概要) 全ての生物は自然との共生が不可欠であり、自然の変化に合わせて生物も進化してきた歴史がある。人間の体も自然と共生し、動植物を食べることにより摂取した栄養を、体内で各種酵素反応や化学反応を利用してエネルギーに変換し、成長や活動をしている。また自然界の光や蛍光色素、紫外線、超音波、放射線、磁気などは、医療の世界で応用・利用されている。本科目では、自然界のエネルギーがどのように医学と関連しているかを理解し、医療技術学の専門課程に進む前に押さえておくべき自然科学に関する基礎知識を学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (24 亀井 敬／5回) 以下の講義内容を通して、化学の初歩を学ぶ。 原子量と分子量／気体の性質／液体の性質／化学反応とは何か／身近な化学を考える（酸とアルカリ） (25 武本眞清／5回) 全体のコーディネーターを担当する。 医療技術学への入門として、生物学の基本的事項を学ぶ。生命の仕組み（細胞、発生、代謝、免疫）や病原体についての知識を修得することにより、なぜ健康が破綻し病気になるのかを学んでいくための知的土台を作る。 (26 藤本和宏／5回) 物理学の基礎を学ぶ。波動、熱、電磁気に関する基本的な性質や法則について学び、身の回りの現象との関連について理解を深める。また、これらの物理的性質や法則が医療の世界でどのように利用されているかを学ぶ。	オムニバス方式
	生命・医療倫理学	医療をとりまく法的・倫理的・社会心理的問題を通して、生命に向き合い、自らの言葉で考え、問題を抽出する力を養い、多様な価値観に耳を傾ける力を身につける。生命の大切さを認識し、患者やその家族の人権を守り、薬害や医療事故の被害者の身になって医療を考え、医療人の責務を全うすることの重みを理解する。自らの倫理観と他者との共通・相違について理解し、医療人としての倫理観を身につける。	
	心理学	心について心理学ではどのように研究されているのか、また何が問題になっているのか、心理学についての基本的な理解と知識の獲得を目指し、基礎的な学修を通して人間としての在り方生き方についての自覚を促し、現代の社会について理解を深める力を身につける。感覚・知覚、記憶、学習、思考、感情・動機を中心とした領域を学び、人や動物の心理的現象について、心理学の基本概念を理解し、基礎的知識を修得する。	
	哲学	哲学がどのような学問であるかを知り、それが対象としている哲学的課題とその解決のために示されてきた哲学的見解を知り、そして哲学文献の批判的な分析と解釈の方法を学ぶ。現代社会が直面している様々な具体的な事例をいかに解決するかを古代ギリシャから現在に至るまでの哲学者がいかなる解決方法を提示しているか学ぶ。また、これらを比較・検討することで、現代社会が直面している課題や正解のない問題と向き合い、これからの未来を生きるために、物事について深く考え、論理的かつ理論的な考えを身につける。	
	社会保障と福祉	社会保障に関する憲法をはじめとする法的知識やこれまでの社会保障に関する歴史、我々の生活の中でどのように運用されているか等を幅広く学ぶ。非常に複雑で変動しやすい社会保障制度について、医療人・大学生として最低限必要な知識を身につける。特に日常生活で強く関わる医療保険・生活保護・介護保険・年金・雇用保険・労働者災害補償保険等を取り上げ、自らの生活にどのようにかわるのか、また、今後の問題・課題について認識する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教養科目	北陸の文化と社会	北陸地域には、音楽、美術、演劇といった芸術のほか、藩政期以来培われてきた伝統芸能や伝統工芸、生活文化など、多彩な文化があふれている。また、それらに基づく伝統産業は現在も北陸地方の経済に大きな意味を持ち続けている。本科目では、これらを題材に北陸地域の文化や産業に関する知識を養い、その魅力を探るとともに、地域の文化や産業の継承と発展、文化の活用による地域の活性化や地域産業の振興などの諸課題について考えていく。	
	日本史	今日、日本及び日本をとり巻く国際社会では、様々な出来事がおこっているが、それらは良くも悪くも歴史に根ざした長い間の人間の所産であり、歴史、とりわけ日本史が理解できていないと、近年日本が直面している問題を理解できないことが多々ある。本科目では、政治・経済・文化などの面で、現代社会の基盤をなす事例が多く見られる近世から近代の日本の歴史を、近年の研究成果も織り込みながら概説する。さらに、時代の流れと特色を理解することを目的とし、重要な歴史的事件・事象・人物について学ぶ。	
	社会学	社会学の基礎概念である「集団論」「行為論」「相互作用論」について理解し、「社会化(socialization)」や「役割(role)」をキーワードとして、個人と社会との関係の捉え方について知識・理解を深める。さまざまな具体的事例を通して、人間が日々営んでいる生活において形成される集団や社会を研究し、社会的存在としての自分自身の行動を考え、理解し、個人と社会との相関性を考える基礎的な視点を身につける。	
	法学（日本国憲法含む）	法学における基礎的概念、法の歴史、法体系の構造、私法及び公法における主要領域について学び、基本的な法律用語や初歩的な法的思考力を身につける。特に日本国憲法とは国の統治に関する基本的な法であり、その基礎的な知識を学ぶ。具体的な事例を通して、人権の歴史・思想を正しく認識し日本国憲法が保障する各人権を具体的に理解し健全な人権感覚を養うことを目的とする。また、国の統治のために必要な立法・行政・司法等の組織と権限等を学び、日本の統治機構を諸外国と比較することでその問題点と改革の方向を模索する。	
	スポーツ	科学的トレーニング理論に基づいたスポーツ・運動実践を通して、体力を増進させ運動技能の修得と向上を図る。スポーツのもつ深い楽しさに触れ、運動の意義やトレーニング方法を理解することによって、自らの生活にスポーツ・運動実践を継続的に取り入れる能力を身につける。技能修得のプロセスにおいて、協同、克己、チャレンジ精神、思いやり、探究心等あらゆる望ましい社会的態度を養い、安全に運動を実施する能力を身につける。	
	英会話	高校教育までの基礎的な英語力を生かして、コミュニケーションを目的とした基礎的な文法力、表現力を修得すると同時に、異文化に対する理解を高めることを目指す。日常会話や海外で必要な場面を想定し、ペアワーク等を通して、実践的な英会話を身につける。日常や旅先等の場面に合わせた簡単な表現や慣用句等を多く身につけ、実践的に使える英会話の基礎を身につけるとともに、日本語表現との違いを発見し、異文化に対する理解を深める。	
	生物学	医療技術職を目指す学生にとって、生物学を通して生物とその生命現象、ヒトのからだのしくみについて理解することは非常に重要である。この科目では専門分野で使用する生物学的な内容のための基礎作りとして、これまでに修得した生物の知識を確認しながら、特に医療技術職を目指す学生に不可欠であるヒト（動物）を中心とした内容を取り扱う。細胞の構造と機能、酵素、エネルギー産生、呼吸、循環、代謝、内分泌等についてディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて学ぶ。	
	化学	生体、食品、医薬品等はすべて物質から成り立っており、これらの性質や特徴を把握し、取り扱うためには化学の基礎的知識が必要不可欠である。本科目では専門分野で使用する化学的に基本となる考え方及び化学に必要な計算技法を取り入れた演習を行う。具体的には、物質の構成（原子と分子、化学結合、化学反応式）、物質の状態（物質の三態、溶解と濃度）、物質の変化（酸と塩基、pH、酸化と還元）、無機物質と有機物質等を取り上げる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一 般 教 養 科 目	物理学	日常生活や臨床施設の中で遭遇する様々なできごとや動作、物理現象について学ぶ。特に単位、量、数式等の基本的知識を身につけるために①身体ケアで用いられる単位・量と数式、②生理学・生化学で用いられる単位・量と数式、③検査・処置・治療で用いられる単位・量と数式の3つの視点から演習を展開する。理科系の知識ベースが必要であり、奥の深い学問であるため、医療技術学に役に立ち、今後専門的知識を身につける際の基礎を構築していく。	
	数学	数学は生命科学を学ぶ上で欠くことのできない科目であり、医療分野でも必要な科目である。数学に関心を持ち、論理的解析能力と計算力を伸ばすために2次関数をはじめとする指数・代数、及び初等関数を学修する。さらに、医療統計学に必要な順列と組み合わせ、確率などに必要な数学を計算例や応用問題を解きながら学修することにより、専門基礎科目や専門科目の導入がスムーズに行われる力と理解の修得を目指す。	
	英語 I	医療人及び大学生として必要な英語の土台となる総合的英語力の向上を目指し、基本的知識を修得する。高校教育で学んだ基礎的な文法を確かめながら、文法事項に対する理解を深めて定着させる。辞書の活用方法、文章の分析方法等を学び、自律した学習者になるための能力を培う。基本的な語彙を増やししながら、学んだ文法を用いて文章を書く能力も身につける。	
	英語 II	英語 I を踏まえ、さらに総合的英語運用能力の伸長を図るとともに、健康、看護、医療等に関連した英語論文に触れて、自然科学の分野で必要とされる論理的思考や専門文献読解のための基礎力をつけることを目指す。高校教育で学んだ基礎的な文法を生かし、文法事項を自然に活用する機会を豊富に設定することにより、文法事項に対する理解を深めて定着させる。辞書の活用方法、文章の分析方法等を学び、自律した学習者になるため力身を身につける。	
	科学英語の基礎	医療人及び大学生として、基礎的な科学的知識を身につけるために必要な英語力の基礎を身につける。英語 I・IIを通して学んだ総合的英語力を生かし、自然科学分野に関する英文を読み解くことで、医療人として必要な科学的知識や英文読解力を総合的に身につけるためのプレゼンテーションを行う。特徴的な科学論文を読むことで、科学論文の構造を理解し、論理的読解力を身につける。特徴的な英単語や慣用表現を中心に語彙力を高め、臨床現場で必要とされる専門用語の英語表現を学ぶ。	
	医学英語	医学・医療に携わる者として、国際的に急激な進歩をしている医学・医療技術に関する情報を集積し、生涯にわたり地域及び国際社会で活躍できるためには英語力が必要であり、医療現場で必要な英語表現を中心に学ぶ。臨床検査学、臨床工学に関する英語論文を中心に読解を重ね、臨床現場に必要な専門用語や単語の修得を目指す。また、読解した内容を英語でプレゼンテーションする機会を設けることで、より実践的な英語コミュニケーション力を身につける。	
	基礎ゼミナール I	本科目ではゼミ学生が現代の社会が抱える問題点をテーマに設定し、少人数制による演習形式の授業を行う。テーマに基づいた課題に対して調査、討論、発表を行い、自己表現力を養い、学生同士の交流と豊かな人間性を育て、自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間を育成する。医療技術者は、医療の特性を理解し、個々の知識のネットワークを築き、様々な問題解決能力が必要である。医療の現場でも応用できる基礎知識を身につける。	
	基礎ゼミナール II	本科目では基礎ゼミナール I に引き続き、ゼミ学生が現代の医療が抱える問題点をテーマに設定し、少人数制による演習形式の授業を行う。テーマに基づいた課題について調査、討論、発表を行い、自己表現力を養い、学生同士の交流と豊かな人間性を育て、自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間を育成する。医療技術者は、医療の特性を理解し、個々の知識のネットワークを築き、様々な問題解決能力が必要である。医療の現場でも応用できる基礎知識を身につける。	
	海外研修	国際的な視野で物事を思考する力と コミュニケーションを図る語学力を身につけるため、海外研修を通して、現地の歴史、文化、習慣等実際に触れ、異文化や国際社会の多様性を感じ、実践的なコミュニケーションのスキルと適応力を修得し、自らの視野と可能性を国際的に広げる。大学で学んだ知識・技能を海外生活の中で使用することでより実践的なコミュニケーション力を身につけ、将来グローバル人材として活躍するために必要な国際的感覚を身につける。	集中

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 礎 科 目	医学概論	医療技術者に必要な医学的基礎知識を包括的に学ぶ。医学、医用治療機器、検査診断技術の歴史の変遷や医療従事者の倫理、患者心理を中心とした保健・医療・福祉に加えて、少子高齢化に向けての医療制度の基本的方向、感受の視点に立った効率的で、安心かつ質の高い医療の提供、医療提供体制の現状と今後の見直し等これからの社会状況の変化に対して何が必要か、医療技術学の入り口となる基本的な知識を学修する。	
	看護学概論	医療技術者として求められる姿勢や課題を自らが見出せるよう、看護の歴史の変遷や、看護の機能、昨今の医療情勢について理解する。特にチーム医療の中の看護の役割を理解し、将来協働し医療に携わる専門職としての多職種との関わりや自らの役割を理解する。また、医療の需要が高い成人、老年期、更に増加傾向にある在宅医療を必要とする患者の特徴を理解し、その人の日常生活の維持・向上、健康上の問題解決に向けた援助について考える。また、医療技術者としての倫理観や態度、姿勢を身につける。	
	公衆衛生学	世界保健機関では、公衆衛生を「共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し寿命を延長し、身体的・精神的健康を増進する科学であり技術である」と定義している。また、公衆衛生の向上・増進は、国の責任として日本国憲法第25条に定められている。臨床医学が健康に問題がある個々の「患者」を対象とするのに対し、公衆衛生は、通常の生活をしている健康な人間集団を対象としている。公衆衛生学では、わが国の健康水準がどう評価されるのか、どのような健康施策が進められ、住民の健康が守られているのかについて学ぶ。	
	関係法規	日本国憲法に基づいて、あらゆる医療関係に従事する職種の法律が整備されている。また、法的な視点から、我が国の医療や保健に関する制度を、理解しておくことが大切である。特に医療職種のほとんどは、業務内容が法令により規定されており、お互いの関係とその範囲を知ることが必要である。関係法規では臨床検査技師等に関する法律、臨床工学技士法、医師法、医療法、医事関係の法規、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律等関連する法律を学ぶ。	
	人体の構造と機能Ⅰ	疾病を理解する上で人体の構造と機能を熟知することが基本であり、そのために必要とされる基礎的な解剖学、組織学、細胞学の知識を器官系統別に修得する。この中では人体の発生から各器官の形態、そして組織の構造について学修し、その上で各臓器の役割と連携について動物的機能と植物的機能に分けて人体の生理的機能を踏まえながら学ぶ。この中には病理学的な知識や化学・免疫・血液等各臨床検査関連の概要を含み、医療技術者として求められる基本的な考え方を身につける。	
	人体の構造と機能Ⅱ	(概要) 医療に携わるための基礎知識として人体を構成する器官、組織、細胞が持つ固有の働きや機能を理解する。特に働きや機能がどのような機序で発現し、各個別の機能がどのように統合されて生体としての活動の恒常性が保たれるかも理解する。その上で病態での変化を見据えた理解力を育むために、グループ検討を取り入れて自分の言葉で説明できることを目的とした学修を行う。さらに発表を取り入れて、生理学的な理解のみならず結果として総合的な知識、判断力、説明力、コミュニケーション力を育成する。 (オムニバス方式／全15回) (10 加藤隆幸／3回) 循環機能に関連した各器官、組織の仕組みとその構成細胞が持つ固有の働きや機能を理解する。その上で各個別の機能がどのように統合されて生体としての活動の恒常性が保たれるかも理解する。 (2 岩崎信一／12回) 全体のコーディネーターを担当する。 循環機能以外に関連した各器官、組織の仕組みとその構成細胞が持つ固有の働きや機能を理解する。その上で各個別の機能がどのように統合されて生体としての活動の恒常性が保たれるかも理解する。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	解剖学実習	人体の構造と機能Ⅰで学修した解剖学的知識に基づき、内臓諸臓器の実際、変異及び連携を知る。さらに臓器の肉眼的・組織学的構造の知識を結びつけてその機能について理解を深める。そのため実践的に組織切片標本を光学顕微鏡で観察し、スケッチする。また、人体模型により各臓器を肉眼観察する。これら肉眼的、顕微鏡的に得られた所見をもとに各臓器の有する機能との関連を学ぶ。その後に予定される人体解剖実習を実りあるものとするための重要な課程であることを理解する。	
	生理学実習	生理学は人体の機能、つまり「働き」と「しくみ」を学ぶ学問であり、解剖学や生化学と並んで人体機能を理解する上でもっとも基礎的な知識である。本科目では人体の構造と機能に引き続き人体を構成する器官、組織、細胞が持つ固有の働きや機能がどのような機序で発現するかを分子レベルまで掘り下げた説明能力を身につける。実習では実際の生理学的現象の計測を通し、実験及び研究を進めるための装置の準備、計測、結果の整理、考察、資料検索、レポート作成能力を身につける。	
	生化学	生化学は、生体を構成している物質の構造・性質と代謝過程を理解し、それらが果たす機能を解明するための基礎となる分野である。主要な生体構成成分である糖質、たん白質、脂質、核酸などの構造・代謝、性質とその意義、生合成、分解などの代謝過程とそのしくみについて学び、生命現象を理解する。生体内の各器官の機能・役割を理解する。また遺伝情報の発現とその制御など、生物の生命現象の本質である細胞の営みを分子レベルで学び、それらの異常のメカニズムについて理解する。さらに臨床検査に用いられる遺伝子技術の基礎知識について学ぶ。	
	生化学実習	種々の生化学及び遺伝子実験を通して臨床生化学に必要な基本的実験手法を修得し、検体の取り扱い方、処理法を学ぶ。実験に必要な基礎的技術及び生体成分（糖質、たん白質、脂質、無機質、酵素、非たん白性窒素）の分析法の基礎的技術を修得する。また、得られる実験データと理論値を比較・対応させることにより、生化学反応に影響を与えて測定誤差となる要因の種類について学び、誤差への回避について理解する。	
	病理学Ⅰ	本科目では人体の正しい形態において正しい機能が保たれ、また正しい機能は正しい形態に裏付けられることを学ぶ。各器官の主な疾患の原因及び変化に重点を置き、総論的な分野として物質代謝障害、循環障害、退行性病変、炎症、新生物等について形態学的並びに機能的変化を通して病理学の概論を学ぶ。その上で各論として各種疾患（循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、泌尿器・生殖器系、造血器系、神経・感覚器系、運動器系ほか）の病因、発生機序、経過・予後等を学生自身で調べその成果を発表し主体的な理解へと導く。	
	病理学Ⅱ	病理学の目的である各器官の主な疾患の原因及び変化について物質代謝障害、循環障害、退行性病変、炎症、新生物等について形態学的機能的変化を知るためには、そのための標本作成が重要な過程である。本科目ではこの病理組織細胞学に必要な基本的検査法である病理組織標本作成の知識（固定、脱灰、包埋、薄切）と一般染色と特殊染色等と細胞診検査の標本作製方法と染色についての目的、原理を学び、染色結果をスケッチし、その解釈や考え方について学修する。	
	病理学実習	病理学Ⅰ・Ⅱの講義で得られた知識を技術の中に理論付け、実習を通して技術を修得する。特に病理・細胞診標本作製の全体的な流れを理解し、検体材料の取り扱い方の重要性及び感染対策・環境安全対策について修得する。また一般的に用いられる染色の基本的な手技を身につけ、特殊染色・免疫染色の必要性和その技術、各標本染色結果の特徴を学修する。これらを通じて病理組織検査での標本1枚1枚の大切さを知り、その結果がどのように診断に活かされるかを知ることによって検査への向き合い方を学ぶ。	
	医用検査機器学	臨床検査の現場では多くの測定機器が使用されており、それらの機器、装置についての測定原理や作動原理について十分に理解することが、精度の高い臨床検査情報の基本となる。そのため、機器の原理のみならず全体としての基本構成やシステム構成、特性を含めて理解するとともに、臨床の現場での利用状況と役割について学修する。また、機器について学修することは技術者のみならず医療施設における感染対策等医療安全においても重要である。これらの視点から検査機器総論として幅広い学修する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 礎 科 目	医用工学概論	医用工学概論は臨床の現場において、電気生理学的検査や生体電気現象を計測し表示することによって、正常機能及び病態の分析をするために役立つ。医療技術者に必要な医用電気・電子工学の基礎である直流回路、交流回路、半導体、能動素子の特性や生体情報の収集に必要な生体信号の特性、増幅回路、記録・表示機器、電極、変換装置等の医用工学の概念を学ぶとともに医用電気機器を安全に使用するために必要な人体の電撃に対する反応や医療機器の安全基準等を学ぶ。	
	医用工学概論実習	医用工学概論で学んだ知識を整理するとともに医用工学領域の技術として、電子機器（マルチメータ、オシロスコープ）の操作方法を身につけ、医用機器の構成要素である抵抗、コンデンサ、コイルの特性や基本的な直流回路と交流回路等の特性について理解する。各種電子計測機器を用いて計測し、オームの法則、キルヒホッフの法則の理解を深め、ダイオード、トランジスタ、サーミスタの特性の計測や電気的安全性の測定等の基本的技術を修得する。	
	薬と生体反応	生命維持管理装置の中で血液浄化療法、呼吸療法、人工心肺・補助循環の操作における患者の管理で使用される頻度の高い薬剤について適応や作用、副作用、使用方法について学ぶ。特に急性期に使用される薬剤が中心であるため、薬剤の使用・使用後の観察が必要であり、薬剤の作用・副作用を十分把握し、薬剤の効果を見極め、異常の早期発見に努めるよう知識の確立を行う。また、薬事法に記載されているガス性医薬品（酸素、亜酸化窒素、二酸化炭素）の薬理効果、人体への影響を学修する。	
	薬理学	内科的、保存的治療の代表となる薬物治療の基礎を学ぶために薬理学の基礎となる用語の概説をしながら薬理学の歴史や関連法規、新薬開発等の総論を学ぶ。また、分子レベル、細胞レベル、個体レベルでの神経伝達物質やその受容体の生理機能を理解する。さらに、主な疾患の成因・病態を確認・理解しながら、薬による治療効果、用いられる薬の作用機序と副作用等の生体と薬物との相互作用について各種臓器系統別に知識を深める。	
	臨床薬理学	臨床の現場で遭遇する頻度の高い疾患を対象に薬物療法について学ぶ。中枢神経、循環器系、消化器系、代謝・内分泌系、呼吸器系、血液系の6つに系統分けし、各系統で頻度高く遭遇する疾患（急性期、慢性期疾患）を中心に病態の理解を適宜確認しながら薬品名、使用品名、具体的な使用方法や投与のポイント、副作用、有害作用について学生自身で調べその成果を発表し主体的な学びを促す。特に、患者教育、指導の必要な薬剤が多いことから、対象に理解が得られるよう薬理作用に関する知識を身につける。	
	応用数学	臨床の現場においては電磁波等の各種エネルギーの計測やそれを発生する医用機器を取り扱うため、医療機器を正しく取り扱うために医用電子電気工学や医用機械工学等の理工学的知識が求められる。これらの理工学的知識を理解するには数学的素養が必要となる。本科目では理工学の基礎となる数学的知識と指数・対数、複素数、微分積分学、微分方程式、フーリエ級数とフーリエ変換、確率統計学等の基本的概念について学ぶとともにそれらの計算技法を、演習を通じて理解する。	
	電気工学	医用工学、情報通信等、現在の多くの技術分野は電気・電子系の技術に支えられており、そこで用いられている電気・電子回路の取り扱いとその考え方は、医療技術を学ぶための基礎として不可欠である。医療技術に必要な電気工学の基礎である受動回路素子（抵抗、コンデンサ、コイル）、直流回路（オームの法則、キルヒホッフの法則）、発熱作用と電気エネルギー、交流回路（正弦波交流）、電圧・電流、電磁気学、過渡現象、電力装置等の計算技法等を演習を通じて学ぶ。	
	電子工学	医用工学、情報通信等、現在の多くの医療技術の分野は電気・電子系の技術に支えられており、そこで用いられている電気・電子回路の取り扱いとその考え方は、医療技術を学ぶための基礎として不可欠である。医療技術に必要な電子工学の基礎である電子回路素子（半導体、ダイオード、トランジスタ、各種センサ等）、オペアンプ、ディジタル回路、論理回路、カウンタ回路、パルス発振回路、通信理論、通信方式等の計算技法等を演習を通じて学ぶ。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 礎 科 目	生体物性・材料工学	生体物性では生体に電気や超音波等の物理エネルギーを加えた場合に生体の組織・器官がどのように応答するかについての特性と生体自体が発生している物理的エネルギーの特性に関する物性の基礎である電気的特性、生体変形、超音波特性、熱特性、光学特性等を学修する。材料工学では人工臓器や医療デバイスに用いられる生体材料（バイオマテリアル）の基礎である、人工材料の生体適合性、生体由来材料、金属材料、医用材料の安全性評価と安全対策等を学修する。	
	計測・機械工学	医療機器には、生体信号を計測する機能が組み込まれている。生体信号を計測することは、正しい診断や治療を行う上で必要不可欠である。計測工学では、計測の基礎となる生体信号の性質・種類と電気磁気現象、振動、温度、物理量の計測方法及び測定差と測定値の処理について学修する。医療において治療や計測を行う場合に生体に機械的エネルギーを与えて行うことが多くある。機械工学では医療に必要な機械工学の知識として機械力学（振動・波動）、材料力学、流体力学、熱力学等を学修する。	
	医用機器学概論	生体の特性を理解しながら医療機器の原理、特徴、及び使用方法の基本的知識を身につける。治療に用いる物理エネルギーの種類や特徴を学び、電磁気治療機器、機械的治療機器、光治療機器、熱治療機器、内視鏡の5つの機器項目から使用品度の高い医療機器を取り上げ使用における対象や使用目的、効果、副作用、有害作用について概説する。医療機器の歴史や開発に至る背景、治療の発展や展望、在宅医療への応用、医療機器を通して起こり得る事故事例や対処について学ぶ。	
	情報科学概論	患者情報を臨床で有効に利用するためには、情報収集・処理技術や通信技術についての知識が必要である。そのためには日頃からICT技術に目を向ける必要がある。その基本的知識である数値、文字、画像をデジタルデータで表現する仕組み、基本的な論理回路の論理式や真値表、コンピュータの構成要素とそれぞれの役割、コンピュータの基本的な動作原理、コンピュータネットワークの基本的な仕組みについて学修し、医療情報システムの基礎を理解する。	
	情報処理工学Ⅰ	医療技術者として情報技術の基礎的な知識を学修し、情報技術を医療の現場に活用できる人材を目指す。そのために必要な情報処理の基礎理論、プログラミング言語、コンピュータシステム、マルチメディア（圧縮の種類と特徴）、データベースの基礎（設計、運用、利用、保守）、ヒューマンインターフェイス（役割、種類）、セキュリティ技術（情報保護、信頼性、暗号化技術）を学修し、情報技術の医療への応用について自ら考察し、発表する。	
専 門 科 目	情報処理工学Ⅱ	医療技術者として情報技術の知識と技能を学修し、情報技術の医療への活用を提案できる人材を目指す。そのために必要な情報処理の基礎理論、通信（伝送路、多重化方式）、計測・制御に関する基礎理論（基本的な仕組み、制御の必要性）、データ構造（配列、リストの基本的な考え方）、アルゴリズム（流れ図、基本的な設計方法）、プログラミング（プログラミング作法、Webプログラミング）、表計算ソフト（関数の種類と使い方、マクロの作成方法）を学修し、コンピュータを利用したシステムと医療への応用について自ら考察し、発表する。	
	臨床検査総論Ⅰ	臨床検査総論では日常診療において求められる検体採取及び一般検査領域に必要な基礎知識と技術を学修する。同時に患者接遇や臨床技術者のチーム医療における役割、使命、業務、心構えについても学修する。それらには尿、糞便、穿刺液、血液等の検査材料の採取法及び各検査の目的、検査方法等を考慮した検体の保存法等の基本的検査技術に関連する事項から尿定性検査、尿沈渣検査、髄液検査等一般検査領域に必要な基礎知識と技術を修得する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	臨床検査総論Ⅱ	(概要) 検査説明・相談のできる技師育成を目指し、尿一般検査、便検査、脳脊髄液検査等の臨床一般検査の技術的特徴及びその病態特性を総合的に理解する。その上で臨床一般検査情報を身体所見の一つと捉え、各種検査情報との関連性を考える能力や検査結果の背景となる病態への理解を深めて客観的な臨床検査情報とするためのスキルを学ぶ。また、総合的精度管理及び機器・情報・運営・安全に関する管理法を修得するとともに、職業倫理を高める。 (オムニバス方式／全15回) (① 油野友二／8回) 全体のコーディネーターを担当する。 尿一般検査の技術的特徴を整理し、その検査所見から各種病態を推定する思考過程を中心に病態分野別に教授し、検査説明・相談のできる技師の育成を図る。 (3 尾崎 聡／7回) 臨床検査で重要な精度管理手法についてその理論から実際の運用法までを教授する。その中から臨床検査の過程における機器・情報・運営・安全に関する管理法を修得するとともに、職業倫理を高める。	オムニバス方式
	臨床検査総論実習Ⅰ	臨床生化学検査や血液検査等多岐にわたる検査でまず求められる採血について、必要とされる解剖学的・生理学的特徴や手技についての知識を整理し、実習により修得する。臨床一般検査の対象となる尿・便・喀痰・脳脊髄液・穿刺液・精液等の様々な検体の採取方法や保存法及び感染防止を含めた検体取り扱いをはじめとして各々の検査項目を実習し、検査方法・検査原理を整理するとともに検査結果の判読を通じて臨床検査学の基本的役割を修得する。	
	臨床検査総論実習Ⅱ	臨床検査総論実習Ⅰに続いて微生物学的検査や臨床一般検査の対象となる様々な検体の採取法や保存法、感染防止を含めた検体取り扱い方法、各々の検査項目・検査方法・検査原理を再度整理し、継続実習することで一層の修得を目指す。その上で尿定性検査・尿沈渣検査結果とその他の臨床検査所見から病態を推定し、追加すべき検査項目の選定等の検討を行い、有用な臨床検査報告書の書き方とチーム医療に役立つ臨床検査情報の説明・相談のあり方を修得する。	
	医動物学（実習含む）	寄生虫学では回虫、鉤虫等の土壌伝播線虫を含む蠕虫類や、マラリア、赤痢アメーバ等を含む原虫類の人体寄生を原因とする種々の感染症を取り扱う人体寄生虫学とともに、リケッチア、ウィルス等の多くの病原性微生物を媒介する蚊やダニ等を含む衛生動物を取り扱う衛生動物学の領域を幅広く紹介し、各感染症の病態、病理、診断、治療、予防について学ぶ。具体的な事例の学修を通じて、寄生虫・衛生動物による感染症に関する基本的な知識と、そのベースとなる感染症制御の方法論を修得する。	演習 44時間 実習 16時間
	臨床血液学Ⅰ	臨床血液学に関わる血液検査は血液疾患の診断のみならずすべての疾患の病態把握に不可欠であり、診察前のスクリーニング検査としても必須である。本科目では、血液学的検査を行う際に必要となる血液学の基礎的知識（血液検査学の魅力、血液の成分と性状・機能、血球の産生と崩壊等）を学び、さらに赤血球、白血球、血小板、造血器腫瘍の分類や成因、出血傾向の検査として止血機構、凝固線溶系等の各論について学修する。また、それぞれの血液成分の測定方法や原理を理解する。	
	臨床血液学Ⅱ	臨床血液学に関わる血液検査は血液疾患の診断のみならずすべての疾患の病態把握に不可欠であり、診察前のスクリーニング検査としても必須である。血液を用いた血液学的検査を行う際に必要となる血液成分の染色法から表面マーカー検査、血液疾患について理解するため、各疾患の定義・分類・病態・検査所見等を学び、さらに検査値異常の背景を正しく解釈できるよう染色体や遺伝子検査、鉄代謝や各疾患時の血液学的検査の原理及び診断基準と臨床的意義を学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床血液学実習Ⅰ	臨床血液学Ⅰで学んだ知識をもとに、血液学検査に使用する血液試料の採取、保存法や検査の基礎技術や注意点、測定時の精度管理、取り扱い方法を学修する。塗抹標本作成、各種染色、一般血液検査項目（赤血球数、白血球数、血小板数等）の測定、末梢血液像（普通染色と特殊染色像）の観察等を行う。また、溶血に関する検査や毛細血管抵抗検査法を実習する。これら基本技術の修得と得られた検査結果を正しく評価して報告することを学修する。	
	臨床血液学実習Ⅱ	臨床血液学Ⅱで学んだ知識をもとに、各種血液疾患、免疫異常疾患の血液塗抹標本を詳細に観察し、各種検査所見との関連性並びに遺伝子検査との関連性を学修する。また、血液成分の産生部位である骨髄での病変を把握するために骨髄像を観察して、健常な骨髄像と造血器腫瘍等疾患時の骨髄像の違いを理解する。さらに各種血液疾患の治療法の概要を理解し、病態や治療とともに変化する検査結果を正しく評価して報告することを学修する。	
	臨床免疫学Ⅰ	病原体・ウイルスによる襲撃は人類の存亡にかかわる。これに対して人類（生物）において進化したのが免疫系という精巧な防御機構である。ヒトの免疫系を理解するために、免疫血清学の概要（概念と歴史）を抗原抗体反応の原理、免疫系器官と細胞、免疫グロブリン、補体の活性化経路と生理作用等を学ぶ。これら免疫機構を構成する各種検査法を理解するとともに、免疫血清反応では避けることができない各種抗原抗体反応に及ぼす因子について学修する。また、細胞性免疫の原理やワクチンに関連する知識を学修する。	
	臨床免疫学Ⅱ	病原体・ウイルスによる襲撃は人類の存亡にかかわる。これに対して人類（生物）において進化したのが免疫系という精巧な防御機構である。感染症による免疫獲得、免疫異常によっておこる疾患（自己免疫疾患・アレルギー・免疫不全等）の病因・病態について学修する。移植免疫と免疫抑制剤の作用機序や新生物（腫瘍）に対する免疫について学修する。輸血（細胞治療学）及び輸血検査法の基礎的知識を理解し、臨床技術者としての輸血検査の重要性を認識するとともに、血液型と遺伝、輸血副作用、製剤の管理について学修する。	
専門科目	臨床免疫学実習Ⅰ	臨床免疫学Ⅰで学んだ知識をもとに、免疫学的検査の基礎技術を学ぶ。まずは実験器具の正しい使い方を学び、臨床現場では感染性の検体を扱うことから、感染予防対策について学修する。実際の抗原抗体反応を用いた検査では、古典的な沈降反応から始まり、補体価の測定、溶血疾患検査等を実践して、検体の扱いや検査、検査後の検体の処理方法等を学修する。免疫反応では避けることのできない非特異反応の原因や解析法を学修すると同時に検査結果を正しく評価して報告することを学修する。	
	臨床免疫学実習Ⅱ	臨床免疫学Ⅱで学んだ知識をもとに、溶連菌感染症、肝炎等各種ウイルス感染症、梅毒症等の感染症に対する検査、自己免疫疾患検査に関する手技を身につける。操作法、精度管理、各検査法の特徴や注意点を理解する。輸血に関する血液型検査や不規則性抗体・交差適合試験、移植に関するHLA検査、血清たん白の免疫化学的定量分析法等を身につける。検査結果の分析及び病態との関係について学修し、診療上の重要性について実習を通して修得する。	
	臨床微生物学	臨床微生物学は微生物が、どのような経路・機序で病気を起し診断・治療するのかを学び感染症の克服を目指す学問である。微生物学の歴史、各微生物の分類と命名、形態と構造、代謝と増殖法（発育条件に合った培養方法の違い）等について学ぶ。さらに生物学的特徴や変異と遺伝、耐性と感受性、化学療法の理論等微生物学全般の概要を学修する。また、常在菌と病原菌の区別化や、特定の微生物だけを培養するための培地の工夫等一連の検査課程を理解する。臨床微生物学実習で用いる滅菌、消毒法や最適な培養法や培地についても学修する。	
	臨床微生物学実習	臨床微生物学で学んだ知識をもとに、消毒滅菌、無菌操作法や基本的なグラム染色、その他の特殊染色、培養等に関する基本的操作法を実習から学ぶ。培養後の菌の性状を把握、確認することによって菌名の同定法について各種（形態、生化学性状、質量分析、遺伝子）等の検索法を修得し、試料中から正しく病原菌を分離、同定後、薬剤感受性検査までの工程を体系的に学修する。また、感染対策としてのInfection control team(ICT)の活動や病棟ラウンドの意義を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床生化学Ⅰ	生体試料中の成分について、種々の物理化学的方法で精密、正確に定量分析するための知識と臨床生化学領域に用いられる各種定量法を中心に原理・特徴などの基礎や検体や試料の取り扱いについて学ぶ。また、生体試料中に存在する糖質、脂質、酵素、電解質などの定量法とその原理について理解する。その上で生体内基準範囲、臨床的意義について学び、臨床検査データと病態との関連についてグループ検討から考察する。これらを通して疾患の診断、予防に役立つ客観的な臨床検査データを迅速に提供することの重要性を理解する。	
専門科目	臨床生化学Ⅱ	臨床生化学Ⅰに引き続き各種検査項目のうち、無機質、生体色素、ホルモン、血中薬物濃度の定量法とその原理、生体内基準範囲、臨床的意義について学ぶ。また、各器官の機能検査では、各器官の機能や疾患の病態と検査データを対比させて病態生化学的・病態生理学的関連について各自が考察し発表することから臨床的意義を修得する。さらに遺伝子検査の理論と実際、疾患・腫瘍マーカーについて学修する。これらを通して疾患の診断、予防に役立つ客観的な臨床検査データを迅速に提供することの重要性を理解する。	
	臨床生化学実習Ⅰ	本科目では、検査の基礎技術、定量に用いる機器の原理と実際について学ぶ。また検査における精度管理、検体の取り扱いと処理について学ぶ。さらに生体試料中の糖質、たん白質、脂質の分析技術を用手法、または自動分析法を用いて学修する。また電気泳動法を用いて血清中のたん白質分画の分離分析を学ぶ。得られた検査データについて評価し、測定値に影響を及ぼす要因について解析し、回避する方法を学ぶ。	
	臨床生化学実習Ⅱ	臨床生化学実習Ⅰに続き、酵素及びアイソザイムの解析、電解質・無機質、生体色素、ホルモン、血中薬物の定量法、及び機能検査の手技について学ぶ。これらを通して測定法の問題点、測定値に影響を与える誤差要因について学び、精度よく正確な分析を行うための方法を理解する。機能検査では得られた検査データについて評価し、各器官の機能や疾患の病態と対比させて臨床的意義について理解する。遺伝子解析実習ではDNAの抽出、増幅、塩基配列解析技術を学ぶ。	
	放射線検査学	放射性同位元素（RI）の検査は検出感度が高く、物質透過性を持つため、医学の研究や治療だけでなく、臨床検査としても重要で生体微量成分の臨床生化学的検査に利用されている。RIの基礎理論と核医学の基礎について学び、さらに臨床検査に使用されている各種RIを用いた検査法について知識と検査手技を学ぶ。また、放射線の人体に及ぼす影響について学生自らが検討し、プレゼンテーションを行う中で正しい取扱いと管理及び関係法規を理解・修得する。	
	生理機能計測学Ⅰ	生理学的検査の目的と業務範囲と人体の構造と機能、生理学実習で学んだ循環器系の基礎知識と医用工学概論、電気工学、電子工学で学んだ理工学的基礎知識に基づき、心電図検査の誘導法、正常心電図、不整脈・心臓肥大・虚血性心疾患の心電図、負荷心電図の種類と禁忌の疾患、心電図・心音図と脈波の関係、異常心音と異常脈波、超音波像（心臓、体表臓器）、を学修し、生体の循環器系の生理機能変化の計測法と生理機能評価法に関する解析方法を演習を通して学ぶ。	
	生理機能計測学Ⅱ	生理学的検査の目的と業務範囲と人体の構造と機能、生理学実習で学んだ神経・筋系と呼吸器系と腹部臓器の構造の基礎知識と医用工学概論、電気工学、電子工学で学んだ理工学的基礎知識に基づき、神経・筋系の検査（脳波、誘発電位、筋電図、神経伝導速度）、呼吸器系の検査（肺機能検査、換気機能検査）、血液ガス、酸塩基平衡の計測原理・検査法及び臨床的意義を学修する。また、超音波検査法（腹部、体表面）の計測原理と走査手順、画像解析の基本について演習を通して学ぶ。	
	生理機能計測学実習Ⅰ	生理機能計測学Ⅰで学んだ知識に基づき、臨床現場で行われている生体検査の中の循環器系検査である心電図、負荷心電図、心音図等と心臓超音波検査について、生体計測に必要な手技・技術及び知識を修得するための実践的な実習を行う。さらに、得られた波形や画像等の検査データを解析・判読して検査結果の評価も行う。また、生体計測の技術や結果の解釈のみならず、生体検査に不可欠な患者さんと直接、接することに対する意識及び接遇も実習を通じて学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生理機能計測学実習Ⅱ	生理機能計測学Ⅱで学んだ知識に基づき、臨床現場で行われている生体検査の中の経・筋系である脳波、誘発電位、神経伝導速度や呼吸器系の検査である肺機能検査の計測原理・検査法等と腹部超音波検査について、生体計測に必要な手技・技術及び知識を修得するための実践的な実習を行う。さらに、得られた波形や画像等の検査データを解析・判読して検査結果の評価も行う。また、生体計測の技術や結果の解釈のみならず、生体検査に不可欠な患者さんと直接、接することに対する意識及び接遇も実習を通じて学ぶ。	
	医療安全管理学（実習含む）	医療従事者として患者の安全・安心な医療を提供するためには、医療事故や医療過誤の発生原因からその対策までの一連の概念を修得することが不可欠である。本科目では医療専門職としての臨床検査学及び臨床工学部門における責任と役割を理解するとともに、医療業務全般における医療安全について、その発生原因と特徴から対策までをグループ検討、発表を通じて学ぶ。特に検体採取など侵襲的行為における医療安全の確保のために事前の患者説明の重要性について認識し、責任を持って対応することを修得する。	講義 15時間 実習 15時間
	生体計測装置学	生体計測装置は生体から発せられる微小な信号を多様な原理で計測している。今まで学んできた人体の構造と機能、生理学実習、電気工学、電子工学、生体物性・材料工学、計測・機械工学の知識を結びつけて、生体計測装置の適切な操作と保守ができるよう生体計測装置の基礎知識と循環器系計測器、呼吸器系計測器、神経・筋系計測器、体温計測器、医用画像機器（眼底写真、磁気共鳴画像、熱画像検査）の原理、構造、計測方法とそれぞれの装置の特徴や違いを学修する。	
	細胞生物学	人体は様々な器官や組織・臓器により構成されているが、これらはさらに最小単位である細胞からできている。それぞれの細胞は分裂や再生、活性化され最期には自ら細胞破壊することによって細胞の数や機能を保っている。本科目では各種細胞の構造や機能、活性化や細胞破壊までの経過を学修する。また、細胞の機能を調べるための手法を学び、サイトカインや細胞間の連携について学修することにより、人体の働きに対する興味を高める授業を展開する。	
専門科目	分析技術学	（概要）臨床検査学あるいはその研究分野では、病態解析のために生体試料中から目的成分を分離・抽出してその成分の性状や構造を分析する分離分析技術、遺伝子操作を中心とする遺伝子工学技術、細胞内器官の微細な構造及び細胞内たん白質の動態を観察する超微形態分析技術など、様々な高度な分析技術が用いられている。本科目ではこれらの技術の種類と分析の目的、原理の基礎理論、特徴などについて学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （ 6 寺澤文子／5回） 全体のコーディネーターを担当する。 分析学概論、基礎技術、及び分離分析技術のうち各種電気泳動法の原理と目的、特徴、結果の解釈などについて学ぶ。また質量分析法、炎光光度法、原子吸光光度法の基礎理論及び遺伝子工学技術の基礎と実験手法について学ぶ。 （ 1 柴田 宏／5回） 分離分析技術のうち各種クロマトグラフィーの原理と目的、特徴、それらの応用と結果の評価などについて学ぶ。また遺伝子工学技術の基礎理論とさまざまな応用について学ぶ。 （ 3 尾崎 聡／5回） 超微形態分析に用いられる生体試料の調整法及び各種顕微鏡等の解析機器類の原理と特徴について理解したうえで、デジタル画像による組織構造や細胞形態の解析、免疫組織化学的染色法やIn situ hybridization法によるたん白・核酸の細胞内局在性解析、共焦点レーザー顕微鏡を用いた物質動態解析について学ぶ。	オムニバス方式
	画像解析学	画像診断は、超音波検査、磁気共鳴画像検査、放射線画像検査などを用いて、非侵襲的にヒト体内の疾患の形態的・機能的変化を画像化して解析する検査で、現在の医療ではその重要性を増し、不可欠な検査である。画像検査を用いた診断では多くの方法で得られた画像やその他の検査を総合的に評価し診断に至る能力が必要である。画像解析学では画像所見の評価ができる基礎知識と実際の画像を見ながら各臓器別に必要な解析のためのポイントを学ぶ。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生体機能代行装置学	呼吸・循環・代謝に関わる生体機能代行装置（人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置）を使用するにあたり、関係する疾患の理解とともに機器の基本的な原理と操作方法、保守点検について学修する。また、これらに付属する関連機器及び在宅で使用される医療機器についても同様に学修する。さらに、生体機能代行装置を使用している患者の病態や治療中の身体反応、モニタリング、合併症について学修し、患者の心身への管理や機器の安全管理について事例を通して理解を深めていく。	
専 門 科 目	生体機能代行装置学実習	呼吸・循環・代謝に関わる生体機能代行装置（人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置）及び在宅医療機器の基本的な原理と操作、保守点検について実技により修得する。これらの生命維持管理装置に関する事故事例とトラブルシューティングについて具体的な安全対策を学修する。また、実習室内のベッドサイドを使用し、患者を想定した実際の患者管理を学修する。機器使用後の保守管理について、使用する工具の取り扱いや機器の清掃、消耗品等の交換について実践する。	
	医用機器安全管理学	病院設備や医療機器の安全管理に必要な基礎知識として、各種エネルギーと生体反応、病院電気設備の安全基準、医療ガスに関する安全基準、システム安全に関する基礎を学ぶ。また、医療機器安全管理責任者等病院組織における医療技術者の役割や院内感染における基礎知識と制御、医療機器安全にまつわる関係法規について学修する。また、医療事故分析の手法について教示し、事例を基にグループワーク、発表形式による演習を実施することにより他者の意見を聞き、自身の意見を発言できるチームを意識した学修を展開する。	
	医用治療機器学	医学の進歩に伴い、医療機器にまつわる事故が後を絶たない。本科目は、電磁気治療機器、機械的治療機器、光治療機器、熱治療機器、内視鏡の5つ機器項目及び在宅で使用される頻度の高い医療機器を取り上げ、医療機器使用の対象となる疾患及び使用方法、効果、副作用を理解し、保守・管理に関する基本的知識及び技術を身につける。また、臨床の現場で起こり得る医療事故について事例を示しながら、トラブル回避の方法や患者への対応について学ぶ。	
	医用治療機器・安全管理学 実習	医療現場で使用頻度の高い医療治療機器を中心に、基本的操作、保守・管理を実技により修得する。さらに、医療機器安全管理責任者の役割として必要となる医療機器の点検計画の作成や研修資料（マニュアル等）の作成も経験する。また、ICUをモデルとした実習室等を利用し、病院の電気設備や医療ガス配管を含め、これらの医療治療機器が安全に使用できる環境や医療治療機器を使用する患者・家族への対応について実習を通して学ぶ。	
	臨床医学総論	医療技術者として遭遇することの多い疾患に関する病態、診断、治療について学修する。内科学概論をはじめ、外科学概論や各種臓器別に疾患を理解する。特に臨床検査学、臨床工学に必要な検査データの評価及び治療において求められる医学的基礎知識を学修する。また、周術期に関する患者の心身の変化を理解するため術前・後の治療や合併症について学修する。近年の医学や治療の進歩についても学び、医療技術者としての役割を演習を通じて学修する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門	臨床検査学演習	(概要) これまで学んできた、人体の構造と機能、医学検査の基礎とその疾病との関連、保健医療福祉と医学検査、医療工学及び情報科学、形態検査学、生物化学分析検査学、病因生体防御検査学、生理機能計測学、検査総合管理学と臨地実習で学んだ知識と技能を体系的に整理し、疾患と医学検査との関わりについて理解・評価や検査の理論と結果の解析と臨床的意義、生体検査における検査時の急変時の対応について学修する。 (オムニバス方式／全30回) (1 柴田 宏／5回) 全体のコーディネーターを担当する。 生体防御の仕組みと臨床免疫学に関する検査理論の知識を整理し、結果の意義及び臨床評価について学ぶ。 (①油野友二／5回) 一般検査の技術理論に関する知識を整理し、結果の意義及び臨床評価、総合精度管理について学ぶ。 (6 寺澤文子／5回) 生体試料に含まれる成分についての生物化学的分析に関する知識を整理し、結果の意義及び臨床評価について学ぶ。 (4 小宮山 豊／5回) 血液細胞の形態学的検査及び凝固線溶系の検査に関する検査理論の知識を整理し、結果の意義及び臨床評価について学ぶ。 (14 濱田敏彦／5回) 生体機能情報を計測するための知識を整理し、結果の意義及び臨床評価について学ぶ。 (11 小宮智義／5回) 感染の仕組みと臨床微生物学に関する検査理論の知識を整理し、結果の意義及び臨床評価について学ぶ。	オムニバス方式

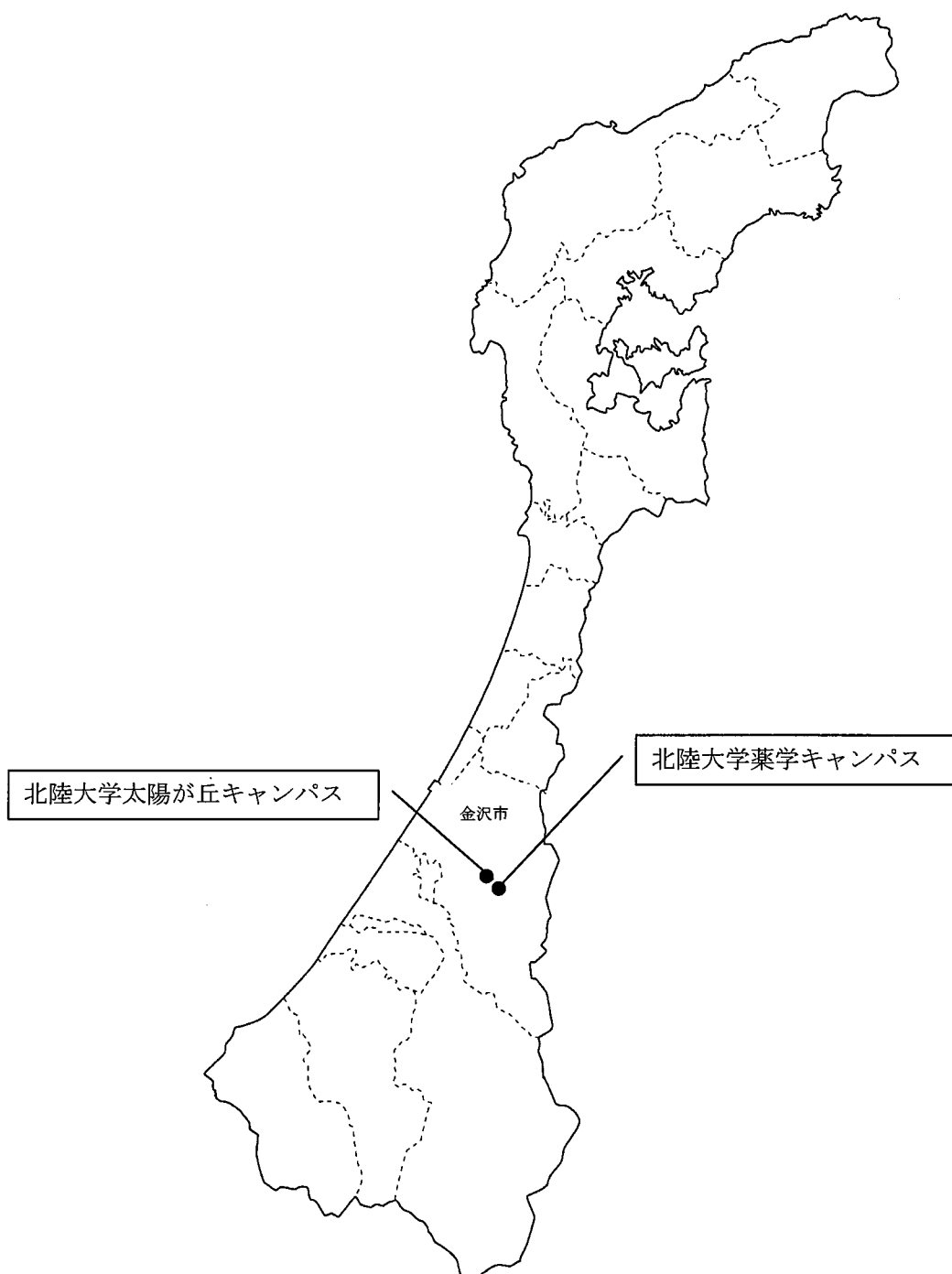
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科目	臨床工学演習	(概要) これまで学んできた、人体の構造及び機能、臨床工学に必要な医学的基礎や理工学的基礎と医療情報技術、医用生体工学、医用機器学、生体機能代行装置学、医用安全管理学と臨床実習で学んだ知識と技能を体系的に整理し、臨床で利用される計測機器・治療機器や生命維持管理装置の操作と保守点検、安全性を確保の方法、医用安全管理技術、関連疾患の病態及び治療法等を学修する。 (オムニバス方式／全30回) (5 嶋津秀明／4回) 全体のコーディネーターを担当する。 医療技術に必要な医用機械工学、生体物性、医用材料工学に関する知識を整理し、医療での応用について学ぶ。 (3 尾崎 聡／5回) 各種疾患と医学検査の関わりについて臓器・組織の形態学的検査からの知識を整理し、結果の意義及び臨床評価について学ぶ。 (12 高橋純子／7回) 臨床で使われている医用治療機器（生命維持管理装置を含む）の原理・構造についての知識を整理し、安全な使用方法と保守管理について学ぶ。 (15 服部託夢／5回) 医療技術に必要な医用電気工学・医用電子工学に関する知識を整理し、医療での応用について学ぶ。 (9 生駒俊和／5回) 生体機能情報を計測するための理論の知識と予防医学の検査に関する知識を整理し、医療での応用について学ぶ。 (② 長原三輝雄／4回) 医療技術に必要な情報処理技術に関する知識を整理し、医療での応用について学ぶ。	オムニバス方式
専門	地域チーム医療論	チーム医療推進において患者を中心に捉えて専門性を発揮しながら協働してケアを行うため、臨床検査学・臨床工学の専門技術の原点を確認し、開かれた臨床検査部門及び臨床工学部門に従事する医療技術者のあり方を理解する。事例を取り上げた検討から実践に求められるコミュニケーションスキルや問題解決能力を高めるための知識、保健・医療・福祉の制度、予防医学と検査の関連並びに疫学的分析法の理論と技術について各自が考え、発表する中で医療チームの一員としての自覚を養う。さらに生涯学習の必要性、スキルアップのための種々の認定制度の概要を学ぶ。	
	専門職連携演習	患者を志向した質の高い医療の提供や医療上の問題を解決することを目標に、チーム医療の構成員として自身の専門性を活かし積極的に医療に参画できるようになるために、医療の流れ、医療の構成員、チーム医療に関する基本的知識、技能、態度を修得する。チーム医療に携わる専門職スタッフを講義に招き、他職種のエデュケーション、実際の医療現場での役割、機能について学ぶ。医療現場での具体的な事例を用いた演習プログラムにより、職種間の相互理解と連携、協働できる能力や患者を総合的に診る能力を身につける。	
	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱを行う前に所属研究室の教員からのテーマまたは専門分野の範囲を提示し、その中から卒研ゼミの学生がやりたいテーマ、あるいは興味のある分野等を選ばせる。ゼミ学生の自主性を高め、文献を検索する基礎能力を身につけさせるためにテーマ、あるいは興味のある分野に関連した論文検索の方法を学修し、検索した論文の要旨を理解し、その中からゼミ学生自ら研究内容を決定すると同時に文献を読む基礎能力を身につける。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科目	卒業研究Ⅱ	医療関連分野の職域では、知識及び技術の進歩が顕著であり、そこでは文献を読む能力、新しい技術を修得して駆使できる能力、実験・研究結果を判定・考察できる能力等の基本的な総合的能力を備えていることが必要である。研究能力及び文章表現能力等を養い、社会で活躍、貢献できる人材に成長するために所属研究室の教員の指導の下で実験・研究活動を行い、実験・研究結果を判定・考察できる基礎学力を身につける。	
	臨地実習	本科目では、医療技術者として備えていなければならない技術、技能を身につけるだけではなく、学内授業では学ぶことのできない実践的な理論、技術の修得をはじめ、臨床検査学として必要な基本的・実践的技術を修得するとともに、検査材料の取り扱い方、検査機器の仕組みや取り扱い方、検査情報管理等検査部門の役割や運営に関する基礎知識を学び、検査部門の医療における重要性を知る。さらに患者との対応の仕方・マナーを学修し、医療チームの一員としての責任感と自覚、倫理観を身につける。	
	臨床実習	本科目では、医療技術者として備えていなければならない技術、技能を身につけるだけではなく、学内授業では学ぶことのできない実践的な理論、技術の修得をはじめ、臨床工学として必要な基本的・実践的技術を修得するとともに、医用治療機器の仕組みや取り扱い方、医用機器管理業務等臨床工学部門の役割や運営に関する基礎知識を学び、臨床工学部門の医療における重要性を知る。さらに患者との対応の仕方・マナーを学修し、医療チームの一員としての責任感と自覚、倫理観を身につける。	

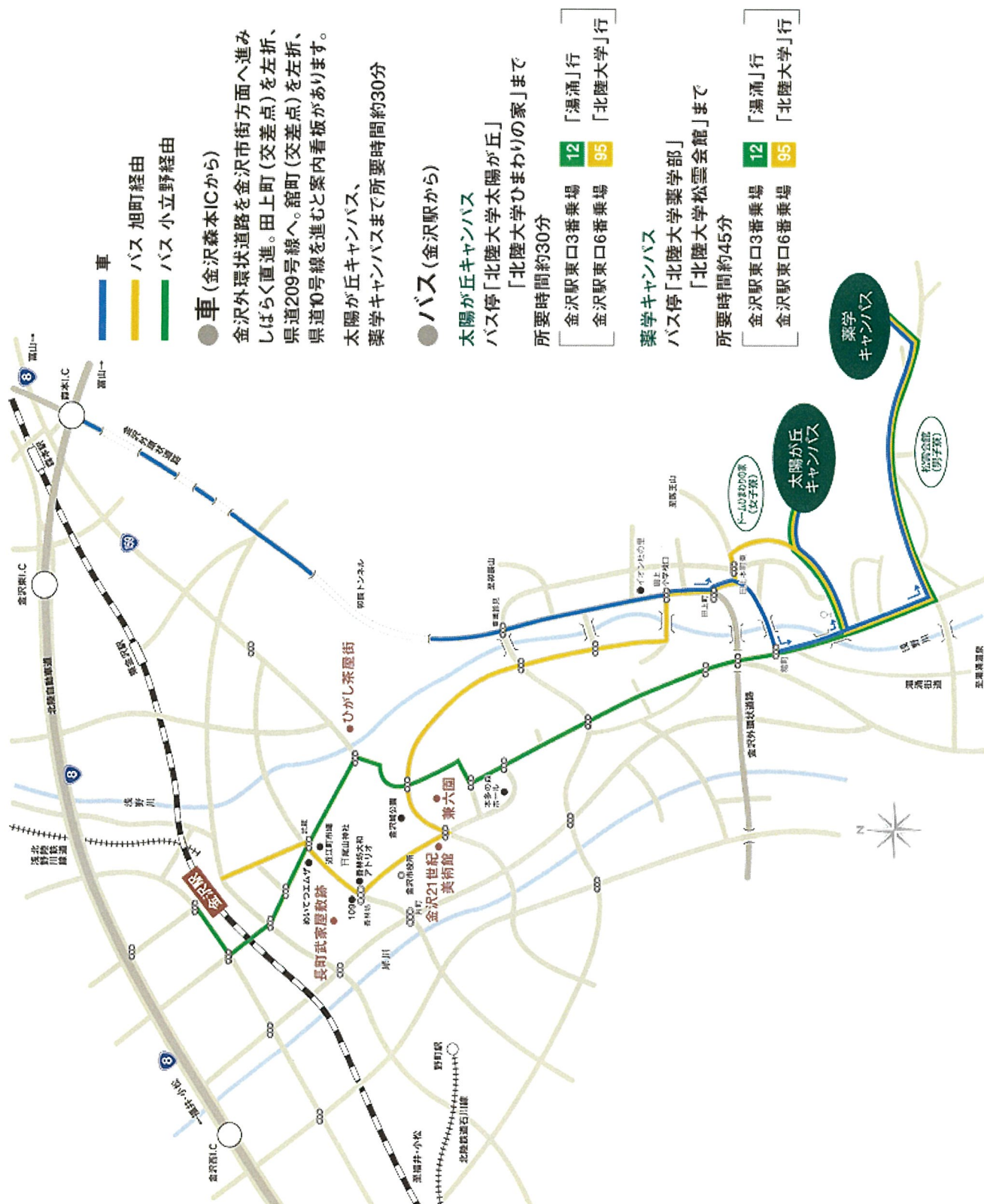
学校法人 北陸大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
北陸大学				北陸大学				
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	306	-	1836	薬学科(6年制)	220	-	1320	定員変更(△86)
未来創造学部				経済経営学部				名称変更
		3年次				3年次		
国際マネジメント学科	100	120	640	マネジメント学科	200	123	1046	定員変更(100)
								編入学定員変更(3)
国際教養学科	100	45	490		0	0	0	平成29年4月学生募集停止
				国際コミュニケーション学部				学部の設置(届出)
						3年次		
				国際コミュニケーション学科	80	20	360	
				医療保健学部				学部の設置(認可申請)
				医療技術学科	60	-	240	
		3年次				3年次		
計	506	165	2966	計	560	143	2966	

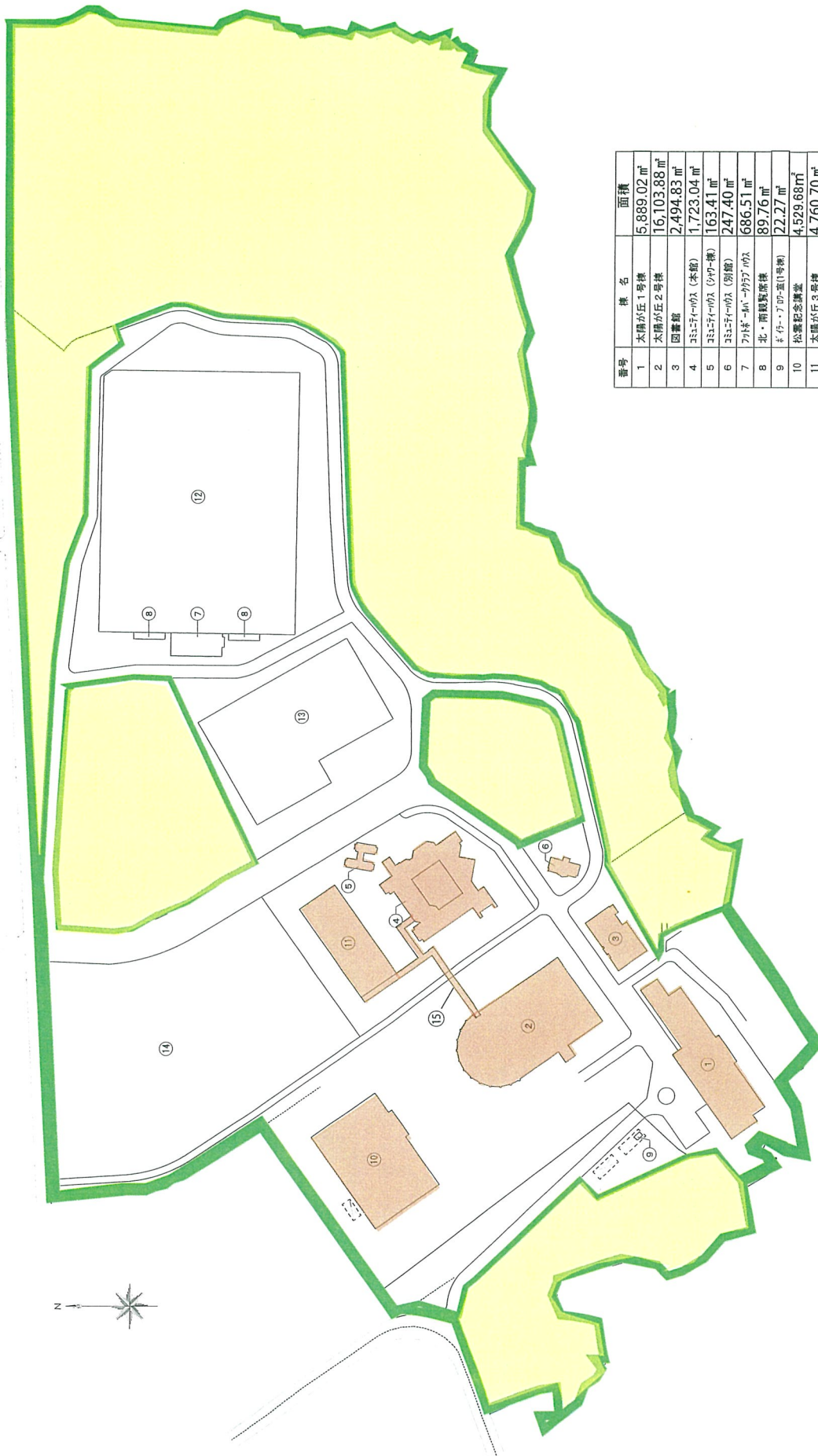
【北陸大学の位置図】



最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



校舎、運動場等の配置図



番号	様名	面積
1	太陽が丘1号棟	5,889.02㎡
2	太陽が丘2号棟	16,103.88㎡
3	図書館	2,494.83㎡
4	コミュニティハウス（本館）	1,723.04㎡
5	コミュニティハウス（分館）	163.41㎡
6	コミュニティハウス（別館）	247.40㎡
7	フリスビーパークハウス	686.51㎡
8	北・南郷館	89.76㎡
9	学生・フリスビーハウス	22.27㎡
10	松島記念講堂	4,529.68㎡
11	太陽が丘3号棟	4,760.70㎡
12	フットボールパーク	22,940.84㎡
13	テニスコート	6,220.00㎡
14	太陽が丘グラウンド	16,978.15㎡
15	渡り廊下	436.95㎡

校地算入面積 75,306.98㎡

医療保健学部使用校舎

校地算入敷地

校地不算入敷地

北陸大学学則

第 1 章 目 的

(目的)

第1条 本学は、教育基本法及び学校教育法に則り広く知識を授けるとともに、深く専門の知識と技能とを教授研究し、人格の陶冶を図り、文化の創造発展と公共福祉の増進に貢献し得る人物を育成することを目的とする。

第1条の2 本学は学校教育法に基づき、本学における教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行いその結果を公表する。

2 前項に関する事項は、北陸大学自己点検・評価規程に定める。

第 2 章 組 織

(組織)

第2条 本学に次の学部、学科を置き、その定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員
薬学部	薬学科	220 人		1,320 人
経済経営学部	マネジメント学科	200 人	3 年次 123 人	1,046 人
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	80 人	3 年次 20 人	360 人
医療保健学部	医療技術学科	60 人		240 人

2 本学に、留学生別科を置く。

(1) 留学生別科の入学定員及び収容定員は 70 人とする。

(2) 留学生別科に関し必要な事項は、北陸大学留学生別科規程に定める。

(養成する人材)

第2条の2 前条の学部、学科の人材養成の目的は、次のとおりとする。

(1) 薬学部 薬学科

医療人としての倫理観、使命感、責任感及び高度な薬学の知識・技能を身につけ、臨床の現場で実践的な能力を発揮できる薬剤師を養成する。

(2) 経済経営学部

グローバルな視野と異文化への深い理解、高いコミュニケーション力により、世界の人々と自由闊達に意見交換し、現代社会に生起するさまざまな課題に的確に対応し、あるべき未来を自ら創造できる人間力あふれる人材を養成する。

・ マネジメント学科

国際的な視野での実務的マネジメント力を身につけ、かつ幅広い知識と教養及び外国語コミュニケーション力を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。

(3) 国際コミュニケーション学部

地域社会及び地域産業のグローバル化に貢献し、世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚を持ったグローバル人材を養成する。

・ 国際コミュニケーション学科

実践的な語学運用能力・コミュニケーション能力を基盤とし、世界の多様な価値観、及び日本そして地域の魅力と強みを理解し、世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚を持ったグローバル人材を養成する。

(4) 医療保健学部 医療技術学科

医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識・技能を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者を養成する。

第 3 章 職 員 組 織

(職員組織)

第3条 本学に、学長、教授、准教授、助教、助手及び一般職員を置く。ただし教育・研究上の組織編制として適切と認められる場合には、准教授、助教、又は助手を置かないことができる。必要に応じて、講師のほか非常勤の職員を置くことができる。

2 教育職員は、人格及び学識に優れ、明確な成果を挙げる教育力・指導力を有するものとする。その資格及び職務は、次のとおりとする。

- (1) 教授は、専攻分野について教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
 - (2) 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
 - (3) 講師は、専攻分野について、教授又は准教授に準ずる、教育上、研究上又は実務上の知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
 - (4) 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識、能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
 - (5) 助手は、専攻分野について、知識及び能力を有する者であって、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。
- 3 一般職員の職務等については、学校法人北陸大学事務組織規程に定める。
- 4 本学には第1項に定めるほか、副学長、学部長、学生部長、図書館長、教務委員長、学科長、留学生別科長、学長補佐その他必要な職員を置くことができる。なお、任務及び任用等については、学校法人北陸大学大学運営規程に定める。

第 4 章 運 営 組 織

(教学運営協議会)

第4条 本学が組織的・体系的に取り組む教育施策について審議するために、北陸大学教学運営協議会（以下、この規程において「教学運営協議会」という。）を置く。

2 教学運営協議会の任務等必要な事項は、北陸大学教学運営協議会規程に定める。

(教授会)

第5条 本学の教育研究に関し、専門的な審議を行う機関として、教授会を置く。

2 教授会は、常勤の教授をもって構成する。

第6条 前条の教授会は、全学教授会及び学部教授会をいう。

(任務等)

第7条 教授会に関し必要な事項は、北陸大学教授会規程に定める。

第 5 章 学 科 課 程 及 び 履 修 方 法

(学科課程、学科目の名称及び単位)

第8条 本学の学科課程、学科目の名称及び単位数は、別表1のとおりとする。

(単位計算の基準)

第9条 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲をもって1単位とする。

2 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲をもって1単位とする。

3 単位計算の基準に関する規程は、別に定める。

(修得すべき単位)

第10条 在学中に修得しなければならない学科目及び単位数は、次のとおりとする。

薬学部		
I 群	【必修科目】	
	総合教養教育科目（語学・運動）	5 単位
	薬学準備教育、実習系科目	10 単位
		計 15 単位
II 群	【必修科目】	
	薬学専門教育科目	113 単位
	実習系科目	44.5 単位
		計 162.5 単位
I・II 群	【選択科目】	
	総合教養教育科目・1～3 年次薬学専門教育科目	8 単位以上
	4 年次薬学専門教育科目	4 単位以上
		計 12 単位以上
合計	189.5 単位以上	

未来創造学部					
国際教養学科			国際マネジメント学科		
外国語科目 ※いずれかの言語を選択	英語	22 単位以上	外国語科目 ※いずれかの言語を選択	英語	12 単位以上
	日本語	22 単位以上		日本語	12 単位以上
	中国語	22 単位以上		中国語	12 単位以上
基礎教育 科目群	健康科目	2 単位以上	基礎教育 科目群	健康科目	2 単位以上
	未来創造科目	4 単位		未来創造科目	4 単位
	演習科目	16 単位		演習科目	16 単位
	情報科目	2 単位以上		情報科目	2 単位以上
	一般教養科目	4 単位以上		一般教養科目	4 単位以上
	合計	28 単位以上		合計	28 単位以上
※キャリア科目の一部、シティカレッジ科目、留学科目は卒業要件修得単位数に算入する。			※キャリア科目の一部、シティカレッジ科目、留学科目は卒業要件修得単位数に算入する。		
国際教養 科目群	必修	10 単位	国際マネジ メント科目群	必修	10 単位
	選択	40 単位以上		選択	50 単位以上
		合計 50 単位以上			合計 60 単位以上
国際マネジ メント科目群	卒業要件修得単位数に算入する。		国際教養 科目群	卒業要件修得単位数に算入する。	
—	—		スポーツ専 門実技科目 群	教職科目 9 単位 サッカー指定科目 14 単位 ※卒業要件修得単位数に算入する	
合計	128 単位以上		合計	128 単位以上	

経済経営学部 マネジメント学科		
外国語科目 ※いずれかの言語を選択	英語 日本語 中国語	12 単位以上 12 単位以上 12 単位以上
基礎教育科目群	健康科目 未来創造科目 演習科目 情報科目 一般教養科目	2 単位以上 4 単位 16 単位 2 単位以上 4 単位以上 合計 28 単位以上 ※キャリア科目の一部、シティカレッジ科目、留学科目は卒業要件修得単位数に算入する。
国際マネジメント科目群	必修 選択	10 単位 50 単位以上 合計 60 単位以上
国際教養科目群	卒業要件修得単位数に算入する。	
スポーツ専門実技科目群	教職科目 サッカー指定科目	9 単位 14 単位 ※卒業要件修得単位数に算入する
合計	128 単位以上	

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科		
専門教育科目	基礎科目	8 単位
	語学科目	40 単位以上（必修 20 単位含む）
	言語理解科目	40 単位以上 ※言語理解科目から 4 単位以上かつ、日本・国際理解科目から必修 2 単位を除く 4 単位以上修得する。
	日本・国際理解科目	
	専門演習科目	12 単位 ※海外留学 A～D を修得した当該期間中の専門演習科目の単位修得は免除する。
	海外留学科目	※海外留学 A～D を修得した場合は当該学期中の専門演習科目の単位修得を免除し、修得した単位を卒業要件修得単位とする。
	計 100 単位以上	
一般教育科目		8 単位以上（必修 4 単位含む）
キャリア科目		4 単位以上（必修 2 単位含む）
合計		124 単位以上 ※教職に関する科目に開講される「英語科教育法Ⅰ～Ⅳ」8 単位を上限に含めることができる。

医療保健学部 医療技術学科		
一般教養科目	必修科目	12 単位
	選択科目	8 単位以上
		計 20 単位以上
専門基礎科目	必修科目	45 単位
		計 45 単位
専門科目	必修科目	63 単位
	選択科目	2 単位以上
		計 65 単位以上
合計		130 単位以上

(履修の認定)

第 11 条 履修科目修了の認定は、各種試験の評価を含む平素の成績によるものとする。

- 2 成績評価に合格した者には、所定の単位を与える。
- 3 平素の成績評価及び試験に関する規程は、別に定める。

(他大学での履修及び単位認定の特例)

第 12 条 学長が教育上特に有益と認めるときは、学生にほかの大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む）の授業科目を履修させることができる。

- 2 学長が教育上特に有益と認めるときは、前項の大学又は短期大学以外の文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなすことができる。
- 3 前 2 項の規定により学生が修得した授業科目の単位は、60 単位をこえない範囲において、本学で修得したものとみなすことができる。
- 4 編入学及び転入学により本学入学前に修得した授業科目の単位は、本学で取得したものとみなすことができる。

(成績評価)

第 13 条 成績評価は、原則として 100 点を満点とした点数によって表示し、60 点以上を合格とする。

(修業年限及び在学期間)

第 14 条 本学の修業年限は、次のとおりとする。

- (1) 薬学部 6 年
- (2) 経済経営学部 4 年
- (3) 国際コミュニケーション学部 4 年
- (4) 医療保健学部 4 年

- 2 在学期間は、薬学部にあつては 12 年、経済経営学部、国際コミュニケーション学部、医療保健学部にあつては 8 年をこえることができない。

(卒業)

第 15 条 学長は前条第 1 項各号に定める修業年限以上在学し、所定の単位を修得した者に、卒業を認定する。

(学位)

第 16 条 学長は、前条により卒業を認定した者に、以下に定める学士の学位を授与する。

薬学部

薬 学 科

学士（薬学）

経済経営学部

マネジメント学科

学士（マネジメント学）

国際コミュニケーション学部

国際コミュニケーション学科

学士（文学）

医療保健学部

医療技術学科

学士（医療技術学）

- 2 学長は、学位授与の証明として、卒業証書・学位記を授与する。

第 6 章 入学、休学、復学、退学、編入学、転入学及び再入学

（入学の時期）

第 17 条 入学の時期は、第 31 条に定める学年の始めとする。ただし、学長は必要に応じて第 32 条の定める学期の始めとすることができる。

（入学志願者の資格）

第 18 条 本学に入学を志願することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- （1）高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- （2）通常の課程により 12 年の学校教育を修了した者、又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
- （3）外国において学校教育における 12 年間の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- （4）文部科学大臣が、高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- （5）文部科学大臣の指定した者
- （6）高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）
- （7）本学において、相当の年令に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

- 2 第 2 条第 1 項に掲げる 3 年次に編入学することのできる者の資格は、別に定める。

（入学志願の手続）

第 19 条 入学志願者は、所定の書類に入学検定料を添えて、指定の期日までに願出しなければならない。

- 2 入学志願の受付期間及び入学検定料は、別に定める。

（入学選考）

第 20 条 学長は、入学志願者に対して、学力、健康その他について選考のうえ、入学を許可する。

- 2 選考の方法及び期日は、別に定める。

（休学）

第 21 条 疾病その他やむを得ない事由により、3 ヶ月以上修学することができない者は、その事由を詳記した保証人連署の願書を提出して、学長の許可を得なければならない。ただし、疾病のため休学しようとするときは、医師の診断書を添えなければならない。

- 2 学長は、特別の事由があると認めた者には、休学を命ずることがある。
- 3 休学の期間は、1 年をこえることはできない。ただし、特別の事由がある場合に限り 1 年を限度として休学期間の延長を認めることがある。
- 4 休学の期間は、通算して 4 年をこえることはできない。
- 5 休学の期間は、第 14 条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

(復学)

第 22 条 休学中の者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ、学長に願い出て、その許可を受けなければならない。ただし、疾病による休学者は医師の診断書を添えなければならない。

2 休学の期間が満了し、復学しようとするときも、前項と同様とする。

(退学)

第 23 条 疾病その他やむを得ない事由により退学しようとする者は、その事由を詳記した保証人連署の願書を提出して、学長の許可を得なければならない。

2 次の各号の一に該当する者について、学長はこれを退学に処する。

- (1) 第 14 条第 2 項に定める在学期間をこえた者
- (2) 学部に第 14 条第 2 項に定める在学期間以外の定めがある場合、その在学期間をこえた者
- (3) 第 21 条第 3 項又は同条第 4 項に定める休学期間をこえてなお修学できない者
- (4) 授業料を納入せず、催告を受けても納付しない者
- (5) 長期間にわたり行方不明の者
- (6) 死亡した者

(転学部・転学科)

第 24 条 本学の他の学部・学科へ転学部及び転学科を志願する者は、審査のうえ、学長がこれを許可することがある。

(転学)

第 25 条 他の大学を受験し、転学しようとする者は、その旨を記した保証人連署の願書を提出して、学長の許可を得なければならない。

(編入学)

第 26 条 第 2 条第 1 項に定める編入学者のほか、本学に編入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、審査のうえ、学長が相当年次に編入学を許可することがある。

(転入学)

第 27 条 他の大学から、本学へ転入学を志願する者は、欠員のある場合に限り、審査のうえ、学長が相当年次に入学を許可することがある。

(再入学)

第 28 条 退学者が再入学を出願したときは、審議のうえ、学長が相当年次に入学を許可することがある。

2 前項の再入学は、第 23 条第 1 項又は第 2 項第 3 号乃至第 5 号により退学した者で、かつ退学の理由となった事情が解消されたと認められる場合に限るものとする。

3 退学者の再入学は、退学後 3 年以内の者に限る。

(入学手続)

第 29 条 入学を許可された者は、指定の期日までに保証人を定めて、所定の手続をとらなければならない。

2 前項の手続をしないときは、入学の許可を取り消すことがある。

(保証人)

第 30 条 保証人は、学生の学資支出の責任者である父母若しくは縁故者に限る。

第 7 章 学年、学期及び休業日

(学年)

第 31 条 学年は、4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

(学期)

第32条 学年を2期に分け、前期は4月1日から9月30日まで、後期は10月1日から翌年3月31日までとする。ただし、学長は、必要に応じて前期の終期及び後期の始期を変更することができる。

(授業を行わない日)

第33条 授業を行わない日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (3) 創立記念日 6月1日
- (4) 夏休み、冬休み及び春休みは、学年ごとに定める
- (5) 臨時に授業を行わない日が必要な場合は、その都度定める

2 授業を行わない日といえども、学長は、必要に応じて授業を命ずることができる。

第8章 学 費

(納付金)

第34条 入学金、授業料及びその他の学費は、別表2のとおりとする。

2 前項の納付金の納付方法及び期限は、別に定める。

(退学者等の納付金)

第35条 退学及び転学の場合には、その学期分の授業料を納付しなければならない。ただし、第23条第2項第5号及び同条同項第6号の退学の場合は、この限りでない。

2 休学を許可したときは、休学当月の翌月から復学当月の前月までの休学期間中の授業料を、月割計算により免除する。

(科目等履修生等の納付金)

第36条 科目等履修生・聴講生、委託生、研修生及び専攻生の諸納付金の金額ならびに納付方法及び期限については、別に定める。

(納付金の還付)

第37条 既納の学費は、事由の如何にかかわらず還付しない。ただし、第35条第1項ただし書及び同条第2項の場合を除く。

(登学の停止等)

第38条 学費の納入を怠った者の処置については、第23条第2項第4号の場合を除き、別に定める。

第9章 科目等履修生・聴講生、委託生、研修生及び専攻生

(科目等履修生・聴講生)

第39条 本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目の履修を志願する者は、審査のうえ、学長が科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生は、その履修科目について試験を受けることができる。試験に合格した者には、所定の単位を認定する。

第40条 本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目の聴講を志願する者は、審査のうえ、学長が聴講生として入学を許可することがある。

第41条 科目等履修生・聴講生の在学期間は、1年以内とする。

(委託生)

第 42 条 公共団体その他の機関から、特定科目について修学を委託された者は、審査のうえ、学長が委託生として入学を許可することがある。

2 委託生の在学期間は、原則として 1 年以内とする。

(研修生)

第 43 条 大学を卒業した者で、特殊の事項について研修を志願する者は、審査のうえ、学長が研修生として入学を許可することがある。

第 44 条 研修生の在学期間は、2 年以内とする。

(専攻生)

第 45 条 特殊の事項につき精密な研究を志願する者は、審査のうえ、学長が専攻生として入学を許可することがある。

2 専攻生を志願することができる者については、別に定める。

第 46 条 専攻生の修業年限は、1 年とする。ただし、研究を継続しようとする者は、指導教員を経て、延期を学長に願い出ることができる。

第 47 条 < 削除 >

第 48 条 < 削除 >

(学則の準用)

第 49 条 科目等履修生・聴講生、委託生、研修生及び専攻生に対しても、特に定める場合を除いては、この学則を準用する。

第 10 章 賞 罰

(表彰)

第 50 条 学長は、学業成績が特に優秀な者又は学生の模範となる行為のあった者に対して、これを表彰することがある。

(懲戒)

第 51 条 学長は、学則、諸規程及び法令等を守らず、学生の本分に悖る行為のあった者に、次の懲戒を行う。なお、懲戒に当たっては、北陸大学学生懲戒規程に従い行うものとする。

(1) 訓告

(2) 謹慎

(3) 停学

(4) 退学

2 退学は、次の各号の一に該当する場合に行う。

(1) 学力劣等で、成業の見込みがないと認められた者

(2) 性行不良で、改善の見込みがないと認められた者

(3) 正当の理由がなく引続き 1 年以上欠席した者

(4) 本学の秩序を乱し、学生としての本分に反した者

3 停学の期間は、第 14 条に規定する修業年限及び在学期間に算入する。ただし、停学の期間が 3 カ月をこえるときは、修業年限に算入しない。

第 11 章 公開講座

(公開講座)

第 52 条 本学は、随時公開講座を開設する。

2 公開講座に関する規程は、別に定める。

第 12 章 図 書 館

(図書館)

第 53 条 本学に、附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する規程は、別に定める。

第 13 章 薬用植物園

(薬用植物園)

第 54 条 本学薬学部に、附属薬用植物園を置く。

2 附属薬用植物園に関する規程は、別に定める。

第 14 章 研究所及び附属研究施設

(研究所及び附属研究施設)

第 55 条 本学に研究所を置く。学部に、教育研究に必要な附属研究施設を置くことができる。

2 研究所及び附属研究施設に関し、必要な事項は別に定める。

第 15 章 厚生保健施設

(厚生保健施設)

第 56 条 本学は、学生の福利をはかるため厚生保健の施設を設ける。

2 この施設についての規程は、別に定める。

第 16 章 教育職員免許状を得るための課程

(教職課程)

第 57 条 教育職員免許状を得ようとする者は、教育職員免許法その他の関係法規に定める所定の単位を修得しなければならない。

2 教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数は別表 3 のとおりとし、その履修方法について必要な事項は別に定める。

(教育職員免許資格)

第 58 条 本学において取得できる教育職員免許状は、次に掲げるものとする。

学部	学科	免許状の種類	免許教科
経済経営学部	マネジメント学科	中学校教諭 1 種免許状	社会、保健体育
		高等学校教諭 1 種免許状	地理歴史、公民、保健体育
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	中学校教諭 1 種免許状	英語
		高等学校教諭 1 種免許状	

(履修方法)

第 59 条 単位の修得は、第 5 章 学科課程及び履修方法の規程を適用する。

第 17 章 学則の変更

(学則の変更)

第 60 条 学則の変更は、全学教授会の議を経て、理事会が決定する。

附 則

この学則は、昭和 50 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（昭和 53 年 10 月 30 日 第 18 回理事会）

この学則は、昭和 54 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（昭和 56 年 10 月 5 日 第 34 回理事会）

この学則は、昭和 56 年 10 月 5 日から施行し、昭和 55 年 4 月 1 日より適用する。

なお、第 10 条別表 2 は昭和 58 年 3 月末日をもって廃止する。また、昭和 54 年度以前の入学生は第 12 条の適用を除外し、別途移行措置を定める。

附 則（昭和 57 年 3 月 30 日 第 36 回理事会）

1. この学則は、昭和 57 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 15 条第 2 項後段の規定は、昭和 57 年度入学生から適用する。

附 則（昭和 58 年 5 月 30 日 第 42 回理事会）

この学則は、昭和 58 年 5 月 30 日から施行し、昭和 58 年 4 月 1 日より適用する。

附 則（昭和 60 年 6 月 27 日 第 50 回理事会）

（昭和 61 年 9 月 29 日 第 56 回理事会）

この学則は、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（昭和 62 年 12 月 22 日 第 64 回理事会）

この学則は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（昭和 63 年 12 月 22 日 第 68 回理事会）

1. この学則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 10 条別表 1 は、昭和 63 年度薬学部入学生から適用する。ただし、昭和 62 年度以前の薬学部入学生が昭和 63 年度以降の入学生と同一学年に在籍する場合も、第 10 条別表 1 を適用する。
3. 平成元年度薬学部 2 年次生の、在学中に修得しなければならない学科目及び単位数は、別に定める。
4. 第 2 項を適用しない薬学部学生の学科科目名称及び単位数は、別表 1-(2) のとおりとし、在学中に修得しなければならない学科目及び単位数は、次のとおりとする。

〈省略表 1〉

5. 第 3 項及び第 4 項は、当該学生の在学しなくなった年次をもって廃止する。

附 則（平成元年 9 月 18 日 第 74 回理事会）

1. この学則は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 2 年 4 月 1 日から平成 11 年 3 月 31 日までの間、外国語学部の入学定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員
外国語学部	英米語学科	165 人

3. 第 34 条別表 2 及び第 63 条別表 3 は、平成 2 年度入学生から適用する。
4. 第 3 項を適用しない平成元年度以前入学生の学費は、別表 2-(2) のとおりとする。
5. 第 3 項を適用しない平成元年度以前外国語学部入学生の教科及び教職に関する科目及び単位数は、別表 3-(2) のとおりとする。
6. 第 4 項及び第 5 項は、当該学生の在学しなくなった年次をもって廃止する。

附 則（平成 3 年 3 月 25 日 第 82 回理事会）

1. この学則は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 10 条別表 1 は、平成 3 年度入学生から適用する。
3. 前項を適用しない平成 2 年度以前の入学生の学科目の名称及び単位数は、別表 1-(1) のとおりとする。ただし、専門教育科目は別表 1 の専門教育科目を適用する。
4. 前項は、当該学生の在学しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 4 年 3 月 30 日 第 88 回理事会）

1. この学則は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 4 年 4 月 1 日から平成 12 年 3 月 31 日までの間、法学部の入学定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	政治学科	150 人	600 人
	法律学科	150 人	600 人

3. 第 9 条、第 34 条及び第 57 条別表の適用については次のとおりとする。
〈省略表 2〉
4. 第 11 条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、平成 4 年度入学生から適用する。
5. 前項を適用しない平成 3 年度以前の入学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 3〉
6. 第 3 項に定める別表及び第 5 項は、当該学生の在学しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 5 年 9 月 10 日 第 99 回理事会）

この学則は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 6 年 3 月 28 日 第 101 回理事会）

1. この学則は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 9 条、第 35 条及び第 58 条別表の適用については次のとおりとする。
〈省略表 4〉
3. 第 11 条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表 1 の適用対象学生に適用する。
4. 別表 1-(1) を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 5〉

5. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 6〉

6. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 7〉

7. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 8〉

8. 別表 1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 9〉

9. 第 2 項に定める別表及び前 5 項は、当該学生の在学しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 6 年 5 月 25 日 第 103 回理事会）

この学則は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 7 年 3 月 29 日 第 109 回理事会）

1. この学則は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

2. 第 9 条、第 35 条及び第 58 条別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 10〉

3. 第 11 条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は別表 1 の適用対象学生に適用する。

4. 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 11〉

5. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 12〉

6. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 13〉

7. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 14〉

8. 別表 1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 15〉

9. 別表 1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 16〉

10. 第 2 項に定める別表及び前 6 項は、当該学生の在学しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 8 年 3 月 26 日 第 121 回理事会）

1. この学則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 9 条別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 17〉

3. 第 11 条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表 1 の適用対象学生に適用する。
4. 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 18〉

5. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 19〉

6. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 20〉

7. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 21〉

8. 別表 1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 22〉

9. 別表 1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 23〉

10. 第 2 項に定める別表及び前 6 項は、当該学生が在学しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 9 年 3 月 27 日 第 130 回理事会）

1. この学則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 9 条別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 24〉

3. 第 11 条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表 1 の適用対象学生に適用する。
4. 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 25〉

5. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 26〉

6. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 27〉

7. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 28〉

8. 別表 1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 29〉

9. 別表 1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 30〉

10. 別表 1-(7)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 31〉

11. 第 2 項に定める別表及び前 7 項は、当該学生が存在しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 9 年 3 月 27 日 第 130 回理事会）

1. この学則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。

2. 第 58 条別表 3 の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 32〉

附 則（平成 9 年 9 月 27 日 第 137 回理事会）

1. この学則は、平成 9 年 9 月 27 日から施行し、平成 9 年 4 月 1 日から適用する。

2. 第 9 条別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 33〉

3. 第 11 条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表 1 の適用の対象学生に適用する。

4. 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 34〉

5. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 35〉

6. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 36〉

7. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 37〉

8. 別表 1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 38〉

9. 別表 1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 39〉

10. 別表 1-(7)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 40〉

11. 第 2 項に定める別表及び前 7 項は、当該学生が存在しなくなった年度をもって廃止する。
12. 第 58 条別表 3 の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 41〉

附 則（平成 10 年 3 月 27 日 第 139 回理事会）

1. この学則は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 9 条、第 35 条及び第 58 条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 42〉

3. 第 11 条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表 1 の適用の対象学生に適用する。
4. 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 43〉

5. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 44〉

6. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 45〉

7. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 46〉

8. 別表 1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 47〉

9. 別表 1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 48〉

10. 別表 1-(7)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 49〉

11. 別表 1-(8)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 50〉

12. 第 2 項に定める別表及び前 8 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 10 年 8 月 7 日 第 142 回理事会）

1. この学則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

2. 第2条第1項の規定にかかわらず、平成11年4月1日から平成12年3月31日までの間、外国語学部の入学定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員
外国語学部	英米語学科	165 人
	中国語学科	55 人

附 則（平成11年1月21日 第146回理事会）

1. この学則は、平成11年4月1日から施行する。
2. 第9条、第35条及び第58条の別表の適用については、次のとおりとする。
〈省略表 51〉
3. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表1の適用の対象学生に適用する。
4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 52〉
5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 53〉
6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 54〉
7. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 55〉
8. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 56〉
9. 別表1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 57〉
10. 別表1-(7)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 58〉
11. 別表1-(8)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 59〉
12. 別表1-(9)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 60〉
13. 第2項に定める別表及び前9項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 11 年 5 月 25 日 第 152 回理事会）

1. この学則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 12 年 4 月 1 日から平成 16 年 3 月 31 日までの間、外国語学部・法学部の各年度の入学定員は次のとおりとする。

学部	学科	入 学 定 員（収容定員）					
		平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度 平成 18 年度
外国語学部	英米語学科	165 人	165 人	160 人	155 人	150 人	150 人
		(730 人)	(730 人)	(725 人)	(715 人)	(700 人)	(685 人) (675 人)
	中国語学科	55 人	55 人	55 人	55 人	55 人	55 人
		(220 人)	(220 人)	(220 人)	(220 人)	(220 人)	(220 人)
法学部	政治学科	135 人	125 人	120 人	115 人	110 人	110 人
		(585 人)	(560 人)	(530 人)	(495 人)	(470 人)	(455 人) (445 人)
	法律学科	145 人	140 人	135 人	130 人	125 人	125 人
		(595 人)	(585 人)	(570 人)	(550 人)	(530 人)	(515 人) (505 人)

附 則（平成 11 年 10 月 26 日 第 154 回理事会）

1. この学則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 9 条、第 35 条及び第 58 条の別表の適用については、次のとおりとする。
〈省略表 61〉
3. 第 11 条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表 1 の適用の対象学生に適用する。
4. 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 62〉
5. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 63〉
6. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 64〉
7. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 65〉
8. 別表 1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 66〉
9. 別表 1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 67〉

10. 別表 1-(7)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 68〉

11. 第 2 項に定める別表及び前 7 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 12 年 7 月 21 日 第 161 回理事会）

- この学則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。
- この学則の施行により、平成 11 年 5 月 25 日（第 152 回理事会）改正の附則を廃止する。
- 第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 13 年 4 月 1 日から平成 16 年 3 月 31 日までの間の各年度の入学定員及び平成 13 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日までの間の各年度の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入 学 定 員（収容定員）					
		平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
薬学部	薬学科	140 人	140 人	140 人	140 人	140 人	140 人
		(500 人)	(520 人)	(540 人)	(560 人)	(560 人)	(560 人)
	衛生薬学科	140 人	140 人	140 人	140 人	140 人	140 人
		(440 人)	(480 人)	(520 人)	(560 人)	(560 人)	(560 人)
外国語学部	英米語学科	135 人	130 人	125 人	120 人	120 人	120 人
		(700 人)	(665 人)	(625 人)	(580 人)	(565 人)	(555 人)
	中国語学科	40 人	40 人	40 人	40 人	40 人	40 人
		(215 人)	(210 人)	(195 人)	(180 人)	(180 人)	(180 人)
法学部	政治学科	115 人	110 人	105 人	100 人	100 人	100 人
		(550 人)	(510 人)	(465 人)	(430 人)	(415 人)	(405 人)
	法律学科	135 人	130 人	125 人	120 人	120 人	120 人
		(580 人)	(560 人)	(535 人)	(510 人)	(495 人)	(485 人)

附 則（平成 13 年 3 月 27 日 第 166 回理事会）

- この学則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。
 - 第 9 条、第 35 条及び第 58 条の別表の適用については、次のとおりとする。
- 〈省略表 69〉
- 第 11 条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表 1 の適用の対象学生に適用する。
 - 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 70〉

〈省略表 71〉

〈省略表 72〉

5. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 73〉

6. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 74〉

7. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 75〉

8. 別表 1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 76〉

9. 第 2 項に定める別表及び前 5 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 14 年 1 月 23 日 第 174 回理事会）

1. この学則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
2. この学則の施行により、平成 12 年 7 月 21 日（第 161 回理事会）改正の附則を廃止する。
3. 第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 15 年度の入学定員及び平成 15 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日までの間の各年度の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入 学 定 員（収容定員）			
		平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
薬 学 部	薬 学 科	140 人	140 人	140 人	140 人
		(540 人)	(560 人)	(560 人)	(560 人)
	衛生薬学科	140 人	140 人	140 人	140 人
		(520 人)	(560 人)	(560 人)	(560 人)
外国語学部	英米語学科	125 人	120 人	120 人	120 人
		(625 人)	(580 人)	(565 人)	(555 人)
	中国語学科	40 人	40 人	40 人	40 人
		(195 人)	(180 人)	(180 人)	(180 人)
法 学 部	政治学科	105 人	100 人	100 人	100 人
		(505 人)	(510 人)	(495 人)	(485 人)
	法律学科	125 人	120 人	120 人	120 人
		(615 人)	(670 人)	(655 人)	(645 人)

附 則（平成 14 年 3 月 27 日 第 177 回理事会）

1. この学則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 9 条、第 35 条及び第 58 条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 77〉

3. 第 11 条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表 1 の適用の対象学生に適用する。
4. 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
 - 〈省略表 78〉
 - 〈省略表 79〉
 - 〈省略表 80〉
5. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
 - 〈省略表 81〉
 - 〈省略表 82〉
 - 〈省略表 83〉
6. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
 - 〈省略表 84〉
7. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
 - 〈省略表 85〉
8. 別表 1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
 - 〈省略表 86〉
9. 別表 1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
 - 〈省略表 87〉
10. 第 2 項に定める別表及び前 6 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 15 年 6 月 9 日一部改正 第 187 回理事会）

1. この学則は、平成 15 年 6 月 9 日から施行し、平成 15 年 4 月 1 日から適用する。
2. 第 2 条第 2 項及び第 4 項に定める大学院法務研究科に関する規定は、平成 16 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（平成 15 年 9 月 11 日 第 188 回理事会）

1. この学則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
2. 外国語学部及び法学部は、在学生の卒業をもって廃止する。
3. 第 17 条の規定にかかわらず、外国語学部卒業者には学士（文学）、法学部卒業者には学士（法学）の学位を授与する。
4. 第 2 条第 1 項に定める編入学定員は、平成 18 年 4 月 1 日から適用する。
5. この学則の施行により、平成 14 年 1 月 23 日（第 174 回理事会）改正の附則を廃止する。
6. 第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 16 年度及び平成 17 年度の編入学定員ならびに平成 16 年度乃至平成 18 年度の収容定員は次のとおりとする。

○編入学定員

学 部	学 科	平成 16 年度	平成 17 年度
外国語学部	英米語学科	35 人	35 人
	中国語学科	10 人	10 人
法 学 部	政治学科	40 人	40 人
	法律学科	80 人	80 人

○収容定員

学 部	学 科	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
薬 学 部	薬 学 科	650 人	740 人	830 人
	衛生薬学科	650 人	740 人	830 人
外国語学部	英米語学科	460 人	325 人	160 人
	中国語学科	140 人	100 人	50 人
法 学 部	政治学科	410 人	295 人	145 人
	法律学科	550 人	415 人	205 人
未来創造学部	未来文化創造学科	100 人	200 人	345 人
	未来社会創造学科	100 人	200 人	420 人

7. 第 9 条及び第 35 条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 88〉

8. 第 11 条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表 1 の適用の対象学生に適用する。

9. 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 89〉

〈省略表 90〉

10. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 91〉

11. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 92〉

12. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 93〉

13. 別表 1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 94〉

14. 別表 1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 95〉

15. 第 7 項に定める別表及び前 6 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

16. 外国語学部及び法学部の学生の教育職員免許状を得るための課程は次のとおりとする。

教育職員免許状を得ようとする者は、教育職員免許法その他の関係法規に定める所定の単位を修得しなければならない。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数は下表のとおりとし、その履修方法について必要な事項は、別に定める。

本学において取得できる教育職員免許状は、次に掲げるものとする。

〈省略表 127〉

[平成 12 年度以降入学生の適用表]

教育職員免許状取得に関する修得単位数

〈省略表 128〉

教職に関する学科目の名称及び単位数

〈省略表 129〉

教科に関する学科目の名称及び単位数（英米語学科）

〈省略表 130〉

教科に関する学科目の名称及び単位数（中国語学科）

〈省略表 131〉

教科に関する学科目の名称及び単位数（政治学科）

〈省略表 132〉

〈省略表 133〉

〈省略表 134〉

教科に関する学科目の名称及び単位数（法律学科）

〈省略表 135〉

〈省略表 136〉

〈省略表 137〉

教育職員免許法施行規則第 66 条の 5 に定める科目

〈省略表 138〉

[平成 11 年度以前入学生の適用表（中国語学科）]

教科及び教職に関する学科目の名称ならびに単位数

〈省略表 139〉

教科に関する科目及び単位数

〈省略表 140〉

[平成 11 年度以前入学生の適用表（英米語学科、政治学科及び法律学科）]

教科及び教職に関する学科目の名称並びに単位数

〈省略表 141〉

教科に関する科目及び単位数（英米語学科）

〈省略表 142〉

教科に関する科目及び単位数（政治学科）

〈省略表 143〉

教科に関する科目及び単位数（法律学科）

〈省略表 144〉

附 則（平成 15 年 12 月 15 日 第 190 回理事会）

1. この学則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
2. この学則の施行により、平成 15 年 6 月 9 日（第 187 回理事会）改正の附則を廃止する。

附 則（平成 16 年 2 月 24 日 第 192 回理事会）

1. この学則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 9 条の別表の適用については、次のとおりとする。
〈省略表 96〉
3. 第 11 条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表 1 の適用の対象学生に適用する。
4. 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 97〉
5. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 98〉
〈省略表 99〉
6. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 100〉
7. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 101〉
8. 別表 1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 102〉
9. 別表 1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。
〈省略表 103〉
10. 第 2 項に定める別表及び前 6 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 17 年 3 月 28 日 第 200 回理事会）

1. この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
2. 学校教育法改正（平成 16 年 5 月 21 日）に伴い、旧学則に定める修業年限 4 年の薬学部は平成 17 年度をもって募集を停止し、在学生の卒業をもってこれを廃止する。
3. この学則の施行により、平成 15 年 9 月 11 日（第 188 回理事会）改正の附則第 6 項のうち、平成 18 年度以降の収容定員につき、次のとおり改訂する。

○収容定員

学 部	学 科	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
薬学部 (新課程)	薬 学 科	306 人	612 人	918 人	1224 人	1530 人	1836 人
薬学部 (旧課程)	薬 学 科	600 人	460 人	230 人	—	—	—
	衛生薬学科	600 人	460 人	230 人	—	—	—
未来創造学部	未来文化創造学科	345 人	490 人	490 人	490 人	490 人	490 人
	未来社会創造学科	420 人	640 人	640 人	640 人	640 人	640 人
外国語学部	英米語学科	160 人	—	—	—	—	—
	中国語学科	50 人	—	—	—	—	—
法 学 部	政治学科	145 人	—	—	—	—	—
	法律学科	205 人	—	—	—	—	—

4. 第 9 条及び第 34 条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 104〉

5. 第 11 条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表 1 の適用の対象学生に適用する。

6. 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 105〉

〈省略表 106〉

7. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 107〉

8. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 108〉

〈省略表 109〉

9. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 110〉

10. 別表 1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 111〉

11. 別表 1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 112〉

12. 別表 1-(7)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 113〉

13. 第 4 項に定める別表及び前 7 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 18 年 3 月 24 日 第 206 回理事会）

1. この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 34 条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 114〉

附 則（平成 18 年 12 月 13 日 第 208 回理事会）

1. この学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 8 条及び第 34 条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 115〉

3. 第 10 条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表 1 の適用の対象学生に適用する。
4. 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 116〉

5. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 117〉

〈省略表 118〉

6. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 119〉

7. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 120〉

〈省略表 121〉

8. 第 2 項に定める別表及び前 4 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 19 年 3 月 28 日 第 210 回理事会）

1. この学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 8 条及び第 34 条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 122〉

3. 第 10 条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表 1 の適用の対象学生に適用する。
4. 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 123〉

5. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 124〉

〈省略表 125〉

6. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 126〉

7. 第 2 項に定める別表及び前 4 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 19 年 7 月 27 日 第 213 回理事会）

1. この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
2. 未来文化創造学科及び未来社会創造学科は、在学生の卒業をもって廃止する。
3. 第 16 条の規定にかかわらず、未来文化創造学科卒業者には学士（文学）、未来社会創造学科卒業者には学士（法学）の学位を授与する。
4. 第 2 条第 1 項に定める編入学定員は、平成 22 年 4 月 1 日から適用する。
5. この学則の施行により、平成 17 年 3 月 28 日（第 200 回理事会）改正の附則第 3 項を廃止する。
6. 第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 20 年度及び平成 21 年度の編入学定員ならびに平成 20 年度乃至平成 23 年度の収容定員は次のとおりとする。

○編入学定員

学 部	学 科	平成 20 年度	平成 21 年度
未来創造学部	未来文化創造学科	45 人	45 人
	未来社会創造学科	120 人	120 人

○収容定員

学 部	学 科	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
薬学部(新課程)	薬 学 科	918 人	1224 人	1530 人	1836 人
薬学部(旧課程)	薬 学 科	230 人	—	—	—
	衛 生 薬 学 科	230 人	—	—	—
未来創造学部	未来文化創造学科	390 人	290 人	145 人	—
	未来社会創造学科	540 人	440 人	220 人	—
	国 際 教 養 学 科	100 人	200 人	345 人	490 人
	国際マネジメント学科	100 人	200 人	420 人	640 人

7. 第 8 条及び第 34 条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 145〉

8. 第 10 条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表 1 の適用の対象学生に適用する。

9. 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 146〉

10. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 147〉

11. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 148〉

〈省略表 149〉

12. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 150〉

13. 第 7 項に定める別表及び前 4 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 20 年 3 月 27 日 第 216 回理事会）

1. この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

2. 第 8 条及び第 34 条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 151〉

3. 第 10 条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表 1 の適用の対象学生に適用する。

4. 別表 1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 152〉

5. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 153〉

6. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 154〉

〈省略表 155〉

7. 第 2 項に定める別表及び前 4 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 21 年 3 月 25 日 第 211 回理事会）

1. この学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

2. 第 8 条及び第 34 条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 156〉

3. 第 10 条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表 1 及び別表 1-(1)の対象学生に適用する。

4. 別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 157〉

5. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 158〉

6. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 159〉

〈省略表 160〉

7. 第 2 項に定める別表及び前 3 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 22 年 5 月 27 日 第 227 回理事会）

1. この学則は、平成 22 年 5 月 27 日から施行し、平成 22 年 4 月 1 日から適用する。
2. 大学院薬学研究科博士前期課程は、在学生の修了をもって廃止し、博士後期課程は、平成 23 年度入学生が在籍しなくなった年度をもって廃止する。
3. 第 2 条第 3 項の規定にかかわらず、大学院薬学研究科の平成 22 年度から平成 25 年度までの収容定員は次のとおりとする。

課 程	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
博士前期課程	20 人	—	—	—
博士後期課程	15 人	15 人	10 人	5 人

4. 第 8 条、第 57 条及び第 34 条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 161〉

5. 第 10 条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表 1 及び別表 1-(1)、別表 1-(2)の対象学生に適用する。

6. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 157〉

7. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 158〉

8. 別表 1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 159〉

〈省略表 160〉

9. 第 4 項に定める別表及び前 3 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 23 年 3 月 29 日 第 230 回理事会）

1. この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 8 条、第 34 条及び第 57 条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 162〉
3. 第 10 条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表 1 及び別表 1-(1)、別表 1-(2)の対象学生に適用する。

4. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 157〉

5. 別表 1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 158〉

6. 別表 1-(5)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 160〉

7. 第 2 項に定める別表及び前 3 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 23 年 4 月 22 日 第 231 回理事会）

1. この学則は、平成 23 年 4 月 22 日から施行し、平成 23 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（平成 24 年 3 月 30 日 第 235 回理事会）

1. この学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 8 条、第 34 条及び第 57 条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 162〉

3. 第 10 条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表 1 及び別表 1-(1)、別表 1-(2)の対象学生に適用する。
4. 別表 1-(3)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 157〉

5. 第 2 項に定める別表及び前項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 25 年 3 月 15 日 第 240 回理事会）

1. この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 3 月 26 日 第 248 回理事会）

1. この学則は、平成 26 年 6 月 30 日から施行する。
2. 第 8 条、第 34 条及び第 57 条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表 162〉

3. 第 2 項に定める別表は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成 27 年 3 月 25 日 第 252 回理事会）

1. この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。
2. 第 8 条、第 34 条及び第 57 条の別表の適用については、次のとおりとする。
〈省略表 163〉
3. 第 10 条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表 1 の対象学生に適用する。
4. 別表 1-(1)及び別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表 157〉

〈省略表 164〉

5. 第2項に定める別表及び第4項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成28年2月26日 第258回理事会）

1. この学則は、平成29年4月1日から施行する。
2. 未来創造学部国際教養学科は、学生募集を停止し、在学生の卒業をもって廃止する。
3. 未来創造学部国際マネジメント学科は、平成29年4月1日から経済経営学部マネジメント学科に名称を変更する。未来創造学部国際マネジメント学科は、変更後の学則の規定にかかわらず、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間、存続するものとする。
4. 第2条第1項に定める国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科及び経済経営学部マネジメント学科の編入学定員は平成31年4月1日から適用する。
5. 第2条第1項の規定にかかわらず、平成29年度及び平成30年度の未来創造学部の編入学定員並びに平成29年度から平成34年度までの収容定員は次のとおりとする。

○編入学定員

学 部	学 科	平成29年度	平成30年度
未来創造学部	国際教養学科	45人	45人
	国際マネジメント学科	120人	120人

○収容定員

学部	学科	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
薬学部	薬学科	1750人	1664人	1578人	1492人	1406人	1320人
未来創造学部	国際教養学科	390人	290人	145人	—	—	—
	国際マネジメント学科	540人	440人	220人	—	—	—
経済経営学部	マネジメント学科	200人	400人	723人	1046人	1046人	1046人
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	80人	160人	260人	360人	360人	360人
医療保健学部	医療技術学科	60人	120人	180人	240人	240人	240人

6. 第2条の2の規定にかかわらず、未来創造学部国際教養学科、国際マネジメント学科の人材養成の目的は次のとおりとする。

未来創造学部	グローバルな視野と異文化への深い理解、高いコミュニケーション力により、世界の人々と自由闊達に意見交換し、現代社会に生起するさまざまな課題に的確に対応し、あるべき未来を自ら創造できる人間力あふれる人材を養成する。
国際教養学科	英語又は中国語のコミュニケーション力を身につけ、国際感覚と豊かな教養を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。
国際マネジメント学科	国際的な視野での実務的マネジメント力を身につけ、かつ幅広い知識と教養及び外国語コミュニケーション力を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。

7. 第14条第1項及び第2項の規定にかかわらず、未来創造学部の修業年限は4年とし、在学期間は8年をこえないものとする。

8. 第 16 条の規定にかかわらず、未来創造学部国際教養学科卒業者には学士（文学）、未来創造学部国際マネジメント学科の卒業者には学士（マネジメント学）の学位を授与する。
9. 第 58 条の規定にかかわらず、未来創造学部国際教養学科及び国際マネジメント学科において取得できる教育職員免許状は次のとおりとする。

学 部	学 科	免許状の種類	免許教科
未来創造学部	国際教養学科	中学校教諭 1 種免許状	英 語
		高等学校教諭 1 種免許状	
	国際マネジメント学科	中学校教諭 1 種免許状	社会、保健体育
		高等学校教諭 1 種免許状	地理歴史、公民、保健体育

10. 第 8 条、第 34 条及び第 57 条の別表の適用については、次のとおりとする。

	対 象	備 考
第 8 条	別表 1	・平成 27 年度以降の薬学部入学生
		・平成 27 年度以降の未来創造学入学生
		・平成 29 年度以降の経済経営学部入学生
		・平成 29 年度以降の国際コミュニケーション学部入学生
		・平成 29 年度以降の医療保健学部入学生
	別表 1-(1)	・平成 20 年度以降の薬学部入学生
		・平成 22 年度以降の未来創造学部入学生
		・平成 27 年度以降入学の未来創造学部編入留学生
	別表 1-(2)	・平成 18 年度以降の薬学部入学生
第 38 条	別表 2	・平成 29 年度以降の薬学部入学生
		・平成 29 年度以降の経済経営学部入学生
		・平成 29 年度以降の国際コミュニケーション学部入学生
		・平成 29 年度以降の医療保健学部入学生
	別表 2-(1)	・平成 18 年度以降の薬学部入学生
		・平成 18 年度以降の未来創造学部入学生
第 57 条	別表 3	・平成 27 年度以降の未来創造学部入学生
		・平成 29 年度以降の国際コミュニケーション学部入学生
		・平成 29 年度以降の経済経営学部入学生
	別表 3-(1)	・平成 22 年度以降の未来創造学部入学生

11. 第 10 条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表 1 の対象学生に適用する。

12. 別表 1-(1)及び別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

薬学部	
I 群	必修科目 英 語 8 単位 教養演習科目 2 単位 選択科目 基 礎 科 目 7 10 単位以上 教養演習科目 3 合計 20 単位以上
II 群	必修科目 専 門 科 目 112 単位 実習系科目 43 単位 選択科目 専 門 科 目 8 単位以上 7 13 単位以上 コース科目 5 単位 1 合計 168 単位以上
合計	188 単位以上

未来創造学部			
国際教養学科		国際マネジメント学科	
外国語科目	(※28 単位まで語学専修科目群に含めることができる。)	外国語科目	英語 28 単位 中国語 22 単位 日本語 28 単位
基礎教育科目群	健康科目 4 単位以上 未来創造科目 4 単位 演習科目 16 単位 合計 24 単位以上	基礎教育科目群	健康科目 4 単位以上 演習科目 16 単位 未来創造科目 4 単位 情報科目 2 単位 合計 26 単位以上
語学専修科目群	専修英語科目又は専修中国語科目から 50 単位以上 (ただし、28 単位までは外国語科目で替えることができる。)		
国際教養科目群	40 単位以上	国際マネジメント科目群	必修 10 単位 選択 50 単位以上 合計 60 単位以上
国際マネジメント科目群	14 単位以上	国際教養科目群	14 単位以上
合計	128 単位以上	合計	128 単位以上

13. 第 10 項に定める別表及び第 12 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

別表1 学科目の名称及び単位数

薬学部 薬学科		
科目区分	授業科目	単位数
(Ⅰ群) 総合教養教育科目	教養科目	宗教と人間
		グローバル時代の国際関係
		薬剤師のための法律学Ⅰ
		薬剤師のための法律学Ⅱ
		グローバル時代の経済
		社会保障と福祉
		スポーツ科学
	運動	健康と運動
		フィジカルエデュケーション
	語学	総合英語ⅠA
		総合英語ⅠB
		総合英語ⅡA
		総合英語ⅡB
		ドイツ語
		英会話Ⅰ
		英会話Ⅱ
		中国語Ⅰ
		中国語Ⅱ
(Ⅰ群) 薬学準備教育科目	薬学準備教育	基礎の化学計算
		化学
		物理学
		生物学
		数学
		コンピュータ入門
		基礎生物学
		基礎ゼミⅠ
		基礎ゼミⅡ
	実習科目	薬学基礎実習
Ⅰ群 単位計		29
(Ⅱ群) 薬学専門教育科目	専門科目	医療人
		薬学入門Ⅰ
		薬学入門Ⅱ
		人間学Ⅰ(生と死)
		人間学Ⅱ(心理)
		医薬品開発論
		薬事関係法・制度
		医療薬学(コミュニティーファーマシー)
		基礎化学Ⅰ
		基礎化学Ⅱ
		物理化学Ⅰ
		物理化学Ⅱ
		物理化学Ⅲ
		放射薬品学
		基礎分析化学
		分析化学Ⅰ
		分析化学Ⅱ
		日本薬局方
		基礎有機化学
		有機化学Ⅰ
		有機化学Ⅱ
		有機化学Ⅲ
		有機化学Ⅳ

薬学部 薬学科		
科目区分	授業科目	単位数
(Ⅱ群) 薬学専門教育科目	有機化学演習	1
	無機化学	1
	機器分析学	1
	生体分子学	1
	薬用植物学	1
	生薬学	1
	天然物化学	1
	生化学Ⅰ	1
	生化学Ⅱ	1
	生命情報学Ⅰ	1
	生命情報学Ⅱ	1
	機能形態学Ⅰ (人体の解剖)	1
	機能形態学Ⅱ (臓器の生理)	1
	機能形態学Ⅲ (ホメオスタシス)	1
	微生物学	1
	生体防御学 (免疫)	1
	病原微生物学Ⅰ (微生物と感染)	1
	病原微生物学Ⅱ (感染症治療薬)	1
	環境健康学Ⅰ (社会・集団と健康)	1
	環境健康学Ⅱ (社会・集団と健康)	1
	環境健康学Ⅲ (生活環境と健康)	2
	衛生化学Ⅰ (栄養化学)	1
	衛生化学Ⅱ (食品衛生)	1
	衛生化学Ⅲ (薬物代謝と薬毒物)	2
	東洋医学	1
	薬理学Ⅰ (総論と神経薬理)	1
	薬理学Ⅱ (臓器別薬理)	1
	薬理学Ⅲ (炎症と血液薬理)	1
	病態生理学Ⅰ (症状と疾患)	1
	病態生理学Ⅱ (症状と疾患)	1
	病態検査学Ⅰ (臨床検査値と疾病)	1
	病態検査学Ⅱ (臨床検査値と疾病)	1
	薬物治療学Ⅰ (臓器別疾患)	1
	薬物治療学Ⅱ (臓器別疾患)	1
	薬物治療学Ⅲ (臓器別疾患)	1
	薬物治療学Ⅳ (免疫と悪性腫瘍)	1
	薬物治療学Ⅴ (臨床薬理)	1
	漢方臨床応用論	1
	栄養科学 (セルフメディケーション)	1
	生物統計学	1
	臨床薬剤学 (薬物治療に役立つ情報)	2
	調剤学	2
	生物薬剤学Ⅰ (薬物の生体内運命)	1
	生物薬剤学Ⅱ (薬物の生体内運命)	1
	物理薬剤学Ⅰ (製剤化のサイエンス)	1
	物理薬剤学Ⅱ (製剤化のサイエンス)	1
	科学英語Ⅰ	1
	科学英語Ⅱ	1
	薬学英語	1
	医療英語	1
	総合演習Ⅰ	1
	総合演習Ⅱ	1
	総合演習Ⅲ	1
	総合演習Ⅳ	2

薬学部 薬学科		
科目区分	授業科目	単位数
(Ⅱ群) 薬学専門教育科目	看護学	1*
	補完代替医療入門	1*
	国際社会と医療	1*
	香粧品科学	1*
	和漢薬学	1*
	先端医薬概論	1*
	漢方(中医)処方学	1*
	薬局薬品学	1*
	薬物送達学	1*
	薬局経営学	1*
	創薬概論	1*
	法医裁判化学	1*
	臨床生理学	1*
	毒性学	1*
	鍼灸学	1*
	地域薬学研究	1*
	グローバル医療人	1*
	卒業研究	15
	総合薬学演習	15
	基礎化学系実習	1.5
	物理化学系実習	1.5
	生化学系実習	1.5
	有機化学系実習	1.5
	分析化学系実習	1.5
	生体防御系実習	1.5
	天然物化学系実習	1.5
	病態解析系実習	1.5
	臨床体験学習	1.5
	衛生環境系実習	1.5
	薬理系実習	1.5
	薬剤系実習	1.5
	臨床薬学系実習	1.5
	実務事前学習	5
	病院・薬局実習	20
	高度医療薬剤師演習	5*
	東洋医薬学演習	5*
	健康医療薬学演習	5*
Ⅱ群 単位計		190.5
単 位 計		219.5

備考 *は選択科目を示す。

別表1 学科目の名称及び単位数

科目区分		未来創造学部 国際教養学科	単位数
学部共通基礎教育科目	演習科目	基礎ゼミナール	4
		ゼミナールⅠ	4
		ゼミナールⅡ	4
		卒業研究	4
	科制未 到達済	未来創造論Ⅰ	2
		未来創造論Ⅱ	2
	健康 科目	スポーツⅠ	1*
		スポーツⅡ	1*
		スポーツⅢ	1*
		スポーツⅣ	1*
	一般 教養 科目	哲学	2*
		倫理学	2*
		自然科学概論	2*
		生命科学	2*
		地誌	2*
		人文地理概論Ⅰ	2*
		人文地理概論Ⅱ	2*
		自然地理Ⅰ	2*
		自然地理Ⅱ	2*
		環境学	2*
		日本史	2*
		日本近代史	2*
		日本現代史	2*
		東洋史	2*
		西洋史	2*
	情報 科目	情報処理入門	2
		情報と社会	2*
		情報処理基礎	2*
		情報とコンピュータ	2*
		情報処理応用	2*
	キャリア 科目	ITマネジメント論	2*
		キャリア基礎演習Ⅰ	1*
		キャリア基礎演習Ⅱ	1*
		文章理解Ⅰ	1*
		文章理解Ⅱ	1*
		文章理解Ⅲ	1☆
		キャリア演習AⅠ	1☆
		キャリア演習AⅡ	1☆
		キャリア演習AⅢ	1☆
		キャリア演習AⅣ	1☆
		キャリア演習BⅠ	1☆
		キャリア演習BⅡ	1☆
		キャリア演習BⅢ	1☆
		法学演習Ⅰ	1☆
		法学演習Ⅱ	1☆
		法学演習Ⅲ	1☆
		法学演習Ⅳ	1☆
		法学演習Ⅴ	1☆
		法学演習ⅥA	1☆
		法学演習ⅥB	1☆
		法学演習ⅥC	1☆
		ライフプランニング論	2*
		コミュニケーション論	2*
		現代社会と職業	2*
		能力開発論（インターンシップ）	2*
		コミュニケーション演習	2*
		旅行業務Ⅰ（国内）	2☆
		旅行業務Ⅱ（総合）	2☆
	シ テ ィ カ レ ッ ジ 科 目	シティカレッジ科目Ⅰ	1*
		シティカレッジ科目Ⅱ	1*
		シティカレッジ科目Ⅲ	1*
		シティカレッジ科目Ⅳ	1*
		シティカレッジ科目Ⅴ	1*
		シティカレッジ科目Ⅵ	1*
		シティカレッジ科目Ⅶ	1*
		シティカレッジ科目Ⅷ	1*
		シティカレッジ科目Ⅷ	1*
		シティカレッジ科目Ⅸ	1*
		シティカレッジ科目ⅩⅠ	1*
		シティカレッジ科目ⅩⅡ	1*
	海 外 留 学 科 目	短期海外研修A	1*
		短期海外研修B	1*
		短期海外研修C	1*
		短期海外研修D	1*
		語学研修A	2*
		語学研修B	2*
		語学研修C	2*
		語学研修D	2*
		海外研修	2*
		海外留学A	6*
		海外留学B	6*
		海外留学C	6*
		海外留学D	6*

未来創造学部 国際教養学科			
科目区分		授業科目	単位数
外国語科目群	英語	リサーチプロジェクトⅠ	2*
		リサーチプロジェクトⅡ	2*
		リサーチプロジェクトⅢ	2*
		リサーチプロジェクトⅣ	2*
		リサーチプロジェクトⅤ	2*
		リサーチプロジェクトⅥ	2*
		リサーチプロジェクトⅦ	1*
		リサーチプロジェクトⅧ	1*
		イングリッシュコミュニケーションⅠ	1*
		イングリッシュコミュニケーションⅡ	1*
		イングリッシュコミュニケーションⅢ	1*
		イングリッシュコミュニケーションⅣ	1*
		イングリッシュコミュニケーションⅤ	1*
		イングリッシュコミュニケーションⅥ	1*
		資格英語Ⅰ	1*
		資格英語Ⅱ	1*
		資格英語Ⅲ	1*
		資格英語Ⅳ	1*
		資格英語Ⅴ	1*
		資格英語Ⅵ	1*
		英語文法演習Ⅰ	1*
		英語文法演習Ⅱ	1*
	中国語	中国語Ⅰ	2*
		中国語Ⅱ	2*
		中国語Ⅲ	2*
		中国語Ⅳ	2*
		中国語Ⅴ	2*
		中国語Ⅵ	2*
		中国語会話Ⅰ	1*
		中国語会話Ⅱ	1*
		中国語会話Ⅲ	1*
		中国語会話Ⅳ	1*
		中国語総合演習Ⅰ	1*
		中国語総合演習Ⅱ	1*
		中国語作文Ⅰ	1*
		中国語作文Ⅱ	1*
		中国語文法基礎Ⅰ	1*
		中国語文法基礎Ⅱ	1*
		中国語コミュニケーションⅠ	1*
		中国語コミュニケーションⅡ	1*
		資格中国語Ⅰ	1*
		資格中国語Ⅱ	1*
		資格中国語Ⅲ	1*
		資格中国語Ⅳ	1*
		中国語表現法Ⅰ	1*
		中国語表現法Ⅱ	1*
	日本語	日本語Ⅰ	1*
		日本語Ⅱ	1*
		日本語Ⅲ	1*
		日本語Ⅳ	1*
		日本語Ⅴ	1*
		日本語Ⅵ	1*
		日本語Ⅶ	1*
		日本語Ⅷ	1*
		上級日本語Ⅰ	1*
		上級日本語Ⅱ	1*
		上級日本語Ⅲ	1*
		上級日本語Ⅳ	1*
		日本語演習Ⅰ	1*
		日本語演習Ⅱ	1*
		日本語演習Ⅲ	1*
		日本語演習Ⅳ	1*
		日本語演習Ⅴ	1*
		日本語演習Ⅵ	1*
		日本語演習Ⅶ	1*
		資格日本語Ⅰ	1*
		資格日本語Ⅱ	1*
		資格日本語Ⅲ	1*
		資格日本語Ⅳ	1*
		上級資格日本語Ⅰ	1*
		上級資格日本語Ⅱ	1*
		上級資格日本語Ⅲ	1*
		上級資格日本語Ⅳ	1*
		上級資格日本語Ⅴ	1*
		上級資格日本語Ⅵ	1*
		上級資格日本語Ⅶ	1*
		上級資格日本語Ⅷ	1*

未来創造学部 国際教養学科			
科目区分		授業科目	単位数
国際教養学科目群	国際関係コース科目	国際関係学入門	2
		国際関係史	2*
		国際社会論	2*
		現代ヨーロッパ論	2*
		現代東アジア論	2*
		現代アメリカ論	2*
		朝鮮半島研究	2*
		EU研究	2*
		中国研究	2*
		国際協力論	2*
		国際関係学	2*
		国際関係学演習	2*
		日米関係論	2*
		日中関係論	2*
		国際関係学総合演習	2*
国際マネジメント科目群		経済学入門	2*
		経営学入門	2*
		簿記入門	2*
		法学入門Ⅰ	2*
		法学入門Ⅱ	2*
		スポーツ科学	2*
		統計学	2*
		社会学	2*
		政治学Ⅰ	2*
		政治学Ⅱ	2*
		行政学	2*
		ミクロ経済学	2*
		マクロ経済学	2*
		マーケティング入門	2*
		中級簿記論	2*
		上級簿記論	2*
		工業簿記論	2*
		人事労務管理論	2*
		地場産業論	2*
		憲法Ⅰ	2*
		憲法Ⅱ	2*
		民法（契約）	2*
		民法（総則）	2*
教職に関する科目		教職論	2*
		教育学概論	2*
		教育心理学概論Ⅰ	2*
		教育心理学概論Ⅱ	2*
		教育制度論	2*
		英語科教育法Ⅰ	2*
		英語科教育法Ⅱ	2*
		英語科教育法Ⅲ	2*
		英語科教育法Ⅳ	2*
		道徳教育論	2*
		特別活動論	2*
		教育方法論	2*
		生徒指導・進路指導論	2*
		教育相談	2*
		教育実習事前事後指導	1*
		教育実習Ⅰ	2*
		教育実習Ⅱ	2*
		教職実践演習（中・高）	2*

備考1. *は選択科目、☆は自由科目を示す。

備考2. 国際教養学科に英語・中国語コース、日本語コース、文化・観光コース、国際関係コースを設置する。

別表1 学科目の名称及び単位数

未来創造学部 国際マネジメント学科		
科目区分	授業科目	単位数
学部共通基礎教育科目	演習科目	基礎ゼミナール ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 卒業研究
	未来創造科目	未来創造論Ⅰ 未来創造論Ⅱ
	健康科目	スポーツⅠ スポーツⅡ スポーツⅢ スポーツⅣ
	一般教養科目	哲学 倫理学 自然科学概論 生命科学 地誌 人文地理概論Ⅰ 人文地理概論Ⅱ 自然地理Ⅰ 自然地理Ⅱ 環境学 日本史 日本近代史 日本現代史 東洋史 西洋史
	情報科目	情報処理入門 情報と社会 情報処理基礎 情報とコンピュータ 情報処理応用 ITマネジメント論
	キャリア科目	キャリア基礎演習Ⅰ キャリア基礎演習Ⅱ 文章理解Ⅰ 文章理解Ⅱ 文章理解Ⅲ キャリア演習AⅠ キャリア演習AⅡ キャリア演習AⅢ キャリア演習AⅣ キャリア演習BⅠ キャリア演習BⅡ キャリア演習BⅢ 法学演習Ⅰ 法学演習Ⅱ 法学演習Ⅲ 法学演習Ⅳ 法学演習Ⅴ 法学演習ⅥA 法学演習ⅥB 法学演習ⅥC ライフプランニング論 コミュニケーション論 現代社会と職業 能力開発論（インターンシップ） コミュニケーション演習 旅行業務Ⅰ（国内） 旅行業務Ⅱ（総合）
	シティカレッジ科目	シティカレッジ科目Ⅰ シティカレッジ科目Ⅱ シティカレッジ科目Ⅲ シティカレッジ科目Ⅳ シティカレッジ科目Ⅴ シティカレッジ科目Ⅵ シティカレッジ科目Ⅶ シティカレッジ科目Ⅷ シティカレッジ科目Ⅷ シティカレッジ科目Ⅸ シティカレッジ科目Ⅹ シティカレッジ科目ⅩⅠ シティカレッジ科目ⅩⅡ
	海外留学科目	短期海外研修A 短期海外研修B 短期海外研修C 短期海外研修D 語学研修A 語学研修B 語学研修C 語学研修D 海外研修 海外留学A 海外留学B 海外留学C 海外留学D
		1* 1* 1* 1* 2* 2* 2* 2* 2* 6* 6* 6* 6*
		4 4 4 4
		2 2
		1* 1* 1* 1*
		2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2*
		2 2* 2* 2* 2* 2*
		1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2*
		1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2*
		1* 1*

未来創造学部 国際マネジメント学科			
科目区分		授業科目	単位数
外国語科目群	英語	リサーチプロジェクトⅠ	2*
		リサーチプロジェクトⅡ	2*
		リサーチプロジェクトⅢ	2*
		リサーチプロジェクトⅣ	2*
		資格英語Ⅰ	1*
		資格英語Ⅱ	1*
		資格英語Ⅲ	1*
		資格英語Ⅳ	1*
		資格英語Ⅴ	1*
		資格英語Ⅵ	1*
		イングリッシュコミュニケーションⅠ	1*
		イングリッシュコミュニケーションⅡ	1*
	中国語	基礎中国語Ⅰ	1*
		基礎中国語Ⅱ	1*
		基礎中国語Ⅲ	1*
		基礎中国語Ⅳ	1*
		基礎中国語Ⅴ	1*
		基礎中国語Ⅵ	1*
		中級中国語Ⅰ	1*
		中級中国語Ⅱ	1*
		中級中国語Ⅲ	1*
		中級中国語Ⅳ	1*
		中級中国語Ⅴ	1*
		中級中国語Ⅵ	1*
		アドバンス中国語Ⅰ	1*
		アドバンス中国語Ⅱ	1*
		アドバンス中国語Ⅲ	1*
		アドバンス中国語Ⅳ	1*
		アドバンス中国語Ⅴ	1*
		アドバンス中国語Ⅵ	1*
	アドバンス中国語Ⅶ	1*	
	アドバンス中国語Ⅷ	1*	
	日本語	日本語Ⅰ	1*
		日本語Ⅱ	1*
		日本語Ⅲ	1*
		日本語Ⅳ	1*
		日本語Ⅴ	1*
		日本語Ⅵ	1*
		日本語Ⅶ	1*
日本語Ⅷ		1*	
資格日本語Ⅰ		1*	
資格日本語Ⅱ		1*	
資格日本語Ⅲ		1*	
資格日本語Ⅳ		1*	
上級資格日本語Ⅰ		1*	
上級資格日本語Ⅱ		1*	
上級資格日本語Ⅲ		1*	
上級資格日本語Ⅳ		1*	
上級資格日本語Ⅴ		1*	
上級資格日本語Ⅵ		1*	
上級資格日本語Ⅶ		1*	
上級資格日本語Ⅷ		1*	
日本語演習Ⅰ	1*		
日本語演習Ⅱ	1*		
日本語演習Ⅲ	1*		
日本語演習Ⅳ	1*		
日本語演習Ⅴ	1*		
日本語演習Ⅵ	1*		
日本語演習Ⅶ	1*		
日本語演習Ⅷ	1*		
スポーツ専門実技科目群	教職（保健体育）科目	スポーツ実習Ⅰ	1*
		スポーツ実習Ⅱ	1*
		スポーツ実習Ⅲ	1*
		スポーツ実習Ⅳ	1*
		スポーツ実習Ⅴ	1*
		スポーツ実習Ⅵ	1*
		スポーツ実習Ⅶ	1*
		スポーツ実習Ⅷ	1*
		スポーツ実習Ⅸ	1*
	サッカー指定科目	競技スポーツ概説	1*
		競技スポーツ実習Ⅰ	1*
		競技スポーツ実習Ⅱ	1*
		競技スポーツ実習Ⅲ	1*
		競技スポーツ実習Ⅳ	1*
国際マネジメント科目群	総合科目	コーチング演習サッカーⅠ	2*
		コーチング演習サッカーⅢ	2*
		コーチング演習サッカーⅣ	2*
		指導実践Ⅰ	2*
		国際マネジメント入門	2
統計学	2*		
政治学Ⅰ	2*		
政治学Ⅱ	2*		
行政学	2*		
社会学	2*		
東アジア現代史	2*		
アメリカ現代史	2*		
ヨーロッパ現代史	2*		

未来創造学部 国際マネジメント学科		
科目区分	授業科目	単位数
国際マネジメント科目群	経済コース科目	経済学入門 2 ミクロ経済学 2* マクロ経済学 2* 日本経済論 2* 経済学史 2* 日本経済史 2* 国際経済学Ⅰ 2* 国際経済学Ⅱ 2* 東アジア経済論 2* 欧米経済論 2* リスクマネジメント論 2* 経済政策 2* 金融論 2* 国際金融論 2* 財政学 2* 公共経済学 2* 地域経済論 2* 地方財政論 2* 外国為替論 2* コーポレートファイナンスⅠ 2* コーポレートファイナンスⅡ 2*
	経営・会計コース科目	経営学入門 2 簿記入門 2 マーケティング入門 2* 経営学概論 2* マーケティング論 2* 中級簿記論 2* 上級簿記論 2* 工業簿記論 2* 財務会計論 2* 管理会計論 2* 税務会計論 2* 国際会計論 2* 監査論 2* 流通システム論 2* 組織戦略論 2* 組織行動論 2* 人事労務管理論 2* 消費者行動論 2* 地場産業論 2* 貿易実務 2*
	法律コース科目	法学入門Ⅰ 2 法学入門Ⅱ 2* 憲法Ⅰ 2* 憲法Ⅱ 2* 民法（契約） 2* 民法（総則） 2* 民法（債権Ⅰ） 2* 民法（債権Ⅱ） 2* 民法（物権） 2* 刑法Ⅰ 2* 刑法Ⅱ 2* 行政法Ⅰ 2* 行政法Ⅱ 2* 会社法 2* 労働法Ⅰ 2* 労働法Ⅱ 2* 訴訟法 2* 知的財産法 2* 国際取引法 2*
	スポーツマネジメントコース科目	スポーツ科学 2* 健康管理学 2* 運動生理学 2* 運動動作学 2* 体育原理 2* スポーツ医学 2* トレーニング論 2* スポーツ法学研究 2* 運動心理学 2* スポーツ社会学 2* スポーツマネジメント 2* コーチング学 2* アスリートサポート演習 2* コーチング演習サッカーⅡ 2* 指導実践Ⅱ 2* コーチング演習柔道Ⅰ 2* コーチング演習柔道Ⅱ 2* スポーツ栄養学 2* 学校保健 2* 救急処置 2* 性教育 2* 衛生学 2* 公衆衛生学 2* 生理学 2* 発育発達論Ⅰ 2* 発育発達論Ⅱ 2*

未来創造学部 国際マネジメント学科		
科目区分	授業科目	単位数
国際教養科目群	世界の言葉と人々	2*
	はじめての中国語会話Ⅰ	1*
	はじめての中国語会話Ⅱ	1*
	言語学概論Ⅰ	2*
	言語学概論Ⅱ	2*
	英米文学概論	2*
	宗教学入門	2*
	芸術学	2*
	日本文化史	2*
	日本の伝統芸術	2*
	観光学入門	2*
	観光地理学	2*
	国際関係学入門	2*
	国際関係史	2*
	国際社会論	2*
教職に関する科目	教職論	2*
	教育学概論	2*
	教育心理学概論Ⅰ	2*
	教育心理学概論Ⅱ	2*
	教育制度論	2*
	中学社会科教育法Ⅰ	2*
	中学社会科教育法Ⅱ	2*
	中学・高校地理歴史教育法Ⅰ	2*
	中学・高校地理歴史教育法Ⅱ	2*
	中学・高校公民教育法Ⅰ	2*
	中学・高校公民教育法Ⅱ	2*
	保健体育科教育法Ⅰ	2*
	保健体育科教育法Ⅱ	2*
	保健体育科教育法Ⅲ	2*
	保健体育科教育法Ⅳ	2*
	道徳教育論	2*
	特別活動論	2*
	教育方法論	2*
	生徒指導・進路指導論	2*
	教育相談	2*
	教育実習事前事後指導	2*
	教育実習Ⅰ	2*
	教育実習Ⅱ	2*
	教職実践演習（中・高）	2*

備考1. *は選択科目、☆は自由科目を示す。

備考2. 国際マネジメント学科に経済コース、経営・会計コース、法律コース、スポーツマネジメントコースを設置する。

別表 1 学科目の名称及び単位数

経済経営学部 マネジメント学科			
科目区分		授 業 科 目	単位数
学部共通基礎教育科目	演習科目	基礎ゼミナール	4
		ゼミナールⅠ	4
		ゼミナールⅡ	4
		卒業研究	4
	未来創造科目	未来創造論Ⅰ	2
		未来創造論Ⅱ	2
	健康科目	スポーツⅠ	1*
		スポーツⅡ	1*
		スポーツⅢ	1*
		スポーツⅣ	1*
	一般教養科目	哲学	2*
		倫理学	2*
		自然科学概論	2*
		生命科学	2*
		地誌	2*
		人文地理概論Ⅰ	2*
		人文地理概論Ⅱ	2*
		自然地理Ⅰ	2*
		自然地理Ⅱ	2*
		環境学	2*
		日本史	2*
		日本近代史	2*
		日本現代史	2*
		東洋史	2*
		西洋史	2*
	情報科目	情報処理入門	2
		情報と社会	2*
		情報処理基礎	2*
		情報とコンピュータ	2*
		情報処理応用	2*
		ITマネジメント論	2*
	キャリア科目	キャリア基礎演習Ⅰ	1*
		キャリア基礎演習Ⅱ	1*
		文章理解Ⅰ	1*
		文章理解Ⅱ	1*
		文章理解Ⅲ	1☆
		キャリア演習AⅠ	1☆
		キャリア演習AⅡ	1☆
		キャリア演習AⅢ	1☆
		キャリア演習AⅣ	1☆
		キャリア演習BⅠ	1☆
		キャリア演習BⅡ	1☆
		キャリア演習BⅢ	1☆
		法学演習Ⅰ	1☆
		法学演習Ⅱ	1☆
		法学演習Ⅲ	1☆
		法学演習Ⅳ	1☆
		法学演習Ⅴ	1☆
		法学演習ⅥA	1☆
		法学演習ⅥB	1☆
		法学演習ⅥC	1☆
		ライフプランニング論	2*
		コミュニケーション論	2*
		現代社会と職業	2*
		能力開発論（インターンシップ）	2*
		コミュニケーション演習	2*
		旅行業務Ⅰ（国内）	2☆
		旅行業務Ⅱ（総合）	2☆

経済経営学部 マネジメント学科			
科目区分		授 業 科 目	単位数
学部共通基礎教育科目	海外留学科目	短期海外研修A	1*
		短期海外研修B	1*
		短期海外研修C	1*
		短期海外研修D	1*
		語学研修A	2*
		語学研修B	2*
		語学研修C	2*
		語学研修D	2*
		海外研修	2*
		海外留学A	6*
		海外留学B	6*
		海外留学C	6*
		海外留学D	6*
外国語科目群	英 語	リサーチプロジェクトⅠ	2*
		リサーチプロジェクトⅡ	2*
		リサーチプロジェクトⅢ	2*
		リサーチプロジェクトⅣ	2*
		資格英語Ⅰ	1*
		資格英語Ⅱ	1*
		資格英語Ⅲ	1*
		資格英語Ⅳ	1*
		資格英語Ⅴ	1*
		資格英語Ⅵ	1*
		イングリッシュコミュニケーションⅠ	1*
		イングリッシュコミュニケーションⅡ	1*
	中国語	基礎中国語Ⅰ	1*
		基礎中国語Ⅱ	1*
		基礎中国語Ⅲ	1*
		基礎中国語Ⅳ	1*
		基礎中国語Ⅴ	1*
		基礎中国語Ⅵ	1*
		中級中国語Ⅰ	1*
		中級中国語Ⅱ	1*
		中級中国語Ⅲ	1*
		中級中国語Ⅳ	1*
		中級中国語Ⅴ	1*
		中級中国語Ⅵ	1*
		アドバンス中国語Ⅰ	1*
		アドバンス中国語Ⅱ	1*
		アドバンス中国語Ⅲ	1*
		アドバンス中国語Ⅳ	1*
		アドバンス中国語Ⅴ	1*
		アドバンス中国語Ⅵ	1*
		アドバンス中国語Ⅶ	1*
		アドバンス中国語Ⅷ	1*
	日本語	日本語Ⅰ	1*
		日本語Ⅱ	1*
		日本語Ⅲ	1*
		日本語Ⅳ	1*
		日本語Ⅴ	1*
		日本語Ⅵ	1*
		日本語Ⅶ	1*
		日本語Ⅷ	1*
		資格日本語Ⅰ	1*
		資格日本語Ⅱ	1*
		資格日本語Ⅲ	1*
		資格日本語Ⅳ	1*
		上級資格日本語Ⅰ	1*
		上級資格日本語Ⅱ	1*

経済経営学部 マネジメント学科			
科目区分		授 業 科 目	単位数
外国語科目群	日本語	上級資格日本語Ⅲ	1*
		上級資格日本語Ⅳ	1*
		上級資格日本語Ⅴ	1*
		上級資格日本語Ⅵ	1*
		上級資格日本語Ⅶ	1*
		上級資格日本語Ⅷ	1*
		日本語演習Ⅰ	1*
		日本語演習Ⅱ	1*
		日本語演習Ⅲ	1*
		日本語演習Ⅳ	1*
		日本語演習Ⅴ	1*
		日本語演習Ⅵ	1*
		日本語演習Ⅶ	1*
		日本語演習Ⅷ	1*
		日本語演習Ⅷ	1*
		日本語演習Ⅷ	1*
スポーツ専門実技科目群	教職（保健体育）科目	スポーツ実習Ⅰ	1*
		スポーツ実習Ⅱ	1*
		スポーツ実習Ⅲ	1*
		スポーツ実習Ⅳ	1*
		スポーツ実習Ⅴ	1*
		スポーツ実習Ⅵ	1*
		スポーツ実習Ⅶ	1*
		スポーツ実習Ⅷ	1*
		スポーツ実習Ⅸ	1*
	サッカー指定科目	競技スポーツ概説	1*
		競技スポーツ実習Ⅰ	1*
		競技スポーツ実習Ⅱ	1*
		競技スポーツ実習Ⅲ	1*
		競技スポーツ実習Ⅳ	1*
		コーチング演習サッカーⅠ	2*
		コーチング演習サッカーⅢ	2*
		コーチング演習サッカーⅣ	2*
		指導実践Ⅰ	2*
国際マネジメント科目群	総合科目	国際マネジメント入門	2
		統計学	2*
		政治学Ⅰ	2*
		政治学Ⅱ	2*
		行政学	2*
		社会学	2*
		東アジア現代史	2*
		アメリカ現代史	2*
		ヨーロッパ現代史	2*
	経済コース科目	経済学入門	2
		ミクロ経済学	2*
		マクロ経済学	2*
		日本経済論	2*
		経済学史	2*
		日本経済史	2*
		国際経済学Ⅰ	2*
		国際経済学Ⅱ	2*
		東アジア経済論	2*
		欧米経済論	2*
		リスクマネジメント論	2*
		経済政策	2*
		金融論	2*
		国際金融論	2*
		財政学	2*
		公共経済学	2*
		地域経済論	2*
		地方財政論	2*

経済経営学部 マネジメント学科			
科目区分		授 業 科 目	単位数
国際マネジメント科目群	経済コース科目	外国為替論 コーポレートファイナンスⅠ コーポレートファイナンスⅡ	2* 2* 2*
	経営・会計コース科目	経営学入門 簿記入門 マーケティング入門 経営学概論 マーケティング論 中級簿記論 上級簿記論 工業簿記論 財務会計論 管理会計論 税務会計論 国際会計論 監査論 流通システム論 組織戦略論 組織行動論 人事労務管理論 消費者行動論 地場産業論 貿易実務	2 2 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2*
	法律コース科目	法学入門Ⅰ 法学入門Ⅱ 憲法Ⅰ 憲法Ⅱ 民法（契約） 民法（総則） 民法（債権Ⅰ） 民法（債権Ⅱ） 民法（物権） 刑法Ⅰ 刑法Ⅱ 行政法Ⅰ 行政法Ⅱ 会社法 労働法Ⅰ 労働法Ⅱ 訴訟法 知的財産法 国際取引法	2 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2*
国際マネジメント科目群	スポーツマネジメントコース科目	スポーツ科学 健康管理学 運動生理学 運動動作学 体育原理 スポーツ医学 トレーニング論 スポーツ法学研究 運動心理学 スポーツ社会学 スポーツマネジメント コーチング学 アスリートサポート演習 コーチング演習サッカーⅡ 指導実践Ⅱ コーチング演習柔道Ⅰ コーチング演習柔道Ⅱ	2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2*

経済経営学部 マネジメント学科			
科目区分		授 業 科 目	単位数
国際 マネ ジメ ント 科 目 群	ス ポ ー ツ マ ネ ジ メ ン ト コ ー ス 科 目	スポーツ栄養学	2*
		学校保健	2*
		救急処置	2*
		性教育	2*
		衛生学	2*
		公衆衛生学	2*
		生理学	2*
		発育発達論Ⅰ	2*
		発育発達論Ⅱ	2*
国際 教 養 科 目 群		世界の言葉と人々	2*
		はじめての中国語会話Ⅰ	1*
		はじめての中国語会話Ⅱ	1*
		言語学概論Ⅰ	2*
		言語学概論Ⅱ	2*
		英米文学概論	2*
		宗教学入門	2*
		芸術学	2*
		日本文化史	2*
		日本の伝統芸術	2*
		観光学入門	2*
		観光地理学	2*
		国際関係学入門	2*
		国際関係史	2*
		国際社会論	2*
教 職 に 関 する 科 目		教職論	2*
		教育学概論	2*
		教育心理学概論Ⅰ	2*
		教育心理学概論Ⅱ	2*
		教育制度論	2*
		中学社会科教育法Ⅰ	2*
		中学社会科教育法Ⅱ	2*
		中学・高校地理歴史教育法Ⅰ	2*
		中学・高校地理歴史教育法Ⅱ	2*
		中学・高校公民教育法Ⅰ	2*
		中学・高校公民教育法Ⅱ	2*
		保健体育科教育法Ⅰ	2*
		保健体育科教育法Ⅱ	2*
		保健体育科教育法Ⅲ	2*
		保健体育科教育法Ⅳ	2*
		道徳教育論	2*
		特別活動論	2*
		教育方法論	2*
		生徒指導・進路指導論	2*
		教育相談	2*
		教育実習事前事後指導	1*
		教育実習Ⅰ	2*
		教育実習Ⅱ	2*
		教職実践演習（中・高）	2*

備考1. *は選択科目、☆は自由科目を示す。

備考2. 国際マネジメント学科に経済コース、経営・会計コース、法律コース、スポーツマネジメントコースを設置する。

別表 1 学科目の名称及び単位数

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科		
科目区分	授業科目	単位数
基礎科目	基礎ゼミナールⅠ	2
	基礎ゼミナールⅡ	2
	国際コミュニケーション論Ⅰ	2
	国際コミュニケーション論Ⅱ	2
専門教育科目	Basic SpeakingⅠ	1
	Basic SpeakingⅡ	1
	Basic ListeningⅠ	1
	Basic ListeningⅡ	1
	Basic Presentation & DiscussionⅠ	1
	Basic Presentation & DiscussionⅡ	1
	Basic ReadingⅠ	1
	Basic ReadingⅡ	1
	Basic WritingⅠ	1
	Basic WritingⅡ	1
	Basic GrammarⅠ	1
	Basic GrammarⅡ	1
	Advanced SpeakingⅠ	1*
	Advanced SpeakingⅡ	1*
	Advanced ListeningⅠ	1*
	Advanced ListeningⅡ	1*
	Advanced Presentation & DiscussionⅠ	1*
	Advanced Presentation & DiscussionⅡ	1*
	Advanced ReadingⅠ	1*
	Advanced ReadingⅡ	1*
	Advanced WritingⅠ	1*
	Advanced WritingⅡ	1*
	Advanced GrammarⅠ	1*
	Advanced GrammarⅡ	1*
	Practical CommunicationⅠ	1*
	Practical CommunicationⅡ	1*
	Practical CommunicationⅢ	1*
	Practical CommunicationⅣ	1*
	資格英語Ⅰ	1*
	資格英語Ⅱ	1*
	資格英語Ⅲ	1*
	資格英語Ⅳ	1*
	中国語Ⅰ	2
	中国語Ⅱ	2
	中国語Ⅲ	1
	中国語Ⅳ	1
	中国語Ⅴ	2*
	中国語Ⅵ	2*
	中国語Ⅶ	1*
	中国語Ⅷ	1*
	中国語会話Ⅰ	1
	中国語会話Ⅱ	1
	中国語会話Ⅲ	1*
	中国語会話Ⅳ	1*
	中国語作文Ⅰ	1*
	中国語作文Ⅱ	1*
	中国語文法基礎Ⅰ	1*
	中国語文法基礎Ⅱ	1*
	中国語コミュニケーションⅠ	1*
	中国語コミュニケーションⅡ	1*
	中国語コミュニケーションⅢ	1*
	中国語コミュニケーションⅣ	1*
	資格中国語Ⅰ	1*
	資格中国語Ⅱ	1*
	中国語表現法Ⅰ	1*
	中国語表現法Ⅱ	1*
	日本語初級Ⅰ	2*
	日本語初級Ⅱ	2*
	日本語初級Ⅲ	2*
	日本語初級Ⅳ	2*
	日本語会話初級Ⅰ	2*
	日本語会話初級Ⅱ	2*

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科		
科目区分	授業科目	単位数
専門教育科目	言語理解科目	日本語学概論Ⅰ 2* 日本語学概論Ⅱ 2* 日本語教育学概論Ⅰ 2* 日本語教育学概論Ⅱ 2* 日本語学特講 2* 日本語教育学特講 2* 日中通訳・翻訳研究Ⅰ 2* 日中通訳・翻訳研究Ⅱ 2* 日中通訳・翻訳研究Ⅲ 2* 日中通訳・翻訳研究Ⅳ 2*
	日本・国際理解科目	北陸の文化と社会 2 文化資源学入門 2* 現代日本論 2* 文化資源学（歴史・民俗） 2* 文化資源学（美術・工芸） 2* 文化資源学（史跡・名勝） 2* 文化資源学（世界遺産） 2* 国際関係学入門 2* Global Issues 2* 現代アジア論Ⅰ 2* 現代アジア論Ⅱ 2* 現代ヨーロッパ論 2* 現代アメリカ論 2* 英語で学ぶ日本文化 2* 英語で学ぶ国際関係 2* 観光ビジネス論 2* 観光文化計画 2* 国際協力論 2* 国際交流論 2* 世界の中の日本 2* 文化政策論 2*
	専門演習科目	専門ゼミナールⅠ 2* 専門ゼミナールⅡ 2* 専門ゼミナールⅢ 2* 専門ゼミナールⅣ 2* 卒業研究Ⅰ 2* 卒業研究Ⅱ 2*
専門教育科目	海外留学科目	海外研修 2* 短期海外研修A 1* 短期海外研修B 1* 海外語学研修AⅠ 2* 海外語学研修AⅡ 2* 海外語学研修BⅠ 2* 海外語学研修BⅡ 2* 海外留学A 6* 海外留学B 6* 海外留学C 6* 海外留学D 6*
	一般教育科目	自然科学概論 2* 哲学 2* 社会学 2* 宗教学 2* 芸術学 2* 心理学 2* 経済学 2* 政治学 2* 日本史 2* 日本国憲法 2* 地理学 2* スポーツⅠ 1 スポーツⅡ 1 スポーツⅢ 1* スポーツⅣ 1* スポーツ科学 2* 情報処理入門 2 情報デザイン 2* 情報処理応用 2*

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科		
科目区分	授業科目	単位数
キャリア科目	PBL入門	2
	ライフプランニング論	2*
	コミュニケーション技法Ⅰ	2*
	コミュニケーション技法Ⅱ	2*
	現代社会と職業	2*
	職業理解とインターンシップ	2*
	体験学習	1*
	海外インターンシップ	1*
	旅行業務Ⅰ	2☆
	旅行業務Ⅱ	2☆
教職に関する科目	教職論	2☆
	教育学概論	2☆
	教育心理学	2☆
	教育社会学	2☆
	教育課程論	2☆
	英語科教育法Ⅰ	2☆
	英語科教育法Ⅱ	2☆
	英語科教育法Ⅲ	2☆
	英語科教育法Ⅳ	2☆
	教育方法論	2☆
	道德教育論	2☆
	特別活動論	2☆
	生徒・進路指導論	2☆
	教育相談	2☆
	教育実習事前事後指導	1☆
	教育実習Ⅰ	2☆
	教育実習Ⅱ	2☆
	教職実践演習（中・高）	2☆

備考 *は選択科目、☆は自由科目を示す。

別表 1 学科目の名称及び単位数

医療保健学部 医療技術学科		
科目区分	授業科目	単位数
一般教養科目	自然科学概論	2
	生命・医療倫理学	2
	心理学	2*
	哲学	2*
	社会保障と福祉	2*
	北陸の文化と社会	2*
	日本史	2*
	社会学	2*
	法学（日本国憲法含む）	2*
	スポーツ	1*
	英会話	1*
	生物学	1*
	化学	1*
	物理学	1*
	数学	1*
	英語Ⅰ	2
	英語Ⅱ	2
	科学英語の基礎	1
	医学英語	1
	基礎ゼミナールⅠ	1
	基礎ゼミナールⅡ	1
	海外研修	1*
専門基礎科目	医学概論	1
	看護学概論	1
	公衆衛生学	1
	関係法規	1
	人体の構造と機能Ⅰ	4
	人体の構造と機能Ⅱ	1
	解剖学実習	1
	生理学実習	1
	生化学	4
	生化学実習	1
	病理学Ⅰ	1
	病理学Ⅱ	1
	病理学実習	1
	医用検査機器学	3
	医用工学概論	2
	医用工学概論実習	1
	薬と生体反応	2
	薬理学	2
	臨床薬理学	1
	応用数学	1
	電気工学	2
	電子工学	2
	生体物性・材料工学	2
	計測・機械工学	2
	医用機器学概論	2
	情報科学概論	2
	情報処理工学Ⅰ	1
	情報処理工学Ⅱ	1

医療保健学部 医療技術学科		
科目区分	授業科目	単位数
専門科目	臨床検査総論Ⅰ	2
	臨床検査総論Ⅱ	2
	臨床検査総論実習Ⅰ	1
	臨床検査総論実習Ⅱ	1
	医動物学（実習含む）	2
	臨床血液学Ⅰ	2
	臨床血液学Ⅱ	2
	臨床血液学実習Ⅰ	1
	臨床血液学実習Ⅱ	1
	臨床免疫学Ⅰ	2
	臨床免疫学Ⅱ	2
	臨床免疫学実習Ⅰ	1
	臨床免疫学実習Ⅱ	1
	臨床微生物学	3
	臨床微生物学実習	1
	臨床生化学Ⅰ	1
	臨床生化学Ⅱ	1
	臨床生化学実習Ⅰ	1
	臨床生化学実習Ⅱ	1
	放射線検査学	1
	生理機能計測学Ⅰ	1
	生理機能計測学Ⅱ	1
	生理機能計測学実習Ⅰ	1
	生理機能計測学実習Ⅱ	1
	医療安全管理学（実習含む）	1
	生体計測装置学	2
	細胞生物学	2*
	分析技術学	2*
	画像解析学	2*
	生体機能代行装置学	2
	生体機能代行装置学実習	1
	医用機器安全管理学	2
	医用治療機器学	2
	医用治療機器・安全管理学実習	1
	臨床医学総論	2
	臨床検査学演習	2
	臨床工学演習	2
	地域チーム医療論	1
	専門職連携演習	1
	卒業研究Ⅰ	1
	卒業研究Ⅱ	2
	臨地実習	4
	臨床実習	4

備考 *は選択科目を示す。

別表1- (1) 学科目の名称及び単位数

薬学部 薬学科			
科目区分	授業科目		単位数
I 群	基 礎 科 目	文化と芸術	1 *
		宗教と人間	1 *
		日本近現代史	1 *
		薬剤師のための法律学Ⅰ	1 *
		薬剤師のための法律学Ⅱ	1 *
		グローバル時代の国際関係	1 *
		グローバル時代の経済	1 *
		医薬品市場とマーケティング	1 *
		医療ビジネス	1 *
		社会保障と福祉	1 *
		国際社会と医療	1 *
	英 語	スポーツ科学	1 *
		代替医療入門 (セルフメディケーション)	1 *
		看護学	1 *
		総合英語ⅠA	1
		総合英語ⅠB	1
		総合英語ⅡA	1
		総合英語ⅡB	1
	教 養 演 習 科 目	科学英語の基礎Ⅰ	1
		科学英語の基礎Ⅱ	1
		薬学英语入門Ⅰ	1
		薬学英语入門Ⅱ	1
		基礎演習	1
		薬学基礎実習	1
		フィジカルエデュケーション	5 *
	補 習 科 目	中国語	1 *
		英会話	1 *
		地域薬学研究	1 *
		リベラルアーツⅠ (医療人)	1 *
		リベラルアーツⅡ (アート)	1 *
		リベラルアーツⅢ (健康・運動)	1 *
	I 群 単位計		38
II 群	専 門 科 目	人間学Ⅰ (生と死)	1
		人間学Ⅱ (心理)	1
		薬学入門Ⅰ	1
		薬学入門Ⅱ	1
		コンピュータ入門	1
		薬学生の数学	1
		薬学生の統計学	1
		薬学英语	1
		医療英語	1
		基礎の化学計算	1
		薬学生の基礎化学	2
		物理化学Ⅰ	1
		物理化学Ⅱ	1
		薬品分析学Ⅰ	1
		薬品分析学Ⅱ	1
		日本薬局方	1
		医療分析学	1
		機器分析学	1
		有機化学Ⅰ (化学物質の性質と反応)	2
		有機化学Ⅱ (有機化合物の官能基)	1

薬学部 薬学科		
科目区分	授業科目	単位数
Ⅱ 群	無機薬品化学	1
	薬品製造学	1
	生体分子学Ⅰ	1
	生体分子学Ⅱ	1
	薬用植物学	1
	生薬学	1
	天然物化学	1
	東洋医学（中医学）	1
	漢方概論	1
	生物科学入門	1
	基礎生物学	1
	機能形態学	2
	生化学	1
	生命情報学	1
	生理化学Ⅰ	1
	生理化学Ⅱ	1
	微生物学	1
	生体防御学（免疫）	1
	病原微生物学Ⅰ（微生物と感染）	1
	病原微生物学Ⅱ（感染症治療薬）	1
	遺伝子工学	1
	衛生化学Ⅰ（栄養と健康）	2
	衛生化学Ⅱ（化学物質の生体への影響）	2
	栄養科学	1
	環境健康学Ⅰ（社会・集団と健康）	2
	環境健康学Ⅱ（生活環境と健康）	2
	薬理学Ⅰ（総論と神経薬理）	1
	薬理学Ⅱ（臓器別薬理）	1
	薬理学Ⅲ（炎症と血液薬理）	1
	薬物治療学Ⅰ（臓器別疾患）	2
	薬物治療学Ⅱ（臓器別疾患）	1
	薬物治療学Ⅲ（免疫と悪性腫瘍）	1
	薬物治療学Ⅳ（臨床薬理）	1
	病態生理学Ⅰ（症状と疾患）	1
	病態生理学Ⅱ（症状と疾患）	1
	病態検査学Ⅰ（臨床検査値と疾病）	1
	病態検査学Ⅱ（臨床検査値と疾病）	1
	生物薬剤学（薬物の生体内運命）	2
	臨床薬剤学（薬物治療に役立つ情報）	2
	物理薬剤学（製剤化のサイエンス）	2
	医薬品開発論Ⅰ	1
	医薬品開発論Ⅱ	1
	医療薬学（コミュニティ・ファーマシー）	2
	調剤学（処方せんと調剤）	2
	臨床薬学概論	1
	薬事関係法・制度	2
	香粧品科学	1 *
	和漢薬学	1 *
	鍼灸学	1 *
	漢方（中医）処方学	1 *
	先端医薬品論（薬を探す、創る、使う）	1 *

薬学部 薬学科			
科目区分		授業科目	単位数
Ⅱ 群	専門 科目	薬局薬品学	1 *
		薬物送達学	1 *
		薬局経営学	1 *
		法医裁判化学	1 *
		血液学総論	1 *
		臨床生理学	1 *
		毒性学	1 *
		総合薬学研究	15
		総合薬学演習	17
	実 習 系 科 目	基礎化学系実習	1.5
		有機化学系実習	1.5
		物理化学系実習	1.5
		分析化学系実習	1.5
		生化学系実習	1.5
		生体防御系実習	1.5
		天然物化学系実習	1.5
		衛生環境系実習	1.5
		病態解析系実習	1.5
		薬理系実習	1.5
		薬剤系実習	1.5
		臨床薬学系実習	1.5
		実務事前学習	5
		実務実習	20
	コ ー ス 科目	高度医療薬剤師演習	5 *
		東洋医薬学演習	5 *
		健康医療薬学演習	5 *
Ⅱ群 単位計			181
単 位 計			219

備考 *は選択科目、☆は自由科目を示す。

別表1- (1) 学科目の名称及び単位数

未来創造学部 国際教養学科		
科目区分	授業科目	単位数
外国語科目	英語プロジェクト演習Ⅰ	2*
	英語プロジェクト演習Ⅱ	2*
	英語プロジェクト演習Ⅲ	2*
	英語プロジェクト演習Ⅳ	2*
	英語プロジェクト演習Ⅴ	2*
	英語プロジェクト演習Ⅵ	2*
	英語プロジェクト演習Ⅶ	2*
	英語プロジェクト演習Ⅷ	2*
	英語Ⅰ	1*
	英語Ⅱ	1*
	英語Ⅲ	1*
	英語Ⅳ	1*
	英語Ⅴ	1*
	英語Ⅵ	1*
	ベーシック資格英語Ⅰ	1*
	ベーシック資格英語Ⅱ	1*
	アドバンス資格英語ⅠA	1*
	アドバンス資格英語ⅠB	1*
	アドバンス資格英語ⅡA	1*
	アドバンス資格英語ⅡB	1*
	中国語初級Ⅰ	3*
	中国語初級Ⅱ	3*
	中国語中級Ⅰ	3*
	中国語中級Ⅱ	3*
	中国語会話&LL初級Ⅰ	1*
	中国語会話&LL初級Ⅱ	1*
	中国語会話&LL中級Ⅰ	1*
	中国語会話&LL中級Ⅱ	1*
	中国語上級Ⅰ	2*
	中国語上級Ⅱ	2*
	中国語上級Ⅲ	1*
	中国語上級Ⅳ	1*
	日本語Ⅰ	2*
	日本語Ⅱ	2*
	日本語Ⅲ	2*
	日本語Ⅳ	2*
	日本語Ⅴ	2*
	日本語Ⅵ	2*
	日本語Ⅶ	2*
	日本語Ⅷ	2*
	資格日本語Ⅰ	2*
	資格日本語Ⅱ	2*
	資格日本語Ⅲ	2*
	日本の文化	2*
	日本の社会Ⅰ	2*
	日本の社会Ⅱ	2*
	日本語教育学概論	2*
	日本語学特講Ⅰ	2*
	日本語学特講Ⅱ	2*
	日本語教育学特講Ⅰ	2*
	日本語教育学特講Ⅱ	2*
	日中翻訳通訳演習Ⅰ	2*
	日中翻訳通訳演習Ⅱ	2*
	日中翻訳通訳演習Ⅲ	2*
	朝鮮語Ⅰ	2☆
	朝鮮語Ⅱ	2☆
基礎教育科目群	健康科目	
	スポーツⅠ	2
	スポーツⅡ	2
	スポーツⅢ	2*
	スポーツⅣ	2*
	演習科目	
	フレッシュマンセミナー	2
	基礎演習・読書	2
	基礎ゼミナール	4
	ゼミナール	4
	卒業研究又はワークショップ	4
進路科目群	グローバル時代の人間	2
	21世紀の人間力	2

未来創造学部 国際教養学科		
科目区分	授業科目	単位数
語学専修科目群	ディスカッション&ディベート演習Ⅰ	2 *
	ディスカッション&ディベート演習Ⅱ	2 *
	ディスカッション&ディベート演習Ⅲ	2 *
	ディスカッション&ディベート演習Ⅳ	2 *
	ディスカッション&ディベート演習Ⅴ	2 *
	ディスカッション&ディベート演習Ⅵ	2 *
	ディスカッション&ディベート演習Ⅶ	2 *
	ディスカッション&ディベート演習Ⅷ	2 *
	英語リスニングⅠ	1 *
	英語リスニングⅡ	1 *
	英語リスニングⅢ	1 *
	英語リスニングⅣ	1 *
	英語スピーキングⅠ	1 *
	英語スピーキングⅡ	1 *
	英語スピーキングⅢ	1 *
	英語スピーキングⅣ	1 *
	英語リーディングⅠ	1 *
	英語リーディングⅡ	1 *
	英語リーディングⅢ	1 *
	英語リーディングⅣ	1 *
	英語リーディングⅤ	1 *
	英語リーディングⅥ	1 *
	英語ライティングⅠ	1 *
	英語ライティングⅡ	1 *
	英語ライティングⅢ	1 *
	英語ライティングⅣ	1 *
	英語ライティングⅤ	1 *
	英語ライティングⅥ	1 *
	英語ベーシック・文法Ⅰ	1 *
	英語ベーシック・文法Ⅱ	1 *
	上級英語ライティングⅠ	1 *
	上級英語ライティングⅡ	1 *
	上級英語リーディングⅠ	1 *
	上級英語リーディングⅡ	1 *
	時事英語Ⅰ	1 *
	時事英語Ⅱ	1 *
	資格英語Ⅰ	1 *
	資格英語Ⅱ	1 *
	上級資格英語ⅠA	1 *
	上級資格英語ⅠB	1 *
	上級資格英語ⅡA	1 *
	上級資格英語ⅡB	1 *
語学専修科目群	初級中国語Ⅰ	2 *
	初級中国語Ⅱ	2 *
	初級中国語Ⅲ	2 *
	初級中国語Ⅳ	2 *
	初級中国語会話Ⅰ	2 *
	初級中国語会話Ⅱ	2 *
	初級中国語LLⅠ	1 *
	初級中国語LLⅡ	1 *
	中級中国語Ⅰ	2 *
	中級中国語Ⅱ	2 *
	中級中国語Ⅲ	2 *
	中級中国語Ⅳ	2 *
	中級中国語会話Ⅰ	1 *
	中級中国語会話Ⅱ	1 *
	中級中国語LLⅠ	1 *
	中級中国語LLⅡ	1 *
	中国語作文Ⅰ	1 *
	中国語作文Ⅱ	1 *
	上級中国語Ⅰ	2 *
	上級中国語Ⅱ	2 *
	上級中国語Ⅲ	1 *
	上級中国語Ⅳ	1 *
	中国語講読Ⅰ	1 *
	中国語講読Ⅱ	1 *
	中国語講読Ⅲ	1 *
	中国語講読Ⅳ	1 *
	中国語総合演習Ⅰ	1 *

未来創造学部 国際教養学科		
科目区分	授業科目	単位数
語学専修科目群	中国語総合演習Ⅱ	1 *
	中国語総合演習Ⅲ	1 *
	中国語総合演習Ⅳ	1 *
	上級中国語会話Ⅰ	1 *
	上級中国語会話Ⅱ	1 *
	上級中国語会話Ⅲ	1 *
	上級中国語会話Ⅳ	1 *
	中国語文法演習Ⅰ	1 *
	中国語文法演習Ⅱ	1 *
	中国語作文演習Ⅰ	1 *
	中国語作文演習Ⅱ	1 *
国際教養科目群	海外留学科目	中国語会話Ⅰ 2 ☆ 中国語会話Ⅱ 2 ☆ 英会話Ⅰ 2 ☆ 英会話Ⅱ 2 ☆ 海外留学A 1 * 海外留学B 2 * 海外留学C 4 *
	リベラルアーツ科目	ドロッカー研究 2 * 孔子研究 2 * テクニカル・ライティング 2 * 環境学 2 * 生命科学 2 * 倫理学 2 * 哲学 2 * 食の科学 2 * 基礎数学 2 * 論理学 2 *
	文化科目	文化人類学 2 * 現代社会文化論 2 * 都市文化論 2 * 多元文化論 2 * 比較文化論 2 * 文化とまちづくり 2 * 日本の伝統芸術Ⅰ 2 * 日本の伝統芸術Ⅱ 2 * 世界三大宗教入門 2 * 宗教と社会 2 * 芸術学 2 * 芸術人間学 2 * 映画と演劇Ⅰ 2 * 映画と演劇Ⅱ 2 * 金沢の文化 2 * 中国の文化 2 * アメリカの文化 2 * アメリカの歴史 2 * ヨーロッパの文化史 2 * ヨーロッパの精神の源 2 * 日中の文化交流史 2 * 日米の文化交流史 2 * 日欧の文化交流史 2 *
	文学・言語科目	世界の言葉と人々 2 * 中国の文学と文学史 2 * アメリカの文学と文学史 2 * イギリスの文学と文学史 2 * 英米文学特講義Ⅰ 2 * 英米文学特講義Ⅱ 2 * 英語学概論 2 * 音声学Ⅰ 2 * 音声学Ⅱ 2 * 英語学特講Ⅰ 2 * 英語学特講Ⅱ 2 * 言語学概論 2 * 英語史 2 * 英語通訳学 2 * 英語通訳演習Ⅰ 1 ☆ 英語通訳演習Ⅱ 1 ☆

未来創造学部 国際教養学科			
科目区分	授業科目		単位数
国際教養科目群	文学・言語科目	英語スピーキングⅦ	1 ☆
		英語スピーキングⅦ	1 ☆
		中国語通訳学	2 *
		時事中国語	2 *
		英語翻訳演習	2 *
		中国語翻訳演習	2 *
	観光科目	観光資源開発論	2 *
		観光人類学	2 *
		観光地理学	2 *
		歴史風土と産業	2 *
		芸術文化と産業	2 *
		旅行業務Ⅰ	2 *
		旅行業務Ⅱ	2 *
		エコツーリズム論	2 *
	政治社会科目	政治学Ⅰ	2 *
		政治学Ⅱ	2 *
		行政学Ⅰ	2 *
		行政学Ⅱ	2 *
		社会学	2 *
		日本史	2 *
		日本近現代史Ⅰ	2 *
		日本近現代史Ⅱ	2 *
		中国現代史Ⅰ	2 *
		中国現代史Ⅱ	2 *
		欧米現代史Ⅰ	2 *
		欧米現代史Ⅱ	2 *
		グローバル時代の国際関係	2 *
		安全保障論	2 *
		日本の安全保障	2 *
		グローバル時代の国際社会	2 *
		少子高齢化と移民	2 *
		東洋史	2 *
		西洋史	2 *
	地域研究科目	東アジアの国際関係	2 *
		中国研究Ⅰ	2 *
		中国研究Ⅱ	2 *
		東南アジア研究Ⅰ	2 *
		東南アジア研究Ⅱ	2 *
		朝鮮半島研究Ⅰ	2 *
		朝鮮半島研究Ⅱ	2 *
		北アメリカ研究Ⅰ	2 *
		北アメリカ研究Ⅱ	2 *
		EU研究Ⅰ	2 *
		EU研究Ⅱ	2 *
		中東研究	2 *
		ロシア・モンゴル研究	2 *
		人文地理概論Ⅰ	2 *
		人文地理概論Ⅱ	2 *
		自然地理Ⅰ	2 *
		自然地理Ⅱ	2 *
		地誌	2 *
	情報科目	情報処理入門	2 *
		グローバル時代のITマネジメント	2 *
		情報処理応用	2 *
国際マネジメント科目群		マクロ経済学入門	2 *
		ミクロ経済学入門	2 *
		マーケティング入門	2 *
		経営学入門	2 *
		グローバル時代の経済Ⅰ	2 *
		グローバル時代の経済Ⅱ	2 *
		貿易・投資論Ⅰ	2 *
		貿易・投資論Ⅱ	2 *
		外国為替と国際金融Ⅰ	2 *
		外国為替と国際金融Ⅱ	2 *
		国際経営論	2 *
		多国籍企業論	2 *
		国際マーケティング論	2 *
		中国経済論	2 *
		対中貿易論	2 *

未来創造学部 国際教養学科		
科目区分	授業科目	単位数
国際マネジメント科目群	アメリカ経済論	2 *
	地場産業と中小企業	2 *
	環境ビジネス論	2 *
	経営者研究	2 *
	簿記入門	2 *
	基礎法学Ⅰ	2 *
	基礎法学Ⅱ	2 *
	憲法Ⅰ	2 *
	憲法Ⅱ	2 *
	民法総則Ⅰ	2 *
	民法総則Ⅱ	2 *
	刑法総論Ⅰ	2 *
	刑法総論Ⅱ	2 *
	行政法Ⅰ	2 *
	行政法Ⅱ	2 *
	公衆衛生学	2 *
	衛生学	2 *
	生理学	2 *
	医薬学入門	2 *
	医と倫理	2 *
	健康管理学	2 *
	スポーツ科学	2 *
	スポーツ社会学	2 *
	スポーツ医学	2 *
	スポーツ法学研究	2 *
	スポーツ栄養学	2 *
	発育発達論Ⅰ	2 *
	発育発達論Ⅱ	2 *
教職に関する科目	教師論	2 *
	教育学概論	2 *
	教育心理学概論Ⅰ	2 *
	教育心理学概論Ⅱ	2 *
	教育制度論	2 *
	英語科教育法Ⅰ	2 *
	英語科教育法Ⅱ	2 *
	英語科教育法Ⅲ	2 *
	英語科教育法Ⅳ	2 *
	道徳教育論	2 *
	特別活動論	2 *
	教育情報機器論	2 *
	生徒指導・進路指導論	2 *
	教育カウンセリング概論	2 *
	教職実践演習（中・高）	2 *
	教育実習事前事後指導	1 *
	教育実習Ⅰ	2 *
	教育実習Ⅱ	2 *

備考 1. *は選択科目、☆は自由科目を示す。

備考 2. 国際教養学科にグローバルコミュニケーション、グローバル文化
グローバルビジネスの各コースをおく。

別表1- (1) 学科目の名称及び単位数

未来創造学部 国際マネジメント学科				
科目区分		授業科目	単位数	
外国語科目	英語	英語プロジェクト演習Ⅰ	2＊	
		英語プロジェクト演習Ⅱ	2＊	
		英語プロジェクト演習Ⅲ	2＊	
		英語プロジェクト演習Ⅳ	2＊	
		英語プロジェクト演習Ⅴ	2＊	
		英語プロジェクト演習Ⅵ	2＊	
		英語プロジェクト演習Ⅶ	2＊	
		英語プロジェクト演習Ⅷ	2＊	
		英語Ⅰ	1＊	
		英語Ⅱ	1＊	
		英語Ⅲ	1＊	
		英語Ⅳ	1＊	
		英語Ⅴ	1＊	
		英語Ⅵ	1＊	
		ベーシック資格英語Ⅰ	1＊	
		ベーシック資格英語Ⅱ	1＊	
		アドバンス資格英語ⅠA	1＊	
		アドバンス資格英語ⅠB	1＊	
		アドバンス資格英語ⅡA	1＊	
		アドバンス資格英語ⅡB	1＊	
	中国語	中国語初級Ⅰ	3＊	
		中国語初級Ⅱ	3＊	
		中国語中級Ⅰ	3＊	
		中国語中級Ⅱ	3＊	
		中国語会話&LL初級Ⅰ	1＊	
		中国語会話&LL初級Ⅱ	1＊	
		中国語会話&LL中級Ⅰ	1＊	
		中国語会話&LL中級Ⅱ	1＊	
		中国語上級Ⅰ	2＊	
		中国語上級Ⅱ	2＊	
		中国語上級Ⅲ	1＊	
		中国語上級Ⅳ	1＊	
	日本語	日本語Ⅰ	2＊	
		日本語Ⅱ	2＊	
		日本語Ⅲ	2＊	
		日本語Ⅳ	2＊	
		日本語Ⅴ	2＊	
		日本語Ⅵ	2＊	
		日本語Ⅶ	2＊	
		日本語Ⅷ	2＊	
		資格日本語Ⅰ	2＊	
		資格日本語Ⅱ	2＊	
		資格日本語Ⅲ	2＊	
		日本の文化	2＊	
		日本の社会Ⅰ	2＊	
		日本の社会Ⅱ	2＊	
		朝鮮語	朝鮮語Ⅰ	2☆
		朝鮮語Ⅱ	2☆	
基礎教育科目群	健康科目	スポーツⅠ	2	
		スポーツⅡ	2	
		スポーツⅢ	2＊	
		スポーツⅣ	2＊	
	演習科目	フレッシュマンセミナー	2	
		基礎演習・読書	2	
		基礎ゼミナール	4	
		ゼミナール	4	
	情報科目	卒業研究又はワークショップ	4	
		情報処理入門	2	
		グローバル時代のITマネジメント	2＊	
		情報処理応用	2＊	
通学科目	グローバル時代の人間	2		
	21世紀の人間力	2		

未来創造学部 国際マネジメント学科		
科目区分	授業科目	単位数
国際 マ ネ ジ メ ン ト 科 目 群	海外留学科目	中国語会話Ⅰ 2 ☆ 中国語会話Ⅱ 2 ☆ 英会話Ⅰ 2 ☆ 英会話Ⅱ 2 ☆ 海外留学A 1 * 海外留学B 2 * 海外留学C 4 *
	経済学	マクロ経済学入門 2 ミクロ経済学入門 2 経営学入門 2 グローバル時代の経済Ⅰ 2 * グローバル時代の経済Ⅱ 2 * 財政学 2 * 統計学Ⅰ 2 * 統計学Ⅱ 2 * 経営組織・戦略論Ⅰ 2 * 経営組織・戦略論Ⅱ 2 * コーポレートガバナンス論 2 * ベンチャー起業論 2 * 地場産業と中小企業 2 * 人事・労務管理論Ⅰ 2 * 人事・労務管理論Ⅱ 2 * 経営史 2 * 環境ビジネス論 2 * 経営者研究 2 * 能力開発論 2 *
	マーケティング科目	マーケティング入門 2 マーケットリサーチ論 2 * 消費者行動論 2 * マーケティングマネジメント論Ⅰ 2 * マーケティングマネジメント論Ⅱ 2 * 流通システム論 2 * サービスマーケティング論 2 *
	会計金融科目	簿記入門 2 財務会計論 2 * 管理会計論 2 * 簿記演習Ⅰ 2 * 簿記演習Ⅱ 2 * 原価計算論 2 * 監査論 2 * リスクマネジメント論 2 * 金融論 2 * コーポレートファイナンス 2 *
	国際ビジネス科目	貿易・投資論Ⅰ 2 * 貿易・投資論Ⅱ 2 * 外国為替と国際金融Ⅰ 2 * 外国為替と国際金融Ⅱ 2 * 国際経営論 2 * 多国籍企業論 2 * 国際マーケティング論 2 * 中国経済論 2 * 対中貿易論 2 * アメリカ経済論 2 *
	法律科目	基礎法学Ⅰ 2 * 基礎法学Ⅱ 2 * 憲法Ⅰ 2 * 憲法Ⅱ 2 * 刑法総論Ⅰ 2 * 刑法総論Ⅱ 2 * 刑法各論Ⅰ 2 * 刑法各論Ⅱ 2 * 民法総則Ⅰ 2 * 民法総則Ⅱ 2 * 民法債権Ⅰ 2 * 民法債権Ⅱ 2 * 民法物権Ⅰ 2 * 民法物権Ⅱ 2 * 民事訴訟法 2 * 商法総則 2 *

未来創造学部 国際マネジメント学科		
科目区分	授業科目	単位数
国際マネジメント科目群	会社法Ⅰ 会社法Ⅱ 手形小切手法 独占禁止法 知的財産法Ⅰ 知的財産法Ⅱ 国際取引法Ⅰ 国際取引法Ⅱ 労働法Ⅰ 労働法Ⅱ 社会保険法Ⅰ 社会保険法Ⅱ 行政法Ⅰ 行政法Ⅱ 医事・薬事法 総合法学演習Ⅰ 総合法学演習Ⅱ 総合法学演習Ⅲ 総合法学演習Ⅳ	2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 *
	政治学Ⅰ 政治学Ⅱ 行政学Ⅰ 行政学Ⅱ 社会学 日本史 日本近現代史Ⅰ 日本近現代史Ⅱ 中国現代史Ⅰ 中国現代史Ⅱ 欧米現代史Ⅰ 欧米現代史Ⅱ グローバル時代の国際関係 安全保障論 日本の安全保障 グローバル時代の国際社会 少子高齢化と移民 東洋史 西洋史	2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 *
	東アジアの国際関係 中国研究Ⅰ 中国研究Ⅱ 東南アジア研究Ⅰ 東南アジア研究Ⅱ 朝鮮半島研究Ⅰ 朝鮮半島研究Ⅱ 北アメリカ研究Ⅰ 北アメリカ研究Ⅱ EU研究Ⅰ EU研究Ⅱ 中東研究 ロシア・モンゴル研究 人文地理概論Ⅰ 人文地理概論Ⅱ 自然地理Ⅰ 自然地理Ⅱ 地誌	2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 *
	医薬学入門 医療環境概論 社会保険制度論 公衆衛生学 衛生学 生理学 医と倫理 医療サービスⅠ 医療サービスⅡ 病院経営Ⅰ 病院経営Ⅱ 医薬開発論 医薬経営論Ⅰ 医薬経営論Ⅱ	2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 *

未来創造学部 国際マネジメント学科		
科目区分	授業科目	単位数
国際 マ ネ ジ メ ン ト 科 目 群	I	情報処理論Ⅰ 2 *
		情報処理論Ⅱ 2 *
		情報処理論Ⅲ 2 *
		システム管理Ⅰ 2 *
		システム管理Ⅱ 2 *
	T	ネットワーク論Ⅰ 2 *
		ネットワーク論Ⅱ 2 *
		Cプログラミング上級 2 *
		Javaプログラミング中級 2 *
		Javaプログラミング上級 2 *
	科	データベース論Ⅰ 2 *
		データベース論Ⅱ 2 *
		スマートフォンアプリ開発 2 *
	目	情報セキュリティ論 2 *
	ス ポ ー ツ 科 目	スポーツ科学 2 *
		健康管理学 2 *
		運動生理学 2 *
		トレーニング論 2 *
		運動・動作学 2 *
		スポーツ医学 2 *
		運動心理学 2 *
		スポーツ社会学 2 *
		スポーツマネジメント 2 *
		スポーツ法学研究 2 *
		スポーツ栄養学 2 *
		コーチング学 2 *
		性教育 2 *
		発育発達論Ⅰ 2 *
		発育発達論Ⅱ 2 *
		競技スポーツ概説 2 *
		競技スポーツ実習Ⅰ 1 *
		競技スポーツ実習Ⅱ 1 *
		競技スポーツ実習Ⅲ 1 *
		競技スポーツ実習Ⅳ 1 *
		コーチング演習Ⅰ 2 *
		コーチング演習Ⅱ 2 *
		コーチング演習Ⅲ 2 *
		コーチング演習Ⅳ 2 *
		アスリートサポート演習 2 *
		指導実践Ⅰ 2 *
		指導実践Ⅱ 2 *
		スポーツ実習Ⅰ 1 *
		スポーツ実習Ⅱ 1 *
		スポーツ実習Ⅲ 1 *
		スポーツ実習Ⅳ 1 *
		スポーツ実習Ⅴ 1 *
		スポーツ実習Ⅵ 1 *
		スポーツ実習Ⅶ 1 *
		スポーツ実習Ⅷ 1 *
		スポーツ実習Ⅸ 1 *
		体育原理 2 *
		学校保健 2 *
		救急処置 2 *
国際 教 養 科 目 群		ドラッカー研究 2 *
		孔子研究 2 *
		テクニカル・ライティング 2 *
		環境学 2 *
		生命科学 2 *
		倫理学 2 *
		哲学 2 *
		食の科学 2 *
		基礎数学 2 *
		論理学 2 *
		現代社会文化論 2 *
		都市文化論 2 *
		多元文化論 2 *
		文化とまちづくり 2 *
		世界三大宗教入門 2 *
		宗教と社会 2 *
		中国の文化 2 *

未来創造学部 国際マネジメント学科		
科目区分	授業科目	単位数
国際 教 養 科 目 群	金沢の文化	2 *
	アメリカの文化	2 *
	アメリカの歴史	2 *
	ヨーロッパの文化史	2 *
	ヨーロッパの精神の源	2 *
	日中の文化交流史	2 *
	日米の文化交流史	2 *
	日欧の文化交流史	2 *
	芸術学	2 *
	芸術人間学	2 *
	日本の伝統芸術Ⅰ	2 *
	日本の伝統芸術Ⅱ	2 *
	映画と演劇Ⅰ	2 *
	映画と演劇Ⅱ	2 *
	比較文化論	2 *
	文化人類学	2 *
	観光資源開発論	2 *
	観光人類学	2 *
	観光地理学	2 *
	歴史風土と産業	2 *
	芸術文化と産業	2 *
	旅行業務Ⅰ	2 *
	旅行業務Ⅱ	2 *
	エコツーリズム論	2 *
	世界の言葉と人々	2 *
	中国の文学と文学史	2 *
	アメリカの文学と文学史	2 *
	イギリスの文学と文学史	2 *
教 職 に 関 す る 科 目	教師論	2 *
	教育学概論	2 *
	教育心理学概論Ⅰ	2 *
	教育心理学概論Ⅱ	2 *
	教育制度論	2 *
	社会科教育法Ⅰ	2 *
	社会科教育法Ⅱ（地理歴史）	2 *
	社会科教育法Ⅲ（公民）	2 *
	社会科教育法Ⅳ	2 *
	保健体育科教育法Ⅰ	2 *
	保健体育科教育法Ⅱ	2 *
	保健体育科教育法Ⅲ	2 *
	保健体育科教育法Ⅳ	2 *
	道徳教育論	2 *
	特別活動論	2 *
	教育情報機器論	2 *
	生徒指導・進路指導論	2 *
	教育カウンセリング概論	2 *
	教職実践演習（中・高）	2 *
	教育実習事前事後指導	1 *
	教育実習Ⅰ	2 *
	教育実習Ⅱ	2 *

備考 1. *は選択科目、☆は自由科目を示す。

備考 2. 国際マネジメント学科にグローバルビジネス、ポリシーマネジメント
メディカルマネジメント、スポーツマネジメントの各コースをおく。

別表1- (2) 学科目の名称及び単位数

薬学部 薬学科			
授 業 科 目			単位数
Ⅰ 群	基礎科目	文化と芸術	1*
		宗教と人間	1*
		日本近現代史	1*
		薬剤師のための法律学Ⅰ	1*
		薬剤師のための法律学Ⅱ	1*
		グローバル時代の国際関係	1*
		グローバル時代の経済	1*
		医薬品市場とマーケティング	1*
		医療ビジネス	1*
		社会保障と福祉	1*
		国際社会と医療	1*
		スポーツ科学	1*
		代替医療入門（セルフメディケーション）	1*
		看護学	1*
	英語	総合英語ⅠA	1
		総合英語ⅠB	1
		総合英語ⅡA	1
		総合英語ⅡB	1
		科学英語の基礎Ⅰ	1
		科学英語の基礎Ⅱ	1
		薬学英语入門Ⅰ	1
		薬学英语入門Ⅱ	1
	教養演習科目	基礎演習	1
		薬学基礎実習	1
		フィジカルエデュケーション	1*
		中国語	1*
		英会話	1*
科目補習	地域薬学研究	1*	
	わかりやすい化学	1☆	
	わかりやすい生物	1☆	
わかりやすい物理			1☆
Ⅰ 群 単位計			31
Ⅱ 群	専門科目	人間学Ⅰ（生と死）	1
		人間学Ⅱ（心理）	1
		薬学入門Ⅰ	1
		薬学入門Ⅱ	1
		コンピュータ入門	1
		薬学生の数学	1
		薬学生の統計学	1
		薬学英语	1
		医療英語	1
		基礎の化学計算	1
		薬学生の基礎化学	1
		物理化学Ⅰ	1
		物理化学Ⅱ	1
		薬品分析学Ⅰ	1
		薬品分析学Ⅱ	1
		日本薬局方	1
		医療分析学	1
		機器分析学	1
		有機化学Ⅰ（化学物質の性質と反応）	2
		有機化学Ⅱ（有機化合物の官能基）	1
		無機薬品化学	1
		薬品製造学	1
		生体分子学Ⅰ	1
		生体分子学Ⅱ	1
		薬用植物学	1
		生薬学	1
		天然物化学	1
		東洋医学（中医学）	1
		漢方概論	1
		生物科学入門	1
		基礎生物学	1
		機能形態学	2
		生化学	1

薬学部 薬学科			
授 業 科 目			単位数
Ⅱ 群	専 門 科 目	生命情報学	1
		生理化学Ⅰ	1
		生理化学Ⅱ	1
		微生物学	1
		生体防御学（免疫）	1
		病原微生物学Ⅰ（微生物と感染）	1
		病原微生物学Ⅱ（感染症治療薬）	1
		遺伝子工学	1
		衛生化学Ⅰ（栄養と健康）	2
		衛生化学Ⅱ（化学物質の生体への影響）	2
		栄養科学	1
		環境健康学Ⅰ（社会・集団と健康）	2
		環境健康学Ⅱ（生活環境と健康）	2
		薬理学Ⅰ（総論と神経薬理）	1
		薬理学Ⅱ（臓器別薬理）	1
		薬理学Ⅲ（炎症と血液薬理）	1
		薬物治療学Ⅰ（臓器別疾患）	2
		薬物治療学Ⅱ（臓器別疾患）	1
		薬物治療学Ⅲ（免疫と悪性腫瘍）	1
		薬物治療学Ⅳ（臨床薬理）	1
		病態生理学Ⅰ（症状と疾患）	1
		病態生理学Ⅱ（症状と疾患）	1
		病態検査学Ⅰ（臨床検査値と疾病）	1
		病態検査学Ⅱ（臨床検査値と疾病）	1
		生物薬剤学（薬物の生体内運命）	2
		臨床薬剤学（薬物治療に役立つ情報）	2
		物理薬剤学（製剤化のサイエンス）	2
		医薬品開発論Ⅰ	1
		医薬品開発論Ⅱ	1
		医療薬学（コミュニティファーマシー）	2
		調剤学（処方せんと調剤）	2
		臨床薬学概論	1
		薬事関係法・制度	2
		化粧品科学	1*
		和漢薬学	1*
		鍼灸学	1*
		漢方（中医）処方学	1*
		先端医薬品論（薬を探す、創る、使う）	1*
		薬局薬品学	1*
		薬物送達学	1*
		薬局経営学	1*
		法医裁判化学	1*
		血液学総論	1*
		臨床生理学	1*
		毒性学	1*
		総合薬学研究	15
		総合薬学演習	17
実 習 系 科 目	基礎化学系実習	1.5	
	有機化学系実習	1.5	
	物理化学系実習	1.5	
	分析化学系実習	1.5	
	生化学系実習	1.5	
	生体防御系実習	1.5	
	天然物化学系実習	1.5	
	衛生環境系実習	1.5	
	病態解析系実習	1.5	
	薬理系実習	1.5	
	薬剤系実習	1.5	
	臨床薬学系実習	1.5	
	実務事前学習	5	
	実務実習	20	
目 科	高度医療薬剤師演習	5*	
	東洋医薬学演習	5*	
	健康医療薬学演習	5*	
Ⅱ 群 単 位 計			181
単 位 計			212

備考 *は選択科目、☆は自由科目を示す。

別表 2

学費

学費 \ 学部	薬 学 部	国際コミュニケーション学部	経済経営学部	医療保健学部
入 学 金	200,000	200,000	200,000	200,000
授 業 料	1,500,000	750,000	650,000	1,100,000
教 育 充 実 費	450,000	350,000	300,000	400,000
合 計	2,150,000	1,300,000	1,150,000	1,700,000

[備考]1. 留学生の学費は減免することがある。

別表 2 - (1)

学費

学費 \ 学部	薬 学 部	未来創造学部
入 学 金	200,000	200,000
授 業 料	1,700,000	900,000
教 育 充 実 費	600,000	300,000
合 計	2,500,000	1,400,000

[備考]1. 留学生の学費は減免することがある。

2. 未来創造学部学費には、海外留学費を含まない。

別表3 教育職員免許状取得に関する修得単位数
未来創造学部 国際教養学科 国際マネジメント学科

免許教科	免許状の種類	教科に関する科目	教職に関する科目	※教科又は教職に関する科目
		免許状取得に必要な最低修得単位数		
英 語	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	20	31	8
	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状		23	16
社 会	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状		31	8
保健体育	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状		31	8
	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状		23	16
地理歴史	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状		23	16
公 民	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状		23	16

備考 最低修得単位数を超えて修得した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」は「教科又は教職に関する科目」に算入される。

教職に関する学科目の名称及び単位数

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目	各科目に含める必要事項	授業科目	単位数	
教職の意義等に関する科目	・ 教職の意義及び教員の役割 ・ 教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・ 進路選択に資する各種の機会の提供等	教職論	2	
教育の基礎理論に関する科目	・ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論	2	
	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)	教育心理学概論Ⅰ	2	
		教育心理学概論Ⅱ	2	
	・ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育制度論	2	
教育課程及び指導法に関する科目	・ 教育課程の意義及び編成の方法 ・ 各教科の指導法	英語科教育法Ⅰ	2	該当教科の指導法を履修。各教科の指導法科目より、中免は8単位、高免は6単位必修
		英語科教育法Ⅱ	2	
		英語科教育法Ⅲ	2	
		英語科教育法Ⅳ	2	
		保健体育科教育法Ⅰ	2	
		保健体育科教育法Ⅱ	2	
		保健体育科教育法Ⅲ	2	
		保健体育科教育法Ⅳ	2	
		中学社会科教育法Ⅰ	2	
		中学社会科教育法Ⅱ	2	
		中学・高校地理歴史教育法Ⅰ	2	
		中学・高校地理歴史教育法Ⅱ	2	
		中学・高校公民教育法Ⅰ	2	
		中学・高校公民教育法Ⅱ	2	
	・ 道徳の指導法	道徳教育論	2	
	・ 特別活動の指導法	特別活動論	2	
	・ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導論	2	
	・ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談	2	
教育実習		教育実習事前・事後指導	1	中免のみ必修
		教育実習Ⅰ	2	
		教育実習Ⅱ	2	
教職実践演習		教職実践演習(中・高)	2	

教科に関する学科目の名称及び単位数(国際教養学科)

学部・学科等		免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備 考
			授業科目	単位数	
未来創造学部 国際教養学科	中一種免・高一種免（英語）	英語学	○ 英語学概論Ⅰ	2	2科目4単位以上 選択必修
			英語学概論Ⅱ	2	
			○ 音声学Ⅰ	2	
			○ 音声学Ⅱ	2	
			英語学特講AⅠ	2	
			英語学特講BⅠ	2	
			英語学特講AⅡ	2	
			英語学特講BⅡ	2	
			英語史	2	
			言語学概論Ⅰ	2	
			言語学概論Ⅱ	2	
			英米文学	○ アメリカ文学史	
		○ イギリス文学史		2	
		英米文学特講Ⅰ		2	
		英米文学特講Ⅱ		2	
		英語コミュニケーション	○ イングリッシュコミュニケーションⅢ	1	
			○ イングリッシュコミュニケーションⅣ	1	
			○ イングリッシュコミュニケーションⅤ	1	
			○ イングリッシュコミュニケーションⅥ	1	
			英語文法学演習Ⅰ	1	
			英語文法学演習Ⅱ	1	
		異文化理解	日米関係論	2	2科目4単位以上 選択必修
ヨーロッパの文化	2				
現代ヨーロッパ論	2				
中国の文化と社会	2				
日中関係論	2				
現代アメリカ論	2				
アメリカの文化	2				
EU研究	2				

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教科に関する学科目の名称及び単位数(国際マネジメント学科)

学部・学科等		免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備考
			授業科目	単位数	
未来創造学部 国際マネジメント学科	中一種免（社会）	日本史及び外国史	○ 日本史	2	
			日本近代史	2	
			日本現代史	2	
			アメリカ現代史	2	
			ヨーロッパ現代史	2	
			東アジア現代史	2	
			日本の伝統芸術	2	
			日本経済史	2	
			○ 東洋史	2	
			○ 西洋史	2	
		地理学 （地誌を含む。）	○ 人文地理概論Ⅰ	2	
			○ 人文地理概論Ⅱ	2	
			○ 自然地理Ⅰ	2	
			○ 自然地理Ⅱ	2	
			○ 地誌	2	
			観光地理学	2	
		「法学、政治学」	○ 法学入門Ⅰ	2	
			法学入門Ⅱ	2	
			刑法Ⅰ	2	
			民法（総則）	2	
			○ 政治学Ⅰ	2	
○ 政治学Ⅱ	2				
「社会学、経済学」	○ 社会学	2			
	国際社会論	2			
	○ マクロ経済学	2			
	○ ミクロ経済学	2			
「哲学、倫理学、宗教学」	哲学	2	1科目2単位以上 選択必修		
	倫理学	2			
	宗教学入門	2			

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教科に関する学科目の名称及び単位数(国際マネジメント学科)

学部・学科等	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備考
		授業科目	単位数	
未来創造学部 国際マネジメント学科	中一種免・高一種免(保健体育)	体育実技	☐ スポーツ実習Ⅰ 1 ☐ スポーツ実習Ⅱ 1 ☐ スポーツ実習Ⅲ 1 ☐ スポーツ実習Ⅳ 1 ☐ スポーツ実習Ⅴ 1 ☐ スポーツ実習Ⅵ 1 ☐ スポーツ実習Ⅶ 1 ☐ スポーツ実習Ⅷ 1 ☐ スポーツ実習Ⅸ 1	
		「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学(運動方法学を含む。)	☐ 体育原理 2 ☐ 運動・動作学 2 ☐ 運動心理学 2 スポーツ法学研究 2 ☐ スポーツマネジメント 2 ☐ スポーツ社会学 2 トレーニング論 2 アスリートサポート演習 2 ☐ スポーツ栄養学 2 ☐ コーチング学 2 指導実践Ⅱ 2	
		生理学(運動生理学を含む。)	☐ 生理学 2 ☐ 運動生理学 2 生命科学 2	
		衛生学及び公衆衛生学	☐ 衛生学 2 ☐ 公衆衛生学 2 健康管理学 2	
		学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	☐ 学校保健 2 ☐ 救急処置 2 ☐ 性教育 2 発育発達論Ⅰ 2 発育発達論Ⅱ 2	

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教科に関する学科目の名称及び単位数(国際マネジメント学科)

学部・学科等		免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備 考
			授業科目	単位数	
未来創造学部 国際マネジメント学科	高一種免（地理歴史）	日本史	○ 日本史	2	1科目2単位以上 選択必修
			日本近代史	2	
			日本現代史	2	
			日本の伝統芸術	2	
			日本文化史	2	
			日本経済史	2	
		外国史	○ 東洋史	2	2科目4単位以上 選択必修
			○ 西洋史	2	
			アメリカ現代史	2	
			ヨーロッパ現代史	2	
東アジア現代史	2				
国際関係史	2				
人文地理学及び 自然地理学	○ 人文地理概論Ⅰ	2			
	○ 人文地理概論Ⅱ	2			
	○ 自然地理Ⅰ	2			
	○ 自然地理Ⅱ	2			
	観光地理学	2			
地誌	○ 地誌	2			

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教科に関する学科目の名称及び単位数(国際マネジメント学科)

学部・学科等		免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備 考
			授業科目	単位数	
未来創造学部 国際マネジメント学科	高一種免（公民）	「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」	○ 法学入門Ⅰ	2	2科目4単位以上 選択必修
			○ 法学入門Ⅱ	2	
			刑法Ⅰ	2	
			刑法Ⅱ	2	
			民法(総則)	2	
			民法(契約)	2	
			民法(物権)	2	
			民法(債権Ⅰ)	2	
			民法(債権Ⅱ)	2	
			○ 政治学Ⅰ	2	
			○ 政治学Ⅱ	2	
			行政学	2	
		「社会学、経済学(国際経済を含む。)」	○ 社会学	2	1科目2単位以上 選択必修
			国際社会論	2	
			○ マクロ経済学	2	
○ ミクロ経済学	2				
欧米経済論	2				
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	国際経済学Ⅰ	2	1科目2単位以上 選択必修		
	国際経済学Ⅱ	2			
	哲学	2			
	倫理学	2			
	宗教学入門	2			

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教育職員免許法施行規則第66条の6に定められる科目

学部・学科等		免許法施行規則に定める科目	左記に対応する開設授業科目		備考
			授業科目	単位数	
未来創造学部	国際教養学科	日本国憲法	憲法Ⅰ 憲法Ⅱ	2 2	2単位以上
		体育	スポーツ科学 スポーツⅠ スポーツⅡ スポーツⅢ スポーツⅣ	2 1 1 1 1	2単位以上
		外国語コミュニケーション	イングリッシュコミュニケーションⅠ イングリッシュコミュニケーションⅡ	1 1	2単位以上
		情報機器の操作	情報処理入門	2	
	国際マネジメント学科	日本国憲法	憲法Ⅰ 憲法Ⅱ	2 2	2単位以上
		体育	スポーツ科学 スポーツⅠ スポーツⅡ スポーツⅢ スポーツⅣ	2 1 1 1 1	2単位以上
		外国語コミュニケーション	イングリッシュコミュニケーションⅠ イングリッシュコミュニケーションⅡ 基礎中国語Ⅰ 基礎中国語Ⅱ 基礎中国語Ⅲ 基礎中国語Ⅳ	1 1 1 1 1 1	2単位以上
		情報機器の操作	情報処理入門	2	

別表3 教育職員免許状取得に関する修得単位数
経済経営学部 マネジメント学科

免許教科	免許状の種類	教科に関する科目	教職に関する科目	※教科又は教職に関する科目
		免許状取得に必要な最低修得単位数		
社会	中学校教諭一種免許状	20	31	8
保健体育	中学校教諭一種免許状		31	8
	高等学校教諭一種免許状		23	16
地理歴史	高等学校教諭一種免許状		23	16
公民	高等学校教諭一種免許状		23	16

備考 最低修得単位数を超えて修得した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」は「教科又は教職に関する科目」に算入される。

教職に関する学科目の名称及び単位数

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目	各科目に含める必要事項	授業科目	単位数	
教職の意義等に関する科目	・ 教職の意義及び教員の役割 ・ 教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・ 進路選択に資する各種の機会の提供等	教職論	2	
教育の基礎理論に関する科目	・ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論	2	
	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)	教育心理学概論Ⅰ	2	
		教育心理学概論Ⅱ	2	
	・ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育制度論	2	
教育課程及び指導法に関する科目	・ 教育課程の意義及び編成の方法 ・ 各教科の指導法	保健体育科教育法Ⅰ	2	該当教科の指導法を履修。各教科の指導法科目より、中免は8単位、高免は6単位必修
		保健体育科教育法Ⅱ	2	
		保健体育科教育法Ⅲ	2	
		保健体育科教育法Ⅳ	2	
		中学社会科教育法Ⅰ	2	
		中学社会科教育法Ⅱ	2	
		中学・高校地理歴史教育法Ⅰ	2	
		中学・高校地理歴史教育法Ⅱ	2	
		中学・高校公民教育法Ⅰ	2	
		中学・高校公民教育法Ⅱ	2	
	・ 道徳の指導法	道徳教育論	2	
	・ 特別活動の指導法	特別活動論	2	
	・ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導論	2	
	・ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談	2	
教育実習		教育実習事前・事後指導	1	中免のみ必修
		教育実習Ⅰ	2	
		教育実習Ⅱ	2	

教科に関する学科目の名称及び単位数

学部・学科等		免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備考
			授業科目	単位数	
経済経営学部 マネジメント学科	中一種免（社会）	日本史及び外国史	○ 日本史	2	
		日本近代史	2		
		日本現代史	2		
		アメリカ現代史	2		
		ヨーロッパ現代史	2		
		東アジア現代史	2		
		日本の伝統芸術	2		
		日本経済史	2		
		○ 東洋史	2		
		○ 西洋史	2		
		地理学 （地誌を含む。）	○ 人文地理概論Ⅰ	2	
		○ 人文地理概論Ⅱ	2		
		○ 自然地理Ⅰ	2		
		○ 自然地理Ⅱ	2		
		○ 地誌	2		
		観光地理学	2		
		「法学、政治学」	○ 法学入門Ⅰ	2	
		法学入門Ⅱ	2		
		刑法Ⅰ	2		
		民法（総則）	2		
		○ 政治学Ⅰ	2		
		○ 政治学Ⅱ	2		
「社会学、経済学」	○ 社会学	2			
国際社会論	2				
○ マクロ経済学	2				
○ ミクロ経済学	2				
「哲学、倫理学、宗教学」	哲学	2	1科目2単位以上 選択必修		
倫理学	2				
宗教学入門	2				

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教科に関する学科目の名称及び単位数

学部・学科等	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備考
		授業科目	単位数	
経済経営学部 マネジメント学科	中一種免・高一種免（保健体育）	体育実技	○ スポーツ実習Ⅰ 1 ○ スポーツ実習Ⅱ 1 ○ スポーツ実習Ⅲ 1 ○ スポーツ実習Ⅳ 1 ○ スポーツ実習Ⅴ 1 ○ スポーツ実習Ⅵ 1 ○ スポーツ実習Ⅶ 1 ○ スポーツ実習Ⅷ 1 ○ スポーツ実習Ⅸ 1	
		「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む。）	○ 体育原理 2 ○ 運動・動作学 2 ○ 運動心理学 2 ○ スポーツ法学研究 2 ○ スポーツマネジメント 2 ○ スポーツ社会学 2 ○ トレーニング論 2 ○ アスリートサポート演習 2 ○ スポーツ栄養学 2 ○ コーチング学 2 ○ 指導実践Ⅱ 2	
		生理学（運動生理学を含む。）	○ 生理学 2 ○ 運動生理学 2 ○ 生命科学 2	
		衛生学及び公衆衛生学	○ 衛生学 2 ○ 公衆衛生学 2 ○ 健康管理学 2	
		学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	○ 学校保健 2 ○ 救急処置 2 ○ 性教育 2 ○ 発育発達論Ⅰ 2 ○ 発育発達論Ⅱ 2	

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教科に関する学科目の名称及び単位数

学部・学科等	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備 考
		授業科目	単位数	
経済経営学部 マネジメント学科	高一種免（地理歴史）	日本史	○ 日本史	1科目2単位以上 選択必修
			日本近代史	
			日本現代史	
			日本の伝統芸術	
			日本文化史	
			日本経済史	
	外国史		○ 東洋史	2科目4単位以上 選択必修
			○ 西洋史	
			アメリカ現代史	
			ヨーロッパ現代史	
			東アジア現代史	
			国際関係史	
	人文地理学及び 自然地理学		○ 人文地理概論Ⅰ	
			○ 人文地理概論Ⅱ	
			○ 自然地理Ⅰ	
			○ 自然地理Ⅱ	
			観光地理学	
	地誌		○ 地誌	

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教科に関する学科目の名称及び単位数

学部・学科等		免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備 考
			授業科目	単位数	
経済経営学部 マネジメント学科	高一種免（公民）	「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」	○ 法学入門Ⅰ	2	2科目4単位以上 選択必修
			○ 法学入門Ⅱ	2	
			刑法Ⅰ	2	
			刑法Ⅱ	2	
			民法(総則)	2	
			民法(契約)	2	
			民法(物権)	2	
			民法(債権Ⅰ)	2	
			民法(債権Ⅱ)	2	
			○ 政治学Ⅰ	2	
			○ 政治学Ⅱ	2	
			行政学	2	
		「社会学、経済学(国際経済を含む。)」	○ 社会学	2	1科目2単位以上 選択必修
			国際社会論	2	
			○ マクロ経済学	2	
			○ ミクロ経済学	2	
			欧米経済論	2	
			国際経済学Ⅰ	2	
			国際経済学Ⅱ	2	
		「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲学	2	1科目2単位以上 選択必修
			倫理学	2	
			宗教学入門	2	

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教育職員免許法施行規則第66条の6に定められる科目

学部・学科等		免許法施行規則に定める科目	左記に対応する開設授業科目		備考
			授業科目	単位数	
経済経営学部	マネジメント学科	日本国憲法	憲法Ⅰ	2	2単位以上
			憲法Ⅱ	2	
		体育	スポーツ科学	2	2単位以上
			スポーツⅠ	1	
			スポーツⅡ	1	
			スポーツⅢ	1	
			スポーツⅣ	1	
		外国語コミュニケーション	イングリッシュコミュニケーションⅠ	1	2単位以上
			イングリッシュコミュニケーションⅡ	1	
			基礎中国語Ⅰ	1	
			基礎中国語Ⅱ	1	
			基礎中国語Ⅲ	1	
			基礎中国語Ⅳ	1	
		情報機器の操作	情報処理入門	2	

別表3 教育職員免許状取得に関する修得単位数

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科

免許教科	免許状の種類	教科に関する 科目	教職に関する 科目	※教科又は教職 に関する科目
		免許状取得に必要な最低修得単位数		
英語	中学校教諭一種免許状	20	31	8
	高等学校教諭一種免許状		23	16

備考 最低修得単位数を超えて修得した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」は「教科又は教職に関する科目」に算入される。

教職に関する学科目の名称及び単位数

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備考
科目	各科目に含める必要事項	授業科目	単位数	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	○教職論	2	
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	○教育学概論	2	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	○教育心理学	2	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	○教育社会学	2	
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	○教育課程論	2	
	・各教科の指導法	○英語科教育法Ⅰ	2	
		○英語科教育法Ⅱ	2	
		○英語科教育法Ⅲ	2	
		○英語科教育法Ⅳ	2	
	・道徳の指導法	道徳教育論	2	中免のみ必修
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・特別活動の指導法	○特別活動論	2	
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	○教育方法論	2	
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	○生徒・進路指導論	2	
教育実習		○教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	2	
		○教育実習事前事後指導	1	中免のみ必修
		○教育実習Ⅰ	2	
教職実践演習		教育実習Ⅱ	2	
		○教職実践演習（中・高）	2	

○は免許状を取得する場合の必修科目

教科に関する学科目の名称及び単位数

学部・ 学科等	免許状 の種類	免許法施行規則に 定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備考
			授業科目	単位数	
国際コミュニケーション学部・国際コミュニケーション学科	中一種免・高一種免（英語）	英語学	○英語学概論	2	
			○言語学入門	2	
			○音声学	2	
			○Basic Grammar I	1	
			○Basic Grammar II	1	
			Advanced Grammar I	1	
			Advanced Grammar II	1	
		英米文学	○英米文学史	2	
		英語コミュニケーション	○Basic Reading I	1	
			○Basic Reading II	1	
			Advanced Reading I	1	
			Advanced Reading II	1	
			○Basic Writing I	1	
			○Basic Writing II	1	
			Advanced Writing I	1	
			Advanced Writing II	1	
			○Practical Communication I	1	
			○Practical Communication II	1	
		異文化理解	○英語圏の文化と社会	2	
			国際関係学入門	2	
			○現代アメリカ論	2	

○は免許状を取得する場合の必修科目

教科又は教職に関する科目の名称及び単位数

学部・ 学科等	免許法施行規則に定める 科目区分	左記に対応する開設授業科目		備考
		授業科目	単位数	
国際 コミュニケーション学部・ 国際コミュニケーション学科	教科又は教職に関する科目	英語専門研究Ⅰ	2	高免のみ適用
		英語専門研究Ⅱ	2	
		英語専門研究Ⅲ	2	
		英語専門研究Ⅳ	2	
		道德教育論	2	

教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められる科目

学部・ 学科等	免許法施行規則に 定める科目	左記に対応する開設授業科目		備考
		授業科目	単位数	
国際 コミュニケーション学部・ 国際コミュニケーション学科	日本国憲法	○日本国憲法	2	
	体育	スポーツⅠ	1	これら5科目より 2科目必修
		スポーツⅡ	1	
		スポーツⅢ	1	
		スポーツⅣ	1	
		スポーツ科学	2	
	外国語コミュニケーション	Basic SpeakingⅠ	1	これら4科目より 2科目必修
		Basic SpeakingⅡ	1	
		Advanced SpeakingⅠ	1	
		Advanced SpeakingⅡ	1	
	情報機器の操作	○情報処理入門	2	

○は免許状を取得する場合の必修科目

別表3-(1) 教育職員免許状取得に関する修得単位数
 未来創造学部 国際教養学科 国際マネジメント学科

免許教科	免許状の種類	教科に関する科目	教職に関する科目	※教科又は教職に関する科目
		免許状取得に必要な最低修得単位数		
英 語	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	20	31	8
	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状		23	16
社 会	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状		31	8
保健体育	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状		31	8
	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状		23	16
地理歴史	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状		23	16
公 民	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状		23	16

備考 最低修得単位数を超えて修得した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」は「教科又は教職に関する科目」に算入される。

教職に関する学科目の名称及び単位数

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目		備 考
科目	各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数	
教職の意義等に関する科目	・ 教職の意義及び教員の役割 ・ 教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・ 進路選択に資する各種機会の提供等	2	○教師論	2	
教育の基礎理論に関する科目	・ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	○教育学概論	2	
	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)		○教育心理学概論Ⅰ	2	
	・ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		○教育心理学概論Ⅱ	2	
教育課程及び指導法に関する科目	・ 教育課程の意義及び編成の方法	中12 高 6	○教育制度論	2	
	・ 各教科の指導法		○英語科教育法Ⅰ	2	該当教科の指導法について必修
			○英語科教育法Ⅱ	2	
			○英語科教育法Ⅲ	2	中一種免必修
			英語科教育法Ⅳ	2	
			○社会教育法Ⅰ	2	中一種免必修
			○社会教育法Ⅱ(地理歴史)	2	
			○社会教育法Ⅲ(公民)	2	中一種免必修
			社会教育法Ⅳ	2	
			○保健体育教育法Ⅰ	2	中一種免必修
			○保健体育教育法Ⅱ	2	
			○保健体育教育法Ⅲ	2	中一種免必修
			保健体育教育法Ⅳ	2	
	・ 道徳の指導法		○道徳教育論	2	
	・ 特別活動の指導法		○特別活動論	2	
	・ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		○教育情報機器論	2	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・ 生徒指導の理論及び方法	4	○生徒指導・進路指導論	2	
	・ 進路指導の理論及び方法		○教育カウンセリング概論	2	
教育実習	・ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	中 5 高 3	○教育実習事前・事後指導	1	中一種免必修
			○教育実習Ⅰ	2	
			教育実習Ⅱ	2	
教職実践演習		2	○教職実践演習(中・高)	2	

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教科に関する学科目の名称及び単位数(国際教養学科)

学部・ 学科等		免許法施行規則に 定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備 考
			授業科目	単位数		
				必修	選択	
未来創造学部 国際教養学科	中一 種免・高一 種免（英語）	英語学	○ 英語学概論		2	
			○ 音声学Ⅰ		2	
			○ 音声学Ⅱ		2	
			英語学特講Ⅰ		2	
			英語学特講Ⅱ		2	
			英語史		2	
			言語学概論		2	
		英米文学	○ アメリカの文学と文学史		2	
			○ イギリスの文学と文学史		2	
			英米文学特講Ⅰ		2	
			英米文学特講Ⅱ		2	
		英語コミュニケーション	ディスカッション&ディベート演習Ⅲ		2	2単位以上 選択必修
			ディスカッション&ディベート演習Ⅳ		2	
			ディスカッション&ディベート演習Ⅴ		2	
			ディスカッション&ディベート演習Ⅵ		2	
			上級英語ライティングⅠ		1	
			上級英語ライティングⅡ		1	
		異文化理解	日米の文化交流史		2	1科目2単位 選択必修
			日欧の文化交流史		2	
			日中の文化交流史		2	
			北アメリカ研究Ⅰ		2	
			北アメリカ研究Ⅱ		2	
			アメリカの歴史		2	
			アメリカの文化		2	
			EU研究Ⅰ		2	
			EU研究Ⅱ		2	

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教科に関する学科目の名称及び単位数(国際マネジメント学科)

学部・学科等		免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備 考
			授業科目	単位数		
				必修	選択	
未来創造学部 国際マネジメント学科	中一種免・高一種免（社会）	日本史及び外国史	○ 日本史		2	
		日本近現代史Ⅰ		2		
		日本近現代史Ⅱ		2		
		欧米現代史Ⅰ		2		
		欧米現代史Ⅱ		2		
		中国現代史Ⅰ		2		
		中国現代史Ⅱ		2		
		日本の伝統芸術Ⅰ		2		
		日本の伝統芸術Ⅱ		2		
		アメリカの歴史		2		
		ヨーロッパの文化史		2		
		○ 東洋史		2		
		○ 西洋史		2		
		地理学 （地誌を含む）	○ 人文地理概論Ⅰ		2	
		○ 人文地理概論Ⅱ		2		
		○ 自然地理Ⅰ		2		
		○ 自然地理Ⅱ		2		
		○ 地誌		2		
			観光地理学		2	
		「法学、政治学」	基礎法学Ⅰ		2	1科目2単位 選択必修
基礎法学Ⅱ		2				
	刑法総論Ⅰ		2	1科目2単位 選択必修		
刑法総論Ⅱ		2				
民法総則Ⅰ		2				
民法総則Ⅱ		2				
政治学Ⅰ		2				
政治学Ⅱ		2				
「社会学、経済学」	社会学		2			
グローバル時代の国際社会		2				
マクロ経済学	2					
ミクロ経済学	2					
「哲学、倫理学、宗教学」	哲学		2	1科目2単位 選択必修		
倫理学		2				
世界三大宗教入門		2				
宗教と社会		2				

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教科に関する学科目の名称及び単位数(国際マネジメント学科)

学部・ 学科等		免許法施行規則に 定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備 考
			授業科目	単位数		
				必修	選択	
未来創造学部 国際マネジメント学科	中一 種免・高一 種免（地理 歴史）	日本史	○ 日本史		2	1科目2単位 選択必修
			日本近現代史Ⅰ		2	
			日本近現代史Ⅱ		2	
			日本の伝統芸術Ⅰ		2	
			日本の伝統芸術Ⅱ		2	
		外国史	○ 東洋史		2	
			○ 西洋史		2	
			欧米現代史Ⅰ		2	
			欧米現代史Ⅱ		2	
			中国現代史Ⅰ		2	
			中国現代史Ⅱ		2	
			アメリカの歴史		2	
			日米の文化交流史		2	
			日欧の文化交流史		2	
			日中の文化交流史		2	
			ヨーロッパの文化史		2	
	人文地理及び 自然地理	○ 人文地理学Ⅰ		2		
		○ 人文地理学Ⅱ		2		
		○ 自然地理Ⅰ		2		
		○ 自然地理Ⅱ		2		
		観光地理学		2		
	地誌	○ 地誌		2		

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教科に関する学科目の名称及び単位数(国際マネジメント学科)

学部・学科等		免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備 考
			授業科目	単位数		
				必修	選択	
未来創造学部 国際マネジメント学科	中一種免・高一種免（公民）	「法学(国際法含む。)、政治学(国際政治含む)。」	基礎法学Ⅰ		2	1科目2単位 選択必修
			基礎法学Ⅱ		2	
			刑法総論Ⅰ		2	
			刑法総論Ⅱ		2	
			刑法各論Ⅰ		2	
			刑法各論Ⅱ		2	
			民法総則Ⅰ		2	
			民法総則Ⅱ		2	
			民法物権Ⅰ		2	
			民法物権Ⅱ		2	
			民法債権Ⅰ		2	
			民法債権Ⅱ		2	
			政治学Ⅰ		2	1科目2単位 選択必修
			政治学Ⅱ		2	
			行政学Ⅰ		2	
			行政学Ⅱ		2	
			日本の安全保障		2	
			安全保障論		2	
	「社会学、経済学(国際経済を含む。)」	社会学		2	1科目2単位 選択必修	
		グローバル時代の国際社会		2		
		マクロ経済学	2			
		ミクロ経済学	2			
		アメリカ経済論		2		
		グローバル時代の経済Ⅰ		2		
	「哲学、倫理学、宗教学」	グローバル時代の経済Ⅱ		2	1科目2単位 選択必修	
		哲学		2		
		倫理学		2		
		世界三大宗教入門		2		
		宗教と社会		2		

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教科に関する学科目の名称及び単位数(国際マネジメント学科)

学部・学科等		免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考
			授業科目	単位数		
				必修	選択	
未来創造学部 国際マネジメント学科	中学校一種・（保健体育）・高一種免（保健体育）	体育実技	○ スポーツ実習Ⅰ スポーツ実習Ⅱ スポーツ実習Ⅲ スポーツ実習Ⅳ スポーツ実習Ⅴ スポーツ実習Ⅵ スポーツ実習Ⅶ スポーツ実習Ⅷ		1 1 1 1 1 1 1 1	
		「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む。）	○ 体育原理 ○ 運動・動作学 ○ 運動心理学 ○ スポーツ社会学 ○ スポーツマネジメント トレーニング論 アスリートサポート演習 コーチング演習Ⅱ 指導実践Ⅱ		2 2 2 2 2 2 2 2 2	
		生理学（運動生理学含む）	生理学 運動生理学 生命科学		2 2 2	□ 1科目2単位 選択必修
		衛生学及び公衆衛生学	衛生学 公衆衛生学 健康管理学		2 2 2	□ 1科目2単位 選択必修
		学校保健（小児保健、精神保健、学校安全、及び救急処置を含む）	○ 学校保健 ○ 救急処置		2 2	

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

教育職員免許法施行規則第66条の6に定められる科目

学部・学科等		免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設授業科目				備考
				授業科目		単位数		
		科目	単位数			必修	選択	
未来創造学部	国際教養学科	日本国憲法	2	憲法Ⅰ 憲法Ⅱ		2 2	これら2科目より1科目選択必修	
		体育	2	スポーツ科学 スポーツⅠ スポーツⅡ スポーツⅢ スポーツⅣ		2 2 2 2 2		2単位以上
		外国語コミュニケーション	2	ディスカッション&ディベート演習Ⅰ ディスカッション&ディベート演習Ⅱ		2 2	2単位以上	
		情報機器の操作	2	情報処理入門		2		
		国際マネジメント学科	日本国憲法	2	憲法Ⅰ 憲法Ⅱ		2 2	これら2科目より1科目選択必修
	体育		2	スポーツ科学 スポーツⅠ スポーツⅡ スポーツⅢ スポーツⅣ		2 2 2 2 2	2単位以上	
	外国語コミュニケーション		2	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 中国語初級Ⅰ 中国語初級Ⅱ		1 1 1 1 3 3		2単位以上
	情報機器の操作		2	情報処理入門		2		

学則変更の事由及び時期を記載した書類

【変更事由】

- (1) 医療保健学部医療技術学科の設置に伴い、関連事項を追加変更した。
- (2) 平成 29 年 4 月より、未来創造学部国際教養学科を募集停止し、国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科を設置することに伴い、関連事項を追加変更した。
- (3) 平成 29 年 4 月より、薬学部薬学科の入学定員及び収容定員を変更することに伴い、関連事項を追加変更した。
- (4) 平成 29 年 4 月より、未来創造学部国際マネジメント学科を経済経営学部マネジメント学科へ名称変更することに伴い、関連事項を追加変更した。

【変更事項】

- (1) 第 2 条（組織）第 1 項で、学部・学科の組織に医療保健学部医療技術学科を追加した。
- (2) 第 2 条（組織）第 1 項で、学部・学科の組織から未来創造学部の国際教養学科を削除し、国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科を追加した。
- (3) 第 2 条（組織）第 1 項で、薬学部薬学科の入学定員及び収容定員を変更した。
- (4) 第 2 条（組織）第 1 項で、学部・学科の組織の未来創造学部国際マネジメント学科を経済経営学部マネジメント学科に名称を変更した。また、入学定員、編入学定員及び収容定員を変更した。
- (5) 第 2 条の 2（養成する人材）で、学部・学科の人材養成の目的に医療保健学部医療技術学科を追加した。
- (6) 第 2 条の 2（養成する人材）で、学部・学科の人材養成の目的から未来創造学部の国際教養学科を削除し、国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科を追加した。
- (7) 第 2 条の 2（養成する人材）で、学部・学科の人材養成の目的の未来創造学部国際マネジメント学科を経済経営学部マネジメント学科に名称を変更した。
- (8) 第 8 条（学科課程、学科目の名称及び単位数）で教育課程について規定する別表 1 に、医療保健学部医療技術学科の科目表を追加した。
- (9) 第 8 条（学科課程、学科目の名称及び単位数）で教育課程について規定する別表 1 に、国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科の科目表を追加した。
- (10) 第 8 条（学科課程、学科目の名称及び単位数）で教育課程について規定する別表 1 の未来創造学部国際マネジメント学科を経済経営学部マネジメント学科に名称を変更した。
- (11) 第 10 条（修得すべき単位）について、医療保健学部医療技術学科を追加した。
- (12) 第 10 条（修得すべき単位）について、国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科を追加した。
- (13) 第 10 条（修得すべき単位）について、未来創造学部から国際教養学科を削除し、未来創造学部国際マネジメント学科を経済経営学部マネジメント学科に名称を変更した。

- (14) 第 14 条（修業年限及び在学期間）第 1 項及び第 2 項で、医療保健学部を追加した。
- (15) 第 14 条（修業年限及び在学期間）第 1 項及び第 2 項で、国際コミュニケーション学部を追加した。
- (16) 第 14 条（修業年限及び在学期間）第 1 項及び第 2 項で、未来創造学部を経済経営学部に変更した。
- (17) 第 16 条（学位）で、学士の学位に医療保健学部医療技術学科、学士（医療技術学）を追加した。
- (18) 第 16 条（学位）で、学士の学位から、未来創造学部国際教養学科、学士（文学）を削除し、国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科、学士（文学）を追加した。
- (19) 第 16 条（学位）で、学士の学位の未来創造学部国際マネジメント学科を経済経営学部マネジメント学科に変更した。
- (20) 第 34 条（納付金）で授業料、教育充実費等について規定する別表 2 に、医療保健学部を追加した。
- (21) 第 34 条（納付金）で授業料、教育充実費等について規定する別表 2 に、国際コミュニケーション学部を追加した。また、薬学部薬学科の学費の改訂に伴い、薬学部旧学費を適用する別表 2-（1）を追加した。
- (22) 第 34 条（納付金）で授業料、教育充実費等について規定する別表 2 の未来創造学部を経済経営学部に変更するとともに学費の改訂に伴い、未来創造学部旧学費を適用する別表 2-（1）を追加した。
- (23) 第 57 条（教職課程）第 2 項で、学科目の名称、単位数等について規定する別表 3 に、国際コミュニケーション学部を追加した。
- (24) 第 57 条（教職課程）第 2 項で、学科目の名称、単位数等について規定する別表 3 の未来創造学部から国際教養学科該当箇所を削除並びに国際マネジメント学科を経済経営学部マネジメント学科に変更した。
- (25) 第 58 条（教育職員免許資格）で、未来創造学部国際教養学科を削除し、国際コミュニケーション学部を追加した。
- (26) 第 58 条（教育職員免許資格）で、未来創造学部国際マネジメント学科を経済経営学部マネジメント学科に変更した。
- (27) 附則第 1 項に、学則の施行日を明記した。
- (28) 附則第 2 項に、未来創造学部国際教養学科の学生募集停止に関する事項を定めた。
- (29) 附則第 3 項に、未来創造学部国際マネジメント学科の学生に関する事項を定めた。
- (30) 附則第 4 項に、国際コミュニケーション学部及び経済経営学部の編入学定員に関する事項を定めた。
- (31) 附則第 5 項に、編入学定員及び収容定員に関する事項を定めた。
- (32) 附則第 6 項に、未来創造学部の人材養成の目的に関する事項を定めた。
- (33) 附則第 7 項に、未来創造学部の修業年限及び在籍期間に関する事項を定めた。

- (34) 附則第 8 項に、未来創造学部 of 学位に関する事項を定めた。
- (35) 附則第 9 項に、未来創造学部 of 教育職員免許状に関する事項を定めた。
- (36) 附則第 10 項 of 第 8 条、第 34 条及び第 57 条 of 別表適用表に医療保健学部、国際コミュニケーション学部及び経済経営学部を追加した。
- (37) 附則第 11 項に、第 10 条 of 別表 1 に関する事項を定めた。
- (38) 附則第 12 項に、第 10 条 of 別表 1 - (1) 及び別表 1 - (2) に関する事項を定めた。
- (39) 附則第 13 項に、第 10 項及び第 12 項 of 別表に関する事項を定めた。

【変更の時期】

平成 29 年 4 月 1 日

以上

北陸大学学則 新旧対照表

改 正 (案)	現 行	備 考																																													
(組織) 第2条 本学に次の学部、学科を置き、その定員は次のとおりとする。 <table><tr><td>学部</td><td>学科</td><td>入学定員</td><td>編入学定員</td><td>収容定員</td></tr><tr><td>薬学部</td><td>薬学科</td><td>220人</td><td></td><td>1,320人</td></tr><tr><td>経済経営学部</td><td>マネジメント学科</td><td>200人</td><td>3年次 123人</td><td>1,046人</td></tr><tr><td>国際コミュニケーション学部</td><td>国際コミュニケーション学科</td><td>80人</td><td>3年次</td><td>20人 360人</td></tr><tr><td>医療保健学部</td><td>医療技術学科</td><td>60人</td><td></td><td>240人</td></tr></table>	学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	薬学部	薬学科	220人		1,320人	経済経営学部	マネジメント学科	200人	3年次 123人	1,046人	国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	80人	3年次	20人 360人	医療保健学部	医療技術学科	60人		240人	(組織) 第2条 本学に次の学部、学科を置き、その定員は次のとおりとする。 <table><tr><td>学部</td><td>学科</td><td>入学定員</td><td>編入学定員</td><td>収容定員</td></tr><tr><td>薬学部</td><td>薬学科</td><td>306人</td><td></td><td>1,836人</td></tr><tr><td>未来創造学部</td><td>国際教養学科</td><td>100人</td><td>3年次 45人</td><td>490人</td></tr><tr><td>国際マナジメント学部</td><td>国際マナジメント学科</td><td>100人</td><td>3年次 120人</td><td>640人</td></tr></table>	学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	薬学部	薬学科	306人		1,836人	未来創造学部	国際教養学科	100人	3年次 45人	490人	国際マナジメント学部	国際マナジメント学科	100人	3年次 120人	640人	・薬学部薬学科の入学定員、収容定員を変更 ・未来創造学部国際マナジメント学科を経済経営学部マナジメント学科に名称変更し、入学定員及び編入学定員、収容定員を変更 ・未来創造学部国際教養学科を削除し、国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科を追加 ・医療保健学部医療技術学科を追加
学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員																																											
薬学部	薬学科	220人		1,320人																																											
経済経営学部	マネジメント学科	200人	3年次 123人	1,046人																																											
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	80人	3年次	20人 360人																																											
医療保健学部	医療技術学科	60人		240人																																											
学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員																																											
薬学部	薬学科	306人		1,836人																																											
未来創造学部	国際教養学科	100人	3年次 45人	490人																																											
国際マナジメント学部	国際マナジメント学科	100人	3年次 120人	640人																																											
2 本学に、留学生別科を置く。 (1) 留学生別科の入学定員及び収容定員は70人とする。 (2) 留学生別科に関し必要な事項は、北陸大学留学生別科規程に定める。 (養成する人材) 第2条の2 前条の学部、学科の人材養成の目的は、次のとおりとする。 (1) 薬学部 薬学科 医療人としての倫理観、使命感、責任感及び高度な薬学の知識・技能を身につけ、臨床の現場で実践的な能力を発揮できる薬剤師を養成する。 (2) 経済経営学部 グローバルな視野と異文化への深い理解、高いコミュニケーション力により、世界の人々と自由闊達に意見交換し、現代社会に生起するさまざまな課題に的確に対応し、あるべき未来を自ら創造できる人間力あふれる人材を養成する。 ・マネジメント学科 国際的な視野での実務的マネジメント力を身につけ、かつ幅広い知識と教養及び外国語コミュニケーション力を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。 (3) 国際コミュニケーション学部 地域社会及び地域産業のグローバル化に貢献し、世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚を持ったグローバル人材を養成する。	2 本学に、留学生別科を置く。 (1) 留学生別科の入学定員及び収容定員は70人とする。 (2) 留学生別科に関し必要な事項は、北陸大学留学生別科規程に定める。 (養成する人材) 第2条の2 前条の学部、学科の人材養成の目的は、次のとおりとする。 (1) 薬学部 薬学科 医療人としての倫理観、使命感、責任感及び高度な薬学の知識・技能を身につけ、臨床の現場で実践的な能力を発揮できる薬剤師を養成する。 (2) 未来創造学部 グローバルな視野と異文化への深い理解、高いコミュニケーション力により、世界の人々と自由闊達に意見交換し、現代社会に生起するさまざまな課題に的確に対応し、あるべき未来を自ら創造できる人間力あふれる人材を養成する。 ・国際教養学科 英語又は中国語のコミュニケーション能力を身につけ、国際感覚と豊かな教養を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。 ・国際マネジメント学科 国際的な視野での実務的マネジメント力を身につけ、かつ幅広い知識と教養及び外国語コミュニケーション力を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。	・未来創造学部を経済経営学部 に名称変更 ・国際教養学科を削除 ・国際マナジメント学科をマナジメント学科に名称変更 ・国際コミュニケーション学部を追加																																													

改正 (案)	現 行	備 考																																
・国際コミュニケーション学科 実践的な語学運用能力・コミュニケーション能力を基盤とし、世界の多様な価値観、及び日本として地域の魅力と強みを理解し、世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚を持ったグローバル人材を養成する。 (4) 医療保健学部 医療技術学科 医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識、技能を身に付け、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者を養成する。 第 5 章 学科課程及び履修方法 (学科課程、学科目の名称及び単位) 第 8 条 本学の学科課程、学科目の名称及び単位数は、別表 1 のとおりとする。 (修得すべき単位) 第 10 条 在学中に修得しなければならない学科目及び単位数は、次のとおりとする。	第 5 章 学科課程及び履修方法 (学科課程、学科目の名称及び単位) 第 8 条 本学の学科課程、学科目の名称及び単位数は、別表 1 のとおりとする。 (修得すべき単位) 第 10 条 在学中に修得しなければならない学科目及び単位数は、次のとおりとする。	・国際コミュニケーション学科を追加 ・医療保健学部医療技術学科を追加 ・別表 1 に国際コミュニケーション学部を追加 ・別表 1 に経済経営学部マネジメント学科を追加 ・別表 1 に医療保健学部医療技術学科を追加																																
<table><tr><th colspan="2">薬学部</th></tr><tr><td>【必修科目】 総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目 計 15 単位</td><td>【必修科目】 総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目 計 15 単位</td></tr><tr><td>I 群</td><td>I 群</td></tr><tr><td>【必修科目】 薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンスト教育専門コース演習科目 計 162.5 単位</td><td>【必修科目】 薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンスト教育専門コース演習科目 計 162.5 単位</td></tr><tr><td>II 群</td><td>II 群</td></tr><tr><td>【選択科目】 総合教養教育科目・1～3 年次薬学専門 8 単位以上 教育科目 4 年次薬学専門教育科目 4 単位以上 計 12 単位以上</td><td>【選択科目】 総合教養教育科目・1～3 年次薬学専門 8 単位以上 門教育科目 4 年次薬学専門教育科目 4 単位以上 計 12 単位以上</td></tr><tr><td>I・II 群</td><td>I・II 群</td></tr><tr><td>合計 189.5 単位以上</td><td>合計 189.5 単位以上</td></tr></table>	薬学部		【必修科目】 総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目 計 15 単位	【必修科目】 総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目 計 15 単位	I 群	I 群	【必修科目】 薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンスト教育専門コース演習科目 計 162.5 単位	【必修科目】 薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンスト教育専門コース演習科目 計 162.5 単位	II 群	II 群	【選択科目】 総合教養教育科目・1～3 年次薬学専門 8 単位以上 教育科目 4 年次薬学専門教育科目 4 単位以上 計 12 単位以上	【選択科目】 総合教養教育科目・1～3 年次薬学専門 8 単位以上 門教育科目 4 年次薬学専門教育科目 4 単位以上 計 12 単位以上	I・II 群	I・II 群	合計 189.5 単位以上	合計 189.5 単位以上	<table><tr><th colspan="2">薬学部</th></tr><tr><td>【必修科目】 総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目 計 15 単位</td><td>【必修科目】 総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目 計 15 単位</td></tr><tr><td>I 群</td><td>I 群</td></tr><tr><td>【必修科目】 薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンスト教育専門コース演習科目 計 162.5 単位</td><td>【必修科目】 薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンスト教育専門コース演習科目 計 162.5 単位</td></tr><tr><td>II 群</td><td>II 群</td></tr><tr><td>【選択科目】 総合教養教育科目・1～3 年次薬学専門 8 単位以上 教育科目 4 年次薬学専門教育科目 4 単位以上 計 12 単位以上</td><td>【選択科目】 総合教養教育科目・1～3 年次薬学専門 8 単位以上 門教育科目 4 年次薬学専門教育科目 4 単位以上 計 12 単位以上</td></tr><tr><td>I・II 群</td><td>I・II 群</td></tr><tr><td>合計 189.5 単位以上</td><td>合計 189.5 単位以上</td></tr></table>	薬学部		【必修科目】 総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目 計 15 単位	【必修科目】 総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目 計 15 単位	I 群	I 群	【必修科目】 薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンスト教育専門コース演習科目 計 162.5 単位	【必修科目】 薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンスト教育専門コース演習科目 計 162.5 単位	II 群	II 群	【選択科目】 総合教養教育科目・1～3 年次薬学専門 8 単位以上 教育科目 4 年次薬学専門教育科目 4 単位以上 計 12 単位以上	【選択科目】 総合教養教育科目・1～3 年次薬学専門 8 単位以上 門教育科目 4 年次薬学専門教育科目 4 単位以上 計 12 単位以上	I・II 群	I・II 群	合計 189.5 単位以上	合計 189.5 単位以上	
薬学部																																		
【必修科目】 総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目 計 15 単位	【必修科目】 総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目 計 15 単位																																	
I 群	I 群																																	
【必修科目】 薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンスト教育専門コース演習科目 計 162.5 単位	【必修科目】 薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンスト教育専門コース演習科目 計 162.5 単位																																	
II 群	II 群																																	
【選択科目】 総合教養教育科目・1～3 年次薬学専門 8 単位以上 教育科目 4 年次薬学専門教育科目 4 単位以上 計 12 単位以上	【選択科目】 総合教養教育科目・1～3 年次薬学専門 8 単位以上 門教育科目 4 年次薬学専門教育科目 4 単位以上 計 12 単位以上																																	
I・II 群	I・II 群																																	
合計 189.5 単位以上	合計 189.5 単位以上																																	
薬学部																																		
【必修科目】 総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目 計 15 単位	【必修科目】 総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目 計 15 単位																																	
I 群	I 群																																	
【必修科目】 薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンスト教育専門コース演習科目 計 162.5 単位	【必修科目】 薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンスト教育専門コース演習科目 計 162.5 単位																																	
II 群	II 群																																	
【選択科目】 総合教養教育科目・1～3 年次薬学専門 8 単位以上 教育科目 4 年次薬学専門教育科目 4 単位以上 計 12 単位以上	【選択科目】 総合教養教育科目・1～3 年次薬学専門 8 単位以上 門教育科目 4 年次薬学専門教育科目 4 単位以上 計 12 単位以上																																	
I・II 群	I・II 群																																	
合計 189.5 単位以上	合計 189.5 単位以上																																	

改正(案)			現行			備考
未来創造学部						
国際教養学科			国際マネジメント学科			
外国語科目 ※いずれかの言語を選択	英語 22 単位以上 日本語 22 単位以上 中国語 22 単位以上	英語 12 単位以上 日本語 12 単位以上 中国語 12 単位以上	外国語科目 ※いずれかの言語を選択	英語 22 単位以上 日本語 22 単位以上 中国語 22 単位以上	英語 12 単位以上 日本語 12 単位以上 中国語 12 単位以上	
基礎教育科目群	健康科目 2 単位以上 未来創造科目 4 単位 演習科目 16 単位 情報科目 2 単位以上 一般教養科目 4 単位以上 合計 28 単位以上 ※キャリアアコースツ科目、留学科目は卒業要件修得単位数に算入する。	健康科目 2 単位以上 未来創造科目 4 単位 演習科目 16 単位 情報科目 2 単位以上 一般教養科目 4 単位以上 合計 28 単位以上 ※キャリアアコースツ科目、留学科目は卒業要件修得単位数に算入する。	基礎教育科目群	健康科目 2 単位以上 未来創造科目 4 単位 演習科目 16 単位 情報科目 2 単位以上 一般教養科目 4 単位以上 合計 28 単位以上 ※キャリアアコースツ科目、留学科目は卒業要件修得単位数に算入する。	健康科目 2 単位以上 未来創造科目 4 単位 演習科目 16 単位 情報科目 2 単位以上 一般教養科目 4 単位以上 合計 28 単位以上 ※キャリアアコースツ科目、留学科目は卒業要件修得単位数に算入する。	
国際教養科目群	必修 10 単位 選択 40 単位以上 合計 50 単位以上	必修 10 単位 選択 40 単位以上 合計 50 単位以上	国際マネジメント科目群	必修 10 単位 選択 40 単位以上 合計 50 単位以上	必修 10 単位 選択 40 単位以上 合計 50 単位以上	
国際マネジメント科目群	卒業要件修得単位数に算入する。	卒業要件修得単位数に算入する。	国際教養科目群	卒業要件修得単位数に算入する。	卒業要件修得単位数に算入する。	
—	—	—	スポーツ専門実技科目群	—	教職科目 9 単位 サッカー指定科目 14 単位 ※卒業要件修得単位数に算入する。	
合計	128 単位以上	128 単位以上	合計	128 単位以上	合計 128 単位以上	

改 正 (案)		現 行	備 考
経済経営学部 マネジメント学科			
外国語科目 ※いずれかの 言語を選択	英語 12 単位以上 日本語 12 単位以上 中国語 12 単位以上		
基礎教育科目群	健康科目 2 単位以上 未来創造科目 4 単位 演習科目 16 単位 情報科目 2 単位以上 一般教養科目 4 単位以上 合計 28 単位以上 ※キャリア科目の一部、シティカレッジ科目、 留学科目は卒業要件修得単位数に算入する。		
国際マネジメント 科目群	必修 10 単位 選択 50 単位以上 合計 60 単位以上		
国際教養科目群	卒業要件修得単位数に算入する。		
スポーツ専門実技 科目群	教職科目 9 単位 サッカー指定科目 14 単位 ※卒業要件修得単位数に算入する		
合計	128 単位以上		

・未来創造学部国際教養学科の
該当箇所の削除、未来創造学部
国際マネジメント学科を経営学
部マネジメント学科に名称変更し追
加

改 正 (案)		現 行	備 考
国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科			・国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科を追加
専門教育科目	基礎科目	8単位	
	語学科目	40単位以上 (必修20単位含む)	
	言語理解科目	40単位以上 ※言語理解科目から4単位以上かつ、日本・国際理解科目から必修2単位を除く4単位以上修得する。	
	日本・国際理解科目		
	専門演習科目	12単位 ※海外留学A～Dを修得した当該期間中の専門演習科目の単位修得は免除する。	
	海外留学科目	※海外留学A～Dを修得した場合は当該学期中の専門演習科目の単位修得を免除し、修得した単位を卒業要件修得単位とする。	
	計 100 単位以上		
一般教育科目		8単位以上 (必修4単位含む)	
キャリア科目		4単位以上 (必修2単位含む)	
合 計		124 単位以上 ※教職に関する科目に開講される「英語科教育法Ⅰ～Ⅳ」8単位を上限に含めることができる。	

改 正 (案)		現 行	備 考
医療保健学部 医療技術学科			・医療保健学部医療技術学科を追加
一般教養科目	必修科目 12 単位 選択科目 8 単位以上 計 20 単位以上		
専門基礎科目	必修科目 45 単位 計 45 単位		
専門科目	必修科目 63 単位 選択科目 2 単位以上 計 65 単位以上		
合計	130 単位以上		
(修業年限及び在学期間) 第 14 条 本学の修業年限は、次のとおりとする。 (1) 薬学部 6 年 (2) 経済経営学部 4 年 (3) 国際コミュニケーション学部 4 年 (4) 医療保健学部 4 年		(修業年限及び在学期間) 第 14 条 本学の修業年限は、次のとおりとする。 (1) 薬学部 6 年 (2) 未来創造学部 4 年	・未来創造学部を経済経営学部 に名称変更 ・国際コミュニケーション学部を追加 ・医療保健学部を追加
2 在学期間は、薬学部においては 12 年、経済経営学部、国際コミュニケーション学部、医療保健学部においては 8 年をこえることができない。 (学位) 第 16 条 学長は、前条により卒業を認定した者に、以下に定める学士の学位を授与する。		2 在学期間は、薬学部においては 12 年、未来創造学部においては 8 年をこえることができない。 (学位) 第 16 条 学長は、前条により卒業を認定した者に、以下に定める学士の学位を授与する。	・国際教養学科を削除 ・未来創造学部を経済経営学部 に名称変更 ・国際マネジメント学科を「マネジメント学 科」に名称変更
薬学部 経済経営学部 マネジメント学科	薬学部 薬学科 経済経営学部 マネジメント学科	薬学部 薬学科 未来創造学部 国際教養学科 国際マネジメント学科	薬学部 薬学科 未来創造学部 国際教養学科 国際マネジメント学
学士 (薬学)	学士 (薬学)	学士 (薬学)	学士 (薬学)
学士 (マネジメント学)	学士 (マネジメント学)	学士 (文学)	学士 (文学)
		学士 (マネジメント学)	学士 (マネジメント学)

改正(案)	現行	備考																										
国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科 学士(文学) 医療保健学部 医療技術学科		・国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科を追加 ・医療保健学部医療技術学科を追加																										
2 学長は、学位授与の証明として、卒業証書・学位記を授与する。	2 学長は、学位授与の証明として、卒業証書・学位記を授与する。																											
第 8 章 学 費 (納付金) 第 34 条 入学金、授業料及びその他の学費は、別表 2 のとおりとする。 2 前項の納付金の納付方法及び期限は、別に定める。	第 8 章 学 費 (納付金) 第 34 条 入学金、授業料及びその他の学費は、別表 2 のとおりとする。 2 前項の納付金の納付方法及び期限は、別に定める。	・別表 2 に医療保健学部を追加 ・別表 2 に国際コミュニケーション学部を追加 ・別表 2 に改訂した薬学部学費を追加し、旧学費を別表 2-(1)に追加 ・別表 2 の未来創造学部を経済経営学部に変更並びに改訂した学費を追加し、旧学費を別表 2-(1)に追加																										
第 16 章 教育職員免許状を得るための課程 (教職課程) 第 57 条 教育職員免許状を得ようとする者は、教育職員免許法その他の関連法規に定める所定の単位を修得しなければならない。 2 教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数は別表 3 のとおりとし、その履修方法について必要な事項は別に定める。 (教育職員免許資格) 第 58 条 本学において取得できる教育職員免許状は、次に掲げるものとする。	第 16 章 教育職員免許状を得るための課程 (教職課程) 第 57 条 教育職員免許状を得ようとする者は、教育職員免許法その他の関連法規に定める所定の単位を修得しなければならない。 2 教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数は別表 3 のとおりとし、その履修方法について必要な事項は別に定める。 (教育職員免許資格) 第 58 条 本学において取得できる教育職員免許状は、次に掲げるものとする。	・別表 3 に国際コミュニケーション学部を追加 ・別表 3 の未来創造学部から国際教養学科該当箇所を削除並びに未来創造学部国際マナジメント学科を経済経営学部マナジメント学科に名称変更し追加																										
<table><tr><th>学部</th><th>学科</th><th>免許状の種類</th><th>免許教科</th></tr><tr><td rowspan="4">経済経営学部</td><td rowspan="2">マナジメント学科</td><td>中学校 1 種免許状</td><td rowspan="2">社会、保健体育 地理歴史、公民、保健体育</td></tr><tr><td>高等学校 1 種免許状</td></tr><tr><td rowspan="2">国際コミュニケーション学科</td><td>中学校 1 種免許状</td><td rowspan="2">英 語</td></tr><tr><td>高等学校 1 種免許状</td></tr></table>	学部	学科	免許状の種類	免許教科	経済経営学部	マナジメント学科	中学校 1 種免許状	社会、保健体育 地理歴史、公民、保健体育	高等学校 1 種免許状	国際コミュニケーション学科	中学校 1 種免許状	英 語	高等学校 1 種免許状	<table><tr><th>学部</th><th>学科</th><th>免許状の種類</th><th>免許教科</th></tr><tr><td rowspan="4">未来創造学部</td><td rowspan="2">国際教養学科</td><td>中学校 1 種免許状</td><td rowspan="2">英 語</td></tr><tr><td>高等学校 1 種免許状</td></tr><tr><td rowspan="2">国際マナジメント学科</td><td>中学校 1 種免許状</td><td rowspan="2">社会、保健体育 地理歴史、公民、保健体育</td></tr><tr><td>高等学校 1 種免許状</td></tr></table>	学部	学科	免許状の種類	免許教科	未来創造学部	国際教養学科	中学校 1 種免許状	英 語	高等学校 1 種免許状	国際マナジメント学科	中学校 1 種免許状	社会、保健体育 地理歴史、公民、保健体育	高等学校 1 種免許状	・未来創造学部国際教養学科を削除し、国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科を追加 ・未来創造学部国際マナジメント学科を経済経営学部マナジメント学科に名称変更
学部	学科	免許状の種類	免許教科																									
経済経営学部	マナジメント学科	中学校 1 種免許状	社会、保健体育 地理歴史、公民、保健体育																									
		高等学校 1 種免許状																										
	国際コミュニケーション学科	中学校 1 種免許状	英 語																									
		高等学校 1 種免許状																										
学部	学科	免許状の種類	免許教科																									
未来創造学部	国際教養学科	中学校 1 種免許状	英 語																									
		高等学校 1 種免許状																										
	国際マナジメント学科	中学校 1 種免許状	社会、保健体育 地理歴史、公民、保健体育																									
		高等学校 1 種免許状																										
附 則 この学則は、昭和 50 年 4 月 1 日から施行する。 [従前の附則 中略]	附 則 この学則は、昭和 50 年 4 月 1 日から施行する。 [従前の附則 中略]																											

改 正 (案)		現 行	備考																																																																				
附 則 (平成 28 年 2 月 26 日 第 258 回理事会) 1. この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。 2. 未来創造学部国際教養学科は、学生募集を停止し、在学生の卒業をもって廃止する。 3. 未来創造学部国際マネジメント学科は、平成 29 年 4 月 1 日から経済経営学部マネジメント学科に名称を変更する。未来創造学部国際マネジメント学科は、変更後の学則の規定にかかわらず、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間、存続するものとする。 4. 第 2 条第 1 項に定める国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科及び経済経営学科マネジメント学科編入学定員は平成 31 年 4 月 1 日から適用する。 5. 第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 29 年度及び平成 30 年度の未来創造学部の編入学定員並びに平成 29 年度から平成 34 年度までの収容定員は次のとおりとする。 ○編入学定員 <table><tr><th>学部</th><th>学科</th><th>平成 29 年度</th><th>平成 30 年度</th></tr><tr><td>未来創造学部</td><td>国際教養学科</td><td>45 人</td><td>45 人</td></tr><tr><td></td><td>国際マネジメント学科</td><td>120 人</td><td>120 人</td></tr></table> ○収容定員 <table><tr><th>学部</th><th>学科</th><th>平成 29 年度</th><th>平成 30 年度</th><th>平成 31 年度</th><th>平成 32 年度</th><th>平成 33 年度</th><th>平成 34 年度</th></tr><tr><td>薬学部</td><td>薬学科</td><td>1750 人</td><td>1664 人</td><td>1578 人</td><td>1492 人</td><td>1406 人</td><td>1320 人</td></tr><tr><td>未来創造学部</td><td>国際教養学科</td><td>390 人</td><td>290 人</td><td>145 人</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td></td><td>国際マネジメント学科</td><td>540 人</td><td>440 人</td><td>220 人</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>経済経営学部</td><td>マネジメント学科</td><td>200 人</td><td>400 人</td><td>723 人</td><td>1046 人</td><td>1046 人</td><td>1046 人</td></tr><tr><td>国際コミュニケーション学部</td><td>国際コミュニケーション学科</td><td>80 人</td><td>160 人</td><td>260 人</td><td>360 人</td><td>360 人</td><td>360 人</td></tr><tr><td>医療保健学部</td><td>医療技術学科</td><td>60 人</td><td>120 人</td><td>180 人</td><td>240 人</td><td>240 人</td><td>240 人</td></tr></table> 6. 第 2 条の 2 の規定にかかわらず、未来創造学部国際教養学科、国際マネジメント学科の人材養成の目的は次のとおりとする。		学部	学科	平成 29 年度	平成 30 年度	未来創造学部	国際教養学科	45 人	45 人		国際マネジメント学科	120 人	120 人	学部	学科	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	薬学部	薬学科	1750 人	1664 人	1578 人	1492 人	1406 人	1320 人	未来創造学部	国際教養学科	390 人	290 人	145 人	—	—	—		国際マネジメント学科	540 人	440 人	220 人	—	—	—	経済経営学部	マネジメント学科	200 人	400 人	723 人	1046 人	1046 人	1046 人	国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	80 人	160 人	260 人	360 人	360 人	360 人	医療保健学部	医療技術学科	60 人	120 人	180 人	240 人	240 人	240 人		・ 附則の追加
学部	学科	平成 29 年度	平成 30 年度																																																																				
未来創造学部	国際教養学科	45 人	45 人																																																																				
	国際マネジメント学科	120 人	120 人																																																																				
学部	学科	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度																																																																
薬学部	薬学科	1750 人	1664 人	1578 人	1492 人	1406 人	1320 人																																																																
未来創造学部	国際教養学科	390 人	290 人	145 人	—	—	—																																																																
	国際マネジメント学科	540 人	440 人	220 人	—	—	—																																																																
経済経営学部	マネジメント学科	200 人	400 人	723 人	1046 人	1046 人	1046 人																																																																
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	80 人	160 人	260 人	360 人	360 人	360 人																																																																
医療保健学部	医療技術学科	60 人	120 人	180 人	240 人	240 人	240 人																																																																

改 正 (案)		現 行	備 考
未来創造学部	グローバルな視野と異文化への深い理解、高いコミュニケーション力により、世界の人々と自由闊達に意見交換し、現代社会に生起するさまざまな課題に的確に対応し、あるべき未来を自ら創造できる人間力あふれる人材を養成する。		
国際教養学科	英語又は中国語のコミュニケーション力を身につけ、国際感覚と豊かな教養を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。		
国際マネジメント学科	国際的な視野での実務的マネジメント力を身につけ、かつ幅広い知識と教養及び外国語コミュニケーション力を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。		
7. 第14条第1項及び第2項の規定にかかわらず、未来創造学部の修業年限は4年とし、在学期間は8年をこえないものとする。			
8. 第16条の規定にかかわらず、未来創造学部国際教養学科卒業生には学士(文学)、未来創造学部国際マネジメント学科卒業生には学士(マネジメント学)の学位を授与する。			
9. 第58条の規定にかかわらず、未来創造学部国際教養学科及び国際マネジメント学科において取得できる教育職員免許状は次のとおりとする。			
学 部	学 科	免許状の種類	免許教科
未来創造学部	国際教養学科	中学校教諭 1種免許状	英 語
		高等学校教諭 1種免許状	
	国際マネジメント学科	中学校教諭 1種免許状	社会、保健体育
		高等学校教諭 1種免許状	地理歴史、公民、保健体育

改 正 (案)				現 行	備 考
10. 第8条、第34条及び第57条の別表の適用については、次のとおりとする。					・別表適用表に医療保健学部 該当する事項を追加 ・別表適用表に経済経営学部 該当する事項を追加 ・別表適用表に国際コミュニケーション 学部該当する事項を追加 ・別表適用表に薬学部及び未来 創造学部該当する事項を追加
第8条	別表1	・平成27年度以降の薬学部入学生	平成27年4月1日施行		
		・平成27年度以降の未来創造学部入学生			
	別表1-(1)	・平成29年度以降の経済経営学部入学生	平成29年4月1日施行		
		・平成29年度以降の国際コミュニケーション学部入学生			
		・平成29年度以降の医療保健学部入学生			
第34条	別表1-(2)	・平成20年度以降の薬学部入学生	平成20年4月1日施行		
		・平成22年度以降の未来創造学部入学生	平成22年4月1日適用		
	別表2	・平成27年度以降の未来創造学部編入留学生	平成27年4月1日施行		
		・平成18年度以降の薬学部入学生	平成18年4月1日施行		
		・平成29年度以降の薬学部入学生			
第57条	別表2-(1)	・平成29年度以降の経済経営学部入学生	平成29年4月1日施行		
		・平成29年度以降の国際コミュニケーション学部入学生			
	別表3	・平成29年度以降の医療保健学部入学生			
		・平成18年度以降の薬学部入学生	平成18年4月1日施行		
		・平成18年度以降の未来創造学部入学生			
第57条	別表3-(1)	・平成27年度以降の未来創造学部入学生	平成27年4月1日施行		
		・平成29年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	平成29年4月1日施行		
		・平成29年度以降の経済経営学部入学生	平成29年4月1日施行		
第57条	別表3-(1)	・平成22年度以降の未来創造学部入学生	平成22年4月1日適用		

改 正 (案)		現 行	備 考																			
11. 第 10 条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表 1 の対象学生に適用する。 12. 別表 1-(1)及び別表 1-(2)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。																						
薬学部																						
I 群	<table><tr><td>必修科目</td><td>英 語</td><td>8 単位</td></tr><tr><td rowspan="3">選択科目</td><td>教養演習科目</td><td>2 単位</td></tr><tr><td>基 礎 科 目</td><td>「 」</td></tr><tr><td>教養演習科目</td><td>「 」</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>10 単位以上</td></tr><tr><td colspan="3"></td><td>合計 20 単位以上</td></tr></table>	必修科目	英 語	8 単位	選択科目	教養演習科目	2 単位	基 礎 科 目	「 」	教養演習科目	「 」			10 単位以上				合計 20 単位以上				
必修科目	英 語	8 単位																				
選択科目	教養演習科目	2 単位																				
	基 礎 科 目	「 」																				
	教養演習科目	「 」																				
		10 単位以上																				
			合計 20 単位以上																			
II 群	<table><tr><td>必修科目</td><td>専 門 科 目</td><td>112 単位</td></tr><tr><td rowspan="3">選択科目</td><td>実習系科目</td><td>43 単位</td></tr><tr><td>専 門 科 目</td><td>8 単位以上</td></tr><tr><td>コ ー ス 科 目</td><td>「 」</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>5 単位</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>13 単位以上</td></tr><tr><td colspan="3"></td><td>合計 168 単位以上</td></tr></table>	必修科目	専 門 科 目	112 単位	選択科目	実習系科目	43 単位	専 門 科 目	8 単位以上	コ ー ス 科 目	「 」			5 単位			13 単位以上				合計 168 単位以上	
必修科目	専 門 科 目	112 単位																				
選択科目	実習系科目	43 単位																				
	専 門 科 目	8 単位以上																				
	コ ー ス 科 目	「 」																				
		5 単位																				
		13 単位以上																				
			合計 168 単位以上																			
合計	188 単位以上																					

改 正 (案)			現 行	備 考
未来創造学部				
国際教養学科			国際マネジメント学科	
外国語科目	(※28 単位まで語学専修科目群に含めることができる。)	外国語科目	英語 中国語 日本語	28 単位 22 単位 28 単位
基礎教育科目群	健康科目 4 単位以上 未来創造科目 4 単位 演習科目 16 単位 合計 24 単位以上	基礎教育科目群	健康科目 4 単位以上 演習科目 16 単位 未来創造科目 4 単位 情報科目 2 単位 合計 26 単位以上	
語学専修科目群	専修英語科目又は専修中国語科目から 50 単位以上 (ただし、28 単位までは外国語科目で替えることができる。)			
国際教養科目群	40 単位以上	国際教養科目群	必修 選択 合計	10 単位 50 単位以上 60 単位以上
国際マネジメント科目群	14 単位以上	国際教養科目群		14 単位以上
合計	128 単位以上	合計		128 単位以上

別表 1

薬学部 (平成 27 年度以降の入学生)
未来創造学部 (平成 27 年度以降の入学生)
経済経営学部入学生 (平成 29 年度以降の入学生)
国際コミュニケーション学部 (平成 29 年度以降の入学生)
医療保健学部 (平成 29 年度以降の入学生)

別表 1

薬学部 (平成 27 年度以降の入学生)
未来創造学部 (平成 27 年度以降の入学生)
未来創造学部 (平成 27 年度以降の入学生)

3. 第 10 項に定める別表及び第 12 項乃至第 13 項は、当該学生の在籍しな
くなくなった年度をもって廃止する。

・既設学部 (薬学部・未来創造学部) は名称のみ記載
・経済経営学部の別表を追加
・国際コミュニケーション学部の別表を追加
・医療保健学部の別表を追加

13. 第 10 項に定める別表及び第 12 項乃至第 13 項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

改正(案)			現 行	備 考	
別表 1 学科目の名称及び単位数					
経済経営学部 マネジメント学科					
科目区分	授 業 科 目	単位数			
演 習 科 目	基礎ゼミナール	4			
	ゼミナールⅠ	4			
	ゼミナールⅡ	4			
	卒業研究	4			
未来創造科目	未来創造論Ⅰ	2			
	未来創造論Ⅱ	2			
健康科目	スポーツⅠ	1*			
	スポーツⅡ	1*			
	スポーツⅢ	1*			
	スポーツⅣ	1*			
一般教養科目	哲学	2*			
	倫理学	2*			
	自然科学概論	2*			
	生命科学	2*			
	地誌	2*			
	人文地理概論Ⅰ	2*			
	人文地理概論Ⅱ	2*			
	自然地理Ⅰ	2*			
	自然地理Ⅱ	2*			
	環境学	2*			
	日本史	2*			
	日本近代史	2*			
	日本現代史	2*			
	東洋史	2*			
	西洋史	2*			
	情報科目	情報処理入門	2		
		情報と社会	2*		
情報処理基礎		2*			
情報とコンピュータ		2*			
情報処理応用		2*			
IT マネジメント論		2*			

学部共通基礎教育科目

改 正 (案)			現 行	備 考
学部共通基礎教育科目	キャリア科目	キャリア基礎演習Ⅰ キャリア基礎演習Ⅱ 文章理解Ⅰ 文章理解Ⅱ 文章理解Ⅲ キャリア演習Ⅰ キャリア演習Ⅱ キャリア演習Ⅲ キャリア演習Ⅳ キャリア演習Ⅴ キャリア演習Ⅵ キャリア演習Ⅶ キャリア演習Ⅷ 法学演習Ⅰ 法学演習Ⅱ 法学演習Ⅲ 法学演習Ⅳ 法学演習Ⅴ 法学演習Ⅵ 法学演習Ⅶ 法学演習Ⅷ ライフプランニング論 コミュニケーション論 現代社会と職業 能力開発論 (インターンシップ) コミュニケーション演習 旅行業務Ⅰ (国内) 旅行業務Ⅱ (総合)	1* 1* 1* 1* 1☆ 1☆ 1☆ 1☆ 1☆ 1☆ 1☆ 1☆ 1☆ 1☆ 1☆ 1☆ 1☆ 1☆ 1☆ 1☆ 2* 2* 2* 2* 2* 2☆ 2☆	
	海外留学科目	短期海外研修Ⅰ 短期海外研修Ⅱ 短期海外研修Ⅲ 短期海外研修Ⅳ 語学研修Ⅰ 語学研修Ⅱ 語学研修Ⅲ	1* 1* 1* 1* 2* 2* 2*	

改 正 (案)				現 行	備 考
学 教 部 共 通 基 礎 科 目	海 外 留 学 科 目	語学研修D 海外研修 海外留学A 海外留学B 海外留学C 海外留学D	2* 2* 6* 6* 6* 6*		
		リサーチプロジェクトI リサーチプロジェクトII リサーチプロジェクトIII リサーチプロジェクトIV 資格英語I 資格英語II 資格英語III 資格英語IV 資格英語V 資格英語VI イングリッシュコミュニケーションI イングリッシュコミュニケーションII	2* 2* 2* 2* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1*		
外 国 語 科 目 群		基礎中国語I 基礎中国語II 基礎中国語III 基礎中国語IV 基礎中国語V 基礎中国語VI 中級中国語I 中級中国語II 中級中国語III 中級中国語IV 中級中国語V 中級中国語VI アドバンス中国語I アドバンス中国語II アドバンス中国語III アドバンス中国語IV アドバンス中国語V	1* 1*		

改 正 (案)			現 行	備 考
外国語科目群	中国語	ア ドバンス中国語Ⅵ ア ドバンス中国語Ⅶ ア ドバンス中国語Ⅷ	1* 1* 1*	
	日本語	日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ 日本語Ⅶ 日本語Ⅷ 資格日本語Ⅰ 資格日本語Ⅱ 資格日本語Ⅲ 資格日本語Ⅳ 上級資格日本語Ⅰ 上級資格日本語Ⅱ 上級資格日本語Ⅲ 上級資格日本語Ⅳ 上級資格日本語Ⅴ 上級資格日本語Ⅵ 上級資格日本語Ⅶ 上級資格日本語Ⅷ 日本語演習Ⅰ 日本語演習Ⅱ 日本語演習Ⅲ 日本語演習Ⅳ 日本語演習Ⅴ 日本語演習Ⅵ 日本語演習Ⅶ 日本語演習Ⅷ	1* 1*	

改 正 (案)				現 行	備 考
スポーツ専門実技科目群	教職 (保健体育) 科目	スポーツ実習Ⅰ スポーツ実習Ⅱ スポーツ実習Ⅲ スポーツ実習Ⅳ スポーツ実習Ⅴ スポーツ実習Ⅵ スポーツ実習Ⅶ スポーツ実習Ⅷ スポーツ実習Ⅷ スポーツ実習Ⅷ スポーツ実習Ⅷ	1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1* 1*		
	サッカー指定科目	競技スポーツ概説 競技スポーツ実習Ⅰ 競技スポーツ実習Ⅱ 競技スポーツ実習Ⅲ 競技スポーツ実習Ⅳ コーチング演習サッカーⅠ コーチング演習サッカーⅢ コーチング演習サッカーⅣ 指導実践Ⅰ	1* 1* 1* 1* 1* 2* 2* 2* 2*		
国際マネジメント科目群	総合科目	国際マネジメント入門 統計学 政治学Ⅰ 政治学Ⅱ 行政学 社会学 東アジア現代史 アメリカ現代史 ヨーロッパ現代史	2 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2*		
	経済コース科目	経済学入門 ミクロ経済学 マクロ経済学 日本経済論 経済学史 日本経済史 国際経済学Ⅰ	2 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2*		

改 正 (案)			現 行	備 考
国際マネジメント科目群	経済コース科目	国際経済学Ⅱ 2* 東アジア経済論 2* 欧米経済論 2* リスクマネジメント論 2* 経済政策 2* 金融論 2* 国際金融論 2* 財政学 2* 公共経済学 2* 地域経済論 2* 地方財政論 2* 外国為替論 2* コーポレートファイナンスⅠ 2* コーポレートファイナンスⅡ 2*		
	経営・会計コース科目	経営学入門 2 簿記入門 2 マーケティング入門 2* 経営学概論 2* マーケティング論 2* 中級簿記論 2* 上級簿記論 2* 工業簿記論 2* 財務会計論 2* 管理会計論 2* 税務会計論 2* 国際会計論 2* 監査論 2* 流通システム論 2* 組織戦略論 2* 組織行動論 2* 人事労務管理論 2* 消費者行動論 2* 地場産業論 2* 貿易実務 2*		

改 正 (案)			現 行	備 考
国際マネジメント科目群	法律コース科目	法学入門Ⅰ 法学入門Ⅱ 憲法Ⅰ 憲法Ⅱ 民法 (契約) 民法 (総則) 民法 (債権Ⅰ) 民法 (債権Ⅱ) 民法 (物権) 刑法Ⅰ 刑法Ⅱ 行政法Ⅰ 行政法Ⅱ 会社法 労働法Ⅰ 労働法Ⅱ 訴訟法 知的財産法 国際取引法	2 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2*	
	スポーツマネジメントコース科目	スポーツ科学 健康管理学 運動生理学 運動動作学 体育原理 スポーツ医学 トレーニング論 スポーツ法学研究 運動心理学 スポーツ社会学 スポーツマネジメント コーチング学 アスリートサポート演習 コーチング演習サッカーⅡ 指導実践Ⅱ コーチング演習柔道Ⅰ	2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2*	

改 正 (案)				現 行	備 考
国際マネジメント科目群	スポーツマネジメントコース科目	コーチング演習柔道Ⅱ スポーツ栄養学 学校保健 救急処置 性教育 衛生学 公衆衛生学 生理学 発育発達論Ⅰ 発育発達論Ⅱ	2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2*		
国際教養科目群		世界の言葉と人々 はじめての中国語会話Ⅰ はじめての中国語会話Ⅱ 言語学概論Ⅰ 言語学概論Ⅱ 英米文学概論 宗教学入門 芸術学 日本文化史 日本の伝統芸術 観光学入門 観光地理学 国際関係学入門 国際関係史 国際社会論	2* 1* 1* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2*		
		教職論 教育学概論 教育心理学概論Ⅰ 教育心理学概論Ⅱ 教育制度論 中学社会科教育法Ⅰ 中学社会科教育法Ⅱ 中学・高校地理歴史教育法Ⅰ 中学・高校地理歴史教育法Ⅱ 中学・高校公民教育法Ⅰ	2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2*		
教職に関する科目					

改 正 (案)			現 行	備 考
教 職 に 関 す る 科 目	中学・高校公民教育法Ⅱ	2*		
	保健体育科教育法Ⅰ	2*		
	保健体育科教育法Ⅱ	2*		
	保健体育科教育法Ⅲ	2*		
	保健体育科教育法Ⅳ	2*		
	道徳教育論	2*		
	特別活動論	2*		
	教育方法論	2*		
	生徒指導・進路指導論	2*		
	教育相談	2*		
	教育実習事前事後指導	1*		
	教育実習Ⅰ	2*		
	教育実習Ⅱ	2*		
	教職実践演習(中・高)	2*		
	備考 1. *は選択科目、☆は自由科目を示す。			
備考 2. マネジメント学科に経済コース、経営・会計コース、法律コース、スポーツマネジメントコースを設置する。				

改 正 (案)			現 行	備 考
別表 1 学科目の名称及び単位数				
国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科				
科目区分	授業科目	単位数		
基礎 基礎 科目	基礎ゼミナールⅠ	2		
	基礎ゼミナールⅡ	2		
	国際コミュニケーション論Ⅰ	2		
	国際コミュニケーション論Ⅱ	2		
専 門 教 育 科 目	Basic SpeakingⅠ	1		
	Basic SpeakingⅡ	1		
	Basic ListeningⅠ	1		
	Basic ListeningⅡ	1		
	Basic Presentation & DiscussionⅠ	1		
	Basic Presentation & DiscussionⅡ	1		
	Basic ReadingⅠ	1		
	Basic ReadingⅡ	1		
	Basic WritingⅠ	1		
	Basic WritingⅡ	1		
	Basic GrammarⅠ	1		
	Basic GrammarⅡ	1		
	Advanced SpeakingⅠ	1*		
	Advanced SpeakingⅡ	1*		
	Advanced ListeningⅠ	1*		
	Advanced ListeningⅡ	1*		
	Advanced Presentation & DiscussionⅠ	1*		
	Advanced Presentation & DiscussionⅡ	1*		
	Advanced ReadingⅠ	1*		
	Advanced ReadingⅡ	1*		
	Advanced WritingⅠ	1*		
	Advanced WritingⅡ	1*		
	Advanced GrammarⅠ	1*		
	Advanced GrammarⅡ	1*		
	Practical CommunicationⅠ	1*		
	Practical CommunicationⅡ	1*		
	Practical CommunicationⅢ	1*		
	Practical CommunicationⅣ	1*		
	資格英語Ⅰ	1*		
	資格英語Ⅱ	1*		
	資格英語Ⅲ	1*		

改正(案)		現行	備考
専門教科目 語学科目	資格英語Ⅳ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語Ⅴ 中国語Ⅵ 中国語Ⅶ 中国語Ⅷ 中国語会話Ⅰ 中国語会話Ⅱ 中国語会話Ⅲ 中国語会話Ⅳ 中国語作文Ⅰ 中国語作文Ⅱ 中国語文法基礎Ⅰ 中国語文法基礎Ⅱ 中国語コミュニケーションⅠ 中国語コミュニケーションⅡ 中国語コミュニケーションⅢ 中国語コミュニケーションⅣ 資格中国語Ⅰ 資格中国語Ⅱ 中国語表現法Ⅰ 中国語表現法Ⅱ 日本語初級Ⅰ 日本語初級Ⅱ 日本語初級Ⅲ 日本語初級Ⅳ 日本語会話初級Ⅰ 日本語会話初級Ⅱ 日本語中級Ⅰ 日本語中級Ⅱ 日本語中級Ⅲ 日本語中級Ⅳ 日本語会話中級Ⅰ 日本語会話中級Ⅱ 日本語演習Ⅰ 日本語演習Ⅱ	1＊ 2 2 1 1 2＊ 2＊ 1＊ 1＊ 1 1 1＊ 1＊ 1＊ 1＊ 1＊ 1＊ 1＊ 1＊ 1＊ 1＊ 1＊ 1＊ 1＊ 2＊ 2＊ 2＊ 2＊ 2＊ 2＊ 2＊ 2＊ 2＊ 2＊ 2＊ 2＊ 2＊ 1＊ 1＊	

[illegible]

改 正 (案)			現 行	備 考
専 門 教 育 科 目	日 本 ・ 国 際 理 解 科 目	現代アメリカ論 英語で学ぶ日本文化 英語で学ぶ国際関係 観光ビジネス論 観光文化計画 国際協力論 国際交流論 世界の中の日本 文化政策論	2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2*	
	専 門 演 習 科 目	専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2* 2* 2* 2* 2* 2*	
	海 外 留 学 科 目	海外研修 短期海外研修A 短期海外研修B 海外語学研修AⅠ 海外語学研修AⅡ 海外語学研修BⅠ 海外語学研修BⅡ 海外留学A 海外留学B 海外留学C 海外留学D	2* 1* 1* 2* 2* 2* 2* 6* 6* 6* 6*	
	一 般 教 育 科 目	自然科学概論 哲学 社会学 宗教学 芸術学 心理学 経済学 政治学 日本史 日本国憲法 地理学 スポーツⅠ	2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 2* 1	

改 正 (案)			現 行	備 考
一 般 教 育 科 目	スポーツⅡ スポーツⅢ スポーツⅣ スポーツ科学 情報処理入門 情報デザイン 情報処理応用	1 1* 1* 2* 2 2* 2*		
キ ャ リ ア 科 目	PBL入門 ライフプランニング論 コミュニケーション技法Ⅰ コミュニケーション技法Ⅱ 現代社会と職業 職業理解とインターンシップ 体験学習 海外インターンシップ 旅行業務Ⅰ 旅行業務Ⅱ	2 2* 2* 2* 2* 2* 1* 1* 2☆ 2☆		
教 職 に 関 す る 科 目	教職論 教育学概論 教育心理学 教育社会学 教育課程論 英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ 教育方法論 道徳教育論 特別活動論 生徒・進路指導論 教育相談 教育実習事前事後指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教職実践演習(中・高)	2☆ 2☆ 2☆ 2☆ 2☆ 2☆ 2☆ 2☆ 2☆ 2☆ 2☆ 2☆ 2☆ 2☆ 2☆ 1☆ 2☆ 2☆ 2☆		
備 考	*は選択科目、☆は自由科目を示す。			

改 正 (案)			現 行	備 考
別表 1 学科目の名称及び単位数				
医療保健学部 医療技術学科				
科目区分	授業科目	単位数		
一般教養科目	自然科学概論	2		
	生命・医療倫理学	2		
	心理学	2*		
	哲学	2*		
	社会保障と福祉	2*		
	北陸の文化と社会	2*		
	日本史	2*		
	社会学	2*		
	法学（日本国憲法含む）	2*		
	スポーツ	1*		
	英会話	1*		
	生物学	1*		
	化学	1*		
	物理学	1*		
	数学	1*		
	英語Ⅰ	2		
	英語Ⅱ	2		
	科学英語の基礎	1		
	医学英語	1		
	基礎ゼミナールⅠ	1		
	基礎ゼミナールⅡ	1		
	海外研修	1*		
専門基礎科目	医学概論	1		
	看護学概論	1		
	公衆衛生学	1		
	関係法規	1		
	人体の構造と機能Ⅰ	4		
	人体の構造と機能Ⅱ	1		
	解剖学実習	1		
	生理学実習	1		
	生化学	4		
	生化学実習	1		
	病理学Ⅰ	1		
	病理学Ⅱ	1		

改 正 (案)			現 行	備 考
専 門 基 礎 科 目	病理学実習	1		
	医用検査機器学	3		
	医用工学概論	2		
	医用工学概論実習	1		
	薬と生体反応	2		
	薬理学	2		
	臨床薬理学	1		
	応用数学	1		
	電気工学	2		
	電子工学	2		
	生体物性・材料工学	2		
	計測・機械工学	2		
	医用機器学概論	2		
専 門 科 目	情報科学概論	2		
	情報科学工学 I	2		
	情報科学工学 II	1		
	情報処理工学 I	1		
	情報処理工学 II	1		
	臨床検査総論 I	2		
	臨床検査総論 II	2		
	臨床検査総論実習 I	1		
	臨床検査総論実習 II	1		
	医動物学 (実習含む)	2		
	臨床血液学 I	2		
	臨床血液学 II	2		
	臨床血液学実習 I	1		
	臨床血液学実習 II	1		
	臨床免疫学 I	2		
	臨床免疫学 II	2		
	臨床免疫学実習 I	1		
	臨床免疫学実習 II	1		
	臨床微生物学	3		
	臨床微生物学実習	1		
	臨床生化学 I	1		
	臨床生化学 II	1		
	臨床生化学実習 I	1		
	臨床生化学実習 II	1		
	放射線検査学	1		
	生理機能計測学 I	1		
	生理機能計測学 II	1		
	生理機能計測学実習 I	1		

改 正 (案)			現 行	備 考
専 門 科 目	生理機能計測学実習Ⅱ	1		
	医療安全管理学 (実習含む)	1		
	生体計測装置学	2		
	細胞生物学	2*		
	分析技術学	2*		
	画像解析学	2*		
	生体機能代行装置学	2		
	生体機能代行装置学実習	1		
	医用機器安全管理学	2		
	医用治療機器学	2		
	医用治療機器・安全管理学実習	1		
	臨床医学総論	2		
	臨床検査学演習	2		
	臨床工学演習	2		
	地域チーム医療論	1		
	専門職連携演習	1		
	卒業研究Ⅰ	1		
	卒業研究Ⅱ	2		
	臨地実習	4		
	臨床実習	4		
備 考 *は選択科目を示す。			別表 1－ (1) 薬学部 (平成 20 年度以降の入学生) 未来創造学部 (平成 22 年度以降の入学生) 未来創造学部編入留学生 (平成 27 年度以降の入学生) 別表 1－ (2) 薬学部薬学科 (平成 18 年度以降の入学生)	・既設学部 (薬学部・未来創造学部) は名称のみ記載

改 正 (案)			現 行			備 考	
別表 2 学費			別表 2 学費				
(単位 円・年額)			(単位 円・年額)				
学部	薬学部	経済経営学部	国際コミュニケーション学部	医療保健学部	学部	薬学部	未来創造学部
入 学 金	200,000	200,000	200,000	200,000	入 学 金	200,000	200,000
授 業 料	1,450,000	650,000	750,000	1,100,000	授 業 料	1,700,000	900,000
教育充実費	500,000	300,000	350,000	400,000	教育充実費	600,000	300,000
合 計	2,150,000	1,150,000	1,300,000	1,700,000	合 計	2,500,000	1,400,000
[備考] 1. 留学生の学費は減免することがある。					[備考] 1. 留学生の学費は減免することがある。 2. 未来創造学部学費には、海外留学費を含まない。		
別表 2- (1) 学費			別表 2 学費			別表 3	
(単位 円・年額)			(単位 円・年額)			(単位 円・年額)	
学部	薬学部	未来創造学部	学部	薬学部	未来創造学部	未来創造学部 (平成 27 年度以降の入学生)	
入 学 金	200,000	200,000	入 学 金	200,000	200,000	既設学部 (来創造学部) は名	
授 業 料	1,300,000	900,000	授 業 料	1,300,000	900,000	称のみ記載	
教育充実費	1,000,000	300,000	教育充実費	1,000,000	300,000	・経済経営学部マナ学科を追	
合 計	2,500,000	1,400,000	合 計	2,500,000	1,400,000	加	
[備考] 1. 留学生の学費は減免することがある。 2. 未来創造学部学費には、海外留学費を含まない。			[備考] 1. 留学生の学費は減免することがある。 2. 未来創造学部学費には、海外留学費を含まない。			・国際コミュニケーション学部を追加	
別表 3			別表 3			別表 3	
未来創造学部 (平成 27 年度以降の入学生)			未来創造学部 (平成 27 年度以降の入学生)			未来創造学部 (平成 27 年度以降の入学生)	
経済経営学部 (平成 29 年度以降の入学生)			経済経営学部 (平成 29 年度以降の入学生)			経済経営学部マナ学科を追	
国際コミュニケーション学部 (平成 29 年度以降の入学生)			国際コミュニケーション学部 (平成 29 年度以降の入学生)			加	

改 正 (案)					現 行	備 考
別表3 教員免許状取得に関する修得単位数 経済経営学部 マネジメント学科						
免許教科	免許状の種類	教科に関する科目	教職に関する科目	※教科又は教職に関する科目		
社会	中学校教諭 一種免許状	20	31	8		
保健体育	中学校教諭 一種免許状		31	8		
	高等学校教諭 一種免許状		23	16		
地理歴史	高等学校教諭 一種免許状		23	16		
公民	高等学校教諭 一種免許状		23	16		
備考 最低修得単位数を超えて修得した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」は「教科又は教職に関する科目」に算入される。						

改 正 (案)					現 行	備 考
教職に関する学科目の名称及び単位教						
免許法施行規則に定める科目区分等						
科目	各科目に含める必要事項	授業科目	単位数	備 考		
教職の意 義等に関 する科目	・ 教職の意義及び教員の役割 ・ 教員の職務内容(研修、原務 及び身分保障等を含む。) ・ 進路選択に関する各種の機会の 提供等	教職論	2			
教育の基 礎理論に 関する科 目	・ 教育の理念並びに教育に関する 歴史及び思想 ・ 幼児、児童及び生徒の心身の 発達及び学習の過程(障害の ある幼児、児童及び生徒の心 身の発達及び学習の過程を含 む。)	教育学概論 教育心理学概論Ⅰ 教育心理学概論Ⅱ	2 2 2			
教育課程 及び指導 法に関す る科目	・ 教育に関する社会的、制度的 又は経営的事項 ・ 教育課程の意義及び編成の方法 ・ 各教科の指導法	教育関係論 保健体育科教育法Ⅰ 保健体育科教育法Ⅱ 保健体育科教育法Ⅲ 保健体育科教育法Ⅳ 中学社会科教育法Ⅰ 中学社会科教育法Ⅱ 中学・高校地理歴史教育法Ⅰ 中学・高校地理歴史教育法Ⅱ 中学・高校公民教育法Ⅰ 中学・高校公民教育法Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	該当教科の指導 法を履修。各教 科の指導法科目 より、中央は8単 位、満点は6単位 必修		
生徒指導、 教育相談 及び進路 指導等に 関する科 目	・ 道徳の指導法	道徳教育論	2			
	・ 特別活動の指導法	特別活動論	2			
	・ 教育の方法及び技術(情報機器 及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2			
	・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導論	2			
	・ 教育相談(カウンセリングに 関する基礎的な知識を含む。)	教育相談	2			
教育実習		教育実習事前・事後指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	1 2 2	中免のみ必修		

改 正 (案)				現 行	備 考
教科に関する学科目の名称及び単位数					
学部・ 学科等	免許法施行規則に 定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備 考	
		授業科目	単位数		
中 一 種 免 (社 会) 経 済 経 営 学 部 マ ネ ジ メ ン ト 学 科	日本史及び外国史	○ 日本史	2		
		日本近代史	2		
		日本現代史	2		
		アメリカ現代史	2		
		ヨーロッパ現代史	2		
		東アジア現代史	2		
		日本の伝統芸術	2		
		日本経済史	2		
		○ 東洋史	2		
		○ 西洋史	2		
	地理学 (地誌を含む。)	○ 人文地理概論Ⅰ	2		
		○ 人文地理概論Ⅱ	2		
		○ 自然地理Ⅰ	2		
		○ 自然地理Ⅱ	2		
		○ 地誌	2		
	「法学、政治学」	観光地理学	2		
		○ 法学入門Ⅰ	2		
		法学入門Ⅱ	2		
		刑法Ⅰ	2		
		民法(総則)	2		
「社会学、経済学」	○ 政治学Ⅰ	2			
	○ 政治学Ⅱ	2			
	○ 社会学	2			
	国際社会論	2			
	○ マクロ経済学	2			
「哲学、倫理学、宗教学」	○ ミクロ経済学	2			
	哲学	2	1科目2単位以上 選択必修		
	倫理学	2			
	宗教学入門	2			
備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目					

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

改 正 (案)				現 行	備 考
教科に関する学科目の名称及び単位数					
学部・学科等	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備 考	
		授業科目	単位数		
中 一 種 免 ・ 高 一 種 免 (保 健 体 育) 経 済 経 営 学 部 マ ネ ジ ム エ ン ト 学 科	体育実技	○ スポーツ実習Ⅰ	1		
		○ スポーツ実習Ⅱ	1		
		○ スポーツ実習Ⅲ	1		
		○ スポーツ実習Ⅳ	1		
		○ スポーツ実習Ⅴ	1		
		○ スポーツ実習Ⅵ	1		
		○ スポーツ実習Ⅶ	1		
		○ スポーツ実習Ⅷ	1		
		○ スポーツ実習Ⅸ	1		
	(体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史)及び運動学(運動方法学を含む。)	○ 体育原理	2		
		○ 運動・動作学	2		
		○ 運動心理学	2		
		○ スポーツ法学研究	2		
		○ スポーツマネジメント	2		
		○ スポーツ社会学	2		
		○ トレーニング論	2		
		○ アスリートサポート演習	2		
		○ スポーツ栄養学	2		
		○ コーチング学	2		
		○ 指導実践Ⅱ	2		
		○ 生理学	2		
		○ 運動生理学	2		
		○ 生命科学	2		
		○ 衛生学	2		
		○ 公衆衛生学	2		
		○ 健康管理学	2		
		学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	○ 学校保健	2	
○ 救急処置	2				
○ 性教育	2				
○ 発育発達論Ⅰ	2				
○ 発育発達論Ⅱ	2				
	2				

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目

改 正 (案)					現 行	備 考
教科に関する学科目の名称及び単位数						
学部・ 学科等	免許法施行規則に 定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備 考		
		授業科目	単位数			
経済経営学部 マネジメント学科	日本史	○ 日本史	2			
		日本近代史	2	1科目2単位以上 選択必修		
		日本現代史	2			
		日本の伝統芸術	2			
		日本文化史	2			
		日本経済史	2			
	外国史	○ 東洋史	2			
		○ 西洋史	2			
		アメリカ現代史	2			
		ヨーロッパ現代史	2	2科目4単位以上 選択必修		
		東アジア現代史	2			
		国際関係史	2			
	人文地理学及び 自然地理学	○ 人文地理概論Ⅰ	2			
		○ 人文地理概論Ⅱ	2			
		○ 自然地理Ⅰ	2			
		○ 自然地理Ⅱ	2			
	地誌	観光地理学	2			
		○ 地誌	2			
備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目						

改 正 (案)					現 行	備 考
教科に関する学科目の名称及び単位数						
学部・ 学科等	免許法施行規則に 定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備 考		
		授業科目	単位数			
経済経営学部 マネジメント学科	「法学(国際法を 含む。)、政治学 (国際政治を含む。)」	○ 法学入門Ⅰ	2	2科目4単位以上 選択必修		
		○ 法学入門Ⅱ	2			
		刑法Ⅰ	2			
		刑法Ⅱ	2			
		民法(総則)	2			
		民法(契約)	2			
		民法(物権)	2			
		民法(債権Ⅰ)	2			
		民法(債権Ⅱ)	2			
		○ 政治学Ⅰ	2			
		○ 政治学Ⅱ	2			
		行政学	2			
	「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」	○ 社会学	2	1科目2単位以上 選択必修		
		国際社会学	2			
		○ マクロ経済学	2			
		○ ミクロ経済学	2			
		欧米経済論	2			
		国際経済学Ⅰ	2			
	「哲学、倫理学、 宗教学、心理学」	国際経済学Ⅱ	2	1科目2単位以上 選択必修		
		哲学	2			
		倫理学	2			
		宗教学入門	2			
備考 ○は免許状を取得する場合の必修科目						

改 正 (案)				現 行		備 考
教育職員免許法施行規則第66条の6に定められる科目						
学部・ 学科等	免許法施行規則に 定める科目	左記に対応する開設授業科目	授業科目		備考	
			単位数			
経済経営学部 マネジメント学科	日本国憲法	憲法Ⅰ 憲法Ⅱ	2 2		2単位以上	
	体育	スポーツ科学	2		2単位以上	
		スポーツⅠ	1			
		スポーツⅡ	1			
		スポーツⅢ	1			
		スポーツⅣ	1		2単位以上	
		イングリッシュコミュニケーションⅠ	1			
		イングリッシュコミュニケーションⅡ	1			
		基礎中国語Ⅰ	1			
	外国語コミュニケーション	基礎中国語Ⅱ	1		2単位以上	
		基礎中国語Ⅲ	1			
		基礎中国語Ⅳ	1			
情報機器の操作		情報処理入門	2			

改 正 (案)					現 行	備 考
別表3 教育職員免許状取得に関する修得単位数 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科						
免許教科	免許状の種類	教科に関する科目	教職に関する科目	※教科又は教職に関する科目		
		免許状取得に必要な最低修得単位数				
英語	中学校教諭一種免許状	20		31	8	
	高等学校教諭一種免許状			23	16	

改 正 (案)					現 行	備 考
教職に関する学科目の名称及び単位数						
免許法施行規則に定める科目区分等						
科目	各科目に含める必要事項	左記に対応する開設授業科目	単位数	備考		
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の職会の提供等	○教職論	2			
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	○教育学概論 ○教育心理学 ○教育社会学	2 2 2			
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・各教科の指導法 ・道徳の指導法 ・特別活動の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	○教育課程論 ○英語科教育法Ⅰ ○英語科教育法Ⅱ ○英語科教育法Ⅲ ○英語科教育法Ⅳ ○道徳教育論 ○特別活動論 ○教育方法論	2 2 2 2 2 2 2		中免のみ必修	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	○生徒・進路指導論 ○教育相談	2 2			
教育実習		○教育実習事前事後指導 ○教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	1 2 2			中免のみ必修
教職実践演習		○教職実践演習（中・高）	2			
○は免許状を取得する場合の必修科目						

改 正 (案)					現 行	備 考
教科に関する学科目の名称及び単位数						
学部・ 学科等 の種別	免許状 の種別	免許法施行規則に 定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	備考		
				授業科目	単位数	
国際コミュニケーション学部・国際コミュニケーション学科	中一種免・高一種免(英語)	英語学	○英語学概論	2		
			○言語学入門	2		
			○音声学	2		
			○Basic Grammar I	1		
			○Basic Grammar II	1		
			Advanced Grammar I	1		
			Advanced Grammar II	1		
		英米文学	○英米文学史	2		
		英語コミュニケーション	○Basic Reading I	1		
			○Basic Reading II	1		
			Advanced Reading I	1		
			Advanced Reading II	1		
			○Basic Writing I	1		
○Basic Writing II	1					
Advanced Writing I	1					
Advanced Writing II	1					
○Practical Communication I	1					
○Practical Communication II	1					
異文化理解	○英語圏の文化と社会	2				
	国際関係学入門	2				
	○現代アメリカ論	2				

○は免許状を取得する場合の必修科目

○は免許状を取得する場合の必修科目

改 正 (案)				現 行	備 考
教科又は教職に関する科目の名称及び単位数 学部・免許法施行規則に定める左記に対応する開設授業科目					
学科等	科目区分	授業科目	単位数	備考	
国際コミュニケーション学部・ 国際コミュニケーション学科	教科又は教職に関する科目	英語専門研究Ⅰ	2		
		英語専門研究Ⅱ	2		
		英語専門研究Ⅲ	2		
		英語専門研究Ⅳ	2		
		道徳教育論	2	高免のみ適用	

改正(案)				現行	備考
教育職員免許法施行規則第66条の6に定められる科目					
学部・学科等	免許法施行規則に定める科目	左記に対応する開設授業科目		備考	
		授業科目	単位数		
国際コミュニケーション学部・国際コミュニケーション学科	日本国憲法	○日本国憲法	2		
	体育	スポーツⅠ	1	これから5科目より 2科目必修	
		スポーツⅡ	1		
		スポーツⅢ	1		
		スポーツⅣ	1		
		スポーツ科学	2		
	外国語コミュニケーション	Basic Speaking I	1	これから4科目より 2科目必修	
		Basic Speaking I	1		
		Advanced Speaking I	1		
		Advanced Speaking II	1		
情報機器の操作	○情報処理入門	2			
○は免許状を取得する場合の必修科目					

別表 3-1 (1) 未来創造学部 (平成 22 年度以降の入学生)

別表 3-1 (1) 未来創造学部 (平成 22 年度以降の入学生)

・既設学部 (来創造学部) は名称のみ記載

○は免許状を取得する場合の必修科目

別表 3－ (1) 未来創造学部 (平成 22 年度以降の入学生)

別表 3－ (1) 未来創造学部 (平成 22 年度以降の入学生)

・ 既設学部 (来創造学部) は名
称のみ記載

北陸大学教授会規程

第 1 章 総 則

(目的)

第1条 この規程は、北陸大学学則第7条の定めに基づき、教授会について必要な事項を定め、もってその責任ある運営を図ることを目的とする。

(教授会)

第1条の2 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
- (2) 学位の授与
- (3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する以下の事項
 - イ 教育課程の編成
 - ロ 教育職員の研究業績の審査
 - ハ そのほか、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 2 教授会は、前項に定めるもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下、この規程において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 3 教授会の組織には、准教授その他の職員を加えることができる。

第 2 章 全学教授会

(構成)

第2条 全学教授会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 学生部長
- (5) 図書館長
- (6) 留学生別科長
- (7) 教務委員長
- (8) 学部長が指名した各学部それぞれ1人の教授
- (9) 学長が必要と認めた者
- 2 前項第8号及び第9号の任期は、学長が定める。
- 3 学長が必要と認めた場合、常勤の職員を陪席させることができる。但し、議決に加わることはできない。

(任務)

第3条 全学教授会は、全学的な観点から第1条の2第1項に基づき、意見を述べるものとする。

- 2 全学教授会は、全学的な観点から第1条の2第2項に基づき、学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

(会議)

第4条 全学教授会は、学長が必要と認めたとき、又は構成員の3分の2以上の要求があったとき、これを開く。

- 2 学長は、全学教授会を招集し、その議長となる。

(議事)

第5条 全学教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、これを開くことはできない。

- 2 議事は、出席構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決する。
- 3 特に定める事項については、出席構成員の3分の2以上の賛成をもってこれを決する。
- 4 議事録の作成は学事本部にて行い、学長の決裁を得なければならない。

(委任)

第6条 学長は、全学教授会で審議する事項のうち、各学部の固有の事項については、それぞれの学部教授会に審議を委任することができる。

第 3 章 学部教授会

(学部会)

第7条 各学部には学部教授会（以下、「学部会」という。）を置く。

- 2 学部会は、学部長及び学部には所属する常勤の教授をもって組織する。
- 3 学部長が必要と認めた場合、常勤の職員を陪席させることができる。但し、議決に加わることはできない。

(任務)

第8条 学部会は、第6条の委任を受けた場合に、第1条の2第1項に基づき、意見を述べるものとする。

- 2 学部会は、第6条の委任を受けた場合に、第1条の2第2項に基づき、学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

(付議)

第9条 学部会において審議された結果は、直後に開かれる全学教授会に付議するものとする。

- 2 学長からの諮問事項についての審議結果は、速やかに学長に報告するものとする。

(会議及び議事)

第10条 学部会は、学長又は学部長が必要と認めたとき、及び構成員の3分の2以上の要求があったとき、これを開く。

- 2 学部長は、学部会を招集し、その議長となる。
- 3 学部長に事故があるときは、学長が指名した者が議長となる。
- 4 会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、これを開くことができない。
- 5 議事は、出席構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決する。

第 4 章 委 員 会

(委員会の設置)

第 11 条 全学教授会のもとに、常置委員会と必要に応じて臨時委員会を置くことができる。

- (1) 委員会の構成及び任務については、全学教授会の議を経て、学長が決定する。
- (2) 委員会の運営については、それぞれの委員会の議を経て、学長が決定する。
- (3) 委員会の委員は、学長が委嘱する。

2 学部会のもとに、常置委員会と必要に応じて臨時委員会を置くことができる。

- (1) 委員会の構成及び任務については、学部会の議を経て、学長が決定する。
- (2) 委員会の運営については、それぞれの委員会の議を経て、学長が決定する。
- (3) 委員会の委員は、学部長の意見を聴き、学長が委嘱する。

3 それぞれの委員会の審議結果は、委員会を設置した、全学教授会若しくは学部会に付議しなければならない。

第 5 章 補 則

(事務)

第 12 条 全学教授会、学部会及び前条に基づき設置された委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、事務を処理するため、前項の各会に出席するものとする。

(規程の改廃)

第 13 条 この規程の改廃は、常任理事会の議を経て、学長が決定する。

附 則 (昭和 62 年 3 月 27 日制定 第 60 回理事会)

この規程は、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 4 年 3 月 30 日一部改正 第 80 回理事会)

- 1. この規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 2. 第 3 条第 2 号及び第 8 条第 2 号の「教育職員の人事」については、学校法人北陸大学就業規則及び北陸大学教育職員の人事に関する内規に定める以外の人事をいう。

附 則 (平成 6 年 3 月 28 日一部改正 第 101 回理事会)

この規程は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 15 年 6 月 9 日一部改正 第 187 回理事会)

- 1. この規程は、平成 15 年 6 月 9 日から施行し、平成 15 年 4 月 1 日から適用する。
- 2. 第 3 条第 5 号及び第 8 条第 6 号の「教育職員の人事」については、学校法人北陸大学就業規則及び北陸大学教育職員の人事に関する内規に定める以外の人事をいう。

附 則 (平成 16 年 1 月 28 日一部改正 第 191 回理事会)

- 1. この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 23 年 4 月 22 日一部改正 第 231 回理事会)

この規程は、平成 23 年 4 月 22 日から施行し、平成 23 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（平成 25 年 3 月 26 日一部改正 第 241 回理事会）

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 27 年 3 月 18 日改正 平成 26 年度第 17 回全学教授会、平成 27 年 3 月 25 日改正 第 252 回常任理事会）

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

目次

1 設置の趣旨及び必要性

- (1) 建学の精神と沿革 P 1
- (2) 北陸大学が担うべき新たな人材育成 P 1
- (3) 医療保健学部の設置の趣旨及び必要性 P 3
- (4) 人材養成の目的及び教育研究上の目的 P11
- (5) 組織として研究対象とする学問分野 P13

2 学部・学科の特色

- (1) 徹底した基盤教育及び医療人に必要な教養教育..... P13
- (2) 臨床検査学・臨床工学の2つの専門知識と技能が修得できる教育 P13
- (3) 訪問や在宅医療にも貢献できる知識と技術の教育 P14
- (4) 薬学や医療情報システムに精通した医療専門職の育成 P14

3 学部・学科等の名称及び学位の名称

- (1) 学部の名称 P15
- (2) 学科の名称 P15
- (3) 学位に付記する専攻分野の名称 P15

4 教育課程の編成の考え方及び特色

- (1) 教育課程の編成の基本方針 P15
- (2) 医療保健学部のカリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成方針） P16
- (3) 一般教養科目 P17
- (4) 専門基礎科目 P17
- (5) 専門科目 P18
- (6) 臨地実習（臨床検査学）・臨床実習（臨床工学） P20
- (7) 卒業研究 P20
- (8) 訪問や在宅医療にも貢献できる知識と技術の教育 P21

5 教員組織の編成の考え方及び特色

- (1) 教員組織の編成の特色 P21
- (2) 教員組織の年齢構成 P23

6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

- (1) 授業方法等の設定 P24
- (2) 履修指導方法 P25
- (3) 卒業要件 P27

7 施設、設備等の整備計画

- (1) 校地、運動場の整備計画 P27

(2) 校舎等施設の整備計画	P28
(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画	P29
8 入学者選抜の概要	
(1) 受け入れようとする学生像	P30
(2) 入学者選抜方法	P32
(3) 入学者選抜実施体制	P33
(4) 入学定員に占める一般選抜区分の募集定員の割合	P34
9 取得可能な資格	P34
10 実習の具体的計画	
(1) 臨地実習・臨床実習の基本計画	P34
(2) 実習の構成と概要	P36
(3) 実習先の確保の状況	P36
(4) 実習先との契約内容	P37
(5) 実習水準の確保の方策	P37
(6) 実習先との連携体制	P38
(7) 実習前の準備状況	P39
(8) 事前・事後における指導計画	P39
(9) 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画	P39
(10) 実習施設における指導者の配置計画	P40
(11) 成績評価体制及び単位認定方法	P40
11 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	P40
12 管理運営	P41
(1) 全学教授会	P41
(2) 学部教授会	P41
(3) 教学運営協議会	P41
(4) 学部・全学の各種委員会	P42
13 自己点検・評価	P42
(1) 実施方法	P42
(2) 実施体制	P43
(3) 結果の活用・公表	P43
(4) 評価項目	P43
14 情報の公表	P44
(1) 大学の教育研究上の目的に関すること	P44
(2) 教育研究上の基本組織に関すること	P44
(3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること	P45
(4) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生	

の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学 及び就職等の状況に関する事	P45
(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する事	P46
(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する 事	P46
(7) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する事	P46
(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する事	P47
(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する 事	P47
(10) その他	P48
15 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P48
(1) 教学運営協議会	P48
(2) FD委員会	P49
(3) FD研修会の実施	P49
(4) 学生アンケート（授業評価アンケート）の実施	P49
(5) 公開授業と授業参観	P49
(6) 中間アンケートの実施（全授業の中間期の授業理解度等の確認の徹底）	P49
16 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P50
(1) 教育課程内の取組について	P50
(2) 教育課程外の取組について	P51
(3) 適切な体制の整備について	P51

1 設置の趣旨及び必要性

(1) 建学の経緯と沿革

北陸における教育の淵源は、藩政時代、五代加賀藩主前田綱紀（松雲公）の学問奨励にさかのぼり、公の発願は、寛政4（1792）年藩校明倫堂の開校となって結実し、爾来金沢は、学都として学問尊重の気風に培われ、北陸文化の中心となってきた。このような歴史的背景、風土を基に、日本の将来を担うとともに世界文化に貢献し得る人材育成を目指し、昭和50（1975）年に石川県金沢市に学校法人松雲学園（昭和60（1985）年に学校法人北陸大学に名称変更）を設置し、同年北陸大学を開学した。公の「自然を愛し、生命を畏敬する」精神を受け継ぎ、建学の精神を「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」と定めるとともに国内外を問わず、異なる分野を学ぶ学生たちが、出会い互いに切磋琢磨することによって、さらにこの建学の精神の深化が生まれ、地域社会をはじめ日本並びに世界の発展に貢献し得るとの考えのもと、学園の基本構想に総合大学化、国際化を据えた。

開学に際しては、まず建学の精神に深く関連する薬学部を設置した。昭和50年頃は、全国的にも薬学部は少なく、北陸地方には私立の薬学部が皆無であった。折しも昭和30年代から始まった高度経済成長とは裏腹に深刻な公害・薬害などが大きな社会問題として顕在化し、その対応が強く求められていたところでもある。このような時代背景のもとに、薬学の教育研究を通じて医療、保健、環境改善に貢献できる薬剤師並びに薬学技術者を育成することを目標とした。現在では薬学部、未来創造学部の2学部及び留学生別科を設置している。

(2) 北陸大学が担うべき新たな人材育成

医療の高度化や複雑化に伴う業務の増大に対応し、質の高い安心で安全な医療を提供するため、医師、看護師、薬剤師をはじめ、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、臨床工学技士等の多種多様な医療スタッフの高度専門化及び人材の質の向上が求められている。近年では「チーム医療」が推進され、患者の状況に的確に対応した医療を提供するため、これまでは医師が行ってきた医療行為の中で、医師以外の医療スタッフが行うことができる業務が増加している。患者の状況に合わせた医療の目的と患者に関する情報を共有し、各医療スタッフが専門性を発揮することで、より効果的な医療を提供することが求められている。さらに、国民の健康意識は年々高まりを見せ、健康増進活動が進むにあたり、医療現場業務の多様化・複雑化がますます進んでおり、医療スタッフの役割に期待が高まっている。このことは、平成27年版厚生労働白書においても示されている。

厚生労働省「医療介護総合確保推進法等に関する全国会議（平成26年7月28日）」の資料にあるとおり、平成37（2025）年に向けた医療提供体制の改革において、チー

ム医療の推進及び在宅医療の充実や推進が求められており、在宅医療ニーズの高まりや在院日数の短縮化に伴い、退院後の在宅における継続的なサポートが必要なケースが多くなってくる。

「臨床工学技士基本業務指針 2010（公益社団法人日本臨床工学技士会）」において、臨床工学技士は、在宅医療で使用する生命維持管理装置及び関連する医療機器の操作等については、患者及び家族等に指導を行い、安全の確保に努めるものとするのが規定されており、また、「臨床検査技師等における法律施行令」の一部改正により検体採取が認められたことから、今後、臨床工学技士による在宅における生体機能代行装置等の専門医療機器使用や臨床検査技師の訪問による検体採取等が必要となることが予想される。

他方、社会がグローバル化し、他の国や地域との交流が発展し、これまで日本では発見されていなかった疫病や感染症等の発症リスクが高まることも懸念される。さらに、東日本大震災に見られるように、災害や環境汚染による人体に及ぼす影響について、今後ますます関心が高まることが予想される。

そのような中、北陸大学は開学より 40 年、薬学部を有する大学として、これまでに医療現場で活躍できる豊かな人間性を備えた薬剤師を養成することにより地域医療に貢献してきた。

医療における疾病の診断、経過の観察、予後の判定などに臨床検査は欠かすことができないが、その臨床検査結果は投薬によって影響を受ける。具体的には広く実施されている尿検査における薬剤の影響は多岐にわたりその結果の解釈に大きく関与することから、薬剤の影響を判断するためには薬理学の基礎知識が必要である。近年、オーダーメイド医療における分子標的薬とコンパニオン診断への期待が大きいが、この分野の発展にはゲノム薬理学を十分に理解した遺伝子関連検査が不可欠であり、次代を見据えた教育が求められている。

また、「臨床工学技士基本業務指針 2010（公益社団法人日本臨床工学技士会）」「生命維持管理装置領域における医薬品等の調製業務の安全対策指針（公益社団法人日本臨床工学技士会）」など、医療安全対策の観点から生命維持管理装置を適切に扱う上で医薬品の知識はますます必要であると示されており、薬剤師のみならず、薬理作用等を熟知した臨床検査技師、臨床工学技士などの医療スタッフの養成が今後不可欠であると考えている。

本学においては、これらの社会的背景、教育的資産を活かし地域の医療にさらに貢献していくため、建学の精神に基づき、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる人材を育成したいと考え、臨床検査学、臨床工学の 2 つの知識・技能を身につけた臨床の現場で実践的な能力を発揮できる医療技術者を育成するため、医療保健学部医療技術学科を設置することとした。

(3) 医療保健学部設置の趣旨及び必要性

① 趣旨及び必要性

現在、我が国は超高齢・人口減少社会に突入し、社会構造が大きく変化してきている。平成 37（2025）年には 75 歳以上の高齢者人口が約 25%に達することから、「医療介護総合確保推進法」により住民が身近な地域で必要な医療や介護が受けられる体制整備、医療・介護の質と効率化の向上が求められている。

社会構造の変化は疾病構造の複雑化を促している。過食や労働環境の変化による慢性的な運動不足から糖尿病、高血圧、肥満等の生活習慣病患者が増加し、心筋梗塞や脳梗塞等の突然死のリスクが高まっている中で、慢性疾患・疾病予防のため、患者に対する検査項目は増加し、より詳細な検査データを得ることが重要視されるようになってきている。また、在宅医療ニーズの高まりや在院日数の短縮化に伴い、退院後の在宅にて継続的なサポートが必要なケースが多くなってきており、今後、在宅患者への訪問による検体採取と検査及び在宅で使用する生体機能代行装置の操作指導や機器管理の必要性が高まると考えられる。

一方、急速な医学の進歩は、医療の高度先進化と専門化・細分化を導き、専門性の高い医療機器の開発により、専門の機器操作や機器管理を行う人材が求められている。

近年、質が高く、安心して安全な医療を求める患者・家族の声が高まる一方で、医療の高度化や複雑化に伴う業務の増大により医療現場の疲弊が指摘されるなど、医療の在り方が根本的に問われている。これまでは医師が患者に治療を一方的に説明するだけのムンテラが行われていたが、医療内容を明確に開示、インフォームド・コンセントがなされるようになり、患者本位の医療現場となってきたことは間違いなく、患者が納得した上で、安全な医療を行う環境が整っていることが望ましい。こうした状況の中では患者に適切な情報を開示し、説明を行うことがますます重要となり、これまで医師が患者に対して検査結果等を説明することとなっていたが、実際に検査を実施している臨床検査技師が患者に直接説明することなどが求められる。

医療施設では、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、保健師、臨床検査技師、診療放射線技師などの中核的な医療職者と、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士、救急救命士、精神保健福祉士などの比較的新しい保健・医療専門職者などの多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」の推進が求められている。そのために、幅広い教養と研究心を身につけた豊かな人間性と高度な学識・医療技術を有する専門性の両方を修得した保健・医療領域の専門家を育成する必要性が高まっている。

なお、本学ではチーム医療の素養を身につけるためには、実践的な職業教育、専

門的な技術教育を行う教育機関である専門学校、すなわち、「専門性を重視した」3年間の教育では不十分であると考えており、教養教育を含め幅広い基礎的な教育と課題探究能力と問題解決能力を育成できる大学教育において養成すべきであり、それは、医療系高等教育機関の役割であると考えている。

設置する医療保健学部医療技術学科では「医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識・技能を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者を養成する」ことを目的とし、教育・研究を推進していくこととする。

本学が位置する石川県をはじめとする北陸地域（富山県、福井県）では養成機関が少ない臨床検査技師、臨床工学技士の人材確保が必要であると考えている。北陸地域に臨床検査技師を養成する学科を有する大学は国立大学法人の金沢大学1校、臨床工学技士を養成する学科を有する大学・短期大学は小松短期大学1校のみである。【資料1：北信越・隣県における臨床検査技師養成施設一覧・臨床工学技士養成施設一覧】

臨床検査技師の北陸3県での従事者動向【資料2】を分析すると、従事している者の年齢分布から、北陸3県では50歳以上の就労者数が全国平均より高く、35歳以下の就労者が少ない傾向にあることがわかる。一方、臨床工学技士は、石川県臨床工学技士会所属の臨床工学技士の実態【資料3】から、病院100床あたりの臨床工学技士の配置数は1.64人であるが、注目される点は300床以上の地域における高度医療及び救急医療の中心となる施設における臨床工学技士の配置数に大きな施設間差が見られることである。高度化する医療の軸となる医療機器の安全を担うなど臨床工学技士の役割と医療安全への対応が強化されている現状から、今後臨床工学技士を増員する施設があると推察される。

また、石川県では「いしかわ創生総合戦略（平成27年10月石川県）」【資料4】の中で「在宅医療の充実」を掲げており、在宅医療連携体制の構築（在宅医療を担う人材の育成、患者情報の多職種間での共有推進など）をさらに進めていくこととしている。

以上のことから、この地域の臨床検査技師、臨床工学技士は将来にわたり人材需要が高まると考えている。また、都市部への就労人口の流出を防ぐためにも地元での人材育成が重要である。

② 臨床検査技師の必要性

現在の医療は「根拠に基づいた医療」が重要とされている。すなわち病気の診断や治療の経過、あるいは健康状態を客観的・科学的に評価するために、検体検査や生理機能検査をはじめとする各種検査結果に基づいた多くの情報を迅速かつ正確に報告することが重要である。

検体検査では検査方法・機器の簡易化や微量化への技術進歩が著しい。また、遺

伝子検査は病因・病態の解析の強力な手段となっており、心電図や脳波などの生理機能検査、各種超音波検査、眼底検査、MRI 検査などの画像検査の充実もあって、今日、質の高い臨床検査は今後ますます高度化する医療を行う上でなくてはならないものになっている。平成 26 年診療報酬改定では、医療機関の検体検査の管理体制を評価する「検体管理加算」が存在し、その充実度によって患者一人につき月一回、（Ⅰ）40 点、（Ⅱ）100 点、（Ⅲ）300 点、（Ⅳ）500 点の算定ができる。その基準の中には（Ⅲ）では常勤の臨床検査技師が 4 名以上、（Ⅳ）では常勤の臨床検査技師が 10 名以上配置されていることが必要である。このように医療機関において検査精度を管理するためにも臨床検査技師の活躍が必要とされている。

医療技術の進歩により遺伝子検査・免疫学検査などの特殊な検査項目の拡大、検査技術・知識の高度化により検査データの解釈が難しくなり、医師、看護師が多忙な今日の医療現場では検査説明は臨床検査技師が担うべきであるとの声が多くなっている。このことは、「医師及び医療関係職と事務職員等との間等での役割分担の推進について（平成 19 年 12 月 28 日付厚生労働省医政局長通知）」において臨床検査技師が検査結果の説明に十分に関わっていないとの指摘がなされており、日本臨床衛生検査技師会では、「チーム医療推進に関する答申書：抜粋（一般社団法人日本臨床衛生検査技師会チーム医療推進検討委員会）」【資料 5】にあるとおり、会員に対して、「検査説明・相談のできる技師育成事業」を展開している。本学部においては学生に対しても、病態を理解し検査説明・相談のできる技師を育成したいと考えている。

臨床検査の目的を達成するためには、正確な検査データの担い手としての分析指向の見方だけでなく診療の現場での検査情報が活用できる診療参画型の視点が必要であり、高度な専門知識、応用能力を有する臨床検査技師はチーム医療に欠かせない存在となっている。このように、より高度な臨床検査技師が求められていることから、関連職能団体と協働して多くの認定資格制度【資料 6】が行われている。これら認定資格制度にも積極的にチャレンジする意欲を持った人材を育てる必要がある。

③ 臨床工学技士の必要性

医療施設（動態）調査・病院報告（平成 25(2013)年）の概況によると、医療機関等で勤務している臨床工学技士は 16,588 人、一般病院の 100 床当たりの常勤換算従事者数は 1.3 人、全病院 1 施設当たり 1.9 人と、高度化する医療の軸となる医療機器の安全を担う上では、臨床工学技士の配置数は十分でないことが推察される。特に平成 26 年度診療報酬改定では、『特定集中治療室管理料』の改定があり、心電図モニター、輸液ポンプ、動脈圧測定（動脈ライン）、シリンジポンプ、中心静脈圧測定（中心静脈ライン）、人工呼吸器、輸血や血液製剤の使用、肺動脈圧測定（スワンガンツカテーテル）、CHDF、IABP、PCPS、補助人工心臓、ICP 測定など特殊な治療法

やモニタリングが必要な患者が8割以上収容されている治療環境において、臨床工学技士が常時、院内に勤務することが条件として明記されている。このことは、当直体制による対応や患者の状態に応じた夜勤体制などが必要となり、日直帯のみならず、夜間の臨床工学技士の配置が求められる。適正な人員配置により医療機器の操作、保守・管理など専門職がその業務を実施することは患者の生命を守ることに直結することであり、臨床工学技士の不在による医療事故を未然に防ぐものである。

「医師及び医療関係職と事務職員等との間等での役割分担の推進について（平成19年12月28日付厚生労働省医政局長通知）」では、医療機器の管理が医師や看護職員のみで行っている実態の指摘があり、医療安全の確保及び医師等の負担の軽減のため臨床工学技士の積極的な活用を図ること、また、チーム医療推進会議の「チーム医療推進のための基本的考え方と実践的事例集（平成23年5月付医療推進方策検討ワーキンググループ）」において、使用される医療機器の種類が増加しており、高度な機種も在宅医療で使用されていることから、臨床工学技士等が患者や家族等に対する適正使用方法の教育や運転状況の確認、保守点検を確保する必要があることが示されており、「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について（平成22年4月30日付厚生労働省医政局長通知）」においては、臨床工学技士の医療現場における役割の大きさと医師以外の医療スタッフが実施できる業務の具体的例（喀痰等の吸引、動脈留置カテーテルからの採血）が示されている。

また、かつては、最新の医療機器の適正かつ安全な使用のために医療機器事業者が医療現場に立ち入って情報提供を行う、いわゆる「立会い」が行われていたが、医療関連法規等に抵触することから、「医療機関等における医療機器の立会いに関する基準（平成18年11月10日付厚生労働省医政局経済課長通知）」が制定され、医療機器事業者による情報提供が制限されることとなり、日本臨床工学技士会では国家資格を持った臨床工学技士が関連法規の遵守の徹底と違反の未然防止を図るよう要請しているところである。

平成19年の医療法改正によって、医療機器に係る安全管理の体制確保のため、すべての医療機関に医療機器安全管理責任者の配置が義務づけられ、「臨床工学技士」を配置する必要性が増している。さらに近年は診療報酬関連において医療機器安全管理料、呼吸ケアチーム加算、透析液水質確保加算に加え、平成26年度診療報酬改定に基づいて特定集中治療室管理料、頭蓋内腫瘍摘出術、経皮内カテーテル心筋焼灼術、内視鏡手術用支援機器加算が新設され、その算定条件として臨床工学技士を配置することになっている。

以上のことから、臨床工学技士の必要性はますます高まっていると考えている。

④ 臨床検査学と臨床工学の両方の知識と技能を持った医療技術者を養成する意義

少子・高齢化・多死社会到来による医療従事者の就業人口の減少、ますます高度化、複雑化する医療現場での医師、看護師不足が危惧されている。このような状況

の中、チーム医療の推進及び質の高い医療サービスの提供を行うには、一人の医療従事者が幅広い知識を持つことが必要と考えている。

臨床検査学と臨床工学の2つの専門知識と技能を修得することにより、それぞれの業務分野のみならず、医療現場において踏み込んだ幅広い業務が担える医療技術者は、今後の医療現場において求められている人材であることは間違いのないところである。

臨床検査技師が臨床工学技士の資格を持つことで各種医療機器の仕組みを理解した上で、より正確な検査データの分析・提供を行えること、臨床工学技士が臨床検査技師の資格を持つことにより、採血業務を可能とし、各種検査データをより深く理解した上で生命維持管理装置などの操作が行えるなど、2つの資格を持つことは、病気の発見、治療及び手術、生命の維持まで、あらゆる場面でより迅速に専門性を発揮することができる。一人の医療従事者が幅広い知識と技能を持つことは、チーム医療の推進及び医療安全上のリスクの早期発見と減少につながり、今、医療機関が最優先に取り組むべき課題と考えている。

臨床検査の分析技術は当然であるが、得られた検査結果について医師や他の医療スタッフへ情報を発信し、患者への確に説明できる臨床検査技師並びに臨床工学技士として各種検査・診断結果を見極め、医療施設及び在宅患者の状態に応じたアセスメント能力を発揮できる人材の育成は医療の質の向上と安全の確保に貢献できる。

これらの人材養成により、これからの地域の医療現場、超高齢社会に貢献することが本学の果たすべき使命と強く考えている。

⑤ 4年制大学で臨床検査技師・臨床工学技士を養成する意義

臨床検査技師は、検査技術を用いて患者に貢献することが第一義的な目的であり、病気の診断や治療の経過、あるいは健康状態を客観的・科学的に評価するために、検体検査や生理機能検査をはじめとする各種検査結果に基づいた多くの情報を迅速かつ正確に報告することが重要である。しかしそれだけではなく、検査をより有用なものにしていくために、自分たちでそれを探究し、新しい検査をつくっていく、あるいは検査データのより良い有効活用法を考えるとといったことも大切であり、このことには基礎知識に基づいた検査技術と問題解決型の思考力が要求される。

一方、臨床工学技士は在宅医療で使用する生命維持管理装置等の操作において家族や患者への指導や安全確保を図ることが重要であることから、患者の状態を理解できる基礎知識と臨床技術が必要となる。

特に臨床や在宅の現場においては、患者を深く理解する必要がある、幅広い教養を身につけた人材を養成することが必要とされている。

また、臨床検査技師、臨床工学技士が専門職として修得すべき知識と技術の範囲はさらに広がると考えている。

チーム医療の重要性はこれまでも述べてきたが、今後さらに、従来の専門性を重視した縦断型教育から、職種の専門性を越えた横断型教育の導入が必要であり、チーム医療に欠かせない知識・技能・態度といったものの基礎を身につけた人材を教育の段階から養成し、医療現場へと送り出すことが、これからの医療系高等教育機関の担うべき重要な使命・役割の一つであるとする。

本学部では、「学士課程教育の構築に向けて（答申）（中央教育審議会）」の「学士力」の参考指針にあるとおり、知識・理解（専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解する）、汎用的技能（コミュニケーションスキル、問題解決力等）、態度・志向性（自己管理力、チームワーク、倫理観等）、総合的な学習経験と創造的思考力（獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力）を基盤とした学位授与の方針と教育課程の編成の方策にある、学生の「幅広い学び」を保証するための、意図的・組織的な取組（多様な学問分野の俯瞰を可能とする教育課程の工夫などを積極的に推進する）を行う、順次性のある体系的な教育課程の編成、豊かな人間性や課題探究能力等の育成に配慮することを教育課程編成方針の柱とし、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを設定し、医療技術の修得に加え、教養教育を含めた幅広い基礎的な知識と課題探究能力と問題解決能力を学ぶ「学士課程教育」を行いたいと考えている。

教育課程については、カリキュラム・ツリー（資料10）に示すとおり、教養教育、科学的思考の基礎、総合演習・社会医学、基礎医学、臨床病態医学、医用安全総合管理学、理工学、薬学、分析検査学、生体防御学、形態学、生理生体計測学の12の領域で構成しているが、医療人教育・医療技術者教育として、当然のことながら各領域、各科目相互の関連性は強く、教育課程全体として各々の学生がまんべんなく学ぶことができること、順次性のある体系的な教育課程の編成、豊かな人間性や課題探究能力等の育成に配慮しており、本学部が考える医療人としての医療技術者を養成することができるという。

さらに配置される専門基礎科目、専門科目のうち40科目が臨床検査学、臨床工学の両領域に共通する科目となっている。いわばこれらの科目が本学部の医療人・医療技術者教育の専門教育のコアになり、臨床検査学、臨床工学に学問領域が深長していく形態がとられている。この意味でも両分野の関連性を強く表していると言え、また、学生にとってはより巨視的に医療並びに医療技術を捉えることができるものである。

「学士課程教育の構築に向けて（答申）」では、グローバル化する知識基盤社会において求められる「学士力」を身につけるためには、「幅広い学び」、すなわち、多様な学問分野の俯瞰を可能とする教育課程を積極的に推進する学士課程プログラムが必要とされており、このような方向性に沿い、本学科においても細分化された

一つの領域に留まらず、近接する両領域に知識・技能を広げていくことで、これまでの医療技術者から、さらに医療に貢献できる人材を輩出できるものと考えており、本学部で展開する「臨床検査学」と「臨床工学」の2つの学問分野を一つの学科の中で教育することの学問的意義は非常に高いと考えている。

本学部の設置の趣旨でも述べているが、将来の医療提供体制については、超高齢社会による社会構造や疾病構造の変化に伴って在宅医療の充実と推進、また、患者の状況に的確に対応した医療を提供するため、保健・医療専門職の多職種間における「チーム医療」の推進が求められている。

少子・高齢化・多死社会到来による医療従事者の就業人口の減少、ますます高度化、複雑化する医療現場での医師、看護師不足が危惧されている。このような状況の中、チーム医療の推進及び質の高い医療サービスの提供を行うには、一人の医療従事者が幅広い知識を持つことが必要と考えている。

患者中心の質の高い医療を提供するため病院では多職種間で課題解決にあたる医療チームが増え、また在宅医療は個々のケースが多職種協働の場でもある。しかし、現在の医療現場には一つの専門教育体系のみを学んだ医療従事者が多いのが現状である。

このような背景の中、本学部では、医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識・技能を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者の養成を目指しているが、将来のチーム医療を担う医療専門職の育成にとって、臨床検査学と臨床工学の枠を超えて学ぶことのできる学士課程教育、複数の医療職養成課程を同時展開し、その中で医療人としての意識を共有させ、それぞれの専門性を高めることは極めて有効であると考えている。

本学部では、臨床検査部門及び臨床工学部門に従事する医療技術者のあり方を理解し、専門職種の理解を深めること並びに専門職が有効に連携するために必要な事項を学び、また、多職種間連携における最適なチームワークを発揮するために不可欠なコミュニケーション力と問題解決能力を備えた人材を養成するが、まさに学部設置の趣旨と合致していると考えている。

臨床検査学と臨床工学の2つの専門知識と技能を修得することにより、それぞれの業務分野のみならず、医療現場において質の高い医療サービスを提供できる医療技術者は、今後の医療現場において求められている人材であると考えている。

本学部ではこのことから、2つの医療専門職の知識と技能を修得する教育を同時に行うこととする。

今後の医療現場で求められていることは上述してきたが、「臨床検査学」と「臨床工学」の2つの学問的素養を身につけた人材は臨床の現場において特に迅速かつ連続的な業務の遂行、医療安全対策の強化に貢献できると考えている。

例えば、迅速かつ連続的な業務の遂行に関しては、集中治療室内では重症度の高い患者に対し、人工呼吸器や補助循環装置をはじめとした種々の医療機器により生命を維持・管理される。医療機器の操作・管理は臨床工学技士の専門とする業務である。これら医療機器を使用した患者の治療効果を判断するには、検体検査による臨床検査値が必要なことが多い。医師の指示による採血行為は法律上、看護師や臨床検査技師が認められ、臨床工学技士は患者の静脈から直接採血行為はできないのが現状である。臨床検査技師と臨床工学技士の両資格を有していれば緊迫する場面でも迅速な採血が可能となるのみならず、医療機器の離脱や今後の治療方針について臨床検査値の特性を理解した臨床工学技士による医師への提言が期待できる。

また、血液浄化業務において、バスキュラーアクセスの管理は患者の生命維持のために重要な管理項目の一つである。透析導入の原疾患として最も多いのが糖尿病性腎症である。さらに、近年は高齢者での透析導入例が増加している。これらの患者の特徴は心血管系の合併症を有する場合が多く、特に自己血管内シャントと呼ばれるバスキュラーアクセスに関するトラブル（血管の狭窄、閉塞など）は患者の透析の継続に影響を及ぼしている。この病態の早期発見にはシャントエコー（超音波計測）を用いて、形態評価（血管走行や狭窄等病変部の状態検索）や機能評価（血流量、抵抗係数、拍動係数など）を行う必要がある。透析装置の操作・管理を熟知し、バスキュラーアクセスの穿刺が可能な臨床工学技士と超音波診断装置による生理検査が可能な臨床検査技師の両者が常駐していれば迅速かつ適切にシャントエコーを実施し、状態を把握した上でシャントへ穿刺することで安全で効率的な透析導入へと繋げることができる。両資格の保持が示す大きな利点である。

医療安全対策の強化の面では、病棟や集中治療室において臨床検査技師が人工呼吸器を装着した患者の標準 12 誘導心電図の検査中に人工呼吸器の回路が外れ、アラームがなったとしてもその原因を突き止め、速やかに対処することは難しい。この状態での放置やわからない状況でアラームを止めた場合、患者は低換気状態で呼吸不全となる可能性があるが、臨床工学の知識を有すれば異常の早期発見と的確な対処が期待できる。このことは、人工呼吸器以外の生命維持管理装置を使用する全てのケースについても同様のことが言える。

また、感染対策は今や全ての医療施設で必須となっている。感染対策委員会や感染制御チームに臨床検査技師が参画し、医療関連感染の予防及び感染症の蔓延を防止するため感染症発生報告書、特定菌週報、サーベイランスデータなどの提供や病棟ラウンドなどでの啓発・教育活動などを行っている。このような人々が行き交う病棟や患者における動的な院内感染対策は充実しても、医療機器などの静的な感染防止策はなかなか行き届かない。臨床免疫学や臨床微生物学を修めた臨床工学技士が医療機器の保守管理に携わることは、医療機器を介した院内感染を防止する意味でその存在意義は高く、必然とも言える。

上述のような事例はまだ多く存在し、両資格を取得すればこれら一連の体系立てた業務がシームレスに行われ、迅速かつ安全に患者への対応が可能となる。

現在、3年制の養成課程（専門学校等）でも臨床検査技師と臨床工学技士の国家試験受験資格は修得できるが、上述した背景から、専門学校等での3年間の教育では不十分だと考えている。教養教育並びに問題点を解決する能力と探究する素養を身につける教育は、事前・事後学修も含めた学修時間の確保の観点からも少なくとも4年間の教育期間は必要であり、4年制大学での教育が望ましい。また、日本臨床衛生検査技師会は平成元年から関係省庁に対し教育年限を4年以上の大学教育とすべきであるとの要望を行っており、北陸地域の職能団体等や医療機関等からも4年制大学で教育を行うことへの要望が高まっている。

詳細な内容は後述するが、本学部では、医療人としての幅広い教養や科学的・論理的思考力の基盤と臨床検査学と臨床工学の2つの知識、技能、態度を修得し、さらに、基礎ゼミナールや卒業研究などを通して科学的根拠に基づいた問題解決能力と生涯学び続ける姿勢を培うための教育課程を編成している。また、社会・医療のグローバル化を見据えて海外の知識・技能を修得するための基礎的英語力や専門領域に必要な科学的知識・英文読解力を身につけることとしている。このことは、学校教育法（第83条）で、大学の目的である「広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させること」とも合致していると考えている。

以上のことから、本学では4年制課程で医療技術者を養成することが必要であると強く考えている。

⑥ 医療保健学部設置に対する職能団体等からの要望及び賛同

医療機器の高度化や知識・技術の発展から、臨床検査技師、臨床工学技士の基本教育は大学（4年制）で行うことへの要望が高まってきており、本学が位置する石川県の石川県臨床衛生検査技師会会長、石川県臨床工学技士会会長に設置申請を予定しているとの相談をしたところ、医療保健学部設置の要望書、賛同書を頂いた。

また、北陸地域の富山県臨床検査技師会、福井県臨床検査技師会、富山県臨床工学技士会、福井県臨床工学技士会からも同様の要望書・賛同書を頂いたところである。さらに、医師会をはじめ、多くの職能団体を合わせて計30団体から要望書、賛同書の提出を頂いている。【資料7：医療保健学部設置に対する職能団体等からの要望書・賛同書一覧】

(4) 人材養成の目的及び教育研究上の目的

本学は、北陸地域の薬剤師養成の拠点として、着実にその役割を果たしつつ、現在に至るまで医療の中心を担える豊かな人間性を備えた医療人養成のための実践教育を行ってきている。医薬品に関する教育はもちろん、「病態検査学」「病態生理学」「薬

物治療学」「薬理学」「医療分析学」「機器分析学」などの教育実績から、医薬品による臨床検査値や医療機器への影響を教育する基盤は整っている。

本学がこれまでに医療人としての専門職業人を養成してきた教育的資産を活かして、日々進歩し続ける医療機器・医療技術の変化に対応できる能力を持つ医療技術者を養成する学部を設置することにより地域医療にさらに貢献したいと考えている。

新しく設置する医療保健学部医療技術学科では、医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識・技能を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者の育成を人材養成の目的及び教育研究上の目的とする。

大学及び医療保健学部ディプロマ・ポリシーは次のとおりである。

① 大学及び医療保健学部のディプロマ・ポリシー（DP：学位授与方針）

本学の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、次の能力を備えた者に卒業を認定し、学位を授与する。【資料8：医療保健学部 カリキュラム・マップ】

【大学】

- 1) 修得した知識や知見により、自らが課題を発見し解決する力
- 2) 社会で求められるコミュニケーション力と的確な判断力
- 3) 自らを律し、他者と協調して行動でき、社会の発展に寄与できる力

【医療保健学部】

〈知識・理解〉

- 1) 医療技術者としての知識と技能を理解している。(DP 1)
- 2) 医療人としての倫理観、使命感、責任感と幅広い教養を身につけている。(DP 2)

〈思考・判断〉

- 1) 医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。(DP 3)

〈関心・意欲〉

- 1) 日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。(DP 4)

〈態度〉

- 1) 医療技術者としての使命感や責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。(DP 5)

〈技能・表現〉

- 1) 修得した医療技術を安全に実施することができる。(DP 6)
- 2) 医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。(DP 7)

② 医療保健学部の教育目標

- 1) 生命倫理や人の尊厳を理解し、医療人として幅広い教養と科学的・論理的思考、生涯学び続ける基礎的な態度を身につける。

- 2) 医学的基礎知識や医療情勢を理解し、チーム医療に必要なコミュニケーション能力を身につける。
- 3) 臨床検査学、臨床工学の確かな知識と技能をもって医療現場で活躍できる実践能力を身につける。
- 4) 科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力と探究する素養を身につける。

(5) 組織として研究対象とする学問分野

本学部が組織として研究対象とする学問分野は、臨床検査学、臨床工学とする。

2 学部・学科の特色

本学部では「医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識・技能を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者を養成する」ことを目的とし、教育・研究を推進していく。「我が国の高等教育の将来像（平成 17 年 1 月 28 日中央教育審議会答申）」における「③幅広い職業人養成」「⑦社会貢献技能（地域貢献、産学官連携、国際交流）」を重視し、多面的に解決する能力を有する人材を養成し、社会に貢献し得る専門職業人の養成を目指し、次の 4 つを柱に基礎的・実践的教育を行っていく。

【資料 9：医療保健学部医療技術学科の学部・学科の特色と授業科目の対応表】

(1) 徹底した基盤教育及び医療人に必要な教養教育

日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応できる医療技術者を養成するには、まず、生化学、検査機器学、電子工学、電気工学、機械工学などの広範な臨床検査学、臨床工学の基礎や人体の構造と機能、病理学などの医学的基礎をしっかりと身につけておく必要がある。このような臨床検査学、臨床工学の基盤となる知識と技術について修得できる教育を徹底して行うことにより専門基礎知識の定着を図る。また、医療現場に携わる職業人として求められている幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、他者との協調・協働力を身につけることができる教養教育を行う。

(2) 臨床検査学・臨床工学の 2 つの専門知識と技能が修得できる教育

臨床検査学と臨床工学の両方の知識と技能を持った医療技術者を養成する意義として、臨床検査技師が臨床工学技士の資格を持つことで各種医療機器の仕組みを理解した上で、より正確な検査データの分析・提供を行えること、臨床工学技士が臨床検査技師の資格を持つことにより、採血業務を可能とし、各種検査データをより深く理解した上で生命維持管理装置などの操作が行えることなど、2 つの資格を持つことは、病気の発見から治療及び手術、生命の維持まで、あらゆる場面でより迅速に専門性を発揮することができることになり、今後の医療現場でこのような医療スタッフが不可

欠であるとすでに述べてきたところである。

本学部では4年間の在学中に臨床検査学領域と臨床工学領域の両方の知識と技能の修得を目指すカリキュラムが整備されている。2つの領域を同時に学ぶことにより治療や診断にさらに踏み込むことができる医療技術者としての素養が身につく構成としている。

(3) 訪問や在宅医療にも貢献できる知識と技術の教育

「平成27年度社会保障の充実・安定化について（平成27年1月29日付第27回社会保障審議会）」にも示されているとおり、高齢化に向けて身近な地域で必要な医療や介護が受けられる体制整備、医療・介護の質と効率化の向上が図られている。その中では、かかりつけ医での外来診療の促進や訪問・在宅医療への移行が必要とされている。また、認知症患者の増加も予想されることから、知識と技術の修得はもちろんのこと、在宅患者や介護者とのコミュニケーション能力も重要である。これらの意義を学ぶため、必修科目である次の授業を展開する。「看護学概論」では、在宅看護のニーズと医療者の役割、在宅ケアを必要としている対象者の理解について教授し、「医用治療機器学」「生体機能代行装置学」「医用機器学概論」では、在宅で使用頻度の高い機器である、在宅人工呼吸器、在宅酸素療法、吸引、腹膜透析の原理、仕組み、操作、保守点検を中心に教授する。また、「地域チーム医療論」では、在宅支援に関わる医療従事者や医療システムについての授業を展開する。

(4) 薬学や医療情報システムに精通した医療専門職の育成

従来から、臨床検査技師国家試験出題基準に「生体内の薬物動態」「化学療法」が、臨床工学技士国家試験出題基準に「薬理学の基礎」「麻酔薬」「医療安全（薬剤の確認）」の項目があり、「薬理学」と関係の深い内容が設定されている。

本学部では、実際に手術室に入り、人工呼吸器など生命維持装置を直接操作する技士においては薬理作用を熟知することは重要な課題であることから、手術時に使われる薬剤の作用等について学ぶ「薬と生体反応」「臨床薬理学」といった特色ある科目を設け、本学薬学部の薬理学専門の教員が指導を行うこととする。

一方、安心して良質な医療を提供するための体制の一環として医療分野におけるIT化の推進と活用が行われている。例えば、病理医のいない施設からの画像を大学病院の病理医が判定する遠隔病理診断（テレパソロジー）ネットワークなどが構築されつつある。また、在宅患者の24時間心電図画像や自己血糖測定の結果を電話回線を使って主治医に報告することなどにも医療情報技術が活用されている。さらに医療情報技術により提供したサービスの記録管理、診療のアウトカムやプロセスの評価、EBM（根拠に基づく医療）のためのデータ提供は、チーム医療の促進など診療を支援し、医療の質を向上させる上で極めて有効である。しかし、情報を有効に活用するためには情

報処理の知識が不可欠で、蓄積されたすべての情報の中から必要とする情報を活用しやすい情報として抜き出すなど、情報は使いこなしてはじめて医療に役立てることができる。このような情報技術の基礎を理解し運用できる能力を養う。

3 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 学部の名称

「医療保健学部 : Faculty of Health and Medical Sciences」

本学建学の精神である、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」に基づき、人間の生命や尊厳を真に理解できる豊かな人間性と専門的職業人としての知識と技能を修得して、保健・医療の幅広い領域で、人間の健康と福祉の向上に貢献することのできる有為な人材を養成することから医療保健学部とした。英語表記は、保健と医療について科学的に学ぶ学部であることから“Faculty of Health and Medical Sciences”とした。

(2) 学科の名称

「医療技術学科 : Department of Medical Technology and Clinical Engineering」

医療現場において、“根拠に基づく治療”を行うために欠くことのできない臨床検査を行う臨床検査技師を養成すると同時に、医療機器、生体機能代行装置の操作や管理を行う臨床工学技士を養成することから医療技術学科とした。英語表記は臨床検査技師と臨床工学技士を養成する学科であることから、“Department of Medical Technology and Clinical Engineering”とした。

(3) 学位に付記する専攻分野の名称

「学士（医療技術学） : Bachelor of Medical Technology and Clinical Engineering」

学位の名称は学科名称の意義に準じて学士（医療技術学）とした。英語表記は学科名に準じて、“Bachelor of Medical Technology and Clinical Engineering”とした。

4 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成の基本方針

医療保健学部では、人材養成の目的及び教育目標を達成するために教育課程を「一般教養科目」「専門基礎科目」「専門科目」に区分して編成し、医療人としての必要な素養を育成するとともに、医療技術者として求められる知識と技能を確実に修得させることを目指している。

本学部の人材養成の目的及び教育目標並びに学士（医療技術学）の学位授与方針の

観点から、学生に履修を義務づける科目を精査し、これらを必修科目として配置した。

一般教養科目は中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方（平成14年2月21日）」で指摘されている意義並びに臨床検査技師養成及び臨床工学技士養成で求められる「科学的思考の基盤」「人間と生活」の教育内容を修得できるよう編成を行った。

専門教育は臨床検査技師及び臨床工学技士国家試験受験資格を得るために必要な厚生労働大臣が指定する科目の教育内容を踏まえ、専門基礎科目と専門科目に区分した。臨床検査学、臨床工学の基礎的な知識と技能を深めるために主要な専門基礎科目を必修科目とし、両学問領域の専門性を高める基礎知識を低学年から段階的に学修することで専門知識の定着を図り、さらに専門知識としての医療技術の理論と実際を学ぶ専門科目を配置し、1年次から専門基礎知識と専門知識を積み上げていながら臨床での実践を想起させるようなカリキュラムを構成した。

また、講義と演習、実験・実習を一体化した（学んだ直後に実験・実習により体験して身につける）形で学修させることにより、知識と技能の定着の促進を図る。

臨地実習（臨床検査学）、臨床実習（臨床工学）は4年次前期に配置し、学内で学んだ知識や技能を実際の医療現場で見学・体験することから臨床スキルの修得を図り、医療現場の現状や問題を把握する。4年次後期には臨地実習、臨床実習で得られた知識と医療技術者としての意識を踏まえながら、知識と技能を体系的に整理してより深く理解し、臨床検査学、臨床工学の両方の知識、技能、態度の総合的な向上を図れる科目を配置した。

さらに4年次1年間の卒業研究を通して、科学的根拠に基づいた問題解決能力と生涯を通して学び続ける姿勢を持つ人材を育成する。

(2) 医療保健学部のカリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成方針）

医療保健学部カリキュラム・ポリシーは次のとおりである。

医療保健学部医療技術学科の人材養成の目的を達成するために以下の方針に基づいて教育課程を編成する。

- ① 医療人として幅広い教養を修得させるとともに、コミュニケーション能力を修得するための科目を配置する。（CP1）
- ② 医療現場で必要となる実践的な知識と技能を修得するために必要な臨床検査学、臨床工学の基礎的な知識を深めるための科目を配置する。（CP2）
- ③ 日々進歩し続ける医療機器、医療技術の現場で、臨床検査学、臨床工学の領域で修得した知識と技能を安全に実施する医療技術者を養成するための科目を配置する。（CP3）
- ④ 科学的根拠に基づいた問題解決能力を養い、生涯を通して学び続ける姿勢を身につける科目を配置する。（CP4）

本学部では、こうしたカリキュラム・ポリシーに基づいて体系的な教育課程が編成されている。C P 1には「一般教養科目」や「地域チーム医療論」「専門職連携演習」「臨地実習」「臨床実習」など、C P 2は「専門基礎科目」、C P 3は「専門科目」、C P 4は「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」などの科目を配置している。

具体的には、以下に示す科目区分によって教育課程の編成が体系的であることがわかる。【資料 10：医療保健学部のカリキュラム・ツリー】

(3) 一般教養科目

チーム医療を担う一員として、患者とのインフォームド・コンセントや関係する医療従事者との治療に関わる提案や助言を行い、良好なコミュニケーションを保ちつつ医療を進めていくためには、医療人としての幅広い教養と科学的・論理的思考の基盤が必要であり、その素養を身につけるため、1・2年次の低学年次に一般教養科目を配置した。

幅広く豊かな人間性と様々な状況に応じたコミュニケーションの基礎的な素養を身につけるためには、生命倫理や人の尊厳を幅広く理解し、地域や社会に対する考え方を学ぶ必要があると考え、「社会学」「哲学」「心理学」「法学（日本国憲法含む）」「スポーツ」「社会保障と福祉」「北陸の文化と社会」「日本史」などを選択科目として配置した。さらに必修科目として、医療分野で活躍するために必要な倫理観を養う科目として「生命・医療倫理学」を配置し、また、少人数制の演習科目「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」を1年間とおして配置し、現代の社会や医療が抱える問題点を調査、討論、発表を行うことにより、自己表現力と生涯学び続ける基礎的な態度を養い、学生同士の交流の中から豊かな人間性を育成することとした。

また、社会・医療のグローバル化を見据えて、海外の知識・技能を修得するために必要な基礎英語力を身につけるため、「英語Ⅰ・Ⅱ」を、さらに専門領域で必要な科学的知識や英文読解力を総合的に身につけるために「科学英語の基礎」「医学英語」を必修科目として配置する。さらに国際的な視野を広げるため「海外研修」「英会話」を選択科目として配置した。

医療人として必要な科学的・論理的思考力を養い、専門分野の基礎理論の定着を図るために「自然科学概論」を必修科目として配置する。また、専門基礎へと導く科目として「生物学」「物理学」「化学」「数学」を配置し、専門基礎分野を学ぶ上での基礎的知識の定着を図る。

(4) 専門基礎科目

専門基礎科目では、医療従事者として必要な医学的基礎知識や医療情勢、倫理観、を学ぶために1年次に「医学概論」「看護学概論」、実践の場に役立つよう4年次に「公衆衛生学」「関係法規」を配置した。

臨床検査学、臨床工学の基礎を学ぶ基礎分野を「基礎医学」「理工学」の2つの分野で構成し、系統的・体系的につながるよう科目を配置した。【資料10：医療保健学部のカリキュラム・ツリー】

臨床検査学や臨床工学に必要な人体の構造や機能などの基礎医学系科目として、「医学概論」「看護学概論」「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「生化学」を設定し、「解剖学実習」「生理学実習」「生化学実習」をとおして実際の知識と技能の定着を図る。

また、臨床検査学、臨床工学の基礎的知識と技能を修得するため、1・2年次に「医用検査機器学」「医用工学概論」「医用機器学概論」「電気工学」「電子工学」「計測・機械工学」「医用工学概論実習」などを、3年次に「生体物性・材料工学」を設定した。

さらに薬学の知識に精通した医療技術者を育成するために、3年次に「薬と生体反応」「薬理学」を、4年次に「臨床薬理学」を必修科目として配置し、本学薬学部の薬理学系専門の教員から、薬剤と生体反応及び臨床検査に及ぼす影響について教授することとした。

また、高度に進歩し続ける医療情報システムに適応するために、1年次に「情報科学概論」と「情報処理工学Ⅰ」を、2年次に「情報処理工学Ⅱ」を必修科目として配置した。

(5) 専門科目

専門科目は、専門分野を「臨床病態医学」「医用安全総合管理学」「分析検査学」「薬学」「生体防御学」「形態学」「生理生体計測学」の7つの構成で系統的・体系的に知識と技能を修得できるよう科目を配置した。【資料10：医療保健学部のカリキュラム・ツリー】

専門科目と専門基礎科目の一部科目では、基礎的な知識から実践までを体系的に学ぶために、講義と演習、実験・実習を一体化した（同分野の講義と実習を同一時期に開講し、学んだ直後に実験・実習により体験して身につける）形で学修させることにより、知識と技能の定着の促進を図る工夫をしている。

臨床検査学領域では、1年次前期に日常診療で求められる検体採取及び一般検査領域に必要な基礎知識と技能を学修するため「臨床検査総論Ⅰ」「臨床検査総論実習Ⅰ」を配置した。「臨床検査総論実習Ⅱ」は2年次後期に配置し実際の検体採取方法や一般検査を体得した上で、3年次後期に「臨床検査総論Ⅱ」を配置し検査結果の説明・相談ができる臨床検査技師の育成を目指すこととした。2年次から3年次には、臨床検査学の専門科目である「臨床生化学」「臨床微生物学」「臨床免疫学」「臨床血液学」「生理機能計測学」などの各分野の授業科目において、講義・演習と実習を同一開講期に配置し、講義と演習、実験・実習を一体化した形で学修させることにより、知識と技能の定着の促進を図れる科目を配置した。

臨床工学領域では、2年次に「生体機能代行装置学」「生体機能代行装置学実習」「医

用治療機器学」を設定し、循環器、代謝、呼吸器、集中治療の各領域に関連した医学の知識と臨床工学の技術を学べるように配置した。3年次には「生体計測装置学」「医用機器安全管理学」「医用治療機器・安全管理学実習」などを配置し、各装置の安全管理や医療機器の専門家として医療施設内でのインシデントやアクシデント、トラブルシューティングなど実際に臨床で生じる事故対策に対応するための知識及び技能を系統的・体系的に学ぶように構成した。

4年次前期に必修科目として、「臨地実習」「臨床実習」を配置した。

臨地実習・臨床実習後の4年次後期には実践の場を体験して得られた知識と、それまでの学内での学修をより深く体系的に理解するための科目として「臨床医学総論」「臨床検査学演習」「臨床工学演習」を配置し、臨床検査データと病態との関連、臨床工学的処置と病態との関連について、これまでの学修をとおして培われた知識と病態が体系的・総合的に理解できる能力を養うよう工夫した。

これらの科目構成により、臨床検査学領域においては、検査結果について適切に判読・評価して検査値から病態との関連を推測しながら診療支援ができる人材、検査結果について説明できる人材（Clinical Laboratory Scientist）を育成し、実践で役立つ臨床検査技師を目指すことができる。臨床工学領域においては、各種検査・診断結果を見極め、医療機器の専門家としての立場から医療施設及び在宅患者の状態に応じたアセスメント能力を身につけた人材を育成し、実践で役立つ臨床工学技士を目指すことができる。

4年次後期には「地域チーム医療論」を配置し、医療現場に求められるコミュニケーション能力や問題解決能力を高めるための知識を学び、「感染対策チーム」「栄養サポートチーム」「褥瘡サポートチーム」「糖尿病療養指導」などのチーム医療に貢献できる臨床検査技師、及び院内における医療安全を司る役割や立場を理解させて、医療安全を構築するためのリーダーとしての臨床工学技士の育成を図る。さらに保健・医療専門職の多職種間における「チーム医療」を推進するため、「専門職連携演習」を配置し、専任教員から、医療の流れ、医療チームの構成員、チーム医療論に関する基本的知識を指導した上で、専任教員がコーディネーターとなり、臨床現場での実務経験がある医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士などのゲストスピーカーから、専門職種の理解を深めること並びに専門職が有効に連携するために必要な事項を学び、さらに、多職種間連携における最適なチームワークを発揮するために不可欠なコミュニケーション力を医療チームで取り組むべき事例を用いてグループワークや発表会を通じて養うものとする。

いずれの科目も4年次前期の「臨地実習」「臨床実習」で実際のチーム医療の現場を体験した上で4年次後期に配置することとする。

以上のように、臨床検査学、臨床工学を同時に学べる教育課程を編成することにより、個々の学生が相互の重要性、役割や使命を確認し、チーム医療に貢献できる人材

の育成を目指すことができる。また、日々進歩し続ける医療機器・医療技術の知識や技術を積極的に吸収し、さらには医療情勢に関する興味や理解を発展させて課題を見出し、それらを解決する可能性について考えることができる探究心や向上心に富む人材を育成することができる。

(6) 臨地実習（臨床検査学）・臨床実習（臨床工学）

4年次前期に臨床検査学、臨床工学の総合的な理解と、医療技術者としての責任感、協調性を高めるために、臨床検査学関係の学外実習である臨地実習（臨床検査学）、臨床工学関係の学外実習である臨床実習（臨床工学）を行う。臨地実習・臨床実習では、実践の医療を体験させることにより現場の空気を肌で感じ、学内で学んだ知識や技術を再確認し実践の感覚を養うことや、機器の操作や保守・管理のみならず医療機器を使用している患者の観察及び病態の理解を深めることを目的とする。また多種多様の医療機器が頻用されている医療の場では、医療技術者の活躍はなお一層の広がりを見せていることから、臨床施設で活躍している臨床検査技師、臨床工学技士の協力を得ながら、現在の医療の現場、最新の機器に関しても興味を持てる実習を展開する。さらに、個人情報守秘義務や人間の尊厳の遵守など、医療従事者としての意識を再認識させる。

両実習を必修科目とすることで、1つの学外実習しか学ぶことができない教育課程より、医療チームの一員としての責任感と自覚、倫理観をより身につけることができると考えている。

それぞれの実習開始前に既に臨床検査学と臨床工学の知識と技能を学んでいることから、1つの学問分野で学んで臨む実習より、連続して行うことでそれぞれの業務内容の違いを深く理解することができる。

「臨床検査学」と「臨床工学」の2つの学問的素養を身につけた人材は臨床の現場において特に効率的な業務の遂行、医療安全対策の強化に貢献できること、具体的に想定されるケースについてはすでに述べてきたが、事前にそのような知識を持って臨地実習、臨床実習を体験することは、2つの学問分野で学んだからこそ、異なった視点から幅広く考えることができ、卒業後、実際に医療現場で課題に直面しても解決できる能力をより身につけられると考えている。

「臨地実習」「臨床実習」の事後において、「臨地実習」では臨床工学的視点、「臨床実習」では臨床検査学的視点から気づいた点を学生同士で互いに発表する教育を行うこととする。

(7) 卒業研究

4年次には、大学での勉学を総括するものとして卒業研究を経験させる。前期の「卒業研究Ⅰ」では学内授業、臨地実習・臨床実習、臨床検査学・臨床工学の文献などを

とおして担当教員の指導の下、興味を持った分野において研究課題を設定する。後期の「卒業研究Ⅱ」では課題に沿って研究計画書を作成し、調査、実験、シミュレーション、検証等を行う。研究成果は論文作成としてまとめるとともに、講演による発表を経験させる。自主的に実験や調査を行い、自ら問題を見出し解決することで科学的思考、研究手法を身につけ、臨床現場から将来の医学・医療の発展に貢献できる情報を発信できるよう、研究能力を養う足掛かりとする。

(8) 訪問や在宅医療にも貢献できる知識と技術の教育

超高齢社会・人口減少社会による社会構造の変化から、今後、医療技術者として在宅患者や介護者とのコミュニケーション能力が重要になってくることはすでに述べているところである。「看護学概論」では、医療の需要が高い老年期、更に増加傾向にある在宅医療を必要とする患者の特徴を理解し、その人の日常生活の維持・向上、健康上の問題解決に向けた援助について考える。「医用機器学概論」「医用治療機器学」及び「医用治療機器・安全管理学実習」では、在宅で使用頻度の高い医用治療機器を取り上げ、その適応となる疾患及び使用方法、効果、副作用を理解し、保守・管理に関する基本的知識・技術を身につける。「生体機能代行装置学」及び「生体機能代行装置学実習」では、在宅人工呼吸器、在宅酸素療法、吸引、腹膜透析の基本的な原理と操作、保守点検について講義及び実技により修得する。また、これらの生命維持管理装置に関する事故事例とトラブルシューティングについて具体的な安全対策を身につける。「地域チーム医療論」では、在宅医療に携わる医療従事者の役割や、その対象、医療保健システムなどについて学ぶことにより、訪問や在宅医療にも貢献できる教育の充実を図る。

5 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 教員組織の編成の特色

医療保健学部医療技術学科では、「医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識・技能を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者を養成する」ことを人材養成の目的としている。この人材養成の目的を踏まえて、臨床検査学、臨床工学の理論と実践を体系的に履修することが可能となる教育課程の編成とすることから、各領域の授業科目数及び単位数に応じて、それぞれの専門分野や実務経験を踏まえ、教育経験、教育研究業績及び実務経験を豊富に有する教授、准教授、講師及び助教の確保に努めた。

本学部の専任教員組織は、教授8名、准教授6名、講師1名、助教1名の16名で編成し、主要な授業科目を中心に、臨床検査学、臨床工学の各分野に対応する教育課程

に応じて適切に配置した。専任教員の取得学位は博士14名、修士1名、学士1名であり、いずれも科目を担当するに十分な研究業績を有している。

さらに、実習に関する授業科目については、授業等のための教材作成の補助や実習機器などの準備及び管理、実習施設との連絡調整など、教育研究の円滑な実施のための業務に従事する助手を置き、臨床検査技師、臨床工学技士の資格保持者2名を配置する。

専門基礎科目及び専門科目などの主要科目は、十分な教育研究業績のある教員が担当し、専門的な知識や技能の修得とともに実践能力を養う各領域の実習・演習科目は実務経験の豊富な教員が担当する。さらに教育研究において高い業績を有する教員と、臨床検査学・臨床工学に関する豊かな実務経験を有する教員を適切に配置し、それぞれの専門性を生かした幅広い視野に立った教育研究を推し進めていく。

また、教育研究水準の維持と継続性を担保する上でも若手、中堅教員の育成、研鑽は重要である。研究水準の維持及び活性化を目的に科学研究費補助金をはじめとする外部研究への積極的な参加を促す。そのためには教員間交流の促進が重要であり、教育・臨床経験豊富な教授が若手、中堅教員と共同で教育研究の活性化が図れるようにし、各教員の教育研究能力の向上に協力する。研究資金としては、共同研究を支援するための北陸大学特別研究助成金、さらに個人の基礎教育研究費によって研究活動の支援を行う。

専任教員には、教育及び研究活動、臨地・臨床実習指導に係る時間が十分に確保されている。具体的なスケジュールは【資料11：教員別担当授業時間割】に示す。

専任教員及び助手のうち、臨床検査技師免許を有する教員9名、臨床工学技士免許を有する教員3名、薬剤師免許を有する教員1名、看護師免許を有する教員1名、このうち臨床検査技師と臨床工学技士の両方の資格保持者2名、臨床工学技士と看護師の両方の資格保持者1名、臨床検査技師と薬剤師の両方の資格保持者1名を有している。以上のことから医療技術者を養成するに相応しい学部としての教員構成となっている。

臨床検査学系の教員は豊富な実務経験と教育研究実績を有しており、様々な検査データを分析する能力を培い、得られた検査結果から必要な治療や対処を予測しながら治療の提案ができることから、チーム医療に貢献する人材育成ができる。

臨床工学系の教員は、呼吸、代謝、循環領域の専門認定資格を保有し、資格更新のために日々先進医療の講習や研究を必要とする人材である。また、患者のケアに従事する看護師資格を有する教員を導入することで、透析医療や在宅医療等に必要な患者の身体のみならず精神、社会的背景をとらえた治療に携わる臨床工学技士の育成ができる。

本学は薬学部を有する大学として生物学・物理学・化学などを教育する医療系資格の専門基礎教育の経験を有する。また、臨床工学に関連する呼吸、代謝、循環領域に

使用される薬の特徴や作用、使用方法、副作用など臨床実践に基づく丁寧な授業を展開することも可能である。

本学部には、臨床検査技師、臨床工学技士の職能団体の役職者（経験者）が専任教員として着任することから、全国で活躍する医療技術者のネットワークを活用することができ、北陸3県（石川県、富山県、福井県）の臨床検査技師会、臨床工学技士会の協力により臨地実習・臨床実習における指導内容や領域の偏りもなく臨床教育ができる。

(2) 教員組織の年齢構成

本学部の専任教員の年齢構成（着任時）は60歳代9名、50歳代3名、40歳代3名、30歳代1名となっている。教授は、50歳代から60歳代の教育・研究・臨床経験等の豊富な人材を配置し、准教授は40歳代から50歳代の中堅層（一部60歳代）を中心に配置、講師・助教は10年以上の臨床経験や研究の実績を有する博士以上の学位を持つ30歳代から40歳代の人材を中心に任用する。

専任教員のうち、既に本学教員の停年年齢である満65歳を超える者及び完成年度の平成33（2021）年3月までに停年を迎える者が6名含まれるが、本学就業規則【資料12：学校法人北陸大学就業規則（抜粋）】において、学部等の新設に伴い採用され、設置申請教員名簿に登載された教員については、採用時の年齢が満60歳以上の者の停年は採用日から6年と規定されており、教育研究に支障を来さないようになっている。このほか、同じく就業規則で大学運営上引き続き勤務させる必要があると認めた停年退職教員については、特任教員として勤務させることができると規定されており、完成年度まで教員組織の維持に特段の問題はない。

専任教員の就任時期は、平成29（2017）年度12名、平成30（2018）年度4名である。平成30年度（開設2年目）以降に就任する教員に、1年次配当の科目の一部を兼任教員として担当させることにより教育に支障がないよう配慮している。

本学部では、教育研究の継続性の観点から、完成年度までに中堅及び若手教員を育成するために、学内外者による教育研究に関する講演会・研修会等を開催し、各教員の研究・教育能力や資質開発・向上に取り組むことを支援する。

完成年度以降については、公募等を通じた学外の人材の採用や、教育研究上の実績を重ねた准教授の教授への昇格により、速やかに教授の補充を行い、学部の円滑な運営を維持する予定である。

具体的には完成年度で停年を迎える教員の分野については、開設年度より学部内で補充人事の検討を開始し、停年以外の教員の年齢、職位等を考慮した上で、開設3年目に公募人事を開始する予定である。

退職教員の補充にあたっては、大学設置基準に基づく教授、准教授及び講師等の職位構成や年齢構成を適切に保つことに留意しつつ、教育研究目的を達成するために、

学部開設当初の授業科目を継続して開講し、教育水準が維持できる採用計画を構築する。

6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 授業方法等の設定

本学部の授業は、講義、演習、実験・実習から構成する。各授業形態を適切に組み合わせることで、理論と実践を融合し一体的に学修できる形にしている。知識の理解を目的とする教育内容については講義形式、態度・志向性及び技術や技能の修得を目的とする教育内容については演習形式、理論的知識や能力を実務に応用する能力を身につけることを目的とする教育内容については実験形式や実習形式による授業形態で行うこととする。専門系の科目の一部の科目では、基礎的な知識から実践までを体系的に学ぶために、講義と演習、実験・実習を一体化した（同分野の講義と実習を同一時期に開講し、学んだ直後に実験・実習により体験して身につける）形で学修させることにより、知識と技能の定着の促進を図る工夫をしている。

授業の内容に応じた学生数は、原則として、講義、演習形式は 60 人、ゼミ・卒業研究形式の授業は少人数～10 人、外国語科目は 30 人、実験・実習は担当教員を複数配置することにより 20～30 人、臨地実習・臨床実習は 2～6 人程度（グループ編成）で設定する。

科目の配当年次については、一般教養科目、専門基礎科目、専門科目の科目区分とともに決定されている。幅広い教養や科学的・論理的思考の基盤を学修する一般教養科目は主に 1・2 年次に担当し、専門基礎科目と専門科目は、有機的かつ体系的に学修が積み上がるように担当されている。学年ごとの授業科目の履修順序は次のとおりとする。

1 年次は、医療人としての幅広い教養と科学的・論理的思考の基盤を身につけるために、必修科目の「生命・医療倫理学」「自然科学概論」や幅広い教養科目を履修する。さらに、少人数制の演習科目「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」で、現代の社会や医療が抱える問題点を調査、討論、発表を行うことにより、自己表現力と生涯学び続ける基礎的な態度を養う。社会・医療のグローバル化を見据えて、海外の知識・技能を修得するために必要な基礎英語力を身につけるため、「英語Ⅰ・Ⅱ」を履修する。また、専門科目を受講するために必要な理科系科目については、初年次にプレイスメントテストを実施し、高校で選択していない学生、理解不十分な学生に対しては、一般教養科目である「化学」「物理学」「生物学」「数学」を履修させ、さらに指導が必要な学生については補習講義を行い、個の学力に応じた補習的措施を実施する。

専門教育を受けるための基礎を築く知識と技能を修得するために専門基礎科目である「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「生化学」を履修し、「解剖学実習」「生理学実習」

「生化学実習」の基礎的な実習をとおして講義で得られた知識を確認する内容としている。1年次は2年次以降に学ぶ臨床検査学、臨床工学の基礎的知識と技能を修得する教育課程と位置づけられる。

2・3年次では、臨床検査学、臨床工学の専門分野ごとに系統的・体系的に専門分野の科目を配置し、1年次で学んだ一般教養と臨床検査学、臨床工学の基礎的知識をもとに、専門的な知識と技能を学修する。

4年次では、1年次から3年次までの講義や実習で得た知識・技能を基盤として、臨床現場で実践能力を身につける「臨地実習」「臨床実習」を実施する。実習前には、それまでの知識・技能を確認するとともに、臨床現場で留意すべき接遇やチーム医療での適切な態度等十分な実習前指導を受け、また実習後も臨床現場での様々な経験を整理し、得られた知識とそれまでの学内での学修をより深く体系的に理解するため「臨床検査学演習」「臨床工学演習」をとおし再学修することによって理解を深化させる。また、卒業研究を完成させることにより、臨床における問題解決能力を養う。

(2) 履修指導方法

① 指導体制

本学では、学生一人ひとりに対し、きめ細かく学修面と生活面の支援や指導を行うため、担任制度を導入している。

担任教員は、学生の科目履修にあたり、「履修モデル」【資料 13】「医療保健学部のカリキュラム・ツリー」【資料 10】を提示しながら、履修計画・学修目的・科目選択のアドバイスを行うほか、学生生活全般に関する個別相談や就職・進学相談等について助言を行う。各学年担任教員は月に1回、情報の共有や意見交換を行い、必要に応じて学部教授会に報告し、全専任教員による情報・問題の共有や議論を行うことで、きめ細かい学生指導につなげる。また、授業内容や履修方法等に関する学生の質問や相談に応じるため、専任教員はオフィスアワーを設定し、指定時間に教員室で待機する。オフィスアワー時間については学生全体に周知したうえで実施する。

本学では、すでに担任教員と担任学生が利用できる教育支援ポートフォリオ・システム「manaba（柊朝日ネット）」を導入済みである。「manaba」を利用することにより、学生が学修状況を自ら管理するとともに、担任教員が閲覧することによって学修状況に関する情報をもとに、適切な助言や指導が行える。また提出物も「manaba」をとおすことでいつでも提出が可能になり、担任教員はその都度コメントを付けて返信できる。相互の信頼関係が醸成されることで、より学修を効果的に進めることができる。

② ガイダンス

ア. フレッシュマンセミナーとガイダンス

入学直後からフレッシュマンセミナーを開催して、学生に配布される「学生便覧（履修の手引き・学生生活の手引き）」に基づいて、4年間の学修に必要な事項・情報を説明し、指導する。4年間のカリキュラム編成と専門領域の設定の考え方、学修計画の立て方、履修方法、受講方法、学修方法、学生生活に必要な事項などについて指導する。履修登録は学生支援システムからオンラインで行うため、学生支援システムへのアクセス方法や登録方法を指導する情報ガイダンスもフレッシュマンセミナーにおいて実施する。さらに図書館の利用、パソコン教室の利用、保健室・カウンセラー室の利用など、学生生活全般についても説明を行う。なお、後期開始時には、上級年次生と同様にガイダンスを開催し、学生の学修が計画的、体系的になるよう指導する。

イ. シラバス

シラバスには、カリキュラム編成と教育課程を踏まえて、開講授業科目の授業の概要と目的、授業の到達目標、準備学習、成績評価の基準・方法、教科書・参考書、他の科目との関連、授業のアドバイス、授業計画等を示し、学生の自律的な学修への取り組み、主体的な不断の努力を促す。

③ 履修科目の年間登録上限

本学部では、学生の学修時間を確保し、単位制度の実質化を図るため、履修科目として登録することができる単位数の上限を1年間で48単位に定める。

④ 成績評価

本学部の成績評価はSからFまでの5段階評価とする。Sは秀（100点換算で90点以上）、Aは優（同80点～89点）、Bは良（同70点～79点）、Cは可（同60点～69点）、Fは不可（同59点以下）である。S～Cの成績評価を得た者は、その科目の単位を修得した者とし、Fは不合格とする。

この5段階評価に加え、本学部ではGPA（Grade Point Average）制度を行う。各成績評価とGrade Pointの対応は、次のとおりである。

成績評価	Grade Point
S（秀）	4.0
A（優）	3.0
B（良）	2.0
C（可）	1.0
F（不可）	0.0

単位を修得したときの取得ポイントは、〔授業科目単位数×その科目のGrade Point〕とする。GPAは、〔取得ポイントの合計÷履修登録の授業科目の単位数の合計〕で示される。GPAの評点は、学生自身が学修結果を総合的、客観的に確認する指針となり、学修意欲の向上につながり、学生自身で学修目標を明確にし、主体的に学修を推進することに資する。また教員等が学生一人ひとりに対して指導する際に、効

果的で適切な指導を行うための資料として利用し、教育の質の向上へのフィードバックを図る。さらに各種奨学金の選考資料として利用する。

また、本学部では、成績疑義照会制度を行う。これは科目の成績評価に関して疑義が生じた場合に、学生が照会を求めることができる制度であり、妥当と判断された場合には成績評価を訂正することができる。疑義照会の対象事項は①定期・再試験等を受験し、あるいはレポート等の課題を提出したにもかかわらず、成績評価が記載されていない場合、②定期・再試験等を受験し、あるいはレポート等の課題を提出し、成績評価で合格基準を満たしている具体的な根拠があるにもかかわらず、「F」評価となった場合、③成績評価で合格基準を満たしていないにもかかわらず、「C」以上の評価が記入されている場合に限定され、成績評価に関しての疑義を照会するものではない。この成績疑義照会制度により、学生が不当に不利益を被ること、あるいは不当な利益を得ることを防止し、成績評価の質を維持することを図る。

(3) 卒業要件

卒業要件は、本学に4年間以上在学し、次の各科目区分における必要単位数を満たしたうえで、卒業単位130単位以上を修得したものとする。

一般教養科目から20単位以上（必修12単位を含む）、専門基礎科目から必修45単位、専門科目から必修63単位、専門科目の選択科目から2単位以上を修得し、130単位（必修120単位、選択10単位）以上修得することとする。

7 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

本学は、石川県金沢市の東南部に位置する。薬学キャンパスと太陽が丘キャンパスを有し、両キャンパス間は車で約7分の距離にあるが、医療保健学部は太陽が丘キャンパスにて教育研究を行う。

大学のキャンパスは、学生と教職員が日々教育研究活動を行い、自分の家以外あるいはそれを含めて最も多くの時間を過ごす場所であり、その環境の重要性は非常に大きい。本学は、建学の精神である「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を実現するため、教育研究活動を通じ、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、豊かな人間性を涵養する知の探求のための重要な空間として、緑豊かな自然環境や眺望を活かし、学生・教職員はもちろん卒業生や地域住民が集う活気あふれるキャンパスを目指して整備を行っている。

太陽が丘キャンパスの既存の校地は、75,306.99 m²と十分な面積を有しており、ゆとりある空間構成となっている。キャンパス内には、食堂やカフェ、書籍売店を設けているほか、空地等への休憩ベンチの設置や各校舎内に学生ホールを整備して学生の

休息時のスペースを確保している。また、文化系クラブの部室、野外ステージ、共用の研修室、休憩ラウンジ、公開講座の事務局等が入るコミュニティーハウスがあり、学生同士の憩いの場として利用されている。キャンパス緑化の推進により、多種多様な樹木、四季折々に咲く花々と様々な生き物の声が癒しの効果をもたらし、本学の立地を生かした緑の多いキャンパスとなっている。

運動場については、太陽が丘キャンパスに柔道場及びトレーニングルームを併設する体育館兼講堂（4,529.68 m²）、野球・ソフトボール等に使用するグラウンド

（16,978.15 m²）、フットボールパーク（人工芝サッカーコート2面・22,940.84 m²）、人工芝テニスコート5面（6,220 m²）を整備しており、これらの運動施設は、体育授業のほか、課外活動にも利用できる。医療保健学部教育では、体育授業科目「スポーツ」において、これらの施設を使用することとする。

このように、本学の校地は今回の医療保健学部設置の計画にも十分対応できる環境を確保している。

(2) 校舎等施設の整備計画

太陽が丘キャンパスに整備されている校舎の面積は、24,510m²である。医療保健学部を設置する平成29年4月に計画している学部学科構成に基づいて大学設置基準上必要となる大学全体での校舎面積は18,952.6m²であり、十分な校舎面積である。これに加えて、医療保健学部医療技術学科の専用施設として、教室、実習室、多目的演習室、事務室、実験研究室、会議室、教員室、セミナー室、自習・休憩スペースを有する地上3階建て、延べ床面積4,760.70m²の新校舎を建設（平成28年3月着工、平成29年2月完成予定）し、必要な教室等【資料14：新校舎図面】を配置する計画である。また、新校舎と既存校舎（事務局や食堂がある太陽が丘2号棟）をつなぐ渡り廊下（436.95 m²）を同時に建設し、学生・教職員の回遊性や利便性を図る計画としている。

教室については、専用講義室2室（90人収容1室、81人収容1室）、卒業研究や個別の学生指導等に活用するセミナー室3室のほか、ホワイトボード兼用の可動式パーティションにより12区画に仕切ることができ、PBL等で使用可能な多目的演習室を整備する。教室は、太陽が丘キャンパスの既存校舎にも講義室26室（1号棟11室、2号棟15室）、演習室15室（1号棟4室、2号棟11室）が整備されており【資料15：太陽が丘キャンパス教室一覧及び使用状況】、講義・演習科目については、これらを他学部と共同使用する計画である。また、情報系の授業科目については、既設のパソコン教室を既存学部と共用して使用する。教室数及び各教室の収容人数・設備等は、収容定員240人に対して十分なものである。【資料16：医療保健学部 授業時間割】

実験・実習施設は、その目的に応じた設備を備えた実習室を6室整備する。1階には形態系の実習室（171m²）と実習準備室（28m²）を、また生体防御系の実習室（168 m²）と実習準備室（23m²）を配置し、「臨床検査総論実習」「臨床血液学実習」「病

理学実習」「臨床微生物学実習」「医療安全管理学実習」「医動物学実習」等の実習を行う。2階には分析化学系の実習室(171m²)と実習準備室(28m²)を、また基礎工学系の実習室(148m²)と実習準備室(43m²)を配置し、「臨床生化学実習」「臨床免疫学実習」「医用工学概論実習」等の実習を行う。3階には臨床工学技術系の実習室(193m²)を、また生体計測系の実習室(156m²)と実習準備室(42m²)を配置し、「生体機能代行装置学実習」「医用治療機器・安全管理学実習」「生理機能計測学実習」等の実習を行う。

各実習室にはプロジェクター等のAV機器を整備し、より効果的な実習を行うことができるようにする。実習用に女性用ロッカー兼更衣室を2室、男性用ロッカー兼更衣室1室を整備する。

各実習室には臨床検査学・臨床工学に必要な器具等を整備・配置し、学生の教育と研究に向けた十分な環境を整備する。実習室別の主な器具等の整備計画は【資料17】のとおりである。

また、隣接する校舎には食堂、売店、自習室、図書館等があり、今回整備する施設・設備は医療保健学部医療技術学科の教育課程に照らして、支障なく授業を行うことができるものとなっている。

教員研究室の整備計画については、教授には個室の教員研究室9室、准教授、講師、助教及び助手が使用する2人共同の教員研究室2室と4人共同の教員研究室2室、計21人分の教員研究室を整備する計画であり、教員組織として計画している専任教員数16名及び助手2名全員分の教員研究室を確保している。他に教員が共同で使用する実験研究室3室を設ける。また、教員研究室が配置される3階に、教員が学生の相談に応じることができるよう面談室2室を整備している。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

① 図書等の資料

本学の図書館資料については、平成28年1月現在で、医療保健学部が設置される太陽が丘キャンパスの図書館本館(2,494.83 m²)に人文・社会系を中心とした図書約14万冊、医療・薬学関係の図書約1万冊(薬学部1・2年次生は太陽が丘キャンパスで授業を受けている)、学術雑誌808タイトル、視聴覚資料約1,800点を所蔵している。薬学キャンパスに設けた薬学図書館(1,194 m²)には、医療・薬学関係の図書約5万3千冊、学術雑誌407タイトル、視聴覚資料約1,000点を所蔵している。

既存の図書整備状況、特に医療系図書・学術雑誌等の整備状況を十分に考慮した上で、臨床検査学、臨床工学を学ぶ上で必要とされる内国書1,613冊、外国書29冊、視聴覚資料15点、内国学術雑誌11種、外国学術雑誌1種、データベース1種を整備する。また、データベースでは、「CiNii」により、論文や図書・雑誌などの学術情報を利用できる環境を整備するとともに、専門的な学術資料に関しては、「医学

中央雑誌 Web 版」「メディカルオンライン」等を整備することで、医療系の論文検索を容易にする。【資料 18：図書等整備計画】

現在、契約しているコンテンツは、上記 CiNii のほか、北國新聞、読売新聞の各新聞データベース、ELNET（国内主要新聞・雑誌記事検索）、LexisNexis Academic（世界各国のニュース・新聞・企業情報・医薬情報等検索）、SciFinder Academic（自然科学）等専門的な外国データベースも契約、利用提供している。これらのデータベースは一部を除いてサイトライセンス契約で、今後も継続するとともに、両キャンパスを専用線で結んでおり、太陽が丘キャンパスの図書館本館、教員室、パソコン教室等学内各所でも利用可能である。

このほか、電子ジャーナルは約 4,500 タイトル利用可能であり、トランザクション契約でエルゼビア社が発行する全ての電子ジャーナル及び電子ブックが論文単位で利用できる。

② 図書館の整備計画

本館は、地上 4 階建て、延床面積 2,494.83 m²で閲覧席 434 席（内個人学習席 36 席）配置しており、1 階に新聞・雑誌閲覧コーナー、グループワークコーナー、視聴覚及びパソコンコーナーが整備されている。パソコンコーナーには、学内 LAN に接続されたパソコンが 10 台設置されており、図書館資料の検索やレポートの作成に利用できる。館内蔵書検索システムは、＜Carin＞システムが導入されており、自宅のパソコンからでも貸出中の資料の予約、貸出状況の確認、相互利用や購入の申し込み等ができるシステムとなっている。薬学キャンパスにある薬学部分館が所蔵する資料については、両キャンパス間で結ぶメール便を活用する学内相互貸借により、太陽が丘キャンパスで貸し出し・返却手続きを行うことができる。両キャンパスの図書館を 1 日 57 便のシャトル便（約 7 分）で結んでいる。開館時間は、平日は 20 時、土曜日・日曜・祝日は 17 時まで開館しており、授業終了後の学修にも対応している。また、平成 26 年にはゼミ等での授業や学生同士のグループ学修に対応できるよう、4 階にアクティブ・ラーニング教室を整備した。

③ 他大学図書館等との協力

本学図書館は私立大学図書館協会に加盟するとともに、地域の私立大学図書館との連携を重視して私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会加盟館として相互利用協定を結び、相互協力活動を行っている。さらに本学は、国立情報学研究所の NACSIS-ILL（図書館間相互貸借システム）に加盟し、文献複写・相互貸借により利用者サービスの充実に努めている。

8 入学選抜の概要

(1) 受け入れようとする学生像

本学の建学の精神は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」である。この建学の精神に基づき、「深く専門の知識と技能とを教授研究し、人格の陶冶を図り、文化の創造発展と公共福祉の増進に貢献し得る人材の育成（学則第1条）」を大学の教育目的としている。

これらの使命・目的に基づいて、以下のとおり大学全体としての入学者受入方針を定めている。

① 大学のアドミッション・ポリシー（ＡＰ：入学者受入方針）

建学の精神に基づき、21 世紀に必要とされる幅広い教養を身につけ、社会で即戦力となる人材育成を目標とした実学教育を実践し、学生一人ひとりに深い愛情と情熱を注ぎ、親身な指導を通して学生の人格を形成することを教育理念とし、学ぶ意欲のある者を広く受け入れる。

○ 本学が求める学生像

- ・心身ともに、未来に生きるたくましさに満ちた人
- ・明るくさわやかに、学ぶ大切さと喜びを知り、行動する人
- ・人の痛みが分かり、心優しく思いやりのある豊かな人
- ・礼節を重んじ、正直で誠実に何事にも真摯に取り組む人
- ・豊かな教養、優れた外国語能力とコミュニケーション力、的確な判断力を持ち、世界の発展に貢献できる人
- ・自らの生活を律し、人間形成に努める人

② 医療保健学部のアドミッション・ポリシー（ＡＰ：入学者受入方針）

医療保健学部医療技術学科では、医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識・技能を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者の養成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れる。

○ 医療保健学部が求める学生像

- ・医療の知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している人
- ・人を思いやる心と協調性を持って取り組むことができる人
- ・物事を論理的かつ多面的に考察することができる人
- ・何事にも積極的に取り組むことができる人
- ・医療・保健に対する意欲や関心が高く、この分野に貢献したいという熱意のある人
- ・自らの考えを明確に伝えることができる人

入学者選抜では、大学入試センター試験、個別学力検査、調査書、面接及び小論文

などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価する。

医療技術学科における基礎となる理論や科学的考察には、理系科目（数学、物理、化学、生物）の考え方や知識が、また、論理的文章力及びコミュニケーション力には文系科目（国語、英語）の知識が必要であり、高等学校段階においてこれらの教科の履修が望ましい。

(2) 入学者選抜方法

こうしたアドミッション・ポリシーに基づいて、多様な人材を確保するための入学者選抜試験が実施されるが、各選抜制度の概要は下記のとおりである。

① 特別選抜区分

- 1) 指定校推薦入試：募集人員 10 人 ※一般推薦入試と合算した人数

入学意欲が高く、本学の教育理念・目的を理解し、適合していると高等学校が判断し、評定平均値等の一定の条件を満たした生徒を対象に、提出書類（調査書）と面接で評価し可否を判定する。この選抜方法が目指すのは、本学を第一志望とする意欲的な入学者の獲得であり、これにより本学の建学の精神に基づき設定した本学の教育に適合する生徒層の確保が可能となる。

- 2) 一般推薦入試（公募型）：募集人員 10 人 ※指定校推薦入試と合算した人数

本学への入学に意欲の高い者の獲得を主眼としている。高等学校での平素の学修成果を重視し、提出書類（調査書）と面接、小論文による総合評価で可否を判定する。

- 3) AO入試：募集人員 3 人

AO入試は、入学希望者一人ひとりと直接対話し、面接や学部独自の審査方法で、個々の勉学意欲や入学後の修学目標や将来の可能性などを、多面的かつ総合的に評価する入試制度である。可否は提出書類（調査書・エントリーシート）、面接等による総合評価で判定する。可否判定において重視するのは、志望学部・学科のアドミッション・ポリシーを理解し、明確な目的意識を持ち、本学で勉学することを強く望む点である。

② 一般選抜区分

- 1) 一般入試（A・B日程）：募集人員 30 人

一般入試は、受験生個々の学力特性を評価する選抜を行うために下記の受験科目を設定し、3科目の成績により可否を判定する。

・試験科目（3科目：計 300 点満点）

必須：コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

選択①：化学基礎・化学、生物基礎・生物、化学基礎・生物基礎

から 1 科目選択

選択②：国語、数学Ⅰ・A・Ⅱ・B（数列・ベクトル）から 1 科目選択

2) センター試験利用入試（A・B・C日程）：募集人員 17 人

大学入試センター試験の受験対象科目の中から 3 科目の得点と書類審査（調査書）により総合的に評価し可否を判定する。

・試験科目（3 科目選択：計 300 点満点）

必須：英語

選択①：物理、化学、生物、物理基礎・化学基礎、化学基礎・生物基礎、
物理基礎・生物基礎から高得点 1 科目

選択②：国語、数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・Bから高得点 1 科目

(3) 入学者選抜実施体制

入学者選抜は、「北陸大学アドミッション委員会規程」に基づき、学長、学務担当理事、事務局長、学部長、留学生別科長、アドミッションセンター長、常任理事会が指名する教職員で構成するアドミッション委員会（以下、委員会）が、入学者に係る募集、受入れ制度の企画・実施、奨学金、追跡調査と学部における学修状況、高等学校教育との接続など、入学者受入れに関する事項全般の審議を行う。委員会の議決事項に従い、アドミッションセンターが入学者選抜の実務を担当している。また、副学長、学部長、問題作成責任者、職員で構成する入試ワーキンググループを新たに組織し、出題方針原案の作成や科目設定の検討、受験生成績等入試結果の検証等を行うことで、アドミッション・ポリシーと整合性のある試験問題の作成に資することとしている。

入学者選抜の実施は、「北陸大学入学者選抜規程」に基づいて行う。選抜問題の取扱いについては、学長の委嘱を受けた各科目の問題作成委員が年度当初から小委員会を定期的に開催して作問し、印刷立会いから封入・封印まで厳重な管理のもとで行っている。選抜の運営は、選抜ごとに定めた実施要領に基づき、アドミッションセンターが中心となっていく。地方会場を開設する場合は、会場ごとに責任者を定めた上で担当者説明会を各選抜前に開催し、選抜室の設営や選抜問題の保管・管理、監督要領並びに責任者委任事項及び入学者選抜統括本部との要協議事項などについて周知徹底している。選抜当日は、学長を本部長とし、副学長、学部長、問題作成委員、アドミッションセンターからなる入学者選抜統括本部を設置し、各選抜会場との連絡を密に行いながら、公正、円滑な実施に努めている。可否判定は、採点結果を基に総合的に検討のうえ、委員会で判定案を作成する。委員会は判定案を全学教授会に付議し、全学教授会は判定案に基づき審議し可否を判定する。なお、面接を伴う選抜については事前・事後に面接員会議を開催し、アドミッション・ポリシーとの合致について、各面接員の評価意見を判定に反映させている。

「北陸大学入学者選抜規程」に準拠し、以下の会議・委員会において審議している。

① 全学教授会

本学の入学試験の合格者はアドミッション委員会において選考し、全学教授会の議を経て学長が決定することになっている。議長である学長の下、副学長、各学部長らにより構成される。

② アドミッション委員会

本学の入学者選抜の実施方法、日程に関する事項や入学者選考に関する事項など、その他入学者選抜に関する事項を審議・決定する。委員長である学長の下、学務担当理事、事務局長、各学部長、留学生別科長、アドミッションセンター長らにより構成される。

③ 入学者選抜統括本部

入学者選抜を適正かつ円滑に実施するために入学者選抜統括本部を置き、本部長として学長を充てる。

④ 問題作成委員

入学試験問題の作成及び採点等については、統括本部にこれを取り扱う問題作成委員を置き、委員は学長が委嘱する。

(4) 入学定員に占める一般選抜区分の募集定員の割合

入学定員に占める一般選抜区分の募集定員の割合は78%である。

9 取得可能な資格

本学部の卒業要件 130 単位を修得し卒業することにより、下記の国家試験受験資格が取得できる。

- ・臨床検査技師国家試験受験資格
- ・臨床工学技士国家試験受験資格

10 実習の具体的計画

(1) 臨地実習・臨床実習の基本計画

臨地実習・臨床実習は3年間で学んだ専門科目、専門基礎科目に関する学内講義、演習、実習で培った臨床検査学・臨床工学の知識と技術について実際の医療現場でどのように用いられ、また応用されているかを学ぶ教育課程である。すなわち、今日の最新の医療機器を検分すると同時に医療情勢を把握し、安全・安心な医療の実践のために日常的に行われている分析装置や医療機器の保守点検、精度管理、機器の在庫や払出管理などの実務を体験し、医療現場での様々な工夫を体験する。同時に社会から望まれる医療スタッフ像と協調（チーム医療）の重要性について理解を深めさせ、医療人としての自覚を育成する実習指導を行う。実習は臨床検査技師、臨床工学技士の資格を有する本学の実習担当教員が実習の到達目標及び方法を実習施設の実習指導者

に明示し、共通理解を得て指導を進める体制とする。なお、実習担当教員と実習指導者の役割については後述する。

① 実習のねらい

1) 臨地実習（臨床検査学領域）

臨地実習では、学内で学んだ臨床検査学の理解と基本的実習の上に、学内では学べなかった基本的・実践的技術を修得するとともに、検査材料の取り扱い方、検査機器の仕組みや取り扱い方、検査情報管理等の正しい結果を迅速に報告するという検査部門の役割や運営に関する基礎知識を学び、検査部門の医療における重要性を知る。多様に進歩する医療分野の真髄を医療現場で接しながら臨床検査学のさらなる習熟を図る。また、医療を必要とする患者とその家族、最良の医療を提供すべき医師やその他の医療スタッフがいる臨床現場に身をおき、ヒューマンコミュニケーションを意識して人間的な成長を目指す。さらに患者との対応の仕方・マナーを学修し、医療チームの一員としての責任感と自覚、倫理観を身につける。

2) 臨床実習（臨床工学領域）

臨床実習では、学内で学んだ臨床工学の理解と基本的実習の上に、学内では学べなかった臨床工学として必要な基本的・実践的技術を修得するとともに、医用治療機器の仕組みや取扱い方、保守点検などの医療機器管理業務など臨床工学部門の役割や運営に関する実践知識を学び、臨床工学部門の医療における重要性や医療スタッフとしての協調性の重要性を知る。また、臨床工学技士が対象とする患者の年齢層や基礎疾患も多様であることから、単に医療機器に関する知識だけではなく、医療現場での患者に応じた対応について検分する。さらに、患者との対応の仕方・マナーを学修し、医療チームの一員としての責任感と自覚、倫理観を身につける。

② 実習の基本方針

1) 臨地実習（臨床検査学領域）

社会人としての良識を身につけるとともに、医療人としての倫理観を身につけ、臨床検査の現場から臨床検査技師として不可欠な臨床検査の基本的な実践技術を修得する。また、臨床検査情報の意義、精度管理の必要性、そして検査研究の重要性を認識するために、疾患へ興味を持ち、検査情報より病態解析へのアプローチを身につける。さらに医学・医療の専門職そして医療チームの一員として積極的に取り組むために、医療の中における臨床検査及び臨床検査技師の役割と責任を知り、医療人としての自覚を芽生えさせる。実習中は実習指導者、学生、教員との連絡を密にし、実習課題の進捗や実習目標、実習中の悩みや不具合等を互いに確認することで実習効果の向上に努める。

以上の目的と基本方針を実践するために、実習施設には以下の内容について指

導をお願いする。

ア. オリエンテーション、施設見学等

イ. 施設における患者さんの流れ、臨床検査の流れ

ウ. 採血からの検体の流れ

エ. 検体検査 ①尿・一般検査 ②生化学・免疫血清・輸血検査 ③血液検査
④微生物・病理検査

オ. 生体検査 ①循環器検査 ②呼吸器検査 ③感覚機能検査
④超音波検査 ⑤その他（病棟出張検査など）

カ. チーム医療（ICT・NST・褥瘡対策など）の見学

2) 臨床実習（臨床工学領域）

チーム医療の推進という視点から患者を中心としたチーム医療における臨床工学の重要性を臨床現場で学び、社会人としての良識を身につけるとともに、医療人としての倫理観を身につける。臨床現場から臨床工学技士として不可欠な臨床工学の基本的な実践技術を修得する。また、血液浄化装置、集中治療室及び手術室、並びに医療機器管理業務の実習をとおして、臨床工学技士の使命を自覚し、医療の発展に寄与できる基本的な技術と知識、そして臨床工学研究の重要性を認識するために、疾患へ興味を持ち、治療における病態解析へのアプローチを身につけ、チーム医療の一員として、医療・保健・健康分野における臨床工学の役割と責任について理解を深めさせ責任感と自覚を身につける。実習中は実習指導者、学生、教員との連絡を密にし、実習課題の進捗や実習目標、実習中の悩みや不具合等を互いに確認することで実習効果の向上に努める。

以上の目的と基本方針を実践するために、実習施設には以下の内容について指導をお願いする。

ア. 医療機器管理業務（ME センター）実習

イ. 血液浄化業務実習

ウ. 集中治療室実習（人工呼吸器実習含む）及び手術室実習

エ. その他の関連業務（心臓ペースメーカー業務及び心臓カテーテル関連業務、他）

(2) 実習の構成と概要

実習の基本構成は、1年次から2年次にかけて種々の専門基礎科目を学び、2年次から3年次に一定の専門科目を修得した後、4年次前期に12週間の臨地実習・臨床実習に臨むべく系統的に知識・技能の積み上げを行う。実習の詳細については「北陸大学医療保健学部臨地・臨床実習実施要綱」【資料19】を作成し、実施する。

(3) 実習先の確保の状況

必要な臨地実習・臨床実習施設として、石川県を中心に、富山、福井の北陸3県の

施設からの承諾を受け、学生に必要な施設数を担保している。学生の出身地や現住所を考慮した上で北陸3県の実習施設を中心に実習を行う計画である。

臨地実習先及び臨床実習先は「臨床検査技師養成所指導ガイドライン（医政発 0331 第 27 号平成 27 年 3 月 31 日厚生労働省医政局長通知）6 臨地実習に関する事項」、「臨床工学技士養成所指導ガイドライン（医政発 0331 第 31 号平成 27 年 3 月 31 日厚生労働省医政局長通知）6 臨床実習」に関する事項に示されている基準を満たす施設とし、大学附属病院、国公立病院、赤十字病院、恩賜財団済生会病院などの地域基幹病院を中心に北陸3県の中規模病院以上の合計 55 施設（延べ数）の承諾を得た。【資料 20：実習施設一覧表、実習受入承諾書】

実習科目	入学定員	収容定員	実習施設承諾数 (受け入れ可能人数)
臨地実習 (臨床検査学領域)	60 人	240 人	32 施設 (103 人)
臨床実習 (臨床工学領域)			23 施設 (117 人)

(4) 実習先との契約内容

① 臨地実習・臨床実習に係る契約

大学と実習施設の間で、実習に関する契約を結ぶ。契約書の内容は、実習の期間、実習の内容、実習謝礼金、学生の規則遵守、法人機密情報の保護、保険加入、実習中の負傷・疾病、事故発生時の対応等である。実習施設に所定の契約書や実習要項がある場合には、内容を検討の上、原則として実習施設の定めに従う。

② 個人情報の保護に関する取り組み

学生には、実習開始までに個人情報保護や守秘義務、人権尊重の考え方に関して具体例を示して教授し、特にブログやツイッターなどのソーシャルネットワークへの投稿が禁止であることを厳重に注意する。「北陸大学医療保健学部臨地・臨床実習における個人情報保護に関する基本方針」【資料 21】で示す内容をもとに、実習で知り得た個人情報及び実習記録物の取り扱いについて十分に指導する。

(5) 実習水準の確保の方策

臨地実習・臨床実習は、実習指導者会議、事前の指導、臨地実習・臨床実習、事後の指導の4つの段階からなる。実習担当者の役割は以下のとおりである。

① 実習指導者

実習指導者は、本学部の実習目標に沿って学生の指導を行い、実習記録、出欠や体調などの状況を記録する。実習担当教員は、実習指導者と随時連絡を取り、学生の状況を把握し、実習指導者からの連絡内容に応じて迅速に対応できる学内体制（専

用携帯電話の配備など）を整備する。

② 実習担当教員

実習担当教員は、実習指導者の学生指導に助言し、必要に応じて実習施設を訪問して学生の指導にあたる。実習終了後には、各学生からの実習報告書等を基に臨地実習・臨床実習における様々な課題について検討し、実習水準の確保を図る。

実習前オリエンテーションと実習指導者会議の役割について以下に記載する。

（実習前オリエンテーション）

臨地実習・臨床実習前に学生とオリエンテーションを行い、目的、目標、課題を明確にする。オリエンテーションでは、実習施設のシステムや特徴などを確認し、実習のすすめ方、留意事項を理解させる。特に、事故防止対策、院内感染防止対策、患者の前での発言、守秘義務については厳密に指導にあたる。また、マナーやモラルの遵守については普段の授業態度、学生生活の中で教育、指導を徹底する。

（実習指導者会議）

実習指導者との詳細な調整は、実習開始前年度（3年次後期）の段階で実施する。実習指導者会議を開催し、実習の運営に関する共通認識を図り、4年次前期から始まる本実習に向けて十分な調整を図る。また、実習開始の当該年度の4月には再度指導内容、方法、評価について確認を行う。実習終了後には実習指導者と協議する場を設け、実習に関する反省や問題点、課題を明確にして、次年度の実習に向け必要な改善を図る。

（6）実習先との連携体制

実習開始前の実習指導者会議にて、実習目的、達成目標、実習計画、実習の心構え、諸注意、実習指導方法、実習評価基準について確認する。

実習中の状況は、実習担当教員による巡回指導や、定期的な連絡により状況把握を行う。実習終了後は、実習担当教員が実習施設における指導者との協議の場を設け、反省点や達成目標について確認することで実習先との連携体制を図る。

具体的な実習先との連携は下記のとおりである。

- ① 実習承諾の際に、施設側の実習指導の窓口（実習指導者）の選任を依頼する。
- ② 実習に必要な公文書や契約書等の書類の必要の有無を確認する。
- ③ 実習指導者会議では、実習先の方針や特徴、学生が事前に準備しておくべき課題や心構え等、実習全般に関する打ち合わせを行う。
- ④ 本学科には実習窓口（担当教員）を設置し、必要に応じて実習指導者と相互に連絡を図る。
- ⑤ 実習期間中、実習担当教員が実習施設を訪問し、学生の実習状況について実習指導者と共有する。学生と面談のうえ実習項目の実施状況を把握し、必要に応じて指導を行う。また適宜、電話、ITの活用（メール等）により状況把握や問題点への対応

応を図る。

⑥ 事故防止に関する取り決め（緊急時の連絡体制等）を交わす。

実習中に事故が起こらないように事前指導を行い、危険を察知した場合の連絡・対処方法を十分指導し、事故防止に心がける。また、事故発生時から事後処理までの連絡、報告体制を構築し、責任の所在を明確化するとともに、一貫した対応を行う。詳細を「北陸大学医療保健学部臨地・臨床実習実施要綱」【資料 19】に記す。

臨地・臨床実習中のインシデント・アクシデント発生時の報告・指示体制は【資料 22】に示すとおりである。

(7) 実習前の準備状況

臨地実習・臨床実習に際して、事前準備として本学において次のとおり体制を整える。学生の健康管理は、本学で全学生対象に年 1 回実施している定期健康診断を受診させ、学生の健康状況の把握をしている。必要により個別の健康相談などを行う。また、入学時より学生は全員学生教育研究災害傷害保険と賠償責任保険に加入する。その他、感染予防策として、抗原・抗体価検査と必要に応じてワクチン接種を推奨する。

また、インフルエンザなど、時期的な流行性感染症については適宜接種を勧めていく。実習中に関するインシデント・アクシデント、感染対策については「北陸大学医療保健学部臨地・臨床実習実施要綱」【資料 19】に従い指導、実施する。

(8) 事前・事後における指導計画

① 事前の指導計画

教員は、「臨地・臨床実習指導要綱」に示す内容をもとに、実習の意義と目標、方法、留意点等を学生に指導する。さらに、実習前オリエンテーションの開催によって必要知識の復習を行うとともに、学生からの質問や相談に適切に応じられるよう、専任教員による指導体制を整える。

② 事後の指導計画

教員は、個別の学生に対して実習の成果や問題点について個別面談などにより状況を把握し、必要な指導を行う。

(9) 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

実習担当教員は臨床検査技師・臨床工学技士の資格を有する専任教員及び助手の計 14 名とし、実習施設へ訪問して学生の実習状況について実習指導者と面談のうえ、実習の実態を把握する。さらに学生とも面談を行い、実習項目の実施状況を把握するとともに、直面する課題や問題があれば適切な指導を行う。

実習担当教員含む専任教員全員については、既に【資料 11：教員別担当授業時間割】に示しているとおり、教育及び研究活動、臨地・臨床実習指導等に係る時間を十分に

確保しており、巡回指導には特段の支障はないと考えている。

(10) 実習施設における指導者の配置計画

実習施設の選定においては十分な実習指導経験を持つ指導者が担当可能であることを必須条件として依頼し、決定した。各実習施設における指導者の配置計画は、それぞれの実習施設の環境や業務体制に従い実施いただくよう要請する。

(11) 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、実習指導を行った実習担当教員が、出席状況、実習内容、実習記録、実習態度、学生面接及び実習指導者の評価等を踏まえ総合的に評価し、最終的に科目責任者が単位認定を行う。

- ① 成績評価は、100点法により行い、評点が60点以上を合格とし単位が与えられる。
- ② 評点と評価は、100－90点（S）、89－80点（A）、79－70点（B）、69－60点（C）、59－0点（F）とする。

11 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

本学では、外国語学部（現、未来創造学部国際教養学科）において、昭和63年より短期海外語学研修を開始し毎年継続して行ってきた。平成16年度からは全学部の学生を対象に短期海外語学研修を実施している。

短期海外語学研修は、本学が提携する姉妹校、友好校から提供されるプログラムに参加し、夏季又は春季休業中の約1ヶ月間程度、語学を中心に研修が行われるものであり、研修先での生活がホームステイ中心であるので、現地に住む人々の価値観、文化や習慣を体験することもできる。派遣学生は事前学習において現地のホームステイ先や生活でのマナー、留学先の文化や日常会話等を学ぶこととしている。

医療保健学部においても、様々な状況に応じたコミュニケーションの基礎的な素養を身につけることや国際的視野を広げることを目的として、学生が希望すればこの短期海外語学研修に参加できる形とする。

短期海外語学研修の研修先は、現在実施しているアメリカ（カリフォルニア大学リバーサイド校（夏季のみ））、オーストラリア（フリンダース大学、ウーロンゴン大学）、中国（北京語言大学）とする。【資料23：短期海外語学研修先一覧】

学生の希望により研修先を選択でき、受入人数も派遣先の大学との提携により参加希望者が多い場合は複数クラスの開講など柔軟な対応が取れる形となっている。国際交流センターが本学の窓口となり研修先との連絡・調整等を行っている。

なお、研修先からの評価や事前学習における参加及び研修後の課題提出状況に基づき、合格レベルにあると認められた学生については、最終的に科目責任者が選択科目である「海外研修（1単位）」の単位を認定する。

12 管理運営

大学の管理運営体制としては、学部の教学面における重要事項を審議するために学部教授会を設置し、大学全体の教学全般を審議する機関として全学教授会を設置している。さらに、学長の下に法人と大学の責任者で構成されている教学運営協議会を設置し、全学的に取り組むべき教育施策について審議を行い、教学と法人間の意思疎通を図っている。また、全学的及び学部運営組織として、教務、学生、入試、就職支援、図書館、国際交流、自己点検・評価、FD 活動などに係る各種委員会を設置している。

(1) 全学教授会

全学教授会は「北陸大学学則」第5条に規定されており、教育成果を上げるため教育に関する事項を審議する機関である。この全学教授会は、学長が招集し議長を務める。構成員は学長のほか、副学長、学部長、学生部長、図書館長、学科長、教務委員長の他、学部長が指名した各学部の教授で、大学全体の意見が反映された審議が行われるように配慮されている。学部を超えた全学的な重要事項を審議するほか、各学部教授会の報告、教授会決議事項の全学的な調整等が行われる。

(2) 学部教授会

学部の教学面における重要事項を審議するために教授会を設置する。教授会は、学部長及び教授により構成され、学部長が必要と認めた場合、常勤の職員を陪席させることができる。

(3) 教学運営協議会

教育の質的向上の他、特色のある大学として地域を支える大学づくり、国内外の大学や諸機関と連携した教育研究など、本学が組織的・体系的に取り組む教育施策について審議するために北陸大学教学運営協議会を設置している。学長が議長となり、副学長、常任理事会において選任された常任理事、学部長、図書館長、学科長、学生部長、教務委員長、大学院研究科長、留学生別科長、事務局長、総合企画局長、学事本部長、管理本部長、そのほか学長が特に必要と認めた者をもって組織され、次の事項について審議している。

- ① 教育の中長期計画に関すること
- ② 全学的な教育編成方針に関すること
- ③ 教育の質保証・質的向上に関すること
- ④ 教学運営の PDCA サイクル確立に関すること
- ⑤ 教育における地域との連携協力に関すること
- ⑥ 国内外の大学や諸機関との連携協力に関すること

⑦ その他全学的な教育に関すること

(4) 学部・全学の各種委員会

学部・全学的な運営組織として、教務、就職支援、学生、入試、図書館、国際交流、自己点検・評価、FD 活動など、各種委員会を設置している。この各種委員会で企画・協議された重要事項は、教授会に付議し決定される。

○主な全学・学部委員会とその審議事項

委員会名	審議事項
教務委員会	教務に関する事項
就職委員会	学生の就職支援に関する事項
学生委員会	学生の福利厚生及び学生の生活補導に関する事項
アドミッション委員会	入学者の受入等に関する事項
図書館委員会	図書等の学術資料の設備及び情報に関する事項
国際交流委員会	国際交流に関する事項
自己点検・評価委員会	自己点検・評価に関する事項
FD 委員会	教員の教育活動の質的向上と能力開発に資する組織的な取組みに関する事項

13 自己点検・評価

北陸大学では、これまでに平成14(2002)年度と平成25(2013)年度に大学全体の自己点検・評価を実施し、いずれも「自己点検・評価報告書」としてとりまとめ、公表している。学部単位では、薬学部が平成22(2010)年に、一般社団法人薬学教育評価機構が行う薬学教育第三者評価として、同機構が定める評価基準に基づき自己評価を実施した。未来創造学部においては、平成23(2011)年に公益財団法人日本高等教育評価機構の評価基準を参考に評価基準を設定し、自己点検・評価を実施した。

医療保健学部においても、既設学部において実施されている自己点検・評価活動を踏まえ、大学全体として連携のとれた自己点検・評価活動に参画していく。

平成16(2004)年度に制度化された第三者評価に関しては、公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を平成19(2007)年度、平成26(2014)年度に受審し、同機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。

(1) 実施方法

本学では、大学教育における教育の理念、目標に照らして、教育研究等の活動の状況を点検・評価し、現状を把握、分析するとともに、その達成状況を評価し、その結果に基づく教育研究等の活動の改善・向上を図ることを目的として、「北陸大学自己点検・評価規程」に定めるところにより、定期的に自己点検・評価を実施すること

としている。

自己点検・評価を、自らの教育研究活動の改善サイクルの中に明確に位置付け、責任体制を明確にしたうえで、学長の下に担当理事、副学長、学部長ほか学内各部局長により編成される「北陸大学自己点検・評価委員会」を置き、各部局において点検・評価項目ごとに自己点検・評価を行い、そのうえで全体的な自己点検・評価を行うこととしている。医療保健学部においても学部長等が委員として本委員会に加わり、本学部に関する自己点検・評価活動の中心的役割を果たすとともに、大学全体として連携のとれた活動を行う。

(2) 実施体制

自己点検・評価の実施に当たっては、自己点検・評価規程に定める基本的な評価項目、評価基準に従い、自己点検・評価委員会の統括のもとに、全学構成員の参画により自己点検・評価を行う。学部ごとの自己点検・評価については、学部長を責任者として、点検・評価項目ごとに実施し、その結果を委員会に報告する。

医療保健学部においては、上記の実施体制に基づき、自主性と自立性のもとに、継続性と客観性を確保しつつ、自己点検・評価を実施できる体制を整備する。また、学部としての中長期的な目標設定と具体的な計画策定を行い、その達成状況の評価及び評価結果の活用が可能となるシステムを構築し、教育研究活動の充実と向上を図っていく。

(3) 結果の活用・公表

自己点検・評価の結果については、その内容を公表して教育研究活動の状況を明らかにし、社会の評価を受けることを通して教育内容や方法の改善を図り、教育研究活動の充実と向上に努めていく。

自己点検・評価報告書は、大学として社会に対する説明責任を果たす観点から、ホームページでの公開や自己点検・評価報告書の作成、関係諸機関等への配布等により公表することとする。また、学内の教職員に配付し、各自が担当した自己点検・評価活動を通して得られた知見と同時に、大学の現況と問題点の共通理解を図ることで、各担当部署での業務改善と大学全体としてのFD、SD活動につなげていく。

(4) 評価項目

自己点検・評価の項目は、自己点検・評価規程において、本学が加盟する公益財団法人日本高等教育評価機構の認証評価基準に沿いながら、本学の視点も加えて定められており、この基準に従い実施していく方針である。

医療保健学部では、学部の目的に即した教育研究活動の状況を点検・評価する専門分野別の自己点検・評価を促進していくことが重要であることから、本学部の評価項

目については、大学全体の自己点検・評価の基本方針を踏まえた上で、以下の評価項目に随時追加しながら点検・評価を行うこととする。

- ① 学部の基本理念及び使命・目的、個性・特色
- ② 教育研究組織と教員組織
- ③ 教育活動
- ④ 研究活動
- ⑤ 教育研究の施設・設備
- ⑥ 学生の受入れ、学生支援
- ⑦ 図書及び学術資料
- ⑧ 学部運営
- ⑨ 社会との連携
- ⑩ 自己点検・評価

14 情報の公表

本学に関する情報については、大学ホームページをはじめ、大学案内等の各種印刷物、パンフレット、冊子、各種メディアを通じて広く社会に公表しており、今後もホームページの更なる内容充実を図る等、積極的な情報の公表を行っていく。ホームページでは、学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、教育・研究に関する情報を以下のとおり公表している。（平成 28 年 3 月 1 日現在）

(1) 大学の教育研究上の目的に関すること

- ① 建学の精神、人材養成の目的、3つの方針（大学全体）
(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education.html>)
(トップ > 情報の公表 > 教育の情報)
- ② 薬学部3つの方針
(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/departments/pharmacy/index.html#policy>)
(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 薬学部の3つの方針)
- ③ 未来創造学部3つの方針
(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/departments/future/index.html#policy>)
(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 未来創造学部の3つの方針)

(2) 教育研究上の基本組織に関すること

- ① 設置する学部等
(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education.html>)
(トップ > 情報の公表 > 教育の情報)

(3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

① 専任教員の年齢構成、男女別／所属別、資格別教員数

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/data_teacher.html)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 専任教員の年齢構成、男女別／所属別、資格別教員数)

② 教員組織内の役割分担

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_teacher.html#page01)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 教員組織内の役割分担)

③ 大学組織図

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_teacher.html#page02)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 大学組織図)

④ 各教員の学位・業績等（教員教育・研究情報ページ）

(<http://acoffice.jp/hruh/KgApp>)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 各教員の学位・業績等)

⑤ 教員一人当たり学生数

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_teacher.html#page03)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 教員一人当たり学生数)

⑥ 専任教員と非常勤教員の比率

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_teacher.html#page04)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 専任教員と非常勤教員の比率)

(4) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

① 入学者数、在籍学生数、収容定員

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_student.html#page01)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 入学者数、在籍学生数、収容定員)

② 留学生数、社会人学生数

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_student.html#page02)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 留学生数、社会人学生数)

③ 学位授与数

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_student.html#page03)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 学位授与数)

④ 卒業者数、進学・就職状況

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_student.html#page04)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 卒業者数、進学・就職状況)

- ・就職先の情報

薬学部 <http://www.hokuriku-u.ac.jp/carreer/pharmacy/index.html>

未来創造学部 <http://www.hokuriku-u.ac.jp/carreer/future/index.html>

(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

① 薬学部薬学科カリキュラム

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/department/pharmacy/doc/pharmacy_curriculum.pdf)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 薬学部薬学科カリキュラム)

② 薬学部薬学科年間授業計画

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/department/pharmacy/doc/pharmacy_schedule.pdf)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 薬学部薬学科年間授業計画等)

③ 未来創造学部国際教養学科カリキュラム

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/department/future/doc/future_kyouyou_curriculum.pdf)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 国際教養学科カリキュラム)

④ 未来創造学部国際マネジメント学科カリキュラム

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/department/future/doc/future_manegement_curriculum.pdf)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 国際マネジメント学科カリキュラム)

⑤ 未来創造学部年間授業計画

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/department/future/doc/future_schedule.pdf)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 未来創造学部年間授業計画等)

(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

① 薬学部 卒業・修了必要単位修得数等

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/doc/pharmacy_overview.pdf)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 薬学部卒業・修了単位修得数等)

② 未来創造学部 卒業・修了必要単位修得数等

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/doc/future_overview.pdf)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 未来創造学部卒業・修了単位修得数等)

(7) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

① キャンパス紹介

② キャンパスマップ（施設）

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/campus/index.html>)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > キャンパス紹介)

③ アクセス

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/campus/access.html>)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > キャンパスマップ (施設))

(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

① 学費等納入金 (2013 年度以降の入学生対象)

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/campus/expense/index.html>)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 学費等納入金 (2013 年度以降の入学生対象))

② 学費等納入金 (2012 年度以前の入学生対象)

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/campus/expense/2012.html>)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 学費等納入金 (2012 年度以前の入学生対象))

③ 施設利用料 (学外者)

(http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/doc/facility_pricelist.pdf)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 施設利用料)

(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

① 奨学金

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/campus/scholarship/index.html>)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 奨学金)

② アルベス (Real Video Education System)

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/rves/index.html>)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > アルベス)

③ 国際交流センター

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/department/iec/index.html>)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 国際交流センター)

④ 海外派遣学生数

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/department/iec/number.html>)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 海外派遣学生数)

⑤ 協定相手校

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/department/iec/sister.html>)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 協定相手校)

⑥ 就職活動支援

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/carreer/index.html>)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 就職活動支援)

⑦ 健康管理

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/campus/doc/campuslife.pdf>)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 健康管理 > 学生生活)

⑧ クラブ&サークル

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/campus/club/index.html>)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > クラブ&サークル)

⑨ 学生寮

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/campus/dormitory.html>)

(トップ > 情報の公表 > 教育の情報 > 学生寮)

(10) その他

① 学則等各種規程

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/regulations.html>)

(トップ > 大学紹介 > 学則・規程等)

② 自己点検・評価報告書

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/jabpe.html>)

(トップ > 情報の公表 > 自己点検・評価)

③ 認証評価の結果

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/jihe.html>)

(トップ > 情報の公表 > 大学機関別認証評価)

④ 財務の情報

(<http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/financial.html>)

(トップ > 情報の公表 > 財務の情報)

15 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、本学の教育の質保証・質的向上と発展に寄与することを目的として学長の下に「教学運営協議会」を設置し、教員の教育内容及び教育方法を改善、向上に関して具体的に企画立案・実施することを目的として「FD委員会」を設置している。

(1) 教学運営協議会

学長が議長となり、副学長、常任理事会において選任された常任理事、学部長、図書館長、学科長、学生部長、教務委員長、大学院研究科長、留学生別科長、事務局長、総合企画局長、学事本部長、管理本部長、そのほか学長が特に必要と認めた者をもって組織される教学運営協議会において、「教育の質保証・質的向上に関すること」について審議をしている。

(2) FD 委員会

学長が委員長となり、副学長、学部長、各学部から選任された教員 6 名、学長が指名する職員 2 名で構成され、教員の教育活動の質的向上と能力開発に資する組織的な取組みが行われるよう次の事項を審議立案し実施している。

- ① 授業内容、授業方法の向上を図ること
- ② 授業評価の実施とその検討
- ③ FD に関する研究会、研修会の立案・実施
- ④ FD 活動の点検及び評価
- ⑤ その他 FD に関する事項

学部での FD 活動と全学的な「FD 委員会」とが連携しながら授業内容方法の改善を図っている。全学的に実施している活動は、下記のとおりである。

(3) FD 研修会の実施

教育方法の改善及び教育力の向上を目的として、全教員を対象として FD 研修会を開催している。FD 研修会のテーマは、「FD 委員会」で決められている。

(4) 学生アンケート（授業評価アンケート）の実施

毎年、前・後期に、全ての講義科目、演習科目及び実習科目を対象に、「学生アンケート」を実施している。「学生アンケート」の集計結果は、個別に各授業担当教員にフィードバックされ、授業改善に利用されているほか、全ての担当教員に授業改善に関する工夫や改善点を記載させる「授業の自己点検報告書」の提出を求めており、問題がある科目に関しては、担当教員に学部長を通じて注意喚起や指導を行っている。

(5) 公開授業と授業参観

授業公開週間を設け、教職員による授業参観を実施している。教員は自らの授業・教育法の振り返りと改善のヒントを得る良い機会となっている。参観者による感想は教職員全員に公開しており、教員相互による授業改善に活用している。また職員も参観することになっており、全学を挙げて授業改善に取り組む仕組みとなっている。

(6) 中間アンケートの実施（全授業の中間期の授業理解度等の確認の徹底）

全授業科目で学期の中間期に学生の授業に対する要望等を受け付け、当該学期中に速やかに授業改善につなげることを目的に中間アンケートを実施している。実施方法は科目担当教員に一任され、15 週の授業の場合は遅くとも 10 講義目頃までに実施することになっている。

FD 活動の成果は、「FD 委員会自己点検報告書」にまとめられ、継続的な教育改善活動の基礎資料としている。また、職員の教育支援力向上のために継続的に SD 活動を行っている。

16 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学部は、臨床検査技師・臨床工学技士の養成（国家資格取得）を目指す学部学科であり、国家資格取得に向け体系的な教育課程を編成する必要がある。学生も将来の目指すべき目標として入学することが予想されるため、教育全体が学生のキャリア形成であると捉え教育課程の編成を行っている。

その上で、「将来への目的意識の明確化」「職業観の涵養」「職業に関する知識・技能の修得」「自己の個性の理解と主体的に進路を選択できる能力・態度」「自らの能力を発揮し、社会的・職業的自立を図ることのできる能力」を身につけさせることを基本方針として、人間性・倫理観・社会性を持った人材を養成するよう一般教養科目・専門基礎科目・専門科目の講義・演習・実習・臨地実習・臨床実習、及び教育課程外において教育・指導を行うこととする。

(1) 教育課程内の取組について

① 一般教養科目

一般教養科目は、社会を構成する一員として求められる態度や志向性、専門知識を修得するために必要な技能、思考及びコミュニケーション力を身につけることを目的としており、「外国語科目」「演習科目」「教養科目」「保健体育科目」などの各科目により一般教養科目を編成することで、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的な知識や技能と態度の修得を図ることとしている。特に「演習科目」においては、必修科目として「基礎ゼミナールⅠ」「基礎ゼミナールⅡ」を配置し、社会や医療が抱えるテーマを設定し、その課題について調査、討論、発表を行うことにより、プレゼンテーション能力やディスカッションやディベート等のグループワークにより自分の意見を自分の言葉で伝える力、論理的思考を養い、同時に担任教員から職業や就職に対する意識付けや働くことの意義や職場における他者との関わりについて学ぶこととしている。

② 専門基礎科目・専門科目

専門基礎科目・専門科目においては、すべての科目が教育課程内における社会的・職業的自立に関する科目として位置づけ、医療技術者を取り巻く諸情勢や臨床検査技師、臨床工学技士が果たす役割と関連づける内容を適宜織り込むことにより、専門分野への興味と関心を深めさせ、自らの職業選択に対する意識の涵養を図ることとしている。

1 年次の前期に担当している「医学概論」「看護学概論」を専門教育課程における社会的・職業的自立に関する導入科目として位置付け、医療従事者を取り巻く諸情勢や医療従事者が果たす役割の理解とともに、医療現場などの見学体験を通して、専門分野への興味と関心を深めさせることにより、自らの職業選択に対する意識の涵養を図ることとしている。また、4 年次前期に担当している「臨地実習」「臨床実習」では、実践現場における体験学習を通じて、職業人としての役割と責任や自覚と態度を身につけるとともに、職業現場で必要となる実践的な能力の養成を図ることとしている。さらに 4 年次後期に担当する「地域チーム医療論」において、医療現場で働く他の専門職に対する理解を深めた上で、臨床検査技師、臨床工学技士の在り方を修得する。

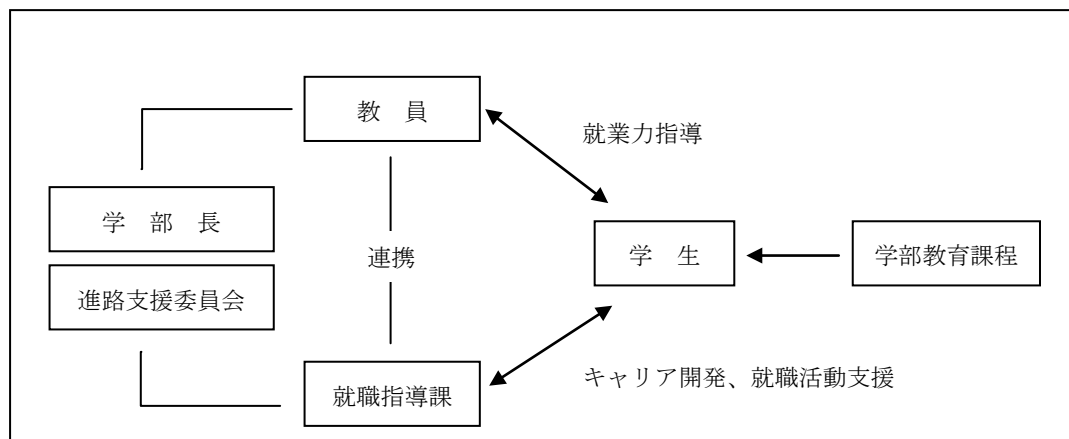
(2) 教育課程外の実践について

教育課程外の実践についても積極的に取り組む。臨床検査技師、臨床工学技士の資格が直接職業に結びつくため、低学年次から臨床検査技師、臨床工学技士の仕事に関するガイダンス（現場の実務家を招聘し実際の業務の説明等）を行うほか、医療機関等採用説明会などを行うこととしている。また、3 年次からの就職指導担当教員及び就職指導課員による個別指導・相談に加えて、キャリア支援年間計画に基づき、各業種の仕事研究講座などの実施により職業観の涵養を図るとともに、各種資格取得講座、公務員対策講座、ビジネスマナーなどのキャリア支援講座による職業・就職に関する知識・技能の修得を図ることとしている。

(3) 適切な体制の整備について

学生の職業意識の形成を図り、卒業後の進路をスムーズに決定していくためには、指導教員の役割が重要であることから、複数の教員を就職指導担当として配置し、これらの教員と事務局就職指導課員との連携を密にとり、学生の指導に当たる。このため、学部長を委員長として、就職指導担当教員と就職指導課員で構成する「進路支援委員会（仮称）」を設置し、学生指導方針の決定、キャリア形成・就職支援に関する企画立案、教務委員会との連携等を行い、学生一人ひとりのニーズや適性等に対応したキャリア形成支援を組織的に行う体制を整備する。

○キャリア形成支援体制



設置の趣旨等を記載した書類 資料の目次

資料 1	北信越・隣県における臨床検査技師養成施設一覧・臨床工学技士養成施設一覧
資料 2	臨床検査技師の北陸 3 県での従事者動向
資料 3	石川県臨床工学技士会所属の臨床工学技士の実態
資料 4	いしかわ創生総合戦略
資料 5	「チーム医療推進に関する答申書：抜粋」（一般社団法人日本臨床衛生検査技師会チーム医療推進検討委員会）
資料 6	臨床検査技師に関わる認定技師制度
資料 7	医療保健学部設置に対する職能団体等からの要望書・賛同書一覧 要望書・賛同書
資料 8	医療保健学部 カリキュラム・マップ
資料 9	医療保健学部医療技術学科の学部・学科の特色と授業科目の対応表
資料10	医療保健学部のカリキュラム・ツリー
資料11	教員別担当授業時間割
資料12	学校法人北陸大学就業規則（抜粋）
資料13	履修モデル
資料14	新校舎図面
資料15	太陽が丘キャンパス教室一覧及び使用状況
資料16	医療保健学部 授業時間割
資料17	実習室別の主な器具等の整備計画
資料18	図書等整備計画
資料19	北陸大学 医療保健学部臨地・臨床実習実施要綱（案）
資料20	実習施設一覧表 臨地実習（臨床検査学領域）・臨床実習（臨床工学領域） 実習受入承諾書
資料21	北陸大学医療保健学部 臨地・臨床実習における個人情報保護に関する 基本方針
資料22	医療保健学部 インシデント・アクシデント発生時の報告・指示体制（案）
資料23	短期海外語学研修先一覧

北信越・隣県における臨床検査技師養成施設一覧

都道府県	校種別	設置主体	学校名	学部	学科	専攻・専攻科・コース名	入学定員
富山県	養成施設なし						
石川県	国立	大学	金沢大学	医療保健学域	保健学類	検査技術科学専攻	40
福井県	養成施設なし						
岐阜県	私立	大学	岐阜医療科学大学	保健科学部	臨床検査学科		80
長野県	国立	大学	信州大学	医学部	保健学科	検査技術科学専攻	37
新潟県	国立	大学	新潟大学	医学部	保健学科	検査技術科学専攻	40
	私立		新潟医療福祉大学	医療技術学部	臨床技術学科		80
	私立	専門学校	北里大学保健衛生専門学校		臨床検査技師養成科		80
	私立		新潟医療技術専門学校		臨床検査技師科		40

北信越・隣県における臨床工学技士養成施設一覧

都道府県	校種別	設置主体	学校名	学部	学科	専攻・専攻科・コース名	入学定員
富山県	養成施設なし						
石川県	私立	短期大学	小松短期大学			臨床工学専攻科	20
福井県	養成施設なし						
岐阜県							
長野県							
新潟県	私立	大学	新潟医療福祉大学	医療技術学部	臨床技術学科		80
	私立	専門学校	北里大学保健衛生専門学校			臨床工学専攻科	30
	私立	専門学校	国際メディカル専門学校		臨床工学技士科		40

平成28年1月1日現在

一般社団法人日本臨床検査学教育協議会HP、一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会HPより北陸大学まとめ

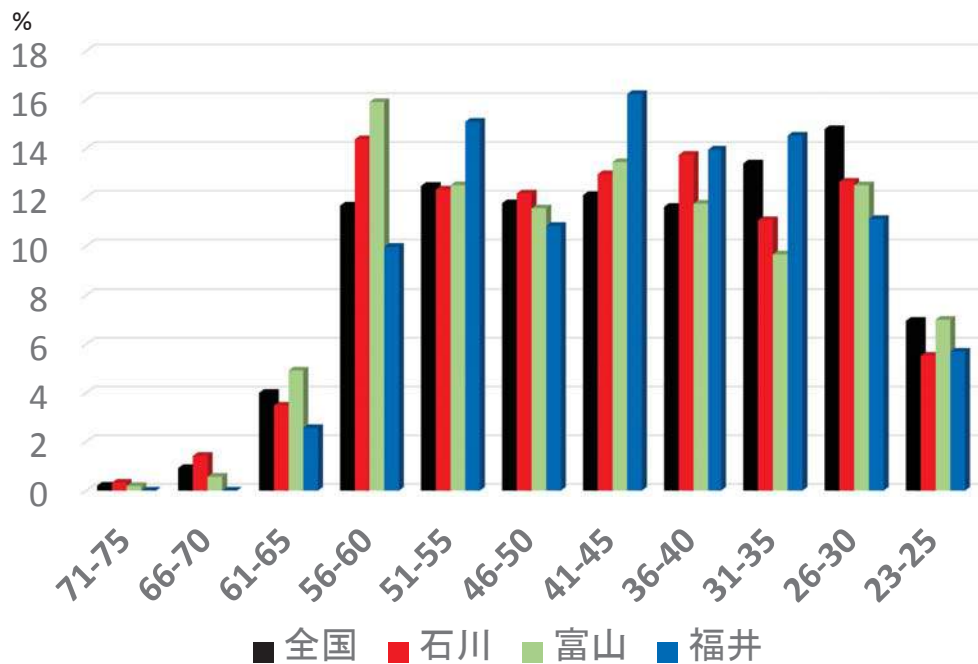
全国・北陸における実働・臨床検査技師の動向

2015.3

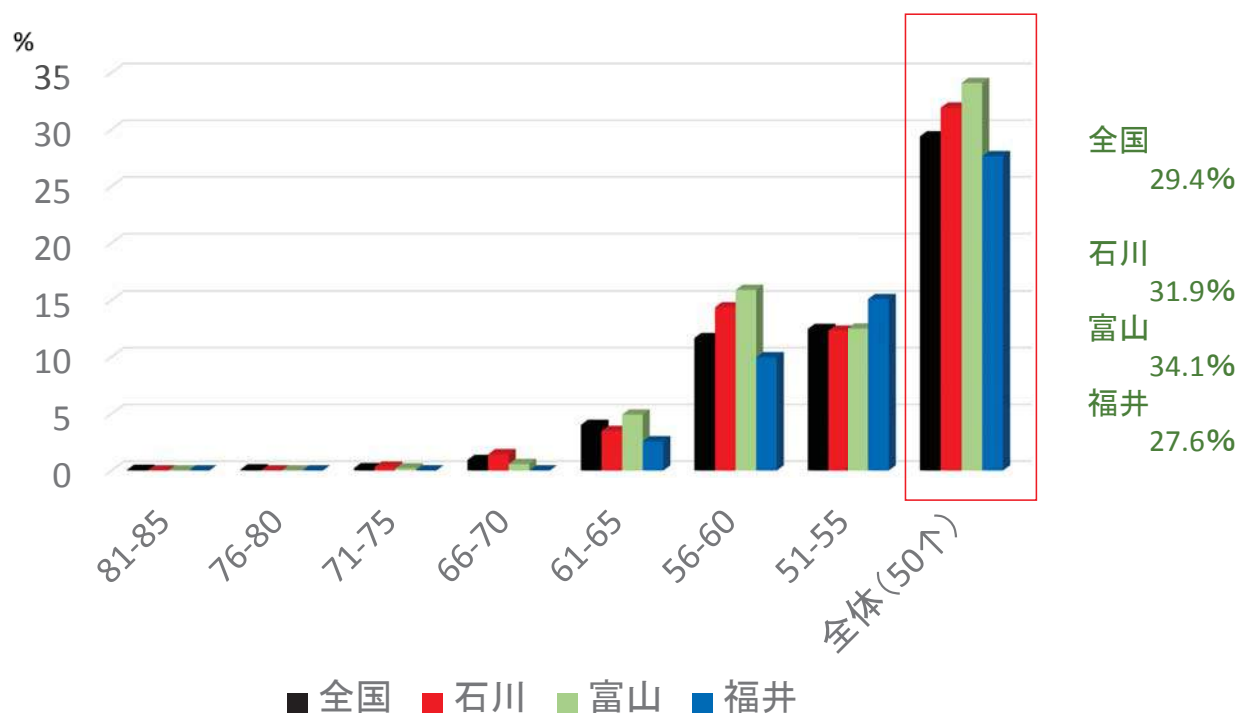
日本臨床衛生検査技師会					石川県臨床衛生検査技師会				富山県臨床衛生検査技師会				福井県臨床衛生検査技師会				
年齢	男性	女性	全体	(%)	男性	女性	全体	(%)	男性	女性	全体	(%)	男性	女性	全体	(%)	
81-85	26	2	28	0.1	0	0	0	0.0			0	0	0.0	0	0	0	0.0
76-80	39	6	45	0.1	0	0	0	0.0			0	0	0.0	0	0	0	0.0
71-75	83	26	109	0.2	2	0	2	0.3	1	0	1	0.2	0	0	0	0.0	
66-70	339	160	499	0.9	5	4	9	1.4	2	1	3	0.6	0	0	0	0.0	
61-65	1009	1177	2186	4.0	9	13	22	3.5	9	17	26	4.9	5	4	9	2.6	
56-60	2924	3429	6353	11.7	40	51	91	14.4	26	58	84	15.9	15	20	35	10.0	
51-55	2848	3944	6792	12.5	22	56	78	12.3	25	41	66	12.5	16	37	53	15.1	
46-50	2202	4203	6405	11.8	18	59	77	12.2	14	47	61	11.6	11	27	38	10.8	
41-45	1784	4801	6585	12.1	13	69	82	13.0	14	57	71	13.4	13	44	57	16.2	
36-40	1519	4809	6328	11.6	10	77	87	13.7	14	48	62	11.7	8	41	49	14.0	
31-35	1793	5501	7294	13.4	12	58	70	11.1	10	41	51	9.7	11	40	51	14.5	
26-30	2335	5730	8065	14.8	18	62	80	12.6	13	53	66	12.5	10	29	39	11.1	
23-25	943	2850	3793	7.0	4	31	35	5.5	4	33	37	7.0	6	14	20	5.7	
	17844	36638	54482		153	480	633		132	396	528		95	256	351		

全国・北陸における実働・臨床検査技師の動向

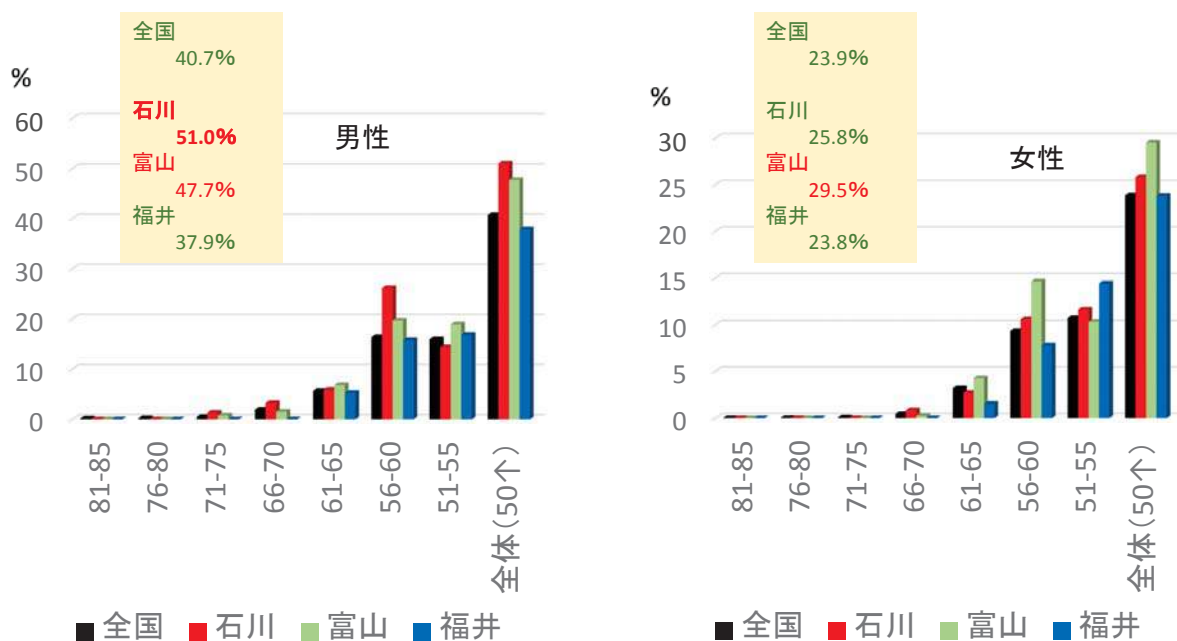
2015.3

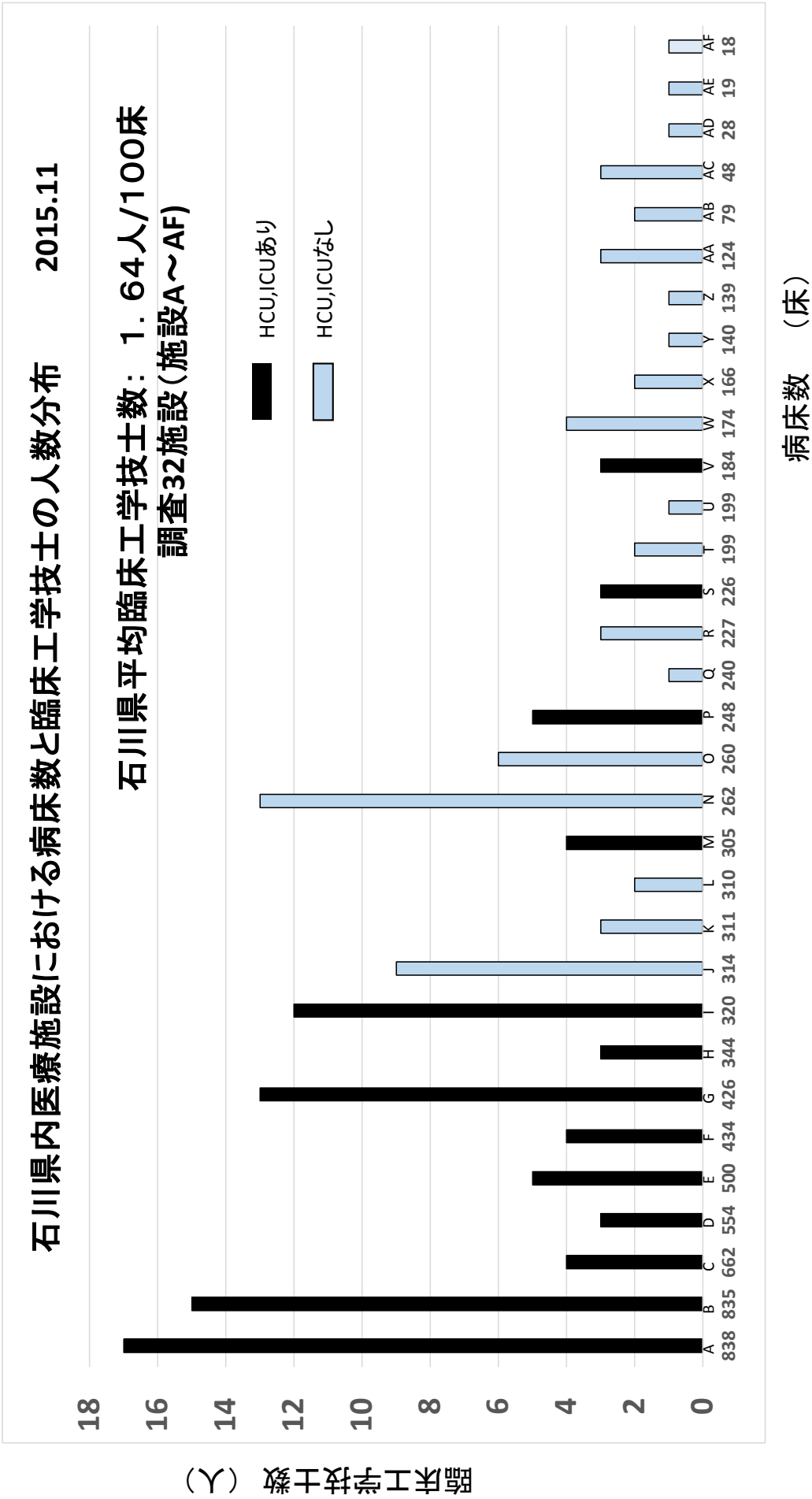


全国・北陸における50歳以上の実働・臨床検査技師の動向・1 2015.3



全国・北陸における50歳以上の実働・臨床検査技師の動向・2（性差） 2015.3





いしかわ創生総合戦略



平成27年10月

石 川 県

- ・ 県民の主体的な健康づくりへの取り組みの支援（県ホームページにおける県民自らが健診データから健康状態を把握できるシステムの運用）
- ・ ゆーりんピックの開催（高齢者の健康づくりと生きがいづくりへの支援）
- ・ 健診・保健指導等の推進（40歳以上の地域住民に対する健康相談・診査等）
- ・ 市町の介護予防の取り組みを促進するアドバイザーの派遣

チーム医療推進に関する答申書
～ 優先課題の取り組みについて ～

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
チーム医療推進検討委員会

答 申 書

平成 25 年 1 月 12 日

チーム医療推進検討委員会は、平成 24 年度・25 年度の 2 年間、日本臨床衛生検査技師会会長により諮問された委員会である。

今回、初年度(平成 24 年度)の優先課題である「検査説明・相談のできる検査技師育成」について検討を行い、諮問案をまとめたので答申する。

目 次

序 文

- I. 臨床検査技師が検査説明・相談に取り組む意義
- II. 長野県臨床衛生検査技師会の取り組み事例
- III. 国立医療機関臨床検査部門の取り組み事例
- IV. ま と め

I. 臨床検査技師が検査説明・相談に取り組む意義

背景と現状

日常検査を眺めてみると、試薬・装置および検査システムの発達によりベテラン医師から研修医そして看護師など他の職種も等しく、いつでもどこでも臨床検査情報の入手が可能となった。その結果、緊急検査・診察前検査等として活用の幅が広がり、臨床検査データに基づく診療が必要不可欠なものとなっている。

検査法の開発は、医療技術の進歩により遺伝子検査、免疫学的検査などの特殊な検査項目の拡大をもたらした。一般総合病院では、システムに登録される検体検査項目は 1,300 項目以上にもおよんでいる。近年は医師、看護師の専門性の拡大は、それぞれ多忙な状況を作り出している。日々進歩する臨床検査の専門的知識や情報を入力する余裕はなくなっている。また、検査項目の拡大、検査技術・知識の高度化が検査データの解釈の難しさを招くこととなっている。このような背景から多忙な診療の場では十分な検査説明は難しく、臨床検査のことは専門職種に任せたいとする要求がある。臨床検査の目的を達成するためには、正確な検査データの作り手としての分析指向の見方だけでなく診療の現場での検査情報の活用をみる診療参画型の視点が必要となる。ここに臨床検査技師がチーム医療に参画する必要性がある。

チーム医療への参加には検査説明・相談の知識・技術が必要

最近では、臨床検査技師が取り組むチーム医療には、感染制御チーム (ICT)、栄養サポートチーム (NST)、糖尿病教室、褥瘡対策チーム、乳がんチーム、呼吸リハビリテーションチーム、臨床研究支援 (試験、治験)、輸血療法委員会、医療安全対策委員会、クリニカルパスおよび検査説明・相談など (チーム医療と臨床検査. 臨床病理レビュー: 特集第 144 号, 2009) 多岐に亘っている。

臨床検査技師が積極的にチーム医療に参画することにより、ICT や NST などの横断的診療支援、糖尿病教室、臨床研究支援、検査説明・相談など医師や看護師などの医療従事者や患者向けのさまざまな医療サービスが展開でき、医療の質は向上すると思われる。臨床検査は医学全体をカバーすることから様々なチーム医療に関与することが可能であり、臨床検査技師はチーム医療の実践において重要な役割が期待される。

糖尿病療養指導では、患者に自己管理能力を高めていく上で患者自身が検査の知識を持つことは大きな助けとなる。臨床検査技師が糖尿病教室で検査について説明し、患者自身が検査結果を有効活用し、治療意欲を引き出すように指導することは臨床検査技師の重要な役割である。また、NST 専門療養士(臨床検査技師)では、検査の専門性を生かし、消化管の消化吸收評価において、医師、患者に対して消化吸收能試験の意義、実施手順の説明および結果の評価説明を行っている施設がある。

このように、臨床検査技師がチーム医療で専門性を発揮するには、検査値と病態、検査結果の解釈、検査の意義などの知識およびコミュニケーション技術を含む検査説明の知識・技術が基本として求められている。そしてチーム医療に携わるには、臨床検査技師はこれらの基本知識・技術を修得する研修が必要であるのは言うまでもないことである。

検査説明・相談に取り組む意義

検査説明・相談には、医療者側からの検査相談(検査依頼、選択、コンサルテーション、他)および患者向けの検査説明(検査の内容、検査の意義、他)の2面がある。

医療者側からの検査相談は、検査の進捗状況、検査依頼方法、コスト、検査の意義、結果の解釈、検査項目の選択などがあり、その場で即答を求められるもの、診断・治療に関わる専門的な幅広い知識を必要とするものがある。これらのニーズは検査情報部門として独立し従来の血液検査部門、化学部門などと同じように位置づけられるほど問い合わせ件数は多く重要な役割を担っている。臨床検査の専門家は臨床検査技師であるが、検査の指示は医師である。その際に、検査の意義や病態との整合性、結果の解釈などを相談された場合、臨床検査技師は診断、治療への適切な検査依頼、指示そして判断が出せるよう支援することが求められている。医療者側からの検査相談に検査の専門家として役割を果たすことは、診療支援につながり、ひいては患者が適切な臨床検査により診断、治療を経て早期回復へと向かう利益に繋がって行く。

患者向けの検査説明では、ある施設の検査室は患者向けの検査説明パンフレット(約30種類)を作成して検査受付前に設置している。パンフレットはコンスタントに増刷され(患者は自由取得できる)患者の検査内容を知りたいとするニーズの多いことを示している。このことは、患者の検査結果を渡されても、「専門用語ばかりで項目の意味が分からない。」「自分の検査結果は基準範囲内なのか?」「健康診断で要精査となっ

たけど、この値は大丈夫なのか？」「この検査で何がわかるの？」「脂質異常症とはどんな病気？」など患者の臨床検査に関する疑問や質問が多くある。患者への説明は、患者からの目線で検査を見る目が必要でありコミュニケーション技術を含む検査説明の意義を研修することが必要であることを物語っている。

医療技術の進歩により検査項目の広がり、遺伝子検査など専門的な技術・知識を必要とする項目が増え、これらの検査説明は検査の専門家である臨床検査技師が対応することが相応しく、多忙な医師業務を支援することは役割分担の推進に繋がる。診療に役に立つ検査室の構築(システム)には、臨床の目線から検査を見る目が必要である。その意味でも臨床検査技師が検査説明・相談を行うことは他職種との連携を深めて検査へのインフォームドコンセントを充実させることはチーム医療の一端を担う臨床検査技師の役割でもある。

上述を踏まえ、臨床検査技師にとって検査説明・相談の技術・知識はチーム医療の様々な場面で必要とされ、専門性を発揮するための最も基本となるものである。それだけに、検査説明のできる技師の研修・養成は喫緊の事業といえる。多くの臨床検査技師が検査説明・相談の研修を受け、診療支援に貢献することが期待される。

次に、長野県臨床衛生検査技師会が進める「検査説明・相談ができる臨床検査技師の育成事業の取り組み」の事例および国立医療機関共通の「患者向け臨床検査説明書作成の取り組み」事例を示す。

臨床検査技師に関わる認定技師制度

臨床(衛生)検査技師を対象とする資格認定制度

[二級臨床検査士](#)

[一級臨床検査士](#)

[緊急臨床検査士](#)

[細胞検査士](#)

[認定輸血検査技師](#)

[認定臨床微生物検査技師](#)

[認定血液検査技師](#)

臨床検査技師が資格要件となる認定制度

[超音波検査士](#)

[健康運動指導士](#)

[心臓リハビリテーション指導士](#)

[第一種・二種消化器内視鏡技師](#)

[認定サイトメトリー技術者](#)

[日本糖尿病療養指導士](#)

[CRC](#)

臨床検査技師の知識技術が生かされる認定制度

[臨床細胞遺伝学認定士](#)

[一級動物実験技術師](#)

[診療情報管理士](#)

[電子顕微鏡一般技術認定](#)

[不妊カウンセラー・体外受精コーディネーター](#)

[認定臨床エンブリオロジスト](#)

[第1種ME技術実力検定試験](#)

[第2種ME技術実力検定試験](#)

[医療情報技師](#)

[磁気共鳴\(MR\)専門技術者](#)

指定講習会修了証で技術を保証

[平衡機能技術講習](#)

[聴力測定技術講習](#)

[バイオセーフティ技術講習会\(バイオメディカルサイエンス研究会\)](#)

- ・基礎コース
- ・主任管理者コース

申請要件による認定制度

[認定臨床化学者](#)

[臨床ME専門認定士](#)

[日本ICD\(感染制御ドクター\)](#)

[認定マスキング学会認定技術者](#)

その他関連領域

[資格・認定制度](#)

医療保健学部設置に対する職能団体等からの要望書・賛同書一覧

(敬称略)

No.	団 体 名	代表者名
1	公益社団法人 石川県医師会	会 長 近藤 邦夫
2	公益社団法人 金沢市医師会	会 長 安田 健二
3	七尾市医師会	会 長 神野 正博
4	一般社団法人 小松市医師会	会 長 東野 義信
5	加賀市医師会	会 長 松下 重人
6	一般社団法人 能美市医師会	会 長 松田 健志
7	白山ののいち医師会	会 長 吉光 康平
8	一般社団法人 河北郡市医師会	会 長 由雄 裕之
9	一般社団法人 羽咋郡市医師会	会 長 四蔵 直人
10	一般社団法人 石川県臨床衛生検査技師会	会 長 油野 友二
11	一般社団法人 富山県臨床検査技師会	会 長 今村 伸一
12	一般社団法人 福井県臨床検査技師会	代表理事 谷口 晴信
13	一般社団法人 岐阜県臨床検査技師会	会 長 兼子 徹
14	一般社団法人 石川県臨床工学技士会	会 長 西木 裕一
15	一般社団法人 富山県臨床工学技士会	会 長 宮野 勝利
16	一般社団法人 福井県臨床工学技士会	会 長 増野谷 一男
17	公益社団法人 石川県診療放射線技師会	会 長 飯田 泰治
18	石川県病院協会	会 長 石野 洋
19	石川県臨床内科医会	会 長 洞庭 賢一
20	北陸臨床病理集談会	代表幹事 木村 秀樹
21	公益社団法人 石川県理学療法士会	会 長 神戸 晃男
22	公益社団法人 石川県作業療法士会	会 長 進藤 浩美
23	日本衛生検査所協会 北陸支部	支部長 平田 隆志
24	石川県糖尿病療養指導士研究会	代表世話人 西村 泰行
25	石川県糖尿病協会	会 長 本多 良智
26	金沢・健康を守る市民の会	会 長 東 良勝
27	一般社団法人 全国腎臓病協議会	会 長 今井 政敏
28	石川県腎友会	会 長 森田 一郎
29	NPO法人 富山県腎友会	会 長 池田 充
30	福井県腎友会	会 長 山田 富士雄

以上

医療保健学部 カリキュラム・マップ

医療保健学部の教育目標
1) 生命倫理や人の尊厳を理解し、医療人として幅広い教養と科学的・論理的思考、生涯学び続ける基礎的な態度を身につける。 2) 医学的基礎知識や医療情勢を理解し、チーム医療に必要なコミュニケーション能力を身につける。 3) 臨床検査学、臨床工学の確かな知識と技能をもって医療現場で活躍できる実践能力を身につける。 4) 科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力と探究する素養を身につける。

学修成果
【大学】 1) 修得した知識や知見により、自らが課題を発見し解決する力 2) 社会で求められるコミュニケーション力と的確な判断力 3) 自らを律し、他者と協調して行動でき、社会の発展に寄与できる力 【医療保健学部医療技術学科】 ＜知識・理解＞ 1) 医療技術者としての知識と技能を理解している。 2) 医療人としての倫理観、使命感、責任感と幅広い教養を身につけている。 ＜思考・判断＞ 1) 医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。 ＜関心・意欲＞ 1) 日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。 ＜態度＞ 1) 医療技術者としての使命感や責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。 ＜技能・表現＞ 1) 修得した医療技術を安全に実施することができる。 2) 医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。

医療保健学部カリキュラム			医療保健学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)									
			大学のDP			医療保健学部医療技術学科のDP						
			1) 修得した知識や知見により、自らが課題を発見し解決する力	2) 社会で求められるコミュニケーション力と的確な判断力	3) 自らを律し、他者と協調して行動でき、社会の発展に寄与できる力	＜知識・理解＞ 1) 医療技術者としての知識と技能を理解している。	＜知識・理解＞ 2) 医療人としての倫理観、使命感、責任感と幅広い教養を身につけている。	＜思考・判断＞ 1) 医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。	＜関心・意欲＞ 1) 日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。	＜態度＞ 1) 医療技術者としての使命感や責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。	＜技能・表現＞ 1) 修得した医療技術を安全に実施することができる。	＜技能・表現＞ 2) 医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。
科目名	科目区分	配当年次										
自然科学概論	必修	1	○				◎		△			
生命・医療倫理学	必修	1		○			◎					○
心理学	選択	1・2			○		○			○		
哲学	選択	1・2			○		○			○		
社会保障と福祉	選択	1・2			○		○					
北陸の文化と社会	選択	1・2			○		○					
日本史	選択	1・2	○				○					
社会学	選択	1・2		○			○					△
法学(日本国憲法含む)	選択	1・2			○		○					
スポーツ	選択	1・2		○	○		△					
英会話	選択	1・2		○			○					△
生物学	選択	1	○				○					
化学	選択	1	○				○					
物理学	選択	1	○				○					
数学	選択	1	○				○					
英語 I	必修	1		○			○					
英語 II	必修	1		○			○					
科学英語の基礎	必修	2		○			○	◎				○
医学英語	必修	4		○					◎			○
基礎ゼミナール I	必修	1	△	○			△			◎		○
基礎ゼミナール II	必修	1	△	○			△			◎		○
海外研修	選択	1・2		○	◎		◎					○

医療保健学部カリキュラム			医療保健学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)									
			大学のDP			医療保健学部医療技術学科のDP						
						＜知識・理解＞		＜思考・判断＞	＜関心・意欲＞	＜態度＞	＜技能・表現＞	
科目名	科目区分	配当年次	1) 修得した知識や知見により、自らが課題を発見し解決する力	2) 社会で求められるコミュニケーション力と的確な判断力	3) 自らを律し、他者と協調して行動でき、社会の発展に寄与できる力	1) 医療技術者としての知識と技能を理解している。	2) 医療人としての倫理観、使命感、責任感と幅広い教養を身につけている。	1) 医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。	1) 日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。	1) 医療技術者としての使命感や責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。	1) 修得した医療技術を安全に実施することができる。	2) 医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。
医学概論	必修	1	◎	△	△	○	◎			△		○
看護学概論	必修	1	○	△	○	○	◎			○		△
公衆衛生学	必修	4	○		△	◎	○					
関係法規	必修	4	○		△	◎	○					
人体の構造と機能Ⅰ	必修	1	○			◎		○	△	△		
人体の構造と機能Ⅱ	必修	1	○			◎		○	△	△		
解剖学実習	必修	1	○			◎		○	△	△		
生理学実習	必修	1	○			◎		○	△	△		
生化学	必修	1	○			◎		○				
生化学実習	必修	1	○			◎		○			○	
病理学Ⅰ	必修	2	○			◎		○	△			
病理学Ⅱ	必修	2	○			◎		○	△			
病理学実習	必修	2	○			◎		○	△			
医用検査機器学	必修	1	△			◎		○	◎		○	
医用工学概論	必修	1	○			◎			○		△	
医用工学概論実習	必修	2	○		○	◎			○		○	
薬と生体反応	必修	3	○			◎		△	○			
薬理学	必修	3	○			◎		△	○			
臨床薬理学	必修	4	○			◎		△	○			
応用数学	必修	2	○			◎			○		△	
電気工学	必修	1	○			◎			○		△	
電子工学	必修	2	○			◎			○		△	
生体物性・材料工学	必修	3	○			◎			○		△	
計測・機械工学	必修	2	○			◎			○		△	
医用機器学概論	必修	1	○			◎			○		△	
情報科学概論	必修	1	○			◎			○		△	
情報処理工学Ⅰ	必修	1	○			◎			○		△	
情報処理工学Ⅱ	必修	2	○			◎			○		△	
臨床検査総論Ⅰ	必修	1	◎			◎		○	△			
臨床検査総論Ⅱ	必修	3	◎		○	◎		○	△			
臨床検査総論実習Ⅰ	必修	1	◎	△		○		◎		○		△
臨床検査総論実習Ⅱ	必修	2	◎	△	○	○		◎		○		△
医動物学(実習含む)	必修	2	○			◎			◎		◎	

医療保健学部カリキュラム			医療保健学部の学修成果との関連（◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連）									
			大学のDP			医療保健学部医療技術学科のDP						
						＜知識・理解＞		＜思考・判断＞	＜関心・意欲＞	＜態度＞	＜技能・表現＞	
科目名	科目区分	配当年次	1) 修得した知識や知見により、自らが課題を発見し解決する力	2) 社会で求められるコミュニケーション力と的確な判断力	3) 自らを律し、他者と協調して行動でき、社会の発展に寄与できる力	1) 医療技術者としての知識と技能を理解している。	2) 医療人としての倫理観、使命感、責任感と幅広い教養を身につけている。	1) 医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。	1) 日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。	1) 医療技術者としての使命感や責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。	1) 修得した医療技術を安全に実施することができる。	2) 医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。
臨床血液学Ⅰ	必修	3	◎			◎		○	△			
臨床血液学Ⅱ	必修	3	◎			◎		○	△			
臨床血液学実習Ⅰ	必修	3	◎	△		○		◎		○		△
臨床血液学実習Ⅱ	必修	3	◎	△		○		◎		○		△
臨床免疫学Ⅰ	必修	3	◎			◎		○	△			
臨床免疫学Ⅱ	必修	3	◎			◎		○	△			
臨床免疫学実習Ⅰ	必修	3	◎	△		○		◎		○		△
臨床免疫学実習Ⅱ	必修	3	◎	△		○		◎		○		△
臨床微生物学	必修	2	◎			◎		○	△			
臨床微生物学実習	必修	3	◎	△		○		◎		○		△
臨床生化学Ⅰ	必修	2	◎			◎		○	△			
臨床生化学Ⅱ	必修	2	◎			◎		○	△			
臨床生化学実習Ⅰ	必修	2	◎	△		○		◎		○		△
臨床生化学実習Ⅱ	必修	2	◎	△		○		◎		○		△
放射線検査学	必修	2	○			◎			○		○	
生理機能計測学Ⅰ	必修	3	○			◎			○		△	
生理機能計測学Ⅱ	必修	3	○			◎			○		△	
生理機能計測学実習Ⅰ	必修	3	○	△		◎			○		△	△
生理機能計測学実習Ⅱ	必修	3	○	△		◎			○		△	△
医療安全管理学(実習含む)	必修	3	△	○	○	○		○			◎	△
生体計測装置学	必修	3	○			◎			○		△	
細胞生物学	選択	2	○			◎			○			
分析技術学	選択	3	○			◎			○			
画像解析学	選択	4	○			◎		△	○			
生体機能代行装置学	必修	2	○			◎		○	△			
生体機能代行装置学実習	必修	2	○	△		○		○		△	◎	△
医用機器安全管理学	必修	3	○			◎		○	△		△	
医用治療機器学	必修	2	○			◎		○	△		△	
医用治療機器・安全管理学実習	必修	3	○	△		○		○		△	◎	△
臨床医学総論	必修	4	◎			◎		○	◎			
臨床検査学演習	必修	4	◎	△	○	◎		○	△			△
臨床工学演習	必修	4	◎	△	○	◎		○	△			△
地域チーム医療論	必修	4	△	◎	○	○	○	△				◎

医療保健学部カリキュラム			医療保健学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)									
			大学のDP			医療保健学部医療技術学科のDP						
						＜知識・理解＞		＜思考・判断＞	＜関心・意欲＞	＜態度＞	＜技能・表現＞	
						1) 医療技術者としての知識と技能を理解している。	2) 医療人としての倫理観、使命感、責任感と幅広い教養を身につけている。	1) 医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。	1) 日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。	1) 医療技術者としての使命感や責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。	1) 修得した医療技術を安全に実施することができる。	2) 医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。
科目名	科目区分	配当年次	1) 修得した知識や知見により、自らが課題を発見し解決する力	2) 社会で求められるコミュニケーション力と的確な判断力	3) 自らを律し、他者と協調して行動でき、社会の発展に寄与できる力							
専門職連携演習	必修	4	△	◎	○	○	○	△				◎
卒業研究Ⅰ	必修	4	◎	△	△	○		○	◎			△
卒業研究Ⅱ	必修	4	◎	△	△	○		○	◎			△
臨地実習	必修	4	◎	○	△	○		△		◎	○	○
臨床実習	必修	4	◎	○	△	○		△		◎	○	○

医療保健学部医療技術学科の学部・学科の特色と授業科目の対応表

学部・学科の特色	1年次	2年次	3年次	4年次
1 徹底した基盤教育及び医療人に必要な教養教育	自然科学概論、生命・医療倫理学、生物学、化学、物理学、数学、英語Ⅰ、英語Ⅱ、基礎ゼミナールⅠ、基礎ゼミナールⅡ、医学概論、看護学概論、人体の構造と機能Ⅰ、人体の構造と機能Ⅱ、解剖学実習、生理学実習、生化学、生化学実習、医用検査機器学、医用工学概論、電気工学、医用機器学概論 心理学、哲学、社会保障と福祉、北陸の文化と社会、日本史、社会学、法学(日本国憲法含む)、スポーツ、英会話、海外研修	科学英語の基礎、病理学Ⅰ、病理学Ⅱ、病理学実習、医用工学概論実習、応用数学、電子工学、計測・機械工学	生体物性・材料工学	地域チーム医療論 専門職連携演習
2 臨床検査学・臨床工学の2つの専門知識と技能が修得できる教育	臨床検査総論Ⅰ、臨床検査総論実習Ⅰ	臨床検査総論実習Ⅱ、医動物学(実習含む)、臨床微生物学、臨床生化学Ⅰ、臨床生化学Ⅱ、臨床生化学実習Ⅰ、臨床生化学実習Ⅱ、放射線検査学、細胞生物学、生体機能代行装置学、生体機能代行装置学実習、医用治療機器学	臨床検査総論Ⅱ、臨床血液学Ⅰ、臨床血液学Ⅱ、臨床血液学実習Ⅰ、臨床血液学実習Ⅱ、臨床免疫学Ⅰ、臨床免疫学Ⅱ、臨床免疫学実習Ⅰ、臨床免疫学実習Ⅱ、臨床微生物学実習、生理機能計測学Ⅰ、生理機能計測学Ⅱ、生理機能計測学実習Ⅰ、生理機能計測学実習Ⅱ、医療安全管理学(実習含む)、生体計測装置学、分析技術学、医用機器安全管理学、医用治療機器・安全管理学実習	画像解析学、臨床医学総論、臨床工学演習、臨床検査学演習、地域チーム医療論、専門職連携演習 医学英語、関係法規、公衆衛生学、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、臨地実習、臨床実習
3 訪問や在宅医療にも貢献できる知識と技術の教育	看護学概論、医用機器学概論	医用治療機器学、生体機能代行装置学、生体機能代行装置学実習	医療安全管理学(実習含む)、医用治療機器・安全管理学実習	地域チーム医療論 専門職連携演習
4 薬学や医療情報システムに精通した医療専門職の育成	情報科学概論、情報処理工学Ⅰ	情報処理工学Ⅱ	薬と生体反応、薬理学	臨床薬理学

医療保健学部のカリキュラム・ツリー



医療保健学部医療技術学科のDP

DP1 医療技術者としての知識と技能を理解している。	DP2 医療人としての倫理観、使命感、責任感と幅広い教養を身につけている。	DP3 医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。	DP4 日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。	DP5 医療技術者としての使命感や責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。	DP6 修得した医療技術を安全に実施することができる。	DP7 医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。
-------------------------------	--	-------------------------------------	--	---	--------------------------------	-------------------------------------

4
年
次

3
年
次

2
年
次

1
年
次

総合演習・社会医学

卒業研究Ⅱ	★	専門職連携演習	★
公衆衛生学	★	地域チーム医療論	★
卒業研究Ⅰ	★	医学英語	
臨地実習	●	臨床実習	■

臨床病態医学

臨床工学演習	■
臨床検査学演習	●
臨床医学総論	★

医用安全総合管理学

関係法規	★
------	---

医療安全管理学(実習含む)	●
医用治療機器・安全管理学実習	■
医用機器安全管理学	■

薬学

臨床薬理学	★
-------	---

薬理学	★
-----	---

薬と生体反応	■
--------	---

生理生体計測学

画像解析学	★
-------	---

生体防御学

臨床微生物学実習	★
臨床免疫学実習Ⅱ	★
臨床免疫学Ⅱ	★
臨床免疫学実習Ⅰ	★
臨床免疫学Ⅰ	★
臨床微生物学	★

形態学

臨床血液学実習Ⅱ	●
臨床血液学Ⅱ	●
臨床血液学実習Ⅰ	●
臨床血液学Ⅰ	●
細胞生物学	★

生理機能計測学実習Ⅱ	★
生理機能計測学Ⅱ	★
生理機能計測学実習Ⅰ	★
生理機能計測学Ⅰ	★
生体計測装置学	■
生体機能代行装置学実習	■
生体機能代行装置学	■
医用治療機器学	■

教養教育

社会学	海外研修
北陸の文化と社会	スポーツ
日本史	法学(日本国憲法含む)
社会保障と福祉	科学英語の基礎

科学的思考の基礎

自然科学概論
生物学
物理学
化学
数学

哲学
英会話
英語Ⅱ
英語Ⅰ
心理学
生命・医療倫理学

基礎ゼミナールⅡ

基礎ゼミナールⅠ

基礎医学

生化学実習	★
生化学	★
生理学実習	★
解剖学実習	★
人体の構造と機能Ⅱ	★
看護学概論	■
人体の構造と機能Ⅰ	★
医学概論	★

医動物学(実習含む)	●
臨床検査総論実習Ⅱ	●
病理学実習	★
病理学Ⅱ	★
病理学Ⅰ	★

臨床検査総論実習Ⅰ	●
臨床検査総論Ⅰ	●

理工学

生物物性・材料工学	■
医用工学概論実習	★
計測・機械工学	■
電子工学	■
応用数学	■
情報処理工学Ⅱ	■

電気工学	■
情報処理工学Ⅰ	■
医用機器学概論	■
医用工学概論	★
医用検査機器学	★
情報科学概論	★

分析検査学

分析技術学	●
臨床生化学実習Ⅱ	★
臨床生化学Ⅱ	★
放射線検査学	★
臨床生化学実習Ⅰ	★
臨床生化学Ⅰ	★

教員別医療保健学部授業時間割（予定）

教員氏名	職位	時間割	前期					後期							
			月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	
柴田宏	教授	1	分析技術学						臨床免疫学実習Ⅱ						
		2			臨床免疫学Ⅰ					臨床免疫学Ⅱ					
		3		臨床免疫学実習Ⅰ	基礎ゼミナールⅠ						基礎ゼミナールⅡ	臨床検査学演習			
		4								卒業研究Ⅱ					
		5													
油野友二	教授	1		臨床検査総論Ⅰ	医用検査機器学					臨床検査総論Ⅱ					
		2						地域チーム医療論							
		3			基礎ゼミナールⅠ	臨床検査総論実習Ⅰ				基礎ゼミナールⅡ	臨床検査学演習	専門職連携演習			
		4						医療安全管理学（実習を含む）		卒業研究Ⅱ					
		5													
寺澤文子	教授	1	分析技術学		臨床生化学実習Ⅰ							臨床生化学実習Ⅱ			
		2													
		3			基礎ゼミナールⅠ					基礎ゼミナールⅡ	臨床検査学演習				
		4		臨床生化学Ⅰ					臨床生化学Ⅱ	卒業研究Ⅱ					
		5													
尾崎聡	教授	1	分析技術学							臨床検査総論Ⅱ					
		2													
		3			基礎ゼミナールⅠ		病理学Ⅱ		病理学実習		基礎ゼミナールⅡ	臨床検査学演習	臨床検査総論実習Ⅱ		
		4								卒業研究Ⅱ					
		5													
岩崎信一	教授	1													
		2													
		3	人体の構造と機能Ⅰ		基礎ゼミナールⅠ				生理学実習		基礎ゼミナールⅡ	解剖学実習	人体の構造と機能Ⅱ		
		4						卒業研究Ⅱ							
		5													
小宮山豊	教授	1					臨床血液学Ⅰ								
		2													
		3	臨床血液学実習Ⅰ		基礎ゼミナールⅠ				臨床血液学Ⅱ	臨床血液学実習Ⅱ	基礎ゼミナールⅡ	臨床検査学演習			
		4						卒業研究Ⅱ							
		5													
中山耕造	教授	1										生化学			
		2													
		3			基礎ゼミナールⅠ					生化学実習	基礎ゼミナールⅡ				
		4		生物学							卒業研究Ⅱ				
		5													
嶋津秀昭	教授	1										医用機器学概論			
		2		計測・機械工学											
		3			生体物性・材料工学					臨床工学演習					
		4													
		5													
生駒俊和	准教授	1			生体計測装置学										
		2													
		3			基礎ゼミナールⅠ	生理機能計測学実習Ⅰ				臨床工学演習	基礎ゼミナールⅡ		生理機能計測学実習Ⅱ		
		4						卒業研究Ⅱ							
		5													

教員別医療保健学部授業時間割（予定）

教員氏名	職位	時間割	前期						後期						
			月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	
高橋純子	准教授	1				医用機器安全管理学					生体機能代行装置学	医用治療機器・安全管理学実習			
		2													
		3			基礎ゼミナールⅠ					医用治療機器学臨床工学演習	基礎ゼミナールⅡ	生体機能代行装置学実習			
		4													
		5									卒業研究Ⅱ				
小宮智義	准教授	1								医動物学（実習含む）		臨床微生物学実習		臨床微生物学	
		2													
		3			基礎ゼミナールⅠ						基礎ゼミナールⅡ	臨床検査学演習			
		4													
		5								卒業研究Ⅱ					
濱田敏彦	准教授	1			生体計測装置学		生理機能計測学Ⅰ								
		2													
		3			基礎ゼミナールⅠ	生理機能計測学実習Ⅰ			病理学実習		基礎ゼミナールⅡ	生理機能計測学Ⅱ臨床検査学演習	生理機能計測学実習Ⅱ		
		4													
		5									卒業研究Ⅱ				
加藤隆幸	准教授	1				化学							医学英語		
		2	細胞生物学												
		3			基礎ゼミナールⅠ				生理学実習		基礎ゼミナールⅡ	人体の構造と機能Ⅱ			
		4													
		5								卒業研究Ⅱ					
長原三輝雄	准教授	1													
		2					情報科学概論			情報処理工学Ⅰ					
		3		情報処理工学Ⅱ											
		4													
		5													
服部託夢	講師	1	物理学						医用工学概論実習		電気工学				
		2			応用数学										
		3	電子工学		基礎ゼミナールⅠ		医用工学概論			臨床工学演習	基礎ゼミナールⅡ				
		4													
		5									卒業研究Ⅱ				
滝野豊	助教	1			臨床生化学実習Ⅰ							臨床生化学実習Ⅱ			
		2													
		3	臨床血液学実習Ⅰ			臨床検査総論実習Ⅰ				臨床血液学実習Ⅱ		臨床検査総論実習Ⅱ			
		4													
		5													
松村隆弘	助手	1			実習施設巡回訪問				臨床免疫学実習Ⅱ	医動物学（実習含む）	臨床微生物学実習				
		2													
		3		臨床免疫学実習Ⅰ								解剖学実習			
		4													
		5													
松波可織	助手	1			実習施設巡回訪問				医用工学概論実習			医用治療機器・安全管理学実習			
		2													
		3								生理学実習	生化学実習		生体機能代行装置学実習		
		4													
		5													

※1 卒業研究Ⅰ（前期開講）は、臨地実習・臨床実習を実施しない期間（4月・8月）を中心に開講し、5月から7月の期間も含めて指導教員と配属学生が調整の上、授業を行う。

※2 臨地実習・臨床実習（5・6・7月）は、主に助手が定期的に実習施設へ巡回訪問を行い、状況把握及び学生指導する。担当の教授、准教授、講師、助教については、上記前期時間割のとおり、授業、研究活動に支障がなく巡回指導が出来るよう十分な時間を確保している。

学校法人北陸大学就業規則（抜粋）

第 2 章 人 事

第 5 節 停年制

（停年年齢）

第 24 条 教育職員の停年は満 65 歳、一般職員の停年は満 60 歳とし、停年に達した日の属する学年度の末日に退職するものとする。

（設置認可申請等教員名簿登載教育職員の停年年齢）

第 25 条 大学院・学部・学科の新增設及び改組転換等のため採用され、設置認可申請教員名簿に登載された教育職員の停年については、次の区分により、停年に達した日の属する学年度の末日に退職するものとする。

- （1）採用時の年齢が満 60 歳未満の者の停年は、満 65 歳。
- （2）採用時の年齢が満 60 歳以上の者の停年は、採用日より 6 年。
- （3）前号による停年時に[北陸大学学部運営規程第 3 条第 1 号](#)、[第 3 号](#)及び[第 4 号](#)に定める役職の任にあり、引き続きその任にあたる必要があるときは、次年度の末日に退職するものとする。

（特任教育職員）

第 26 条 理事長は、学長の意見を聴き、大学運営上引き続き勤務させる必要があると認めた教育職員停年退職者を、特任教育職員として新たに採用することができる。

- 2 特任教育職員の採用は、別に定める規則により、1 年以内の期間の定めのある雇用契約による。
- 3 特任教育職員の職務は、授業時間担当のみとする。

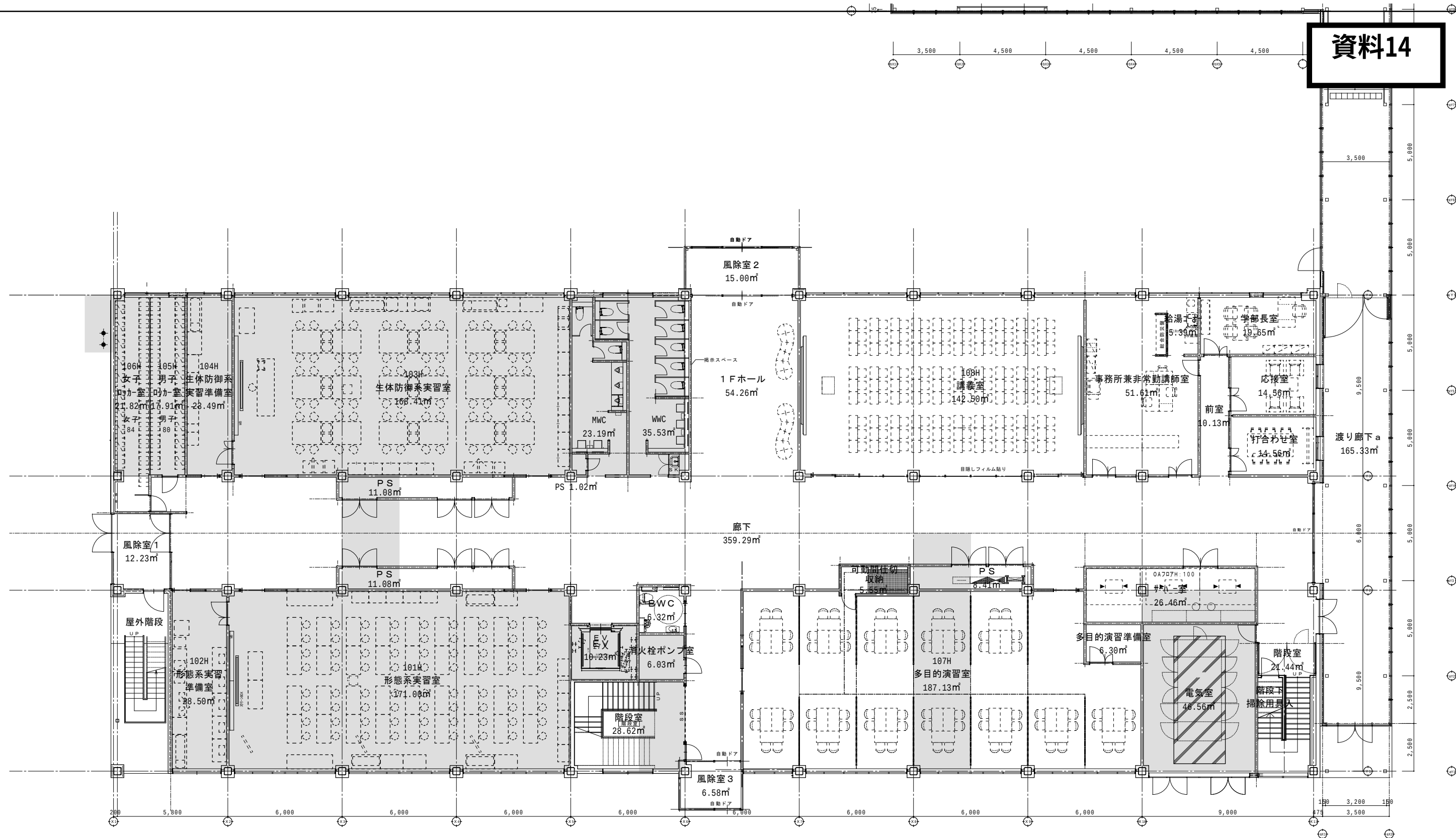
（嘱託職員）

第 27 条 理事長は、職務の性質上引き続き勤務させる必要があると認めた一般職員停年退職者を、嘱託職員として新たに採用することができる。

- 2 嘱託職員の採用は、別に定める規則により、1 年以内の期間の定めのある雇用契約による。

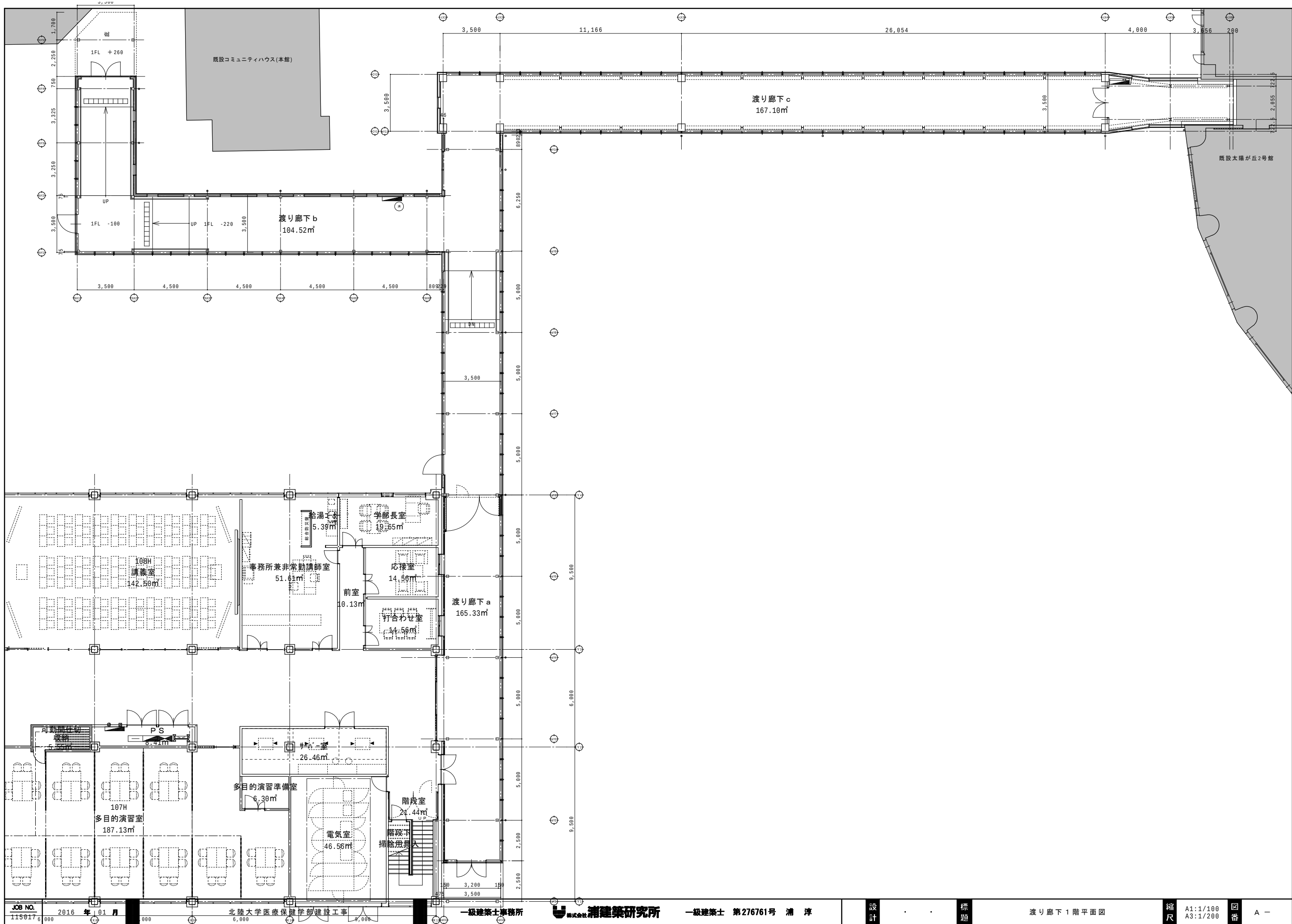
履修モデル 臨床検査技師・臨床工学技士受験資格取得

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	科目名 単位	科目名 単位	科目名 単位	科目名 単位	科目名 単位	科目名 単位	科目名 単位	科目名 単位
一般教養科目	○ 自然科学概論 2	○ 生命・医療倫理学 2	○ 社会保障と福祉 2	○ 北陸の文化と社会 2				○ 医学英語 1
	○ スポーツ 1	○ 英語Ⅱ 2	○ 科学英語の基礎 2					
	○ 生物学 1	○ 基礎ゼミナールⅡ 1						
	○ 化学 1							
	○ 英語Ⅰ 2							
	○ 基礎ゼミナールⅠ 1							
専門基礎科目	○ 医学概論 1	○ 看護学概論 1	○ 病理学Ⅰ 1	○ 病理学実習 1	○ 薬と生体反応 2	○ 薬理学 2		○ 公衆衛生学 1
	○ 人体の構造と機能Ⅰ 4	○ 人体の構造と機能Ⅱ 1	○ 病理学Ⅱ 1	○ 医用工学概論実習 1	○ 生体物性・材料工学 2			○ 関係法規 1
	○ 医用検査機器学 3	○ 解剖学実習 1	○ 応用数学 1					○ 臨床薬理学 1
	○ 医用工学概論 2	○ 生理学実習 1	○ 電子工学 2					
	○ 情報科学概論 2	○ 生化学 4	○ 計測・機械工学 2					
		○ 生化学実習 1	○ 情報処理工学Ⅱ 1					
		○ 電気工学 2						
		○ 医用機器学概論 2						
		○ 情報処理工学Ⅰ 1						
専門科目	○ 臨床検査総論Ⅰ 2		○ 臨床生化学Ⅰ 1	○ 臨床検査総論実習Ⅱ 1	○ 臨床血液学Ⅰ 2	○ 臨床検査総論Ⅱ 2	○ 卒業研究Ⅰ 1	○ 臨床医学総論 2
	○ 臨床検査総論実習Ⅰ 1		○ 臨床生化学実習Ⅰ 1	○ 医動物学(実習含む) 2	○ 臨床血液学実習Ⅰ 1	○ 臨床血液学Ⅱ 2	○ 臨地実習 4	○ 臨床検査学演習 2
			○ 放射線検査学 1	○ 臨床微生物学 3	○ 臨床免疫学Ⅰ 2	○ 臨床血液学実習Ⅱ 1	○ 臨床実習 4	○ 臨床工学演習 2
				○ 臨床生化学Ⅱ 1	○ 臨床免疫学実習Ⅰ 1	○ 臨床免疫学Ⅱ 2		○ 地域チーム医療論 1
				○ 臨床生化学実習Ⅱ 1	○ 生理機能計測学Ⅰ 1	○ 臨床免疫学実習Ⅱ 1		○ 専門職連携演習 1
				○ 生体機能代行装置学 2	○ 生理機能計測学実習Ⅰ 1	○ 臨床微生物学実習 1		○ 卒業研究Ⅱ 2
				○ 生体機能代行装置学実習 1	○ 生体計測装置学 2	○ 生理機能計測学Ⅱ 1		
				○ 医用治療機器学 2	○ 医用機器安全管理学 2	○ 生理機能計測学実習Ⅱ 1		
						○ 医療安全管理学(実習含む) 1		
						○ 医用治療機器・安全管理学実習 1		
合計数	期別履修単位数 23	期別履修単位数 19	期別履修単位数 17	期別履修単位数 17	期別履修単位数 16	期別履修単位数 15	期別履修単位数 9	期別履修単位数 14
○必修		年次別履修単位数 42		年次別履修単位数 34		年次別履修単位数 31		年次別履修単位数 23
								総履修単位数 130



1階平面図

着色部はピット範囲を示す。



太陽が丘キャンパス 教室一覧及び使用状況(予定)

[illegible]

太陽が丘キャンパス 教室一覧及び使用状況(予定)

[illegible]

医療保健学部授業
国際コミュニケーション学部授業
経済経営学部授業
薬学部授業
留学生別科授業
国際コミュニケーション学部・経済経営学部共同開講授業
医療保健学部・国際コミュニケーション学部共同開講授業
医療保健学部・国際コミュニケーション学部・経済経営学部共同開講授業

医療保健学部 授業時間割(予定)

【前期】			1	2		3	4	5
			9:15-10:45	11:00-12:30		13:20-14:50	15:05-16:35	16:50-18:20
			授業科目 クラス 教室 教員	授業科目 クラス 教室 教員		授業科目 クラス 教室 教員	授業科目 クラス 教室 教員	授業科目 クラス 教室 教員
月	医療保健	1年	物理学 402 服部託夢	英語 I A 311 轟里香 B 312 井上裕子		人体の構造と機能 I 108H 岩崎信一	人体の構造と機能 I 108H 岩崎信一	
		2年		細胞生物学 108H 加藤隆幸		電子工学 210H 服部託夢 (203H)	電子工学 210H 服部託夢 (203H)	
		3年	分析技術学 210H 柴田宏 寺澤文子 尾崎聡	薬と生体反応 210H 高野克彦		臨床血液学実習 I 101H 小宮山豊 滝野豊	臨床血液学実習 I 101H 小宮山豊 滝野豊	
		4年	臨地実習 臨床実習					
火	医療保健	1年	臨床検査総論 I 108H 油野友二	自然科学概論 108H 亀井敬 武本眞清 藤本和宏		社会学 406 井上好人	生物学 402 中山耕造	
		2年		計測・機械工学 210H 嶋津秀昭		情報処理工学 II 210H 長原三輝雄	臨床生化学 I 210H 寺澤文子	
		3年				臨床免疫学実習 I 201H 柴田宏 松村隆弘	臨床免疫学実習 I 201H 柴田宏 松村隆弘	
		4年	臨地実習 臨床実習					
水	医療保健	1年	医用検査機器学 108H 油野友二	医用検査機器学 108H 油野友二		基礎ゼミナール I + (1F演習室) 321H 専任教員 322H 323H	心理学 スポーツ 405 宮前諒平 西川周吾 渡邊千春	
		2年	臨床生化学実習 I 201H 寺澤文子 滝野豊	臨床生化学実習 I 201H 寺澤文子 滝野豊		病理学 I 108H 小田恵夫		
		3年	生体計測装置学 210H 濱田敏彦	臨床免疫学 I 210H 柴田宏		生体物性・材料工学 210H 嶋津秀昭		
		4年	臨地実習 臨床実習					
木	医療保健	1年		化学 108H 加藤隆幸		臨床検査総論実習 I 102H 油野友二 滝野豊	臨床検査総論実習 I 102H 油野友二 滝野豊	
		2年		応用数学 402 服部託夢		放射線検査学 108H 小林正和	哲学 日本史 402 東風安生 406 福江充	
		3年	医用機器安全管理学 210H 高橋純子	医用機器安全管理学 210H 高橋純子		生理機能計測学実習 I 302H 濱田敏彦 生駒俊和	生理機能計測学実習 I 302H 濱田敏彦 生駒俊和	
		4年	臨地実習 臨床実習					
金	医療保健	1年	数学 108H 藤本和宏	情報科学概論 108H 長原三輝雄		医用工学概論 108H 服部託夢	医学概論 108H 水上勇治	
		2年	社会保障と福祉 402 松本和彦	科学英語の基礎 A 311 轟里香 B 312 井上裕子		病理学 II 210H 尾崎聡		
		3年	生理機能計測学 I 210H 濱田敏彦	臨床血液学 I 210H 小宮山豊				
		4年	臨地実習 臨床実習					

※卒業研究Ⅰは臨地実習・臨床実習を実施しない（4・8月）を中心に開講し、5月から7月の期間を含めて指導教員と配属学生が調整の上、授業を行う。

医療保健学部 授業時間割(予定)

【後期】				1			2			3			4			5		
				9:15-10:45			11:00-12:30			13:20-14:50			15:05-16:35			16:50-18:20		
				授業科目	クラス	教室 教員	授業科目	クラス	教室 教員	授業科目	クラス	教室 教員	授業科目	クラス	教室 教員	授業科目	クラス	教室 教員
月	医療保健	1年				英語Ⅱ	A 311 轟里香 B 312 井上裕子		生理学実習	302H 岩崎信一 加藤隆幸 松波可織	生理学実習	302H 岩崎信一 加藤隆幸 松波可織						
		2年	医用工学概論実習 203H 服部託夢 松波可織			医用工学概論実習 203H 服部託夢 松波可織			病理学実習 101H 尾崎聡 濱田敏彦			病理学実習 101H 尾崎聡 濱田敏彦						
		3年	臨床免疫学実習Ⅱ 201H 柴田宏 松村隆弘			臨床免疫学実習Ⅱ 201H 柴田宏 松村隆弘			臨床血液学Ⅱ 108H 小宮山豊			医療安全管理学 （実習を含む） 108H 油野友二 102H 松村隆弘						
		4年				地域チーム医療論 210H 油野友二			臨床医学総論 210H 水上勇治			臨床医学総論 210H 水上勇治						
火	医療保健	1年				情報処理工学Ⅰ 108H 長原三輝雄			生化学実習 201H 中山耕造 松波可織			生化学実習 201H 中山耕造 松波可織						
		2年	医動物学（実習含む） 102H 小宮智義 松村隆弘			医動物学（実習含む） 102H 小宮智義 松村隆弘			医用治療機器学 108H 高橋純子			臨床生化学Ⅱ 108H 寺澤文子						
		3年	臨床検査総論Ⅱ 210H 尾崎聡 油野友二			臨床免疫学Ⅱ 210H 柴田宏			臨床血液学実習Ⅱ 101H 小宮山豊 滝野豊			臨床血液学実習Ⅱ 101H 小宮山豊 滝野豊						
		4年				臨床薬理学 201F 佐藤友紀			臨床工学演習 210H 嶋津秀昭 生駒俊和 服部託夢 長原三輝雄			臨床工学演習 210H 嶋津秀昭 生駒俊和 高橋純子 服部託夢						
水	医療保健	1年	電気工学 108H 服部託夢 203H			電気工学 108H 服部託夢 203H			基礎ゼミナールⅡ +（1F演習室） 321H 専任教員 322H 323H			看護学概論 108H 多崎恵子						
		2年	生体機能代行装置学 210H 高橋純子			生体機能代行装置学 210H 高橋純子			北陸の文化と社会 402 福江充			英会話 法学（日本国憲法含む） 422 エリック・モーニン 406 山本啓一						
		3年	臨床微生物学実習 102H 小宮智義 松村隆弘			臨床微生物学実習 102H 小宮智義 松村隆弘												
		4年							関係法規 108H 木藤聡一			卒業研究Ⅱ 専任教員			卒業研究Ⅱ 専任教員			
木	医療保健	1年	医用機器学概論 108H 嶋津秀昭			生命・医療倫理学 108H 東風安生			解剖学実習 101H 岩崎信一 松村隆弘			解剖学実習 101H 岩崎信一 松村隆弘						
		2年	臨床生化学実習Ⅱ 201H 寺澤文子 滝野豊			臨床生化学実習Ⅱ 201H 寺澤文子 滝野豊			生体機能代行装置学実習 301H 高橋純子 松波可織			生体機能代行装置学実習 301H 高橋純子 松波可織						
		3年	医用治療機器・ 安全管理学実習 301H 高橋純子 松波可織			医用治療機器・ 安全管理学実習 301H 高橋純子 松波可織			生理機能計測学Ⅱ 210H 濱田敏彦									
		4年	画像解析学 210H 宮地利明			医学英語 210H 加藤隆幸			臨床検査学演習 108H 柴田宏、油野友二、寺澤文子、尾崎聡 小宮山豊、小宮智義、濱田敏彦			臨床検査学演習 108H 柴田宏、油野友二、寺澤文子、尾崎聡 小宮山豊、小宮智義、濱田敏彦						
金	医療保健	1年	生化学 108H 中山耕造			生化学 108H 中山耕造			人体の構造と機能Ⅱ 108H 岩崎信一 加藤隆幸									
		2年	臨床微生物学 210H 小宮智義			臨床微生物学 210H 小宮智義			臨床検査総論実習Ⅱ 102H 尾崎聡 滝野豊			臨床検査総論実習Ⅱ 102H 尾崎聡 滝野豊						
		3年				薬理学 201F 佐藤友紀			生理機能計測学実習Ⅱ 302H 濱田敏彦 生駒俊和			生理機能計測学実習Ⅱ 302H 濱田敏彦 生駒俊和						
		4年	公衆衛生学 201F 池田啓一						専門職連携演習 210H 油野友二									

No.	実習室名	品名	数量
1	形態系実習室	生物顕微鏡	75
2	形態系実習室	ディスカッション顕微鏡	1
3	形態系実習室	ディスカッション顕微鏡用フルHDカラーカメラ	1
4	形態系実習室	卓上顕微鏡	1
5	形態系実習室	位相差観察スタンダードセット	1
6	形態系実習室	乾燥系暗視野コンデンサ	1
7	形態系実習室	顕微鏡用デジタルカメラ	1
8	形態系実習室	顕微鏡用デジタル一眼レフカメラセット	1
9	形態系実習室	顕微鏡用PCモニタダイレクトカメラ	1
10	形態系実習室	テーハー式パラフィン熔融器	1
11	形態系実習室	パラフィン伸展器	2
12	形態系実習室	ミクロトーム	5
13	形態系実習室	HistoCoreArcadia H+c	1
14	形態系実習室	クリオスタットライカ	1
15	形態系実習室	全自動密閉式ティッシュプロセッサ	1
16	形態系実習室	実体顕微鏡	4
17	形態系実習室	簡易偏光ユニット	1
18	形態系実習室	病理組織プレパラート	4
19	形態系実習室	病原菌プレパラート	3
20	形態系実習室	非接触型静脈可視化装置	2
21	生体防御系実習室	電気式バーナー	10
22	生体防御系実習室	ラボ・オートクレーブ	2
23	生体防御系実習室	超低温フリーザー	1
24	生体防御系実習室	ユニバーサル冷却遠心機	1
25	生体防御系実習室	テーブルトップ遠心機	2
26	生体防御系実習室	卓上型超音波洗浄器	1
27	生体防御系実習室	冷凍機付インキュベーター	2
28	生体防御系実習室	サーマルサイクラー	2
29	生体防御系実習室	純水製造装置	1
30	生体防御系実習室	電子上ざら天びん	4
31	生体防御系実習室	恒温器	2
32	生体防御系実習室	白血球分類計算ソフト	1
33	生体防御系実習室	多項目自動血球分析装置	1
34	生体防御系実習室	人体解剖模型 M-100形	1
35	生体防御系実習室	人体骨格模型 男子 SA-160形	1
36	生体防御系実習室	消化器系統模型	1
37	生体防御系実習室	三臓模型	1
38	生体防御系実習室	呼吸器模型	1
39	生体防御系実習室	心臓構造模型 A形	1
40	生体防御系実習室	腎臓構造模型 CIM形	1
41	生体防御系実習室	泌尿器系統模型	1
42	生体防御系実習室	人体寄生虫寄生状態模型	1
43	生体防御系実習室	人体寄生虫模型 10種	1
44	生体防御系実習室	脳の動脈	1
45	生体防御系実習室	骨格付血液循環系模型	1
46	生体防御系実習室	小型便潜血分析装置	1
47	分析化学系実習室	マイパワー II 300	5
48	分析化学系実習室	泳動槽	5
49	分析化学系実習室	テーブルトップ遠心機	2
50	分析化学系実習室	マイクロ冷却遠心機	1
51	分析化学系実習室	恒温水槽	5
52	分析化学系実習室	試験槽	5
53	分析化学系実習室	純水製造装置	1
54	分析化学系実習室	卓上型超音波洗浄器	1

実習室別の主な器具等の整備計画

No.	実習室名	品名	数量
55	分析化学系実習室	ピペット洗浄器	3
56	分析化学系実習室	卓上型pHメータ	5
57	分析化学系実習室	トランスファーペッテS	40
58	分析化学系実習室	電子上ざら天びん	5
59	分析化学系実習室	電子分析天びん	1
60	分析化学系実習室	検知管式気体濃度測定器 ガステック50	1
61	分析化学系実習室	デジタル粉じん計 “ダストメイト”	1
62	分析化学系実習室	騒音計	1
63	分析化学系実習室	ルクス計	1
64	分析化学系実習室	臨床用屈折計	9
65	分析化学系実習室	レシオビーム分光光度計	6
66	分析化学系実習室	サブマリン型電気泳動装置	5
67	分析化学系実習室	ゲル撮影装置	1
68	分析化学系実習室	SLGC血球計算盤	27
69	分析化学系実習室	白血球ピペット	9
70	分析化学系実習室	赤血球ピペット	9
71	分析化学系実習室	血沈DLスタンド	9
72	分析化学系実習室	CTチューブ	2
73	分析化学系実習室	ポリスペットG	9
74	分析化学系実習室	血液血清観察箱	9
75	分析化学系実習室	マルチシェーカー	3
76	分析化学系実習室	ボルテックスミキサー ジェニー2	20
77	分析化学系実習室	iMarkマイクロプレートリーダー	1
78	分析化学系実習室	ImmunoWash 1575マイクロプレートウォッシャー	1
79	分析化学系実習室	自動血球洗浄遠心機	1
80	分析化学系実習室	採血・静注シミュレータ “シンジヨーⅡ”	9
81	分析化学系実習室	尿自動分析装置	1
82	分析化学系実習室	リアルタイム濁度測定装置	1
83	分析化学系実習室	免疫血液学用遠心機	4
84	分析化学系実習室	チビタン -R	5
85	分析化学系実習室	ピコスコープ	2
86	分析化学系実習室	電気乾熱滅菌器	1
87	分析化学系実習室	製氷機	1
88	分析化学系実習室	生化学自動分析装置	1
89	基礎工学系実習室	絶縁抵抗計	1
90	基礎工学系実習室	単相誘導発電機	2
91	基礎工学系実習室	誘導電動機原理説明器	2
92	基礎工学系実習室	変圧器	4
93	基礎工学系実習室	単巻可変変圧器	2
94	基礎工学系実習室	デジタルオシロスコープ	10
95	基礎工学系実習室	ファンクションジェネレータ	5
96	基礎工学系実習室	低周波発信器	5
97	基礎工学系実習室	直流安定化電源装置	5
98	基礎工学系実習室	デジタルマルチメータ	20
99	基礎工学系実習室	携帯用ホイートストンブリッジ	1
100	基礎工学系実習室	抵抗測定実習装置	1
101	基礎工学系実習室	論理回路実習トレーナ	1
102	基礎工学系実習室	回路網実習装置	2
103	基礎工学系実習室	低周波増幅回路実習装置	1
104	基礎工学系実習室	ツインタワー パンデグラフ	1
105	基礎工学系実習室	ライデンびん	1
106	基礎工学系実習室	絶縁台	1
107	基礎工学系実習室	誘導電動機原理説明器	1
108	基礎工学系実習室	単相誘導電動機	1

実習室別の主な器具等の整備計画

No.	実習室名	品名	数量
109	基礎工学系実習室	LCRメーター	1
110	臨床工学技術系実習室	多目的ベッド	3
111	臨床工学技術系実習室	ウォッシュャブル・リバーシブルマットレス	3
112	臨床工学技術系実習室	手動ベッド	5
113	臨床工学技術系実習室	エバーフィットマットレス [清拭タイプ]	5
114	臨床工学技術系実習室	オーバーベッドテーブル	3
115	臨床工学技術系実習室	車椅子	2
116	臨床工学技術系実習室	人工心肺装置+PCPSシステム	1
117	臨床工学技術系実習室	電気メス	1
118	臨床工学技術系実習室	新生児・小児・成人用人工呼吸器 サーボベンチレータ	1
119	臨床工学技術系実習室	サクションプラボトル	3
120	臨床工学技術系実習室	ベッドサイドモニター	1
121	臨床工学技術系実習室	シリンジポンプ	8
122	臨床工学技術系実習室	輸液ポンプ	10
123	臨床工学技術系実習室	スタンド（イルリガードル台）	5
124	臨床工学技術系実習室	AED トレーニングユニット	7
125	臨床工学技術系実習室	体外式DDDペースメーカー	1
126	臨床工学技術系実習室	プログラマー	1
127	臨床工学技術系実習室	TTLモデル肺	1
128	臨床工学技術系実習室	輸液ポンプテスト	1
129	臨床工学技術系実習室	電気安全解析装置	1
130	臨床工学技術系実習室	電気メスアナライザー	1
131	臨床工学技術系実習室	エネルギーチェッカ	1
132	臨床工学技術系実習室	漏れ電流チェッカ	3
133	臨床工学技術系実習室	工具セット	15
134	臨床工学技術系実習室	シリコンレサシテーター	5
135	臨床工学技術系実習室	AEDT-2 レサシアン with QCPR 全身スキルガイド	1
136	臨床工学技術系実習室	リトル アン	7
137	臨床工学技術系実習室	酸素流量計	3
138	臨床工学技術系実習室	壁掛式吸引器	3
139	臨床工学技術系実習室	除細動器	2
140	臨床工学技術系実習室	透析監視装置	4
141	臨床工学技術系実習室	麻酔器	1
142	臨床工学技術系実習室	人工呼吸器（麻酔器用）	1
143	臨床工学技術系実習室	人工呼吸器	2
144	臨床工学技術系実習室	電気メス	1
145	臨床工学技術系実習室	ETC02モニター	1
146	臨床工学技術系実習室	生体監視モニター	2
147	臨床工学技術系実習室	保育器	1
148	臨床工学技術系実習室	光線療法ユニット	1
149	臨床工学技術系実習室	連続心拍出量計	1
150	生体計測系実習室	心電計	6
151	生体計測系実習室	心電・心音・脈波計	1
152	生体計測系実習室	血圧脈波検査装置	1
153	生体計測系実習室	超音波診断装置	2
154	生体計測系実習室	マイクロスパイロ	2
155	生体計測系実習室	オージオメータ	2
156	生体計測系実習室	パルスオキシメータ Oxypal	1
157	生体計測系実習室	パルスオキシメータ	6
158	生体計測系実習室	熱画像検査装置（赤外線サーモグラフィー）	1
159	生体計測系実習室	電気味覚計	1
160	生体計測系実習室	ベッド	6
161	生体計測系実習室	アイソレーショントランス	1

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
1	自然科学概論	28	ライフサイエンスのための生物学	森誠:江原宏	培風館
2	自然科学概論	28	生物学と医学のための物理学	ポール・ダヴィドヴィッツ:曾我部正博	共立出版
3	自然科学概論	28	やさしい基礎生物学	南雲保:今井一志	羊土社
4	自然科学概論	28	大学1年生のなっとく! 生物学	田村隆明	講談社
5	自然科学概論	28	生態学:個体から生態系へ	マイケル・ベゴン:ジョン・L. ハーパー	京都大学学術出版会
6	自然科学概論	28	行動遺伝学入門:動物とヒトの“こころ”の科学	小出剛:山元大輔	裳華房
7	自然科学概論	28	生物統計学	向井文雄	化学同人
8	自然科学概論	28	医療系学生のための生物学	丸井隆之	学建書院
9	自然科学概論	28	細胞死・アポトーシス集中マスター	辻本賀英	羊土社
10	自然科学概論	28	生物学ハンドブック	太田次郎:清水碩	朝倉書店
11	自然科学概論	28	遺伝子	ベンジャミン・リューイン:菊池韶彦	東京化学同人
12	自然科学概論	28	バイオサイエンスのための物理化学	イグナシオ・ティノコ:猪飼篤	東京化学同人
13	自然科学概論	28	高分子の科学:身近なモノから理解する	扇澤敏明:柿本雅明	日刊工業新聞社
14	自然科学概論	28	ベクトルで考え微積分で解く基礎物理学	御法川幸雄	現代図書(発売:星雲社)
15	自然科学概論	28	看護学生のための物理学	佐藤和良	医学書院
16	自然科学概論	28	基礎物理学	原康夫	学術図書出版社
17	自然科学概論	28	ヘルプフル! 看護・介護と物理:根拠が分かって自信がつく	多田旭男	三共出版
18	自然科学概論	28	医療専門職のための二度目の物理学入門	嶋津秀昭	学研メディカル秀潤社(発売:学研マーケティング)
19	自然科学概論	28	生物学:人の生命科学	佐々木史江:堀口毅	医歯薬出版
20	自然科学概論	28	受精卵からヒトになるまで	キース・L. ムア:T. V. N. ベルサード	医歯薬出版
21	自然科学概論	28	バイオメカニクス入門	林敏三郎	コロナ社
22	自然科学概論	28	イラストでまなぶ人体のしくみとはたらき	田中越郎	医学書院
23	自然科学概論	28	目でみるからだのメカニズム	堺章	医学書院
24	自然科学概論	28	環境微生物学:地球環境を守る微生物の役割と応用	久保幹:森崎久雄	化学同人
25	自然科学概論	28	環境微生物学入門:人間を支えるミクロの生物	瀬戸昌之	朝倉書店
26	自然科学概論	28	水圏微生物学の基礎	浜崎恒二:木暮一啓	恒星社厚生閣
27	自然科学概論	28	タンパク質の立体構造入門:基礎から構造バイオインフォマティクスへ	藤博幸	講談社
28	自然科学概論	28	ナノ粒子:物性の基礎と応用	林真至:隅山兼治	近代科学社
29	自然科学概論	28	科学と人間生活の基礎知識	実教出版株式会社	実教出版
30	自然科学概論	28	科学の考え方:論理・作法・技術	浜田嘉昭	左右社
31	自然科学概論	28	基礎からわかる天文学:太陽系から銀河、観測技術や宇宙論まで	半田利弘	誠文堂新光社
32	自然科学概論	28	基礎からわかる電気化学	泉生一郎:石川正司	森北出版
33	自然科学概論	28	基礎から学ぶ分析化学	井村久則:樋上照男	化学同人
34	自然科学概論	28	基礎から学べる工系の力学	廣岡秀明	共立出版
35	自然科学概論	28	基礎コース細胞生物学	スティーヴン・R. ポルゾーバー:エリザベス・A. シェパード	東京化学同人
36	自然科学概論	28	基礎生命科学	辻勉:入村達郎	培風館
37	自然科学概論	28	興味湧き出る化学結合論:基礎から論理的に理解して楽しく学ぶ	久保田真理	共立出版
38	自然科学概論	28	現場で役立つ化学分析の基礎	日本分析化学会:平井昭司	オーム社
39	自然科学概論	28	現場で役立つ水質分析の基礎:化学物質のモニタリング手法	日本分析化学会:平井昭司	オーム社
40	自然科学概論	28	自然科学ははじめの一歩	岸根順一郎:大森聡一	放送大学教育振興会(発売:NHK出版)
41	自然科学概論	28	食べ物と健康	佐藤隆一郎:加藤久典	学文社
42	自然科学概論	28	図解マクスウェル方程式:電磁気の基本・基礎	室岡義広	裳華房
43	自然科学概論	28	図集植物バイオテックの基礎知識	大沢勝次:江面浩	農山漁村文化協会
44	自然科学概論	28	生物学の基礎:生き物の不思議を探る	和田勝	東京化学同人
45	自然科学概論	28	生命を知るための基礎化学:分子の目線でヒトをみる	川井正雄	丸善出版
46	自然科学概論	28	生命科学のための基礎化学	原田義也	東京大学出版会
47	自然科学概論	28	大学生のための力と運動の基礎	茨城大学大学教育センター	培風館
48	自然科学概論	28	炭素学:基礎物性から応用展開まで	田中一義:東原秀和	化学同人
49	自然科学概論	28	地球学調査・解析の基礎	上野健一:久田健一郎	古今書院
50	自然科学概論	28	糖鎖化学の基礎と実用化	小林一清:正田晋一郎	シーエムシー出版
51	自然科学概論	28	熱力学	菊川芳夫	講談社
52	自然科学概論	28	熱力学の基礎	森成隆夫	大学教育出版
53	自然科学概論	28	反応から学ぼう有機化学の基礎	柏村成史:山際由朗	三共出版
54	自然科学概論	28	分子生物学	深見泰夫	化学同人
55	自然科学概論	28	万人の基礎物理学	巨海玄道:野田常雄	学術図書出版社
56	自然科学概論	28	野生生物保全事典:野生生物保全の基礎理論と項目	野生生物保全論研究会	緑風出版
57	自然科学概論	28	有機化学の基礎	望月正隆:稲見圭子	東京化学同人
58	自然科学概論	28	有機概念図:基礎と応用	甲田善生:佐藤四郎	三共出版
59	自然科学概論	28	有機電気化学:基礎から応用まで	瀬上寿雄:跡部真人	コロナ社
60	自然科学概論	28	理系学生の基礎化学	姫野貞之:内野隆司	学術図書出版社
61	自然科学概論	28	理工系の基礎化学	中村潤児:神原貴樹	化学同人
62	自然科学概論	28	理論生物学の基礎	関村利朗:山村則男	海游舎
63	自然科学概論	28	量子コンピュータ科学の基礎	N. デーヴィッド・マーミン:木村元	丸善出版

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
64	自然科学概論	28	力学	原康夫	東京教学社
65	自然科学概論	28	力学の基礎	茨城大学大学教育センター	学術図書出版社
66	自然科学概論	28	力学演習	野上茂吉郎	裳華房
67	自然科学概論	28	力学基礎	柴田詢也	培風館
68	自然科学概論	28	臨床栄養学	飯嶋正広：今本美幸	学文社
69	医学概論	28	明日の医療のための医学教育	診断と治療社	嶋田敏
70	医学概論	28	現代医学概論	柳沢信夫	医歯薬出版
71	医学概論	28	後期高齢者医療制度担当者ハンドブック：制度の解説と事務処理の概要 2015		社会保険出版社
72	医学概論	28	思想としての「医学概論」：いま「いのち」とどう向き合うか	高草木光一	岩波書店
73	医学概論	28	臨床医学概論：生活習慣病を中心として	保崎清人：ヘルシステム研究所	ヘルス・システム研究所
74	医学概論	28	現代医学概論	柳沢信夫	医歯薬出版
75	医学概論	28	医学一般	巽典之：星野政明	金芳堂
76	医学概論	28	医学概論	北村論	中外医学社
77	医学概論	28	医療における人の心理と行動	生和秀敏：井内康輝	培風館
78	医学概論	28	対話・コミュニケーションから学ぶスピリチュアルケア	谷田憲俊：大下大圓	診断と治療社
79	医学概論	28	医療倫理学のABC	服部健司：伊東隆雄	メディカルフレンド社
80	医学概論	28	病院倫理入門	レンツォ・ベゴラノ：ジョバンニ・ブト	丸善出版
81	医学概論	28	生命倫理と医療倫理	伏木信次：櫻則章	金芳堂
82	医学概論	28	生物と生命倫理の基本ノート	西沢いつみ	金芳堂
83	医学概論	28	患者の声を聞く	酒巻哲夫：林田素美	篠原出版新社
84	医学概論	28	医療コミュニケーション	医療コミュニケーション研究会：藤崎和彦	篠原出版新社
85	医学概論	28	メディカル・コーティングQ&A	安藤潔	真興交易(株) 医書出版部
86	医学概論	28	実践行動医学	ミッチェル・D. フェルドマン：ジョン・F. クリステンセン	メディカル・サイエンス・インターナショナル
87	医学概論	28	保健医療職のための伝える技術伝わる技術	フィリップ・バーナード：永野ひろ子	医学書院
88	医学概論	28	患者と医師のコミュニケーション	デブラ・L. ローター：ジュディス・A. ホール	篠原出版新社
89	医学概論	28	具体例からはじめる患者と医療従事者のためインフォームド・コンセント取扱説明書	谷田憲俊	診断と治療社
90	医学概論	28	エッセンシャル臨床シミュレーション医療教育	カースティ・フォレスト：ジュディ・マッキム	篠原出版新社
91	医学概論	28	リサーチ・クエスションの作り方：診療上の疑問を研究可能な形に	福原俊一	健康医療評価研究機構
92	医学概論	28	チームの連携力を高めるカンファレンスの進め方	篠田道子	日本看護協会出版会
93	医学概論	28	医学概論：医学のコンセプトと医療のエッセンス	中島泉	南江堂
94	医学概論	28	医学概論：医学生が学ぶべき生命・医療倫理と医学史	井内康輝	篠原出版新社
95	医学概論	28	最新医療サービスの基本と仕組みがよ〜くわかる本：医療制度改革で医療事務が変わる	菊地敏夫	秀和システム
96	医学概論	28	相談・支援のための福祉・医療制度活用ハンドブック	日本医療社会福祉協会	新日本法規出版
97	医学概論	28	保健医療サービス：保健医療制度・医療福祉	佐久間淳：榎山久美子	弘文堂
98	医学概論	28	メディカルスタッフのための精神医学概論：症状論から学ぶ	大内田昭二	創造出版(渋谷区)
99	看護学概論	28	コミュニティアズパートナー：地域看護学の理論と実際	エリザベス・T. アンダーソン：ジュディス・M. マックファーレン	医学書院
100	看護学概論	28	コメディカルのための看護学総論	日本放射線技師会：大西和子	PILAR PRESS
101	看護学概論	28	これからの看護学概論	橋本和子(看護学)	ふくろう出版
102	看護学概論	28	看護のコミュニケーション	ジュリア・バルザー・ライリー：渡部富実	エルゼビア・ジャパン
103	看護学概論	28	看護学概論	志自岐康子：松尾ミヨ子	メディカ出版
104	看護学概論	28	看護学概論：看護とは・看護学とは	松木光子	ヌーヴェルヒロカワ
105	看護学概論	28	看護学概論：看護追求へのアプローチ	レイコ・シマザキ・ライダー：岡崎寿美子	医歯薬出版
106	看護学概論	28	基礎看護学：技術編	小島照子：藤原奈佳子	オーム社
107	看護学概論	28	基礎看護学：総論編	藤原奈佳子：小島照子	オーム社
108	看護学概論	28	急性期看護：成人看護学 1	林直子：佐藤まゆみ	南江堂
109	看護学概論	28	急性期看護：成人看護学 2	佐藤まゆみ：林直子	南江堂
110	看護学概論	28	最新公衆衛生看護学各論1 2015年版		日本看護協会出版会
111	看護学概論	28	災害看護：看護の専門知識を統合して実践につなげる	酒井明子：菊池志津子	南江堂
112	看護学概論	28	災害看護学	辺見弘：小井土雄一	メディカルフレンド社
113	看護学概論	28	災害看護学習テキスト：概論編	南裕子：山本あい子	日本看護協会出版会
114	看護学概論	28	災害看護学習テキスト：実践編	南裕子：山本あい子	日本看護協会出版会
115	看護学概論	28	在宅看護学	波川京子：三徳和子	クオリティケア
116	看護学概論	28	在宅看護学講座	カズヨ・カンザキ・スーディ	ナカニシヤ出版
117	看護学概論	28	在宅看護論：自分らしい生活の継続をめざして	石垣和子：上野まり	南江堂
118	看護学概論	28	実践成人看護学Ⅰ慢性期	安酸史子：岡美智代	建帛社
119	看護学概論	28	慢性期看護：成人看護学	鈴木久美：野澤明子	南江堂
120	看護学概論	28	慢性期看護論：成人看護学	鈴木志津枝：藤田佐和	ヌーヴェルヒロカワ
121	看護学概論	28	看護技術ベーシックス	藤野彰子：長谷部佳子	サイオ出版
122	看護学概論	28	看護に生かす検査マニュアル	高木康	サイオ出版
123	看護学概論	28	根拠から学ぶ基礎看護技術	江口正信	サイオ出版
124	看護学概論	28	症状からアプローチするプライマリケア	日本医師会：跡見裕	日本医師会
125	看護学概論	28	聴いて見て考える肺の聴診	工藤翔二：工藤翔二	アトムス
126	看護学概論	28	注射マニュアル	上田裕一：真弓俊彦	中山書店

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
127	看護学概論	28	グリーンケア	高橋聡美	メヂカルフレンド社
128	看護学概論	28	緩和ケアの本質と実践	ヨハン・クリストフ・シュトゥデント:アン ネドニレ・ナビヴォツキー	ガイアブックス
129	人体の構造と機能	28	老化生物学:老いと寿命のメカニズム	ロジャー・B. マクドナルド:近藤祥司	メディカル・サイエンス・イン ターナショナル
130	人体の構造と機能	28	医薬系のための生物学	丸山敬:松岡耕二	裳華房
131	人体の構造と機能	28	基礎生化学:健康・疾病とのつながり	永井竜児:大島寛史	アイ・ケイコーポレーション
132	人体の構造と機能	28	進化の運命:孤独な宇宙の必然としての人間	サイモン・コンウェイ・モリス:遠藤一 佳	講談社
133	人体の構造と機能	28	知りたい! 遺伝のしくみ:個性や能力は、どこまで“生まれつき”か?		ニュートンプレス
134	人体の構造と機能	28	図解生命科学	室伏きみ子	オーム社
135	人体の構造と機能	28	人の生命科学	佐々木史江:堀口毅	医歯薬出版
136	人体の構造と機能	28	ケーススタディ看護形態機能学:臨床実践と人体の構造・機能・病態 の知識をつなぐ	菱沼典子	南江堂
137	人体の構造と機能	28	基礎医学:人体の構造と機能	岩谷良則:岩谷良則	医学書院
138	人体の構造と機能	28	人体の構造と機能	エレイン・N. マリーブ:林正健二	医学書院
139	人体の構造と機能	28	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち. 各論	香川靖雄:近藤和雄	南江堂
140	人体の構造と機能	28	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち. 総論	香川靖雄:近藤和雄	南江堂
141	人体の構造と機能	28	運動生理学:人体の構造と機能	岸恭一:上田伸男	講談社
142	人体の構造と機能	28	解剖生理学	林正健二	メディカ出版
143	人体の構造と機能	28	解剖生理学:救急救命スキルブック	アメリカ整形外科学会:ボブ・エリッ グ	医学映像教育センター
144	人体の構造と機能	28	基礎解剖生理学	戸田一雄:木本万里	おうふう
145	人体の構造と機能	28	人体の解剖生理学	遠山正弥:高辻功一	金芳堂
146	人体の構造と機能	28	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち. 2	加藤昌彦:近藤和雄	第一出版(千代田区)
147	人体の構造と機能	28	人体機能生理学	杉晴夫:宮崎俊一	南江堂
148	人体の構造と機能	28	世界一やさしい解剖・生理学	中田圭祐	ばる出版
149	人体の構造と機能	28	生物・解剖生理学:人体の構造と機能	吉岡利忠:菊川忠裕	理工図書
150	人体の構造と機能	28	生物がつくる(体外)構造:延長された表現型の生理学	J. スコット・ターナー:滋賀陽子	みずす書房
151	人体の構造と機能	28	生理学	内田さえ:原田玲子(解剖学)	医歯薬出版
152	人体の構造と機能	28	生理学:人体のメカニズム	入内島十郎	溪水社(広島)
153	人体の構造と機能	28	生理学テキスト	大地陸男	文光堂
154	人体の構造と機能	28	早わかり生理学ハンドブック:オールカラー	孫明洲:坂本幸哉	ナソメ社
155	人体の構造と機能	28	超ビジュアル病態生理学	吉岡俊正	マンガカルビュー社
156	人体の構造と機能	28	超入門解剖生理学	有田和恵:有田彰	照林社
157	人体の構造と機能	28	動画マスター機能形態学:生理学から薬理学への橋かけ	佐藤進(薬理学):櫻田誓	京都廣川書店
158	人体の構造と機能	28	読んでわかる解剖生理学:テキスト	竹内修二:生理学TN編集委員会	医学教育出版社
159	人体の構造と機能	28	カラー図解人体の正常構造と機能	坂井建雄:河原克雅	日本医事新報社
160	人体の構造と機能	28	カラー図解人体の正常構造と機能 1	坂井建雄:河原克雅	日本医事新報社
161	人体の構造と機能	28	カラー図解人体の正常構造と機能 2	坂井建雄:河原克雅	日本医事新報社
162	人体の構造と機能	28	カラー図解人体の正常構造と機能 3	坂井建雄:河原克雅	日本医事新報社
163	人体の構造と機能	28	カラー図解人体の正常構造と機能 4	坂井建雄:河原克雅	日本医事新報社
164	人体の構造と機能	28	カラー図解人体の正常構造と機能 5	坂井建雄:河原克雅	日本医事新報社
165	人体の構造と機能	28	カラー図解人体の正常構造と機能 6	坂井建雄:河原克雅	日本医事新報社
166	人体の構造と機能	28	カラー図解人体の正常構造と機能 7	坂井建雄:河原克雅	日本医事新報社
167	人体の構造と機能	28	カラー図解人体の正常構造と機能 8	坂井建雄:河原克雅	日本医事新報社
168	人体の構造と機能	28	カラー図解人体の正常構造と機能 9	坂井建雄:河原克雅	日本医事新報社
169	人体の構造と機能	28	カラー図解人体の正常構造と機能 10	坂井建雄:河原克雅	日本医事新報社
170	人体の構造と機能	28	身体(からだ)が見える・疾患を学ぶ解剖アトラス	ヨハネス・ソボタ:井上泰	メディカ出版
171	人体の構造と機能	28	人体の構造と生理機能	原田玲子:原田彰宏	医歯薬出版
172	人体の構造と機能	28	新訂・生理学実習書	日本生理学会教育委員会	南江堂
173	人体の構造と機能	28	ネッター解剖学アトラス原書第5版	フランク・H. ネッター:相磯貞和	南江堂
174	人体の構造と機能	28	解剖生理学実習:人体の構造と機能	森田規之:河田光博	講談社
175	人体の構造と機能	28	生理学:人体の構造と機能	片野由美:内田勝雄	サイオ出版
176	解剖学実習	28	イラスト解剖学	松村謙兒	中外医学社
177	解剖学実習	28	カラースケッチ解剖学	ウィン・カピット:ローレンス・M. エル ソン	広川書店
178	解剖学実習	28	プロメテウス解剖学アトラス. コンパクト版	アン・M. ギルロイ:ジョナス・プロマン	医学書院
179	解剖学実習	28	プロメテウス解剖学アトラス. 解剖学総論／運動器系	ミハエル・シュンケ:エリック・シュル テ	医学書院
180	解剖学実習	28	解剖学	澤田和彦:坂田ひろみ	理工図書
181	解剖学実習	28	プロメテウス解剖学アトラス. 胸部／腹部・骨盤部	ミハエル・シュンケ:エリック・シュル テ	医学書院
182	解剖学実習	28	プロメテウス解剖学アトラス. 口腔・頭頸部	エリック・W. ベーカー:ミハエル・シュ ンケ	医学書院
183	解剖学実習	28	プロメテウス解剖学アトラス. 頭頸部／神経解剖	ミハエル・シュンケ:エリック・シュル テ	医学書院
184	解剖学実習	28	プロメテウス解剖学コアアトラス	アン・M. ギルロイ:ブライアン・R. マ クファーンソン	医学書院
185	解剖学実習	28	解剖学	五味敏昭:岸清	中外医学社
186	解剖学実習	28	新解剖学	加藤征:福島統	日本医事新報社
187	解剖学実習	28	人体解剖学	藤田恒太郎	南江堂
188	解剖学実習	28	脳血管障害の解剖学的診断	後藤潤:後藤昇	三輪書店
189	解剖学実習	28	臨床につながる解剖学イラストレイテッド	松村謙兒	羊土社

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
190	解剖学実習	28	臨床のための解剖学	キース・L. ムア・アーサー・F. ダリー	メディカル・サイエンス・インターナショナル
191	解剖学実習	28	臨床神経解剖学	M. J. T. フィッツジェラルド・グレゴリー・グルーエナー	エルゼビア・ジャパン(発売:医歯薬出版)
192	解剖学実習	28	解剖学	佐藤健次	医歯薬出版
193	解剖学実習	28	解剖実習室へようこそ	前田恵理子・廣川信隆	医学書院
194	解剖学実習	28	機能解剖ポケットブック	ニゲル・バスタング・ロジャー・ソーマス	医学書院
195	解剖学実習	28	解剖学ワークブック	西川彰・小林直行	医歯薬出版
196	解剖学実習	28	トートラ解剖学	ジェラルド・J. トートラ・マーク・T. ニールセン	丸善
197	解剖学実習	28	トートラ人体解剖生理学	ジェラルド・J. トートラ・ブライアン・デリクソン	丸善出版
198	解剖学実習	28	体表からわかる人体解剖学	リチャード・タンストール・ネハル・シャーン	南江堂
199	解剖学実習	28	入門人体解剖学	藤田恒夫(解剖学)	南江堂
200	解剖学実習	28	医療職をめざす人の解剖学はじめての一步	坂井建雄	日本医事新報社
201	解剖学実習	28	人体解剖カラーアトラス	ピーター・ハーバート・エーブラハム・ジョンサン・D. スプラット	エルゼビア・ジャパン
202	解剖学実習	28	解剖からアプローチするからだの機能と運動療法	内山英一・青木光広	メジカルビュー社
203	解剖学実習	28	運動器臨床解剖アトラス	マヌエル・ルーサ・ベレス・アレックス・メリ・ビベド	医学書院
204	解剖学実習	28	ビジュアル機能解剖	クリスティ・カエル・福林徹	南江堂
205	解剖学実習	28	運動器系解剖学テキスト	五味敏昭・浅井友詞	南江堂
206	解剖学実習	28	画像でみる人体解剖アトラス	ジェイミー・ワイヤー・ピーター・ハーバート・エーブラハム	エルゼビア・ジャパン
207	解剖学実習	28	いらすと！ はじめての解剖学	松村謙兒	医学評論社
208	解剖学実習	28	心臓外科医が描いた正しい心臓解剖図	末次文祥・池田隆徳	メディカ出版
209	生理学実習	28	Clinical生体機能学:生理学から症状がわかる	當瀬規嗣	南山堂
210	生理学実習	28	イオン・アドベンチャー:心臓電気生理学の臨床をひもとく. 分子イオンチャンネル	デイル・デュービン・高橋尚彦	文光堂
211	生理学実習	28	いちばんわかる生理学	坂本順司	講談社
212	生理学実習	28	イラスト解剖生理学	青峰正裕・大澤得二	東京数学社
213	生理学実習	28	エッセンシャル心臓電気生理学	ザイヌル・アベディン・安武正弘	メディカル・サイエンス・インターナショナル
214	生理学実習	28	エッセンシャル解剖・生理学	堀川宗之	学研メディカル秀潤社(発売:学研マーケティング)
215	生理学実習	28	ガイドン生理学	アーサー・C. ガイトン・ジョン・E. ホール	エルゼビア・ジャパン
216	生理学実習	28	からだの動きの解剖生理学	加藤征治	金芳堂
217	生理学実習	28	カラー 図解よくわかる生理学の基礎	アガメムノン・デスポバウルス・シュテファン・シルビールナグル	メディカル・サイエンス・インターナショナル
218	生理学実習	28	コスタンゾ明解生理学	リンダ・S. コスタンゾ・岡田忠	エルゼビア・ジャパン
219	生理学実習	28	これならわかる要点生理学	當瀬規嗣	南山堂
220	生理学実習	28	なっとく解剖生理学. 1	五十嵐雅	文光堂
221	生理学実習	28	なっとく解剖生理学. 2	五十嵐雅	文光堂
222	生理学実習	28	なっとく解剖生理学. 3	五十嵐雅	文光堂
223	生理学実習	28	ニューロンの生理学	ダニエル・トリッチ・ドミニク・シェワ・マルシェ	京都大学学術出版会
224	生理学実習	28	ネッター解剖生理学アトラス	ジョン・T. ハンセン・ブルース・M. ケッペン	南江堂
225	生理学実習	28	バイオサイバネティクス:生理学から制御工学へ	富田豊・衛藤憲人	コロナ社
226	生理学実習	28	はじめての解剖生理学:講義と実習	金澤寛明	南江堂
227	生理学実習	28	はじめての一步のイラスト生理学:はじめて学ぶ人のための目で見える教科書	照井直人	羊土社
228	生理学実習	28	ビジュアル解剖生理学	藤田守・土肥良秋	スーヴェルヒロカワ
229	生理学実習	28	ヒトの一生の生理学:生から死まで	富田忠雄・長塚朗	九州大学出版会
230	生理学実習	28	ポリグラフ鑑定:虚偽の精神生理学	山村武彦	誠信書房
231	生理学実習	28	ポロン プールベープ生理学:カラー版	ウォルター・F. ボロン・エミール・L. プールベープ	西村書店(新潟)
232	生理学実習	28	ミルトン・H・エリクソン全集. 第2巻	ミルトン・H. エリクソン・アーネスト・L. ロッソ	二瓶社
233	生理学実習	28	やさしい自律神経生理学:命を支える仕組み	鈴木郁子	中外医学社
234	生理学実習	28	やりなおしからのなぜ?がわかる生化学・生理学超基本:看護師なら知っておきたい	岩田恵里子・宮澤恵二	メディカ出版
235	生理学実習	28	やりなおしの呼吸と循環とことんマスター:脱・あいまい知識! イラストでぐんぐんわかる生理学と	山本昌司	メディカ出版
236	生理学実習	28	医療系学生のための図解生理学TEXT&NOTE	丹羽利充	診断と治療社
237	生理学実習	28	医療系学生のための生理学概説	喜多弘	大学教育出版
238	生理学実習	28	基礎生理学	安谷屋均	東洋書店
239	生理学実習	28	教えて! ナカイ先生透析患者のからだのしくみ:楽しくわかりやすい生理学レッスン	中井洋	メディカ出版
240	生理学実習	28	筋感覚研究の展開:生理学／筋感覚	伊藤文雄(生理学)	協同医書出版社
241	生理学実習	28	健康を考えた生化学・生理学実験	坂上茂・人見英里	アイ・ケイコーポレーション
242	生理学実習	28	高気圧酸素治療のための医学・生理学	トム・S. ニューマン・スティープン・R. トム	へるす出版
243	生理学実習	28	集中講義生理学:カラーイラストで学ぶ	岡田隆夫	メジカルビュー社
244	生理学実習	28	決して忘れない生理学要点整理ノート	佐々木誠一	羊土社
245	生理学実習	28	心臓・循環の生理学	J. ロドニー・レヴィック・岡田隆夫	メディカル・サイエンス・インターナショナル
246	生理学実習	28	新しい解剖生理学	山本敏行・鈴木泰三(医学博士)	南江堂
247	生理学実習	28	病態生理学	山内豊明	メディカ出版
248	生理学実習	28	病態生理学:疾患への理解を深める	副島昭典・小池秀海	東京医学社
249	生理学実習	28	病棟で働く人のための生理学	香山雪彦・前川剛志	学研メディカル秀潤社(発売:学研マーケティング)
250	生理学実習	28	明解解剖生理学実験	渡辺嘉郎・加納亮子	三共出版
251	生理学実習	28	臨床家のための基礎からわかる病態生理学	北川美千代・垣生園子	医道の日本社
252	生理学実習	28	新生理学	竹内昭博	日本医事新報社

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
253	生化学	28	基礎からしっかり学ぶ生化学	山口雄輝:成田央	羊土社
254	生化学	28	化学基礎	北條博彦:渡辺正(化学)	化学同人
255	生化学	28	コ・メディカル化学:医療・看護系のための基礎化学	斎藤勝裕:荒井貞夫	裳華房
256	生化学	28	理工系のための化学入門	井上正之	裳華房
257	生化学	28	理工系学生のための化学基礎	野村浩康:川泉文男	学術図書出版社
258	生化学	28	ふしぎの化学	斎藤勝裕:安藤文雄	培風館
259	生化学	28	医療のための化学	堀内孝:村林俊	コロナ社
260	生化学	28	医療・薬学系のための基礎化学	津田孝雄:荒木修喜	朝倉書店
261	生化学	28	医・薬・看護系のための化学	アラン・ジョーンズ:原博	東京化学同人
262	生化学	28	緩衝液その原理と選び方・作り方	澤田清:大森大二郎	講談社
263	生化学	28	大学生のための例題で学ぶ化学入門	大野公一:村田滋	共立出版
264	生化学	28	イラストでまなぶ生化学	前場良太	医学書院
265	生化学	28	イラスト基礎からわかる生化学:構造・酵素・代謝	坂本順司	裳華房
266	生化学	28	基礎から学ぶ遺伝子工学	田村隆明	羊土社
267	生化学	28	基礎から学ぶ生化学	奥恒行:山田和彦	南江堂
268	生化学	28	生化学	阿部喜代司	医歯薬出版
269	生化学	28	生化学	蘭田勝	羊土社
270	生化学	28	絵でわかるがん遺伝子	野島博	講談社
271	生化学	28	よくわかるゲノム医学	服部成介:水島一 菅野純子	羊土社
272	生化学	28	遺伝子分析科学	日本臨床検査同学院	宇宙堂八木書店
273	生化学	28	超基本バイオ実験ノート	田村隆明	羊土社
274	生化学	28	カラー図解見てわかる生化学	ジャン・クールマン:クラウス・ハインリッヒ・レーム	メディカル・サイエンス・インターナショナル
275	医用検査機器学	28	JISハンドブック. 医療機器 1 2015	日本規格協会	日本規格協会
276	医用検査機器学	28	JISハンドブック. 医療機器 2 2015	日本規格協会	日本規格協会
277	医用検査機器学	28	JISハンドブック. 医療機器 3 2015	日本規格協会	日本規格協会
278	医用検査機器学	28	JISハンドブック. 医療機器 4 2015	日本規格協会	日本規格協会
279	医用検査機器学	28	早わかり改正薬事法のポイント:医薬品医療機器等法・医薬品ネット販売関連法のすべて	薬事医療法制研究会	じほう
280	医用検査機器学	28	検査機器総論	三村邦裕:山藤賢	医歯薬出版
281	医用検査機器学	28	検査機器総論・検査管理総論	横田浩充:大久保滋夫	医学書院
282	医用検査機器学	28	顕微鏡検査ハンドブック	菅野治重:相原雅典	医学書院
283	医用検査機器学	28	生体計測の機器とシステム	岡田正彦	コロナ社
284	医用検査機器学	28	計測法入門	内山靖:小林武	協同医書出版社
285	医用検査機器学	28	Essential医用画像情報管理:ビギナーからリーダーまでのスキルアップブック	日本医用画像管理学会	PILAR PRESS
286	医用検査機器学	28	最先端医療機器がよくわかる本:何が検査できる?どんな治療に使われる?	井上浩義	アーク出版
287	医用検査機器学	28	パルス波ECTハンドブック	メーブル・V. マンカッド:ジョン・L. バイアー	医学書院
288	医用検査機器学	28	フィルムレスマスターブック:基礎から実運用・管理まで	日本医用画像管理学会	PILAR PRESS
289	医用検査機器学	28	イラスト図解 医療機器と検査・治療のしくみ	八幡勝也:木村憲洋	日本実業出版社
290	医用検査機器学	28	医用機器 I	田村俊世	コロナ社
291	医用検査機器学	28	医用機器 II	山形仁	コロナ社
292	医用検査機器学	28	カラー図解 よくわかる薬機法-医療機器/体外診断用医薬品編-	株式会社ドーモ	薬事日報社
293	医用検査機器学	28	研修医に絶対必要器具・器械がわかる本	野村悠	羊土社
294	医用検査機器学	28	生命科学のための機器分析実験ハンドブック	西村善文	羊土社
295	医用工学概論	28	医用画像工学	岡部哲夫:藤田広志	医歯薬出版
296	医用工学概論	28	医用工学概論	嶋津秀昭	コロナ社
297	医用工学概論	28	医用工学概論	嶋津秀昭:若松秀俊	医歯薬出版
298	医用工学概論	28	初歩の医用工学	西山篤:大松将彦	東洋書店
299	医用工学概論	28	振動音響療法:音楽療法への医用工学的アプローチ	トニー・ウィグラム:チェリル・ディレオ	人間と歴史社
300	医用工学概論	28	臨床医学総論:臨床医学総論 放射性同位元素検査技術学 医用工学概	小山高敏:戸塚実	医学書院
301	医用工学概論	28	合点!電子回路超入門:位相/複素数/フーリエ変換...10のツールで信号の性	石井聡	CQ出版
302	医用工学概論	28	物理学	嶋津秀昭:石川敏三	医歯薬出版
303	医用工学概論	28	生体電気計測	山本尚武:中村隆夫	コロナ社
304	医用工学概論	28	循環系のバイオメカニクス	神谷瞭	コロナ社
305	医用工学概論	28	超音波の基礎と装置	甲子乃人	ベクトル・コア
306	医用工学概論	28	医用工学	富士政広	メジカルビュー社
307	医用工学概論	28	医用生体工学	神谷瞭:井街宏	培風館
308	医用工学概論	28	生体用センサと計測装置	山越憲一:戸川達男	コロナ社
309	医用工学概論	28	超音波診断装置	伊東正安:望月剛	コロナ社
310	医用工学概論	28	手にとるようにわかる若手CEと学生のための臨床工学ハンドブック下	東邦大学医療センター大橋病院:海老根東雄	ベクトル・コア
311	医用工学概論	28	手にとるようにわかる若手CEと学生のための臨床工学ハンドブック上	東邦大学医療センター大橋病院:海老根東雄	ベクトル・コア
312	医用工学概論	28	臨床工学技士のすすめ	野城真理	コロナ社
313	医用工学概論	28	新ME機器ハンドブック	電子情報技術産業協会	コロナ社
314	医用工学概論	28	医療系資格試験のための電気	仲田昭彦	コロナ社
315	医用工学概論	28	医療系資格試験のための物理	仲田昭彦	コロナ社

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
316	電気・電子工学	28	電気・電子計測	菅博	朝倉書店
317	電気・電子工学	28	電気・電子工学概論:オームの法則～コンピュータサイエンス	和田清・岡田龍雄	朝倉書店
318	電気・電子工学	28	電気・電子工学実習	南谷晴之	コロナ社
319	電気・電子工学	28	電気電子基礎数学	川口順也・松瀬貞規	数理工学社(発売:サイエンス社)
320	電気・電子工学	28	電気電子工学のための基礎数学	森武昭・大矢征	森北出版
321	電気・電子工学	28	電気電子工学の学び方	奥水大和	オーム社
322	電気・電子工学	28	Scilab入門:電気電子工学で学ぶ数値計算ツール	望月孔二	カッツシステム
323	電気・電子工学	28	アルゴリズムとデータ構造:改訂C言語版	平田富夫	森北出版
324	電気・電子工学	28	シミュレーション工学	高橋勝彦	朝倉書店
325	電気・電子工学	28	基礎制御工学	松瀬貞規	数理工学社(発売:サイエンス社)
326	電気・電子工学	28	機能デバイス工学	松山公秀・園福敬二	朝倉書店
327	電気・電子工学	28	光工学入門	森木一紀	数理工学社(発売:サイエンス社)
328	電気・電子工学	28	高電圧工学	安藤晃・犬竹正明	朝倉書店
329	電気・電子工学	28	磁気工学の有限要素法	高橋則雄	朝倉書店
330	電気・電子工学	28	数値電磁力学:基礎と応用	本間利久・五十嵐一	森北出版
331	電気・電子工学	28	制御工学	川邊武俊・金井喜美雄	朝倉書店
332	電気・電子工学	28	電気エネルギー工学概論	西嶋喜代人・末廣純也	朝倉書店
333	電気・電子工学	28	電気回路	大橋俊介	数理工学社(発売:サイエンス社)
334	電気・電子工学	28	電気回路	中村正孝・沖根光夫	朝倉書店
335	電気・電子工学	28	電子デバイス工学	宮尾正信・佐道泰造	朝倉書店
336	電気・電子工学	28	電子回路	桜庭一郎・熊耳忠	森北出版
337	電気・電子工学	28	電子物性	都甲潔	朝倉書店
338	電気・電子工学	28	電磁エネルギー変換工学	松木英敏・一ノ倉理	朝倉書店
339	電気・電子工学	28	電磁気学	岡田龍雄・船木和夫	朝倉書店
340	電気・電子工学	28	電力発生工学	加藤政一・中野茂	数理工学社(発売:サイエンス社)
341	電気・電子工学	28	量子力学基礎	末光真希・枝松圭一	朝倉書店
342	電気工学	28	やくにたつ電磁気学	平井紀光	ムイスリ出版
343	電気工学	28	電磁気学入門	岡崎誠	裳華房
344	電気工学	28	はじめての電気工学	臼田昭司・山崎高弘	森北出版
345	電気工学	28	医用電気工学. 1	戸畑裕志・中島章夫	医歯薬出版
346	電気工学	28	医用電気工学. 2	福長一義・中島章夫	医歯薬出版
347	電気工学	28	演習と応用電気回路	大橋俊介	数理工学社(発売:サイエンス社)
348	電気工学	28	演習と応用電気磁気学	湯本雅恵・澤野憲太郎	数理工学社(発売:サイエンス社)
349	電気工学	28	応用電気電子計測	信太克規	数理工学社(発売:サイエンス社)
350	電気工学	28	学生のための初めて学ぶ「電気工学」	松江工業高等専門学校電気工学研究 会・魚谷均	日刊工業新聞社
351	電気工学	28	新電気電子工学:電気磁気学から電子物性学まで	乾昭文・川口芳弘	技報堂出版
352	電気工学	28	臨床工学技士のための電気工学	西村生哉・三田村好矩	コロナ社
353	電気工学	28	Excelで学ぶ電気回路	吉田澄男	オーム社
354	電気工学	28	基本からわかる 電磁気学講義ノート	市川紀充・岩崎久雄	オーム社
355	電気工学	28	基本からわかる 電気回路講義ノート	岩崎久雄・鈴木憲史	オーム社
356	電気工学	28	電気のための基礎数学	熊谷文宏・浅川毅	東京電機大学出版局
357	電気工学	28	電気回路入門講座	見城尚志	電波新聞社
358	医用機器学概論	28	よくわかるISO 13485:医療機器の品質マネジメントシステム	萩原睦幸	オーム社
359	医用機器学概論	28	医薬品・医療機器・再生医療等製品GLPガイドブック. 2015	日本薬剤師研修センター	薬事日報社
360	医用機器学概論	28	医療機器GCPハンドブック:医療機器GCP関係法令通知収録		薬事日報社
361	医用機器学概論	28	2016 医療機器システム白書	月刊新医療編集部	エム・イー振興協会
362	医用機器学概論	28	医療機器の保険適用戦略と保険適用希望書の作成・手続実務:適切な保険収載を獲得するためのポイント	河原敦	じほう
363	医用機器学概論	28	医療機器承認便覧. 平成26年版		業務公報社
364	医用機器学概論	28	医療材料・医療機器:その安全性と生体適合性への取り組み	土屋利江	シーエムシー出版
365	医用機器学概論	28	実例から学ぶ医薬品・医療機器の副作用・有害事象:解析・評価上の課題と改善への提言	日本公定書協会	じほう
366	医用機器学概論	28	世界の医療機器市場:成長分野での海外展開を目指せ	桜内政大	日本貿易振興機構
367	情報科学概論	28	C言語ではじめる医用情報処理:生体情報計測と医用電子工学	小高知宏	オーム社
368	情報科学概論	28	システム制御工学	阿部健一・吉澤誠	朝倉書店
369	情報科学概論	28	情報科学	松戸隆之	医歯薬出版
370	情報科学概論	28	Rubyによる情報科学入門	久野靖	近代科学社
371	情報科学概論	28	オペレーティングシステムの仕組み	河野健二	朝倉書店
372	情報科学概論	28	サーチャークエリャ:「さがす」の情報科学	吉川日出行	SBクリエイティブ
373	情報科学概論	28	データベースの仕組み	福田剛志・黒澤亮二	朝倉書店
374	情報科学概論	28	基礎情報科学	川合慧・萩谷昌己	放送大学教育振興会(発売:NHK出版)
375	情報科学概論	28	計算理論入門	五十嵐晋英・フォーブス・D. リュウイス	牧野書店(発売:星雲社)
376	情報科学概論	28	現代の情報科学	師啓二・樋口和彦	学文社
377	情報科学概論	28	情報科学の基礎	松下孝太郎・朴鍾杰	アイ・ケイコーポレーション
378	情報科学概論	28	情報科学の基礎知識	宮内ミナミ・森本喜一郎	朝倉書店

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
379	情報科学概論	28	情報科学概論	小松原実	ムイスリ出版
380	情報科学概論	28	情報科学基礎:コンピュータとネットワークの基本	伊東俊彦	ムイスリ出版
381	情報科学概論	28	情報科学入門	上藤干城	学術図書出版社
382	情報科学概論	28	情報科学入門:Rubyを使って学ぶ	増原英彦:東京大学情報教育連絡会	東京大学出版会
383	情報科学概論	28	情報科学部学生のためのC言語の基礎	島和之	大学教育出版
384	情報科学概論	28	情報科学部学生のためのコンピュータリテラシー	小畑博靖	大学教育出版
385	情報科学概論	28	理工系情報科学	荒木義彦:吉川雅弥	共立出版
386	情報処理工学	28	画像情報処理工学	塩入論:大町真一郎	朝倉書店
387	情報処理工学	28	通信システム工学	安達文幸	朝倉書店
388	情報処理工学	28	Cによる情報処理入門	阿曾弘具:阿曾弘具	共立出版
389	情報処理工学	28	コミュニケーション支援の情報科学	高橋亘	現代図書(発売:星雲社)
390	情報処理工学	28	これからIT業界で働く人のための情報処理技術の基本	矢沢久雄	日本実業出版社
391	情報処理工学	28	コンピュータシステムの基礎	エスシーシー	電子開発学園出版局(発売:エスシーシー)
392	情報処理工学	28	コンピュータリテラシ:情報処理入門	大曾根臣:遅美幸雄	共立出版
393	情報処理工学	28	コンピュータリテラシー:文系学生のための情報処理	市田陽児:立川聡子	愛智出版
394	情報処理工学	28	ソフトウェア工学	中所武司	朝倉書店
395	情報処理工学	28	ネットワークとシステム開発の基礎	エスシーシー	電子開発学園出版局(発売:エスシーシー)
396	情報処理工学	28	医用情報処理工学	菊地真:戸畑裕志	医歯薬出版
397	情報処理工学	28	医療系のための基礎情報科学	松木秀明:上野真由美	東京図書
398	情報処理工学	28	医療系のための情報科学入門	松木秀明:上野真由美	東京図書
399	情報処理工学	28	医療系の情報処理技法	及川浩和	ふくろう出版
400	情報処理工学	28	医療情報:情報処理技術編	日本医療情報学会	篠原出版新社
401	情報処理工学	28	応用代数学入門:情報科学へのアプローチ	橋貞雄:神蔵正	富山房インターナショナル
402	情報処理工学	28	画像情報処理. 1	鳥脇純一郎	コロナ社
403	情報処理工学	28	画像情報処理. 2	鳥脇純一郎	コロナ社
404	情報処理工学	28	画像情報処理の基礎	赤間世紀	技報堂出版
405	情報処理工学	28	看護・医療系のための情報科学入門	椎橋実智男:有田彰	サイオ出版
406	情報処理工学	28	神経工学:脳神経科学・工学・情報科学の融合	呉景龍:津本周作	オーム社
407	情報処理工学	28	大学生のための基礎情報処理	小関祐二	共立出版
408	情報処理工学	28	知と技を育てる情報科学の基礎と応用	小野敦彦:栗田るみ子	出版文化社(千代田区)
409	情報処理工学	28	地理情報科学:GISスタンダード	浅見泰司:矢野桂司	古今書院
410	情報処理工学	28	独習情報処理技術:入門編	矢沢久雄	翔泳社
411	情報処理工学	28	理工系学生のための情報科学概論	乙部厳己	ブレアデス出版
412	情報処理工学	28	C言語による画像再構成入門ートモシンセシスから3次元ラドン逆変換まで	篠原広行:梶原宏則	医療科学社
413	情報処理工学	28	医用システム・制御工学	嶋津秀昭:堀内邦雄	医歯薬出版
414	情報処理工学	28	情報基礎数学	佐藤泰介:高橋篤司	オーム社
415	情報処理工学	28	初めて学ぶ基礎制御工学	森政弘:小川毓一	東京電機大学出版局
416	情報処理工学	28	図解 コンピュータ概論[ハードウェア] 改訂3版	橋本洋志:松永俊雄	オーム社
417	情報処理工学	28	図解 コンピュータ概論[ソフトウェア・通信ネットワーク] 改訂3版	橋本洋志:富永和人	オーム社
418	情報処理工学	28	新版 医療情報 第2版 医学・医療編	日本医療情報学会	篠原出版新社
419	情報処理工学	28	新版 医療情報 第2版 医療情報システム編	日本医療情報学会	篠原出版新社
420	情報処理工学	28	情報工学の基礎	谷和男	共立出版
421	臨床検査総論	28	CKD診断の手引き:かかりつけ医のための尿検査のポイント	松尾清一	医薬ジャーナル社
422	臨床検査総論	28	CUMITECH 2C尿路感染症検査ガイドライン	イヴェット・S. マッカーター:アイリーン・M. バード	医歯薬出版
423	臨床検査総論	28	EBMのためのベストアプローチ臨床検査ガイド	奈良信雄	中外医学社
424	臨床検査総論	28	POCTが変える医療と臨床検査	日本臨床検査自動化学会:ペ谷直人	じほう
425	臨床検査総論	28	スキルアップのための臨床検査サブノート	中井利昭	南山堂
426	臨床検査総論	28	よくわかる臨床検査の看護:疾患別検査と前・中・後のケア	東京女子医科大学病院	中央法規出版
427	臨床検査総論	28	わかりやすい臨床検査	高木康	じほう
428	臨床検査総論	28	医学概論/臨床医学総論:臨床検査知識の整理	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
429	臨床検査総論	28	医学領域における臨床検査学入門	藤田保健衛生大学	KTC中央出版
430	臨床検査総論	28	医療関連職種のための臨床検査概論	渭原博	ヘルス・システム研究所
431	臨床検査総論	28	一般検査学実習書	市村輝義:辰喜亮介	医歯薬出版
432	臨床検査総論	28	一目でわかる臨床検査	松野一彦:新倉春男	メディカル・サイエンス・インターナショナル
433	臨床検査総論	28	看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック	奈良信雄	医歯薬出版
434	臨床検査総論	28	看護のための臨床検査	浅野嘉延	南山堂
435	臨床検査総論	28	検査のしくみと進め方:検体,生理機能,画像検査のすべて	大塚喜人:速水昭雄	総合医学社
436	臨床検査総論	28	検査診断学への展望:臨床検査指針:測定とデータ判読のポイント	野村努:正田孝明	南江堂
437	臨床検査総論	28	国立成育医療研究センター病院小児臨床検査マニュアル	国立成育医療研究センター病院:松井暁	診断と治療社
438	臨床検査総論	28	最新尿検査:その知識と病態の考え方	河合忠:伊藤喜久	メディカル・ジャーナル社
439	臨床検査総論	28	災害医療と臨床検査:診療現場での簡易型迅速検査を中心に	ペ谷直人:松尾聡二	宇宙堂八木書店(発売:克誠堂出版)
440	臨床検査総論	28	写真とイラストでよくわかる!注射・採血法:適切な進め方と,安全管理のポイント	菅野敬之	羊土社
441	臨床検査総論	28	注射・採血ができる:Web動画付	福家幸子:山岡麗	医学書院

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
442	臨床検査総論	28	注射・点滴・採血まるわかりブック:ご指名ナースが教える!	聖マリアンナ医科大学病院:陣田泰子	メディカ出版
443	臨床検査総論	28	尿・体液検査:基礎と臨床	ナンシー・A. プルンツェル:池本正生	西村書店(新潟)
444	臨床検査総論	28	目で見る臨床検査	芝紀代子:川良徳弘	メジカルビュー社
445	臨床検査総論	28	薬の影響を考える臨床検査値ハンドブック	木村聡:三浦雅一	じほう
446	臨床検査総論	28	臨床検査	前川芳明:増田喜一	メディカ出版
447	臨床検査総論	28	臨床検査医学総論	矢富裕:矢富裕	医学書院
448	臨床検査総論	28	臨床検査概論	山田正明(臨床検査):ヘルスシステム研究所	ヘルス・システム研究所
449	臨床検査総論	28	臨床検査学基礎実習	鈴木優治:信岡学	医歯薬出版
450	臨床検査総論	28	臨床検査技師イエロー・ノート:臨床編	芝紀代子	メジカルビュー社
451	臨床検査総論	28	臨床検査技師グリーン・ノート. 基礎編	芝紀代子	メジカルビュー社
452	臨床検査総論	28	臨床検査技師グリーン・ノート. 臨床編	芝紀代子	メジカルビュー社
453	臨床検査総論	28	臨床検査技師ブルー・ノート:基礎編	芝紀代子	メジカルビュー社
454	臨床検査総論	28	臨床検査技師ポケット・レビュウ帳. 下巻	芝紀代子	メジカルビュー社
455	臨床検査総論	28	臨床検査技師ポケット・レビュウ帳. 上巻	芝紀代子	メジカルビュー社
456	臨床検査総論	28	臨床検査技師先手必勝! 弱点克服完全ガイド	芝紀代子:下村弘治	メジカルビュー社
457	臨床検査総論	28	臨床検査総論	伊藤機一:松尾収二	医学書院
458	臨床検査総論	28	臨床検査総論	三村邦裕:鈴木敏恵	医歯薬出版
459	臨床検査総論	28	臨床検査総論:臨床検査知識の整理	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
460	臨床検査総論	28	臨床検査値の読み方考え方ケーススタディ:栄養アセスメントに役立つ	奈良信雄	医歯薬出版
461	臨床検査総論	28	若葉マーク臨床検査学エッセンス・ノート 1		メジカルビュー社
462	臨床検査総論	28	若葉マーク臨床検査学エッセンス・ノート 2		メジカルビュー社
463	臨床検査総論	28	若葉マーク臨床検査学エッセンス・ノート 3		メジカルビュー社
464	臨床検査総論	28	若葉マーク臨床検査学エッセンス・ノート 4		メジカルビュー社
465	臨床検査総論	28	異常値の出るメカニズム	河合忠:屋形稔	医学書院
466	臨床検査総論	28	そこが知りたい尿沈渣検査	横山貴:堀田茂	医歯薬出版
467	臨床検査総論	28	ポケットマニュアル尿沈渣	八木靖二:鈴木恵	医歯薬出版
468	臨床検査総論	28	問題形式による尿沈渣の鑑別	八木靖二:友田美穂子	医歯薬出版
469	臨床検査総論	28	髄液検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	丸善出版
470	臨床検査総論	28	臨床検査法提要	奥村伸生:戸塚実	金原出版
471	臨床検査総論	28	救急検査認定技師テキスト	日本救急検査技師認定機構:日本救急検査技師認定機構	へるす出版
472	臨床検査総論	28	ルート確保・血管穿刺「超」入門	新庄泰孝:明石奈津子	メディカ出版
473	臨床検査総論	28	検査技師による検査技師のための技術教本 一般検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	日本臨床衛生検査技師会
474	臨床検査総論	28	尿沈渣検査法2010	日本臨床衛生検査技師会	日本臨床衛生検査技師会
475	病理学	28	よくわかる生物電子顕微鏡技術:プロトコル・ノウハウ・原理	臼倉治郎	共立出版
476	病理学	28	コメディカル病理学	草間薫:斎藤一郎(歯学)	学建書院
477	病理学	28	スタンダード病理学	河原栄:滝澤登一郎	文光堂
478	病理学	28	スタンダード病理学病理検査すべて	大西俊造:梶原博毅	文光堂
479	病理学	28	わかりやすい病理学	恒吉正澄:豊島里志	南江堂
480	病理学	28	わかる病理学:イラストとエッセンス	小西登	恒心社出版
481	病理学	28	医療系学生のための病理学	中村仁志夫:佐藤達資	講談社
482	病理学	28	画像詳解 完全病理学. 総論	堤寛	医学教育出版社
483	病理学	28	完全病理学各論. Element版	堤寛	学際企画
484	病理学	28	完全病理学各論. 第1巻	堤寛	学際企画
485	病理学	28	完全病理学各論. 第2巻	堤寛	学際企画
486	病理学	28	完全病理学各論. 第3巻	堤寛	学際企画
487	病理学	28	完全病理学各論. 第4巻	堤寛	学際企画
488	病理学	28	完全病理学各論. 第5巻	堤寛	学際企画
489	病理学	28	完全病理学各論. 第6巻	堤寛	学際企画
490	病理学	28	完全病理学各論. 第7巻	堤寛	学際企画
491	病理学	28	完全病理学各論. 第8巻	堤寛	学際企画
492	病理学	28	完全病理学各論. 第9巻	堤寛	学際企画
493	病理学	28	完全病理学各論. 第10巻	堤寛	学際企画
494	病理学	28	完全病理学各論. 第11巻	堤寛	学際企画
495	病理学	28	完全病理学各論. 第12巻	堤寛	学際企画
496	病理学	28	基礎からわかる病理学	浅野重之	ナツメ社
497	病理学	28	基礎と臨床のための動物の心電図・心エコー・血圧・病理学検査	菅野茂:局博一	アドスリー(発売:丸善出版)
498	病理学	28	図解入門よくわかる病理学の基本としくみ	田村浩一	秀和システム
499	病理学	28	病態病理学	吉木敬:佐藤昇志	南山堂
500	病理学	28	病態病理学入門:人体の仕組みと病気の成り立ちを理解する	日本歯科大学:佐藤かおり	医学情報社
501	病理学	28	病理学	堤寛	サイオ出版
502	病理学	28	病理学・口腔病理学:疾病の成り立ち及び回復過程の促進1	仙波伊知郎:高田隆	医歯薬出版
503	病理学	28	病理学・病理検査学	仁木利郎:福岡敬宜	医学書院
504	病理学	28	病理学概論	関根一郎:全国柔道整復学校協会	医歯薬出版

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
505	病理学	28	病理学総論:医療系学生のための疾病学入門	伊藤慈秀	大学教育出版
506	病理学	28	臨床神経病理学:基礎と臨床	水谷俊雄	西村書店(新潟)
507	病理学	28	病理検査学実習書	吾妻美子・佐藤健次	医歯薬出版
508	病理学	28	臨床検査技師を目指す学生のための細胞診	金子千之・土屋真一	医療科学社
509	病理学	28	病理学/病理検査学	松原修	医歯薬出版
510	病理学	28	はじめの一步のイラスト病理学	深山正久	羊土社
511	病理学	28	細胞診を学ぶ人のために	坂本穆彦:坂本穆彦	医学書院
512	病理学	28	シンプル病理学	笹野公伸・岡田保典	南江堂
513	病理学	28	標準病理学	北川昌伸・仁木利郎	医学書院
514	病理学	28	液状化細胞診(Cell prep)婦人科子宮頸部細胞診アトラス	富田裕彦:竹中明美	学際企画
515	病理学	28	最新 染色法のすべて	「Medical Technology」別冊	医歯薬出版
516	病理学	28	顕微鏡検査ハンドブック:臨床に役立つ形態学	菅野治重:相原雅典	医学書院
517	応用数学	28	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学	和田勝	羊土社
518	応用数学	28	Essential細胞生物学	ブルース・アルバート・デニス・ブレイ	南江堂
519	応用数学	28	理系総合のための生命科学:分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ	東京大学	羊土社
520	応用数学	28	これでわかった! 微分積分演習	小寺平治	共立出版
521	応用数学	28	システム解析のためのフーリエ・ラプラス変換の基礎	楊剣鳴	コロナ社
522	応用数学	28	しっかり学ぶフーリエ解析	田沢義彦	東京電機大学出版局
523	応用数学	28	スッキリわかる確率統計:定理のくわしい証明つき	皆本晃弥	近代科学社
524	応用数学	28	スッキリわかる微分積分演習:誤答例・評価基準つき	皆本晃弥	近代科学社
525	応用数学	28	スッキリわかる微分方程式とベクトル解析	皆本晃弥	近代科学社
526	応用数学	28	技術者のための高等数学・1	アーウィン・クライツィグ:近藤次郎	培風館
527	応用数学	28	工科のための常微分方程式	足立俊明	数理工学社(発売:サイエンス社)
528	応用数学	28	工学シミュレーション入門:「微分方程式」「モンテカルロ法」から「熱解析」	今仁和武	工学社
529	応用数学	28	工学系の微分積分学:入門から応用まで	星賀彰:高野優	学術図書出版社
530	応用数学	28	工学系の微分方程式入門:書き込み式	田中聡久	コロナ社
531	応用数学	28	工学系学生のための常微分方程式	小寺忠:長谷川健二	森北出版
532	応用数学	28	弱点克服大学生のフーリエ解析	矢崎成俊	東京図書
533	応用数学	28	弱点克服大学生の複素関数/微分方程式	江川博康	東京図書
534	応用数学	28	初歩の微分方程式と力学	渡辺一実:上田整	養賢堂
535	応用数学	28	数列・関数列の無限級数:基礎からフーリエ級数・漸近級数まで	柴田正和	森北出版
536	応用数学	28	楕円関数と仲良くなろう:微分方程式の解の全体像を求めて	四ツ谷晶二:村井実	日本評論社
537	応用数学	28	大学新入生のための微分積分:基礎と実践	疋田瑞穂	現代数学社
538	応用数学	28	電気回路の基礎数学:連立方程式・複素数・微分方程式	川上博:島本隆	コロナ社
539	応用数学	28	理科系の基礎微分積分	高遠節夫:石村隆一	培風館
540	応用数学	28	理系のための「C#」プログラミング:「C#の機能」から「微分方程式」「高速フーリエ変換	三上直樹	工学社
541	応用数学	28	理工学のための微分積分	長沢社之:池口徹	培風館
542	応用数学	28	理工学のための微分方程式	長沢社之	培風館
543	応用数学	28	理工基礎常微分方程式論	大谷光春	サイエンス社
544	応用数学	28	理工系のための微分積分	池山保:平松豊一	裳華房
545	応用数学	28	理工系のための微分積分学入門	永安聖:平野克博	共立出版
546	応用数学	28	例と図で学べる微分積分	水本久夫	裳華房
547	応用数学	28	数学/統計学	井川俊彦:清田正夫	医歯薬出版
548	応用数学	28	いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ 1	浅井隆	アトムス
549	応用数学	28	いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ 2	浅井隆	アトムス
550	応用数学	28	いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ 3	浅井隆	アトムス
551	応用数学	28	数学いらずの医科統計学	ハーヴィ・モトススキー:津崎晃一	メディカル・サイエンス・インターナショナル
552	応用数学	28	やさしい医療系の統計学	佐藤敏雄:村松幸	医歯薬出版
553	応用数学	28	論文を正しく読み書くためのやさしい統計学	中村好一	診断と治療社
554	応用数学	28	StatMateによる事例で学ぶ医療統計	高橋泰生	アトムス
555	応用数学	28	なるほど統計学とおどろきExcel統計処理	山崎信也	医学図書出版
556	応用数学	28	SPSSで学ぶ医療系データ解析	対馬栄輝	東京図書
557	応用数学	28	SPSSで学ぶ医療系多変量データ解析	対馬栄輝	東京図書
558	応用数学	28	SPSSによる医学・歯学・薬学のための統計解析	石村貞夫:謝承泰	東京図書
559	応用数学	28	Stataによる医療系データ分析入門	浦島充佳	東京図書
560	応用数学	28	医療系データのとり方・まとめ方	対馬栄輝:石田水里	東京図書
561	応用数学	28	初心者でもすぐにできるフリー統計ソフトEZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析	神田善伸	南江堂
562	応用数学	28	EZRでやさしく学ぶ統計学:EBMの実践から臨床研究まで	神田善伸	中外医学社
563	応用数学	28	「医療統計力」を鍛える! :事例で学べる数式ほとんどなしのテキスト	千葉康敏	総合医学社
564	応用数学	28	学会・論文発表のための統計学	浜田知久馬	真興交易(株)医書出版部
565	応用数学	28	医学論文のための統計手法の選び方・使い方	阿部貴行:佐藤裕史	東京図書
566	応用数学	28	医学的介入の研究デザインと統計	ミッチェル・H. カッツ:木原雅子	メディカル・サイエンス・インターナショナル
567	応用数学	28	医学的研究のための多変量解析	ミッチェル・H. カッツ:木原雅子	メディカル・サイエンス・インターナショナル

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
568	電子工学	28	わかりやすい電子物性: はじめて学ぶ電子工学	上野智雄	コロナ社
569	電子工学	28	医用工学: 医療技術者のための電気・電子工学	若松秀俊: 本間達	共立出版
570	電子工学	28	医用電子工学	中島章夫: 福長一義	医歯薬出版
571	電子工学	28	初めて学ぶ基礎電子工学	小川純一	東京電機大学出版局
572	電子工学	28	臨床工学技士のための基礎電子工学	福岡秀核: 野城真理	コロナ社
573	電子工学	28	医用電子工学	松尾正之: 根本幾	コロナ社
574	電子工学	28	基礎電子工学	藤本晶	森北出版
575	電子工学	28	テスターの使い方がよくわかる本	大矢隆生	技術評論社
576	電子工学	28	作る, できるノ基礎入門 電子工作の素	後閑哲也	技術評論社
577	電子工学	28	オペアンプ回路の「しくみ」と「基本」	村野靖	技術評論社
578	電子工学	28	電源回路の「しくみ」と「基本」	渡部昭二	技術評論社
579	電子工学	28	改訂版 電子回路の「しくみ」と「基本」	小峯竜男: 見崎正行	技術評論社
580	電子工学	28	オシロスコープ入門講座	小澤智: 佐藤健治	電波新聞社
581	計測・機械工学	28	物理学入門から医用物理へ: 超音波、磁気共鳴、X線理解のために	本間康浩	フイツソリューション(発売: 星雲社)
582	計測・機械工学	28	演習エネルギー変換工学	柴田岩夫: 三沢茂	森北出版
583	計測・機械工学	28	演習と応用基礎制御工学	松瀬貞規	数理工学社(発売: サイエンス社)
584	計測・機械工学	28	システム計測工学: ポイントでわかる機械計測の基礎と実践	永井健一: 丸山真一	森北出版
585	計測・機械工学	28	デジタル信号処理	毛利哲也	共立出版
586	計測・機械工学	28	バイオメカニクス: 機械工学と生物・医学の融合	立石哲也	オーム社
587	計測・機械工学	28	バイオメカニクスの最前線	佐藤正明: 出口真次	共立出版
588	計測・機械工学	28	はじめての計測工学	南茂夫: 木村一郎	講談社
589	計測・機械工学	28	マイクロバブル最前線	松本洋一郎(流体工学): 高木周	共立出版
590	計測・機械工学	28	よくわかる機械工学4力学の演習: 熱力学・流体力学・材料力学・機械力学	西原一嘉: 井口学	電気書院
591	計測・機械工学	28	わかりやすい機械工学	松尾哲夫	森北出版
592	計測・機械工学	28	医用機械工学	嶋津秀昭: 馬淵清資	医歯薬出版
593	計測・機械工学	28	運動と振動の制御の最前線	吉田和夫(工学)	共立出版
594	計測・機械工学	28	絵ときでわかる計測工学	門田和雄	オーム社
595	計測・機械工学	28	絵とき機械工学のやさしい知識	小町弘: 吉田裕亮	オーム社
596	計測・機械工学	28	機械工学キーワード120	機械工学キーワード120編集委員会	コロナ社
597	計測・機械工学	28	機械工学のための数学. 1	東京工業大学	朝倉書店
598	計測・機械工学	28	機械工学のための数学. 2	東京工業大学	朝倉書店
599	計測・機械工学	28	機械工学概論	草間秀俊: 佐藤和郎	オーム社
600	計測・機械工学	28	機械工学必携	馬場秋次郎: 吉田嘉太郎	三省堂
601	計測・機械工学	28	機械工作入門	小林輝夫	オーム社
602	計測・機械工学	28	機械設計工学: 機能設計	井沢実	オーム社
603	計測・機械工学	28	機械設計工学の基礎: 原理の理解から論理の展開まで	塚田忠夫	数理工学社(発売: サイエンス社)
604	計測・機械工学	28	機械設計入門	大西清	オーム社
605	計測・機械工学	28	機械力学	吉沢正紹	朝倉書店
606	計測・機械工学	28	機械力学. 1		オーム社
607	計測・機械工学	28	機械力学演習	末岡淳男	森北出版
608	計測・機械工学	28	計測工学	鈴木亮輔: 神野郁夫	朝倉書店
609	計測・機械工学	28	計測工学	山口勝美: 森敏彦	共立出版
610	計測・機械工学	28	計測工学入門	中村邦雄: 石垣武夫	森北出版
611	計測・機械工学	28	工業熱力学の基礎	斎藤孟	サイエンス社
612	計測・機械工学	28	工作機械工学	伊東諒: 森脇俊道	コロナ社
613	計測・機械工学	28	初めて学ぶエンジン技術と機械工学	エンジン技術者教育研究会	コロナ社
614	計測・機械工学	28	図解はじめての機械工学	朝比奈重一	科学図書出版
615	計測・機械工学	28	図解ものの創りのためのやさしい機械工学	門田和雄	技術評論社
616	計測・機械工学	28	生体機械工学入門	橋本成広	コロナ社
617	計測・機械工学	28	伝熱科学	稲葉英男	朝倉書店
618	計測・機械工学	28	伝熱工学	梅村章	培風館
619	計測・機械工学	28	電子機械制御入門	鷹野英司: 安藤久夫	オーム社
620	計測・機械工学	28	熱力学	松村幸彦: 遠藤琢磨	朝倉書店
621	計測・機械工学	28	臨床工学技士のための機械工学	西村生哉	コロナ社
622	医動物学	28	ヒトと動物の寄生虫鑑別アトラス: オールカラー	佐伯英治: 升秀夫	インターズー
623	医動物学	28	医動物学	藤田純一郎: 平山謙二	医歯薬出版
624	医動物学	28	イメージできる臨床微生物・医動物: 図表読解・調べ学習	中野隆史	メディカ出版
625	医動物学	28	医動物学	吉田幸雄: 有蘭直樹	南山堂
626	医動物学	28	寄生虫学テキスト	上村清: 井関基弘	文光堂
627	医動物学	28	図説人体寄生虫学	吉田幸雄: 有蘭直樹	南山堂
628	医動物学	28	医動物学	平山謙二	医歯薬出版
629	医動物学	28	医動物学カラーアトラス	大西義博	三恵社(発売: JRC)
630	医動物学	28	危険・有毒生物	篠永哲: 野口玉雄	学研教育出版(発売: 学研プラス)

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
631	医動物学	28	寄生虫学研究:材料と方法. 2014年版	高宮信三郎	三恵社(発売:JRC)
632	医動物学	28	寄生虫病の話:身近な虫たちの脅威	小島莊明	中央公論新社
633	医動物学	28	最新マイコプラズマ学	日本マイコプラズマ学会	近代出版(東京)
634	医動物学	28	最新獣医公衆衛生:直面する課題の現状と対策	田村豊	チクサン出版社(発売:緑書房(中央区))
635	医動物学	28	実験動物としてのマウス・ラットの感染症対策と予防	日本実験動物学会:日本実験動物学会	アドスリー(発売:丸善出版)
636	医動物学	28	実験動物の感染症と微生物モニタリング	日本実験動物協会:日本実験動物協会	アドスリー(発売:丸善出版)
637	医動物学	28	実験動物学	江崎孝三郎:藤原公策	朝倉書店
638	臨床微生物学	28	遺伝子検査学実習書	岩谷良則	医歯薬出版
639	臨床微生物学	28	微生物学・臨床微生物学:臨床検査知識の整理	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
640	臨床微生物学	28	微生物検査学実習書	森田耕司	医歯薬出版
641	臨床微生物学	28	遺伝子検査学	宮地勇人:横田浩充	医学書院
642	臨床微生物学	28	メディカルサイエンス遺伝子検査学	有波忠雄:太田敏子	近代出版
643	臨床微生物学	28	感染対策に役立つ臨床微生物らくらく完全図解マニュアル	大塚喜人	メディカ出版
644	臨床微生物学	28	微生物学/臨床微生物学	岡田淳(臨床微生物学)	医歯薬出版
645	臨床微生物学	28	イラストレイテッド微生物学	リチャード・A. ハーヴェイ:シンシア・ナウ・コーネリッセン	丸善出版
646	臨床微生物学	28	ひと目でわかる微生物検査アトラス	木下承睦:荒川創一	金原出版
647	臨床微生物学	28	感染症疫学ハンドブック	吉田真紀子:堀成美	医学書院
648	臨床微生物学	28	消毒と滅菌のガイドライン	小林寛伊	へるす出版
649	臨床微生物学	28	ますます臨床利用が進む遺伝子検査:その現状と今後の展開そして課題	野村文夫	メディカルドゥ
650	臨床微生物学	28	グローバル感染症マニュアル	国立国際医療研究センター国際感染症センター	南江堂
651	臨床微生物学	28	アウトブレイクの危機管理:新型インフルエンザ・感染症・食中毒の事例から学ぶ	阿彦忠之:稲垣智一	医学書院
652	臨床微生物学	28	ウイルス感染症の検査・診断スタンダード	田代真人:牛島広治	羊土社
653	臨床微生物学	28	カラー写真と症例から学ぶ小児の感染症	フランク・E. バーコウィッツ:青柳有紀	メディカル・サイエンス・インターナショナル
654	臨床微生物学	28	これだけは知っておきたい食中毒・感染症の基礎知識	橋本秀夫	中央法規出版
655	臨床微生物学	28	こわい! ウイルス・感染症(全3巻)		汐文社
656	臨床微生物学	28	プリオン病と遅発性ウイルス感染症	厚生労働省	金原出版
657	臨床微生物学	28	もっとよくわかる! 感染症:病原因子と発症のメカニズム	阿部章夫	羊土社
658	臨床微生物学	28	わかりやすい微生物・感染症学	青木真:佐竹幸子	スーヴェルヒロカワ
659	臨床微生物学	28	一目でわかる微生物学と感染症	ステイーヴン・H. ギレスピー:キャスリーン・B. バンフォード	メディカル・サイエンス・インターナショナル
660	臨床微生物学	28	画像でみる呼吸器感染症	松島敏春:藤田次郎	国際医学出版
661	臨床微生物学	28	介護と看護のための感染症予防:安心できる医療や福祉のために	齋藤ゆみ:切替照雄	菜根出版(発売:紀伊国屋書店)
662	臨床微生物学	28	感染管理・感染症看護テキスト	大曲貴夫:操華子	照林社
663	臨床微生物学	28	感染症	レイチェル・L. チン:島田馨	南江堂
664	臨床微生物学	28	感染症・合併症ゼロをめざす創閉鎖:エビデンスと経験に基づく手術創・救急創傷の閉鎖・開	炭山嘉伸:有馬陽一	羊土社
665	臨床微生物学	28	感染症チーム医療のアプローチ:解決力・交渉力を磨く	大曲貴夫:具芳明	南江堂
666	臨床微生物学	28	感染症とたたかった科学者たち:情熱とひらめきが命を救った!	岡田晴恵	岩崎書店
667	臨床微生物学	28	感染症と生体防御	田城孝雄:北村聖	放送大学教育振興会(発売:NHK出版)
668	臨床微生物学	28	感染症学	谷田憲俊	診断と治療社
669	臨床微生物学	28	感染症看護マニュアル:感染予防のために必要な看護ケアの知識とその実践	国立国際医療センター:山西文子	文光堂
670	臨床微生物学	28	感染制御学	矢野邦夫:堀井俊伸	文光堂
671	臨床微生物学	28	感染予防のためのサーベイランスQ&A	坂本史衣	日本看護協会出版会
672	臨床微生物学	28	新・微生物学	別府輝彦	講談社
673	臨床微生物学	28	乳酸菌とビフィズス菌のサイエンス	日本乳酸菌学会	京大学学術出版会
674	臨床微生物学	28	症例から学ぶ輸入感染症AtoZ	忽那賢志	中外医学社
675	臨床微生物学	28	図解微生物学・感染症・化学療法	藤井暢弘:山本友子	南山堂
676	臨床微生物学	28	図説呼吸器系細菌感染症:疫学・診断・治療	佐々木次雄:荒川宜親	じほう
677	臨床微生物学	28	微生物学・臨床微生物学・医動物学	一山智:田中美智男	医学書院
678	臨床微生物学	28	標準感染症学	斎藤厚:那須勝	医学書院
679	臨床微生物学	28	免疫:感染症と炎症性疾患における免疫応答	アンソニー・L. デフランコ:リチャード・M. ロックスリー	メディカル・サイエンス・インターナショナル
680	臨床微生物学	28	臨床微生物・医動物	矢野久子:安田陽子	メディカ出版
681	臨床微生物学	28	ブラクティカル滅菌・消毒Q&A	尾家重治	メディカ出版
682	臨床微生物学	28	消毒・滅菌・感染防止のQ&A:ここが知りたい!	尾家重治	照林社
683	臨床微生物学	28	食品微生物学の基礎	藤井建夫:石田真巳	講談社
684	臨床微生物学	28	土の微生物学	服部勉:宮下清貴	養賢堂
685	臨床微生物学	28	微生物学:細菌・真菌・ウイルスと感染症	杉田隆	じほう
686	臨床微生物学	28	要約わかる口腔微生物学・免疫学	感染免疫教育研究会	学建書院
687	臨床微生物学	28	Q&Aで学ぶやさしい微生物学	浜本哲郎:浜本牧子	講談社
688	臨床微生物学	28	カラー臨床微生物学学術チャート&アトラス	トニー・ハート:ポール・シアーズ	西村書店(新潟)
689	臨床微生物学	28	スタンダード微生物学:保健微生物学・感染症学	土肥義胤:山本容正	文光堂
690	臨床微生物学	28	チームで取り組む消毒・滅菌:ドクター スタッフ	塚本高久	デンタルダイヤモンド社
691	臨床微生物学	28	医療器材の洗浄から滅菌まで	島崎豊:吉田葉子	ヴァンメディカル
692	臨床微生物学	28	医療現場の清浄と滅菌	ヤン・ハユス:鴻巣浩司	中山書店
693	臨床微生物学	28	医療現場の滅菌	小林寛伊:日本医療機器学会	へるす出版

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
694	臨床微生物学	28	応用微生物学	清水昌：堀之内末治	文永堂出版
695	臨床微生物学	28	感染の理解と消毒・滅菌の看護へのいかしかた	富野康日己	医歯薬出版
696	臨床微生物学	28	感染防止からみる微生物学	松本哲哉	学研メディカル秀潤社(発売：学研マーケティング)
697	臨床微生物学	28	看護微生物学	今西二郎	医歯薬出版
698	臨床微生物学	28	現代微生物学：基礎と応用	杉山政則	共立出版
699	臨床微生物学	28	現代微生物学入門	南嶋洋一：水口康雄	南山堂
700	臨床微生物学	28	新しい微生物学	大野尚仁：笹津備規	広川書店
701	臨床微生物学	28	図解微生物学入門	堀越弘毅：井上明	オーム社
702	臨床微生物学	28	日常診療における臨床微生物ハンドブック：検体採取から診断・治療まで	山口恵三	ユニオンエース
703	臨床微生物学	28	微生物学	西條政幸	サイオ出版
704	臨床微生物学	28	微生物学	小林秀光：白石淳	化学同人
705	臨床微生物学	28	微生物学：基礎から臨床へのアプローチ	アンソニー・ストレルコースカス：ジェニファー・ストレルコースカス	メディカル・サイエンス・インターナショナル
706	臨床微生物学	28	微生物学：疾病の成り立ち及び回復過程の促進2	木村重信	医歯薬出版
707	臨床微生物学	28	微生物学：病原微生物の基礎	今井康之：増澤俊幸	南江堂
708	臨床微生物学	28	微生物学・感染看護学：微生物から感染防止を考える	岡田忍：小池和子(看護学)	医歯薬出版
709	臨床微生物学	28	微生物学・生化学・免疫学・臨床検査	浦部晶夫	エルゼビア・ジャパン
710	臨床微生物学	28	標準微生物学	中込治：神谷茂	医学書院
711	臨床微生物学	28	病原微生物学	矢野郁也：内山竹彦	東京化学同人
712	臨床微生物学	28	病原微生物学：基礎と臨床	荒川宜親：神谷茂	東京化学同人
713	臨床微生物学	28	病棟で使える消毒・滅菌ブック：オールカラー	尾家重治	照林社
714	臨床微生物学	28	臨床医のための臨床微生物学	坂崎利一：那須勝	フジメディカル出版
715	臨床微生物学	28	臨床検査微生物学	近末久美子：下田健治	ふくろう出版
716	臨床微生物学	28	臨床微生物学ハンドブック：微生物から病態まで	ピーター・Q. フリナー：吉川博子	医薬ジャーナル社
717	臨床微生物学	28	臨床微生物検査ハンドブック	小栗豊子	三輪書店
718	臨床生化学	28	臨床化学検査学：病態生化学の視点から	太田敏子：川上康	近代出版(東京)
719	臨床生化学	28	臨床検査で遭遇する異常蛋白質：基礎から発見・解析法まで	藤田清貴	医歯薬出版
720	臨床生化学	28	臨床生化学	宮澤恵二	メディカ出版
721	臨床生化学	28	臨床化学：臨床検査知識の整理	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
722	臨床生化学	28	臨床化学検査学	浦山修	医歯薬出版
723	臨床生化学	28	臨床化学検査学実習書	大西英文：狩野元成	医歯薬出版
724	臨床生化学	28	カラー図解生化学ノート：書く！塗る！わかる！	森誠	講談社
725	臨床生化学	28	スタートアップ生化学：わかる“生命”のしくみ	椎名隆：佐藤雅彦	化学同人
726	臨床生化学	28	タンパク質・アミノ酸の必要量：WHO／FAO／UNU合同専門協議会報告	日本アミノ酸学会	医歯薬出版
727	臨床生化学	28	わかりやすい生化学：疾病と代謝・栄養の理解のために	篠原力雄：饒村護	スーヴェルヒロカワ
728	臨床生化学	28	いちばんやさしい生化学	坂本順司	講談社
729	臨床生化学	28	からだの生化学	田川邦夫	タカラバイオ(発売：丸善出版)
730	臨床生化学	28	カラー生化学	クリストファー・K. マッシュス：ケンサル・エドワード・ヴァン・ホルド	西村書店(新潟)
731	臨床生化学	28	ゲノムワイドに展開するエピジェネティクス医科学：DNAメチル化・タンパク質修飾の制御システムから疾	中尾光善	羊土社
732	臨床生化学	28	ここまでできるPCR最新活用マニュアル：トラブルシューティングから最先端の遺伝子解析法への	BJ3	佐々木博己
733	臨床生化学	28	ストライヤー基礎生化学	ジョン・L. ティモクスコ：ジェレミー・M. バーグ	東京化学同人
734	臨床生化学	28	ストライヤー生化学	ジェレミー・M. バーグ：ジョン・L. ティモクスコ	東京化学同人
735	臨床生化学	28	たんぱく質コントロールの栄養食事療法：腎臓疾患(腎炎、腎不全)・透析・肝臓疾患(慢性肝炎)	渡邊早苗(栄養学)	建帛社
736	臨床生化学	28	ナースのための生化学・栄養学	香川靖雄：野沢義則	南山堂
737	臨床生化学	28	はじめての生化学：生活のなぜ？を知るための基礎知識	平沢栄次	化学同人
738	臨床生化学	28	はじめての一步のイラスト生化学・分子生物学：生物学を学んでいない人でもわかる目で見える教科書	前野正夫：磯川桂太郎	羊土社
739	臨床生化学	28	ひとりでマスターする生化学	亀井碩哉	講談社
740	臨床生化学	28	レーニンジャーの新生化学：生化学と分子生物学の基本原理。下	アルバート・L. レーニンジャー：デービッド・L. ノルソン	広川書店
741	臨床生化学	28	レーニンジャーの新生化学：生化学と分子生物学の基本原理。上	アルバート・L. レーニンジャー：デービッド・L. ノルソン	広川書店
742	臨床生化学	28	遺伝子とタンパク質のバイオサイエンス	杉山政則：杉山政則	共立出版
743	臨床生化学	28	遺伝子工学：基礎から応用まで	野島博	東京化学同人
744	臨床生化学	28	医歯薬系学生のためのビジュアル生化学・分子生物学	大塚吉兵衛：安孫子宣光	日本医事新報社
745	臨床生化学	28	絵でわかる生化学	三原久和	講談社
746	臨床生化学	28	工学系のための生化学	左右田健次：今中忠行	化学同人
747	臨床生化学	28	新しい遺伝子工学	半田宏	朝倉書店
748	臨床生化学	28	新遺伝子工学ハンドブック	村松正実：山本雅	羊土社
749	臨床生化学	28	腎臓病透析患者さんのための献立集：たんぱく質50g	佐藤敏子：茂木さつき	女子栄養大学出版部
750	臨床生化学	28	図解基礎生化学：トコトわかる	池田和正	オーム社
751	臨床生化学	28	生化学：ヒトのからだの構成と働きを学ぶために	小野廣紀：千裕美	化学同人
752	臨床生化学	28	生化学：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	福田満	化学同人
753	臨床生化学	28	生化学演習	野尻久雄：唐澤健	京都廣川書店
754	臨床生化学	28	標準生化学	藤田道也	医学書院
755	臨床生化学	28	病態生化学解明：代謝メカニズムから疾患を科学する	藤森功	京都廣川書店
756	臨床生化学	28	臨床化学	前川真人：前川真人	医学書院

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
757	臨床生化学	28	これから始める臨床化学	志保裕行:若月香織	医歯薬出版
758	臨床生化学	28	臨床化学	片山善章:栢森裕三	講談社
759	臨床生化学	28	赤外・近赤外分光法の臨床医学への応用	矢野一行:若松英男	真興交易(株)医書出版部
760	放射線検査学	28	放射性同位元素検査技術学	藤井張生:牧石典之	医歯薬出版
761	放射線検査学	28	核医学の基本パワーテキスト	ラメシュ・チャンドラ:井上登美夫	メディカル・サイエンス・インターナショナル
762	放射線検査学	28	核医学テキスト	絹谷清剛	中外医学社
763	放射線検査学	28	あなたと患者のための放射線防護Q&A	草間朋子	医療科学社
764	放射線検査学	28	カラーアトラス目で見て学ぶ!多職種チームで実践する頭頸部がんの化学放射線療法	丹生健一:佐々木良平	日本看護協会出版会
765	放射線検査学	28	ナース・コメディカルのためのイラストと画像で学ぶ医療放射線:基礎から放射線管理まで	山本英男	篠原出版新社
766	放射線検査学	28	よくわかる癌放射線治療の基本と実際:放射線治療にかかわる看護スタッフと患者のために	兼平千裕:東京慈恵会医科大学	真興交易医書出版部
767	放射線検査学	28	医師・看護師・診療放射線技師のための呼吸器内視鏡実践マニュアル:国立がん研究センター中央病院	出雲雄大:荒井保明	医療科学社
768	放射線検査学	28	医師・診療放射線技師のための症例に学ぶ胃がんX線検査読影講座:読影基準とカテゴリー分類を中心に	細井董三:入口陽介	医療科学社
769	放射線検査学	28	新・医用放射線技術実験:基礎編	田中仁:山田勝彦	共立出版
770	放射線検査学	28	新・医用放射線技術実験:臨床編	田中仁:山田勝彦	共立出版
771	放射線検査学	28	標準放射線医学	西谷弘:遠藤啓吾	医学書院
772	放射線検査学	28	泌尿器科・病理・放射線科腎癌取扱い規約	日本泌尿器科学会:日本病理学会	金原出版
773	放射線検査学	28	泌尿器科・病理・放射線科腎盂・尿管・膀胱癌取扱い規約	日本泌尿器科学会:日本病理学会	金原出版
774	放射線検査学	28	標準MRIの評価と解析	宮地利明	オーム社
775	放射線検査学	28	放射線安全管理の実際	日本アイソトープ協会	日本アイソトープ協会(発売:丸善出版)
776	放射線検査学	28	放射線安全管理学	森川薫(医学):岩波茂	医歯薬出版
777	放射線検査学	28	放射線医学物理学	西台武弘	文光堂
778	放射線検査学	28	放射線医療用語辞典		コロナ社
779	放射線検査学	28	放射線画像技術学	小水満:新井正一	医歯薬出版
780	放射線検査学	28	核医学ノート	久保敦司:木下文雄	金原出版
781	放射線検査学	28	核医学検査技術学	大西英雄:松本政典	オーム社
782	放射線検査学	28	基礎から学ぶ緊急被曝ガイド:図説放射線学入門	岡崎龍史	医療科学社
783	放射線検査学	28	放射化学	東静香:久保直樹	オーム社
784	放射線検査学	28	これだけ!放射性物質	なつみどり	秀和システム
785	放射線検査学	28	核医学物理学	村山秀雄	国際文献社
786	放射線検査学	28	放射化学・放射線化学	前田米蔵:百島則幸	南山堂
787	放射線検査学	28	放射線計測学	納富昭弘	国際文献社
788	放射線検査学	28	みんなの放射線測定入門	小豆川勝見	岩波書店
789	放射線検査学	28	放射線治療学	井上俊彦:小川和彦	南山堂
790	放射線検査学	28	やさしい放射線とアイソトープ	日本アイソトープ協会	日本アイソトープ協会(発売:丸善出版)
791	放射線検査学	28	放射線検査説明の手引き:検査説明書・FAQ・ガイドライン	日本診療放射線技師会	医療科学社
792	放射線検査学	28	除染等業務Q&A:放射線障害防止のための手引	建設労働安全研究会:除染電離則Q&A部会	労働新聞社
793	放射線検査学	28	これだけは習得しよう核医学検査	福土政広	PILAR PRESS
794	放射線検査学	28	わかりやすい放射線測定	松原昌平:田中守	日本規格協会
795	放射線検査学	28	今知りたい放射線と放射能:人体への影響と環境でのふるまい	葉袋佳孝:谷田貝文夫	オーム社
796	放射線検査学	28	放射線医学総論	富山憲幸:中川恵一	金芳堂
797	放射線検査学	28	放射線利用	工藤久明	オーム社
798	放射線検査学	28	はじめての放射線物理学	エドワード・L. ニコロフ:新津守	メディカル・サイエンス・インターナショナル
799	放射線検査学	28	みんなのくらしと放射線	「みんなのくらしと放射線」知識普及実行委	大阪公立大学共同出版会
800	細胞生物学	28	再生医療のためのバイオエンジニアリング	赤池敏宏	コロナ社
801	細胞生物学	28	分子細胞免疫学	アブル・K. アップバース:アンドリュ・H. リヒトマン	エルゼビア・ジャパン
802	細胞生物学	28	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学	和田勝	羊土社
803	細胞生物学	28	Essential細胞生物学	ブルース・アルバーツ:デニス・ブレイ	南江堂
804	細胞生物学	28	理系総合のための生命科学:分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ	東京大学	羊土社
805	細胞生物学	28	組織細胞生物学	アブラハム・L. キールゼンバウム:ローラ・L. トレス	南江堂
806	細胞生物学	28	基礎コース細胞生物学	スティーヴン・R. ボルゾーバー:エリザベス・A. シェバード	東京化学同人
807	細胞生物学	28	新細胞生物学	竹鼻真:高橋悟	広川書店
808	細胞生物学	28	細胞生物学	沼田治:千葉智樹	化学同人
809	細胞生物学	28	イラストレイテッド細胞分子生物学	ナリニ・チャンドル:スーザン・ヴィセリ	丸善出版
810	細胞生物学	28	図解細胞生物学:これだけは知っておきたい	江島洋介	オーム社
811	細胞生物学	28	記憶の細胞生物学	小倉明彦:富永恵子	朝倉書店
812	細胞生物学	28	基礎細胞生物学	田村隆明	東京化学同人
813	細胞生物学	28	医学細胞生物学	スティーヴン・R. グッドマン:永田和宏	東京化学同人
814	細胞生物学	28	医学のための細胞生物学	永田和宏:塩田浩平	南山堂
815	細胞生物学	28	標準細胞生物学	近藤尚武:柴田洋三郎	医学書院
816	細胞生物学	28	細胞生物学実験法	野村港二	朝倉書店
817	細胞生物学	28	再生医療のための細胞生物学	関口清俊	コロナ社
818	生体機能代行装置学	28	ICTのための人工呼吸器関連肺炎のマネジメント	相馬一亥	医薬ジャーナル社
819	生体機能代行装置学	28	ICU/CCUの急性血液浄化療法の考え方、使い方	大野博司	中外医学社

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
820	生体機能代行装置学	28	イラストでわかる人工呼吸器合併症の予防&ケア:なぜ起こる?どう防ぐ?	妙中信之	メディカ出版
821	生体機能代行装置学	28	え!?!ここまでわかるの?人工呼吸器グラフィックス	ジョナサン・B. ウォー・ヴィジェイ・M. デシュバンデ	メディカル・サイエンス・インターナショナル
822	生体機能代行装置学	28	はじめての急性血液浄化療法管理	吉田彦造: 齋藤正樹	日経研出版
823	生体機能代行装置学	28	もう怖くない! 人工呼吸器マスターガイド: 器械モードケアインシデントの不安解消!	大塚将秀	メディカ出版
824	生体機能代行装置学	28	わかりやすい透析工学: 血液浄化療法の科学的基礎	酒井清孝: 峰島三千男	南江堂
825	生体機能代行装置学	28	換気モードとグラフィックモニタの見方・読み方トレーニング: 人工呼吸器がなくても学べる	坂中清彦: 佐美好昭	メディカ出版
826	生体機能代行装置学	28	急性血液浄化法徹底ガイド	篠崎正博: 秋沢忠男	総合医学社
827	生体機能代行装置学	28	究極のデトックス: 血液浄化	阿岸鉄三	金原出版
828	生体機能代行装置学	28	血液浄化装置メンテナンスガイドブック	阿岸鉄三: 日本医工学治療学会	学研メディカル秀潤社(発売: 学研マーケティング)
829	生体機能代行装置学	28	血液浄化療法: 基礎から応用まで	山下芳久: 峰島三千男	日本メディカルセンター
830	生体機能代行装置学	28	血液浄化療法スタッフマニュアル	佐中孜: 秋葉隆(透析療法)	医学書院
831	生体機能代行装置学	28	血液浄化療法に強くなる: やさしくわかる急性期の腎代替療法・APACHE IIの基礎	柴垣有吾: 櫻田勉	羊土社
832	生体機能代行装置学	28	血液浄化療法ハンドブック. 2015	透析療法合同専門委員会	協同医学書出版社
833	生体機能代行装置学	28	血液浄化療法ポケットハンドブック	岡田一義: 阿部雅紀	東京医学社
834	生体機能代行装置学	28	呼吸管理に活かす呼吸生理: 呼吸のメカニズムと、人工呼吸器のモード選択・設定	瀧健治	羊土社
835	生体機能代行装置学	28	最新人工心臓: 理論と実際	上田裕一	名古屋大学出版会
836	生体機能代行装置学	28	在宅人工呼吸器ポケットマニュアル: 暮らしと支援の実際	川口有美子: 小長谷百絵	医歯薬出版
837	生体機能代行装置学	28	使いこなし人工呼吸器: 初めての人が達人になれる	露木菜緒	南江堂
838	生体機能代行装置学	28	実践急性血液浄化法: ベッドサイドで役立つ	篠崎正博: 秋沢忠男	総合医学社
839	生体機能代行装置学	28	実践人工心臓	南淵明宏	医学書院
840	生体機能代行装置学	28	小児急性血液浄化療法マニュアル	服部元史: 金子岩和	医学図書出版
841	生体機能代行装置学	28	心臓麻酔ポケットマニュアル: 心血管作動薬、人工心臓の知識から心臓手術の麻酔・管理	野村実: 黒川智	羊土社
842	生体機能代行装置学	28	人工呼吸管理完全マニュアル: ひとめでわかる最新人工呼吸器のモード設定	柳下芳寛	日経研出版
843	生体機能代行装置学	28	人工呼吸器グラフィックモニターの基本: 教えて! 先輩波形の読み方からくまなくマスター	今中秀光	メディカ出版
844	生体機能代行装置学	28	人工呼吸器デビュー: はじめてでも使いこなせるすぐ動ける	露木菜緒: 道又元裕	学研メディカル秀潤社(発売: 学研プラス)
845	生体機能代行装置学	28	人工呼吸器と集中ケアQ&A: ベッドサイドからの質問286	岡元和文	総合医学社
846	生体機能代行装置学	28	人工呼吸器の管理とケア: 動画でわかる	道又元裕: 中田諭	中山書店
847	生体機能代行装置学	28	人工呼吸器の使い方: 主要48機種	豊岡秀訓	照林社
848	生体機能代行装置学	28	人工呼吸器ハンドブック. 2014	丸川征四郎: 福山学	医学図書出版
849	生体機能代行装置学	28	人工呼吸器関連肺炎のすべて: エビデンスに基づく予防・診断・治療	志馬伸朗	南江堂
850	生体機能代行装置学	28	人工呼吸器離脱のための標準テキスト	日本クリティカルケア看護学会	学研メディカル秀潤社(発売: 学研プラス)
851	生体機能代行装置学	28	人工心臓: その原理と実際	グレン・P. グレーヴリー: リチャード・F. デーヴィス	メディカル・サイエンス・インターナショナル
852	生体機能代行装置学	28	人工心臓トラブルシューティング	安達秀雄: 百瀬直樹	中外医学社
853	生体機能代行装置学	28	人工心臓ハンドブック	安達秀雄: 百瀬直樹	中外医学社
854	生体機能代行装置学	28	人工心臓安全マニュアル	古瀬彰	じほう
855	生体機能代行装置学	28	腎疾患と血液透析の診療: 原病の診断から血液浄化法の技術まで	副島昭典: 四倉正之	東京医学社
856	生体機能代行装置学	28	腎臓病学/血液浄化法: チャート式	副島昭典: 鈴木祥史	東京医学社
857	生体機能代行装置学	28	生体機能代行装置学血液浄化	海本浩一: 北村洋	東京電機大学出版局
858	生体機能代行装置学	28	生体機能代行装置学血液浄化療法装置	竹沢真吾: 出淵靖志	医歯薬出版
859	生体機能代行装置学	28	早わかり人工呼吸器換気モード超入門: たとえとイラストでかんたんマスター	磨田裕	メディカ出版
860	生体機能代行装置学	28	体外循環による新生児急性血液浄化療法マニュアル	茨聡	メディカ出版
861	生体機能代行装置学	28	日本急性血液浄化学会標準マニュアル	日本急性血液浄化学会	医学図書出版
862	生体機能代行装置学	28	麻酔科医に必要な人工心臓の知識: CPB workshop	黒沢博身: 野村実	真興交易医学出版部
863	生体機能代行装置学	28	臨床工学技士のための血液浄化療法フルスペック	金子岩和: 秋葉隆	メジカルビュー社
864	生体機能代行装置学	28	ICUエラーブック	リサ・マルクッチ: エリザベス・A. マーティネス	メディカル・サイエンス・インターナショナル
865	生体機能代行装置学	28	リトルICUブック	ポール・L. マリノ: 稲田英一	メディカル・サイエンス・インターナショナル
866	生体機能代行装置学	28	ICUハンドブック	三宅康史	中外医学社
867	生体機能代行装置学	28	ICU完全攻略	清水敬樹	中外医学社
868	生体機能代行装置学	28	イラストでまなぶ臨床基本手技	奈良信雄	中外医学社
869	生体機能代行装置学	28	生体機能代行装置学 体外循環装置	見目恭一: 福長一義	医歯薬出版
870	生体機能代行装置学	28	生体機能代行装置学 呼吸療法装置	廣瀬稔: 生駒俊和	医歯薬出版
871	生体機能代行装置学	28	CE技術シリーズ呼吸療法	渡辺敏(医学): 宮川哲夫	南江堂
872	生体機能代行装置学	28	臨床工学技士のための高気圧酸素治療入門	日本臨床高気圧酸素・潜水医学会: 日本臨床高気圧酸素・潜水医学会	へるす出版
873	生体機能代行装置学	28	事例で学ぶ人工呼吸器アラーム対応: もう、アラームにあわてない!	野口裕幸	学研メディカル秀潤社(発売: 学研マーケティング)
874	生体機能代行装置学	28	バスキューアークセスを極める: その作製とマネジメント	大平整爾	日本メディカルセンター
875	生体機能代行装置学	28	高齢血液透析患者の治療とケアのガイドブック	岡田一義: 内田明子	東京医学社
876	生体機能代行装置学	28	患者さんとともに理解するCKDと血液透析: Q&Aで理解する	門川俊明	南江堂
877	生体機能代行装置学	28	透析液清浄化に向けて	峰島三千男	医薬ジャーナル社
878	生体機能代行装置学	28	新人スタッフのための透析講座Q&A110: どんな「?」も10分でスッキリ解決!	大坪みはる	メディカ出版
879	生体機能代行装置学	28	経験に学ぶ透析医療の災害対策	山川智之	医薬ジャーナル社
880	生体機能代行装置学	28	透析の話をする・聞く前に読む本	菅野義彦	文光堂
881	生体機能代行装置学	28	患者吸入指導のコツと吸入デバイス操作法のビットホール	大林浩幸	医薬ジャーナル社
882	生体機能代行装置学	28	ICUスタッフのための人工呼吸ケア: 最重要症例がたっぷり読みとく!	讃井將満	メディカ出版

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
883	生体機能代行装置学	28	吸引・排痰ができる:web動画付	福家幸子:山岡麗	医学書院
884	生体機能代行装置学	28	酸素療法ガイドライン	日本呼吸器学会:日本呼吸管理学会	メディカルレビュー社
885	医用治療機器学	28	ME室ハンドブック:医療機器中央管理のすべて	日本臨床工学技士会	じほう
886	医用治療機器学	28	イラストで見る医療機器早わかりガイド:心電図モニター・ペースメーカー・人工呼吸器・輸液ポンプ	小野哲章:廣瀬稔	学研メディカル秀潤社(発売:学研マーケティング)
887	医用治療機器学	28	どう防ぐ?医療機器使用中のヒューマンエラー:人工呼吸器・血液浄化装置・人工心臓装置	渡辺敏(医学):阿岸鉄三	学研メディカル秀潤社(発売:学研マーケティング)
888	医用治療機器学	28	医療機器の基礎知識	医療機器センター	薬事日報社
889	医用治療機器学	28	実例から学ぶ医療事故防止への取り組み:医薬品・医療機器の現状と今後の展望	日本公定書協会	じほう
890	医用治療機器学	28	手術領域医療機器の操作・管理術	日本臨床工学技士会	メジカルビュー社
891	医用治療機器学	28	医用治療機器学	篠原一彦:日本臨床工学技士教育施設協議会	医歯薬出版
892	医用治療機器学	28	わかりやすい電気メスの本	桜木徹	金原出版
893	医用治療機器学	28	PCIにいかすIVUS読影テクニック	小林欣夫	医学書院
894	医用治療機器学	28	IVUSマニュアル	本江純子:斎藤頼	中山書店
895	医用治療機器学	28	IVUSテクニックマニュアル	小谷順一	南江堂
896	医用治療機器学	28	カテーテルスタッフのためのカテ室の機器使い方完全マニュアル	添田信之	メジカルビュー社
897	医用治療機器学	28	冷凍カテーテルアブレーション	沖重薫	医学書院
898	医用治療機器学	28	メディカルスタッフのためのカテーテルアブレーション必須知識	浅野拓	メジカルビュー社
899	医用治療機器学	28	今さら聞けない心臓カテーテル	濱寄裕司	メジカルビュー社
900	医用治療機器学	28	心臓カテーテルハンドブック	モートン・J. カーン:高橋利之	メディカル・サイエンス・インターナショナル
901	医用治療機器学	28	心臓カテーテル室スタッフマニュアル	平山篤志	中外医学社
902	医用治療機器学	28	スタンダード胃内視鏡検査	細井董三:東京都多摩がん検診センター	医学書院
903	医用治療機器学	28	胃内視鏡検診マニュアル	日本消化器がん検診学会	日本消化器がん検診学会
904	医用治療機器学	28	胃の拡大内視鏡診断	八木一芳:味岡洋一	医学書院
905	医用治療機器学	28	動画で学ぶ胃拡大内視鏡テクニック	八尾建史	日本メディカルセンター
906	医用治療機器学	28	消化管内視鏡のABC	出月康夫	日本医師会
907	医用治療機器学	28	すぐ役立つ救急のCT・MRI	井田正博:高木亮	学研メディカル秀潤社
908	画像解析学	28	コメディカルのための疾患・画像ファイル	鈴木正行	文光堂
909	画像解析学	28	経過でみる救急・ICU画像診断マニュアル	清水敬樹	羊土社
910	画像解析学	28	画像診断機器工学Q&A	西山篤:佐藤伸雄	医療科学社
911	画像解析学	28	新・心エコーの読み方、考え方	羽田勝征	中外医学社
912	画像解析学	28	医用画像検査技術学	東田善治:新聞英秀	南山堂
913	画像解析学	28	医用画像情報学	桂川茂彦	南山堂
914	画像解析学	28	医用放射線計測学:診療画像検査法	渡部洋一:中村実	医療科学社
915	画像解析学	28	核医学・PET・SPECT	小須田茂	金芳堂
916	画像解析学	28	核医学検査技術学	佐々木雅之:桑原康雄	南山堂
917	画像解析学	28	癌治療における放射線診療の展開:放射線治療・IVR・RI内用療法	西村恒彦:山崎秀哉	金芳堂
918	画像解析学	28	基礎から学ぶ、医療技術者のための放射線物理学	丸山浩一(1945-):喜多村章一	医療科学社
919	画像解析学	28	心・大血管・乳腺画像診断・IVR	中島康雄	金芳堂
920	画像解析学	28	画像診断装置学入門	木村雄治	コロナ社
921	画像解析学	28	MR画像解剖ハンドブック	土井司:笠井俊文	オーム社
922	画像解析学	28	一目瞭然!画像でみるMRI撮像法	バル・M. ランゲ:ウルフガング・R. ニッツ	メディカル・サイエンス・インターナショナル
923	画像解析学	28	心から納得・理解できるMRI原理とMRS	今西好正:森寿一	医療科学社
924	画像解析学	28	MRI完全解説	荒木力	学研メディカル秀潤社
925	画像解析学	28	MRIに絶対強くなる撮像法のキホンQ&A	扇和之:山田哲久	羊土社
926	画像解析学	28	心エコー図撮像必携	神野雅史	スंक
927	画像解析学	28	心エコー法テクニカルガイド	樫山幸彦:神野雅史	スंक
928	画像解析学	28	経食道心エコー図法	石塚尚子:芦原京美	ベクトル・コア
929	画像解析学	28	心臓超音波診断アトラス 小児・胎児編	里見元義	ベクトル・コア
930	画像解析学	28	心臓超音波診断アトラス 成人編	中村憲司	ベクトル・コア
931	画像解析学	28	心エコーハンドブック先天性心疾患	竹中克:戸出浩之	金芳堂
932	画像解析学	28	新・心エコー図読影のポイント	松村敬久:大川真理	金芳堂
933	画像解析学	28	経食道心エコーハンドブック	アネット・ヴェガス:マッシミアーノ・マイナリ	克誠堂出版
934	画像解析学	28	周術期経食道心エコー図	ロジャー・L. クリック:ジョイ・X. ケイ	真興交易(株)医書出版部
935	画像解析学	28	初心者から研修医のための経食道心エコー 2	国沢卓之:野村実	真興交易(株)医書出版部
936	画像解析学	28	手にとるようにわかる頸動脈エコーマニュアル	堤由紀子	ベクトル・コア
937	画像解析学	28	血管超音波テキスト	日本超音波検査学会	医歯薬出版
938	画像解析学	28	血管エコー	寺島茂:小谷敦志	ベクトル・コア
939	画像解析学	28	CTとMRI	森一生:山形仁	コロナ社
940	画像解析学	28	CT・MRI画像解剖ポケットアトラス 1	トルステン・B. メラー:エミール・ライフ	メディカル・サイエンス・インターナショナル
941	画像解析学	28	CT・MRI画像解剖ポケットアトラス 2	トルステン・B. メラー:エミール・ライフ	メディカル・サイエンス・インターナショナル
942	画像解析学	28	Q&Aでやさしく学ぶ心臓CT	平山篤志:佐藤裕一(医師)	メジカルビュー社
943	画像解析学	28	血管造影のABC	箕輪良行:七條祐治	中山書店
944	画像解析学	28	正常画像と並べてわかる胸部CT・MRI	櫛橋民生:藤澤英文	羊土社
945	画像解析学	28	Dr. オヤマの見る読むわかる胸部X線画像50 応用編	小山倫浩	診断と治療社

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
946	画像解析学	28	Dr. オヤマの見る読むわかる胸部X線画像50 基礎編	小山倫浩	診断と治療社
947	画像解析学	28	胸部X線写真の読影	櫛橋民生	中外医学社
948	画像解析学	28	目でわかる！脳のMRI正常解剖と機能	野崎園子・安藤久美子	学研メディカル秀潤社(発 売:学研マーケティング)
949	画像解析学	28	画像診断update	大友邦・興侶征典	日本医師会
950	画像解析学	28	実践エコー診断	跡見裕	日本医師会
951	画像解析学	28	救急画像診断アトラス 外傷編	船曳知弘・相川直樹	ベクトル・コア
952	画像解析学	28	救急画像診断アトラス 内因性疾患編vol. 1	船曳知弘・相川直樹	ベクトル・コア
953	画像解析学	28	救急画像診断アトラス 内因性疾患編vol. 2	船曳知弘・相川直樹	ベクトル・コア
954	画像解析学	28	医学生のための画像診断マニュアル	百島祐貴	メジカルビュー社
955	画像解析学	28	画像診断ガイドライン 2013年版	日本医学放射線学会・日本放射線科 専門医会・医会	金原出版
956	画像解析学	28	正常画像と並べてわかる救急画像	清田和也・清水敬樹	羊土社
957	画像解析学	28	研修医のための臨床検査・病理超マニュアル	小倉加奈子・三宅紀子	羊土社
958	画像解析学	28	レジデントのためのやさしい胸部画像教室	長尾大志	日本医事新報社
959	臨床医学総論	28	医学的研究のデザイン:研究の質を高める疫学的アプローチ	メディカル・サイエンス・インターナシ ョナ	ステイブ・ン・B. ハリー:ス ティープ・ン・R. カミングス
960	臨床医学総論	28	看護・医療系スタッフのための質問紙作成ワークブック	診断と治療社	土屋雅子
961	臨床医学総論	28	アメリカ臨床留学への道:You can do it!	南山堂	佐藤隆美・中川伸生
962	臨床医学総論	28	査読者が教える採用される医学論文の書き方	中山書店	森本剛
963	臨床医学総論	28	医療現場における調査研究倫理ハンドブック	医学書院	玉腰暎子・武藤香織
964	臨床医学総論	28	看護・医療系研究のためのアンケート・面接調査ガイド:初心者にも できる質問紙・インタビューガイドのつくり	診断と治療社	土屋雅子・齋藤友博
965	臨床医学総論	28	「医学英語論文」わかりません!!	東京図書	石野祐三子・秋田カオリ
966	臨床医学総論	28	医薬研究者のための統計記述の英文表現	金芳堂	奥田千恵子(医療統計学)
967	臨床医学総論	28	医学英語論文の書き方マニュアル	共和書院	シェリル・アイヴァーソン: 今西二郎
968	臨床医学総論	28	医学論文英訳のテクニック	金芳堂	横井川泰弘
969	臨床医学総論	28	コメディカルのための論文の書き方の基礎知識	メディカルレビュー社	日本病態栄養学会
970	臨床医学総論	28	TBLー医療人を育てるチーム基盤型学習:成果を上げるグループ 学習の活用法	バイオメディスインターナショナル(発 売:シナジー(千代田区))	ラリー・K. マイケルセン: ディーン・X. ハーマリ
971	臨床医学総論	28	心理学	鹿取広人:杉本敏夫(心理学)	東京大学出版会
972	臨床医学総論	28	医療と福祉のための心理学:対人援助とチームアプローチ	青木智子	北樹出版
973	臨床医学総論	28	心を支える心理学	若山隆良:治田哲之	八千代出版
974	臨床医学総論	28	心理学概論	星 薫・森津太子	放送大学教育振興会(発 売:NHK出版)
975	臨床医学総論	28	伝えるための心理統計:効果量・信頼区間・検定力	大久保衛雄:岡田謙介	勤草書房
976	臨床医学総論	28	行動科学への招待:現代心理学のアプローチ	米谷淳:米澤好史	福村出版
977	臨床医学総論	28	心理のための精神医学概論	沼初枝	ナカニシヤ出版
978	臨床医学総論	28	人口減少と日本経済:労働・年金・医療制度のゆくえ	津谷典子:樋口美雄	日本経済新聞出版社
979	臨床医学総論	28	疾病と検査:検体検査/生理機能検査/画像診断/内視鏡検査/ その	松田暉:荻原俊男	南江堂
980	臨床医学総論	28	標準臨床検査医学	高木康:山田俊幸	医学書院
981	臨床医学総論	28	臨床医学総論/臨床検査医学総論	奈良信雄:高木康	医歯薬出版
982	臨床医学総論	28	ウエスト呼吸生理学入門 疾患肺編	ジョン・B. ウェスト:堀江孝至	メディカル・サイエンス・イン ターナショナル
983	臨床医学総論	28	ウエスト呼吸生理学入門 正常肺編	ジョン・B. ウェスト:桑平一郎	メディカル・サイエンス・イン ターナショナル
984	臨床医学総論	28	かわる! わかる! おもしろい! コペルニクスな呼吸生理	北岡裕子:氏家良人	克誠堂出版
985	臨床医学総論	28	呼吸を科学する	西野卓	克誠堂出版
986	臨床医学総論	28	人工呼吸に活かす! 呼吸生理がわかる、好きになる	田中竜馬	羊土社
987	臨床医学総論	28	よくわかる摂食・嚥下のメカニズム	山田好秋	医歯薬出版
988	臨床医学総論	28	痛み学	ジェニー・ストロング:アニタ・M. ウン ルー	名古屋大学出版会
989	臨床医学総論	28	酸化ストレスの医学	内藤裕二:豊國伸哉	診断と治療社
990	臨床医学総論	28	目でわかる水電解質	飯野靖彦	メディカル・サイエンス・イン ターナショナル
991	臨床医学総論	28	カラー図解症状の基礎からわかる病態生理	シュテファン・シルビールナグル:フロ リアン・ラング	メディカル・サイエンス・イン ターナショナル
992	臨床医学総論	28	イラストでわかる病態生理	山内豊明:青山弘	総合医学社
993	臨床医学総論	28	慢性炎症と生活習慣病	小川佳宏:真鍋一郎	南山堂
994	臨床医学総論	28	絵でわかる遺伝子治療	野島博	講談社
995	臨床医学総論	28	病気を起こす遺伝子	フィリップ・R. レイリー:高野利也	東京化学同人
996	臨床医学総論	28	内科診断学	福井次矢:奈良信雄	医学書院
997	臨床医学総論	28	検査診断マトリックス	只野寿太郎:南雲文夫	医歯薬出版
998	臨床医学総論	28	検査値の読み方・考え方	西崎統:村田満	総合医学社
999	臨床医学総論	28	臨床検査基準値express	富野康己:寺内康夫	中外医学社
1000	臨床医学総論	28	臨床検査値判読ハンドブック	矢富裕:池田均	南江堂
1001	臨床医学総論	28	絶対使える! 臨床検査値	菅野淳:井上映子	南山堂
1002	臨床医学総論	28	臨床検査データブック 2015ー2016	黒川清:春日雅人	医学書院
1003	臨床医学総論	28	検査管理総論	大澤進:深津俊明	医歯薬出版
1004	臨床医学総論	28	最新臨床検査のABC	橋本信也:石井裕正	日本医師会
1005	臨床医学総論	28	バイタルサイン	徳田安春	医学書院
1006	臨床医学総論	28	Dr. 徳田のバイタルサイン講座	徳田安春	日本医事新報社
1007	臨床医学総論	28	新・病態生理でできた内科学2 呼吸器疾患(第3版)	できた編集委員会:村川裕二	医学教育出版社
1008	臨床医学総論	28	新・病態生理でできた内科学3 腎疾患(第2版)	村川裕二	医学教育出版社

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
1009	臨床医学総論	28	新・病態生理でできた内科学4 内分泌疾患(第3版)	村川裕二	医学教育出版社
1010	臨床医学総論	28	新・病態生理でできた内科学6 免疫・アレルギー・膠原病(第2版)	できた編集委員会:村川裕二	医学教育出版社
1011	臨床医学総論	28	新・病態生理でできた内科学7 神経疾患(第3版)	できた編集委員会:村川裕二	医学教育出版社
1012	臨床医学総論	28	新・病態生理でできた内科学9 消化器疾患(第2版)	村川裕二	医学教育出版社
1013	臨床医学総論	28	新・病態生理でできた内科学9 感染症(第2版)	できた編集委員会:村川裕二	医学教育出版社
1014	臨床医学総論	28	メディカルスタッフのための内科学第4版	伊東進:森博愛	医学出版社
1015	臨床医学総論	28	コメディカルのための外科学 総論	長田博昭	医学出版社
1016	臨床医学総論	28	泌尿器科学(講義録)	荒井陽一:小川修	メジカルビュー社
1017	臨床医学総論	28	疾病の成り立ち:臨床医学	田中明:加藤昌彦	建帛社
1018	臨床医学総論	28	日常診療のための検査値のみかた	野村文夫:村上正巳	中外医学社
1019	臨床医学総論	28	シンプル循環器学	岸川哲典:小野克重	南江堂
1020	臨床医学総論	28	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン. 2015	片山一朗	協和企画(港区)
1021	臨床医学総論	28	考える臨床検査:スクリーニング検査で異常値をみたら?	松尾収二:文光堂	文光堂
1022	臨床医学総論	28	臨床病態学	勝田逸郎:松本積之	南江堂
1023	臨床医学総論	28	診断に直結する検査値の読み方事典	池田均:中原一彦	総合医学社
1024	臨床医学総論	28	症例でわかる新しい臨床遺伝学	アンドリュー・P. リード:ダイアン・ドンナイ	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1025	臨床医学総論	28	病気がわかる検査値ガイド	斉藤嘉祐:岡本英子	金原出版
1026	臨床医学総論	28	ワンランク上の検査値の読み方・考え方	本田孝行	総合医学社
1027	臨床医学総論	28	中心静脈・動脈穿刺	中馬理一郎:鈴木利保	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1028	臨床医学総論	28	シチュエーションで学ぶ輸液レッスン	小松康宏:西崎祐史	メジカルビュー社
1029	臨床医学総論	28	一目でわかる輸液	飯野靖彦	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1030	臨床医学総論	28	症例で学ぶ新しい周術期の輸液管理	松永明	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1031	臨床医学総論	28	よくわかる輸液療法のすべて	北岡建樹	永井書店
1032	臨床医学総論	28	わかりやすい輸液管理Q&A	岡元和文	総合医学社
1033	臨床医学総論	28	電解質輸液塾	門川俊明	中外医学社
1034	臨床医学総論	28	輸液の基本	柴垣有吾	日本医事新報社
1035	臨床医学総論	28	第一線医師・研修医・コメディカルのための新・輸液ガイド	和田攻	文光堂
1036	臨床医学総論	28	COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン第4版	日本呼吸器学会	メディカルレビュー社
1037	臨床医学総論	28	腎移植の病診連携:これで腎移植が身近な医療になります	原田浩:後藤憲彦	医薬ジャーナル社
1038	臨床医学総論	28	新生児集中治療室NICU	クリスティーン・A. グリーソン:田中芳文	医歯薬出版
1039	臨床医学総論	28	心臓手術周術期管理:FOR PROFESSIONAL ANESTHES	稲田英一	克誠堂出版
1040	臨床医学総論	28	自己炎症症候群の臨床	井田弘明:西小森隆太	新興医学出版社
1041	臨床医学総論	28	チーム医療従事者のための臨床医学全科	渡辺決:勝見泰和	金芳堂
1042	臨床医学総論	28	やさしい臨床医学テキスト	星恵子:大野勲	薬事日報社
1043	臨床医学総論	28	研究倫理とは何か:臨床医学研究と生命倫理	田代志門	勤草書房
1044	臨床医学総論	28	臨床医学. 2	井上肇	建帛社
1045	臨床医学総論	28	臨床医学:疾病の成り立ち	田中明:宮坂京子	羊土社
1046	臨床医学総論	28	臨床医学ノート:疾病の成り立ち	田中明:宮坂京子	羊土社
1047	臨床医学総論	28	臨床医学の概論ノート	朝山純:中田徹男	京都廣川書店
1048	臨床医学総論	28	臨床医学の誕生	ミシェル・フーコー:神谷美恵子	みすず書房
1049	臨床医学総論	28	臨床医学概論	福井次矢:小林修平	建帛社
1050	臨床医学総論	28	臨床医学概論:生活習慣病を中心として	保崎清人:ヘルスシステム研究所	ヘルス・システム研究所
1051	臨床医学総論	28	臨床医学総論	篠原一彦:小谷透	医歯薬出版
1052	臨床医学総論	28	臨床倫理学:臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ	アルバート・R. ジョンセン:マーク・シューグラー	新興医学出版社
1053	臨床医学総論	28	麻酔・集中治療のための呼吸・循環のダイナミズム	外須美夫	真興交易(株) 医書出版部
1054	臨床医学総論	28	知りたいことがすぐわかる病態生理 疾患編	堀内行雄:秋月哲史	へるす出版
1055	臨床医学総論	28	疾病と病態生理	橋本隆男:佐藤隆司	南江堂
1056	臨床医学総論	28	臨床病態学	松浦雅人	医歯薬出版
1057	臨床医学総論	28	帰してはいけない外来患者	前野哲博:松村真司	医学書院
1058	臨床医学総論	28	痛みの診療ベストプラクティス	小川節郎:牛田享宏	メディカルレビュー社
1059	その他(辞書)	28	最新臨床検査項目辞典	伊藤機一:桜林郁之介	医歯薬出版
1060	その他(辞書)	28	医学ユーモア辞典	長谷川栄一	エルゼビア・ジャパン
1061	その他(辞書)	28	コ・メディカル版ステッドマン医学辞典	トマス・ラスロップ・ステッドマン:コ・メディカル版ステッドマン医学辞典編集委員会	メジカルビュー社
1062	その他(辞書)	28	ステッドマン医学大辞典	ステッドマン医学大辞典編集委員会	メジカルビュー社
1063	その他(辞書)	28	医学書院医学大辞典	伊藤正男:井村裕夫	医学書院
1064	その他(辞書)	28	最新医学大辞典	最新医学大辞典編集委員会	医歯薬出版
1065	その他(辞書)	28	ステッドマン医学略語辞典	高久史磨	メジカルビュー社
1066	その他(辞書)	28	看護・医学事典	『看護・医学事典』編集委員会:井部俊子	医学書院
1067	その他(辞書)	28	南山堂医学大辞典		南山堂
1068	その他(辞書)	28	いざという時の救急医療基本用語集	町井紀之:古口徳雄	五曜書房(発売:星雲社)
1069	その他(辞書)	28	医用放射線辞典	医用放射線辞典編集委員会	共立出版
1070	その他(辞書)	28	医学略語コンパクト	富野康日己	医歯薬出版
1071	その他(辞書)	28	薬剤師・看護師・医業系学生のための臨床医薬略語集	國府園:五味田裕	医歯薬出版

医療保健学部 図書整備計画(和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
1072	その他(辞書)	28	医学略語辞典	医学略語編集委員会	金芳堂
1073	その他(辞書)	28	ブラクティカル医学略語辞典	後藤幸生	南山堂
1074	その他(辞書)	28	分子生物学大百科事典. 2	トーマス・E. クレイトン; 太田次郎	朝倉書店
1075	その他(辞書)	28	分子細胞生物学辞典	村松正実	東京化学同人
1076	その他(辞書)	28	分子細胞生物学事典	村上康文	みみずく舎(発売: 医学評論社)
1077	その他(辞書)	28	臨床薬理学用語集	日本臨床薬理学会	ライフサイエンス出版
1078	その他(辞書)	28	医療スタッフのための現代カルテ用語	吉田彌太郎(医師)	医業ジャーナル社
1079	その他(辞書)	28	医療安全管理事典	長谷川敏彦	朝倉書店

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
1080	薬と生体反応	29	ICU/CCUの薬の考え方, 使い方	大野博司	中外医学社
1081	薬と生体反応	29	看護・医療系のためのくすりと治療の基礎知識	烏澤保康: 蜂谷正博	東京化学同人
1082	薬と生体反応	29	救急・ICUの体液管理に強くなる: 病態生理から理解する輸液、利尿薬、循環作動薬の考え	小林修三: 土井研人	羊土社
1083	薬と生体反応	29	くすりの事典, 2016年版	小林輝明	成美堂出版
1084	薬と生体反応	29	刺激鎮痛のすべて	下地恒毅	新興医学出版社
1085	薬と生体反応	29	痛みの薬物治療	山本達郎	文光堂
1086	薬と生体反応	29	基礎から学ぶ内分泌薬学	厚味蔵一	エルゼビア・ジャパン
1087	薬と生体反応	29	薬剤の母乳への移行	菅原和信: 豊口禎子	南山堂
1088	薬と生体反応	29	図解よくわかるTDM	木村利美	じほう
1089	薬と生体反応	29	コメディカルのための薬理学	渡邊泰秀: 樋口マキエ	朝倉書店
1090	薬と生体反応	29	ナースのための読み解く薬理学	柳澤克之: 山岸昌一	メディカルレビュー社
1091	薬と生体反応	29	はじめの一步のイラスト薬理学: 薬がどうして効くのか目で見てよくわかる教科書	石井邦雄	羊土社
1092	薬と生体反応	29	介護者のための病氣と薬がわかる本: 高齢者がかかりやすい疾患、よく使われる薬と副作用	いらはら診療所: 友愛メディカル	雲母書房
1093	薬と生体反応	29	図解薬害・副作用学	川西正祐: 小野秀樹	南山堂
1094	薬と生体反応	29	そうだったのか! 臨床に役立つ循環薬理学	古川哲史	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1095	薬と生体反応	29	症例で理解するベッドサイドの臨床薬理学	藤村昭夫	診断と治療社
1096	薬と生体反応	29	検査・薬理学	井上肇: 瀧本美也	建帛社
1097	薬と生体反応	29	新薬理学入門	柳沢輝行: 谷内一彦	南山堂
1098	薬と生体反応	29	図解薬理学	鍋島俊隆: 井上和秀	南山堂
1099	薬と生体反応	29	副作用症状のメカニズム虎の巻: 知っていればピンとくる!	日経ドラッグインフォメーション編集部: 大津史子	日経BP社(発売: 日経BPMマーケティング)
1100	薬と生体反応	29	麻酔科医がよく使う薬の副作用	津崎晃一	克誠堂出版
1101	薬と生体反応	29	患者の訴え・症状からわかる薬の副作用	大津史子: 浜六郎	じほう
1102	薬と生体反応	29	化学療法学	田中晴雄: 土屋友房	南江堂
1103	薬と生体反応	29	クリティカルケアにおける鎮静・鎮痛	布宮伸	克誠堂出版
1104	薬と生体反応	29	ここが知りたい利尿薬の選び方, 使い方	北風政史	中外医学社
1105	生体物性・材料工学	29	基礎からの熱力学	石田愈	オーム社
1106	生体物性・材料工学	29	電気電子材料工学	西川宏之	数理工学社(発売: サイエンス社)
1107	生体物性・材料工学	29	バイオセラミックス	田中順三: 生駒俊之	コロナ社
1108	生体物性・材料工学	29	生体システム工学の基礎	福岡豊: 内山孝憲	コロナ社
1109	生体物性・材料工学	29	ヴィジュアルでわかるバイオマテリアル	古蘭勉: 岡田正弘	学研メディカル秀潤社(発売: 学研マーケティング)
1110	生体物性・材料工学	29	ここまできた人工骨・関節: バイオマテリアルから再生医学へ	立石哲也	米田出版(発売: 産業図書)
1111	生体物性・材料工学	29	セラミックバイオマテリアル	岡崎正之: 山下仁大	コロナ社
1112	生体物性・材料工学	29	バイオマテリアル: 材料と生体の相互作用	田中順三: 角田方衛	内田老鶴園
1113	生体物性・材料工学	29	バイオマテリアルの基礎	石原一彦(マテリアル工学): 塙隆夫	日本医学館
1114	生体物性・材料工学	29	バイオマテリアル研究の最前線	成島尚之: 中野貴由	日本金属学会(発売: 丸善出版)
1115	生体物性・材料工学	29	ポリマーバイオマテリアル: 先端医療のための分子設計	石原一彦(マテリアル工学)	コロナ社
1116	生体物性・材料工学	29	医用材料工学	堀内孝: 村林俊	コロナ社
1117	生体物性・材料工学	29	金属バイオマテリアル	塙隆夫: 米山隆之	コロナ社
1118	生体物性・材料工学	29	再生医療のためのバイオマテリアル	田畑泰彦	コロナ社
1119	生体物性・材料工学	29	材料科学・材料工学: 基礎から応用まで	ジェームズ・ニューエル: 滝澤博胤	東京化学同人
1120	生体物性・材料工学	29	材料工学	野浪亨	技報堂出版
1121	生体物性・材料工学	29	材料工学のための移動現象論	谷口尚司: 八木順一郎	東北大学出版会
1122	生体物性・材料工学	29	次世代医療のための高分子材料工学	秋吉一成: 岸田晶夫	シーエムシー出版
1123	生体物性・材料工学	29	生体物性・医用材料工学	中島章夫: 氏平政伸	医歯薬出版
1124	生体物性・材料工学	29	先進複合材料工学	辺吾一: 石川隆司	培風館
1125	生体物性・材料工学	29	先端バイオマテリアルハンドブック	秋吉一成: 石原一彦(マテリアル工学)	エヌ・ティー・エス
1126	生体物性・材料工学	29	電気電子材料工学	岩本光正	オーム社
1127	生体物性・材料工学	29	動物実験代替のためのバイオマテリアル・デバイス	酒井康行: 民谷栄一	シーエムシー出版
1128	生体物性・材料工学	29	半導体材料工学: 材料とデバイスをつなぐ	大貫仁	内田老鶴園
1129	生体物性・材料工学	29	臨床工学技士のための生体物性	村林俊: 三田村好矩	コロナ社
1130	生体物性・材料工学	29	生体材料化学: 基礎と応用	浅沼浩之: 榎田啓	コロナ社
1131	生体物性・材料工学	29	人工臓器は、いま: 暮らしのなかにある最先端医療の姿	日本人工臓器学会	はる書房
1132	生体物性・材料工学	29	物質・材料工学と社会	秋鹿研一: 東千秋	放送大学教育振興会(発売: NHK出版)
1133	生体物性・材料工学	29	人体はすべて機械化できる?: 人工臓器医学講座入門	山家智之	東北大学出版会
1134	生体物性・材料工学	29	未来を動かすソフトアクチュエータ: 高分子・生体材料を中心とした研究報告	長田義仁: 田口隆久	シーエムシー出版
1135	生体物性・材料工学	29	生体材料	日本セラミックス協会	日刊工業新聞社
1136	生体物性・材料工学	29	次世代医療のための高分子材料工学	秋吉一成: 岸田晶夫	シーエムシー出版
1137	生体物性・材料工学	29	人工臓器イラストレイティッド	日本人工臓器学会	はる書房
1138	生体物性・材料工学	29	生体工学の軌跡: 生体材料研究先駆者像	立石哲也: 田中順三	米田出版(発売: 産業図書)
1139	生体物性・材料工学	29	よみがえる心臓: 人工臓器と再生医療	東嶋和子	オーム社
1140	生体物性・材料工学	29	生体機能材料学: 人工臓器・組織工学・再生医療の基礎	赤池敏宏	コロナ社
1141	臨床血液学	29	遺伝子・染色体検査学	池内達郎: 小原(斎藤)深美子	医歯薬出版
1142	臨床血液学	29	血液検査学	奈良信雄	医歯薬出版

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
1143	臨床血液学	29	実践人体血液検査	小郷正則・大倉貢	ふくろう出版
1144	臨床血液学	29	末梢血幹細胞採取と成分採血:医師と看護師によるアフエーシスの理解と実践	大戸斉・室井一男	医薬ジャーナル社
1145	臨床血液学	29	臨床血液学:臨床検査知識の整理	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
1146	臨床血液学	29	新しいリンパ学	加藤征治・須網博夫	金芳堂
1147	臨床血液学	29	血液検査学	矢富裕・通山薫	医学書院
1148	臨床血液学	29	スタンダード検査血液学	日本検査血液学会	医歯薬出版
1149	臨床血液学	29	血液検査学実習書	三村邦裕	医歯薬出版
1150	臨床血液学	29	血液学を語る	高久史磨	インターメディカ
1151	臨床血液学	29	アンダーソン血液学アトラス	シャウナ・C. アンダーソン・ヤング・ケイラ・B. ボールセン	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1152	臨床血液学	29	血液細胞アトラス	三輪史朗・渡辺陽之輔	文光堂
1153	臨床血液学	29	誰も教えてくれなかった血算の読み方・考え方	岡田定	医学書院
1154	臨床血液学	29	遺伝カウンセリングを倫理するケーススタディー	長崎遺伝倫理研究会	診断と治療社
1155	臨床血液学	29	チーム医療のための遺伝カウンセリング入門	野村文夫・羽田明	中外医学社
1156	臨床血液学	29	臨床遺伝に関わる人のためのマイクロアレイ染色体検査	山本俊至	診断と治療社
1157	臨床血液学	29	遺伝カウンセラーのための臨床遺伝学講義ノート	千代豪昭	オーム社
1158	臨床血液学	29	新・血栓止血血管学:血管と血小板	一瀬白帝・丸山征郎	金芳堂
1159	臨床血液学	29	ウィントロープ臨床血液学アトラス	ダグラス・C. カチャック・ジャン・V. ヒルシュマン	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1160	臨床血液学	29	ビジュアル臨床血液形態学	勝田逸郎・平野正美	南江堂
1161	臨床血液学	29	みるみるナットク血液疾患:病態生理がわかればケアがわかる	須永真司	文光堂
1162	臨床血液学	29	やさしい血液疾患	押味和夫	日本医事新報社
1163	臨床血液学	29	よくわかる血栓・止血異常の診療	富山佳昭	中山書店
1164	臨床血液学	29	リンパ腫・骨髄腫の最新療法	伊豆津宏二	中山書店
1165	臨床血液学	29	わかりやすい骨髄病理診断学:吸引クロット、生検組織の見方	定平吉都	西村書店(新潟)
1166	臨床血液学	29	血液疾患	谷脇雅史・横田昇平	日本医事新報社
1167	臨床血液学	29	血液疾患ハンドブック:日常診療の手引きと臨床データ集、下巻	吉田彌太郎(医師)	医薬ジャーナル社
1168	臨床血液学	29	血液疾患ハンドブック:日常診療の手引きと臨床データ集、上巻	吉田彌太郎(医師)	医薬ジャーナル社
1169	臨床血液学	29	血液疾患診療ハンドブック:診療の手引きと臨床データ集	吉田彌太郎(医師)	医薬ジャーナル社
1170	臨床血液学	29	骨髄異形成症候群(MDS)の基礎と臨床	朝長万左男	医薬ジャーナル社
1171	臨床血液学	29	私のこの一枚標本に学ぶ血液疾患症例	溝口秀昭・斎藤英彦	医薬ジャーナル社
1172	臨床血液学	29	新・病態生理でできた内科学、5	できた編集委員会・村川裕二	医学教育出版社
1173	臨床血液学	29	臨床に直結する血液疾患診療のエビデンス:ベッドサイドですぐに役立つアトラスブック	神田善伸	文光堂
1174	臨床血液学	29	臨床血液内科マニュアル	金倉謙	南江堂
1175	臨床血液学	29	血液内科クリニカルスタンダード:必携ベッドサイドで必ず役立つ臨床血液学のエッセンス	東原正明・須永真司	文光堂
1176	臨床免疫学	29	免疫検査学	窪田哲朗・加藤亮二	医歯薬出版
1177	臨床免疫学	29	免疫検査学実習書	加藤亮二・利光央	医歯薬出版
1178	臨床免疫学	29	輸血・移植検査学実習書	永尾暢夫	医歯薬出版
1179	臨床免疫学	29	臨床免疫学:臨床検査知識の整理	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
1180	臨床免疫学	29	基礎免疫学	アブル・K. アッパース・アンドリュ・H. リットマン	エルゼビア・ジャパン
1181	臨床免疫学	29	一目でわかる免疫学	J. H. L. ブレーフェア・B. M. チェン	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1182	臨床免疫学	29	標準免疫学	宮坂昌之・小安重夫	医学書院
1183	臨床免疫学	29	感染と生体防御	酒井徹・森口覚	建帛社
1184	臨床免疫学	29	免疫学	ゴードン・G. マクファーソン・ジョナサン・M. オースティン	東京化学同人
1185	臨床免疫学	29	免疫学の基礎	小山次郎・大沢利昭	東京化学同人
1186	臨床免疫学	29	シンプル免疫学	中島泉(免疫学)・高橋利忠	南江堂
1187	臨床免疫学	29	免疫検査学	折笠道昭・折笠道昭	医学書院
1188	臨床免疫学	29	日本のワクチン	倉根一郎・山崎修道	医薬ジャーナル社
1189	臨床免疫学	29	免疫系のしくみ:免疫学入門	ローレン・ソンスベイルック・桑田啓貴	東京化学同人
1190	臨床免疫学	29	腫瘍免疫学	折田薫三	癌と化学療法社
1191	臨床免疫学	29	図解臨床輸血ガイド	山本晃士・高松純樹	文光堂
1192	臨床免疫学	29	免疫測定法	生物化学的測定研究会	講談社
1193	臨床免疫学	29	臨床に役立つ免疫学	ゲルト・リュディガー・ブルメスター・アントニオ・ベッツート	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1194	臨床免疫学	29	免疫学はやっぱりおもしろい	小安重夫	羊土社
1195	臨床免疫学	29	肺炎球菌ワクチンの新しい展開	金沢実・大石和徳	医薬ジャーナル社
1196	臨床免疫学	29	新機能抗体開発ハンドブック	津本浩平・巖倉正寛	エヌ・ティー・エス
1197	臨床免疫学	29	甲状腺疾患と自己抗体検査	村上正巳	診断と治療社
1198	臨床免疫学	29	小児輸血マニュアル	小児輸血療法研究会	宇宙堂八木書店(発売:克誠堂出版)
1199	臨床免疫学	29	症例に学ぶEBM指向輸血検査・治療	大戸斉	医歯薬出版
1200	臨床免疫学	29	スタンダード輸血検査テキスト	認定輸血検査技師制度協議会	医歯薬出版
1201	臨床免疫学	29	セルプロセッシング工学:抗体医薬から再生医療まで	高木睦	コロナ社
1202	臨床免疫学	29	ナースのための輸血ケア:安心・安全	佐藤エキ子・加藤恵子(看護師)	中山書店
1203	臨床免疫学	29	よくわかる輸血学:必ず知っておきたい輸血の基礎知識と検査・治療のボイ	大久保光夫・前田平生	羊土社
1204	臨床免疫学	29	わかりやすい輸液と輸血:安全な輸血と臨床に即した輸液をマスターする	小山薫(医師)・藤原卓	メジカルビュー社
1205	臨床免疫学	29	看護師のための臨床輸血:学会認定・輸血看護師制度カリキュラム委員	学会認定・輸血看護師制度カリキュラム委員	中外医学社

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
1206	臨床免疫学	29	血液製剤の考え方、使い方	大久保光夫	中外医学社
1207	臨床免疫学	29	現在の輸血療法：適性輸血療法の実施に向けて	稲葉頌一	真興交易医書出版部
1208	臨床免疫学	29	抗体	アントワース・ド・アガタ：青山勝	赤々舎
1209	臨床免疫学	29	実践・輸血マニュアル：自己血輸血から輸血療法全般の理解を求めて	臨本信博	医薬ジャーナル社
1210	臨床免疫学	29	写真でわかる輸血の看護技術：輸血療法を安全に、適正に実施するために	村上美好	インターメディカ
1211	臨床免疫学	29	新人ナースのためのもっともまくなる注射・輸液・輸血テクニック	山勢博彰	メディカ出版
1212	臨床免疫学	29	変貌する腎移植：ABO血液型不適合臓器移植患者の輸血ガイドライン	高橋公太	日本医学館
1213	臨床免疫学	29	免疫染色 & in situハイブリダイゼーション最新プロトコール：抗体・プローブの作製から手法の選択、顕微鏡観察まで	野地澄晴	羊土社
1214	臨床免疫学	29	輸血・細胞治療マニュアル	大久保光夫	中外医学社
1215	臨床免疫学	29	輸血学テキスト	大坂顯通	中外医学社
1216	臨床免疫学	29	輸血療法トラブルシューティング	大坂顯通	中外医学社
1217	臨床免疫学	29	臨床免疫学	山田俊幸：大戸斉	講談社
1218	臨床免疫学	29	臨床免疫学	福岡良博：佐藤進一郎	医歯薬出版
1219	臨床免疫学	29	幹細胞研究と再生医療	中内啓光	南山堂
1220	生理機能計測学	29	目でみる臨床視覚電気生理学検査の進めかた	小口芳久	金原出版
1221	生理機能計測学	29	臨床神経生理学	柳沢信夫：柴崎浩	医学書院
1222	生理機能計測学	29	臨床電気神経生理学の基本：脳波と筋電図を日々の臨床に役立つものとするために	橋本修治	診断と治療社
1223	生理機能計測学	29	はじめての超音波検査：レジデント・臨床検査技師のための	森秀明：平井都始子	文光堂
1224	生理機能計測学	29	医師・臨床検査技師のための神経伝導検査必携ハンドブック：検査方法・評価のコツがよくわかる！	長谷川修	エクスナレッジ
1225	生理機能計測学	29	生理機能検査学	大久保善朗	医歯薬出版
1226	生理機能計測学	29	生理機能検査学実習書	今井正（臨床検査学）	医歯薬出版
1227	生理機能計測学	29	臨床検査技師のための呼吸機能検査ハンドブック	中村雅夫	真興交易医書出版部
1228	生理機能計測学	29	臨床生理学：臨床検査知識の整理	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版
1229	生理機能計測学	29	Dr. 大塚の血液ガスのなぜ？がわかる	大塚将秀	学研メディカル秀潤社
1230	生理機能計測学	29	血液ガス・酸塩基平衡に強くなる	白髪宏司	羊土社
1231	生理機能計測学	29	絵でみる超音波	長井裕	南江堂
1232	生理機能計測学	29	エコ蔵じいさんの楽しい超音波診断Handy Text 1	中村滋：朝井均	金芳堂
1233	生理機能計測学	29	エコ蔵じいさんの楽しい超音波診断Handy Text 2	中村滋：朝井均	金芳堂
1234	生理機能計測学	29	エコ蔵じいさんの楽しい超音波診断Handy Text 3	中村滋：朝井均	金芳堂
1235	生理機能計測学	29	エコ蔵じいさんの楽しい超音波診断Handy Text 4	中村滋：朝井均	金芳堂
1236	生理機能計測学	29	エコ蔵じいさんの楽しい超音波診断Handy Text 5	中村滋：朝井均	金芳堂
1237	生理機能計測学	29	生理検査学・画像検査学	谷口信行：谷口信行	医学書院
1238	生理機能計測学	29	SHDインターベンション治療のための心エコー図マニュアル	吉田清：大倉宏之	メジカルビュー社
1239	生理機能計測学	29	これから始める心エコー	芦原京美：大門雅夫	メジカルビュー社
1240	生理機能計測学	29	心エコー図	渡辺弘之：吉川純一	メジカルビュー社
1241	生理機能計測学	29	心臓超音波テキスト	増田喜一：遠田栄一	医歯薬出版
1242	生理機能計測学	29	心エコーハンドブック基礎と握り方	竹中克：戸出浩之	金芳堂
1243	生理機能計測学	29	心エコーのABC	五島雄一郎	日本医師会
1244	生理機能計測学	29	運動負荷試験Q & A 119	上嶋健治	南江堂
1245	生理機能計測学	29	もしも心電図が小学校の必修科目だったら	香坂俊	医学書院
1246	生理機能計測学	29	運動負荷心電図	川久保清	医学書院
1247	生理機能計測学	29	心電図・不整脈	杉山裕章：永井良三	医学書院
1248	生理機能計測学	29	心電図を学ぶ人のために	高階経和	医学書院
1249	生理機能計測学	29	成り立ちから理解する心電図波形	田中義文	学研メディカル秀潤社
1250	生理機能計測学	29	よくわかる臨床心臓電気生理	沖重薫	中外医学社
1251	生理機能計測学	29	心電図と不整脈の手引き	黒澤利郎：青山直善	南山堂
1252	生理機能計測学	29	図解心電図テキスト	デイル・デュービン：村川裕二	文光堂
1253	生理機能計測学	29	これから始める血管エコー	種村正：小谷敦志	メジカルビュー社
1254	生理機能計測学	29	不整脈概論	池田隆徳：山下武志	メジカルビュー社
1255	生理機能計測学	29	ココが知りたい！スパイロメトリーの基本と秘訣！	羽白高：柴田正慶	克誠堂出版
1256	生理機能計測学	29	実践！呼吸機能検査	中村雅夫	真興交易（株）医書出版部
1257	生理機能計測学	29	フローボリューム・カーブの理論と使い方	鈴木範孝：斉藤陽久	真興交易（株）医書出版部
1258	生理機能計測学	29	肺機能テキスト	毛利昌史：工藤翔二	文光堂
1259	生理機能計測学	29	腹部超音波テキスト	関根智紀：南里和秀	医歯薬出版
1260	生理機能計測学	29	腹部エコーのABC	竹原靖明：竹原靖明	日本医師会
1261	生理機能計測学	29	神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために	木村淳：幸原伸夫	医学書院
1262	生理機能計測学	29	神経伝導検査テキスト	栢森良二	医歯薬出版
1263	生理機能計測学	29	臨床神経生理検査の実際	松浦雅人	新興医学出版社
1264	生理機能計測学	29	よくわかる血液ガス	三宅修司	中外医学社
1265	生理機能計測学	29	血液ガスの臨床	諏訪邦夫	中外医学社
1266	生理機能計測学	29	楽しく学べる血液ガスと呼吸生理	滝澤始	文光堂
1267	生理機能計測学	29	血液ガステキスト	工藤翔二：村田朗	文光堂
1268	生理機能計測学	29	臨床心臓電気生理検査（第2版）	井上博（循環器内科学）：奥村謙	医学書院

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
1269	生理機能計測学	29	そうだったのか! 臨床に役立つ不整脈の基礎	中谷晴昭:古川哲史	メディカルサイエンスインターナショナル
1270	生理機能計測学	29	臨床呼吸機能検査第7版	日本呼吸器学会	メディカルレビュー社
1271	生理機能計測学	29	呼吸機能検査ガイドラインⅡ	日本呼吸器学会	メディカルレビュー社
1272	生理機能計測学	29	呼吸機能検査ガイドライン	日本呼吸器学会	メディカルレビュー社
1273	生理機能計測学	29	成人の睡眠時無呼吸症候群 診断と治療のためのガイドライン	睡眠呼吸障害研究会	メディカルレビュー社
1274	生理機能計測学	29	神経生理検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	じほう
1275	生理機能計測学	29	循環機能検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	じほう
1276	生理機能計測学	29	超音波検査技術教本	日本臨床衛生検査技師会	じほう
1277	生理機能計測学	29	血管エコーハンドブック	竹中克:戸出浩之	金芳堂
1278	生理機能計測学	29	心電図免許皆伝:心電図の読みかた・考えかた	小沢友紀雄	日本医事新報社
1279	生理機能計測学	29	睡眠の生理と臨床:健康を育む「ねむり」の科学	神山潤	診断と治療社
1280	生理機能計測学	29	アトラスてんかんの発作間欠期・発作時脳波を読む	高橋幸利	診断と治療社
1281	生理機能計測学	29	イラストレイテッド心電図を読む:鑑別に迷わないために	土居忠文:杉浦哲朗	南江堂
1282	生理機能計測学	29	スタンダード乳房超音波検査法	佐久間浩:尾羽根範員	篠原出版新社
1283	生理機能計測学	29	ステップアップ消化管超音波検査	岩崎信広:岡部純弘	医歯薬出版
1284	生理機能計測学	29	ゼットイわかる心電図・心エコー図の読み方:医学生必携	一色高明:杉村洋一	医学教育出版社
1285	生理機能計測学	29	そうだったのか! 絶対読める心電図:目でみてわかる緊急度と判読のポイント	池田隆徳	羊土社
1286	生理機能計測学	29	デジタル臨床脳波学	末永和榮:松浦雅人	医歯薬出版
1287	生理機能計測学	29	なぜこうなる?心電図:波形の成立メカニズムを考える	時政孝行:蓮尾博	九州大学出版会
1288	生理機能計測学	29	はじめての心電図	兼本成斌	医学書院
1289	生理機能計測学	29	はじめのはじめの心電図:心臓の生理から不整脈の判読まで! !	新谷富士雄	メディカ出版
1290	生理機能計測学	29	ハート先生の心電図カンファレンス	市田聡:心臓病看護教育研究会	医学同人社
1291	生理機能計測学	29	ハート先生の心電図セミナー中級編テキスト	市田聡	医学同人社
1292	生理機能計測学	29	ハート先生の心電図教室	市田聡:辻理香	医学同人社
1293	生理機能計測学	29	ハート先生の心電図教室:不整脈編	市田聡:心臓病看護教育研究会	医学同人社
1294	生理機能計測学	29	ビギナーからエキスパートまでのホルター心電図パーフェクト	井上博(循環器内科学):村川裕二	中山書店
1295	生理機能計測学	29	ポケット臨床脳波	福沢等	日本医事新報社
1296	生理機能計測学	29	ホルター心電図:基本的知識の整理と新しいみかた	齋藤憲:大塚邦明	医学出版社
1297	生理機能計測学	29	モニター心電図Q&A:読み方と緊急ケアのすべて	今村浩:岡元和文	総合医学社
1298	生理機能計測学	29	よくわかる心電図:十二誘導心電図から心臓病を解き明かす	山澤いづ宏	エルゼビア・ジャパン
1299	生理機能計測学	29	よくわかる超音波検査入門講座	佐久間浩:桑島章	永井書店
1300	生理機能計測学	29	よくわかる脳波判読	音成竜司:辻貞俊	金原出版
1301	生理機能計測学	29	わかりやすいホルター心電図	田辺晃久	医歯薬出版
1302	生理機能計測学	29	画像から読み解く血管エコー決め手の一枚:血管超音波検査の解剖・所見・原理・ピットフォール	佐藤洋	メディカ出版
1303	生理機能計測学	29	看護師・検査技師・研修医のためのペースメーカー心電図が好きになる!	山下武志:葉山恵津子	南江堂
1304	生理機能計測学	29	誤りやすい異常脳波	市川忠彦	医学書院
1305	生理機能計測学	29	今さら聞けないモニター心電図:オールカラー	三宅良彦	照林社
1306	生理機能計測学	29	今さら聞けない心電図	池田隆徳	メジカルビュー社
1307	生理機能計測学	29	最強のモニター心電図:12名の看護師による信じられないくらい簡単な心電図	ダイアン・M. アレン:ナンシー・ベッケン	ガイアブックス
1308	生理機能計測学	29	最新・腹部超音波検査の実践:診療画像検査法	金森勇雄	医療科学社
1309	生理機能計測学	29	実践小児脳波入門:日常診療に役立つ脳波アトラス	前垣義弘	永井書店
1310	生理機能計測学	29	手にとるようにわかる関節リウマチのための画像診断:単純X線写真・MRI・超音波検査・CT(関節・肺)	井上和彦:江口勝美(内科学)	ベクトル・コア
1311	生理機能計測学	29	手にとるようにわかる心電図入門	土居忠文:杉浦哲朗	ベクトル・コア
1312	生理機能計測学	29	循環器・救急医のための心電図の症例集:手にとるようにわかる	大柳光正	ベクトル・コア
1313	生理機能計測学	29	小児心電図・マスターガイド:速習12誘導心電図の基礎と臨床	長嶋正実	診断と治療社
1314	生理機能計測学	29	小児脳波:判読のためのアプローチ	小林勝弘:大塚源子	診断と治療社
1315	生理機能計測学	29	小児脳波・マスターガイド	佐々木征行	診断と治療社
1316	生理機能計測学	29	小児脳波検査テクニカルガイド	佐々木征行	ヌンク(発売:診断と治療社)
1317	生理機能計測学	29	心筋細胞の電気生理学:イオンチャネルから、心電図、不整脈へ	山下武志	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1318	生理機能計測学	29	心電図:臨床の現場で活きる基礎知識	東田俊彦	リプロ・サイエンス
1319	生理機能計測学	29	心電図のみかた、考えかた、応用編	杉山裕章	中外医学社
1320	生理機能計測学	29	心電図のみかた、考えかた、基礎編	杉山裕章	中外医学社
1321	生理機能計測学	29	心電図の学び方	前田如矢	金芳堂
1322	生理機能計測学	29	心電図の読み方、診かた、考え方:重要症例で学ぶ	池田隆徳	羊土社
1323	生理機能計測学	29	新超音波検査消化管	関根智紀	ベクトル・コア
1324	生理機能計測学	29	睡眠脳波アトラス:標準用語・手技・判定法	アラン・レクトシャツフェン:アンソニー・カールス	医歯薬出版
1325	生理機能計測学	29	全身がわかる超音波検査のチェックポイント:実践に役立つ検査のコツ	岩下浄明:岩下浄明	金原出版
1326	生理機能計測学	29	誰でも読める新生児脳波:新生児脳波の読みかた&考えかた	奥村彰久:新島新一	診断と治療社
1327	生理機能計測学	29	超音波検査テクニックマスター:解剖がわかれば走査がわかる。頭部・頸部・胸部・上肢編	濱口浩敏:西上和宏	メディカ出版
1328	生理機能計測学	29	超音波検査テクニックマスター:解剖がわかれば走査がわかる。腹部・下肢編	田中良一:小田代敬太	メディカ出版
1329	生理機能計測学	29	超音波検査テクニック超明解! :よくある症例をカンタンひとこと解説!	麻生版塚病院	メディカ出版
1330	生理機能計測学	29	超音波検査報告書の書き方:「おっ」と思わせる!。検診/泌尿器/産婦人科/体表腫	寺島茂:平山現生	ベクトル・コア
1331	生理機能計測学	29	超音波検査報告書の書き方:「おっ」と思わせる!。消化器/消化管	寺島茂:武山茂	ベクトル・コア

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
1332	生理機能計測学	29	超音波検査報告書の書き方:「おっ」と思わせる! 心臓/血管	寺島茂:中島哲	ベクトル・コア
1333	生理機能計測学	29	超音波検査法を用いた関節リウマチの新しい診療	小池隆夫	メディカルレビュー社
1334	生理機能計測学	29	土浦式ステップワイズ・アブレーション・ケーススタディ:Web動画でガイド!心電図解読・EKG診断・アブレーション	家坂義人	メディカ出版
1335	生理機能計測学	29	動画でわかる産科超音波検査の手法と基本手順:CD教材+書籍「画像判読お助けブック」	正岡博	日経研出版
1336	生理機能計測学	29	乳がん検診従事者のための乳房超音波検査トレーニング	東野英利子	金原出版
1337	生理機能計測学	29	乳房超音波検査レポート実例集:所見の書き方がまねできる	尾羽根範員:位藤俊一	南江堂
1338	生理機能計測学	29	脳波の旅への誘い:楽しく学べるわかりやすい脳波入門	市川忠彦	星和書店
1339	生理機能計測学	29	脳波判読step by step:症例編	大熊輝雄:松岡洋夫	医学書院
1340	生理機能計測学	29	脳波判読step by step:入門編	大熊輝雄:松岡洋夫	医学書院
1341	生理機能計測学	29	発作時脳波からみた小児てんかん	奥村彰久:根来民子	診断と治療社
1342	生理機能計測学	29	判読ER心電図:実際の症例で鍛える. 1(基本編)	アマル・マトゥー:ウィリアム・ブラディ	西村書店(新潟)
1343	生理機能計測学	29	判読ER心電図:実際の症例で鍛える. 2(応用編)	アマル・マトゥー:ウィリアム・ブラディ	西村書店(新潟)
1344	生理機能計測学	29	腹部超音波検査レポート実例集:所見の書き方がまねできる	土居忠文:久直史	南江堂
1345	生理機能計測学	29	薬物脳波学の進歩	フランス・クリザー:ワーナー・M. ヘルマン	星和書店
1346	生理機能計測学	29	臨床脳波検査スキルアップ	所司睦文	金原出版
1347	生理機能計測学	29	頭部超音波検査レポート実例集:所見の書き方がまねできる	土居忠文:谷内亮水	南江堂
1348	生理機能計測学	29	心電図トレーニング	小沢友紀雄	中外医学社
1349	生理機能計測学	29	やさしく読める脳・神経の基礎知識	浦崎永一郎	へるす出版
1350	生理機能計測学	29	解剖と正常像がわかる!エコーの撮り方完全マスター	種村正	医学書院
1351	生理機能計測学	29	頸動脈エコー法の臨床	山崎義光	新興医学出版社
1352	生理機能計測学	29	聴診でこまでわかる身体所見	羽田勝征	中山書店
1353	生理機能計測学	29	CDによる聴診トレーニング 呼吸音編	川城文夫:阿部直	南江堂
1354	生理機能計測学	29	CDによる聴診トレーニング 心音編	沢山俊民	南江堂
1355	生理機能計測学	29	筋電図判読テキスト	広瀬和彦	文光堂
1356	生理機能計測学	29	不整脈治療update. 第4巻	奥村謙:池田隆徳	医薬ジャーナル社
1357	生理機能計測学	29	カラーアトラス眼底図譜	湯沢美都子:川村昭之	日本医事新報社
1358	生理機能計測学	29	疾患と異常像がわかる!エコーの撮り方完全マスター:YOUR NEXT STEP	種村正	医学書院
1359	生理機能計測学	29	超音波胎児形態異常スクリーニング:産婦人科医・助産師・臨床検査技師のために	馬場一憲:市塚清健	文光堂
1360	生理機能計測学	29	心電図で見方が変わる急性冠症候群	小宮雅美:木村一雄	文光堂
1361	生理機能計測学	29	不整脈症候群:遺伝子変異から不整脈治療を捉える	池田隆徳:清水渉	南江堂
1362	生理機能計測学	29	臨床検査技師に必要な生理検査機器の常識	富田豊:正門由久	丸善
1363	生体計測装置学	29	センサーのしくみ	谷腰欣司	電波新聞社
1364	生体計測装置学	29	心臓電気生理検査:基本的な考え方	リチャード・N. フォゴロス:村松光	丸善プラネット(発売:丸善出版)
1365	生体計測装置学	29	診療画像機器学	岡部哲夫:小倉敏裕	医歯薬出版
1366	生体計測装置学	29	診療画像技術学-X線ー	金場敏憲:葉山和弘	オーム社
1367	生体計測装置学	29	医用画像処理入門	石田隆行:石田隆行	オーム社
1368	生体計測装置学	29	EPカンファレンス	宮崎利久	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1369	生体計測装置学	29	心臓突然死を予測するための不整脈ノンインベシブ検査	田辺晃久	医学書院
1370	生体計測装置学	29	MRの実践:基礎から読影まで	金森勇雄:藤野明俊	医療科学社
1371	生体計測装置学	29	X線CTの実践:診療画像検査法	山田實徳:齋藤公志郎	医療科学社
1372	生体計測装置学	29	X線造影検査の実践:診療画像検査法	金森勇雄:三宅良和	医療科学社
1373	生体計測装置学	29	画像解剖学:診療画像検査法	金森勇雄:藤野明俊	医療科学社
1374	生体計測装置学	29	核磁気共鳴分光法	日本分光学会	講談社
1375	生体計測装置学	29	磁気共鳴-NMR:核スピンの分光学	竹腰清乃理	サイエンス社
1376	生体計測装置学	29	磁気共鳴スペクトルの医学応用:MRSの基礎から臨床まで	成瀬昭二:梅田雅宏	インナービジョン
1377	生体計測装置学	29	磁気共鳴画像学	中田力:松澤等	日本医事新報社
1378	生体計測装置学	29	実践核医学検査:診療画像検査法	金森勇雄:福山誠介	医療科学社
1379	生体計測装置学	29	診療画像解剖学テキスト:イラストで読み解く,からだのしくみと病気のかたち	小谷正彦	文光堂
1380	生体計測装置学	29	生体計測学	金井寛	コロナ社
1381	生体計測装置学	29	生体計測装置学	石原謙(医学):日本臨床工学技士教育施設協議会	医歯薬出版
1382	生体計測装置学	29	放射線機器学. 1		コロナ社
1383	生体計測装置学	29	放射線治療科学概論:診療画像検査法	渡部洋一	医療科学社
1384	生体計測装置学	29	JIS T 1203:1998 脳波計		(財)日本規格協会
1385	生体計測装置学	29	JIS Z 8103:2000 計測用語		(財)日本規格協会
1386	分析技術学	29	見つける、量る、可視化する!質量分析実験ガイド	杉浦悠毅:末松誠	羊土社
1387	分析技術学	29	新遺伝子工学ハンドブック	村松正実:山本雅	羊土社
1388	分析技術学	29	遺伝子工学実験ノート. 上	田村隆明	羊土社
1389	分析技術学	29	遺伝子工学実験ノート. 下	田村隆明	羊土社
1390	分析技術学	29	タンパク質実験ノート. 上		羊土社
1391	分析技術学	29	タンパク質実験ノート. 下		羊土社
1392	分析技術学	29	染色・バイオイメージング実験ハンドブック:細胞や組織の形態・遺伝	高田邦昭:斎藤尚亮	羊土社
1393	分析技術学	29	バイオ画像解析手とり足とりガイド:バイオイメージングデータを定量し	小林徹也:青木一洋	羊土社
1394	分析技術学	29	プロテオミクス辞典	日本プロテオーム学会	講談社

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
1395	分析技術学	29	創薬・タンパク質研究のためのプロテオミクス解析: バイオマーカ-	小田吉哉: 長野光司	羊土社
1396	分析技術学	29	臨床プロテオミクス: バイオマーカ-探索から個別化医療へ	日本臨床プロテオーム研究会: 中村和行	金原出版
1397	分析技術学	29	医用質量分析ガイドブック: 日本医用マススペクトル学会推薦	丹羽利充: 野村文夫	診断と治療社
1398	分析技術学	29	タンパク質実験ハンドブック: 取り扱いの基礎から機能解析まで完全制	竹縄忠臣: 伊藤俊樹	羊土社
1399	分析技術学	29	別冊「医学のあゆみ」臨床プロテオミクス	近藤格	医歯薬出版
1400	分析技術学	29	イオンクロマトグラフィー	及川紀久雄: 川田邦明	共立出版
1401	分析技術学	29	ガスクロマトグラフィー	内山一美: 小森亨一	共立出版
1402	分析技術学	29	これならわかる液体クロマトグラフィー: その仕組みと使い方	松下至: 石井孝昭	化学同人
1403	分析技術学	29	LC/MS, LC/MS/MSのメンテナンスとトラブル解決	中村洋: 日本分析化学会	オーム社
1404	分析技術学	29	LC/MS, LC/MS/MSの基礎と応用	日本分析化学会: 中村洋	オーム社
1405	医用機器安全管理学	29	MEの基礎知識と安全管理	日本生体医工学会	南江堂
1406	医用機器安全管理学	29	医療従事者のための医用工学概論	軽部征夫	オーム社
1407	医用機器安全管理学	29	臨床工学(CE)とME機器・システムの安全	渡辺敏(医学)	コロナ社
1408	医用機器安全管理学	29	こんな時どうするME機器のトラブル対処法	坂本篤裕	真興交易(株)医書出版部
1409	医用機器安全管理学	29	医療ガス	日本医療ガス学会	真興交易(株)医書出版部
1410	医用機器安全管理学	29	医療機器	久保田博南	真興交易(株)医書出版部
1411	医用機器安全管理学	29	ME機器保守管理マニュアル	渡辺敏(医学): 小野哲章	南江堂
1412	医用機器安全管理学	29	ME機器安全使用・管理マニュアル虎の巻	竹田晋浩: 鈴木健一	克誠堂出版
1413	医用機器安全管理学	29	臨床工学技士ポケット・レビュー帳	福長一義	メジカルビュー社
1414	医用機器安全管理学	29	臨床工学技士標準テキスト	小野哲章: 峰島三千男	金原出版
1415	医用機器安全管理学	29	看護師のための「医療材料」の事故防止・安全管理のポイント	武藤正樹	ばる出版
1416	医用機器安全管理学	29	手術室の安全医学講座	横野諭	金芳堂
1417	医用機器安全管理学	29	医療におけるヒューマンエラー	河野龍太郎	医学書院
1418	医用機器安全管理学	29	医用機器安全管理学	篠原一彦: 出淵靖志	医歯薬出版
1419	医用機器安全管理学	29	医療機器の日常お手入れガイド清掃・消毒・滅菌	川崎忠行: 田口彰一	メジカルビュー社
1420	医用治療機器・安全管理学	29	心臓カテーテル検査の基本	宮崎俊一	中山書店
1421	医用治療機器・安全管理学	29	50の医療事故・判例の教訓: 日常診療の落とし穴	日経メディカル編集部	日経BP社(発売: 日経BPマーケティング)
1422	医用治療機器・安全管理学	29	FMEA手法と実践事例: 品質管理と信頼性, 保天性, 安全性解析, 医療事故防止	小野寺勝重	日科技連出版社
1423	医用治療機器・安全管理学	29	こうすればできる安全な看護: KYT事例で磨く医療事故防止のための「感性」と「思	東京医科大学病院	エス・エム・エス(発売: インプレス)
1424	医用治療機器・安全管理学	29	医療事故ケースファイル: 医師の視点で読み解く	福山正紀	南山堂
1425	医用治療機器・安全管理学	29	医療事故ゼロのための60の鉄則: 事例・判例から学ぶケーススタディ60	柴田義朗	医学通信社
1426	医用治療機器・安全管理学	29	医療事故の防止に向けて: 医薬品・医療用具からのアプローチ	日本公定書協会	エルゼビア・ジャパン
1427	医用治療機器・安全管理学	29	医療事故後の情報開示: 患者・家族との対話のために	ロバート・D. トウルオグ: デービッド・M. ブラウニング	シーニュ
1428	医用治療機器・安全管理学	29	医療事故初期対応	前田正一	医学書院
1429	医用治療機器・安全管理学	29	医療事故紛争の上手な対処法: 市民と弁護士のための医療事故ガイドブック	医療過誤問題研究会	民事法研究会
1430	医用治療機器・安全管理学	29	医療事故防止のための安全管理体制の確立に向けて「提言」: 事故を未然に防ぐ方策から事故後の対応策のガイドライ	国立大学医学部附属病院長会議: 国立大学医学部附属病院長会議	日総研出版
1431	医用治療機器・安全管理学	29	院内医療事故調査の指針: 事故発生時の適切な対応が時系列でわかる	飯田修平: 「医療事故発生後の院内調査の在り方と方法	メディカ出版
1432	医用治療機器・安全管理学	29	院内感染防止手順: すぐ実践できる	切替照雄: 川名明彦	メヂカルフレンド社
1433	医用治療機器・安全管理学	29	刷新してほしい患者移動の技術: 患者・看護師・医療者を身体損傷や医療事故から守るた	英国腰痛予防協会: 加藤光宝	日本看護協会出版会
1434	医用治療機器・安全管理学	29	心電図教えてノート: チームでモニター事故を予防する!	富田晴樹: 富永あや子	中外医学社
1435	医用治療機器・安全管理学	29	安全工学最前線: システム安全の考え方	門脇敏: 福田隆文	共立出版

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
1436	医療安全管理学	30	ICTポケット:感染管理ガイドbook	大久保憲	メディカ出版
1437	医療安全管理学	30	RCA根本原因分析法実践マニュアル:再発防止と医療安全教育への活用	石川雅彦	医学書院
1438	医療安全管理学	30	RRS院内救急対応システム:医療安全を変える新たなチーム医療	児玉貴光・藤谷茂樹	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1439	医療安全管理学	30	こんなときどうする!? 実践感染管理	浅利誠志・木下承皓	金原出版
1440	医療安全管理学	30	ナースのための危険予知トレーニングテキスト:医療安全教育・研修にすぐ使えるKYTシートつき	杉山良子	メディカ出版
1441	医療安全管理学	30	ねころんで読めるWHO患者安全カリキュラムガイド:医療安全学習にそのまま使える	相馬孝博:日本医療マネジメント学会	メディカ出版
1442	医療安全管理学	30	ひとりで学べる医療安全	矢野真・杉山良子	照林社
1443	医療安全管理学	30	ヒューマンエラー防止のためのSBAR/TeamSTEPPS:チームで共有! 医療安全のコミュニケーションツール	東京慈恵会医科大学附属病院	日本看護協会出版会
1444	医療安全管理学	30	よくわかる医療安全ガイドブック	バトリス・L. スバス:東京都病院協会	学研メディカル秀潤社(発売:学研マーケティング)
1445	医療安全管理学	30	リスクマネジメントのための医療安全実践ガイド:欲しい答えがここに	東京海上日動メディカルサービス株式会社	日本看護協会出版会
1446	医療安全管理学	30	医療を管理する安全を測る:医療安全管理者に必要な測定・調査の知識と「こつ」が	長谷川友紀・藤田茂	メディカ出版
1447	医療安全管理学	30	医療安全	松下由美子・杉山良子	メディカ出版
1448	医療安全管理学	30	医療安全:患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力	小林美亜	学研メディカル秀潤社(発売:学研プラス)
1449	医療安全管理学	30	医療安全:多職種でつくる患者安全をめざして	山内豊明・荒井有美	南江堂
1450	医療安全管理学	30	医療安全とリスクマネジメント	嶋森好子・任和子	ヌーヴェルヒロカワ
1451	医療安全管理学	30	医療安全と医療訴訟	安本和正	イムジック出版(発売:アトムス)
1452	医療安全管理学	30	医療安全に活かすKYT:危険予知トレーニング	兵藤好美・細川京子	メディカルフレンド社
1453	医療安全管理学	30	医療安全ワークブック	川村治子	医学書院
1454	医療安全管理学	30	医療安全学	森本剛・中島和江	篠原出版新社
1455	医療安全管理学	30	医療安全管理テキスト:医療安全管理者必携	飯田修平	日本規格協会
1456	医療安全管理学	30	感染管理のすめ方:ナースが担う実務のすべて	柴田清・沼口史衣	メディカルフレンド社
1457	医療安全管理学	30	感染管理の実践	内田美保	医歯薬出版
1458	医療安全管理学	30	看護管理と医療安全	大島弓子・飯島佐知子	放送大学教育振興会(発売:NHK出版)
1459	医療安全管理学	30	看護技術プラクティス:医療安全と感染管理をふまえた	竹尾恵子	学研メディカル秀潤社(発売:学研プラス)
1460	医療安全管理学	30	看護実践マネジメント:医療安全	佐藤エキ子	メディカルフレンド社
1461	医療安全管理学	30	事例de学ぶ医療関連感染のサーベイランス:EBMIに基づく感染管理のために	牧本清子	メディカ出版
1462	医療安全管理学	30	実践これからの医療安全学:看護学生と新人看護師のために	矢野真・谷真澄	PILAR PRESS
1463	医療安全管理学	30	周術期感染管理テキスト	日本外科感染症学会	診断と治療社
1464	医療安全管理学	30	診療放射線業務の医療安全テキスト:いざというとき困らないための必携ガイド	天内廣	文光堂
1465	医療安全管理学	30	東日本大震災に学ぶ災害時の感染管理:被災地ICNからの報告と提言	宮城ICNネットワーク	EDIXI出版部(発売:星雲社)
1466	医療安全管理学	30	必携医療安全に活かす医療人間工学	佐藤幸光・佐藤久美子(看護学)	医療科学社
1467	医療安全管理学	30	病院で働くみんなの医療安全	東京海上日動メディカルサービス株式会社	日本看護協会出版会
1468	医療安全管理学	30	必携バイオセーフティ指針	岡田淳(臨床微生物学)	医歯薬出版
1469	医療安全管理学	30	医療現場における職業感染予防と曝露後の対処	木村哲	医業ジャーナル社
1470	医療安全管理学	30	対応困難事例に出会う医療者のためのメンタルヘルスの知識と技術	姫井昭男	医学書院
1471	医療安全管理学	30	患者応対マナーBOOK	深堀幸次	医学通信社
1472	医療安全管理学	30	医療関係者のためのトラブル対応術	京極真	誠信書房
1473	医療安全管理学	30	JIS T 0601-1:2012 医用電気機器—第1部:基礎安全及び基本性能に関する一般要求事項		(財)日本規格協会
1474	医療安全管理学	30	JIS T 0601-1-1:2005 医用電気機器—第1部:安全に関する一般的要求事項—第1節:副通則—医用電気システムの安全要求事項		(財)日本規格協会
1475	医療安全管理学	30	JIS T 0601-1-2:2012 医用電気機器—第1部:安全に関する一般的要求事項—電磁両立性—要求事項及び試験		(財)日本規格協会
1476	医療安全管理学	30	JIS T 0601-2-24:2005 医用電気機器—第2部:24部:輸液ポンプ及び輸液コントローラの安全に関する個別要求事項		(財)日本規格協会
1477	医療安全管理学	30	JIS T 0601-2-25:2014 医用電気機器—第2部:25部:心電計の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項		(財)日本規格協会
1478	医療安全管理学	30	JIS T 0601-2-31:2005 医用電気機器—第2部:31部:内部電源形体外装心臓ペースメーカーの安全に関する個別要求事項		(財)日本規格協会
1479	医療安全管理学	30	JIS T 0601-2-37:2013 医用電気機器—第2部:37部:医用超音波診断装置及びエコーカメラの基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項		(財)日本規格協会
1480	医療安全管理学	30	JIS T 0601-2-40:2005 医用電気機器—第2部:40部:筋電計及び誘発反応機器の安全に関する個別要求事項		(財)日本規格協会
1481	医療安全管理学	30	JIS T 1022:2006 病院電気設備の安全基準		(財)日本規格協会
1482	医療安全管理学	30	JIS T 7101:2014 医療ガス配管設備		(財)日本規格協会
1483	医学英語	30	医師のための英会話フレーズ500 外来診療編	日本医学英語教育学会・植村研一	メジカルビュー社
1484	医学英語	30	医師のための英会話フレーズ500 学会発表編	日本医学英語教育学会・大井静雄	メジカルビュー社
1485	医学英語	30	そのまま使える医療英会話	仁木久恵・森島祐子	医学書院
1486	医学英語	30	そのまま使える診療現場のリアル英会話	佐地勉	メジカルビュー社
1487	医学英語	30	医療通訳学習テキスト	医療通訳教科書編集委員会・沢田貴志	創英社(三省堂書店)
1488	公衆衛生学	30	公衆衛生学	真野喜洋・片山博雄	医歯薬出版
1489	公衆衛生学	30	保健医療福祉概論	星和夫	医歯薬出版
1490	公衆衛生学	30	感染症予防必携	岡部信彦	日本公衆衛生協会
1491	公衆衛生学	30	公衆衛生学	栗原伸公・吉田勉(栄養学)	学文社
1492	公衆衛生学	30	公衆衛生学	中村信也・後藤政幸	同文書院
1493	公衆衛生学	30	食べ物と健康食品衛生学:カレント	川井英雄・丸井正樹	建帛社
1494	公衆衛生学	30	イラスト公衆衛生学	吉岡義正	東京教学社
1495	公衆衛生学	30	公衆衛生	松本秀明	金原出版
1496	公衆衛生学	30	最新公衆衛生学	上野仁・小嶋伸夫	広川書店
1497	公衆衛生学	30	疾病の成り立ちと予防 1	高橋昌巳・一幡良利	桜雲会
1498	公衆衛生学	30	図で見る公衆衛生学	河村葉子・菅谷敏一	BookWay

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
1499	公衆衛生学	30	衛生学:健康な環境づくりを支援する	近藤雄二:奥野久美子	化学同人
1500	公衆衛生学	30	医学生のための公衆衛生学:社会福祉・介護関連項目	片桐朝美	メイツ出版
1501	公衆衛生学	30	医療職のための公衆衛生・社会医学	長谷川友紀:長谷川敏彦	医学評論社
1502	公衆衛生学	30	衛生学・公衆衛生学	鈴木庄亮:小川正行	南江堂
1503	公衆衛生学	30	学生のための現代公衆衛生	中村泉(公衆衛生学):野中浩一	南山堂
1504	公衆衛生学	30	環境と健康:衛生・公衆衛生学	田中正敏(公衆衛生学):能川浩二	杏林書院
1505	公衆衛生学	30	現代公衆衛生学:健康福祉政策からのアプローチ	松田正己	クオリティケア
1506	公衆衛生学	30	公衆衛生	田城孝雄:横山和仁	放送大学教育振興会(発売:NHK出版)
1507	公衆衛生学	30	公衆衛生がみえる	医療情報科学研究所	メディックメディア
1508	公衆衛生学	30	公衆衛生におけるインフォームド・コンセント:細菌予防と水道水中のフッ化物	二宮一枝	慧文社
1509	公衆衛生学	30	公衆衛生学入門:社会・環境と健康	内藤通孝	昭和堂(京都)
1510	公衆衛生学	30	災害時の公衆衛生:私たちにできること	國井修	南山堂
1511	公衆衛生学	30	図でみる公衆衛生学	菅谷弘一:中室克彦	東京医学社
1512	関係法規	30	医療制度改革:ドイツ・フランス・イギリスの比較分析と日本への示唆	松本勝明:加藤智章	旬報社
1513	関係法規	30	医療保障法:医療制度改革の新たなフレームワーク	井原辰雄	明石書店
1514	関係法規	30	臨床工学関連法規集	日本臨床工学技士会	医薬ジャーナル社
1515	関係法規	30	結核の接触者健康診断の手引きとその解説:改正感染症法に基づく	石川信克:阿彦忠之	結核予防会
1516	関係法規	30	医療事故と医事法	甲斐克則	信山社出版
1517	関係法規	30	医療事故と司法判断	畔柳達雄	判例タイムズ社
1518	関係法規	30	医療事故の法律相談	医療問題弁護士:鈴木利広	学陽書房
1519	関係法規	30	医療事故訴訟における和解事例の研究	吉川孝三郎:真壁実	現代人文社(発売:大学図書)
1520	関係法規	30	裁判例から学ぶインフォームド・コンセント:患者と医療者をつなぐために	福岡博孝:増崎英明	民事法研究会
1521	関係法規	30	医療機器QMSガイド:新QMS省令対応のための実例解説	菊池克史:中村雅彦	じほう
1522	関係法規	30	ベイスン薬機法:薬事法から医薬品医療機器法へ	新薬事法研究会	ドーモ(発売:薬事日報社)
1523	関係法規	30	よくわかる医療・福祉関係法規の手引き	本井治	共和書院
1524	関係法規	30	医療関係法規	今西春彦	メディカ出版
1525	関係法規	30	医療関係法規ハンドブック	本井治	共和書院
1526	関係法規	30	関係法規	生駒俊和:出淵靖志	医歯薬出版
1527	関係法規	30	よくわかるQ&A改正薬事法のポイント:薬事法から医薬品医療機器法へ	薬事法規研究会(2001)	ぎょうせい
1528	関係法規	30	改正薬事法における医薬品販売制度:インターネット販売等の新しいルール	薬事医療法制研究会	じほう
1529	関係法規	30	詳説薬機法:薬事法から医薬品医療機器法へ	團野浩	ドーモ
1530	関係法規	30	薬事法における一変と軽微変更に関する課題	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財	じほう
1531	関係法規	30	薬事法規・制度・倫理マニュアル	中村健:白神誠	南山堂
1532	関係法規	30	薬事関連法規	三輪亮寿:秋本義雄	南江堂
1533	地域チーム医療論	30	NSTのための疾患診断・治療と臨床検査の基礎知識	田中明:加藤昌彦	建帛社
1534	地域チーム医療論	30	これからの医療コミュニケーションへ向けて	石崎雅人:野呂幾久子	鎌原出版新社
1535	地域チーム医療論	30	医療関係者のためのGoogle & クラウド活用ガイド	丸山康孝:村瀬澄夫	中山書店
1536	地域チーム医療論	30	フットケア	日本フットケア学会	医学書院
1537	地域チーム医療論	30	CRRトポケットマニュアル	野入英世:花房規男	医歯薬出版
1538	地域チーム医療論	30	マンガでわかる栄養学	蘭田勝:こやまけいこ	オーム社
1539	地域チーム医療論	30	はじめてのベッドサイド栄養管理	佐々木雅也	文光堂
1540	地域チーム医療論	30	図表でわかる栄養療法	東海林徹	じほう
1541	地域チーム医療論	30	臨床栄養学	中村丁次:小松竜史	南江堂
1542	地域チーム医療論	30	臨床栄養学 基礎編	本田佳子:土江節子	羊土社
1543	地域チーム医療論	30	臨床栄養学 疾患別編	本田佳子:土江節子	羊土社
1544	地域チーム医療論	30	臨床栄養医学	日本臨床栄養学会	南山堂
1545	地域チーム医療論	30	介護予防のための栄養指導・栄養支援ハンドブック	馬場園明:荒木登茂子	化学同人
1546	地域チーム医療論	30	臨床試験のABC	岩砂和雄:高久史磨	日本医師会
1547	地域チーム医療論	30	大規模災害時医療	長純一:永井康徳	中山書店
1548	地域チーム医療論	30	腎臓病教室:知りたいことがよくわかる	中尾俊之	医歯薬出版
1549	地域チーム医療論	30	インスリン物語	二宮陸雄	医歯薬出版
1550	地域チーム医療論	30	臓器移植とそのコーディネーション:基礎から応用まで	高原史郎:福嶋教偉	日本医学館
1551	地域チーム医療論	30	保健師・保険者のための透析予防行政ー医療連携ハンドブック	日本医療企画:平井愛山	日本医療企画
1552	地域チーム医療論	30	臨床検査技師のためのチーム医療教本	日本臨床衛生検査技師会	じほう
1553	地域チーム医療論	30	糖尿病の理学療法	大平雅美:石黒友康	メジカルビュー社
1554	地域チーム医療論	30	イラスト公衆栄養学	草間かおる	東京医学社
1555	地域チーム医療論	30	患者さんが安心できる検査説明ガイドブック	東京慈恵会医科大学附属病院	医学書院
1556	地域チーム医療論	30	事例・症例に学ぶ栄養管理	中村丁次:板倉弘重	南山堂
1557	地域チーム医療論	30	治療に活かす! 栄養療法はじめての一步	清水健一郎	羊土社
1558	地域チーム医療論	30	経腸栄養100の疑問	三松謙司:三松謙司	医歯薬出版
1559	地域チーム医療論	30	経腸栄養マニュアル	丸山道生:山東勤弥	文光堂
1560	地域チーム医療論	30	経腸栄養バイブル	丸山道生	日本医事新報社
1561	地域チーム医療論	30	認定NSTガイドブック 2014	日本病態栄養学会	メディカルレビュー社

医療保健学部 図書整備計画 (和書)

No	科目	年度	書名	著者名	出版社
1562	地域チーム医療論	30	臨床栄養実践ガイド	丹羽利充	中外医学社
1563	地域チーム医療論	30	NST活動のための栄養療法データブック	東口高志	中山書店
1564	地域チーム医療論	30	さあ、はじめよう！NST	磯崎泰介	中山書店
1565	地域チーム医療論	30	実践！ケースに学ぶ栄養管理・食事指導エキスパートガイド	稲垣暢也・長嶋一昭	南山堂
1566	地域チーム医療論	30	栄養管理のチーム医療	武田英二	文光堂
1567	地域チーム医療論	30	臨床病態栄養学	武田英二	文光堂
1568	地域チーム医療論	30	医師が知っておきたい外来で役立つ栄養・食事療法のポイント	加藤昌彦	文光堂
1569	地域チーム医療論	30	在宅栄養管理	小野沢滋	南山堂
1570	地域チーム医療論	30	糖尿病療養指導の手びき	日本糖尿病学会	南江堂
1571	地域チーム医療論	30	チーム医療で行う造血幹細胞移植プラクティカルガイド	神田善伸	南江堂
1572	地域チーム医療論	30	チーム医療に必要な人間栄養の取り組み：臨床栄養管理のすべて	中村丁次	第一出版(千代田区)
1573	地域チーム医療論	30	チーム医療のための血液がんの標準的化学療法	直江和樹・堀部敬三	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1574	地域チーム医療論	30	チーム医療のための分子標的治療薬	有吉寛・西尾和人	医薬ジャーナル社
1575	地域チーム医療論	30	チーム医療を成功させる10か条：現場に学ぶチームメンバーの心得	福原麻希	中山書店
1576	地域チーム医療論	30	チーム医療時代のナレッジマネジメント：動くチーム・動く組織への挑戦	陣田泰子	看護の科学社
1577	地域チーム医療論	30	チーム医療論	鷹野和美	医歯薬出版
1578	地域チーム医療論	30	医療心理学の新展開：チーム医療に活かす心理学の最前線	鈴木伸一	北大路書房
1579	地域チーム医療論	30	信念対立解明アプローチ入門：チーム医療・多職種連携の可能性をひらく	京極真	中央法規出版
1580	地域チーム医療論	30	インプラント治療と医療安全：チーム医療としての安全・安心マニュアル	九州インプラント研究会	医学情報社
1581	地域チーム医療論	30	MNA在宅栄養ケア	葛谷雅文・酒元誠治	医歯薬出版
1582	地域チーム医療論	30	新臨床栄養学栄養ケアマネジメント	本田佳子	医歯薬出版
1583	地域チーム医療論	30	治療が劇的にうまくいく！高齢者の栄養ははじめの一步	大村健二・葛谷雅文	羊土社
1584	その他	30	PowerPointのやさしい使い方から学会発表まで：アニメーションや動画も活かした効果的なプレゼンのコツ	谷口武利	羊土社
1585	その他	30	いよいよデビュー学会発表と論文作成	いわてイーハトーヴ臨床研修病院群	メジカルビュー社
1586	その他	30	コ・メディカルのための統計学入門：これさえあれば、論文作成・学会発表なんか怖くない！	山藤道明・並木昭義	PILAR PRESS
1587	その他	30	これから学会発表する若者のために：ポスターと口頭のプレゼン技術	酒井聡樹	共立出版
1588	その他	30	医学統計学シリーズ：学会発表、論文作成に向けて、8	丹後俊郎・タエコ・ベック	朝倉書店
1589	その他	30	看護師に役立つレポート・論文の書き方	高谷修	金芳堂
1590	その他	30	基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆	中村好一	医学書院
1591	その他	30	技術英語論文の書き方：これなら使える100例	英語論文作成研究会	共立出版
1592	その他	30	驚くほど相手に伝わる学会発表の技術：わかるデザイン60のテクニック	飯田英明	中山書店
1593	その他	30	苦手克服8事例看護研究：院内・学会発表成功への近道	土屋八千代	日総研出版
1594	その他	30	流れがわかる英語プレゼンテーションHow To：国際学会発表世界に伝わる情報発信術指南	佐藤雅昭	メディカルレビュー社
1595	その他	30	流れがわかる学会発表・論文作成How To：症例報告、何をどうやって準備する？	佐藤雅昭	メディカルレビュー社
1596	その他	30	流れがわかる学会発表・論文作成how to：症例報告、何をどうやって準備する？	佐藤雅昭・和田洋巳	メディカルレビュー社
1597	その他	30	看護学教育臨地実習指導者実践ガイド	矢野章永	医歯薬出版
1598	その他	30	看護学生のための臨地実習ナビ：行動計画・看護手順がよくわかる	本江朝美	照林社
1599	その他	30	看護学臨地実習ハンドブック：基本的考え方とすすめ方	宮地緑・星和美	金芳堂
1600	その他	30	教える人としての私を育てる：看護教員と臨地実習指導者	屋宜譜美子・目黒悟	医学書院
1601	その他	30	臨地実習handbook	眞木吉信・合場千佳子	クインテッセンス出版
1602	その他	30	臨地実習ガイドブック	前田佳予子・高岸和子	建帛社
1603	その他	30	在宅看護実習ガイド	山田雅子	照林社
1604	その他	30	成人看護実習ガイド：1(急性期・周手術期)	井上智子	照林社
1605	その他	30	成人看護実習ガイド：2(慢性期・回復期・終末期)	野並葉子	照林社
1606	その他	30	臨床実習hand book	眞木吉信・藤原愛子	クインテッセンス出版
1607	その他	30	臨床実習のための画像診断入門	渡部健二・和佐勝史	大阪大学出版会
1608	その他	30	臨床実習フィールドガイド	石川朗・内山靖	南江堂
1609	その他	30	対話に学ぶ医療面接プラクティス	千田彰一・岡田宏基	日経メディカル開発
1610	その他	30	流れがわかる研究トレーニングHow To	佐藤雅昭・草場鉄周	メディカルレビュー社
1611	その他	30	医療系研究論文の読み方・まとめ方	対馬米輝	東京図書
1612	その他	30	質的研究のビットフォール	萱間真美	医学書院
1613	その他	30	幹細胞の基礎からわかるヒトES細胞	アン・A・キースリング・スコット・C・アンダーソン	メディカル・サイエンス・インターナショナル

医療保健学部 図書整備計画(洋書)

No	科目	年度	書名	邦題	著者名	出版社
1	臨床検査	28	Physiology (Board Review)	BRS生理学(第6版)	Costanzo, Linda S., Ph.D.	Lippincott Williams & Wilkins
2	臨床検査	28	Pathology (Board Review Series)	BRS病理学(第5版)	Schneider, Arthur S., M.D./ Szanto, Philip A.,	Lippincott Williams & Wilkins
3	臨床工学	28	Analysis and Application of Analog Electronic Circuits to Biomedical Instrumentation	アナログ電子回路から医療機器までの分析と応用(第2版)	Northrop, Robert B.	CRC Pr I Llc
4	臨床検査	28	Anthony's Textbook of Anatomy & Physiology	アンソニー解剖生理学テキスト(第20版)	Patton, Kevin T., Ph.D./ Thibodeau, Gary A., Ph.D.	Mosby Inc
5	臨床検査	28	USMLE Medical Ethics : The Only USMLE Ethics High-Yield Review	カプランUSMLE医療倫理(第3版)	Fischer, Conrad/ Oneto, Caterina, M.D.	Kaplan Test Prep
6	臨床検査	28	Netter's Illustrated Human Pathology	ネッター図解病理学(改訂版)	Buja, Maximilian L., M.D./ Krueger, Gerhard R. F.,	W B Saunders Co
7	臨床検査	28	High-yield Gross Anatomy (Highyield)	ハイ・イールド解剖学(第5版)	Dudek, Ronald W.	Lippincott Williams & Wilkins
8	臨床検査	28	Health Careers Today	医療保健職ガイド(第5版)	Gerdin, Judith	Mosby Inc
9	臨床検査	28	Medical Biochemistry at a Glance (At a Glance)	一目でわかる医科生化学(第3版)	Salway, J. G.	Wiley-Blackwell
10	臨床検査	28	Anatomy at a Glance (At a Glance)	一目でわかる解剖学(第3版)	Faiz, Omar/ Blackburn, Simon/ Moffat, David	Wiley-Blackwell
11	臨床検査	28	Visualizing Human Biology : Technology Update (Visualizing Series)	図解ヒトの生物学(第4版)	Ireland, Kathleen A.	John Wiley & Sons Inc
12	臨床検査	28	Clinical Examination	臨床検査(第4版)	Epstein, Owen/ Perkin, G. David/ Cookson,	Mosby Inc
13	臨床検査	28	Mathematics for the Clinical Laboratory	臨床検査のための数学(第3版)	Doucette, Lorraine J.	W B Saunders Co
14	臨床検査	29	Cell and Molecular Biology (Lippincott's Illustrated Reviews Series)	Lippincott図解細胞・分子生物学	Chandar, Nalini, Ph.D./ Viselli, Susan	Lippincott Williams & Wilkins
15	臨床検査	29	Burton's Microbiology for the Health Sciences (Microbiology for the Health Sciences)	パートン保健科学のための微生物学(第10版)	Engelkirk, Paul G., Ph.D./ Duben-engelkirk, Janet	Lippincott Williams & Wilkins
16	臨床工学	29	Medical Device Epidemiology and Surveillance	医療機器疫学とその監視	Brown, S. Lori, Ph.D. (EDT)/ Bright, Rosalie A.	John Wiley & Sons Inc
17	臨床工学	29	Encyclopedia of Medical Devices and Instrumentation	医療用機器・装置百科事典(全6巻・第2版)	Webster, John G. (EDT)	Wiley
18	臨床検査	29	Accurate Results in the Clinical Laboratory : A Guide to Error Detection and Correction	臨床検査におけるエラー検出ガイド	Dasgupta, Amitava (EDT)/ Sepulveda, Jorge	Elsevier Science Ltd
19	臨床検査	30	Griffith's Instructions for Patients (Griffith's Instructions for Patients)	Griffith患者指導(第8版)	Moore, Stephen W., M.D.	W B Saunders Co
20	臨床検査	30	Pharmacology (Lippincott's Illustrated Reviews Pharmacology)	Lippincott図解薬理学(第6版)	Whalen, Karen/ Panavelil, Thomas A.,	Lippincott Williams & Wilkins
21	臨床検査	30	Microbiology for the Healthcare Professional	保健医療従事者のための微生物学	VanMeter, Karin C., Ph.D./ VanMeter, William	Mosby Inc
22	臨床検査	30	Immunohematology : Principles and Practice	免疫血液学:原理と実際(第3版)	Quinley, Eva D.	Lippincott Williams & Wilkins
23	臨床検査	30	Transfusion Medicine and Hemostasis : Clinical and Laboratory Aspects	輸血医学・止血:臨床と検査(第2版)	Shaz, Beth H., M.D. (EDT)/ Hillyer,	Elsevier Science Ltd
24	臨床検査	30	Clinical Chemistry : Theory, Analysis, Correlation	臨床化学:理論、分析と相関(第5版)	Kaplan, Lawrence A./ Pesce, Amadeo J./	Mosby Inc
25	臨床検査	30	Transfusion Medicine and Hemostasis : Clinical and Laboratory Aspects	輸血医学・止血:臨床と検査(第2版)	Shaz, Beth H., M.D. (EDT)/ Hillyer,	Elsevier Science Ltd
26	臨床検査	30	Clinical Hematology : Theory and Procedures	臨床血液学:理論と手順(第5版)	Turgeon, Mary Louise	Lippincott Williams & Wilkins
27	臨床検査	30	Immunology & Serology in Laboratory Medicine	臨床検査の免疫学・血清学(第5版)	Turgeon, Mary Louise	Mosby Inc
28	臨床検査	30	Essential Clinical Procedures	臨床手順エッセンシャル(第3版)	Dehn, Richard W./ Asprey, David P., Ph.d.	W B Saunders Co
29	臨床検査	30	Clinical Pharmacology and Therapeutics (Lecture Notes)	臨床薬理学治療レクチャーノート	Mckay, Gerard A. (EDT)/ Walters, Matthew	John Wiley & Sons Inc

医療保健学部 図書整備計画（視聴覚資料・データベース・外国学術雑誌・内国学術雑誌）

視聴覚資料

年度	タイトル	出版社
28年度	ME機器の知識と技術 KF-01 輸液ポンプ、シリンジポンプ	医学映像教育センター
28年度	ME機器の知識と技術 KF-02 除細動器	医学映像教育センター
28年度	ME機器の知識と技術 KF-03 低圧持続吸引器	医学映像教育センター
28年度	ME機器の知識と技術 KF-04 パルスオキシメーター、EtCO2モニター	医学映像教育センター
28年度	ME機器の知識と技術 KF-05 動脈圧モニタリング、スワンガンツカテーテル	医学映像教育センター
28年度	ME機器の知識と技術 KF-06 ペースメーカー	医学映像教育センター
28年度	ME機器の知識と技術 KF-07 血液浄化装置	医学映像教育センター
28年度	ME機器の知識と技術 KF-08 IABP	医学映像教育センター
28年度	ME機器の知識と技術 KF-09 PCPS	医学映像教育センター
28年度	画像医学の知識と技術 NZ-01 X線検査	医学映像教育センター
28年度	画像医学の知識と技術 NZ-02 CT検査	医学映像教育センター
28年度	画像医学の知識と技術 NZ-03 MRI検査	医学映像教育センター
28年度	画像医学の知識と技術 NZ-04 核医学検査	医学映像教育センター
28年度	画像医学の知識と技術 NZ-05 超音波検査	医学映像教育センター
28年度	アウトレットの取り扱いと点検、酸素ポンベの取り扱いと点検	公益財団法人医療機器センター

データベース

年度	タイトル	出版社
28年度	メディカルオンライン	株式会社メテオ
29年度	メディカルオンライン	株式会社メテオ
30年度	メディカルオンライン	株式会社メテオ

※継続して購入

外国学術雑誌

年度	タイトル	出版社
29年度	Journal of Clinical Investigation	The Journal of Clinical Investigation
30年度	Journal of Clinical Investigation	The Journal of Clinical Investigation

※継続して購入

内国学術雑誌

年度	タイトル
28年度	胃と透析
28年度	医療と検査機器・試薬
28年度	検査と技術
28年度	呼吸と循環
28年度	日経メディカル
28年度	病院
28年度	臨床検査
28年度	臨床透析
28年度	Clinical Engineering
28年度	Infection Control
28年度	Medical Technology

※継続して購入

北陸大学 医療保健学部 臨地・臨床実習実施要綱（案）

I. 臨地実習・臨床実習の意義

臨地実習・臨床実習は3年間で学んだ専門科目、専門基礎科目に関する学内講義、演習、実習で培った臨床検査学・臨床工学の知識と技術について実際の医療現場でどのように用いられ、また応用されているかを学ぶ教育課程である。同時に今日の医療情勢を把握し、安全・安心な医療とそのための社会から望まれる医療スタッフ像と協調の重要性について理解を深めさせ、医療人としての自覚を育成する実習指導を行う。

II. 臨地実習・臨床実習のねらいと基本方針

1. 臨地実習・臨床実習のねらい

(1) 臨地実習（臨床検査学領域）

臨地実習では、学内で学んだ臨床検査学の理解と基本的実習の上に、学内では学べなかった基本的・実践的技術を習得するとともに、検査材料の取り扱い方、検査機器の仕組みや取り扱い方、検査情報管理等の正しい結果を迅速に報告するという検査部門の役割や運営に関する基礎知識を学び、検査部門の医療における重要性を知る。多様に進歩する医療分野の真髄を医療現場で接しながら臨床検査学のさらなる習熟を図る。また、医療を必要とする患者とその家族、最良の医療を提供すべき医師やその他の医療スタッフがいる臨床現場に身をおき、ヒューマンコミュニケーションを意識して人間的な成長を目指す。さらに患者との対応の仕方・マナーを学習し、医療チームの一員としての責任感と自覚、倫理観を身につける。

(2) 臨床実習（臨床工学領域）

臨床実習では、学内で学んだ臨床工学の理解と基本的実習の上に、学内では学べなかった臨床工学として必要な基本的・実践的技術を習得するとともに、医用治療機器の仕組みや取扱い方、保守点検などの医療機器管理業務など臨床工学部門の役割や運営に関する実践知識を学び、臨床工学部門の医療における重要性や医療スタッフとしての協調性の重要性を知る。また、臨床工学技士が対象とする患者の年齢層や基礎疾患も多様であることから、単に医療機器に関する知識だけではなく、医療現場での患者に応じた対応について検分する。さらに、患者との対応の仕方・マナーを学習し、医療チームの一員としての責任感と自覚、倫理観を身につける。

2. 臨地実習・臨床実習の基本方針

(1) 臨地実習（臨床検査学領域）

社会人としての良識を身につけるとともに、医療人としての倫理観を身につけ、臨床検査の現場から臨床検査技師として不可欠な臨床検査の基本的な実践技術を習得する。また、臨床検査情報の意義、精度管理の必要性、そして検査研究の重要性を認識するために、疾患へ興味を持ち、検査情報より病態解析へのアプローチを身につける。さらに医学・医療の専門職そして医療チームの一員として積極的に取り組むために、医療の中における臨床検査及び臨床検査技師の役割と責任を知り、医療人としての自覚を芽生えさせる。実習中は実習指導者、学生、教員との連絡を密にし、実習課題の進捗や実習目標、実習中の悩みや不具合等を互いに確認することで実習効果の向上に努める。

以上の目的と基本方針を実践するために、実習施設には以下の内容について指導をお願いする。

- ① オリエンテーション、施設見学等
- ② 施設における患者さんの流れ、臨床検査の流れ
- ③ 採血からの検体の流れ
- ④ 検体検査 1) 尿・一般検査 2) 生化学・免疫血清・輸血検査 3) 血液検査
4) 微生物・病理検査
- ⑤ 生体検査 1) 循環器検査 2) 呼吸器検査 3) 感覚機能検査
4) 超音波検査 5) その他（病棟出張検査など）
- ⑥ チーム医療（ICT・NST・褥瘡対策など）の見学

(2) 臨床実習（臨床工学領域）

チーム医療の推進という視点から患者を中心としたチーム医療における臨床工学の重要性を臨床現場で学び、社会人としての良識を身につけるとともに、医療人としての倫理観を身につける。臨床現場から臨床工学技士として不可欠な臨床工学の基本的な実践技術を習得する。また、血液浄化装置、集中治療室及び手術室、並びに医療機器管理業務の実習を通して、臨床工学技士の使命を自覚し、医療の発展に寄与できる基本的な技術と知識、そして臨床工学研究の重要性を認識するために、疾患へ興味を持ち、治療における病態解析へのアプローチを身につけ、チーム医療の一員として、医療・保健・健康分野における臨床工学の役割と責任について理解を深めさせ医療チームの一員としての責任感と自覚を身につける。実習中は実習指導者、学生、教員との連絡を密にし、実習課題の進捗や実習目標、実習中の悩みや不具合等を互いに確認することで実習効果の向上に努める。

以上の目的と基本方針を実践するために、実習施設には以下の内容について指導をお願いする。

- ① 医療機器管理業務（ME センター）実習
- ② 血液浄化業務実習

- ③ 集中治療室実習（人工呼吸器実習含む）及び手術室実習
- ④ その他の関連業務（心臓ペースメーカー業務及び心臓カテーテル関連業務、他）

Ⅲ. 臨地実習・臨床実習の計画

本学の臨地実習・臨床実習は、1年次～3年次において一般教養科目、専門基礎科目、専門科目を履修した後に、4年次の前期に「臨地実習」「臨床実習」を実施・構成する。

時期	実習
4年次前期	臨地実習（4単位） 臨床実習（4単位）

Ⅳ. 臨地実習・臨床実習の評価について

実習評価は、実習指導を行った実習担当教員が、出席状況、実習内容、実習記録、実習態度、学生面接及び実習指導者の評価等を踏まえ総合的に評価し、最終的に科目責任者が単位認定を行う。

- ① 成績評価は、100点法により行い、評点が60点以上を合格とし単位が与えられる。
- ② 評点と評価は、100－90点（S）、89－80点（A）、79－70点（B）、69－60点（C）、59－0点（F）とする。

Ⅴ. 臨地実習・臨床実習の追実習について

臨地実習・臨床実習における追実習について、次のとおり定める。

1. 感染症、または感染症の疑いで大学が出校停止した場合のみ、当該実習の開講期内に追実習が認められることもある。
2. 1の要件をみたし、かつ追実習を希望する学生は、当該実習修了7日以内に「追実習願書」を提出しなければならない。

Ⅵ. 臨地実習・臨床実習における倫理

臨地実習・臨床実習では、実習指導者や教員の助言を受けながら、倫理的判断や行動のとり方を学ぶことも実習において重要である。医療保健の専門職として引き受ける責任の範囲を明示するものとして「倫理綱領」（一般社団法人日本臨床衛生検査技士会）（公益社団法人日本臨床工学技士会）が公表されている。医療保健学を学ぶ学生としても、この内容に基づいた行為や行動が取れるよう努力する責任がある。下記に一般社団法人日本臨床衛生検査技士会の『倫理綱領』及び公益社団法人日本臨床工学技士会の『倫理綱領（2003）』を示す。

『倫理綱領』（一般社団法人日本臨床衛生検査技士会）

1. 会員は、臨床検査の担い手として、国民の医療及び公衆衛生の向上に貢献する。
1. 会員は、学術の研鑽に励み、高い専門性を維持することに努める。
1. 会員は、適切な臨床検査情報の提供と管理に努め、人権の尊重に徹する。
1. 会員は、医療人として、医療従事者相互の調和に努め、社会福祉に貢献する。
1. 会員は、組織人として、会の発展と豊かな人間性の涵養に努め、国民の信望を高める。

引用文献：一般社団法人日本臨床衛生検査技士会倫理綱領

〈<http://www.jamt.or.jp/public/activity/rinri.html>〉，2015_11_09

『倫理綱領』（公益社団法人日本臨床工学技士会）

- 1 臨床工学技士は、人々の健康を守るために貢献します。
- 1 臨床工学技士は、チーム医療の一員として、専門分野の責任を全うします。
- 1 臨床工学技士は、医療を求める人々のため、常に研鑽に励みます。
1. 臨床工学技士は、常に高い倫理観を保ち、全人的医療に貢献します。

引用文献：公益社団法人日本臨床工学技士会倫理綱領

〈<http://www.ja-ces.or.jp/01jacet/gaiyou/pdf/ethics.pdf>〉，2015_11_09

Ⅶ. 臨地実習・臨床実習の指導者の役割

臨地実習・臨床実習指導者は、大学側と臨地・臨床側がそれぞれの強みを生かして役割分担と連携を図り、学生の効果的な実習を支援する。

○臨地実習・臨床実習における実習担当教員及び臨地実習・臨床実習指導者の主な役割

	実習担当教員の役割	臨地実習・臨床実習指導者の役割
1. 実習指導開始準備	・実習施設及び学生の割り振りの調整をする。	・施設内でのスタッフ・多職種へ実習内容の伝達をする。 ・実習環境の調整をする。
2. オリエンテーション	・実習の内容とその目的が明らかにできるようオリエンテーションを行う。	・実習上の施設・設備、システムなど注意事項についてオリエンテーションを行う。
3. 実習の実施	・実習の内容について訪問し、確認する。学生の意見を聴取する。 ・学生の実習態度などについて指導する。 ・学生の安全と健康管理に配慮する。	・学生が行う技術の実習に関して助言・指導を行う。 ・学生の安全と健康管理に配慮する。 ・実践の場で大切にしている価値観や考え方を学生に伝える。
4. 記録、報告	・体験した事柄、観察・分析・判断等実習記録に記載された内容について評価・助言をする。	・学生が実習時間内に行った実践等に関する記録を読み助言する。
5. 評価	・必要に応じて学生と面談し、評価を行う。 ・実習に関する全体的な評価や学習の成果を実習先に伝える。	・教員に学生の情報を提供する。

Ⅷ. 臨地実習・臨床実習中におけるインシデント・アクシデント発生時の対処

インシデント・アクシデントを起こさないよう学生自身が十分に注意することが必要である。万一、インシデント・アクシデントが発生した場合には、その施設で定められた方法（インシデント・アクシデント対処マニュアルなど）により速やかに対処しなければならない。なお、インシデント・アクシデントの対処の原則については以下のとおりである。

1. 人に関わるインシデント・アクシデントへの対処について

インシデントとは、思いがけない出来事（偶発事故）という意味で、これに対して適切な処理が行われないと、アクシデントになる可能性があることを意味する。そのため、身体への影響の有無や重大さにかかわらずインシデントであっても対応を行い、再発の防止に努めることが重要となる。

アクシデントとは、人にかかわる事故である。インシデントに気づかなかつたり、適切な処理が行われないと、傷害が発生しアクシデントとなる。アクシデントとは、転倒、転落、火傷、誤嚥、体液暴露などの患者やその家族、および自己（医療従事者・学生）への被害を指すが、ここでは直接の原因でもない盗難などの事件も入れる。また、身体の損傷の有無や重大さに関わらず、全てのアクシデントや事件が対象となる。

- (1) インシデント・アクシデントが発生した場合には、直ちに実習指導者及び実習担当教員に連絡し報告する。
- (2) 臨地・臨床実習指導者の指示のもとに、必要な対応を行う。対応にあたっては、緊急時を除き、必ず実習指導者または実習担当教員の立ち合いの下で行う。
- (3) 対応が終了し、問題が解決した時点で、インシデント・アクシデントレポートに基づき、インシデント・アクシデントの経過、対応などに関する記録を行い、実習担当教員に提出する。

2. 設備・備品に関わるインシデント・アクシデントへの対応について

- (1) 実習施設の医療器具・用具、患者の私物などを破損・紛失した場合、直ちに実習指導者及び実習担当教員に報告し、指示を受ける。
- (2) 実習に係る保険の適応を受けるために、破損した物品すべてを回収し、まとめて実習担当教員に提出する。
- (3) 物品の提出と同時に、指定のインシデント・アクシデントレポートに記入し、実習担当教員に提出する。
- (4) 報告時の必要事項
 - ① 学生名（学年、学籍番号）
 - ② 実習分野、実習科目名、実習担当教員
 - ③ 発生日時
 - ④ 発生場所（発生施設名、病棟等のセクション名等）
 - ⑤ インシデント・アクシデント等の内容
 - ⑥ 発生経過（原因、理由も含む）・結果及び対応
 - ⑦ 施設への連絡・調整状況
 - ⑧ その他必要な事項

3. その他の場におけるインシデント・アクシデント（事件）への対応について

- (1) 実習施設への途上で交通事故及び盗難、その他の被害などが発生した場合は、直ちに実習担当教員に報告する。
- (2) 災害発生時は、原則として実習施設の指示に従う。
- (3) その他、実習中になんらかのインシデント・アクシデントに遭遇した場合は、直ちに臨地・臨床実習指導者及び実習担当教員に報告する。

4. 実習における学生の保険について

- (1) 本学部の学生は、全員が入学時より学生教育研究災害傷害保険・賠償責任保険に加入している。
- (2) 上記保険により、講義・演習及び臨地実習・臨床実習において規定の条件を満たした場合、保険の適応を受けることができる。

5. 連絡・報告について

- (1) インシデント・アクシデント（事件）に対して適切な対処を行うためには、速やかな連絡・報告が重要である。
- (2) 報告に必要な事項
 - ① 学生名（学年、学籍番号）
 - ② 実習分野、実習科目名、実習担当教員
 - ③ インシデント・アクシデント等の内容
 - ④ 発生日時
 - ⑤ 発生場所（発生施設名、病棟等のセクション名等）
 - ⑥ 発生経過（原因、理由も含む）・結果及び対処
 - ⑦ 施設への連絡・調整状況
 - ⑧ インシデント・アクシデントレポート
- (3) インシデント・アクシデント発生時の報告・指示体制（資料参照）

IX. 臨地実習・臨床実習中の感染対策

感染症の特徴的な症状には、発熱、咳嗽、嘔気、嘔吐、下痢、発疹、結膜症状（眼脂、目のかゆみ、充血等）などがある。また、特徴的な症状がない場合でも、疼痛や倦怠感など体調不良の場合には、実習担当教員に報告し、指示を受ける必要がある。この場合、実習担当教員が当該実習施設に不在の場合は、実習指導者の指示に従うこと。

1. 一般的な予防について

- (1) スタンダードプリコーション（標準予防策）と感染経路の予防の励行
 - ① 手洗いの徹底
 - ② うがいの励行

- ③ 実習場で指示された手袋・マスク・ガウン・アイプロテクションまたはフェイスシールドの使用
- ④ 汚染物（医療廃棄物）の処理
- ⑤ 感染経路別予防策の励行
 - 1) 接触感染予防策：直接・関節的接触感染を防ぐ
 - ・直接接触感染予防策（手洗いと手袋、プラスチックエプロン、サージカルマスク・ゴーグル）
 - ・関節接触感染予防策（標準予防策の実施、清掃等）
 - 2) 飛沫感染予防策：5 μm 以上の粒子の微生物を含む飛沫が 1m 以下を飛び感染するのを防ぐ。
（手洗いと手袋、プラスチックエプロン、サージカルマスク・ゴーグル、標準予防策の実施、清掃等）
 - 3) 空気感染予防策：5 μm 以下の粒子が空気の流れにより拡散するのを防ぐ。
（特別な空気処理、換気、陰圧個室使用、標準予防御作の実施）

2. 感染症患者と接触した場合

- (1) 実習施設の感染予防策マニュアル（あるいはガイドライン）に沿って、診察及び処置を受ける。経過観察のために実習を中止し、自宅待機となる場合がある。
- (2) 実習への参加については、臨地・臨床実習指導者と実習担当教員にその旨を報告し、指示を受ける。

3. 症状が出現した場合

- (1) 実習担当教員に経過と症状の説明をする。
- (2) 実習担当教員の指示に従い、必要に応じて受診する。
- (3) 受診結果を実習担当教員に報告し、指示に従う。

○連絡先

〒920-1180 石川県金沢市太陽が丘 1-1

北陸大学 医療保健学部 電話 TEL 076-229-1161（代）FAX 076-229-1348

X. 臨地実習・臨床実習中の注意事項

- 1. 専門職を目指す学生としてふさわしい態度と注意事項。
 - (1) 実習に適した身なりを心掛ける（実習衣、シューズ、爪、髪、化粧、アクセサリ等）。
 - (2) 実習の場にふさわしい言葉遣いをする（例えば、学生同士ニックネームで呼ばない）。

- (3) 時間を厳守する。
- (4) 学習者として望ましい態度で臨むとともに、責任ある行動をとる。
- (5) 医療チームの一員としての自覚をもって行動する。
- (6) 積極的に挨拶をする。
- (7) 誰からも金品を受け取らない。もし、断れない場合は直ちに臨地実習・臨床実習の指導者もしくは実習担当教員に相談する。
- (8) 実習中及び実習修了後も、自宅の住所を教えたり、家庭を訪問するなど個人的な対応をしない。
- (9) 携帯電話は実習場に持ち込まない。

2. 実習施設に設備・物品の使用について

- (1) 各実習施設の規定を順守して利用する。
- (2) 注意事項
 - ① 昼食の場所は実習施設の状況に合わせる。
 - ② 貴重品、記録類、私物を実習場に放置したまま退出しない。
 - ③ 実習施設の美化に心掛ける。
 - ・ごみは分別し捨てる。
 - ・使用した室内の整理整頓とともに、使用した物品などの後片付けを確認してから退出する。

インシデント・アクシデントレポート

年 月 日

学籍番号 _____ 氏名 _____

実習科目名		実習施設	
発生日時	年 月 日 () 時 分	発生場所	
インシデント・アクシデント内容			
発生状況・経過			
発生後の対処及び発生防止に向けて			
指導内容			
実習担当教員名 _____			

実習施設一覧 臨地実習(臨床検査学領域)

県 別	No.	実 習 施 設 名	所 在 地	受入人数 (年間)
石川県	1	金沢大学附属病院	920-8641 金沢市宝町13-1	5
	2	金沢赤十字病院	921-8131 金沢市三馬2-251	4
	3	医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院	920-8621 金沢市小坂町中83	6
	4	金沢市立病院	921-8105 金沢市平和町3-7-3	6
	5	独立行政法人地域医療機能推進機構 金沢病院	920-0013 金沢市沖町ハ-15	2
	6	社会福祉法人恩賜財団済生会 石川県済生会金沢病院	920-0353 金沢市赤土町ニ13-6	4
	7	公益社団法人石川勤労者医療協会 城北病院	920-0848 金沢市京町20-3	1
	8	石川県立中央病院	920-8201 金沢市鞍月東2-1	1
	9	金沢医科大学病院	920-0293 河北郡内灘町大学1-1	6
	10	白山石川医療企業団 公立松任石川中央病院	924-0865 白山市倉光3-8	2
	11	国民健康保健 小松市民病院	923-0961 小松市向本折町ホ60	4
	12	特定医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター	923-0833 小松市八幡イ12-7	2
	13	加賀市医療センター	922-0423 加賀市作見町リ36	1
	14	羽咋郡市広域圏事務組合 公立羽咋病院	925-0036 羽咋市の場町松崎24	2
	15	公立能登総合病院	926-0816 七尾市藤橋町ア6-4	2
	16	社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院	926-8605 七尾市富岡町94	4
	17	公立穴水総合病院	927-0027 鳳珠郡穴水町字川島タ-8	2
	18	珠洲市総合病院	927-1213 珠洲市野々江町ユ-1-1	5
	19	市立輪島病院	928-0024 輪島市山岸町は1-1	2

実習施設一覧 臨地実習(臨床検査学領域)

県 別	No.	実 習 施 設 名	所 在 地	受入人数 (年間)
富山県	20	市立砺波総合病院	939-1343 砺波市新富町1-61	2
	21	公立南砺中央病院	939-1724 南砺市梅野2007-5	2
	22	公立学校共済組合 北陸中央病院	932-0813 小矢部市野寺123	1
	23	富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院	933-8555 高岡市永楽町5-10	6
	24	高岡市民病院	933-0064 高岡市宝町4-1	2
	25	独立行政法人地域医療機能推進機構 高岡ふしき病院	933-0115 高岡市伏木古府元町8-5	1
	26	富山市立富山市民病院	939-8511 富山市今泉北部町2-1	2
	27	国立大学法人 富山大学附属病院	930-0152 富山市杉谷2630	6
福井県	28	福井県立病院	910-0846 福井市四ツ井2-8-1	3
	29	医療法人福井心臓血管センター 福井循環器病院	910-0833 福井市新保2-228	4
	30	福井赤十字病院	910-8011 福井市月見2-4-1	2
	31	福井大学医学部附属病院	910-1104 吉田郡永平寺町松岡下合月23-3	5
	32	公益社団法人地域医療振興協会 公立丹南病院	916-8515 鯖江市三六町1-2-31	6
合 計 32 施設				103

実習施設一覧 臨床実習(臨床工学領域)

県 別	No.	実 習 施 設 名	所 在 地	受入人数 (年間)
石川県	1	金沢大学附属病院	920-8641 金沢市宝町13-1	6
	2	金沢赤十字病院	921-8131 金沢市三馬2-251	6
	3	医療法人社団浅ノ川 心臓血管センター 金沢循環器病院	920-0007 金沢市田中町は16	6
	4	公益社団法人 石川勤労者医療協会 城北病院	920-0848 金沢市京町20-3	1
	5	医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院	920-8621 金沢市小坂町中83	6
	6	金沢医科大学病院	920-0293 河北郡内灘町大学1-1	12
	7	社会福祉法人恩賜財団済生会 石川県済生会金沢病院	920-0353 金沢市赤土町ニ13-6	2
	8	国民健康保険 小松市民病院	923-0961 小松市向本折町ホ60	8
	9	加賀市医療センター	922-0423 加賀市作見町リ36	6
	10	羽咋郡市広域圏事務組合 公立羽咋病院	925-0036 羽咋市の場町松崎24	6
	11	社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院	926-8605 七尾市富岡町94	6
富山県	12	富山市立富山市民病院	939-8511 富山市今泉北部町2-1	1
	13	国立大学法人 富山大学附属病院	930-0152 富山市杉谷2630	6
	14	黒部市民病院	938-8502 黒部市三日市1108-1	6
	15	射水市民病院	934-0053 射水市朴木20	2
	16	市立砺波総合病院	939-1395 砺波市新富町1-61	2
	17	富山県立中央病院	930-8550 富山市西長江2-2-78	4
	18	富山赤十字病院	930-0859 富山市牛島本町2-1-58	3

実習施設一覧 臨床実習(臨床工学領域)

県 別	No.	実 習 施 設 名	所 在 地	受入人数 (年間)
福井県	19	福井県立病院	910-0846 福井市四ツ井2-8-1	6
	20	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院	918-8235 福井市和田中町舟橋7-1	6
	21	医療法人福井心臓血圧センター 福井循環器病院	910-0833 福井市新保2-228	4
	22	福井大学医学部附属病院	910-1104 吉田郡永平寺町松岡下合月23-3	6
	23	公益社団法人地域医療振興協会 公立丹南病院	916-8515 鯖江市三六町1-2-31	6
合 計 23 施設				117

北陸大学医療保健学部 臨地・臨床実習における 個人情報保護に関する基本方針（案）

I. 基本的な考え方

平成 17 年 4 月に全面的に施行された個人情報の保護に則り、本学部の臨地・臨床実習においては、人権尊重の理念と個人情報の保護の徹底を図ることを目的に、以下について取り組む。ここで言う個人情報とは、個人を識別できる情報であり、具体的には名前、生年月日、住所、電話番号、勤務先、職業、家族背景などを取り扱うことをいう。

II. 個人情報保護の取り扱い

1. 守秘義務

実習中の助言、教員から指導を受ける場合以外に、実習中に知り得た患者および家族などの情報はいかなる場合においても口外しない。ブログやツイッター等のソーシャルネットワークへの投稿も厳禁とする。例えば、通学途中に、実習で知り得た個人情報を話したり、実習記録を開いたりしてはならない。守秘義務に反するものは、北陸大学学則第 51 条（懲戒）に則り対処する。

2. 実習記録

(1) 個人情報の匿名化

- ① 名前：暗号化（例 A 氏、B 氏など）する。
- ② 生年月日：記載しない
- ③ 年齢：原則として年代のみとする
- ④ 住所：必要な場合は、市町村まで記号化して記載し、番地は記載しない。
- ⑤ 職業：職種のみ(例、高校生、医療職、事務職など)を記載し、施設名、勤務先・役職は記載しない。
- ⑥ 家族構成：性別、必要であれば同居人、重要な人のみ記載する。
- ⑦ その他：医療機関の施設名は記載しない（例、A 病院、B 病院など）
- ⑧ 診断名：原則として略語を用いる。略語から診断名が特定されないように記載する。

(2) 実習期間中の実習記録の保管方法

- ① 実習記録（メモ用紙を含む）は、実習場所の指定の位置に置く。
- ② 実習に必要な記録類（実習記録など）を持ち出す時は、臨地・臨床実習指導者の了承を得てから持ち出す。
- ③ 学生が実習記録を自宅に持ち出す場合は、十分に注意し、紛失しないようにする。

- ④ 実習記録を持ち運ぶ時は、必ずファイルに閉じた上でバッグなどに入れ、第三者の目に触れないよう細心の注意を払う。
 - ⑤ 実習記録の作成に学内のパソコンなどの媒体を使用した場合は、ハードディスクや機体にデータを残さず、フロッピー、フラッシュメモリーなどの記憶媒体に保存し、各自の責任のもとで保管する。また、パソコンを使用して実習記録を作成する場合は、インターネットに接続した環境で行ってはならない。
- (3) 実習修了後の保管方法及び期間について
- ① 実習記録の教員による保管期間は、実習終了時（4年次前期終了）までとする。ただし、記録類を保管するときは、他者の目に触れない場所とし、細心の注意を払う。
 - ② 実習目的以外に使用しない。
 - ③ 実習修了後、不必要となった記録物やメモ類はシュレッダーで処理する。電子媒体は内容を消去するなど処理を行う。
 - ④ 実習担当教員から返却された実習記録の中で個人が特定できる記録類は、実習終了後直ちにシュレッダーで処理する。

3. 診療記録等個人情報へのアクセス

(1) 紙媒体

- ・カルテなどの記録物を閲覧するときは、必ず臨地・臨床実習指導者に了承を得る。また、個人情報に関する書類の閲覧は施設内のみとし、施設外には一切持ち出さない。

(2) 電子媒体

- ・アクセス権のある臨地・臨床実習指導者の監督の下で閲覧する。
- ・個人情報の転記の制限（複写禁止）
- ・診療記録類及び実習記録は複写しない。また、個人を特定できる内容については転記しない。

4. 臨地実習・臨床実習開始時の手続き

- (1) 学生は「個人情報保護に関する誓約書」を提出する。

個人情報保護に関する誓約書

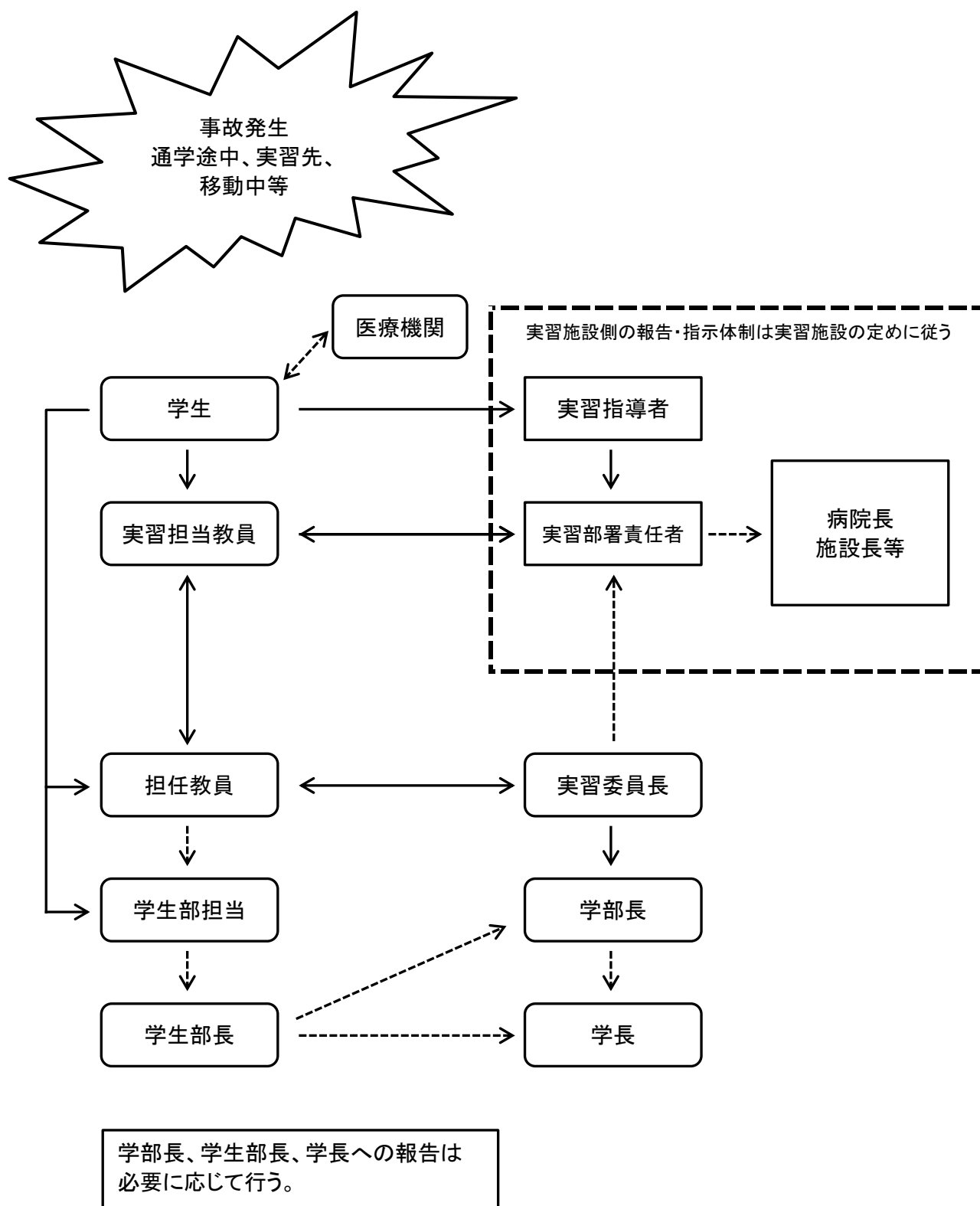
平成 年 月 日

〇〇病院
院長 〇〇 〇〇 殿

大学名 北陸大学 医療保健学部
名 前
住 所

私が貴院で臨地実習・臨床実習をするにあたり、貴院で知り得た秘密の保持及び、患者の個人情報の保護については細心の注意を払い、実習終了後においても第三者に漏えいしないことを誓約いたします。

医療保健学部 インシデント・アクシデント発生時の報告・指示体制(案)



短期海外語学研修先一覧

国名	大学名	大学名（英語）	住所
アメリカ	カリフォルニア大学リバーサイド校	UCR	1200 University Avenue Riverside, CA 92507-4596
オーストラリア	フリンダース大学	Flinders University IELI	IELI, GPO Box 2100, Adelaide SA 5001
	ウーロンゴン大学	University of Wollongong College	Building 30 University of Wollongong NSW 2522
中国	北京語言大学	Beijing Language and Culture University	100083 中国北京市海淀区学院路15号

※各大学の受入人数は本学の希望人数に応じて複数クラスの開講など柔軟に対応することになっている。したがって希望した学生は全員派遣することが出来る。

学生確保の見通し等を記載した書類

目次

1 学生確保の見通しおよび申請者としての取組

- (1) 学生確保の見通し P 1
- (2) 定員充足の根拠となる調査結果の概要 P 8
- (3) 学生納付金の設定の考え方 P10
- (4) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況 P11

2 人材需要の動向等社会の要請

- (1) 人材の養成に関する目的その他の教育上の目的（概要） P13
- (2) 人材の養成に関する目的その他の教育上の目的が社会的、地域的な人材需要の
動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 P13

【学生確保の見通し等を記載した書類】

本学部の入学生定員を 60 人としている。その入学生定員設定の考え方については、全国及び北陸 3 県、近隣県（新潟県、長野県、岐阜県）における臨床検査技師、臨床工学技士の需要に関する社会的背景、北陸 3 県及び近隣県に設置する臨床検査技師、臨床工学技士養成を行う他大学学部学科の定員数、志願状況等に基づき設定した。学生確保の見通し及び人材需要の動向等の社会要請は次のとおりである。

1 学生確保の見通し及び申請者としての取組

(1) 学生確保の見通し

① 入学生定員設定の考え方

1) 社会的背景

臨床検査技師の北陸 3 県での従事者動向【資料 1】を分析すると、従事している者の年齢分布から、北陸 3 県では 50 歳以上の就労者数が全国平均より高く、35 歳以下の就労者が少ない傾向にあることがわかる。一方、臨床工学技士は、石川県臨床工学技士会所属の臨床工学技士の実態【資料 2】から、病院 100 床あたりの臨床工学技士の配置数は 1.64 人であるが、注目される点は 300 床以上の地域における高度医療及び救急医療の中心となる施設における臨床工学技士の配置数に大きな施設間差が見られることである。高度化する医療の軸となる医療機器の安全を担うなど臨床工学技士の役割と医療安全への対応が強化されている現状から、今後臨床工学技士を増員する施設があると推察される。

また、石川県では「いしかわ創生総合戦略（平成 27 年 10 月石川県）」の中で「在宅医療の充実」を掲げており、在宅医療連携体制の構築（在宅医療を担う人材の育成、患者情報の多職種間での共有推進など）をさらに進めていくこととしている。

以上のことから、この地域の臨床検査技師、臨床工学技士は将来にわたり人材需要が高まると考えている。また、都市部への就労人口の流出を防ぐためにも地元での人材育成が重要である。

2) 北陸地区における臨床検査技師、臨床工学技士の養成を行う教育機関

北陸 3 県（石川県、富山県、福井県）における臨床検査技師を養成する教育機関は 1 校（金沢大学医薬保健学域保健学類：定員 40 人）であり、臨床工学技士を養成する教育機関は 1 校（小松短期大学臨床工学専攻：定員 20 人）である。

3) 本学部における教育環境

太陽が丘キャンパスに整備されている校舎の面積は、24,510㎡である。医療保健学部を設置する平成 29（2017）年 4 月に計画している学部学科構成に基づいて大学設置基準上必要となる大学全体での校舎面積は 18,952.6㎡であり、十分な校舎面積である。これに加えて、医療保健学部医療技術学科の専用施設として、教

室、実習室、多目的演習室、事務室、実験研究室、会議室、教員室、セミナー室、自習・休憩スペースを有する地上3階建て、延べ床面積4,760.70㎡の新校舎を建設（平成28年3月着工、平成29年2月完成予定）し、必要な教室等を配置する計画である。また、新校舎と既存校舎（事務局や食堂がある太陽が丘2号棟）をつなぐ渡り廊下（436.95㎡）を同時に建設し、学生・教職員の回遊性や利便性を図る計画としている。

教室については、専用講義室2室（90人収容1室、81人収容1室）、卒業研究や個別の学生指導等に活用するセミナー室3室のほか、ホワイトボード兼用の可動式パーティションにより12区画に仕切ることができ、PBL等で使用可能な多目的演習室を整備する。教室は、太陽が丘キャンパスの既存校舎にも講義室26室（1号棟11室、2号棟15室）、演習室15室（1号棟4室、2号棟11室）が整備されており、講義・演習科目については、これらを他学部と共同使用する計画である。また、情報系の授業科目については、既設のパソコン教室を既存学部と共用して使用する。

実験・実習施設は、その目的に応じた設備を備えた実習室を6室整備する。1階には形態系の実習室（171㎡）と実習準備室（28㎡）を、また生体防御系の実習室（168㎡）と実習準備室（23㎡）を配置し、「臨床検査総論実習」「臨床血液学実習」「病理学実習」「臨床微生物学実習」「医療安全管理学実習」「医動物学実習」等の実習を行う。2階には分析化学系の実習室（171㎡）と実習準備室（28㎡）を、また基礎工学系の実習室（148㎡）と実習準備室（43㎡）を配置し、「臨床生化学実習」「臨床免疫学実習」「医用工学概論実習」等の実習を行う。3階には臨床工学技術系の実習室（193㎡）を、また生体計測系の実習室（156㎡）と実習準備室（42㎡）を配置し、「生体機能代行装置学実習」「医用治療機器・安全管理学実習」「生理機能計測学実習」等の実習を行う。

各実習室にはプロジェクター等のAV機器を整備し、より効果的な実習を行うことができるようにする。実習用に女性用ロッカー兼更衣室を2室、男性用ロッカー兼更衣室1室を整備する。

上記、1)～3)を踏まえ、同系列の学部学科への近年の志願動向を踏まえるとともに、周辺地域における学部学科の設置状況や近年の志願動向、本学の教育環境、体制を考慮し、さらには高校生に対するアンケート調査結果や私立大学としての収支の均衡の観点から総合的に判断して、入学定員を60人とする事とした。

② 既存学部の定員充足状況

既存学部（薬学部、未来創造学部）の志願者、入学者等の状況は、以下のとおりであり、「既存学部学科の志願者・受験者・合格者・入学者・入学定員超過率」【資料3】に示す。

1) 薬学部薬学科

薬学部薬学科の入学定員は 306 人であり、過去 5 年間の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学定員超過率は次のとおりである。

- ・志願者数

平成 23 (2011) 年度 417 人、平成 24 (2012) 年度 451 人、平成 25 (2013) 年度 822 人、平成 26 (2014) 年度 777 人、平成 27 (2015) 年度 694 人

- ・受験者数

平成 23 (2011) 年度 406 人、平成 24 (2012) 年度 440 人、平成 25 (2013) 年度 804 人、平成 26 (2014) 年度 757 人、平成 27 (2015) 年度 678 人

- ・合格者数

平成 23 (2011) 年度 383 人、平成 24 (2012) 年度 417 人、平成 25 (2013) 年度 710 人、平成 26 (2014) 年度 644 人、平成 27 (2015) 年度 517 人

- ・入学者数

平成 23 (2011) 年度 169 人、平成 24 (2012) 年度 183 人、平成 25 (2013) 年度 290 人、平成 26 (2014) 年度 249 人、平成 27 (2015) 年度 151 人

- ・入学定員超過率

平成 23 (2011) 年度 0.55、平成 24 (2012) 年度 0.59、平成 25 (2013) 年度 0.94、平成 26 (2014) 年度 0.83、平成 27 (2015) 年度 0.49

2) 未来創造学部国際マネジメント学科

未来創造学部国際マネジメント学科の入学定員は 100 人であり、過去 5 年間の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学定員超過率は次のとおりである。

- ・志願者数

平成 23 (2011) 年度 233 人、平成 24 (2012) 年度 188 人、平成 25 (2013) 年度 189 人、平成 26 (2014) 年度 222 人、平成 27 (2015) 年度 187 人

- ・受験者数

平成 23 (2011) 年度 227 人、平成 24 (2012) 年度 183 人、平成 25 (2013) 年度 184 人、平成 26 (2014) 年度 221 人、平成 27 (2015) 年度 187 人

- ・合格者数

平成 23 (2011) 年度 204 人、平成 24 (2012) 年度 176 人、平成 25 (2013) 年度 172 人、平成 26 (2014) 年度 204 人、平成 27 (2015) 年度 175 人

- ・入学者数

平成 23 (2011) 年度 161 人、平成 24 (2012) 年度 135 人、平成 25 (2013) 年度 112 人、平成 26 (2014) 年度 121 人、平成 27 (2015) 年度 106 人

- ・入学定員超過率

平成 23 (2011) 年度 1.61、平成 24 (2012) 年度 1.35、平成 25 (2013) 年度 1.12、平成 26 (2014) 年度 1.21、平成 27 (2015) 年度 1.06

3) 未来創造学部国際教養学科

未来創造学部国際教養学科の入学定員数は 100 人であり、過去 5 年間の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学定員超過率は次のとおりである。

- ・志願者数

平成 23 (2011) 年度 70 人、平成 24 (2012) 年度 96 人、平成 25 (2013) 年度 106 人、平成 26 (2014) 年度 99 人、平成 27 (2015) 年度 155 人

- ・受験者数

平成 23 (2011) 年度 69 人、平成 24 (2012) 年度 95 人、平成 25 (2013) 年度 106 人、平成 26 (2014) 年度 99 人、平成 27 (2015) 年度 155 人

- ・合格者数

平成 23 (2011) 年度 65 人、平成 24 (2012) 年度 92 人、平成 25 (2013) 年度 103 人、平成 26 (2014) 年度 93 人、平成 27 (2015) 年度 145 人

- ・入学者数

平成 23 (2011) 年度 28 人、平成 24 (2012) 年度 46 人、平成 25 (2013) 年度 67 人、平成 26 (2014) 年度 39 人、平成 27 (2015) 年度 59 人

- ・入学定員超過率

平成 23 (2011) 年度 0.28、平成 24 (2012) 年度 0.46、平成 25 (2013) 年度 0.67、平成 26 (2014) 年度 0.39、平成 27 (2015) 年度 0.59

③ 定員未充足学部学科の原因分析及び学部学科の改編、定員変更

【資料 3】のとおり、薬学部薬学科、未来創造学部国際教養学科は過去 5 年間定員未充足状態が続いており、学生確保が難しい状況である。

未来創造学部においては、法学部、外国語学部から改組し 10 年以上が経ち、開設時から、北陸 3 県を中心に高校教員、高校生、保護者等へ学部の内容や教育環境等について継続的に高校訪問、オープンキャンパス、その他広報活動等を通じて説明してきた。

しかし、未来創造学部国際教養学科において、「未来創造学部」という名称から、教育内容等が明確に社会、高校生等に伝わりにくく、学生確保にはいたらなかったと考えられる。また、マスメディア広報が不十分であったことも要因の一つである。

国際教養学科の教育内容は英語・中国語を中心に国際社会に通用する人材の育成を目指したものであり、英語教育の必要性や成果は社会・高校生等にある一定の評価を受けているものと考えているが、中国語教育については、社会的ニーズは高いものの、高校生へその必要性・魅力を十分に伝えることができず、学生確保につながらなかった。語学教育においては、従来型の知識偏重の英語・中国語教育から脱却できず、アクティブラーニング等を積極的に取り入れた教育を充実させる必要があると考えている。

また、学科名称からも教育内容が見えづらく、教育課程を的確に周知することができなかった。同系の学部学科に求められる社会的ニーズと教育内容との乖離に対

する教職員の共通理解に時間を費やし教育改革が遅れたことも要因であると考えている。

全国的に見ると、「国際教養」という名称の学部学科は多くみられるが、首都圏、関西等の大都市圏の定員充足率は高いものの、地方都市における定員充足率は低い傾向にある。本学においても地方都市であり、入学定員100人としているが、地域性・教育内容等に鑑みると適切な入学定員設定ではなかったと考えられる。

また卒業生において4年間の学びを終え、企業等に就職する際も同様に本学部での学びや身につけた能力等が学部名称からわかりにくく、企業側へもどのような人材を輩出しているか、わかりにくい状況が続いていたと考えている。

薬学部においては、開学以来40年間薬剤師を多く輩出し、北陸3県を中心に活躍している。しかし、2000年以降、薬学部が多くの大学において新設され、平成27(2015)年4月現在、国公立大学薬学部は73大学まで増えたことが社会的要因として考えられる。さらに、6年制薬学科において入学定員300人を超える大学は本学を含め5大学（東北薬科大学、帝京大学、京都薬科大学、明治薬科大学、北陸大学）しかなく、地方私立大学の入学定員としては適切ではなく、18歳人口の減少と相まって、志願者が減少したことが考えられる。

また、多様な入学試験から、多様な学生を受け入れ、学生一人ひとりに対して薬剤師に必要な知識・技能等を身につける教育を十分に行えるよう努めてきたが、それに対応したカリキュラム改編・教育改革が不十分であったと考えており、その結果、ここ数年薬剤師国家試験の合格率が低下しており、そのことも定員未充足の大きな要因であると考えられる。

さらに、薬学部に特化した広報を集中的に行う体制整備が不十分であり、6年制への移行の趣旨及び今後必要とされる薬剤師の重要性を明確に周知することができず、また教職員の共通理解を図るために時間を費やしたことにより、カリキュラム改革が遅れたことも要因である。

大学全体としては、高校教諭対象の進学説明会、オープンキャンパス等の実施にあたり、戦略性を持った実施・周知が行われていなかった。特に高校教諭対象の進学説明会については、一時、広報活動の対象を生徒に集中する戦略により数年実施をしていなかった。

こうした状況の中で本学は、従来の取り組みでは大学の窮状を打破できないと判断し、抜本的な大学改革に取り組むことで入学定員未充足の改善に取り組むこととした。

これまでの学生募集状況等に鑑み、平成25(2013)年から将来計画の検討をはじめ、学校法人北陸大学理事会は北陸大学中長期計画を立案するにあたり、第250回理事会（平成26(2014)年8月26日）において、これからの社会的な人材育成のニーズ等を調査・検討し、以下のとおり学部の新設、学部・学科改組及び定員変更を行う

ことを決定した。

- ・ 医療系学部を新設する。
- ・ 薬学部薬学科の入学定員を306 人から220 人に変更する。
- ・ 未来創造学部国際マネジメント学科を平成27（2015）年6月に名称変更の届出に関する事前相談を行い、経済経営学部マネジメント学科へ名称変更が可能であることを確認し、入学定員100 人から200 人に変更する。
- ・ 未来創造学部国際教養学科を平成27（2015）年10月に設置又は届出の事前相談を行い、届出による設置可能を確認した上で、国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科へ改組し、入学定員100 人から80 人に変更する。

これらを受けて調査・検討を重ね、第258 回理事会（平成28（2016）年2月26 日）において、以下のとおり決定した。

- ・ 医療保健学部医療技術学科を新設する。
- ・ 薬学部薬学科の入学定員を306 人から220 人に変更する。
- ・ 未来創造学部国際マネジメント学科の名称変更の届出に関する事前相談の結果を受けて、経済経営学部マネジメント学科へ名称変更し、入学定員を100 人から200 人に変更する。
- ・ 未来創造学部国際教養学科の設置又は届出の事前相談の結果を受けて、国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科の設置届出をし、入学定員を80 人とする。

以上のように医療保健学部医療技術学科設置、学部学科の改編、定員の変更を行うよう申請を予定し、適正な定員への是正、社会的ニーズに合わせて学部学科再編、教育内容の充実、教育環境整備を行い、学生確保、定員充足に努める。

④ 全国の同系学部学科の入学志願者数・入学者数

医療保健学部医療技術学科設置認可申請にあたり、全国同系学部学科の入学志願者数・入学者数の動向を【学校基本調査報告書 高等教育機関編】のデータをもとに調査・検討を行った。

まず、全国の医療保健学部と同系の学部（以下、医療保健系学部）として「医療保健学部」「保健医療学部」「医療技術学部」「保健科学部」「医療科学部」を調査対象として考察した。

全国の「医療保健系学部」の入学志願者数の過去5年間の経年推移【資料4】を見ると、平成22（2010）年度は40,830人、平成23（2011）年度は46,693人、平成24（2012）年度は54,370人、平成25（2013）年度は59,842人、平成26（2014）年度は67,002人と年々増加傾向にある。全国の「医療保健系学部」の入学者数の過去5年間経年推移【資料4】を見ると平成22（2010）年度は8,807人、平成23（2011）年度は9,704人、平成24（2012）年度は10,145人、平成25（2013）年度は10,807人、平成26（2014）年度は12,071人と入学志願者数の増加と同様に年々増加傾向に

ある。

次に臨床検査技師、臨床工学技士の国家試験受験資格取得を主に目指す大学の学部・学科の志願状況について、調査・検討を行った。【資料 5】

全国の臨床検査技師国家試験受験資格が取得できる 27 大学 27 学部 29 学科の平成 25（2013）年度～27（2015）年度の志願者数、受験者数、合格者数を調査し、入学定員に対する志願者数を志願倍率、合格者数を合格倍率として検討した。志願者合計数の経年推移をみると、平成 25（2013）年度 13,083 人、平成 26（2014）年度 14,619 人、平成 27（2015）年度 12,558 人となっている。合格者合計数の経年推移をみると平成 25（2013）年度 4,570 人、平成 26（2014）年度 4,823 人、平成 27（2015）年度 5,155 人となっている。志願倍率、合格倍率に関しては各大学、年度によってばらつきがあるものの、平均して志願倍率は 6.6～7.4 倍、合格倍率は 2.4～2.6 倍となっている。

全国の臨床工学技士国家試験受験資格が取得できる 32 大学 33 学部 34 学科の平成 25（2013）年度～27（2015）年度の志願者数、受験者数、合格者数を調査し、入学定員に対する志願者数を志願倍率、合格者数を合格倍率として検討した。志願者合計数の経年推移をみると、平成 25（2013）年度 10,118 人、平成 26（2014）年度 9,735 人、平成 27（2015）年度 11,840 人となっている。合格者合計数の経年推移をみると平成 25（2013）年度 4,348 人、平成 26（2014）年度 4,598 人、平成 27（2015）年度 5,218 人となっている。志願倍率、合格倍率に関しては各大学、年度によってばらつきがあるものの、平均して志願倍率は 5.3～6.4 倍、合格倍率は 2.3～2.6 倍となっている。

これらの結果から、臨床検査技師、臨床工学技士を養成する大学・学部・学科の志願者数は安定して推移しており、全国的に両資格取得に関する需要は高く、学生確保の見通しは良好であることが考えられる。

⑤ 近隣県における同系学部学科の開設状況並びに競合校における定員充足等の現状

医療保健学部医療技術学科は、石川県金沢市に開設する予定としており、近隣県における開設予定の医療保健学部医療技術学科と同系の学部学科の開設状況を検討し、学生確保の見通し状況を考察することとした。なお、石川県、富山県、福井県を北陸 3 県、北陸 3 県に新潟県、長野県、岐阜県を含め近隣県とした。

平成 27（2015）年 4 月現在の北陸 3 県の医療保健学部医療技術学科と同様に臨床検査学、臨床工学の両方の知識・技能を学べる学科は開設されておらず、近隣県では新潟県に新潟医療福祉大学医療技術学部臨床技術学科（入学定員 80 人）が開設されている。

臨床検査学系学科の北陸 3 県の開設状況は石川県に国立大学である金沢大学医療保健学域保健学類検査技術科学専攻（入学定員 40 人）が開設されており、近隣県においては長野県に国立大学である信州大学医学部保健学科検査技術科学専攻（入学

定員 37 人)、岐阜県に私立大学として、岐阜医療科学大学保健科学部臨床検査学科(入学定員 80 人)が開設されている。

臨床工学系学科の北陸 3 県、近隣県の開設状況は石川県に私立短期大学として、小松短期大学臨床工学専攻科(入学定員 20 人)が開設されているが、4 年制大学では開設されていない。

上記の近隣県の中から私立大学 2 校(新潟医療福祉大学、岐阜医療科学大学)を想定される競合校として、各大学のホームページ等の公開情報を元に入学志願者数、入学者数等について検討した。

競合校として選定した理由としては、私立大学であること、本学が設置を予定している石川県の近隣県であること、臨床検査学、臨床工学に関する教育を行い、臨床検査技師、臨床工学技士の国家試験受験資格の両方またはどちらかの取得を目指す教育を行っていることとした。このような観点から本学が設置する石川県の近隣県である新潟県新潟市に設置されている新潟医療福祉大学、岐阜県関市に設置されている岐阜医療科学大学を競合校とした。

まず、新潟医療福祉大学医療技術学部臨床技術学科では、臨床検査技師、臨床工学技士国家試験受験資格を両方取得することができる。

新潟医療福祉大学医療技術学部臨床技術学科の入学定員 80 人に対する入学者数過去 5 年間の推移は、平成 23(2011)年度 99 人、平成 24(2012)年度 97 人、平成 25(2013)年度 100 人、平成 26(2014)年度 100 人、平成 27(2015)年度 100 人、志願者数の推移は平成 25(2013)年度 543 人、平成 26(2014)年度 508 人、平成 27(2015)年度 537 人であり、学生募集状況は良好であるといえる。【資料 6】

次に、岐阜医療科学大学健康科学部臨床検査学科では、臨床検査技師国家試験受験資格を取得することができる。

岐阜医療科学大学健康科学部臨床検査学科として、入学定員 80 人に対し平成 27(2015)年度入学者数 112 人、在学生数(平成 27(2015)年 5 月 1 日現在) 412 人(1 年次生 116 人、2 年次生 110 人、3 年次生 84 人、4 年次生 102 人)で、収容定員 320 人に対する定員超過率は 1.29 で学生募集状況は良好であるといえる。【資料 6】

以上のとおり、予想される競合校においての学生募集状況は良好であり、今後も長期的に安定した学生確保の見通しが予想される。

(2) 定員充足の根拠となる調査結果の概要

医療保健学部医療技術学科設置にあたり、客観的なデータに基づいて、学生確保の見通しを検討するため、学生募集の中心となる北陸 3 県及び近隣県の高校生を対象に医療保健学部医療技術学科に関する

ニーズ調査を行った。調査の概要と結果は以下のとおりである。【資料 7、11、12、13】

① アンケート調査の目的

平成 29 年 4 月に開設を予定している臨床検査技師や臨床工学技士の国家試験受験資格の取得を目指した「医療保健学部医療技術学科（仮称）」に関して、高校生の進学意向等を把握することを目的とする。

② 調査対象

これまで本学に進学実績がある高等学校及び志願実績がある高等学校を踏まえ、石川県、富山県、福井県、岐阜県所在の高等学校及び高等専門学校を合わせて 135 校を選定し、各高等学校等に在籍する高校 2 年生を対象に、アンケート調査を実施した。

③ 実施時期

平成 27 年 11 月から平成 28 年 1 月にかけて調査を実施した。

④ 調査方法

本学よりアンケート調査票を配布し、調査票の回収に当たっては、一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

⑤ 回収状況

回収率 74.8%（回答高校数 101 校÷実施高校数 135 校×100）

有効回答票 5,420 票（無効票 2 票を除く）

⑥ 調査結果の概要

1) 医療保健学部医療技術学科への興味・関心（問 9）

医療保健学部医療技術学科への興味・関心について尋ねたところ、「とても興味・関心をもった」は 5.8%（317 人）、「ある程度興味・関心をもった」は 24.0%（1,301 人）、「少し興味・関心をもった」は 29.7%（1,611 人）であり、これらを合計すると回答者の 59.5%（3,229 人）が医療保健学部医療技術学科に対して興味・関心を持っていると言える。同様に、大学進学希望者について見ると、「とても興味・関心をもった」は 6.1%（245 人）、「ある程度興味・関心をもった」は 24.9%（997 人）、「少し興味・関心をもった」は 30.8%（1,232 人）であり、これらを合計すると大学進学希望者の 61.8%（2,474 人）が医療保健学部医療技術学科に対して興味・関心を持っていると言える。

2) 臨床検査技師及び臨床工学技士の国家資格取得への興味（問 10）

【臨床検査技師】

臨床検査技師の国家資格取得への興味について尋ねたところ、「大変興味を感じる」は 5.5%（296 人）、「興味を感じる」は 12.5%（679 人）、「少し興味を感じる」は 24.1%（1,307 人）であり、これらを合計すると回答者の 42.1%（2,282 人）が臨床検査技師の国家資格取得に興味を持っていると言える。同様に、大

学進学希望者について見ると、「大変興味を感じる」は 6.0% (241 人)、「興味を感じる」は 13.7% (547 人)、「少し興味を感じる」は 25.0% (1,001 人) であり、これらを合計すると大学進学希望者の 44.7% (1,789 人) が臨床検査技師の国家資格取得に興味を持っていると言える。

【臨床工学技士】

臨床工学技士の国家資格取得への興味について尋ねたところ、「大変興味を感じる」は 4.1% (222 人)、「興味を感じる」は 11.0% (597 人)、「少し興味を感じる」は 23.9% (1,294 人) であり、これらを合計すると回答者の 39.0% (2,113 人) が臨床工学技士の国家資格取得に興味を持っていると言える。同様に、大学進学希望者について見ると、「大変興味を感じる」は 4.1% (165 人)、「興味を感じる」は 11.7% (468 人)、「少し興味を感じる」は 25.1% (1,004 人) であり、これらを合計すると大学進学希望者の 40.9% (1,637 人) が臨床工学技士の国家資格取得に興味を持っていると言える。

3) 医療保健学部医療技術学科の進学意向 (問 11)

医療保健学部医療技術学科への進学について尋ねたところ、「ぜひ進学したいと思う」は 2.0% (109 人) であり、医療保健学部医療技術学科の入学定員 60 人を超えている。また、「進学先の 1 つとして検討すると思う」は 15.0% (811 人) であり、これらを合計した値を潜在的な進学希望者と考えると、今回のアンケート調査において医療保健学部医療技術学科への潜在的な進学希望者は回答者の 17.0% (920 人) いると言える。同様に、大学進学希望者について見ると、「ぜひ進学したいと思う」は 1.8% (73 人) であり、大学進学希望者に限ってみても入学定員の 60 人を超える進学希望者が存在している。また、「進学先の 1 つとして検討すると思う」は 16.2% (647 人) であり、合計すると 18.0% (720 人) が潜在的な進学希望者と言える。

これらの結果から、高校生の医療保健学部医療技術学科への関心、臨床検査技師、臨床工学技士の国家試験受験資格に対する興味は高く、本学部への進学希望者は 73 人であり、入学定員 60 人に対して、約 1.22 倍に該当する進学希望者がいることから、定員充足の見通しは良好であると考えられる。

(3) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金の設定にあたり、入学定員60人、収容定員240人を想定、完成年度での収支の均衡を基本として、競合すると考えられる北陸3県及び近隣県私立大学の平成27年度の学生納付金「既設学部並びに競合校等の学生納付金の状況」【資料8】を参考に設定した。その結果、入学金20万円（初年度のみ）、授業料110万円、教育充実費40万円と設定した。

(4) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

既設学部の入学定員未充足の原因分析や学生確保の取組における不十分な点については既に述べてきたが、医療保健学部の学生確保については、その要因を十分に踏まえ、次の4点を学生確保の柱とする。

①地域社会や社会的ニーズに鑑み適切な入学定員設定を行う。②高校生や社会にわかりやすい学部学科名称とし、教育内容を明確に伝えられるよう努める。③高校教諭対象の進学説明会、オープンキャンパス等のイベントについては、適切な時期に適切な回数を行い、積極的に高校教諭、保護者、高校生に学部学科の周知を行う。特に臨床検査技師と臨床工学技士の将来性や業務内容等について、業務体験やリーフレットを通じて理解が深まるよう、特化した広報を展開する。またマスメディアを通じた広報も継続し認知度を高めていく。④社会から求められる人材を養成するためのカリキュラムを編成し、学生一人ひとりにきめ細やかに指導を行い、実験・実習科目など実践的科目を通じて医療現場で求められる知識・技能を身につけさせた上で、教育成果を明確に出す。

医療保健学部医療技術学科の学生確保に向けた具体的な取組みとしては、設置認可申請書の提出に合わせて、設置申請前は「構想中」とし、設置申請後は「設置認可申請中」として、広報活動を展開する。設置認可後は学生募集活動に切り替え、明確に志願者、高等学校関係者等に医療保健学部医療技術学科に関する内容を説明できるよう努める。医療保健学部医療技術学科を含めたPR活動については、高等学校関係者を対象にした企画と、受験生とその保護者を対象とした企画を展開し、いずれの場合にもメディア等を通じた広報によって、企画の内容を十分に周知したうえで実施するように配慮している。

① 高校訪問（高等学校進路指導部）

本学では例年約1300校へ高校訪問を実施しており、今年度は例年以上に高校数を増やし、既存学部学科の高校訪問に併せて、医療保健学部医療技術学科のPRを実施する。北陸3県及び近隣県（新潟県、長野県、岐阜県）を中心に行い、設置認可後には北陸3県を重点的に訪問し、各高校を3～4回以上訪問するほか、予備校・塾等についても訪問する。北陸3県については石川県内の高校長経験者を専任担当者として配置し、継続的にネットワークを構築できるような体制を整えている。

② 高校教諭対象進学説明会（高等学校進路指導部）

北陸3県の高校教諭を対象に本学独自の説明会を行い、既存学部学科と併せて医療保健学部医療技術学科の教育内容及び進路等を紹介することにより、理解促進の機会とする。平成28年度は、従来実施の石川県（本学）及び富山県に加え、福井県でも新たに開催する。

③ オープンキャンパス（受験生、保護者）

既存学部学科のオープンキャンパスに併せて医療保健学部医療技術学科に関する

紹介を行い、設置認可後、医療保健学部医療技術学科単独でのオープンキャンパスを開催し、校舎見学会など展開するとともに募集要項の配布・説明を行う。受験生・保護者にとって大学全体の雰囲気や学部学科・学生生活等をより身近に感じ取ることができ、在学生とも直接対話ができる機会として、効果的な学生確保のための取り組みの一つと位置付けている。平成27年（2015）度は6回のオープンキャンパスを実施し、平成28（2016）年度は7回の開催を予定しており、医療保健学部医療技術学科に関する説明機会を多く設け、広く周知を図る予定である。

④ 学外進学相談会（受験生、保護者）

進学支援業者主催の進学相談会への参画を昨年の51回から今年度は109回に増やし、募集要項などの配布・説明を行う。北陸3県で開催される相談会を中心に参加するが、新潟県、長野県、岐阜県、沖縄県などで開催される相談会にも参加し、各地域からの進学希望者の要望に応じて、受験生の確保に努める。

⑤ 紙媒体パンフレット等の作成、配布

平成27（2015）年11月より、アンケート調査実施時に「構想中」と明記したリーフレットを配布した。平成28年3月下旬からは、同じく「構想中」と明記した大学案内ダイジェスト版を作成し配布する。これらの印刷物は高校訪問・ガイダンス、進学相談会及びオープンキャンパスにおいて配布、さらに本学の資料請求者へも送付する。平成28（2016）年5月から「設置認可申請中」と明記し、より内容を深めた大学案内を作成、活用する。また、設置認可後には、医療保健学部医療技術学科単独のパンフレット及び入試ガイドを作成し配布する予定である。

⑥ 資料請求者・高等学校・合格者への情報発信

資料請求者やイベント参加者等、本学保有リストに対し、通年で計8回、本学資料やイベント案内等のDMを送付する。紙媒体パンフレット等の発行時期に合わせ、高等学校・予備校・塾等にも随時送付する。また、入試合格者に対しても継続的にDMを製作・送付し情報発信する。

⑦ 進学情報誌等

ベネッセコーポレーション、リクルート他の進学情報誌・サイトに出稿する。大学の情報として「構想中」「設置認可申請中」「学部開設」であることを明記し、本学の医療保健学部医療技術学科の内容について明確に伝わるよう受験者に告知を行う。

⑧ 電子媒体（Web）

既存の本学ホームページに加えて、平成28（2016）年1月から医療保健学部医療技術学科・学科の構想内容を記載した特設ページを設け情報発信を行うとともに、「認可申請後」は、デザインを一新して新たな受験生専用サイトを開設する。その他、Web広告やソーシャルネットワーキングサービス、メールマガジン等を活用し適宜情報発信する。

⑨ マスメディア・交通広告

北陸3県の地元新聞（北國新聞、北日本新聞、福井新聞）に医療保健学部医療技術学科設置に関する紹介の広告をイベント及び入試時期と合わせて毎月掲載する。内容としては医療保健学部医療技術学科の教育の特色やオープンキャンパス等に関連するイベント情報、入試概要の告知とし、本学個々の企画に関する情報も同時に発信する。このほか、テレビCMを新たに制作し、新聞広告と出稿時期・エリアを合わせ重点的に展開する。北陸3県主要駅に屋外看板を設置し、石川県、富山県には路線バスに広報用ラッピングバスを運行させる。これらは、平成27（2015）年の創立40周年に合わせ新規策定したロゴマークやビジュアルイメージ等、統一的なブランディング戦略の基に展開することで効果向上を図る。また、報道機関に向け積極的に情報提供・告知・発表を行い、本学の教育に関する事項を記事として取り扱ってもらうように努める。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

医療保健学部医療技術学科では、医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識・技能を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者の育成を人材養成の目的及び教育研究上の目的とする。これらの教育研究上の目的を達成するため、「生命倫理や人の尊厳を理解し、医療人として幅広い教養と科学的・論理的思考、生涯学び続ける基礎的な態度」「医学的基礎知識や医療情勢を理解し、チーム医療に必要なコミュニケーション能力」「臨床検査学、臨床工学の確かな知識と技能をもって医療現場で活躍できる実践能力」「科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力と探究する素養」を身につけることを教育目標とする。

(2) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

社会的人材需要の観点から、臨床検査技師、臨床工学技士の経年推移を見てみると、臨床検査技師数は平成21（2009）年の48,055.4人から平成26（2014）年では52,961.5人で約1,000人ずつ毎年増加している。各施設の臨床工学技士数は平成21（2009）年の12,837.8人から平成26（2014）年では17,918.9人で約1,000人ずつ毎年増加している。

【資料9】

全国的に医療現場において、臨床検査技師、臨床工学技士の社会的ニーズは高くなっており、医療の高度化が進むにあたり、今後も増加傾向にあると考えられる。

次に、地域的な人材需要の動向を踏まえるため、臨床検査技師、臨床工学技士の採用ニーズに関する調査を行うため、第三者機関によるアンケート調査を行った。調査結果

の概要は以下のとおりである。【資料 10、11、12】

① アンケート調査の目的

臨床検査技師、臨床工学技士国家試験受験資格の取得を目指した「医療保健学部 医療技術学科（仮称）」の設置について、事業所や医療機関・施設等の採用意向等を把握するためにアンケート調査を実施した。

② 調査対象

21 都道府県及びその他所在の 1,131 事業所（都道府県の詳細は以下のとおり）

石川県	富山県	福井県	長野県	新潟県	岐阜県	北海道	群馬県
埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	静岡県	愛知県	滋賀県	京都府
大阪府	兵庫県	広島県	福岡県	その他			

調査対象の選定方法は本学所在地が石川県金沢市であるため、北陸 3 県（石川県、富山県、福井県）及び近隣県（長野県、新潟県、岐阜県）の臨床検査技師、臨床工学技士が勤務している病院・クリニック等及び北陸 3 県、近隣県を中心に関東、関西、東海地区等大都市圏等の検査センター、医療機器関連企業、医療薬品関連企業とした。

③ 調査実施時期

平成 27 年 12 月～平成 28 年 1 月にかけて調査を実施した。

④ 調査方法

本学よりアンケート調査票を配布し、調査票の回収に当たっては、一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

⑤ 回収状況

有効回答票 180 票 回収率 15.9%（180 件÷1,131 件×100）

⑥ 調査結果の概要

1) 過去 3 年間（平成 25 年度～27 年度）の採用実績（問 3）

各事業所における過去 3 年間の採用実績を尋ねたところ、臨床検査技師の採用実績については、事業所等の規模等でばらつきがあるものの、採用人数の 3 年間の合計は 294 人（内 4 年制大学卒は 188 人）であり、平均すると毎年 98.0 人（同 62.7 人）が採用されている。

臨床工学技士の採用実績についても同様に、事業所等の規模等でばらつきがあるものの、採用人数の 3 年間の合計は 166 人（内 4 年制大学卒は 54 人）であり、平均すると毎年 55.3 人（同 18.0 人）が採用されている。

2) 充足状況（問 4）

各事業所における臨床検査技師、臨床工学技士の充足状況について尋ねたところ、臨床検査技師については、「充足している」が 51.7%（93 事業所）であり、回答事業所の約半数は充足している。「大きく不足している」は 2.2%（4 事業所）、「やや不足している」は 18.9%（34 事業所）であり、これらを合計すると、臨床検査技師が不足している事業所は 21.1%（38 事業所）となっている。

臨床工学技士については、「充足している」が 31.1% (56 事業所) であり、回答事業所の約 3 分の 1 は充足している。「大きく不足している」は 5.0% (9 事業所)、「やや不足している」は 19.4% (35 事業所) であり、これらを合計すると、臨床工学技士が不足している事業所は 24.4% (44 事業所) となっている。

3) 医療保健学部医療技術学科の社会的必要性 (問 7)

各事業所において、医療保健学部医療技術学科の社会的な必要性について尋ねたところ、「とても必要である」は 12.8% (23 事業所)、「必要である」は 45.6% (82 事業所) であり、これらを合計すると、58.4% (105 事業所) が医療保健学部医療技術学科の設置について社会的な必要性があると回答している。

4) 医療保健学部医療技術学科卒業生に対する採用意向 (問 8)

各事業所における医療保健学部医療技術学科卒業生に対する採用意向を尋ねたところ、臨床検査技師のみ資格保持者については、「採用したい」は 7.2% (13 事業所)、「採用を検討したい」は 41.1% (74 事業所) であり、これらを合計すると、採用に関心があるのは 48.3% (87 事業所) である。

臨床工学技士のみ資格保持者については、「採用したい」は 7.2% (13 事業所)、「採用を検討したい」は 40.0% (72 事業所) であり、これらを合計すると、採用に関心があるのは 47.2% (85 事業所) である。

臨床検査技師及び臨床工学技士の両資格保持者については、「採用したい」は 11.1% (20 事業所)、「採用を検討したい」は 41.7% (75 事業所) であり、これらを合計すると、採用に関心があるのは 52.8% (95 事業所) である。

臨床検査技師、臨床工学技士の採用意向は 40% を超え、臨床検査技師、臨床工学技士の両資格保持者については 50% を超えている。臨床検査技師、臨床工学技士ともに高い採用ニーズが伺えるが、両資格保持者がより求められていることが伺える。

5) 医療保健学部医療技術学科卒業生の採用人数 (問 9)

採用に関心がある事業所（「採用したい」もしくは「採用を検討したい」を回答した事業所）において、毎年何人程度採用したい尋ねたところ、臨床検査技師の資格保持者については、「その他」が 60.2% (62 事業所) で最も多く、現時点では人数未定や欠員の状況によるなどの回答が多いが、「1 人」という回答が 22.3% (23 事業所) あるほか、「3 人」が 1.0% (1 事業所)、「4 人以上」が 1.9% (2 事業所) となっている。臨床工学技士の資格保持者については、「その他」が 54.4% (56 事業所) で最も多く、現時点では人数未定や欠員の状況によるなどの回答が多いが、「1 人」という回答が 25.2% (26 事業所) あるほか、「2 人」が 1.9% (2 事業所)、「4 人以上」が 1.0% (1 事業所) となっている。

これらの結果から、医療保健学部医療技術学科では臨床検査技師及び臨床工学技士の両資格が取得可能であり、入学定員は 60 人であるが、今回のアンケート調査の範囲に限

ってみても、卒業生の採用に関心がある事業所数は入学定員数を超えており、人材需要の見通しは良好である。

学生確保の見通し等を記載した書類

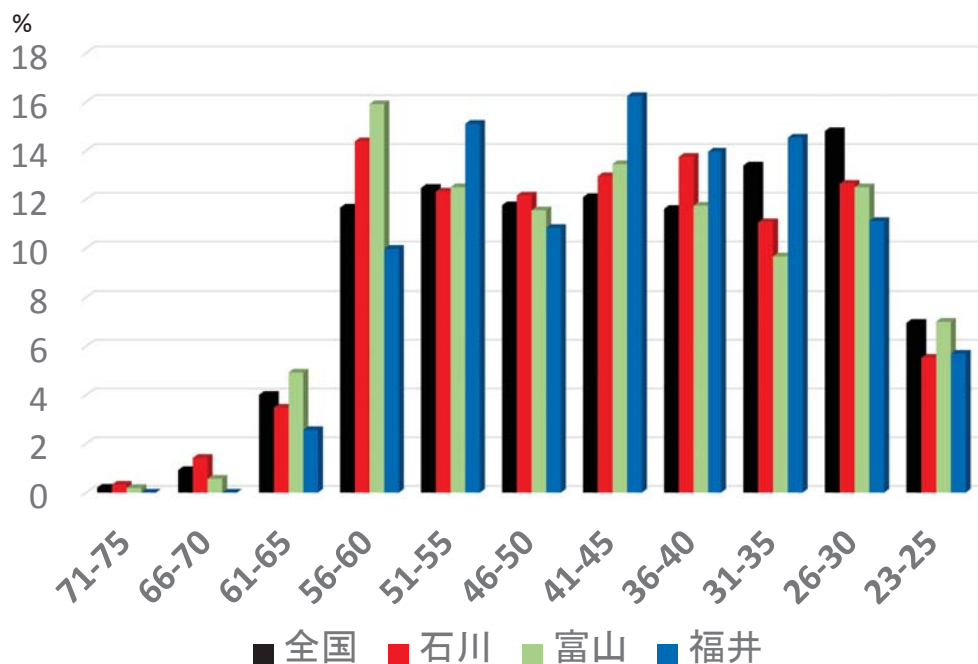
資料の目次

資料 1	全国・北陸における臨床検査技師の従事者動向
資料 2	石川県内医療施設における病床数と臨床工学技士の人数分布
資料 3	既設学部学科の入学定員、志願者、受験者、合格者、入学者、入学定員超過率
資料 4	全国の医療系学部入学志願者数、入学者数の経年推移
資料 5	全国の臨床検査技師、臨床工学技士を養成する大学の志願状況
資料 6	近隣県における競合大学同系学部学科の開設状況と入学志願者数、入学者数等の状況
資料 7	北陸大学医療保健学部医療技術学科設置に関する高校生アンケート調査 結果報告書
資料 8	既設学部及び競合校等における学生納付金の状況
資料 9	臨床検査技師数、臨床工学技士数における経年推移
資料10	北陸大学医療保健学部医療技術学科設置に関する事業所アンケート調査報告書
資料11	アンケート調査票（高校生・事業所）
資料12	アンケート調査用リーフレット
資料13	アンケート調査用 競合校等の学生納付金一覧

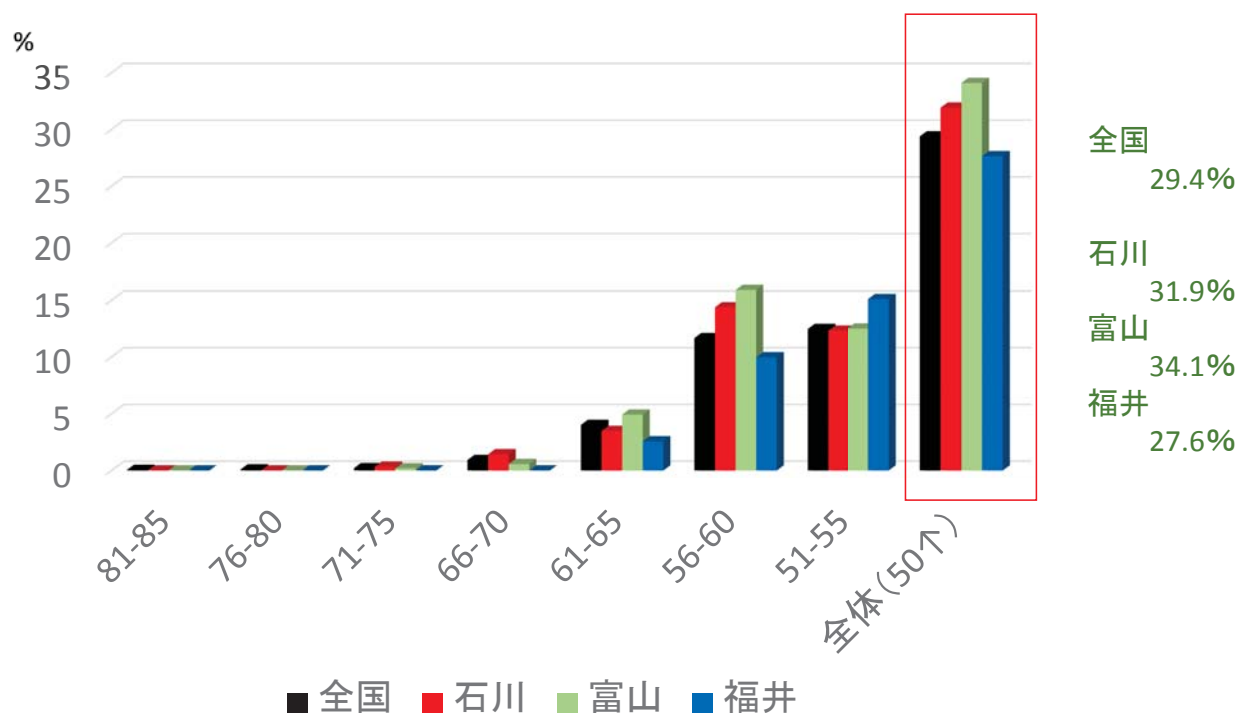
全国・北陸における実働・臨床検査技師の動向 2015.3

	日本臨床衛生検査技師会				石川県臨床衛生検査技師会				富山県臨床衛生検査技師会				福井県臨床衛生検査技師会			
年齢	男性	女性	全体	(%)	男性	女性	全体	(%)	男性	女性	全体	(%)	男性	女性	全体	(%)
81-85	26	2	28	0.1	0	0	0	0.0		0	0	0.0	0	0	0	0.0
76-80	39	6	45	0.1	0	0	0	0.0		0	0	0.0	0	0	0	0.0
71-75	83	26	109	0.2	2	0	2	0.3	1	0	1	0.2	0	0	0	0.0
66-70	339	160	499	0.9	5	4	9	1.4	2	1	3	0.6	0	0	0	0.0
61-65	1009	1177	2186	4.0	9	13	22	3.5	9	17	26	4.9	5	4	9	2.6
56-60	2924	3429	6353	11.7	40	51	91	14.4	26	58	84	15.9	15	20	35	10.0
51-55	2848	3944	6792	12.5	22	56	78	12.3	25	41	66	12.5	16	37	53	15.1
46-50	2202	4203	6405	11.8	18	59	77	12.2	14	47	61	11.6	11	27	38	10.8
41-45	1784	4801	6585	12.1	13	69	82	13.0	14	57	71	13.4	13	44	57	16.2
36-40	1519	4809	6328	11.6	10	77	87	13.7	14	48	62	11.7	8	41	49	14.0
31-35	1793	5501	7294	13.4	12	58	70	11.1	10	41	51	9.7	11	40	51	14.5
26-30	2335	5730	8065	14.8	18	62	80	12.6	13	53	66	12.5	10	29	39	11.1
23-25	943	2850	3793	7.0	4	31	35	5.5	4	33	37	7.0	6	14	20	5.7
	17844	36638	54482		153	480	633		132	396	528		95	256	351	

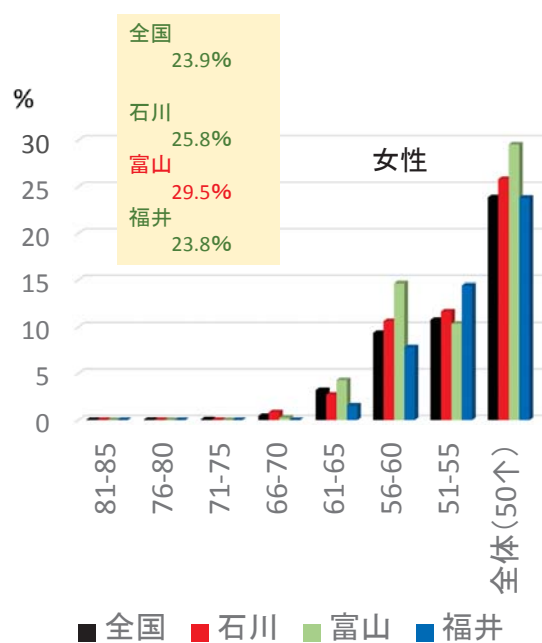
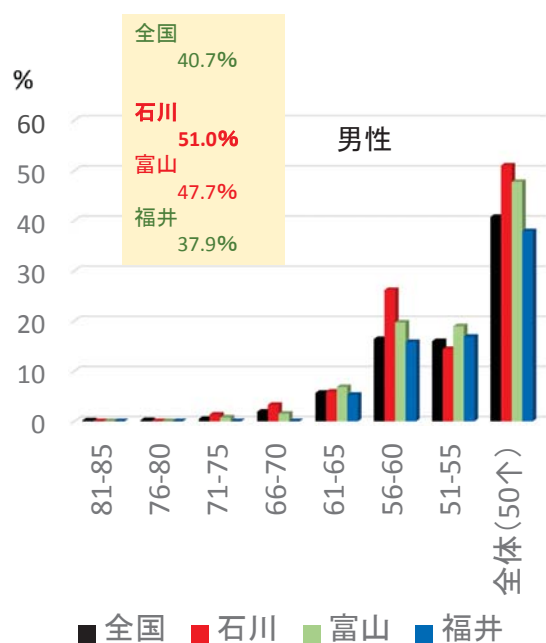
全国・北陸における実働・臨床検査技師の動向 2015.3

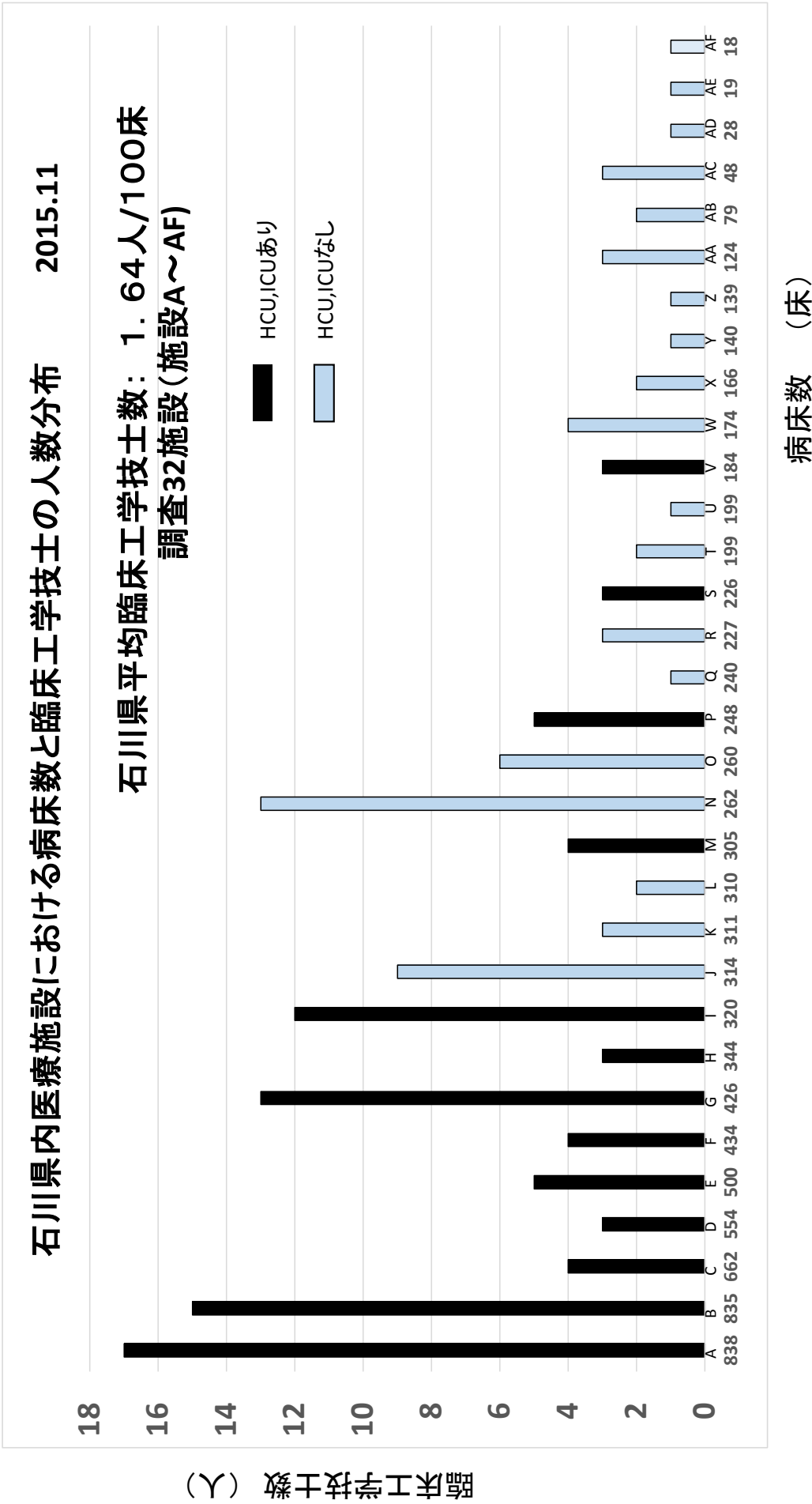


全国・北陸における50歳以上の実働・臨床検査技師の動向・1 2015.3



全国・北陸における50歳以上の実働・臨床検査技師の動向・2（性差） 2015.3





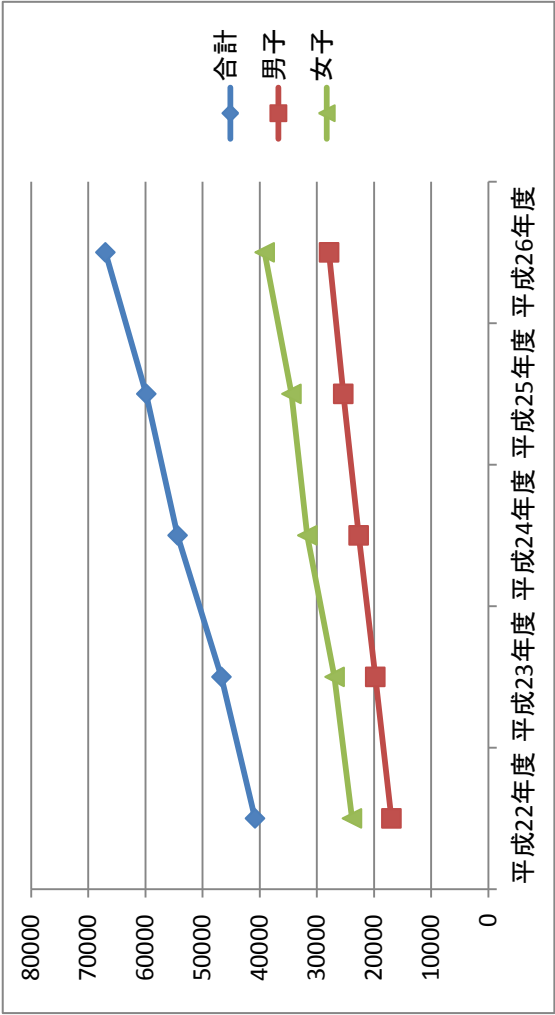
既設学部・学科の入学定員、志願者、受験者、合格者、入学者、入学定員超過率

学部	学科		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
薬学部	薬学科	入学定員	306	306	306	306	306	632.2
		志願者	417	451	822	777	694	
		受験者	406	440	804	757	678	617
		合格者	383	417	710	644	517	534.2
		入学者	169	183	290	249	151	208.4
		入学定員超過率	0.55	0.59	0.94	0.83	0.49	0.68
		入学定員	100	100	100	100	100	203.8
未来創造学部	国際マネジメント学科	志願者	233	188	189	222	187	
		受験者	227	183	184	221	187	200.4
		合格者	204	176	172	204	175	186.2
		入学者	161	135	112	121	106	127
		入学定員超過率	1.61	1.35	1.12	1.21	1.06	1.27
	国際教養学科	入学定員	100	100	100	100	100	105.2
		志願者	70	96	106	99	155	
		受験者	69	95	104	97	151	103.2
		合格者	65	92	103	93	145	99.6
		入学者	28	46	67	39	59	47.8
		入学定員超過率	0.28	0.46	0.67	0.39	0.59	0.48

全国の医療系学部入学志願者数の経年推移

表：学部別入学志願者数の推移

	平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年		
	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子
保健医療学部	15,299	6,501	8,798	19,636	8,570	11,066	21,438	9,462	11,976	24,088	10,901	13,187	29,809	12,856	16,953
医療技術学部	10,946	5,343	5,503	10,001	4,963	5,038	13,062	6,139	6,923	13,110	6,039	7,071	13,264	6,100	7,164
医療保健学部	6,083	1,930	4,153	8,199	2,876	5,323	9,913	3,566	6,347	11,028	4,153	6,875	12,067	4,618	7,449
医療科学部	3,435	1,507	1,928	3,952	1,861	2,091	4,788	1,890	2,898	5,471	2,257	3,214	5,349	2,196	3,153
保健科学部	5,167	1,681	3,486	4,905	1,517	3,388	5,169	1,637	3,532	6,145	2,038	4,107	6,513	2,094	4,419
合計	40,830	16,962	23,868	46,693	19,787	26,906	54,370	22,694	31,676	59,842	25,388	34,454	67,002	27,864	39,138



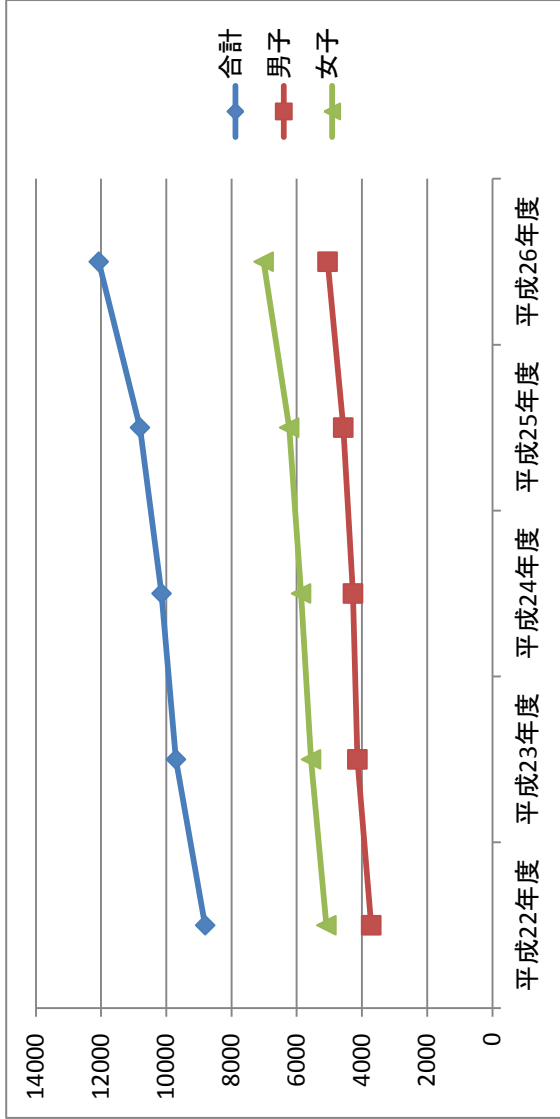
図：医療系学部合計 男女別入学志願者数の推移

※ 学校基本調査報告書 高等教育機関 編（平成22年～26年度）を元に作成

全国の医療保健系学部入学者数の経年推移

表：学部別入学者数の推移

	平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年		
	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子
保健医療学部	3,373	1,388	1,985	4,305	1,851	2,454	4,614	1,972	2,642	5,098	2,154	2,944	5,904	2,499	3,405
医療技術学部	1,802	962	840	1,899	982	917	1,869	951	918	1,862	927	935	2,105	997	1,108
医療保健学部	1,412	488	924	1,407	473	934	1,417	520	897	1,513	556	957	1,728	677	1,051
医療科学部	833	396	437	841	403	438	986	430	556	986	468	518	1,025	480	545
保健科学部	1,387	482	905	1,252	432	820	1,259	403	856	1,348	469	879	1,309	402	907
合計	8,807	3,716	5,091	9,704	4,141	5,563	10,145	4,276	5,869	10,807	4,574	6,233	12,071	5,055	7,016



図：医療系学部合計 男女別入学志願者数の推移

※ 学校基本調査報告書 高等教育機関 編（平成22年～26年度）を元に作成

臨床検査技師を養成する大学の志願状況

	大学名称	学部名称	学科名称	専攻名称	入学 定員	平成25年				平成26年				平成27年				備考			
						志願者 人数	受験者 人数	合格者 人数	志願倍率 志願者数／入学定員	志願者 人数	受験者 人数	合格者 人数	志願倍率 志願者数／入学定員	志願者 人数	受験者 人数	合格者 人数	志願倍率 志願者数／入学定員				
1	つくば国際大学	医療保健学部	臨床検査学科		80					159	152	143	2.0	1.8	271	261	148	3.4	1.9	平成26年開設	
2	国際医療福祉大学	福岡保健医療学部	医学検査学科		80	459	458	202	5.7	2.5	636	630	118	8.0	1.5	403	401	152	5.0	1.9	
3	群馬パース大学	保健科学部	検査技術学科		60	データなし	269	94	データなし	データなし	232	130	データなし	データなし	2.2	データなし	345	129	データなし	2.2	
4	埼玉医科大学	保健医療学部	健康医療科学科		70	164	160	85	2.3	1.2	123	119	91	1.8	1.3	169	166	106	2.4	1.5	
5	千葉科学大学	危機管理学部	医療危機管理学科		80	202	196	97	2.5	1.2	226	222	117	2.8	1.5	249	244	151	3.1	1.9	
6	北里大学	医療衛生学部	医療検査学科		90	823	788	206	9.1	2.3	717	682	167	8.0	1.9	624	595	197	6.9	2.2	
7	杏林大学	保健学部	臨床検査技術学科		80	1211	1187	216	15.1	2.7	1205	1170	226	15.1	2.8	1032	1016	230	12.9	2.9	
8	帝京大学	医療技術学部	臨床検査学科		80	1150	1108	107	14.4	1.3	1145	1104	132	14.3	1.7	1065	1019	120	13.3	1.5	
9	東京工科大学	医療保健学部	臨床検査学科		80						597	586	105	7.5	1.3	375	370	97	4.7	1.2	平成26年開設
10	文京学院大学	保健医療技術学部	臨床検査学科		80	657	543	139	8.2	1.7	589	469	150	7.4	1.9	657	520	194	8.2	2.4	
11	麻布大学	生命・環境科学部	臨床検査技術学科		80	754	734	181	9.4	2.3	729	695	206	9.1	2.6	615	567	192	7.7	2.4	
12	桐蔭横浜大学	医用工学部	生命医工学科		40	203	192	126	5.1	3.2	192	181	130	4.8	3.3	310	281	135	7.8	3.4	
13	新潟医療福祉大学	医療技術学部	臨床技術学科		80	503	492	177	6.3	2.2	472	462	158	5.9	2.0	493	486	160	6.2	2.0	
14	岐阜医療科学大学	保健科学部	臨床検査学科		80	480	477	215	6.0	2.7	530	526	226	6.6	2.8	427	422	276	5.3	3.5	
15	中部大学	生命健康科学部	生命医科学科		80	399	390	131	5.0	1.6	503	495	137	6.3	1.7	342	338	142	4.3	1.8	
16	藤田保健衛生大学	医療科学部	臨床検査学科		95	723	718	273	7.6	2.9	758	748	259	8.0	2.7	525	520	241	5.5	2.5	
17	鈴鹿医療科学大学	保健衛生学部	医療栄養学科	臨床検査	40	334	330	98	8.4	2.5	361	356	97	9.0	2.4	305	302	100	7.6	2.5	
18	長浜バイオ大学	バイオサイエンス学部	バイオサイエンス学科		148	1270	1252	604	8.6	4.1	1574	1523	619	10.6	4.2	1271	1241	705	8.6	4.8	
			コンピュータバイオサイエンス学科		40	319	309	187	8.0	4.7	397	389	223	9.9	5.6	277	273	233	6.9	5.8	
			アニマルバイオサイエンス学科		50	519	513	229	10.4	4.6	675	662	200	13.5	4.0	542	535	302	10.8	6.0	
19	関西医療大学	保健医療学部	臨床検査学科		50	257	243	92	5.1	1.8	402	386	83	8.0	1.7	489	455	93	9.8	1.9	
20	神戸常盤大学	保健科学部	医療検査学科		80	337	336	167	4.2	2.1	367	363	157	4.6	2.0	データなし	データなし	データなし	データなし	平成27年はデータなし	
21	天理医療大学	医療学部	臨床検査学科		30	49	42	27	1.6	0.9	58	54	28	1.9	0.9	55	49	33	1.8	1.1	
22	岡山理科大学	理学部	臨床生命科学科		85	777	753	401	9.1	4.7	654	628	344	7.7	4.0	456	449	308	5.4	3.6	
23	倉敷芸術科学大学	生命科学部	生命科学学科		50	212	209	101	4.2	2.0	259	255	116	5.2	2.3	248	244	113	5.0	2.3	
24	広島国際大学	保健医療学部	医療技術学科	臨床検査学	40	487	432	124	12.2	3.1	488	455	155	12.2	3.9	580	517	181	14.5	4.5	
25	純真学園大学	保健医療学部	検査科学科		60	253	251	104	4.2	1.7	277	265	115	4.6	1.9	221	210	118	3.7	2.0	
26	熊本保健科学大学	保健科学部	医学検査学科		100	541	538	187	5.4	1.9	526	525	191	5.3	1.9	400	399	190	4.0	1.9	
27	九州保健福祉大学	生命医科学部	生命医科学科		60											157	143	109	2.6	1.8	平成27年開設
合計					2068	13083	12920	4570	6.3	2.2	14619	14334	4823	7.1	2.3	12558	12368	5155	6.1	2.5	
平均					71.3	523.3	496.9	175.8	7.1	2.4	541.4	511.9	172.3	7.4	2.4	465.1	441.7	184.1	6.6	2.6	

臨床工学技士を養成する大学の志願状況

	大学名称	学部名称	学科名称	専攻名称	入学 定員	平成25年				平成26年				平成27年				備考			
						志願者 人数	受験者 人数	合格者 人数	志願倍率	志願者 人数	受験者 人数	合格者 人数	志願倍率	志願者 人数	受験者 人数	合格者 人数	志願倍率				
						志願者数/入学定員				志願者数/入学定員				志願者数/入学定員							
1	北海道科学大学	保健医療学部	臨床工学科		70					793	745	282	11.3	4.0	10.7	3.3	平成26年開設				
2	埼玉医科大学	保健医療学部	医用生体工学科		40	68	68	50	1.7	1.3	83	81	56	2.1	1.4	2.2	1.4				
3	日本医療科学大学	保健医療学部	臨床工学科		40	225	224	53	5.6	1.3	150	149	88	3.8	2.2	229	225	2.2			
4	千葉科学大学	危機管理学部	医療危機管理学科		80	202	196	97	2.5	1.2	306	302	197	3.8	2.5	249	244	1.9			
5	北里大学	医療衛生学部	医療工学科	臨床工学	38	295	278	78	7.8	2.1	249	236	61	6.6	1.6	290	279	1.6			
6	杏林大学	保健学部	臨床工学科	臨床工学	40	429	421	99	10.7	2.5	412	404	119	10.3	3.0	466	443	2.9			
7	帝京科学大学	生命環境学部	生命科学科	臨床工学	20	316	304	31	15.8	1.6	286	279	39	14.3	2.0	338	325	1.7			
8	帝京大学	福岡医療技術学部	医療技術学科		80											146	144	83	1.8	1.0	平成27年開設
9	帝京平成大学	健康メディカル学部	医療科学科	臨床工学	80	343	320	122	4.3	1.5	312	294	152	3.9	1.9	447	426	189	5.6	2.4	
10	東海大学	工学部	医用生体工学科		60	317	306	120	5.3	2.0	409	396	168	6.8	2.8	470	453	143	7.8	2.4	
		基盤工学部	医療福祉工学科		60	102	98	63	1.7	1.1	164	155	105	2.7	1.8	134	129	71	2.2	1.2	
11	東京工科大学	医療保健学部	臨床工学科		80	1403	1380	285	17.5	3.6	1357	1337	358	17.0	4.5	922	909	371	11.5	4.6	
12	日本大学	工学部	機械工学科		180	558	523	513	3.1	2.9	683	637	407	3.8	2.3	739	697	476	4.1	2.6	推薦入試を除く
			電気電子工学科		180	341	312	308	1.9	1.7	405	369	338	2.3	1.9	490	453	364	2.7	2.0	推薦入試を除く
13	神奈川工科大学	工学部	臨床工学科		40											230	223	86	5.8	2.2	平成27年開設
14	桐蔭横浜大学	医用工学部	臨床工学科		40	163	155	104	4.1	2.6	161	153	99	4.0	2.5	264	237	137	6.6	3.4	
15	新潟医療福祉大学	医療技術学部	臨床技術学科		80	503	492	177	6.3	2.2	472	462	158	5.9	2.0	493	486	160	6.2	2.0	
16	中部大学	生命健康科学部	臨床工学科		40	270	257	82	6.8	2.1	277	273	112	6.9	2.8	447	444	84	11.2	2.1	
17	藤田保健衛生大学	医療科学部	臨床工学科		40	256	255	116	6.4	2.9	243	243	124	6.1	3.1	284	283	121	7.1	3.0	
18	鈴鹿医療科学大学	医用工学部	臨床工学科		40	371	368	160	9.3	4.0	245	243	136	6.1	3.4	366	362	93	9.2	2.3	
19	藍野大学	医療保健学部	臨床工学科		40	152	148	78	3.8	2.0	122	119	60	3.1	1.5	134	122	75	3.4	1.9	
20	大学阪電気通信大学	医療福祉工学部	医療福祉工学科		80	156	150	62	2.0	0.8	122	116	58	1.5	0.7	133	125	61	1.7	0.8	
21	近畿大学	生物理工学部	医用工学学科		50	490	483	166	9.8	3.3	595	550	166	11.9	3.3	749	675	220	15.0	4.4	
22	姫路獨協大学	医療保健学部	臨床工学科		40	220	196	150	5.5	3.8	99	84	80	2.5	2.0	186	141	125	4.7	3.1	
23	岡山理科大学	工学部	生命医療工学科		60	409	393	278	6.8	4.6	397	385	284	6.6	4.7	298	288	258	5.0	4.3	
24	川崎医療福祉大学	医療技術学部	臨床工学科		60	305	302	129	5.1	2.2	221	219	148	3.7	2.5	269	266	133	4.5	2.2	
25	倉敷芸術科学大学	生命科学部	生命科学科		50	119	116	100	2.4	2.0	155	151	129	3.1	2.6	139	135	118	2.8	2.4	
26	広島工業大学	生命学部	生体医工学科		60	354	348	73	5.9	1.2	277	274	145	4.6	2.4	249	244	168	4.2	2.8	
27	広島国際大学	保健医療学部	医療技術学科	臨床工学	50	347	298	162	6.9	3.2	310	282	185	6.2	3.7	424	378	187	8.5	3.7	
28	東亜大学	医療学部	医療工学科		80	91	87	83	1.1	1.0	79	79	76	1.0	1.0	96	92	85	1.2	1.1	
29	徳島文理大学	保健福祉学部	臨床工学科		45	1184	1149	530	26.3	11.8	100	73	73	2.2	1.6	1065	1049	502	23.7	11.2	
30	純真学園大学	保健医療学部	医療工学科		40	60	31	30	1.5	0.8	66	55	54	1.7	1.4	72	65	47	1.8	1.2	
31	長崎総合科学大学	工学部	工学科		150						100	100	75	0.7	0.5	121	121	83	0.8	0.6	平成26年開設
32	九州保健福祉大学	保健科学部	臨床工学科		40	69	67	49	1.7	1.2	85	80	66	2.1	1.7	65	63	44	1.6	1.1	
		合計			2173	10118	9705	4348	4.7	2.0	9735	9252	4598	4.5	2.1	11840	11325	5218	5.4	2.4	
		平均			63.9	337.3	323.5	144.9	6.3	2.5	304.2	298.5	143.7	5.3	2.3	348.2	333.1	153.5	6.4	2.6	

※株式会社進研アド 提供データより、北陸大学作成

近隣県における競合大学同系学部学科の開設状況と入学志願者数、入学者数等の状況

過去5年間の志願者数、入学者数、入学定員充足率

新潟医療福祉大学		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	備考
医療技術学部 臨床技術学科	入学定員数	80	80	80	80	80	平成23、24年度の志願者数は公開されていない。
	志願者数			543	508	537	
	入学者数	99	97	100	100	100	
	入学定員充足率	1.24	1.21	1.25	1.25	1.25	

※入学定員充足率…(入学者数／入学定員数)

※新潟医療福祉大学ホームページ公開情報から北陸大学が作成

平成27年度入学者数及び在籍学生数

岐阜医療科学大学	入学者数	1年次	2年次	3年次	4年次	入学定員	備考
保健科学部 臨床検査学科	112	116	110	84	102	80	

※岐阜医療科学大学ホームページ公開情報から北陸大学が作成

北陸大学医療保健学部医療技術学科設置に関する

高校生アンケート調査

報 告 書

平成 28 年 2 月

一般財団法人 日本開発構想研究所

目 次

I アンケート調査概要	1
II アンケート調査結果の概要	7
(1) 集計結果の概要	7
(2) 学生確保の見通しについて	10
III アンケート集計結果表	15

I アンケート調査概要

1. アンケート調査の目的

北陸大学では平成 29 年 4 月の開設に向けて、臨床検査技師や臨床工学技士の国家試験受験資格の取得を目指した「医療保健学部医療技術学科（仮称）」の設置準備を進めており、高校生の進学意向等を把握するために、北陸 3 県（石川県、富山県、福井県）及び岐阜県の高校等を対象にアンケート調査を実施した。

2. 実施アンケート

- ◆ 北陸大学「医療保健学部医療技術学科（仮称）」設置に関するアンケート調査

3. 調査対象

これまでに北陸大学に進学実績がある高校及び志願実績がある高校を踏まえ、石川県、富山県、福井県、岐阜県所在の高等学校及び高等専門学校を合わせて 103 校を選定し、各高等学校等に在籍する高校 2 年生を対象に、アンケート調査を実施した。

4. 調査実施

平成 27 年 11 月から平成 28 年 1 月にかけて調査を実施した。

5. 調査方法

北陸大学よりアンケート調査票を配布し、調査票の回収に当たっては、一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

6. 回収状況

回収率 89.3%（回答高校数 92 校÷実施高校数 103 校×100）

（回収表は P. 17～P. 19 を参照）

有効回答票 5,420 票（無効票 2 票を除く）

<アンケート調査票>

北陸大学「医療保健学部医療技術学科（仮称）」 設置に関するアンケート調査票（平成27年度高校2年生対象）

北陸大学では、高校生の進学希望及び医療・福祉現場からの人材養成に應えるため、現在、平成29年4月に「医療保健学部医療技術学科（仮称）」の設置の準備を進めています。

このアンケート調査は、高校生の皆様の卒業後の進路等に関する意向や本学が設置する「医療保健学部医療技術学科（仮称）」への興味・関心等についておたずねし、新学部設置のための基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。なお、本調査は客観性を担保するため、大学等に関して多くの実績を持つ一般財団法人日本開発構想研究所に集計・分析等を委託します。この調査票は無記名方式です。また、アンケート結果は統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表したり他の目的のために使用することはありません。

新学部設置は計画中であり、学部・学科や授業料等は正式に決まったものではなく、変更される可能性があります。

I. あなた自身についてお聞きします。

問1 あなたの性別を教えてください。

- 1 男性 2 女性

問2 あなたの通っている高校の所在地（都道府県）について教えてください。

- 1 石川県 2 富山県 3 福井県 4 長野県 5 新潟県 6 岐阜県 7 その他（ ）

問3 あなたが所属しているコースについて教えてください。

- 1 文系クラス 2 理系クラス 3 コース選択はない 4 その他（具体的に ）

II. 高校卒業後の進路や興味・関心がある学びについてお聞きします。

問4 あなたは卒業後の進路についてどのように考えていますか？以下の項目からあてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 大学に進学 2 短期大学に進学 3 専門学校・専修学校に進学
4 就職 5 その他（ ）

問5 問4において、《1 4年制大学に進学》《2 短期大学に進学》《3 専門学校・専修学校》に進学を選んだ方に質問します。その他の方は問7へお進みください。あなたは卒業後の進路についてどのような地域に進学を希望していますか？以下の項目から2つまで選んで○をつけてください。

- 1 石川県 2 富山県 3 福井県 4 長野県 5 新潟県
6 岐阜県 7 関東地方 8 関西地方 9 東海地方 10 その他

問6 あなたはどのような学問に興味・関心がありますか？以下の項目から興味・関心がある学問すべてに○をつけてください。進学を希望していない方も、進学する場合を想定してお答えください。

- | | | | | |
|-----------|--------|---------|--------------|----------------|
| 1 医療技術学 | 2 薬学 | 3 医学・歯学 | 4 保健・看護学 | 5 栄養学 |
| 6 体育・健康科学 | 7 工学 | 8 農・水産学 | 9 語学 | 10 文化・文学 |
| 11 国際関係学 | 12 芸術学 | 13 法学 | 14 経済・経営学・商学 | 15 社会福祉学 |
| 16 社会学 | 17 教育学 | 18 保育学 | 19 理学 | 20 その他（ ） |

※1 医療技術学とは理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、臨床工学技士等の学びを指します。

問7 あなたは以下の職業に興味がありますか？以下の項目から、興味・関心がある職業すべてに○をつけてください。

- | | | | | |
|------------|----------------|----------|----------|----------|
| 1 臨床検査技師 | 2 臨床工学技士 | 3 薬剤師 | 4 保健師 | 5 助産師 |
| 6 医師 | 7 歯科医師 | 8 看護師 | 9 理学療法士 | 10 作業療法士 |
| 11 診療放射線技師 | 12 言語聴覚士 | 13 義肢装具士 | 14 救命救急士 | 15 柔道整復師 |
| 16 栄養士 | 17 管理栄養士 | 18 歯科衛生士 | 19 歯科技工士 | 20 保育士 |
| 21 社会福祉士 | 22 介護福祉士 | 23 教諭 | 24 公認会計士 | 25 税理士 |
| 26 弁護士 | 27 その他（ ） | | | |

問8 あなたが進学先を決定する際に重視することを教えてください。以下の項目から該当するものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|--------------|--------------|---------------|
| 1 学部・学科の分野 | 2 取得可能資格・免許 | 3 教育内容 |
| 4 教員の充実度 | 5 就職指導及び就職実績 | 6 入試難易度・入試科目 |
| 7 国立・公立・私立の別 | 8 所在地 | 9 校舎・施設の充実度 |
| 10 伝統・世間での評判 | 11 寮の有無 | 12 学校の先生の意見 |
| 13 家族の意見 | 14 友人の意見 | 15 大学生や卒業生の意見 |
| 16 学費等のコスト | 17 学生生活の充実度 | |
| 18 その他（具体的に | | ） |

Ⅲ. 北陸大学医療保健学部医療技術学科(仮称)についてお聞きします。

※アンケートに同封している資料を見ながらお答えください。

問9 あなたは、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）に興味・関心をもちましたか？一番近いもの1つに○をつけてください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 とても興味・関心をもった | 2 ある程度興味・関心をもった |
| 3 少し興味・関心をもった | 4 興味・関心をもたなかった |

問10 あなたは、臨床検査技師及び臨床工学技士国家資格の取得について、興味を感じますか。各資格について、それぞれ次の中から1つだけ選んでください。

【臨床検査技師】

- | | | |
|--------------|-----------|------------|
| 1 大変興味を感じる | 2 興味を感じる | 3 少し興味を感じる |
| 4 あまり興味を感じない | 5 興味を感じない | |

【臨床工学技士】

- | | | |
|--------------|-----------|------------|
| 1 大変興味を感じる | 2 興味を感じる | 3 少し興味を感じる |
| 4 あまり興味を感じない | 5 興味を感じない | |

問11 あなたは、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）に進学したいと思いますか？一番近いもの1つに○をつけてください。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 ぜひ進学したいと思う | 2 進学先の1つとして検討すると思う |
| 3 あまり進学したいと思わない | 4 進学したいと思わない |

問12 問11で〈1〉〈2〉を選んだ方に質問します。〈3〉〈4〉を選んだ方は問13へお進みください。あなたが北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）への《ぜひ進学したいと思う》あるいは《進学先の1つとして検討する》理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

- | |
|-----------------------------------|
| 1 希望の資格・免許（臨床検査技師、臨床工学技士）が取得できるから |
| 2 4年制大学のため教育内容がより充実しているから |
| 3 地元にある大学（自宅から通学圏内の大学）だから |
| 4 他校にはない特色がありそうだから |
| 5 これまでの実績や評判から信頼できる大学だから |
| 6 雰囲気の良い大学だから |
| 7 先輩が北陸大学に進学しているから |
| 8 その他（具体的に |

問13 北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）や同封した資料・アンケート等について、わからないことやもっと知りたいことがありましたら、ご自由にご記入ください。

*** 以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。 ***

Ⅱ アンケート調査結果の概要

(1) 集計結果の概要

(集計結果表は P. 15 以降を参照)

1) 属性

① 性別内訳

回答者の性別内訳は、「男性」が 60.8% (3,297 人)、「女性」が 39.2% (2,123 人)であり、男性が約 6 割を占めている。(問 1)

② 高校の所在地別内訳

回答者の高校の所在地別内訳は、「石川県」が 46.4% (2,515 人)で最も多く、回答者の半数弱は石川県内の高校に通学する生徒である。このほか「富山県」は 25.1% (1,359 人)、「福井県」は 14.3% (776 人)、「岐阜県」14.0% (761 人)などであり、石川県と富山県で 71.5%、これに福井県を加えた北陸 3 県で 85.5%となっている。(問 2)

③ 所属コース別内訳

回答者の高校における所属コースについては、「理系クラス」が 70.8% (3,837 人)で最も多く、大半は理系クラスの生徒が占めている。「文系」は 8.2% (444 人)、「コース選択はない」は 3.7% (203 人)、「その他」は 16.1% (874 人)。

2) 高校卒業後の進路や興味・関心がある学びについて

① 高校卒業後の進路(複数回答)

高校卒業の進路について希望を尋ねたところ、「大学に進学」が 73.8% (3,999 人)で最も多い。大学進学以外では、「就職」が 16.6% (900 人)、「専門学校・専修学校に進学」が 13.5% (729 人)、「短期大学に進学」が 5.3% (288 人)となっている。(問 4)

② 進学を希望する地域(複数回答)

高校卒業後の希望進路で「大学に進学」、「短期大学に進学」、「専門学校・専修学校に進学」を回答した回答者(4,592 人)に対して、進学を希望する地域について尋ねたところ、「石川県」が 39.1% (1,794 人)で最も多く、次いで「富山県」21.5% (986 人)、「関東地方」20.8% (957 人)となっている。

高校卒業後の進路で「大学に進学」を回答した回答者(以下、「大学進学希望者」

という。)について見ると、「石川県」が 37.8% (1,513 人) で最も多く、次いで「関東地方」21.3% (852 人)、「富山県」21.0% (840 人) などとなっている。(問 5)

③ 興味・関心がある学問（複数回答）

高校卒業後の希望進路で「大学に進学」、「短期大学に進学」、「専門学校・専修学校に進学」を回答した回答者（4,592 人）に対して、興味・関心がある学問について尋ねたところ、最も回答が多いのは「工学」の 36.4% (1,672 人) であり、次いで「保健・看護学」19.3% (887 人)、「理学」15.1% (694 人) となっている。

興味・関心がある分野については男性と女性で回答傾向が異なっており、男性では「工学」が 54.9% (1,463 人) で最も多く、次いで「理学」19.7% (525 人) であるのに対し、女性では「保健・看護学」が 38.1% (735 人) で最も多く、次いで「医療技術学」18.5% (356 人) などとなっている。

大学進学希望者について見ると、「工学」が 39.4% (1,576 人)、「保健・看護学」18.2% (728 人)、「理学」16.9% (674 人) などとなっている。(問 6)

④ 職業への興味・関心（複数回答）

選択肢に示す職業への興味・関心について尋ねたところ、「薬剤師」が 15.3% (828 人) で最も多く、次いで「看護師」13.7% (740 人)、「理学療法士」11.6% (627 人) などとなっている。

大学進学希望者について見ると、「薬剤師」が 17.5% (701 人) で最も多く、次いで「看護師」13.7% (548 人)、「理学療法士」13.5% (540 人)、「教諭」11.3% (453 人) などとなっている。(問 7)

⑤ 進学先を決定する際に重視すること（複数回答）

進学先を決定する際に重視することについて尋ねたところ、最も回答が多いのは「学部・学科の分野」の 59.5% (3,224 人) であり、次いで「取得可能資格・免許」38.6% (2,090 人)、「学費等のコスト」33.5% (1,813 人)、「入試難易度・入試科目」33.2% (1,797 人) などとなっている。

大学進学希望者について見ると、「学部・学科の分野」が 67.3% (2,690 人) で最も多く、大学進学希望者の 7 割近くが「学部・学科の分野」を進学先決定の際に重視している。このほか、「取得可能資格・免許」38.7% (1,547 人)、「国立・公立・私立の別」38.5% (1,540 人)、「入試難易度・入試科目」37.2% (1,489 人)、「学費等のコスト」34.7% (1,387 人)、「所在地」32.0% (1,280 人) などの回答が多くなっ

ている。(問8)

3) 医療保健学部医療技術学科について

① 医療保健学部医療技術学科への興味・関心

医療保健学部医療技術学科への興味・関心について尋ねたところ、「とても興味・関心をもった」は 5.8% (317 人)、「ある程度興味・関心をもった」は 24.0% (1,301 人)、「少し興味・関心をもった」は 29.7% (1,611 人) であり、これらを合計すると回答者の 59.5% (3,229 人) が医療保健学部医療技術学科に対して興味・関心を持っていると言える。

同様に、大学進学希望者について見ると、「とても興味・関心をもった」は 6.1% (245 人)、「ある程度興味・関心をもった」は 24.9% (997 人)、「少し興味・関心をもった」は 30.8% (1,232 人) であり、これらを合計すると大学進学希望者の 61.8% (2,474 人) が医療保健学部医療技術学科に対して興味・関心を持っていると言える。(問9)

② 臨床検査技師及び臨床工学技士の国家資格取得への興味

【臨床検査技師】

臨床検査技師の国家資格取得への興味について尋ねたところ、「大変興味を感じる」は 5.5% (296 人)、「興味を感じる」は 12.5% (679 人)、「少し興味を感じる」は 24.1% (1,307 人) であり、これらを合計すると回答者の 42.1% (2,282 人) が臨床検査技師の国家資格取得に興味を持っていると言える。

同様に、大学進学希望者について見ると、「大変興味を感じる」は 6.0% (241 人)、「興味を感じる」は 13.7% (547 人)、「少し興味を感じる」は 25.0% (1,001 人) であり、これらを合計すると大学進学希望者の 44.7% (1,789 人) が臨床検査技師の国家資格取得に興味を持っていると言える。(問10)

【臨床工学技士】

臨床工学技士の国家資格取得への興味について尋ねたところ、「大変興味を感じる」は 4.1% (222 人)、「興味を感じる」は 11.0% (597 人)、「少し興味を感じる」は 23.9% (1,294 人) であり、これらを合計すると回答者の 39.0% (2,113 人) が臨床工学技士の国家資格取得に興味を持っていると言える。

同様に、大学進学希望者について見ると、「大変興味を感じる」は 4.1% (165 人)、

「興味を感じる」は 11.7% (468 人)、「少し興味を感じる」は 25.1% (1,004 人) であり、これらを合計すると大学進学希望者の 40.9% (1,637 人) が臨床工学技士の国家資格取得に興味を持っていると言える。(問 10)

③ 医療保健学部医療技術学科への進学意向

医療保健学部医療技術学科への進学について尋ねたところ、「ぜひ進学したいと思う」は 2.0% (109 人) であり、医療保健学部医療技術学科の入学定員 60 人を超えている。また、「進学先の 1 つとして検討すると思う」は 15.0% (811 人) であり、これらを合計した値を潜在的な進学希望者と考えると、今回のアンケート調査において医療保健学部医療技術学科への潜在的な進学希望者は回答者の 17.0% (920 人) いると言える。

同様に、大学進学希望者について見ると、「ぜひ進学したいと思う」は 1.8% (73 人) であり、大学進学希望者に限ってみても入学定員の 60 人を超える進学希望者が存在している。また、「進学先の 1 つとして検討すると思う」は 16.2% (647 人) であり、合計すると 18.0% (720 人) が潜在的な進学希望者と言える。(問 11)

⑥ 医療保健学部医療技術学科への進学を考える理由（複数回答）

医療保健学部医療技術学科への進学意向に関して、「ぜひ進学したいと思う」もしくは「進学先の 1 つとして検討すると思う」を回答した 920 人に対しその理由を尋ねたところ、「希望の資格・免許（臨床検査技師、臨床工学技士）が取得できるから」が最も多く 45.3% (417 人)、次いで「4 年制大学のための教育内容が充実しているから」23.9% (220 人)、「地元にある大学（自宅から通学圏内の大学）だから」20.0% (184 人) などとなっている。(問 12)

同様に、大学進学希望者について見ると、「希望の資格・免許（臨床検査技師、臨床工学技士）が取得できるから」が 47.1% (339 人) で最も多く、次いで「4 年制大学のための教育内容が充実しているから」26.1% (188 人)、「地元にある大学（自宅から通学圏内の大学）だから」21.3% (153 人) などとなっている。

（２）学生確保の見通しについて

今回のアンケート調査は、石川県内の高校生を中心に北陸 3 県（石川県、富山県、福井県）の高校生（平成 27 年度高校 2 年生）による回答が多数を占めており、実際に北陸大学に進学する高校生が多い地域における調査である。

高校卒業後に希望する進路として大学進学を回答した高校生は 3,999 人いたが、この内、北陸大学医療保健学部医療技術学科に「ぜひ進学したいと思う」と考えている高校生は 73 人との結果であった。

今回の調査は標本調査であることを考えれば、大学進学を希望しかつ北陸大学医療保健学部医療技術学科への進学を希望する高校生が 73 人いることは、同学科の入学定員 60 人を超える入学希望者を確保することは十分に可能であり、入学定員を充足する見通しはあると考えられる。

また、大学進学希望者の内、「進学先の 1 つとして検討すると思う」との回答は 647 人いることから、入学定員 60 人に対して数倍の受験者が見込まれると考えられること、さらに、大学進学希望者の内、医療保健学部医療技術学科に対して「とても興味・関心をもった」回答者は 245 人であり、臨床検査技師国家資格の取得及び臨床工学技士国家資格の取得に「大変興味を感じる」回答者はそれぞれ 241 人、165 人という結果であったことから、今後の広報活動等により教育の内容や臨床検査技師及び臨床工学技士の職務内容等への理解を促すことで、医療保健学部医療技術学科への進学希望者がさらに増えることも考えられる。

<高校別進学意向>

〔調査高校ごとの結果：回答のあった高校のみ〕

(単位：人)

	1 ぜひ進学したい と思う	2 進学先の1つとし て検討すると思う	計
全 体	109	811	920
A	－	12	12
B	1	10	11
C	3	15	18
D	2	13	15
E	2	36	38
F	－	4	4
G	2	24	26
H	－	7	7
I	3	17	20
J	1	10	11
K	－	18	18
L	－	1	1
M	13	36	49
N	3	13	16
O	－	7	7
P	2	10	12
Q	4	11	15
R	－	13	13
S	2	19	21
T	2	4	6
U	－	1	1
V	3	10	13
W	－	11	11
X	－	1	1
Y	－	6	6
Z	2	10	12
AA	－	6	6
AB	4	5	9
AC	2	6	8
AD	2	4	6
AE	－	2	2
AF	1	8	9
AG	－	5	5
AH	－	4	4
AI	－	6	6
AJ	3	6	9
AK	1	3	4
AL	－	3	3
AM	－	5	5
AN	1	10	11
AO	－	8	8
AP	3	8	11
AQ	1	15	16
AR	2	1	3

	1 ぜひ進学したい と思う	2 進学先の1つとし て検討すると思う	計
AS			
AT	2	9	11
AU	1	8	9
AV	－	6	6
AW	1	14	15
AX	2	8	10
AY	－	7	7
AZ	1	15	16
BA	－	3	3
BB	1	5	6
BC	－	3	3
BD	3	24	27
BE	－	6	6
BF	－	4	4
BG	2	9	11
BH	1	11	12
BI	－	5	5
BJ	1	3	4
BK	－	1	1
BL	－	3	3
BM	5	32	37
BN	1	4	5
BO	－	1	1
BP	－	3	3
BQ	－	5	5
BR	2	11	13
BS	1	5	6
BT	－	3	3
BU	－	8	8
BV	－	6	6
BW	－	6	6
BX	－	3	3
BY	2	9	11
BZ	5	8	13
CA	－	4	4
CB	－	3	3
CC	－	4	4
CD	－	6	6
CE	1	6	7
CF	－	2	2
CG	－	3	3
CH	－	13	13
CI	5	41	46
CJ	2	16	18
CK	1	19	20
CL	3	17	20
CM	1	5	6

Ⅲ アンケート集計結果表

北陸大学医療保健学部設置に関するアンケート調査（高校生）回収表

回収日	県No.	所在県	高 校 名	医療保健学部		
				ナンバリング		回収数
1. 04	1	石川県	A	5217	5332	116
11. 30	1	石川県	B	1409	1526	118
11. 25	1	石川県	C	974	1082	109
12. 11	1	石川県	D	3927	4000	74
	1	石川県	E			
	1	石川県	F			
12. 02	1	石川県	G	1986	2175	190
12. 10	1	石川県	H	3646	3679	34
12. 01	1	石川県	I	1886	1985	100
12. 17	1	石川県	J	4817	4869	53
12. 01	1	石川県	K	1700	1855	156
12. 16	1	石川県	L	4444	4478	35
12. 15	1	石川県	M	4299	4373	75
12. 04	1	石川県	N	2434	2442	9
12. 11	1	石川県	O	4001	4232	232
11. 20	1	石川県	P	390	427	38
12. 04	1	石川県	Q	2443	2478	36
12. 15	1	石川県	R	4374	4443	70
11. 18	1	石川県	S	135	249	115
11. 20	1	石川県	T	428	465	38
11. 24	1	石川県	U	837	973	137
	1	石川県	V			
12. 22	1	石川県	W	5146	5178	33
12. 14	1	石川県	X	4233	4240	8
12. 09	1	石川県	Y	3493	3609	117
12. 08	1	石川県	Z	2808	2872	65
11. 18	1	石川県	AA	250	252	3
11. 20	1	石川県	AB	466	491	26
11. 27	1	石川県	AC	1331	1408	78
11. 24	1	石川県	AD	658	697	40
	1	石川県	AE			
12. 02	1	石川県	AF	2176	2247	72
11. 24	1	石川県	AG	698	735	38
11. 25	1	石川県	AH	1083	1102	20
11. 19	1	石川県	AI	253	286	34
11. 25	1	石川県	AJ	1103	1132	30
12. 21	1	石川県	AK	4948	4981	34
11. 20	1	石川県	AL	1207	1237	31
12. 17	1	石川県	AM	4689	4740	52
12. 01	1	石川県	AN	1856	1885	30
1. 04	1	石川県	AO	5333	5354	22

回収日	県 No.	所在県	高 校 名	医療保健学部		
				ナンバリング		回収数
12. 21	1	石川県	AP	4982	4994	13
12. 14	1	石川県	AQ	4241	4264	24
11. 26	1	石川県	AR	1238	1255	18
			AS			
	2	富山県	AT			
	2	富山県	AU			
	2	富山県	AV			
11. 16	2	富山県	AW	1	36	36
11. 24	2	富山県	AX	736	802	67
11. 30	2	富山県	AY	1527	1562	36
12. 21	2	富山県	AZ	4995	5077	83
	2	富山県	BA			
12. 17	2	富山県	BB	4741	4816	76
12. 21	2	富山県	BC	5078	5114	37
12. 07	2	富山県	BD	2741	2778	38
12. 10	2	富山県	BE	3680	3719	40
12. 16	2	富山県	BF	4479	4520	42
1. 04	2	富山県	BG	5355	5393	39
11. 18	2	富山県	BH	287	337	51
11. 25	2	富山県	BI	1133	1171	39
11. 17	2	富山県	BJ	37	94	58
12. 25	2	富山県	BK	5179	5216	38
11. 17	2	富山県	BL	95	134	40
11. 19	2	富山県	BM	338	366	29
12. 04	2	富山県	BN	2479	2551	73
11. 25	2	富山県	BO	1172	1206	35
12. 04	2	富山県	BP	2670	2707	38
11. 30	2	富山県	BQ	1563	1601	39
12. 03	2	富山県	BR	2286	2327	42
12. 17	2	富山県	BS	4870	4895	26
11. 26	2	富山県	BT	1256	1295	40
12. 09	2	富山県	BU	3610	3645	36
12. 03	2	富山県	BV	2248	2285	38
11. 24	2	富山県	BW	492	657	166
11. 19	2	富山県	BX	367	389	23
12. 08	2	富山県	BY	2873	2893	21
11. 30	2	富山県	BZ	1602	1626	25
12. 16	3	福井県	CA	4521	4559	39
	3	福井県	CB			
12. 03	3	福井県	CC	2328	2361	34
12. 17	3	福井県	CD	4896	4931	36
12. 08	3	福井県	CE	3199	3234	36
12. 08	3	福井県	CF	3235	3347	113

回収日	県No.	所在県	高 校 名	医療保健学部		
				ナンバリング		回収数
	3	福井県	CG			
12.14	3	福井県	CH	4265	4298	34
11.26	3	福井県	CI	1296	1330	35
1.04	3	福井県	CJ	5394	5422	29
12.03	3	福井県	CK	2362	2397	36
12.04	3	福井県	CL	2552	2669	118
12.03	3	福井県	CM	2398	2433	36
11.24	3	福井県	CN	803	836	34
12.11	3	福井県	CO	3896	3926	31
12.17	3	福井県	CP	4932	4947	16
12.04	3	福井県	CQ	2708	2740	33
12.21	3	福井県	CR	5115	5145	31
12.10	3	福井県	CS	3720	3740	21
11.30	3	福井県	CT	1627	1699	73
12.08	4	岐阜県	CU	2894	3198	305
12.09	4	岐阜県	CV	3348	3492	145
12.16	4	岐阜県	CW	4560	4688	129
	4	岐阜県	CX			
12.10	4	岐阜県	CY	3741	3895	155
12.07	4	岐阜県	CX	2779	2807	29
103 校						5,422

※無効票（2 票）含む

◆アンケート回収状況：高校所在地別（無効票を除いた有効回答票数）

No.	カテゴリ	配布校数	回収校数	回収率	票数
1	石川県	44 校	40 校	90.9%	2,523 票
2	富山県	33 校	29 校	87.9%	1,349 票
3	福井県	20 校	18 校	90.0%	785 票
4	岐阜県	6 校	5 校	83.3%	763 票
	計	103 校	92 校	89.3%	5,420 票

◆北陸大学「医療保健学部医療技術学科（仮称）」集計表

〔有効回答票：5,420票（無効票2票を除く）〕

問1 あなたの性別を教えてください。

カテゴリ	件数	%
1 男 性	3297	60.8
2 女 性	2123	39.2
N（％へ－入）	5420	100.0

* 問4 「1 大学に進学」回答者 3,999人^{（注）}

カテゴリ	件数	%
1 男 性	2426	60.7
2 女 性	1573	39.3
N（％へ－入）	3999	100.0

（注）問4（高校卒業後の進路）において「1 大学に進学」を回答した回答者（3,999人）の回答

問2 あなたの通っている高校の所在地（都道府県）について教えてください。

上段：人 下段：%	合計	1 石川県	2 富山県	3 福井県	4 長野県	5 新潟県	6 岐阜県	7 その他	不明
全体	5420	2515	1359	776	-	1	761	1	7
	100.0	46.4	25.1	14.3	-	0.02	14.0	0.02	0.1
男性	3297	1599	769	496	-	-	426	1	6
	100.0	48.5	23.3	15.0	-	-	12.9	0.03	0.2
女性	2123	916	590	280	-	1	335	-	1
	100.0	43.1	27.8	13.2	-	0.05	15.8	-	0.05

「7 その他」の回答

千葉

* 問4 「1 大学に進学」回答者 3,999 人

	カテゴリ	件数	%
1	石川県	1654	41.4
2	富山県	1040	26.0
3	福井県	583	14.6
4	長野県	0	0.0
5	新潟県	1	0.03
6	岐阜県	717	17.9
7	その他	1	0.03
	不明	3	0.1
	N (%への入)	3999	100

問3 あなたが所属しているコースについて教えてください。

上段：人 下段：%	合 計	1 文系 クラス	2 理系 クラス	3 コース選択 はない	4 その他	不明
全体	5420	444	3837	203	874	62
	100.0	8.2	70.8	3.7	16.1	1.1
男性	3297	185	2317	130	620	45
	100.0	5.6	70.3	3.9	18.8	1.4
女性	2123	259	1520	73	254	17
	100.0	12.2	71.6	3.4	12.0	0.8

「4 その他」の回答

エネルギー	機械システム科	食物	電力
キャリアアップ	機械科	進学	土木
くすりバイオ科	健康福祉科	生物科学	土木コース
コンピュータ	建設	繊維科	特進クラス
スポーツ	建築コース	総合情報ビジネス科	農業
テキスタイル工学科	建築システム	体育	美術
デザインコース	工業	大学進学コース	普通コース
ビジネス	工業科	通信コース	普通科
メカトロニクスコース	工業系	電気	普通科コース
英語コース	航空科	電気コース	福祉
園芸	航空科普通科コース	電気科	保育
園芸福祉コース	材料化学科	電子	理工コース
看護コース	商業	電子・工業	理数科
看護科	情報ケミカル科	電子機械科	流通経済科
機械	情報コース	電子情報	緑地デザイン
機械システム	食品科学コース	電子情報科	

* 問4 「1 大学に進学」回答者 3,999 人

	カテゴリ	件数	%
1	文系クラス	345	8.6
2	理系クラス	3334	83.4
3	コース選択はない	98	2.5
4	その他	187	4.7
	不明	35	0.9
	N (%への入)	3999	100

問4 あなたは卒業後の進路についてどのように考えていますか？

(複数回答：あてはまるもの全て選択)

上段：人 下段：%	合 計	1 大学に 進学	2 短期大学 に進学	3 専門学校・ 専修学校に 進学	4 就 職	5 その他	不 明
全体	5420	3999	288	729	900	42	20
	100.0	73.8	5.3	13.5	16.6	0.8	0.4
男性	3297	2426	100	303	699	18	11
	100.0	73.6	3.0	9.2	21.2	0.5	0.3
女性	2123	1573	188	426	201	24	9
	100.0	74.1	8.9	20.1	9.5	1.1	0.4

(複数回答の為、合計は100%にはならない。)

「5 その他」の回答

いけたらどこでも	海外野球留学	養成所
バックパッカーになる	専攻科	留学

問5 問4において、《1 4 年制大学に進学》《2 短期大学に進学》《3 専門学校・専修学校》に進学を選んだ方に質問します。その他の方は問7へお進みください。

あなたは卒業後の進路についてどのような地域に進学を希望していますか？

(複数回答：2つまで選択)

	上段：人 下段：%	合計	男性	女性
全 体		4592	2665	1927
		100.0	100.0	100.0
1 石川県		1794	985	809
		39.1	37.0	42.0
2 富山県		986	573	413
		21.5	21.5	21.4
3 福井県		381	239	142
		8.3	9.0	7.4
4 長野県		68	38	30
		1.5	1.4	1.6
5 新潟県		94	44	50
		2.0	1.7	2.6
6 岐阜県		339	181	158
		7.4	6.8	8.2
7 関東地方		957	579	378
		20.8	21.7	19.6
8 関西地方		776	423	353
		16.9	15.9	18.3
9 東海地方		705	412	293
		15.4	15.5	15.2
10 その他		257	181	76
		5.6	6.8	3.9
不 明		131	92	39
		2.9	3.5	2.0

(複数回答の為、合計は100%にはならない。)

* 問 4 「1 大学に進学」回答者 3,999 人

	カテゴリー	件数	%
1	石川県	1513	37.8
2	富山県	840	21.0
3	福井県	346	8.7
4	長野県	68	1.7
5	新潟県	89	2.2
6	岐阜県	316	7.9
7	関東地方	852	21.3
8	関西地方	712	17.8
9	東海地方	669	16.7
10	その他	224	5.6
	不明	119	3.0
	N (％ベース)	3999	100

問6 あなたはどのような学問に興味・関心がありますか？

(複数回答：あてはまるもの全て選択)

	上段：人 下段：%	合計	男性	女性		上段：人 下段：%	合計	男性	女性
全 体		4592	2665	1927	11 国際関係学		207	72	135
		100.0	100.0	100.0			4.5	2.7	7.0
1 医療技術学		629	273	356	12 芸術学		252	118	134
		13.7	10.2	18.5			5.5	4.4	7.0
2 薬学		622	300	322	13 法学		109	72	37
		13.5	11.3	16.7			2.4	2.7	1.9
3 医学・歯学		434	195	239	14 経済・経営学・ 商学		364	251	113
		9.5	7.3	12.4			7.9	9.4	5.9
4 保健・看護学		887	152	735	15 社会福祉学		92	35	57
		19.3	5.7	38.1			2.0	1.3	3.0
5 栄養学		397	69	328	16 社会学		101	68	33
		8.6	2.6	17.0			2.2	2.6	1.7
6 体育・健康科学		330	218	112	17 教育学		374	204	170
		7.2	8.2	5.8			8.1	7.7	8.8
7 工学		1672	1463	209	18 保育学		196	40	156
		36.4	54.9	10.8			4.3	1.5	8.1
8 農・水産学		365	201	164	19 理学		694	525	169
		7.9	7.5	8.5			15.1	19.7	8.8
9 語学		217	92	125	20 その他		174	103	71
		4.7	3.5	6.5			3.8	3.9	3.7
10 文化・文学		158	80	78	不 明		82	60	22
		3.4	3.0	4.0			1.8	2.3	1.1

(複数回答の為、合計は100%にはならない。)

「20 その他」の回答

CG アニメ	観光学	食	美容	家政	音楽
エンタメ	気象	食品	美容学	家政学	事務
デザイン工学	芸能	食物	舞台	環境	操縦
ビジネス	建築	食物学	服飾	自動車	理容美容
ファッション	建築科	心理	防衛学	獣医学	料理
ペット	航海学	心理学	理工学	情報	歴史学
運航	航学	数学	理美容	調理	脳科学
応用生物学	航空運輸学	声楽	理容・美容	電気	

* 問4 「1 大学に進学」回答者 3,999 人

	カテゴリ	件数	%
1	医療技術学	577	14.4
2	薬学	586	14.7
3	医学・歯学	386	9.7
4	保健・看護学	728	18.2
5	栄養学	312	7.8
6	体育・健康科学	298	7.5
7	工学	1576	39.4
8	農・水産学	348	8.7
9	語学	193	4.8
10	文化・文学	143	3.6
11	国際関係学	188	4.7
12	芸術学	191	4.8
13	法学	105	2.6
14	経済・経営学・商学	336	8.4
15	社会福祉学	67	1.7
16	社会学	94	2.4
17	教育学	356	8.9
18	保育学	131	3.3
19	理学	674	16.9
20	その他	93	2.3
	不明	55	1.4
	N (％へ-入)	3999	100

問7 あなたは以下の職業に興味がありますか？。

(複数回答：あてはまるもの全て選択)

上段：人 下段：%	合計	男性	女性	上段：人 下段：%	合計	男性	女性
全 体	5420	3297	2123	15 柔道整復師	145	112	33
	100.0	100.0	100.0		2.7	3.4	1.6
1 臨床検査技師	403	178	225	16 栄養士	433	107	326
	7.4	5.4	10.6		8.0	3.2	15.4
2 臨床工学技士	347	270	77	17 管理栄養士	371	57	314
	6.4	8.2	3.6		6.8	1.7	14.8
3 薬剤師	828	422	406	18 歯科衛生士	121	26	95
	15.3	12.8	19.1		2.2	0.8	4.5
4 保健師	257	46	211	19 歯科技工士	58	35	23
	4.7	1.4	9.9		1.1	1.1	1.1
5 助産師	321	24	297	20 保育士	330	98	232
	5.9	0.7	14.0		6.1	3.0	10.9
6 医師	351	230	121	21 社会福祉士	107	52	55
	6.5	7.0	5.7		2.0	1.6	2.6
7 歯科医師	120	71	49	22 介護福祉士	122	49	73
	2.2	2.2	2.3		2.3	1.5	3.4
8 看護師	740	106	634	23 教諭	509	341	168
	13.7	3.2	29.9		9.4	10.3	7.9
9 理学療法士	627	356	271	24 公認会計士	130	95	35
	11.6	10.8	12.8		2.4	2.9	1.6
10 作業療法士	267	122	145	25 税理士	148	116	32
	4.9	3.7	6.8		2.7	3.5	1.5
11 診療放射線技師	292	138	154	26 弁護士	172	134	38
	5.4	4.2	7.3		3.2	4.1	1.8
12 言語聴覚士	68	28	40	27 その他	611	452	159
	1.3	0.8	1.9		11.3	13.7	7.5
13 義肢装具士	68	53	15	不 明	1245	1003	242
	1.3	1.6	0.7		23.0	30.4	11.4
14 救命救急士	191	122	69				
	3.5	3.7	3.3				

(複数回答の為、合計は100%にはならない。)

「27 その他」の回答

CA	ロボットエンジニア	工学系の技術士	接客、販売
IT・情報	ロボット技術者、研究員	工業	設計士
IT関連	医療事務	工業系	測量士
IT系	医療事務、歯科助手	工業系、電気系の仕事	大工
JMSDF	医療事務員	考古学者	鍛冶
NGO	宇宙飛行士	航海士	調教師
PC関連	映画監督	航空管制技術官	調理
SE	英語関連の職種	航空関係職	調理・製菓
Unicefの職員	臨床心理士	航空機長	調理師
イラストレーター	科学者	航空業界	調理師、製菓衛生士
ウェディングプランナー	歌手	航空整備士、パイロット	通訳
エステティシャン	会社員	行政書士、司法書士	通訳、翻訳

エンジニア	海上保安庁	国家公務員	通訳、旅行系
エンジニア、プログラマー	海洋	国家公務員、自衛隊	通訳者
お花屋さん	海洋系	作家	庭師
クリエイター	絵、芸術、美術	市役所職員	鉄道運転士
ゲームクリエイター	外交官	市役職員	鉄道運転士、駅員
ゲームプログラマー	学者	視能訓練士	鉄道業
コンサートスタッフ	環境技術者	製造業	天ぷら職人
サッカー選手	管制官、航空関係	事務	電機整備士
サラリーマン	機械	事務員	電気、機械系
サラリーマン or 石油王	機械関連	自衛官	電気工事
システムエンジニア	機械整備、電力関係	自動車のデザイン、設計	電気工事士
ジムトレーナー	技術者	自動車整備	電気製品の製作
スポーツインストラクター	警察	自動車整備士	土木、美容
スポーツトレーナー	警察官	社長	土木業界
スポーツ栄養士	芸術関係	獣医	動物看護師
スポーツ関係	芸能関係	獣医師	動物飼育員
スポーツ選手	建設	消防	脳科学者
タレントマネージャー	建築	消防官	農学
ツアーコンダクター	建築、設計	消防士	農業、音響士
デザイナー	建築デザイン系	食品メーカー	俳優
ドライバー	建築家	食品開発者	美容
トリマー	建築関係	食品関連	美容系
バイオテクノロジー	建築系	心理カウンセラー	美容師
パイロット	建築士	心理学	旅行会社
パイロット、整備士	建築士、測量士	図書館司書	品質管理
パティシエ	犬訓練士	整備士	服飾
はりきゅう	研究員	生産業	編集
ファッションデザイナー	研究者	生産系の仕事	放射線技術
プログラマー	研究職	生物学者	野球選手
ホテルマン	研究職、法務医	声優	薬品工業
ミュージシャン	言語関係の職業	声優、脚本家	養護教諭
ラジオディレクター	古生物学	製菓技術士	養護教諭、看護教諭
料理・製菓	公務員	製作所	理容・美容
林業	公務員全般	アニメーションインストラクター	
プーマ、アディダス、ナイキ、メーカーの職	システムエンジニア、検察官		
バーテンダー、プログラマー	旅行などのコーディネーター		
美容師、ヘアデザイナー	音響エンジニア、CG 技師		
プログラマー、システムエンジニア	PC プログラマー、ウェブデザイナー等		
アニメーター、ゲームクリエイター、イラストレーター	水族館スタッフ、裁判所事務官		
設計士、インテリアコーディネーター、空間デザイナー	建築士、インテリアデザイナー		

* 問 4 「1 大学に進学」回答者 3,999 人

	カテゴリー	件数	%
1	臨床検査技師	351	8.8
2	臨床工学技士	288	7.2
3	薬剤師	701	17.5
4	保健師	201	5.0
5	助産師	238	6.0
6	医師	289	7.2
7	歯科医師	94	2.4
8	看護師	548	13.7
9	理学療法士	540	13.5
10	作業療法士	215	5.4
11	診療放射線技師	265	6.6
12	言語聴覚士	46	1.2
13	義肢装具士	46	1.2
14	救命救急士	126	3.2
15	柔道整復師	91	2.3
16	栄養士	294	7.4
17	管理栄養士	292	7.3
18	歯科衛生士	83	2.1
19	歯科技工士	40	1.0
20	保育士	182	4.6
21	社会福祉士	66	1.7
22	介護福祉士	65	1.6
23	教諭	453	11.3
24	公認会計士	100	2.5
25	税理士	118	3.0
26	弁護士	115	2.9
27	その他	362	9.1
	不明	891	22.3
	N (％へ-入)	3999	100

問8 あなたが進学先を決定する際に重視することを教えてください。

(複数回答：あてはまるもの全て選択)

上段：人 下段：%	合計	男性	女性	上段：人 下段：%	合計	男性	女性
全 体	5420	3297	2123	10 伝統・世間での 評判	376	238	138
	100.0	100.0	100.0		6.9	7.2	6.5
1 学部・学科の分 野	3224	1884	1340	11 寮の有無	230	124	106
	59.5	57.1	63.1		4.2	3.8	5.0
2 取得可能資格・ 免許	2090	1001	1089	12 学校の先生の意 見	374	226	148
	38.6	30.4	51.3		6.9	6.9	7.0
3 教育内容	1340	761	579	13 家族の意見	994	523	471
	24.7	23.1	27.3		18.3	15.9	22.2
4 教員の充実度	342	189	153	14 友人の意見	167	117	50
	6.3	5.7	7.2		3.1	3.5	2.4
5 就職指導及び就 職実績	1054	557	497	15 大学生や卒業生 の意見	317	168	149
	19.4	16.9	23.4		5.8	5.1	7.0
6 入試難易度・入 試科目	1797	987	810	16 学費等のコスト	1813	957	856
	33.2	29.9	38.2		33.5	29.0	40.3
7 国立・公立・私 立の別	1704	913	791	17 学生生活の充実 度	705	356	349
	31.4	27.7	37.3		13.0	10.8	16.4
8 所在地	1630	904	726	18 その他	57	41	16
	30.1	27.4	34.2		1.1	1.2	0.8
9 校舎・施設の充 実度	942	490	452	不 明	426	300	126
	17.4	14.9	21.3		7.9	9.1	5.9

(複数回答の為、合計は100%にはならない。)

「18 その他」の回答

英語に力を入れているか	距離	楽しくて楽	部活
家からの距離	空気のきれいさ	楽しさ	部活、サークルなど
家からの近さ	国家試験等の合格率	人間関係	部活、楽しいか
家族のお金	資格・免許の合格率	卒業先の進路	部活動
学芸員	自分がやりたいと思うこと	男女比率	部活動（サークル）
留学制度があるかないか	卒業後		

* 問 4 「1 大学に進学」回答者 3,999 人

	カテゴリ	件数	%
1	学部・学科の分野	2690	67.3
2	取得可能資格・免許	1547	38.7
3	教育内容	1016	25.4
4	教員の充実度	276	6.9
5	就職指導及び就職実績	774	19.4
6	入試難易度・入試科目	1489	37.2
7	国立・公立・私立の別	1540	38.5
8	所在地	1280	32.0
9	校舎・施設の充実度	714	17.9
10	伝統・世間での評判	302	7.6
11	寮の有無	141	3.5
12	学校の先生の意見	259	6.5
13	家族の意見	721	18.0
14	友人の意見	97	2.4
15	大学生や卒業生の意見	222	5.6
16	学費等のコスト	1387	34.7
17	学生生活の充実度	528	13.2
18	その他	31	0.8
	不明	193	4.8
	N (％へ-入)	3999	100

問9 あなたは、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）に興味・関心を持ちましたか？

上段：人 下段：%	合 計	1 とても興味・ 関心をもった	2 ある程度 興味・関心を もった	3 少し興味・ 関心をもった	4 興味・関心を もたなかった	不明
全体	5420	317	1301	1611	1795	396
	100.0	5.8	24.0	29.7	33.1	7.3
男性	3297	180	712	918	1255	232
	100.0	5.5	21.6	27.8	38.1	7.0
女性	2123	137	589	693	540	164
	100.0	6.5	27.7	32.6	25.4	7.7

* 問4 「1 大学に進学」回答者 3,999 人

	カテゴリ	件数	%
1	とても興味・関心をもった	245	6.1
2	ある程度興味・関心をもった	997	24.9
3	少し興味・関心をもった	1232	30.8
4	興味・関心をもたなかった	1251	31.3
	不明	274	6.9
	N（％へ→）	3999	100

問 10 あなたは臨床検査技師及び臨床工学技士国家資格の取得について、興味を感じますか。

【臨床検査技師】

上段：人 下段：%	合 計	1 大変興味 を感じる	2 興味を 感じる	3 少し興味 を感じる	4 あまり興味 を感じない	5 興味を 感じない	不 明
全体	5420	296	679	1307	1035	1803	300
	100.0	5.5	12.5	24.1	19.1	33.3	5.5
男性	3297	157	361	731	614	1238	196
	100.0	4.8	10.9	22.2	18.6	37.5	5.9
女性	2123	139	318	576	421	565	104
	100.0	6.5	15.0	27.1	19.8	26.6	4.9

【臨床工学技士】

上段：人 下段：%	合 計	1 大変興味 を感じる	2 興味を 感じる	3 少し興味 を感じる	4 あまり興味 を感じない	5 興味を 感じない	不 明
全体	5420	222	597	1294	1143	1818	346
	100.0	4.1	11.0	23.9	21.1	33.5	6.4
男性	3297	154	364	756	602	1198	223
	100.0	4.7	11.0	22.9	18.3	36.3	6.8
女性	2123	68	233	538	541	620	123
	100.0	3.2	11.0	25.3	25.5	29.2	5.8

* 問 4 「1 大学に進学」回答者 3,999 人

【臨床検査技師】

	カテゴリ	件数	%
1	大変興味を感じる	241	6.0
2	興味を感じる	547	13.7
3	少し興味を感じる	1001	25.0
4	あまり興味を感じない	776	19.4
5	興味を感じない	1247	31.2
	不明	187	4.7
	N (％ベース)	3999	100

【臨床工学技士】

	カテゴリ	件数	%
1	大変興味を感じる	165	4.1
2	興味を感じる	468	11.7
3	少し興味を感じる	1004	25.1
4	あまり興味を感じない	870	21.8
5	興味を感じない	1266	31.7
	不明	226	5.7
	N (％ベース)	3999	100

問 11 あなたは、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）に進学したいと思いますか？

上段：人 下段：%	合計	1 ぜひ進学 したいと思う	2 進学先の1つ として検討 すると思う	3 あまり進学 したいと 思わない	4 進学したいと 思わない	不明
全体	5420	109	811	1849	2378	273
	100.0	2.0	15.0	34.1	43.9	5.0
男性	3297	88	442	1054	1537	176
	100.0	2.7	13.4	32.0	46.6	5.3
女性	2123	21	369	795	841	97
	100.0	1.0	17.4	37.4	39.6	4.6

* 問 4 「1 大学に進学」回答者 3,999 人

	カテゴリ	件数	%
1	ぜひ進学したいと思う	73	1.8
2	進学先の1つとして検討すると思う	647	16.2
3	あまり進学したいと思わない	1487	37.2
4	進学したいと思わない	1625	40.6
	不明	167	4.2
	N（％へース）	3999	100

問 12 問 11 で〈1〉〈2〉を選んだ方に質問します。

あなたが北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）への進学について《ぜひ進学したい》あるいは《進学先の1つとして検討すると思う》理由は何ですか。

（複数回答：2つまで選択）

	上段：人 下段：%	合計	男性	女性
全 体		920	530	390
		100.0	100.0	100.0
1 希望の資格・免許（臨床検査技師、臨床工学技士）が取得できるから		417	218	199
		45.3	41.1	51.0
2 4年制大学のための教育内容が充実しているから		220	135	85
		23.9	25.5	21.8
3 地元にある大学（自宅から通学圏内の大学）だから		184	82	102
		20.0	15.5	26.2
4 他校にはない特色がありそうだから		137	89	48
		14.9	16.8	12.3
5 これまでの実績や評判から信頼できる大学だから		27	23	4
		2.9	4.3	1.0
6 雰囲気の良い大学だから		90	62	28
		9.8	11.7	7.2
7 先輩が北陸大学に進学しているから		7	3	4
		0.8	0.6	1.0
8 その他		13	5	8
		1.4	0.9	2.1
不 明		68	50	18
		7.4	9.4	4.6

（複数回答の為、合計は100%にはならない。）

「8 その他」の回答

なんとなく
医療技術について幅広い知識を得られると思ったから
医療系の進路に進みたいから
希望ではないが、資格を取得できるにこしたことはないから
近い
授業の内容が充実しているから
女子サッカーがあるから

* 問4 「1 大学に進学」回答者 3,999 人

	カテゴリ	件数	%
1	希望の資格・免許（臨床検査技師、臨床工学技士）が取得できるから	339	47.1
2	4年制大学のため教育内容がより充実しているから	188	26.1
3	地元にある大学（自宅から通学圏内の大学）だから	153	21.3
4	他校にはない特色がありそうだから	88	12.2
5	これまでの実績や評判から信頼できる大学だから	18	2.5
6	雰囲気の良い大学だから	63	8.8
7	先輩が北陸大学に進学しているから	6	0.8
8	その他	12	1.7
	不明	52	7.2
	N（％へ-入）	720	100

問 13 北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）や同封した資料・アンケート等について、わからないことやもっと知りたいことがありましたら、ご自由にご記入ください。

自由回答意見
アンケートに答えるのめんどくさい。
アンケートの集計、お疲れ様です。
いい中庭です。ここにテナントを入れたい。頑張って！
お金はけっこうかかりますか？
お金安くないのですか？
がんばってください。
この大学に進学する際にどんな科目の授業が必要か、工業高校から進学してもそれから先に就職できるか。
その学科を選んで取得できる資格は臨床検査技師と臨床工学技士だけなんですか？
とてもきれいな建物だと思った。
どのようなことを学ぶのか。どのような就職先があるか。
どのような内容なのかをもう少し写真を使ったりして見せてほしい。
どのように学ぶのか。
もうちょっとくわしく。学科について知らない。
もし科学の選択に生物があるのなら受験したいです。
医療系の大学は、どのようにやるのか分らないです。
英語の教員が卒業後の進路にありましたが、他の科目の免許はないんですか？
学校の建築物のマップ
学費。
学費が高い。
学部・学科が具体的に毎日何をしているのか気になりました。
看護師にはなれますか？
頑張って下さい。
技師と技士は何が違うのですか。
興味はあるけれど学費が高くて進学できない。
検査についてもっと詳しく知りたい。
研究内容はどうやって知ることができますか。
試験科目。
資料が見易くてよかった。
全て完璧に理解することができた。
卒業後の進路、就職先。
卒業後の進路を具体的に教えていただきたい。
他の資格が取得できるのかどうか。
体験入学のスケジュールなど。
第1志望が決まっているから。
難しいアンケートだった。

既設学部及び競合校等における学生納付金の状況

1. 既存学部学科の学生納付金

所在地	設置形態	大学名	学部	学科	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	実習費等	初年度合計
石川	私立	北陸大学	未来創造学部	国際マネジメント学科	100	200,000	900,000	300,000		1,400,000
				国際教養学科	100	200,000	900,000	300,000		1,400,000
			薬学部	薬学科	306	200,000	1,700,000	600,000		2,500,000

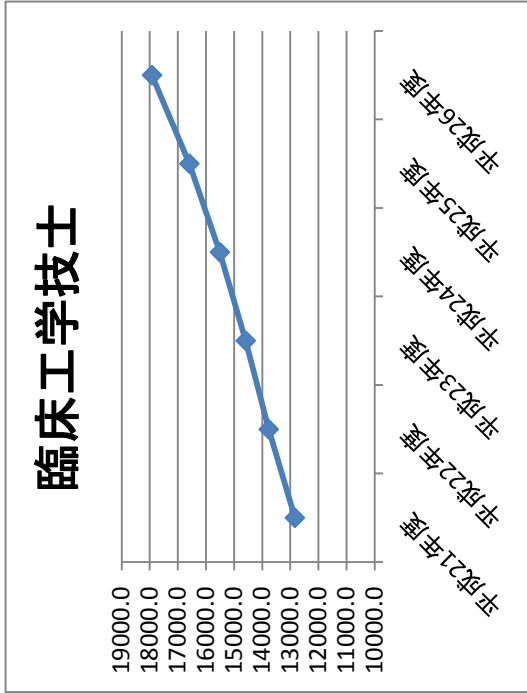
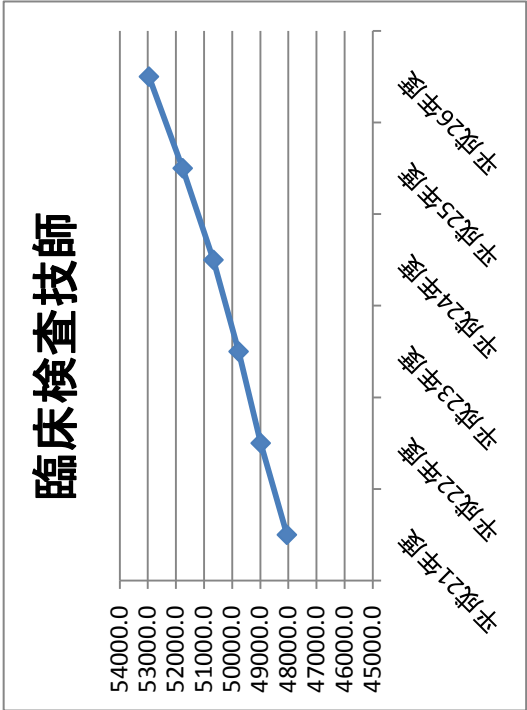
2. 近隣県大学同系学部学科の学生納付金

所在地	設置形態	大学名	学部	学科	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	実習費等	初年度合計
石川	私立	北陸大学	医療保健学部	医療技術学科	60	200,000	1,100,000	400,000		1,700,000
新潟	私立	新潟医療福祉大学	医療技術学部	臨床技術学科	80	350,000	1,000,000	350,000	150,000	1,850,000
岐阜	私立	岐阜医療科学大学	保健科学部	臨床検査学科	80	200,000	700,000	750,000		1,650,000

臨床検査技師数、臨床工学技士数における経年推移

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
臨床検査技師	48055.4	48986.3	49772.1	50665.4	51759.5	52961.5
臨床工学技士	12837.8	13767.0	14585.8	15504.6	16588.7	17918.9

※常勤換算数



出展：平成21～26年度 医療施設調査・病院報告より作成

北陸大学医療保健学部医療技術学科設置に関する
事業所アンケート調査

報 告 書

平成 28 年 2 月

一般財団法人 日本開発構想研究所

目 次

I アンケート調査概要	1
II アンケート調査結果の概要	7
(1) 集計結果の概要	7
(2) 人材需要の見通しについて	10
III アンケート集計結果表	11

I アンケート調査概要

1. アンケート調査の目的

北陸大学では平成 29 年 4 月の開設に向けて、臨床検査技師や臨床工学技士の国家試験受験資格の取得を目指した「医療保健学部医療技術学科（仮称）」の設置準備を進めており、事業所や医療機関・施設等の採用意向等を把握するためにアンケート調査を実施した。

2. 実施アンケート

- ◆ 北陸大学「医療保健学部医療技術学科（仮称）」（平成 29 年 4 月開設予定）臨床検査技師・臨床工学技士の採用実績および 4 年制大学卒の臨床検査技師・臨床工学技士採用意向調査

3. 調査対象

- ◆ 医療保健学部医療技術学科（仮称）

21 都道府県及びその他所在の 1,131 事業所

石川県	富山県	福井県	長野県	新潟県	岐阜県	北海道	群馬県
埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	静岡県	愛知県	滋賀県	京都府
大阪府	兵庫県	広島県	福岡県	その他			

4. 調査実施

平成 27 年 12 月～平成 28 年 1 月にかけて調査を実施した。

5. 調査方法

北陸大学よりアンケート調査票を配布し、調査票の回収に当たっては、一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

6. 回収状況

有効回答票 180 票 回収率 15.9%（180 件÷1,131 件×100）

（回収表は P. 13～P. 19 を参照）

＜アンケート調査票＞

北陸大学「医療保健学部医療技術学科（仮称）」（平成29年4月開設予定）
臨床検査技師・臨床工学技士の採用実績及び
4年制大学卒の臨床検査技師・臨床工学技士採用意向調査

北陸大学では平成29年4月の開設に向けて、北陸大学「医療保健学部医療技術学科（仮称）」の設置準備を進めております。本学部では臨床検査技師、臨床工学技士の国家試験受験資格を取得できるようなカリキュラムの教育を検討しております。つきましては、病院、医療関連機関・施設等の採用実績と採用意向等をお伺いしたく、ご協力をお願い申し上げます。なお、本調査は客観性を担保するため、大学等に関する調査に関して多くの実績を持つ一般財団法人日本開発構想研究所に集計・分析等を委託します。調査は無記名で行われ、結果は統計的に処理され調査目的以外に使用することはありません。

※このアンケートに記載されている内容はあくまで予定であり、内容が変更になる場合があります。

（貴機関・施設について）

問1 貴機関・施設の所在地についてお聞きします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1 石川県 2 富山県 3 福井県 4 長野県 5 新潟県 6 岐阜県 7 その他（ ）

問2 貴機関・施設の種別についてお聞きします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1 病院・診療所 2 研究機関 3 医療機器メーカー 4 検査機関 5 商社 6 その他

（貴機関・施設の臨床検査技師及び臨床工学技士採用実績・充足状況・採用計画について）

問3 貴機関・施設における過去3ヵ年（平成25年度、26年度、27年度）の臨床検査技師、臨床工学技士それぞれの採用実績を年度別にご記入ください。

平成25年度 臨床検査技師 （ 人）【 】 臨床工学技士 （ 人）【 】

平成26年度 臨床検査技師 （ 人）【 】 臨床工学技士 （ 人）【 】

平成27年度 臨床検査技師 （ 人）【 】 臨床工学技士 （ 人）【 】

【 】内は、4年制大学卒業者数で内数

注：採用実績なしの場合は、「0」、不明の場合は「不明」と回答欄にご記入ください。

問4 現在の貴機関・施設の臨床検査技師及び臨床工学技士充足状況についてお聞きします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

【臨床検査技師】

1 大きく不足している 2 やや不足している 3 充足している 4 その他（具体的に ）

【臨床工学技士】

1 大きく不足している 2 やや不足している 3 充足している 4 その他（具体的に ）

問5 貴機関・施設の平成28年度の臨床検査技師、臨床工学技士採用計画を実数（予定数）でご記入ください。

平成28年度臨床検査技師 採用者数（ 人）【 】

平成28年度臨床工学技士 採用者数（ 人）【 】

【 】内は、4年制大学卒業者数で内数

注：採用計画なしの場合は「0」、未定の場合は「未定」と回答欄にご記入ください。

問6 貴機関・施設では、臨床検査技師・臨床工学技士資格保持者または両資格保持者の採用にどのようなお考えをお持ちですか。該当する番号を1つお選びください。

【臨床検査技師のみ資格保持者】

1 採用したい 2 採用を検討したい 3 採用は考えない

【臨床工学技士のみ資格保持者】

1 採用したい 2 採用を検討したい 3 採用は考えない

【臨床検査技師・臨床工学技士両資格保持者】

1 採用したい 2 採用を検討したい 3 採用は考えない

問7 貴機関・施設では、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）設置について社会的な必要性を感じますか。該当する番号を1つお選びください。

1 とても必要である 2 必要である 3 どちらともいえない 4 不要である

問8 貴機関・施設では、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）を卒業した臨床検査技師及び臨床工学技士資格保持者の採用にどのようなお考えをお持ちですか。該当する番号を1つお選びください。

【臨床検査技師のみ】

1 採用したい 2 採用を検討したい 3 採用は考えない 4 その他（具体的に）

【 】

【臨床工学技士のみ】

1 採用したい 2 採用を検討したい 3 採用は考えない 4 その他（具体的に）

【 】

【臨床検査技師・臨床工学技士両資格】

1 採用したい 2 採用を検討したい 3 採用は考えない 4 その他（具体的に）

【 】

問9 上記問8で1または2を選択された場合のみ、ご回答ください。

貴機関・施設では、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）を卒業した臨床検査技師及び臨床工学技士資格保持者を毎年何人程度採用したいというお考えをお持ちですか。該当する番号を1つお選びください。

【臨床検査技師】

1 1人 2 2人 3 3人 4 4人以上 5 その他（具体的に）

【 】

【臨床工学技士】

1 1人 2 2人 3 3人 4 4人以上 5 その他（具体的に）

【 】

問10 平成29年4月開設予定の北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）について、ご意見等がございましたらご自由にお書きください。

--

*** 以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。 ***

Ⅱ アンケート調査結果の概要

(1) 集計結果の概要

(集計結果表は P. 11 以降を参照)

1) 属性

① 所在地

回答があった事業所の所在地別内訳は、「石川県」が 21.1% (38 事業所) で最も多く、次いで「岐阜県」17.8% (32 事業所)、「長野県」11.7% (21 事業所)、「富山県」10.0% (18 事業所) となっている。(問1)

② 業種

回答があった事業所の種別を見ると、「病院・診療所」が 61.1% (110 事業所) で最も多く、医療機関が 6 割を占めている。このほか、「商社」が 15.6% (28 事業所)、「医療機器メーカー」が 10.6% (19 事業所)、「検査機関」3.9% (7 事業所) などとなっている。(問2)

2) 採用動向と充足状況

① 過去3年間(平成25年度～27年度)の採用実績

臨床検査技師の採用実績については、「1 人」採用している事業所が 25 年度は 26 事業所 (内 4 年制大学卒は 17 事業所)、26 年度は 26 事業所 (同 18 事業所)、27 年度は 28 事業所 (同 17 事業所) あり、毎年度 26 事業所程度は「1 人」を採用している。

「2 人」採用している事業所も 25 年度は 8 事業所 (同 4 事業所)、26 年度は 17 事業所 (同 11 事業所)、27 年度は 15 事業所 (同 9 事業所) あるほか、「3 人」あるいは「4 人」、「5 人」採用している事業所も毎年度存在しており、4 年制大学卒業者の採用も毎年度継続して見られる。

採用人数の3年間の合計は 294 人 (内 4 年制大学卒は 188 人) であり、平均すると毎年 98.0 人 (同 62.7 人) が採用されている。

臨床工学技士の採用実績については、「1 人」採用している事業所が 25 年度は 19 事業所 (同 11 事業所)、26 年度は 17 事業所 (同 10 事業所)、27 年度は 20 事業所 (同 11 事業所) であり、毎年度 20 弱の事業所において「1 人」の採用が続いている。「2 人」採用している事業所も 25 年度は 8 事業所 (同 0 事業所)、26 年度は 9 事業所 (同 1 事業所)、27 年度は 10 事業所 (同 6 事業所) であり、「3 人」採用している事

業所も毎年度 3 事業所（内 4 年制大学卒業者の採用は 26 年度に 1 事業所）存在している。

採用人数の 3 年間の合計は 166 人（内 4 年制大学卒は 54 人）であり、平均すると毎年 55.3 人（同 18.0 人）が採用されている。（問 3）

② 充足状況

臨床検査技師については、「充足している」が 51.7%（93 事業所）であり、回答事業所の約半数は充足している。「大きく不足している」は 2.2%（4 事業所）、「やや不足している」は 18.9%（34 事業所）であり、これらを合計すると、臨床検査技師が不足している事業所は 21.1%（38 事業所）となっている。

臨床工学技士については、「充足している」が 31.1%（56 事業所）であり、回答事業所の約 3 分の 1 は充足している。「大きく不足している」は 5.0%（9 事業所）、「やや不足している」は 19.4%（35 事業所）であり、これらを合計すると、臨床工学技士が不足している事業所は 24.4%（44 事業所）となっている。（問 4）

③ 平成 28 年度の採用計画

臨床検査技師については、「1 人」が 21 事業所（内 4 年制大学卒は 10 事業所）、「2 人」が 4 事業所（同 5 事業所）、「3 人」が 4 事業所（同 4 事業所）、「4 人」が 4 事業所（同 1 事業所）などであり、「10 人以上」とする回答も 1 事業所（同 1 事業所）ある。人数にすると、72 人（内 4 年制大学卒は 46 人）の採用計画があることになる。

臨床工学技士については、「1 人」が 29 事業所（内 4 年制大学卒は 13 事業所）、「2 人」が 6 事業所（同 3 事業所）、「3 人」が 2 事業所（同 0 事業所）、「5 人」が 1 事業所（同 1 事業所）であり、「10 人以上」とする回答も 1 事業所（同 0 事業所）ある。人数にすると、62 人（内 4 年制大学卒は 24 人）の採用計画があることになる。（問 5）

④ 臨床検査技師及び臨床工学技士の資格保持者に係る採用について

臨床検査技師のみ資格保持者に対する採用については、「採用したい」は 15.0%（27 事業所）、「採用を検討したい」は 38.9%（70 事業所）であり、これらを合計すると、53.9%（97 事業所）は採用に前向きな回答を示している。

臨床工学技士のみ資格保持者に対する採用については、「採用したい」は 13.3%（24 事業所）、「採用を検討したい」は 36.1%（65 事業所）であり、これらを合計すると、49.4%（89 事業所）は採用に前向きな回答を示している。

臨床検査技師及び臨床工学士の両資格保持者に対する採用については、「採用したい」は18.9%（34事業所）、「採用を検討したい」は38.9%（70事業所）であり、これらを合計すると、57.8%（104事業所）は採用に前向きな回答を示している。（問6）

3) 医療保健学部医療技術学科について

① 医療保健学部医療技術学科の社会的必要性

医療保健学部医療技術学科の社会的な必要性については、「とても必要である」は12.8%（23事業所）、「必要である」は45.6%（82事業所）であり、これらを合計すると、58.4%（105事業所）が医療保健学部国際医療技術学科の設置について社会的な必要性があると回答している。（問7）

② 医療保健学部医療技術学科卒業生に対する採用意向

臨床検査技師のみ資格保持者については、「採用したい」は7.2%（13事業所）、「採用を検討したい」は41.1%（74事業所）であり、これらを合計すると、採用に関心があるのは48.3%（87事業所）である。

臨床工学技士のみ資格保持者については、「採用したい」は7.2%（13事業所）、「採用を検討したい」は40.0%（72事業所）であり、これらを合計すると、採用に関心があるのは47.2%（85事業所）である。

臨床検査技師及び臨床工学技士の両資格保持者については、「採用したい」は11.1%（20事業所）、「採用を検討したい」は41.7%（75事業所）であり、これらを合計すると、採用に関心があるのは52.8%（95事業所）である。（問8）

③ 医療保健学部医療技術学科卒業生の採用人数

採用に関心がある事業所（「採用したい」もしくは「採用を検討したい」を回答した事業所）において、毎年何人程度採用したい尋ねたところ、臨床検査技師の資格保持者については、「その他」が60.2%（62事業所）で最も多く、現時点では人数未定や欠員の状況によるなどの回答が多いが、「1人」という回答が22.3%（23事業所）あるほか、「3人」が1.0%（1事業所）、「4人以上」が1.9%（2事業所）となっている。臨床工学技士の資格保持者については、「その他」が54.4%（56事業所）で最も多く、現時点では人数未定や欠員の状況によるなどの回答が多いが、「1人」という回答が25.2%（26事業所）あるほか、「2人」が1.9%（2事業所）、「4人以上」が

1.0%（1 事業所）となっている。（問 9）

（２）人材需要の見通しについて

今回のアンケート調査において、医療保健学部医療技術学科卒業生の採用意向に関する回答を見ると、臨床検査技師資格保持者を「採用したい」と回答した事業所は 13、臨床工学技士資格保持者を「採用したい」と回答した事業所は 13、臨床検査技師及び臨床工学技士の両資格保持者を「採用したい」と回答した事業所は 20 である。

また、「採用を検討したい」と回答した事業所については、臨床検査技師資格保持者については 74、臨床工学技士資格保持者については 72、臨床検査技師及び臨床工学技士の両資格保持者については 75 である。

「採用したい」及び「採用を検討したい」とともに、臨床検査技師と臨床工学技士の両資格保持者に関して最も回答が多く、両資格保持者の採用に関心があるのは、合計すると 95 事業所となる。

医療保健学部医療技術学科では臨床検査技師及び臨床工学技士の両資格が取得可能であり、入学定員は 60 人であるが、今回のアンケート調査の範囲に限ってみても、卒業生の採用に関心がある事業所は既に入学定員を超えていることになる。

また、医療保健学部医療技術学科の社会的必要性に関しては、105 事業所が必要性を認める回答（とても必要である、必要である）をしており、臨床検査技師及び臨床工学技士の両資格保持者の採用に関しては、104 事業所が採用に前向きな回答（採用したい、採用を検討したい）をしている。

さらに、過去 3 年間の採用実績の平均を見ると、臨床検査技師については毎年 98 人の採用があり、臨床工学技士については毎年約 55 人の採用が行われている。また、28 年度の採用計画について見ると、臨床検査技師については 72 人、臨床工学技士については 62 人の採用計画がある。これらの数字は、今回アンケート調査に回答があった 180 事業所の実績や計画である。

以上のことを総合的に考えると、臨床検査技師及び臨床工学技士の両資格が取得できる医療保健学部医療技術学科の人材養成に対する社会的需要は、入学定員の 60 人に対して十分にあると考えられる。

Ⅲ アンケート集計結果表

北陸大学「医療保健学部医療技術学科（仮称）」（平成 29 年 4 月開設予定）臨床検査
技師・臨床工学技士の採用実績および 4 年制大学卒の臨床検査技師・臨床工学技士採
用意向調査：回収表

回収日	No.	県	社名
12. 24	2	愛知県	A
1. 04	11	愛知県	B
12. 25	18	愛知県	C
12. 25	24	愛知県	D
12. 21	30	愛知県	E
12. 17	32	愛知県	F
12. 17	33	愛知県	G
12. 21	36	愛知県	H
12. 25	37	石川県	I
12. 18	38	石川県	J
12. 18	43	石川県	K
12. 18	44	石川県	L
12. 22	45	石川県	M
1. 04	48	石川県	N
12. 21	50	石川県	O
12. 21	51	石川県	P
12. 17	55	石川県	Q
12. 18	58	石川県	R
12. 16	60	石川県	S
12. 21	62	石川県	T
12. 25	63	石川県	U
12. 18	64	石川県	V
1. 07	72	石川県	W
12. 18	74	石川県	X
12. 25	89	石川県	Y
12. 16	92	石川県	Z
12. 16	96	石川県	AA
12. 16	101	石川県	AB
1. 04	102	石川県	AC
1. 04	103	石川県	AD
12. 17	105	石川県	AE
1. 04	109	石川県	AF
12. 17	112	石川県	AG
1. 04	117	石川県	AH
1. 04	120	石川県	AI
12. 17	122	石川県	AJ
12. 17	123	石川県	AK
12. 17	130	石川県	AL
12. 21	133	石川県	AM
12. 21	134	石川県	AN
12. 17	138	石川県	AO
12. 21	140	石川県	AP
12. 25	159	石川県	AQ
12. 17	163	石川県	AR AS

回収日	No.	県	社名
12. 17	183	石川県	AT
12. 17	186	石川県	AU
1. 13	193	石川県	AV
12. 18	195	石川県	AW
1. 04	196	石川県	AX
12. 22	204	大阪府	AY
12. 18	209	大阪府	AZ
12. 17	215	大阪府	BA
12. 17	231	大阪府	BB
12. 18	253	大阪府	BC
12. 21	269	その他	BD
12. 21	275	神奈川県	BE
12. 21	279	神奈川県	BF
12. 16	288	岐阜県	BG
1. 07	289	岐阜県	BH
12. 21	291	岐阜県	BI
12. 18	297	岐阜県	BJ
12. 18	298	岐阜県	BK
12. 16	303	岐阜県	BL
12. 17	307	岐阜県	BM
12. 16	318	岐阜県	BN
12. 18	329	岐阜県	BO
12. 25	330	岐阜県	BP
12. 18	336	岐阜県	BQ
1. 04	340	岐阜県	BR
12. 17	343	岐阜県	BS
12. 17	344	岐阜県	BT
12. 18	349	岐阜県	BU
12. 21	355	岐阜県	BV
12. 18	361	岐阜県	BW
12. 18	368	岐阜県	BX
12. 18	370	岐阜県	BY
1. 04	376	岐阜県	BZ
12. 18	384	岐阜県	CA
12. 18	385	岐阜県	CB
1. 04	386	岐阜県	CC
12. 25	387	岐阜県	CD
12. 18	394	岐阜県	CE
12. 21	399	岐阜県	CF
12. 21	401	岐阜県	CG
1. 04	404	岐阜県	CH
12. 18	407	岐阜県	CI
1. 04	408	岐阜県	CJ
12. 18	410	岐阜県	CK
1. 15	412	岐阜県	CL
12. 17	416	京都府	CM
12. 21	427	群馬県	CN
12. 17	442	静岡県	CO
12. 17	444	静岡県	CP
12. 21	450	千葉県	CQ

回収日	No.	県	社名
12. 17	486	東京都	CR
12. 16	491	東京都	CS
1. 12	504	東京都	CT
12. 22	544	東京都	CU
12. 17	566	東京都	CV
12. 25	583	東京都	CW
12. 16	590	東京都	CX
12. 16	595	東京都	CY
12. 18	601	東京都	CZ
12. 16	628	東京都	DA
12. 18	640	東京都	DB
12. 22	686	富山県	DC
12. 21	688	富山県	DD
12. 21	698	富山県	DE
12. 21	707	富山県	DF
12. 17	710	富山県	DG
12. 17	713	富山県	DH
12. 21	715	富山県	DI
12. 21	724	富山県	DJ
1. 08	726	富山県	DK
12. 25	731	富山県	DL
1. 15	739	富山県	DM
1. 04	740	富山県	DN
12. 21	745	富山県	DO
12. 18	747	富山県	DP
12. 25	748	富山県	DQ
12. 18	759	富山県	DR
12. 21	760	富山県	DS
1. 13	764	富山県	DT
12. 17	771	長野県	DU
12. 24	774	長野県	DV
12. 21	776	長野県	DW
12. 22	788	長野県	DX
12. 17	797	長野県	DY
12. 17	798	長野県	DZ
12. 17	811	長野県	EA
1. 04	813	長野県	EB
12. 24	817	長野県	EC
12. 18	818	長野県	ED
12. 18	824	長野県	EF
12. 16	844	長野県	EG
12. 17	845	長野県	EH
12. 21	847	長野県	EI
12. 16	852	長野県	EJ
12. 21	869	長野県	EK
12. 18	872	長野県	EL
12. 17	879	長野県	EM
12. 17	880	長野県	EN
12. 17	887	長野県	EO
1. 08	901	長野県	EP
12. 17	915	長野県	EQ
1. 04	928	新潟県	ER
12. 17	937	新潟県	ES
12. 17	939	新潟県	ET

回収日	No.	県	社名
12. 16	940	新潟県	EU
12. 24	946	新潟県	EV
12. 17	948	新潟県	EW
12. 17	962	新潟県	EX
12. 17	965	新潟県	EY
12. 16	966	新潟県	FA
12. 21	970	新潟県	FB
12. 17	973	新潟県	FC
12. 17	977	新潟県	FD
12. 18	990	新潟県	FE
12. 18	997	新潟県	FF
12. 17	1025	新潟県	FG
12. 21	1043	広島県	FH
1. 04	1046	福井県	FI
12. 18	1047	福井県	FJ
12. 17	1059	福井県	FK
12. 18	1062	福井県	FL
1. 14	1065	福井県	FM
12. 18	1068	福井県	FN
12. 18	1069	福井県	FO
12. 22	1070	福井県	FP
12. 17	1072	福井県	FQ
1. 15	1079	福井県	FR
12. 17	1091	福井県	FS
12. 18	1092	福井県	FT
12. 18	1095	福岡県	FU
12. 25	1099	福岡県	FV
1. 12	1103	北海道	FW
1. 08	1107	北海道	FX
12. 17	1115	その他	FY
12. 17	1123	その他	GA
12. 17	1130	その他	GB
計 180 件			

〔回収状況〕（送付数 1,131 件）

日付	回収数	累計数	回収率
12. 16	15 件	15 件	1.3%
12. 17	47 件	62 件	5.5%
12. 18	37 件	99 件	8.8%
12. 21	29 件	128 件	11.3%
12. 22	6 件	134 件	11.8%
12. 24	4 件	138 件	12.2%
12. 25	12 件	150 件	13.3%
1. 04	17 件	167 件	14.8%
1. 07	2 件	169 件	14.9%
1. 08	3 件	172 件	15.2%
1. 12	2 件	174 件	15.4%
1. 13	2 件	176 件	15.6%
1. 14	1 件	177 件	15.6%
1. 15	3 件	180 件	15.9%

〔都道府県別回収状況〕

	都道府県	依頼数	回収数	回収率
1	石川県	160 件	41 件	25.6%
2	富山県	82 件	18 件	22.0%
3	福井県	49 件	12 件	24.5%
4	長野県	153 件	22 件	14.4%
5	新潟県	109 件	15 件	13.8%
6	岐阜県	133 件	32 件	24.1%
7	北海道	7 件	2 件	28.6%
8	群馬県	3 件	1 件	33.3%
9	埼玉県	12 件	—	—
10	千葉県	7 件	1 件	14.3%
11	東京都	230 件	11 件	4.8%
12	神奈川県	9 件	2 件	22.2%
13	静岡県	5 件	2 件	40.0%
14	愛知県	36 件	8 件	22.2%
15	滋賀県	2 件	—	—
16	京都府	12 件	1 件	8.3%
17	大阪府	69 件	5 件	7.2%
18	兵庫県	11 件	—	—
19	広島県	5 件	1 件	20.0%
20	福岡県	5 件	2 件	40.0%
21	その他	32 件	4 件	12.5%
	総 計	1131 件	180 件	15.9%

◆北陸大学「医療保健学部医療技術学科（仮称）」（平成 29 年 4 月開設予定）臨床検査技師・臨床工学技士の採用実績および 4 年制大学卒の臨床検査技師・臨床工学技士採用意向調査：集計表

〔有効回答票：180 票〕

問 1 貴機関・施設の所在地についてお聞きます。

No.	カテゴリ	件数	%
1	石川県	38	21.1
2	富山県	18	10.0
3	福井県	12	6.7
4	長野県	21	11.7
5	新潟県	16	8.9
6	岐阜県	32	17.8
7	その他	41	22.8
	不明	2	1.1
	N（%への入）	180	100.0

「7 その他」の回答

愛知県	青森県	群馬県	岡山県
愛媛県	静岡県	神奈川県	東京都
東京・大分	大阪府	京都府	東京本社
大阪府、東京都	宮城県	広島県	福岡県

問2 貴機関・施設の種別についてお聞きします。

No.	カテゴリ	件数	%
1	病院・診療所	110	61.1
2	研究機関	1	0.6
3	医療機器メーカー	19	10.6
4	検査機関	7	3.9
5	商社	28	15.6
6	その他	13	7.2
	不明	2	1.1
	N（％ベース）	180	100.0

問3 貴機関・施設における過去3ヵ年（平成25年度、26年度、27年度）の臨床検査技師、臨床工学技士それぞれの採用実績を年度別にご記入ください。

◆平成25年度

	臨床検査技師	内4年制大学卒業者	臨床工学技士	内4年制大学卒業者
0人	133件	148件	145件	164件
1人	26件	17件	19件	11件
2人	8件	4件	8件	0件
3人	3件	3件	3件	0件
4人	3件	2件	0件	0件
5人	1件	1件	0件	1件
6人～9人	1件	0件	1件	0件
10人以上	1件	1件	0件	0件
不明	1件	1件	1件	1件
無回答	3件	3件	3件	3件
N（％へ→）	180件	180件	180件	180件

◆平成26年度

	臨床検査技師	内4年制大学卒業者	臨床工学技士	内4年制大学卒業者
0人	127件	142件	144件	164件
1人	26件	18件	17件	10件
2人	17件	11件	9件	1件
3人	2件	1件	3件	1件
4人	1件	1件	1件	0件
5人	2件	2件	1件	0件
6人～9人	0件	0件	1件	0件
10人以上	1件	1件	0件	0件
不明	1件	1件	1件	1件
無回答	3件	3件	3件	3件
N（％へ→）	180件	180件	180件	180件

◆平成27年度

	臨床検査技師	内4年制大学卒業者	臨床工学技士	内4年制大学卒業者
0人	121件	143件	142件	160件
1人	28件	17件	20件	11件
2人	15件	9件	10件	6件
3人	5件	4件	3件	0件
4人	4件	3件	2件	0件
5人	1件	1件	0件	0件
6人～9人	1件	0件	0件	0件
10人以上	2件	0件	0件	0件
不明	0件	0件	0件	0件
無回答	3件	3件	3件	3件
N（％へ→）	180件	180件	180件	180件

【臨床検査技師】

単位（件）

	0 人	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人～9 人	10 人以上	不明	無回答	合計
25 年度	133 (148)	26 (17)	8 (4)	3 (3)	3 (2)	1 (1)	1 (0)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	180 (180)
26 年度	127 (142)	26 (18)	17 (11)	2 (1)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	180 (180)
27 年度	121 (143)	28 (17)	15 (9)	5 (4)	4 (3)	1 (1)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (3)	180 (180)
合計	381 (433)	80 (52)	40 (24)	10 (8)	8 (6)	4 (4)	2 (0)	4 (2)	2 (2)	9 (9)	540 (540)

（注）下段の（ ）は 4 年制大学卒業者に係る回答で内数。

※人数換算（「6 人～9 人」は 6 人として、「10 人以上」は 10 人として換算）

単位（人）

	0 人	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	10 人	不明	無回答	合計
25 年度	－ (－)	26 (17)	16 (8)	9 (9)	12 (8)	5 (5)	6 (0)	10 (10)	－ (－)	－ (－)	84 (57)
26 年度	－ (－)	26 (18)	34 (22)	6 (3)	4 (4)	10 (10)	0 (0)	10 (10)	－ (－)	－ (－)	90 (67)
27 年度	－ (－)	28 (17)	30 (18)	15 (12)	16 (12)	5 (5)	6 (0)	20 (0)	－ (－)	－ (－)	120 (64)
合計	－ (－)	80 (52)	80 (48)	30 (24)	32 (24)	20 (20)	12 (0)	40 (20)	－ (－)	－ (－)	294 (188)
平均	－ (－)	26.7 (17.3)	26.7 (16.0)	10.0 (8.0)	10.7 (8.0)	6.7 (6.7)	4.0 (0.0)	13.3 (6.7)	－ (－)	－ (－)	98.0 (62.7)

（注）下段の（ ）は 4 年制大学卒業者に係る回答で内数。

【臨床工学技士】

単位（件）

	0 人	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人～9 人	10 人以上	不明	無回答	合計
25 年度	145 (164)	19 (11)	8 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	3 (3)	180 (180)
26 年度	144 (164)	17 (10)	9 (1)	3 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	3 (3)	180 (180)
27 年度	142 (160)	20 (11)	10 (6)	3 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	180 (180)
合計	431 (488)	56 (32)	27 (7)	9 (1)	3 (0)	1 (1)	2 (0)	0 (0)	2 (2)	9 (9)	540 (540)

（注）下段の（ ）は 4 年制大学卒業者に係る回答で内数。

※人数換算（「6 人～9 人」は 6 人として、「10 人以上」は 10 人として換算）

単位（人）

	0 人	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	10 人	不明	無回答	合計
25 年度	－ (－)	19 (11)	16 (0)	9 (0)	0 (0)	0 (5)	6 (0)	0 (0)	－ (－)	－ (－)	50 (16)
26 年度	－ (－)	17 (10)	18 (2)	9 (3)	4 (0)	5 (0)	6 (0)	0 (0)	－ (－)	－ (－)	59 (15)
27 年度	－ (－)	20 (11)	20 (12)	9 (0)	8 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	－ (－)	－ (－)	57 (23)
合計	－ (－)	56 (32)	54 (14)	27 (3)	12 (0)	5 (5)	12 (0)	0 (0)	－ (－)	－ (－)	166 (54)
平均	－ (－)	18.7 (10.7)	18.0 (4.7)	9.0 (1.0)	4.0 (0.0)	1.7 (1.7)	4.0 (0.0)	0.0 (0.0)	－ (－)	－ (－)	55.3 (18.0)

（注）下段の（ ）は 4 年制大学卒業者に係る回答で内数。

問4 現在の貴機関・施設の臨床検査技師及び臨床工学技士充足状況についてお聞きします。

		臨床検査技師		臨床工学技士	
No.	カテゴリ	件数	%	件数	%
1	大きく不足している	4	2.2	9	5.0
2	やや不足している	34	18.9	35	19.4
3	充足している	93	51.7	56	31.1
4	その他	34	18.9	56	31.1
	不明	15	8.3	24	13.3
	N (％ベース)	180	100.0	180	100.0

「4 その他」の回答

臨床検査技師	
医薬品部の為特に必要としておりません	需要なし
育児休業等により不足時あり	職種がない
該当者なし	退職者有再任用
業務なし	特に求人の予定がない
現在は必要なし	特に必要としていない
現状必要なし	特に必要ない
採用予定なし	非該当
資格の活用は要検討	必要なし
資格の有無を応募要件としていない	必要性が無い
事業内容は医薬品卸のため	不要
需要がない	不要です
臨床工学技士	
医薬品部の為特に必要としておりません	需要なし
管理してもらう機器がない	充足しているが定年間近
業務なし	職種がない
業務拡大が進めば不足する	精神科病院の為
業務上必要性があまりない	特に求人の予定がない
検討段階	特に必要としていない
現在は必要なし	特に必要ない
現時点で必要としない	配置なし不要
現状必要なし	非該当
今後の業務拡大で不足する場合がある	必要がない
採用していない	必要なし
採用なし	必要性が無い
採用計画なし	必要性なし
採用実績なし	不在
採用予定なし	不要
資格の活用は要検討	不要です
資格の有無を応募要件としていない	募集していない
事業内容は医薬品卸のため	未定
需要がない	

問5 貴機関・施設の平成28年度の臨床検査技師、臨床工学技士採用計画を実数（予定数）でご記入ください。

	臨床検査技師	内4年制大学卒業者	臨床工学技士	内4年制大学卒業者
0人	120件	131件	118件	136件
1人	21件	10件	29件	13件
2人	4件	5件	6件	3件
3人	4件	4件	2件	0件
4人	4件	1件	0件	0件
5人	1件	0件	1件	1件
6人～9人	0件	0件	0件	0件
10人以上	1件	1件	1件	0件
未定	22件	25件	20件	24件
不明	0件	0件	0件	0件
無回答	3件	3件	3件	3件
N（％へ→）	180件	180件	180件	180件

※人数換算（「6人～9人」は6人として、「10人以上」は10人として換算）

	臨床検査技師	内4年制大学卒業者	臨床工学技士	内4年制大学卒業者
0人	－	(－)	－	(－)
1人	21人	(10人)	29人	(13人)
2人	8人	(10人)	12人	(6人)
3人	12人	(12人)	6人	(0人)
4人	16人	(4人)	0人	(0人)
5人	5人	(0人)	5人	(5人)
6人～9人	0人	(0人)	0人	(0人)
10人以上	10人	(10人)	10人	(0人)
未定	－	(－)	－	(－)
不明	－	(－)	－	(－)
無回答	－	(－)	－	(－)
N（％へ→）	72人	(46人)	62人	(24人)

問6 貴機関・施設では、臨床検査技師・臨床工学技士資格保持者または両資格保持者の採用にどのようなお考えをお持ちですか。

		臨床検査技師のみ資格保持者		臨床工学技士のみ資格保持者		臨床検査技師・臨床工学技士両資格保持者	
No.	カテゴリ	件数	%	件数	%	件数	%
1	採用したい	27	15.0	24	13.3	34	18.9
2	採用を検討したい	70	38.9	65	36.1	70	38.9
3	採用は考えない	73	40.6	82	45.6	71	39.4
	不明	10	5.6	9	5.0	5	2.8
	N（％ベース）	180	100.0	180	100.0	180	100.0

問7 貴機関・施設では、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）設置について社会的な必要性を感じますか。

No.	カテゴリ	件数	%
1	とても必要である	23	12.8
2	必要である	82	45.6
3	どちらともいえない	70	38.9
4	不要である	3	1.7
	不明	2	1.1
	N（％ベース）	180	100.0

問 8 貴機関・施設では、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）を卒業した臨床検査技師及び臨床工学技士資格保持者の採用にどのようなお考えをお持ちですか。

		臨床検査技師のみ		臨床工学技士のみ		臨床検査技師・臨床工学技士両資格	
No.	カテゴリ	件数	%	件数	%	件数	%
1	採用したい	13	7.2	13	7.2	20	11.1
2	採用を検討したい	74	41.1	72	40.0	75	41.7
3	採用は考えない	52	28.9	62	34.4	52	28.9
4	その他	29	16.1	24	13.3	22	12.2
	不明	12	6.7	9	5.0	11	6.1
	N（%ベース）	180	100.0	180	100.0	180	100.0

「4. その他の回答」

臨床検査技師のみ
近隣大学で足りる
欠員があり募集があれば検討
欠員があれば
欠員が出た時に検討
欠員生じた場合検討したい
現在採用予定なし
現時点では不明
現状において人員は充足しているため、今後必要時には是非採用したい
現段階では充足しているので採用は考えない
今は何とも言えない
採用予定があり、良い人材であれば採用したい
採用予定があれば検討したい
採用予定なし
資格のあるなしは採用基準となりえないので回答困難
資格の活用は要検討
資格有無を採用要件としていない
将来必要になったら検討したい（離職があれば）。
新卒者の採用は予定なし。病院等での経験者を検討
人員に不足が生じた場合検討する
人員体制による
大学等による選考は行っていない
地元出身であればなお可
東海北陸グループ一括採用のため
特に技師としては必要なし
特に資格が必要ない
補充の必要があれば採用を検討する
未定
臨床工学技士のみ
近隣大学で足りる
欠員があり募集があれば検討
欠員生じた場合検討したい
現在採用予定なし
現段階では充足しているので採用は考えない
今は何とも言えない

採用予定があり、良い人材であれば採用したい
採用予定があれば検討したい
採用予定なし
資格のあるなしは採用基準となりえないので回答困難
資格有無を採用要件としていない
人員に不足が生じた場合検討する
人員体制による
卒業年度に必要性があれば検討したい
地元出身であればなお可
特に技師としては必要なし
特に資格が必要ない
必要に応じて検討したい
補充の必要があれば採用を検討する
未定
臨床検査技師・臨床工学技士両資格
欠員があり募集があれば検討
欠員生じた場合検討したい
現在採用予定なし
現段階では充足しているので採用は考えない
今は何とも言えない
採用予定があり、良い人材であれば採用したい
採用予定があれば検討したい
採用予定なし
資格のあるなしは採用基準となりえないので回答困難
資格有無を採用要件としていない
将来必要になったら検討したい。両方資格を持っているとありがたいと思う。
人員に不足が生じた場合検討する
人員体制による
地元出身であればなお可
特に技師としては必要なし
特に資格が必要ない
未定

問9 上記問8で、1または2を選択された場合のみ、ご回答ください。

貴機関・施設では、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）を卒業した臨床検査技師及び臨床工学技士資格保持者を毎年何人程度採用したいというお考えをお持ちですか。

		臨床検査技師		臨床工学技士	
No.	カテゴリ	件数	%	件数	%
1	1人	23	22.3	26	25.2
2	2人	0	0.0	2	1.9
3	3人	1	1.0	0	0.0
4	4人以上	2	1.9	1	1.0
5	その他	62	60.2	56	54.4
	不明	15	14.6	18	17.5
	N（%ベース）	103	100.0	103	100.0

「5. その他」の回答

臨床検査技師
3～5年に1名
医薬品部の為採用は考えておりません
応募者と応募状況に応じて
欠員がある時
欠員があれば
欠員があれば採用したい
欠員が決まったら
欠員が出た時に採用1名程度
欠員が出た場合のみ
欠員が出れば採用したい
欠員が生じればその都度募集予定
欠員補充
欠員補充なので数はわからない
欠損が生じた時、その人数を採用
現在は必要ありません
現在予定なし
現時点では充足しているためわからない
現時点では退職補充
採用計画に沿って検討
採用試験結果による
採用枠があれば
資格を活かしての職務ではないため、人物重視となる。ただし、加点要素ではある
実績をみて
社員として資格者がいると良い
充足しているので欠員補充的に
充足すれば採用しない
職種がない
人材に応じて
人数未定

退職者の補充
退職者の補充として
退職者補充
特定大学からの採用数を決めているわけではない
年度により異なるが3名前後
年度に採用予定数が変動する
必須資格ではないが、資格を持っていれば選択の幅が広がるため
必要に応じて
必要に応じて検討
必要に応じ採用したい
必要性は考えられるが、具体的な計画はない
不足が出た場合
不足数により変化
不明
募集状況や学生の質による
毎年ではないと思うが不足であれば採用を考えたい
毎年の検討は難しいが1～3名（3年の間で）
毎年採用する必要はない
未定
未定（採用試験の結果に基づき決定）
面接結果による
両免のみ
臨床工学技士
5名～10名
あくまで試験をした上で決定
そのときの状況による
その都度において検討
医薬品部の為採用は考えておりません
応募者と応募状況に応じて
欠員がある時
欠員があれば
欠員があれば採用したい
欠員が決まったら
欠員が出た時に採用1名程度
欠員が出た場合のみ
欠員が出れば採用したい
欠員が生じればその都度募集予定
欠員補充
現在は必要ありません
現在予定なし
現時点では充足しているためわからない
採用計画に沿って検討
採用試験結果による
採用枠があれば
実績をみて
社員として資格者がいると良い
充足すれば採用しない
職種がない
人材に応じて
人数未定
退職者の補充
退職者の補充として
退職者補充
定員が決められているため不明
年度毎に採用予定の無い年が多い
必須資格ではないが、資格を持っていれば選択の幅が広がるため

必要が生じれば採用したい
必要に応じて検討
必要に応じ採用したい
必要性は考えられるが、具体的な計画はない
不明
募集状況や学生の質による
毎年ではないと思うが不足であれば採用を考えたい
毎年の検討は難しいが1～3名（3年の間で）
毎年採用する必要はない
未定
未定（採用試験の結果に基づき決定）
未定だが業務拡大について検討している
面接結果による
両免のみ
臨床検査以外の職種に興味をお持ち頂けるのなら是非採用したいです

問 10 平成 29 年 4 月開設予定の北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）について、ご意見等がございましたらご自由にお書きください。

自由回答意見
あまり資格を生かして頂く場がない為、積極採用でなく申し訳ありません。
サテライトの HD クリニックですが、ME はとても不足しています。また世代交代が必要な時期で ME が必要です。また機械に明るい ME を期待しています。
医師看護師から細分化されてきたコメディカルについて、再編統合に向かうのでしょうか。
医療現場で習得し知識・技術が直ちに発揮出来るような優秀な人材を育てて下さい。
営業会社（商社、医療機器）なので、特に資格が要るものではなく、営業できれば良い。アンケートの参考にならないと思います。申し訳ありません。
貴大学が当社の業務内容と関連が無いので回答出来ません。
社会人枠を設けて支援していただきたい。
専門学問を修得（資格）し、一般社会（企業側）で学びを活かし、社会の場で活躍する事を考えてもほしい。
地域医療における意義は大きいものと考えます。期待しております。
長野県では検査技師は過多、工学士は不足傾向にある。北里でのダブルライセンスは注目しているので、よいライバルとなって欲しい。
当センターに係る職員採用については、県職員全体枠の中での採用であり、問 3、問 4、問 5、問 6、問 8 の採用に関する項目については、当センターとして回答する立場にないことから、問 1、問 2、問 7 の項目のみの回答とさせていただきます。
当院は小規模な病院であるため、臨床検査技師は 3 名しかいないのが実情です。採用についても退職を迎える方があれば募集となります。
当院は精神科単科病院（病床 275 床）、現在臨床検査技師 1 人で充足。現職員退職時のみ採用計画あり、それ以外はありませぬ。外部委託業者の比重高くなっています。
当院より近いエリアですぐれた技師を輩出される学校が存在することは大変よろこばしいと思います。
当社には資格をそのまま活かせる職種はありませんが、医療機関をお客としている会社ですので、本人さえ希望すれば、採用後は営業として活かせるかもしれません。
病院や社会をグローバルな視点で考える事のできる教育をお願いしたい。
弊社は毎年臨床検査技師を採用しております。検査センターおよびランチでの勤務は全国区拠点があり、北陸地区を代表される養成校となられる事を祈っております。ぜひ、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。
薬剤師が不足しているので薬剤師を採用したい。

北陸大学「医療保健学部医療技術学科（仮称）」 設置に関するアンケート調査票（平成27年度高校2年生対象）

北陸大学では、高校生の進学希望及び医療・福祉現場からの人材養成に應えるため、現在、平成29年4月に「医療保健学部医療技術学科（仮称）」の設置の準備を進めています。

このアンケート調査は、高校生の皆様の卒業後の進路等に関する意向や本学が設置する「医療保健学部医療技術学科（仮称）」への興味・関心等についておたずねし、新学部設置のための基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。なお、本調査は客観性を担保するため、大学等に関して多くの実績を持つ一般財団法人日本開発構想研究所に集計・分析等を委託します。この調査票は無記名方式です。また、アンケート結果は統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表したり他の目的のために使用することはありません。

新学部設置は計画中であり、学部・学科や授業料等は正式に決まったものではなく、変更される可能性があります。

I. あなた自身についてお聞きします。

問1 あなたの性別を教えてください。

- 1 男性 2 女性

問2 あなたの通っている高校の所在地（都道府県）について教えてください。

- 1 石川県 2 富山県 3 福井県 4 長野県 5 新潟県 6 岐阜県 7 その他（ ）

問3 あなたが所属しているコースについて教えてください。

- 1 文系クラス 2 理系クラス 3 コース選択はない 4 その他（具体的に ）

II. 高校卒業後の進路や興味・関心がある学びについてお聞きします。

問4 あなたは卒業後の進路についてどのように考えていますか？以下の項目からあてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 大学に進学 2 短期大学に進学 3 専門学校・専修学校に進学
4 就職 5 その他（ ）

問5 問4において、《1 4年制大学に進学》《2 短期大学に進学》《3 専門学校・専修学校》に進学を選んだ方に質問します。その他の方は問7へお進みください。あなたは卒業後の進路についてどのような地域に進学を希望していますか？以下の項目から2つまで選んで○をつけてください。

- 1 石川県 2 富山県 3 福井県 4 長野県 5 新潟県
6 岐阜県 7 関東地方 8 関西地方 9 東海地方 10 その他

問6 あなたはどのような学問に興味・関心がありますか？以下の項目から興味・関心がある学問すべてに○をつけてください。進学を希望していない方も、進学する場合を想定してお答えください。

- | | | | | |
|-----------|--------|---------|--------------|----------------------|
| 1 医療技術学 | 2 薬学 | 3 医学・歯学 | 4 保健・看護学 | 5 栄養学 |
| 6 体育・健康科学 | 7 工学 | 8 農・水産学 | 9 語学 | 10 文化・文学 |
| 11 国際関係学 | 12 芸術学 | 13 法学 | 14 経済・経営学・商学 | 15 社会福祉学 |
| 16 社会学 | 17 教育学 | 18 保育学 | 19 理学 | 20 その他（ ） |

※1 医療技術学とは理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、臨床工学技士等の学びを指します。

問7 あなたは以下の職業に興味がありますか？以下の項目から、興味・関心がある職業すべてに○をつけてください。

- | | | | | |
|------------|----------------------|----------|----------|----------|
| 1 臨床検査技師 | 2 臨床工学技士 | 3 薬剤師 | 4 保健師 | 5 助産師 |
| 6 医師 | 7 歯科医師 | 8 看護師 | 9 理学療法士 | 10 作業療法士 |
| 11 診療放射線技師 | 12 言語聴覚士 | 13 義肢装具士 | 14 救命救急士 | 15 柔道整復師 |
| 16 栄養士 | 17 管理栄養士 | 18 歯科衛生士 | 19 歯科技工士 | 20 保育士 |
| 21 社会福祉士 | 22 介護福祉士 | 23 教諭 | 24 公認会計士 | 25 税理士 |
| 26 弁護士 | 27 その他（ ） | | | |

問8 あなたが進学先を決定する際に重視することを教えてください。以下の項目から該当するものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|--------------|--------------|---------------|
| 1 学部・学科の分野 | 2 取得可能資格・免許 | 3 教育内容 |
| 4 教員の充実度 | 5 就職指導及び就職実績 | 6 入試難易度・入試科目 |
| 7 国立・公立・私立の別 | 8 所在地 | 9 校舎・施設の充実度 |
| 10 伝統・世間での評判 | 11 寮の有無 | 12 学校の先生の意見 |
| 13 家族の意見 | 14 友人の意見 | 15 大学生や卒業生の意見 |
| 16 学費等のコスト | 17 学生生活の充実度 | |
| 18 その他（具体的に | | ） |

Ⅲ. 北陸大学医療保健学部医療技術学科(仮称)についてお聞きします。

※アンケートに同封している資料を見ながらお答えください。

問9 あなたは、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）に興味・関心をもちましたか？一番近いもの1つに○をつけてください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 とても興味・関心をもった | 2 ある程度興味・関心をもった |
| 3 少し興味・関心をもった | 4 興味・関心をもたなかった |

問10 あなたは、臨床検査技師及び臨床工学技士国家資格の取得について、興味を感じますか。各資格について、それぞれ次の中から1つだけ選んでください。

【臨床検査技師】

- | | | |
|--------------|-----------|------------|
| 1 大変興味を感じる | 2 興味を感じる | 3 少し興味を感じる |
| 4 あまり興味を感じない | 5 興味を感じない | |

【臨床工学技士】

- | | | |
|--------------|-----------|------------|
| 1 大変興味を感じる | 2 興味を感じる | 3 少し興味を感じる |
| 4 あまり興味を感じない | 5 興味を感じない | |

問11 あなたは、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）に進学したいと思いますか？一番近いもの1つに○をつけてください。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 ぜひ進学したいと思う | 2 進学先の1つとして検討すると思う |
| 3 あまり進学したいと思わない | 4 進学したいと思わない |

問12 問11で〈1〉〈2〉を選んだ方に質問します。〈3〉〈4〉を選んだ方は問13へお進みください。あなたが北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）への《ぜひ進学したいと思う》あるいは《進学先の1つとして検討する》理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

- | |
|-----------------------------------|
| 1 希望の資格・免許（臨床検査技師、臨床工学技士）が取得できるから |
| 2 4年制大学のため教育内容がより充実しているから |
| 3 地元にある大学（自宅から通学圏内の大学）だから |
| 4 他校にはない特色がありそうだから |
| 5 これまでの実績や評判から信頼できる大学だから |
| 6 雰囲気の良い大学だから |
| 7 先輩が北陸大学に進学しているから |
| 8 その他（具体的に |

）

問13 北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）や同封した資料・アンケート等について、わからないことやもっと知りたいことがありましたら、ご自由にご記入ください。

*** 以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。 ***

北陸大学「医療保健学部医療技術学科（仮称）」（平成29年4月開設予定）

臨床検査技師・臨床工学技士の採用実績及び

4年制大学卒の臨床検査技師・臨床工学技士採用意向調査

北陸大学では平成29年4月の開設に向けて、北陸大学「医療保健学部医療技術学科（仮称）」の設置準備を進めております。本学部では臨床検査技師、臨床工学技士の国家試験受験資格を取得できるようなカリキュラムの教育を検討しております。つきましては、病院、医療関連機関・施設等の採用実績と採用意向等をお伺いしたく、ご協力をお願い申し上げます。なお、本調査は客観性を担保するため、大学等に関する調査に関して多くの実績を持つ一般財団法人日本開発構想研究所に集計・分析等を委託します。調査は無記名で行われ、結果は統計的に処理され調査目的以外に使用することはありません。

※このアンケートに記載されている内容はあくまで予定であり、内容が変更になる場合があります。

（貴機関・施設について）

問1 貴機関・施設の所在地についてお聞きします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- 1 石川県 2 富山県 3 福井県 4 長野県 5 新潟県 6 岐阜県 7 その他（ ）

問2 貴機関・施設の種別についてお聞きします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- 1 病院・診療所 2 研究機関 3 医療機器メーカー 4 検査機関 5 商社 6 その他

（貴機関・施設の臨床検査技師及び臨床工学技士採用実績・充足状況・採用計画について）

問3 貴機関・施設における過去3ヵ年（平成25年度、26年度、27年度）の臨床検査技師、臨床工学技士それぞれの採用実績を年度別にご記入ください。

平成25年度 臨床検査技師 （ 人）【 】 臨床工学技士 （ 人）【 】

平成26年度 臨床検査技師 （ 人）【 】 臨床工学技士 （ 人）【 】

平成27年度 臨床検査技師 （ 人）【 】 臨床工学技士 （ 人）【 】

【 】内は、4年制大学卒業者数で内数

注：採用実績なしの場合は、「0」、不明の場合は「不明」と回答欄にご記入ください。

問4 現在の貴機関・施設の臨床検査技師及び臨床工学技士充足状況についてお聞きします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

【臨床検査技師】

- 1 大きく不足している 2 やや不足している 3 充足している 4 その他（具体的に ）

【臨床工学技士】

- 1 大きく不足している 2 やや不足している 3 充足している 4 その他（具体的に ）

問5 貴機関・施設の平成28年度の臨床検査技師、臨床工学技士採用計画を実数（予定数）でご記入ください。

平成28年度臨床検査技師 採用者数（ 人）【 】

平成28年度臨床工学技士 採用者数（ 人）【 】

【 】内は、4年制大学卒業者数で内数

注：採用計画なしの場合は「0」、未定の場合は「未定」と回答欄にご記入ください。

問6 貴機関・施設では、臨床検査技師・臨床工学技士資格保持者または両資格保持者の採用にどのようなお考えをお持ちですか。該当する番号を1つお選びください。

【臨床検査技師のみ資格保持者】

- 1 採用したい 2 採用を検討したい 3 採用は考えない

【臨床工学技士のみ資格保持者】

- 1 採用したい 2 採用を検討したい 3 採用は考えない

【臨床検査技師・臨床工学技士両資格保持者】

- 1 採用したい 2 採用を検討したい 3 採用は考えない

問7 貴機関・施設では、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）設置について社会的な必要性を感じますか。該当する番号を1つお選びください。

- 1 とても必要である 2 必要である 3 どちらともいえない 4 不要である

問 8 貴機関・施設では、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）を卒業した臨床検査技師及び臨床工学技士資格保持者の採用にどのようなお考えをお持ちですか。該当する番号を1つお選びください。

【臨床検査技師のみ】

- 1 採用したい 2 採用を検討したい 3 採用は考えない 4 その他（具体的に）

()

【臨床工学技士のみ】

- 1 採用したい 2 採用を検討したい 3 採用は考えない 4 その他（具体的に）

()

【臨床検査技師・臨床工学技士両資格】

- 1 採用したい 2 採用を検討したい 3 採用は考えない 4 その他（具体的に）

【

問9 上記問8で1または2を選択された場合のみ、ご回答ください。

貴機関・施設では、北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）を卒業した臨床検査技師及び臨床工学技士資格保持者を毎年何人程度採用したいというお考えをお持ちですか。該当する番号を1つお選びください。

【臨床検査技師】

- 1 1人 2 2人 3 3人 4 4人以上 5 その他（具体的に）

()

【臨床工学技士】

- 1 1人 2 2人 3 3人 4 4人以上 5 その他（具体的に）

問10 平成29年4月開設予定の北陸大学医療保健学部医療技術学科（仮称）について、ご意見等がございましたらご自由にお書きください。

--



医療保健学部（仮称）



国際コミュニケーション学部
（仮称）

[平成29年4月開設予定（設置構想中）]

[チーム医療を支える]

医療保健学部

医療技術学科（仮称）

平成29年4月開設予定（設置構想中）

入学定員60名（4年制、男女共学）

高度化・複雑化する我が国の医療現場では、医師、看護師等の医療従事者の業務内容の多様化、人材不足が危惧されています。このような状況の中、チーム医療の推進及び質の高い医療サービスの提供のために、一人の医療従事者が幅広い知識を身につけることが求められています。そこで北陸大学では臨床検査学、臨床工学の二つの専門知識と技能を修得することにより、それぞれの業務分野のみならず、医療現場で幅広い業務が行える医療技術者を養成する、医療保健学部医療技術学科を設置します。

臨床検査技師・臨床工学技士 二つの国家資格取得を目指します。

北陸地域で初となる臨床検査技師、臨床工学技士国家試験受験資格を同時取得できる学部です。

臨床検査技師とは？



臨床検査技師は、病院や健康診断で採血、採尿された検体を分析したり、心電図や超音波検査で心臓の機能を調べます。また感染症では菌やウイルスの種類を同定し、治療にはどんな薬剤が効果的か判定します。これ

らの検査結果は医師が診断や治療方針を決定するための重要なデータとなります。また遺伝子検査では、病気を引き起こす原因となる遺伝子や染色体の異常を見つけたり、輸血の時に血液型の適合性を調べるのも臨床検査技師の仕事です。医療現場では患者の正確なデータが必要であり、生体のあらゆる科学的情報を正確・迅速に提供する今日のチーム医療になくてはならない仕事です。

臨床工学技士とは？

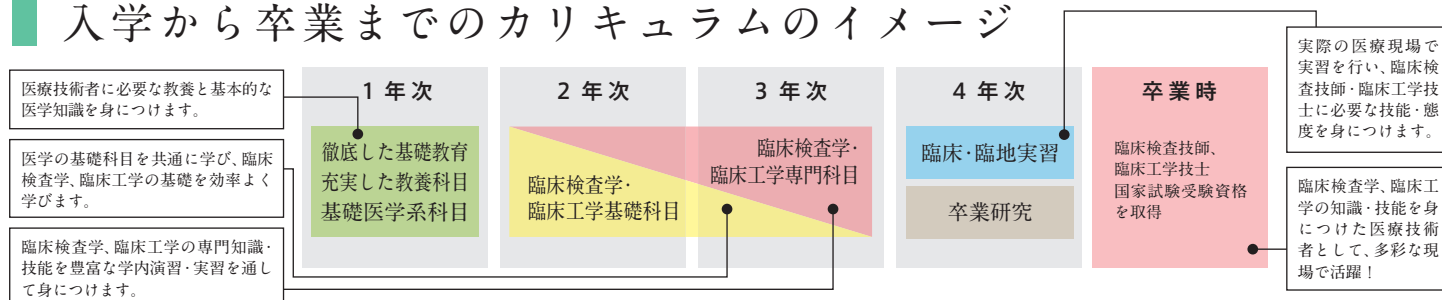


臨床工学技士は、心臓の手術を行う時に使用する人工心肺装置や腎臓が悪く尿が出ない患者さんの血液をきれいにする血液透析、病気や事故で自ら十分な呼吸ができない人に人工的に呼吸をさせる人工呼吸器など命に直結する専門性の高い医療機器を操作し、保守・管理することを仕事とします。その活躍の場は、病棟や手術室、透析室、集中治療室など幅広く、医師・看護師をはじめ多くの医療従事者と連携を図ります。直接患者さんとコミュニケーションをとり、状態の観察や治療の効果を見極め医療機器の専門家としてチームに意見を出し、患者さんの回復への手助けを行います。

教育内容・特色

1. 臨床検査学、臨床工学の専門知識・技能を身につけ、医療現場で必要な幅広い応用力を育成します。
2. チーム医療を担う一員として必要なコミュニケーション力を育成します。
3. 訪問や在宅医療にも貢献できる知識と技術を育成します。
4. 薬学や医療情報システムに精通した医療専門職を育成します。

入学から卒業までのカリキュラムのイメージ



養成する人材像

医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識・技能を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者を養成します。

取得可能な資格

- 臨床検査技師国家試験受験資格
- 臨床工学技士国家試験受験資格

卒業後の進路

- 病院 ● 健診センター ● 登録衛生検査所 ● 医療機器メーカー
- 公務員（保健所等） ● クリニック・診療所 ● 研究機関 ● 大学院進学 など

※ 新学部設置は計画中であり、学部・学科・名称・授業料等の内容については変更となる場合があります。

[語学力と国際感覚を磨く]

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科 (仮称)

平成29年4月開設予定(設置構想中)
入学定員80名(4年制、男女共学)

日本において、グローバル化が叫ばれて久しい今日、多くの企業から語学力を持ったグローバル人材が求められています。しかし、真の意味でグローバルな人材として世界で活躍するためには、語学力はもちろん、世界の多様な価値観や日本そして地域の魅力と強みを理解し、世界と地域をつなぐことのできる国際感覚が必要となります。

北陸大学では世界と日本そして地域をつなぐ、コミュニケーション力を身につけた真のグローバル人材を養成するため、語学力と国際感覚を養う教育を実施する国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科を設置します。

世界と地域をつなぐ語学力と国際感覚を持った グローバル人材を養成します。

チームティーチングで 高い語学力を身につけます！



初年次から英語・中国語の語学科目を配置し、徹底した語学教育プログラムを実施します。英語では学生一人ひとりのレベルに合わせた少人数クラスで、経験豊富な日本人教員とTESOL※取得の外国人教員でチームティーチングを行います。到達目標として、英語ではTOEIC®750点、中国語では中国語検定試験準1級を目指します。

※ TESOL… Teaching English to Speakers of Other Language 英語教育のスペシャリスト

多様な海外プログラムで 国際感覚を身につけます！

幅広い日本・国際理解科目を配置し、世界情勢を知り、日本の魅力を学び、キャンパス内で外国人教員、留学生との交流を通して異文化理解を深めます。また、これまでの実績に基づく多くの姉妹校・友好校への豊富な留学プログラムと海外インターンシップやボランティア等の多様な海外研修を通して、国際感覚を身につけます。



これまでの国際交流実績

世界13カ国・地域56校との強力なパートナーシップのもと、これまで留学・研修等で海外に渡った学生は5,900名、留学生受入は4,300名になり、北陸地区No.1の実績を誇ります。

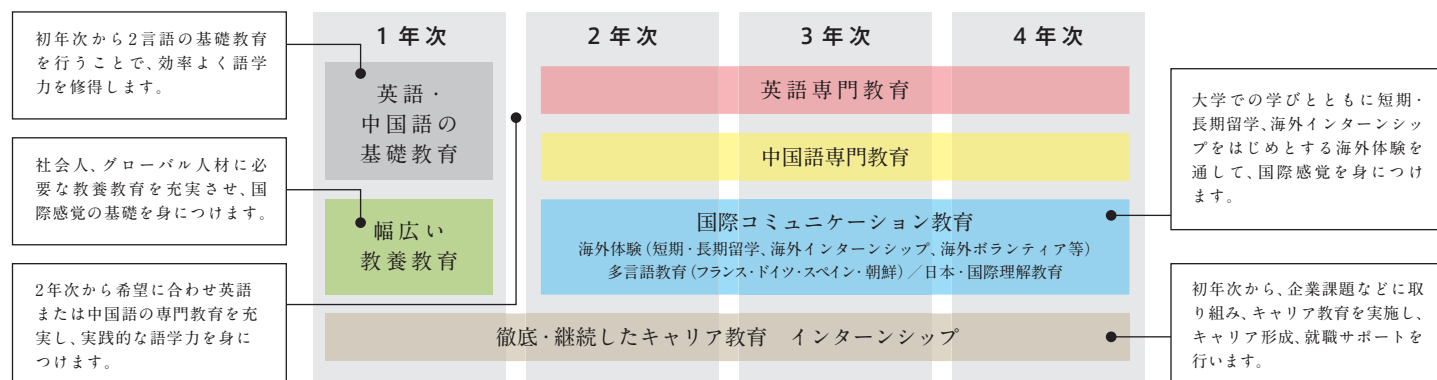
[海外派遣実績]

アメリカ イギリス スペイン ドイツ ロシア モンゴル ニュージーランド
オーストラリア シンガポール カンボジア タイ 中国 韓国 台湾

[平成27年度留学生受入れ数 約200名 出身国・地域]

オランダ ロシア オーストラリア タイ
インドネシア スリランカ 中国 韓国 台湾

入学から卒業までの学びのイメージ



養成する人材像

地域社会及び地域産業のグローバル化に貢献し、世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚を持ったグローバル人材を養成します。

取得可能な資格

● 中学校・高等学校教諭一種免許状(英語)

卒業後の進路

● 商社・外資系企業 ● 一般企業の国際部門 ● 公務員 ● 国際関係のNPO・NGO ● 航空会社
● 旅行会社 ● 観光産業 ● ホテル・旅館業 ● 英語教員(中学、高校) ● 通訳・翻訳者 など

※ 新学部設置は計画中であり、学部・学科・名称・授業料等の内容については変更となる場合があります。



※イメージ図

医療保健学部（仮称）新校舎平成29年3月完成予定

【学費】	平成29年4月開設時の授業料等の予定額です。	入学定員	入学金	授業料	施設設備費	初年度(1年次)合計	2年次以降合計
医療保健学部 医療技術学科（仮称）		60	200,000	1,100,000	400,000	1,700,000	1,500,000
国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科（仮称）		80	200,000	750,000	350,000	1,300,000	1,100,000

※ 近隣大学と新学部と類似する大学の初年度（1年次）の授業料等については別紙を参照して下さい。

平成29年4月、北陸大学は4学部4学科体制になります。
北陸大学は地域社会、国際社会に貢献できるグローバルな人材とチーム医療を支える人材を養成します。

医療保健学部

医療技術学科

臨床検査学、臨床工学の幅広い知識・技能を身につけたチーム医療を支える人材を養成します。

国際コミュニケーション学部

国際コミュニケーション学科

世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚を持った人材を養成します。

経済経営学部

マネジメント学科

実務的マネジメント力と豊かな教養を備えた人材を養成します。

薬学部

薬学科

医療人としての倫理観と最新の医療現場で役立つ実践的臨床力を持った人材を養成します。

※ 学部・学科改組を検討中であり、内容等については変更となる場合があります。

キャンパス案内

● 太陽が丘キャンパス / 石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地

● 薬学キャンパス / 石川県金沢市金川町ホ3

車（金沢森本ICから）

金沢外環状道路を金沢市街方面へ進みしばらく直進。田上町（交差点）を左折、県道209号線へ。館町（交差点）を左折、県道10号線を進むと案内看板があります。

太陽が丘キャンパスまで所要時間約30分

薬学キャンパスまで所要時間約45分

バス（金沢駅から）

太陽が丘キャンパス

バス停「北陸大学太陽が丘」まで
所要時間約30分

金沢駅兼六園口（東口）6番乗場「旭町」経由
金沢駅兼六園口（東口）7番乗場「橋場町」経由

薬学キャンパス

バス停「北陸大学薬学部」まで
所要時間約45分

金沢駅兼六園口（東口）6番乗場「旭町」経由
金沢駅兼六園口（東口）7番乗場「橋場町」経由

1. 医療保健学部医療技術学科（仮称）に類似する近隣大学における初年次（1年次）学納金

授業料等（入学金、授業料、施設設備費、実習費等）は、平成28年度のものを、各大学のホームページ等より調査し、掲載しております。

（単位：名、円）

所在地	設置形態	大学名	学部	学科	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	実習費等	初年度合計	備考
石川県	私立	北陸大学	医療保健学部	医療技術学科	60	200,000	1,100,000	400,000		1,700,000	臨床検査技師 臨床工学技士
	国立	金沢大学	医薬保健学域	保健学類 検査技術科学専攻	40	282,000	535,800			817,800	臨床検査技師のみ
新潟県	私立	新潟医療福祉大学	医療技術学部	臨床技術学科	80	350,000	1,000,000	350,000	150,000	1,850,000	臨床検査技師 臨床工学技士
長野県	国立	信州大学	医学部	保健学科 検査技術科学専攻	40	282,000	535,800			817,800	臨床検査技師のみ
岐阜県	私立	岐阜医療科学大学	保健科学部	臨床検査学科	80	250,000	700,000	750,000		1,700,000	臨床検査技師のみ
愛知県	私立	藤田保健衛生大学	医療科学部	臨床検査学科	95	300,000	800,000	300,000	250,000	1,650,000	臨床検査技師のみ
				臨床工学科	40	300,000	800,000	300,000	250,000	1,650,000	臨床工学技士のみ
		中部大学	生命健康科学部	生命医科学科	60	280,000	990,000	350,000	150,000	1,770,000	臨床検査技師のみ
				臨床工学科	40	280,000	930,000	260,000	150,000	1,620,000	臨床工学技士のみ
三重県	私立	鈴鹿医療科学大学	保健衛生学部	医療栄養学科 臨床検査コース	40	200,000	1,300,000			1,500,000	臨床検査技師のみ
			医用工学部	臨床工学科	40	200,000	1,300,000			1,500,000	臨床工学技士のみ

※後援会費等は授業料等に含まれておりません。
※備考欄は取得可能な国家試験受験資格を表しています。

2. 国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科（仮称）に類似する近隣大学における初年次（1年次）学納金

授業料等（入学金、授業料、施設設備費、実習費等）は、平成28年度のものを、各大学のホームページ等より調査し、掲載しております。

（単位：名、円）

所在地	設置形態	大学名	学部	学科	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	実習費等	初年度合計	備考
石川県	私立	北陸大学	国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	80	200,000	750,000	350,000		1,300,000	
	国立	金沢大学	人間社会学域	国際学類	70	282,000	535,800			817,800	
	私立	金沢学院大学	文学部	文学科	130	200,000	730,000	230,000	30,000	1,190,000	
		金沢星稜大学	人文学部	国際文化学科	75	120,000	822,000	360,000		1,302,000	
富山県	国立	富山大学	人文学部	人文学科	185	282,000	535,800			817,800	
福井県	私立	仁愛大学	人間学部	コミュニケーション学科	75	250,000	670,000	300,000		1,220,000	
新潟県	公立	新潟県立大学	国際地域学部	国際地域学科	180	282,000	535,800			817,800	
	私立	敬和学園大学	人文学部	英語文化コミュニケーション学科	60	230,000	690,000	270,000		1,190,000	
				国際文化学科	80	230,000	690,000	270,000		1,190,000	
		新潟国際情報大学	国際学部	国際文化学科	100	100,000	675,000	250,000	85,000	1,110,000	
長野県	国立	信州大学	人文学部	人文学科	155	282,000	535,800			817,800	

※後援会費等は授業料等に含まれておりません。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	オガラ ツトム 小倉 勤 ＜平成24年1月＞		医学博士		北陸大学 学長 (平24. 1)

教 員 の 氏 名 等												
（医療保健学部 医療技術学科）												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
1	専	教授	シバタ ヒロシ 柴田 宏 〈平成29年4月〉		博士 (医学)		基礎ゼミナールⅠ	1前	1	1	北陸大学 新学部設置準備室 教授 (平27.4)	5日
							基礎ゼミナールⅡ	1後	1	1		
							臨床免疫学Ⅰ	3前	2	1		
							臨床免疫学Ⅱ	3後	2	1		
							臨床免疫学実習Ⅰ	3前	1	1		
							臨床免疫学実習Ⅱ	3後	1	1		
							分析技術学※	3前・後	0.6	1		
							臨床検査学演習※	4後	0.5	1		
							卒業研究Ⅰ	4前	1	1		
							卒業研究Ⅱ	4後	2	1		
							臨地実習	4前	4	1		
2	専	教授	イワサキ シンイチ 岩崎 信一 〈平成29年9月〉		歯学博 士		基礎ゼミナールⅠ	1前	1	1	日本歯科大学 新潟生命歯学部 生理学講座 主任教授 (昭56.4)	5日
							基礎ゼミナールⅡ	1後	1	1		
							人体の構造と機能Ⅰ	1前	4	1		
							人体の構造と機能Ⅱ※	1後	0.8	1		
							解剖学実習	1後	1	1		
							生理学実習	1後	1	1		
							卒業研究Ⅰ	4前	1	1		
							卒業研究Ⅱ	4後	2	1		
	兼任	講師	イワサキ シンイチ 岩崎 信一 〈平成29年4月〉		歯学博 士		人体の構造と機能Ⅰ	1前	4	1		
3	専	教授	オサヰ サトル 尾崎 聡 〈平成30年4月〉		博士 (医学)		基礎ゼミナールⅠ	1前	1	1	金沢大学 医薬保健研 究域保健学系病態検査 学講座 講師 (平25.6)	5日
							基礎ゼミナールⅡ	1後	1	1		
							病理学Ⅱ	2前	1	1		
							病理学実習	2後	1	1		
							臨床検査総論Ⅱ※	3後	0.9	1		
							臨床検査総論実習Ⅱ	2後	1	1		
							分析技術学※	3前・後	0.6	1		
							臨床工学演習※	4後	0.3	1		
							卒業研究Ⅰ	4前	1	1		
							卒業研究Ⅱ	4後	2	1		
							臨地実習	4前	4	1		
4	専	教授	コミヤマ ユカ 小宮山 豊 〈平成30年4月〉		薬学博 士 博士 (医学)		基礎ゼミナールⅠ	1前	1	1	株式会社モレキュラー イメージングラボ 総括製造販売責任者 (平27.4)	5日
							基礎ゼミナールⅡ	1後	1	1		
							臨床血液学Ⅰ	3前	2	1		
							臨床血液学Ⅱ	3後	2	1		
							臨床血液学実習Ⅰ	3前	1	1		
							臨床血液学実習Ⅱ	3後	1	1		
							臨床検査学演習※	4後	0.3	1		
							卒業研究Ⅰ	4前	1	1		
							卒業研究Ⅱ	4後	2	1		
							臨地実習	4前	4	1		
5	専	教授	シマヅ ヒデアキ 嶋津 秀昭 〈平成30年4月〉		医学博 士		生体物性・材料工学	3前	2	1	杏林大学 保健学部 教授 (昭57.10)	5日
							計測・機械工学	2前	2	1		
							医用機器学概論	1後	2	1		
							臨床工学演習※	4後	0.5	1		
							臨床実習	4前	4	1		
	兼任	講師	シマヅ ヒデアキ 嶋津 秀昭 〈平成29年10月〉		医学博 士		医用機器学概論	1後	2	1		
6	専	教授	テラサワ フミコ 寺澤 文子 〈平成29年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミナールⅠ	1前	1	1	北陸大学 新学部設置準備室 教授 (平27.9)	5日
							基礎ゼミナールⅡ	1後	1	1		
							臨床生化学Ⅰ	2前	1	1		
							臨床生化学Ⅱ	2後	1	1		
							臨床生化学実習Ⅰ	2前	1	1		
							臨床生化学実習Ⅱ	2後	1	1		
							分析技術学※	3前・後	0.8	1		
							臨床検査学演習※	4後	0.3	1		
							卒業研究Ⅰ	4前	1	1		
							卒業研究Ⅱ	4後	2	1		
							臨地実習	4前	4	1		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
7	専	教授	ナカヤマ コウゾウ 中山 耕造 ＜平成29年4月＞		医学博 士		生物学 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 生化学 生化学実習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前 1前 1後 1後 1後 4前 4後	1 1 1 4 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1	信州大学 医学部 講師 (平8. 12)	5日
①	専	教授	ユノ トモシ 油野 友二 ＜平成29年4月＞		修士 (保健 学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 医用検査機器学 臨床検査総論Ⅰ 臨床検査総論Ⅱ※ 臨床検査総論実習Ⅰ 臨床検査学演習※ 地域チーム医療論 専門職連携演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨地実習	1前 1後 1前 1前 3後 1前 4後 4後 4後 4前 4後 4前	1 1 3 2 1. 1 1 0. 3 1 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	北陸大学 新学部設置準備室 教授 (平27. 4)	5日
9	専	准教授	イコマ トカズ 生駒 俊和 ＜平成29年4月＞		博士 (医学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 生理機能計測学実習Ⅰ 生理機能計測学実習Ⅱ 生体計測装置学 臨床工学演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨床実習	1前 1後 3前 3後 3前 4後 4前 4後 4前	1 1 1 1 2 0. 3 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	北陸大学 新学部設置準備室 准教授 (平27. 4)	5日
10	専	准教授	カウリ カサキ 加藤 隆幸 ＜平成29年4月＞		博士 (医学)		化学 医学英語 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 人体の構造と機能Ⅱ※ 生理学実習 細胞生物学 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前 4後 1前 1後 1後 1後 2前 ・後 4前 4後	1 1 1 1 0. 2 1 2 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪市立大学 大学院医学研究科 講師 (平13. 10)	5日
11	専	准教授	コミヤ トモヨシ 小宮 智義 ＜平成29年4月＞		博士 (医学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 医動物学（実習含む） 臨床微生物学 臨床微生物学実習 臨床検査学演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨地実習	1前 1後 2後 2後 3後 4後 4前 4後 4前	1 1 2 3 1 0. 3 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	北里第一三共ワクチン 株式会社 ワクチン研究所研究第 二グループ 主任研究員 (平10. 12)	5日
12	専	准教授	カハシ ジュンコ 高橋 純子 ＜平成29年4月＞		博士 (保健 学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 生体機能代行装置学 生体機能代行装置学実習 医用機器安全管理学 医用治療機器学 医用治療機器・安全管理学 実習 臨床工学演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨床実習	1前 1後 2後 2後 3前 2後 3後 4後 4前 4後 4前	1 1 2 1 2 2 1 0. 4 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	北陸大学 新学部設置準備室 准教授 (平27. 4)	5日
14	専	准教授	ハマダ トシヒコ 濱田 敏彦 ＜平成30年4月＞		博士 (医学)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 病理学実習 生理機能計測学Ⅰ 生理機能計測学Ⅱ 生理機能計測学実習Ⅰ 生理機能計測学実習Ⅱ 生体計測装置学 臨床検査学演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨地実習	1前 1後 2後 3前 3後 3前 3後 3前 4後 4前 4後 4前	1 1 1 1 1 1 1 2 0. 3 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	福井大学医学部附属病 院 検査部臨床検査技師長 診療支援部部长 (平26. 4)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
②	専	講師	ナガハラ ミチオ 長原 三輝雄 〈平成29年4月〉		学士 (教養)		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 情報科学概論 情報処理工学Ⅰ 情報処理工学Ⅱ 臨床工学演習※ 臨地実習	1前 1後 1前 1後 2前 4後 4前	1 1 2 1 1 0.2 4	1 1 1 1 1 1 1	金沢大学附属病院 検査部臨床検査技師長 (昭61.4)	5日
15	専	講師	ハツトリ タクム 服部 託夢 〈平成29年4月〉		博士 (工学)		物理学 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 医用工学概論 医用工学概論実習 応用数学 電気工学 電子工学 臨床工学演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前 1前 1後 1前 2後 2前 1後 2前 4後 4前 4後	1 1 1 2 1 1 2 2 0.3 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	広島工業大学 生命学部 助教 特任教員 (平25.4)	5日
16	専	助教	タニ ユカ 滝野 豊 〈平成29年4月〉		博士 (保健 学)		臨床検査総論実習Ⅰ 臨床検査総論実習Ⅱ 臨床血液学実習Ⅰ 臨床血液学実習Ⅱ 臨床生化学実習Ⅰ 臨床生化学実習Ⅱ 臨地実習	1前 2後 3前 3後 2前 2後 4前	1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1	公立松任石川中央病院 医療技術部検査室 主任臨床検査技師 (平21.4)	5日
17	兼担	教授	コチ ヤスオ 東風 安生 (平成29年4月)		修士 (教育 学)		生命・医療倫理学 哲学	1後 1・2 前・ 後	2 2	1 1	早稲田大学系属早稲田 実業学校初等部 教頭 (平18.4)	
18	兼担	教授	マツモト カス・ヒコ 松本 和彦 〈平成29年4月〉		法学修 士		社会保障と福祉	1・2 前・ 後	2	1	北陸大学 未来創造学部 教授 (平4.4)	
19	兼担	教授	ヤマモト ケイイチ 山本 啓一 〈平成29年4月〉		博士 (法学)		法学（日本国憲法含む）	1・2 前・ 後	2	1	九州国際大学 法学部 教授 (平13.4)	
20	兼担	教授	カサハラ ショウジ・ロウ 笠原 祥士郎 〈平成29年4月〉		文学修 士		海外研修	1・2 前・ 後	1	1	北陸大学 国際交流センター 教授 (平15.4)	
21	兼担	准教授	フクエ ミツル 福江 充 〈平成29年4月〉		博士 (文学)		北陸の文化と社会 日本史	1・2 前・ 後 1・2 前・ 後	2 2	1 1	北陸大学 未来創造学部 准教授 (平27.4)	
22	兼担	准教授	トノロキ リカ 轟 里香 〈平成29年4月〉		修士 (文学)		英語Ⅰ 英語Ⅱ 科学英語の基礎	1前 1後 2前	2 2 1	1 1 1	北陸大学 未来創造学部 准教授 (平7.4)	
23	兼担	准教授	イノウエ ユウコ 井上 裕子 〈平成29年4月〉		Master of Arts Teaching English to Speakers (米国)		英語Ⅰ 英語Ⅱ 科学英語の基礎	1前 1後 2前	2 2 1	1 1 1	北陸大学 未来創造学部 准教授 (平7.4)	
24	兼担	講師	カメイ タカシ 亀井 敬 (平成29年4月)		博士 (工学)		自然科学概論※	1前	0.6	1	北陸大学 薬学部 講師 (平27.4)	
25	兼担	講師	タケモト マサヤ 武本 眞清 (平成29年4月)		博士 (医学)		自然科学概論※	1前	0.8	1	北陸大学 薬学部 講師 (平27.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
26	兼任	講師	フジモト カズヒロ 藤本 和宏 (平成29年4月)		博士 (工学)		自然科学概論※ 数学	1前 1前	0.6 1	1 1	北陸大学 薬学部 講師 (平27.4)	
27	兼任	講師	イケダ ケイイチ 池田 啓一 (平成32年10月)		博士 (理学)		公衆衛生学	4後	1	1	北陸大学 薬学部 講師 (平25.4)	
28	兼任	講師	キノウ ツウイチ 木藤 聡一 (平成32年10月)		博士 (工学) 法務博士		関係法規	4後	1	1	北陸大学 薬学部 講師 (平27.4)	
29	兼任	講師	タカノ カツヒコ 高野 克彦 (平成31年4月)		博士 (薬学)		薬と生体反応	3前	2	1	北陸大学 薬学部 講師 (平18.4)	
30	兼任	助教	サトリ ユキ 佐藤 友紀 (平成31年10月)		博士 (薬学)		薬理学 臨床薬理学	3後 4後	2 1	1 1	北陸大学 薬学部 助教 (平15.4)	
31	兼任	助教	ニシカワ シュウゴ 西川 周吾 (平成29年4月)		学士 (体育)		スポーツ	1・2 前・後	1	1	北陸大学 未来創造学部 助教 (平20.1)	
32	兼任	助教	ワタナベ チハル 渡邊 千春 (平成29年4月)		学士 (体育)		スポーツ	1・2 前・後	1	1	北陸大学 未来創造学部 助教 (平24.4)	
33	兼任	講師	ミヤマエ リョウヘイ 宮前 諒平 (平成29年4月)		修士 (教育学)		心理学	1・2 前・後	2	1	(株)ホリスティックコ ミュニケーションズ 臨床心理士 (平24.4)	
34	兼任	講師	イノウエ ヨシト 井上 好人 (平成29年4月)		修士 (教育学)		社会学	1・2 前・後	2	1	金沢星稷大学 人間科学部 教授 (平11.4)	
35	兼任	講師	エリック モーニン Eric Mornin (平成29年4月)		Bachelo r of Arts (カナダ)		英会話	1・2 前・後	1	1	北陸大学 未来創造学部 兼任講師 (平17.10)	
36	兼任	講師	ミスガミ ユウジ 水上 勇治 (平成29年4月)		医学博士		医学概論 臨床医学総論	1前 4後	1 2	1 1	金沢赤十字病院 リハビリテーション科 医師（非常勤） (平26.4)	
37	兼任	講師	タサキ ケイコ 多崎 恵子 (平成29年10月)		博士 (保健学)		看護学概論	1後	1	1	金沢大学 医薬保健研 究域保健学系看護科学 領域 准教授 (平14.4)	
38	兼任	講師	コバヤシ マサト 小林 正和 (平成30年4月)		博士 (保健学)		放射線検査学	2前	1	1	金沢大学 医薬保健研 究域附属健康増進セン ターテニユアトラック 助教 (平26.4)	
39	兼任	講師	ミヤチ トシアキ 宮地 利明 (平成32年10月)		博士 (工学) 博士 (医学)		画像解析学	4後	2	1	金沢大学 医薬保健研 究域保健学系 教授 (平12.4)	
40	兼任	講師	オダ ヨシオ 小田 恵夫 (平成30年4月)		医学博士		病理学Ⅰ	2前	1	1	株式会社アルプ アルプ病理研究所 所長 (平16.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
③	兼任	講師	ニシムラ ヤスキ 西村 泰行 〈平成31年10月〉		医学博 士		医療安全管理学（実習含 む）	3後	1	1	金沢赤十字病院 第一内科部長兼副院長 （昭63.4）	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	1 人	1 人	4 人	1 人	7 人	
	修 士	人	人	人	人	1 人	人	人	1 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	1 人	2 人	1 人	1 人	人	5 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	1 人	人	人	人	人	人	1 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	1 人	人	人	1 人	
	短 期 大 士 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	1 人	人	人	人	人	1 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	1 人	2 人	3 人	2 人	5 人	1 人	14 人	
	修 士	人	人	人	人	1 人	人	人	1 人	
	学 士	人	人	人	人	1 人	人	人	1 人	
	短 期 大 士 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	